高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２３年６月

阿南工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　目的 ・・・　2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
基準３　教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４
基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０６
基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２３
基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４４
基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７８
基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５８
基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・３８４
基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５４
基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６６

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名

阿南工業高等専門学校

（２）所在地

徳島県阿南市見能林町青木265

（３）学科等構成

学　科：機械工学科
　　電気電子工学科
　　制御情報工学科
　　建設システム工学科

専攻科：構造設計工学専攻
　　電気・制御システム工学専攻

（４）学生数及び教員数

（平成23年5月1日現在）

学生数：学　科　824名
　　専攻科　37名

教員数：　65名

学生数　　単位：名

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械工学科	43	42	45	47	42	219
電気電子工学科	40	40	43	48	39	210
制御情報工学科	40	40	46	52	35	213
建設ｼｽﾃﾑ工学科	41	37	33	38	33	182
計	164	159	167	185	149	824

専攻科課程	1年	2年	合計
構造設計工学専攻	11	5	16
電気・制御ｼｽﾃﾑ工学専攻	7	14	21
計	18	19	37

教員数　　単位：名

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
一般教科	7	6	4	2	19
機械工学科	4	5	0	3	12
電気電子工学科	5	6	0	0	11
制御情報工学科	5	4	1	2	12
建設ｼｽﾃﾑ工学科	5	5	0	1	11
計	26	26	5	8	65

２　特徴

・沿革

阿南工業高等専門学校（以下，本校と言う。）は，昭和38 年，機械工学科及び電気工学科の２学科により開校した。昭和 42 年には土木工学科を設置，いくつかの改組を経，現在は機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科，建設システム工学科の４学科体制（以下，これら４学科を総称して準学士課程若しくは本科と言う。）により運営している。また，平成８年には専攻科（構造設計工学専攻及び電気・制御システム工学専攻）を設置した。

平成 14 年，本科４，５年次及び専攻科２年間の４年間にわたる「創造技術システム工学」教育プログラムを策定した。そして，平成 16 年，日本技術者教育認定機構（JABEE）により，工学(融合複合･新領域)関連分野において，同教育プログラムが JABEE 認定基準に合致していると認められた。

・理念及び目的の背景

本校の教育理念･目標に則り，高度化多角化が加速度的に進む情報技術について，実践的な技術力及び開発応用能力，豊かな創造力を有して社会の持続的な発展に貢献できる高等専門技術者には，「複合的な技術開発」を進められる能力及び「ものづくり」ができる能力が重要である。

このことから，これら能力の養成を本校の学習・教育目標の最重点項目としている。同目標を具現化するため，本校カリキュラムは，①「ものづくり」に不可欠な人間性の涵養を重視していること，及び②「ものづくり」に必要な創造性を養うために実験実習を重視していること，を特徴とする。

①の達成のため，本科低学年次から人間性の涵養を重視しつつ，十分な基礎学力と，継続的に専門技術を学習する習慣を獲得させている。

②の実現のため，本科５年間では，各専門領域において「ものづくり」の基盤となる知識や技術に関する一貫した教育カリキュラムを構成している。専攻科では，各専門領域において，本科の基盤技術を活かした実践的な「ものづくり」を重視しつつ，「複合的な技術開発」を進められるカリキュラムを構成している。

Ⅱ　目的

阿南工業高等専門学校の使命

１　教育理念

本校の教育理念は，校訓「真理・創造・礼節」を核とする。すなわち，本校教育においては，「学生は，将来，有為な技術者として崇高な矜持と旺盛な責任感を持ち，国家社会のために貢献しうる人物となるため，①真理を愛し，科学的叡智の円満な発達を心掛ける，②学業に専念するとともに規律を重んじ，礼儀を厳正にする，③勤労に親しみ，強固な意志と頑健な身体を鍛錬する」こと達成することを目指している。

この理念を実現するため，①「ものづくり」に不可欠な人間性の涵養を重視すること（校訓の「礼節」に該当する），及び②「ものづくり」に必要な創造性を養うために実験実習を重視すること（校訓の「真理・創造」に該当する）を特徴とするカリキュラム構成にしている。同カリキュラムの実施を通し，本校では「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」の育成を目指している。

２　教育活動等の基本的な方針，教育目標等

教育理念を実現するための教育目標は，次の通りである。

(A) 国際人としての教養を身に付け，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を養成する。

(B) 社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

(C) 日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

(D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣を身に付け，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。

(E) 「ものづくり」を重視し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を養成する。

これらの教育目標を踏まえ，準学士課程・専攻科課程ごとの教育目的を，次のように定めている。

〈準学士課程〉

- 機械工学科は、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。
- 電気電子工学科は、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術を教授し、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。
- 制御情報工学科は、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術を教授し、制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。
- 建設システム工学科は、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術を教授し、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

〈専攻科課程〉

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授研究し、創造力豊かな技術能力を育成することを目的とする。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１ 高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①　：高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校の目的としての使命は校訓・教育理念（**資料１－１－①―１，２**），教育研究活動の基本方針である学習･教育目標（**資料１－１－①―３**），さらに各学科及び専攻科ごとの目的を定めている（**資料１－１－①―４**）。

本校学習･教育目標は準学士課程(学科)と専攻科課程で区別している。本校学習・教育目標を換言すれば「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」であり、準学士課程(学科)と専攻科課程と同じ目的を共有している（**資料１－１－①－５**）。

学校教育法第 115 条「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし」は，本校学習･教育目標を「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもつ」エンジニアを育てることにより達成できる。また，本校学習･教育目標「幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」は，「職業に必要な能力」を有している。この「職業に必要な能力」については，本校の各学科及び専攻科が養成しようとするエンジニア像の形で，より具体化している（**資料１－１－①―６～９**）。

学習・教育目標では，本校教育の最重要事項である「ものづくり教育」の達成すべき成果を明示している（**資料１－１－①―10**）。

資料１－１－①―１

校訓（高専生活の手引き）

校　　訓

「真理・創造・礼節」

学生は，将来，有為な技術者として崇高な矜持と旺盛な責任感をもち，国家社会のために貢献しうる人物となるため

一　**真理を愛し**，科学的叡知の円満な発達を心掛ける。

二　学業に専念するとともに規律を重んじ，**礼儀**を厳正にする。

三　勤労に親しみ，**強固な意志**と頑健な身体を鍛錬する。

有為（ゆ う い）：才能があり，将来役に立つこと。
矜持（きょうじ）：ほこり，自負，プライド。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料１－１－①―２

学則第１条

（目的）

第１条　本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P. 77）

資料１－１－①―３

教育目標

阿南工業高等専門学校の学習・教育目標

(A)　国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。

(A)－１　世界的視野から日本の文化，社会並びに他国の文化，社会を複眼的にとらえて，両者のあるべき関係について説明することができる。

(A)－２　人間社会に対する技術者としての責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。

(A)－３　自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

(B)　社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

(B)－１　企業実習，工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。

(B)－２　線形代数，微分積分，微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)－３　力学，電磁気学，熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)－４　情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(C)　日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

(C)－１　日本語で科学技術論文を作成することができる。

(C)－２　自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき，論理的な討論をすることができる。

(C)－３　英語による基本的なコミュニケーションができ，専門分野において英語による口頭発表ができる。

(D)　継続して専門技術や知識を学習する習慣(D-1)を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力(D-2)をもった技術者を養成する。

(D)－１　設計・システム系，情報論理系，材料バイオ系，力学系を含む工学の基礎となる学問分野について，自主的かつ継続的に学習することができる。

(D)－２　専門分野における工学的問題の解決を通じて，その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。

(D)－３　複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。

(D)－４　技術開発を進めるに際して，安全，環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

(E)　「ものづくり」を重視(E-1)し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力(E-2)を有する技術者を養成する。

(E)－１　与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することができる。

(E)－２　与えられた製作課題を計画的に製作できる。

(E)－３　多様な条件の下で，技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

※サブ目標の説明
(B)－２，(B)－３は，準学士課程で達成できる目標である。
それ以外は，準学士課程・専攻科課程ともに達成できる項目であるが，それぞれ基礎と応用・実践とのレベルの違いがある。とくに波線～～でラインを引いている項目は，専攻科課程でより深く学習することで，高度に達成できる目標である。

（出典　高専生活のてびき　平成 23 年度）

資料１－１－①―４

学則第７条の２，29 条　学科と専攻科の教育目的

（学科の教育目的）

第７条の２ 学科における教育目的は、次のとおりとする。

(1) 機械工学科は、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

(2) 電気電子工学科は、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術を教授し、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

(3) 制御情報工学科は、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術を教授し、制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

(4) 建設システム工学科は、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術を教授し、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

（目的）

第 29 条　専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授研究し、創造力豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典　阿南高専 Web サイト　阿南工業専門学校規則集）

資料１－１－①―５

２．本校の学習・教育目標

「創造技術システム工学」教育プログラムは，まず，機械・建設・電気電子・情報等のあらゆる工学を対象として，それらの分野に関連する専門技術や工学一般の知識を広く学び，その知識の定着をめざします。そのうえで，自己の得意分野を核としてもち，学んだ専門技術や工学知識をシステムとして幅広く有機的に活用できる方法論・実践力を養成する教育を行います。したがって，本校がめざすエンジニア像は以下のようになります。

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」

このエンジニア像をめざして，以下の５項目（Ａ）～（Ｅ）からなる技術者の育成を本校の学習・教育目標とします。また，それらを具体的に説明したものが（Ａ）－１～（Ｅ）－３です。

（出典　「創造技術システム工学」教育プログラム履修のてびき）

資料１－１－①―６

学科の目的

DEPARTMENT OF MECHANICAL ENGINEERING

機械工学科

機械工学科は、数学や力学を基礎として、機械の設計・製造や技術開発を学ぶ、ものづくりに特化した学科です。カリキュラムは、機械設計や機械に関わる熱・流れ・力などを扱う講義科目、機械製図・製作などの実習科目、講義で学んだ内容を体験できる実験科目で構成され、機械工学を総合的かつ実践的に学ぶことができるようになっています。機械工学科は、自動車、航空宇宙、ロボット、重工、医療、家電といった様々な産業分野で活躍できるエンジニアの育成を目指しています。

DEPARTMENT OF ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING

電気電子工学科

電気電子工学科では、現代社会の生活に欠くことができない電気の発電、輸送、応用について総合的に学習します。このため、数学や物理の基礎知識をはじめ、電気回路や電気磁気学の授業を段階的に修得しながら、電力、電気機器、通信といった将来の進路先で必要となる高度な専門知識を学んでいきます。実践的な技術力の養成を目的として、学年別の工学実験や演習、校外学習などを充実させることで、あらゆる企業で活躍できるエンジニアの育成を目指しています。

DEPARTMENT OF SYSTEMS AND CONTROL ENGINEERING

制御情報工学科

電化製品、ゲーム機、自動車、携帯電話など様々なものにコンピュータ技術が利用されています。この技術によって、使いやすく便利な製品を提供することができるのです。制御情報工学科では、私たちの身の回りにあるものをコンピュータを利用して使いやすくするための知識を習得します。パソコン技術だけでなく、実験や研究など実践的学習も行い、未来に活躍が期待されているロボットの製作技術も習得します。その技術は将来広い分野に適用でき、高度技術社会を支えます。

DEPARTMENT OF CONSTRUCTION SYSTEMS ENGINEERING

建設システム工学科

一歩外に出れば、住宅、ビル、橋、道路…と私たちの周りにはたくさんの建設物。そのすべてに関わる建設技術者を育成するのが建設システム工学科です。これらスケールの大きい仕事をするため、構造物の設計、施工、管理だけではなく、交通や環境についても学習し、コンピュータを用いた技術も習得します。幅広く学んだ知識は、建設関連会社だけでなく、官公庁や鉄道会社、住宅関連会社などでも能力を発揮することができ、即戦力として期待が寄せられています。

ADVANCED COURSE

専攻科

高専5年間の教育を基盤とし、さらに2年間の課程でより深く高度な専門知識を学びます。2年間一貫して独創的な研究活動を実行できることが最大の特色で、高校から大学へ進学する場合に比べ、少ない学費で同等以上の専門力を修得できることが特長です。大学院への進学もできます。各専攻とも定員8名と少人数で、きめ細やかで充実した教育を行っています。専攻科の課程を修了し、大学評価・学位授与機構の審査に合格すると、大学工学部卒業者と同様に学士（工学）の学位が取得できます。

一般科目

社会人として必要不可欠な教養を養う

一般科目　数学、英語、物理、化学、日本語、世界史、法学、ヒューマンヘルスケアリング、バイオテクノロジーなど

一般科目は各科共通で、専門科目と並行して学習し、責任感・倫理観豊かな国際人となるために必要な教養を身につけます。低学年では専門科目の基礎となる数学や英語などに多くの時間が割り当てられ、英語教育では外国人講師による英会話なども取り入れています。高学年では、日本語の表現、経済学、法学などの講義もあり、社会人として、また技術者として必要な基礎教養が得られるよう配慮されています。専門学科の基礎内容を学習する授業時間数は、大学の工学部より多く、特に実践的な技術の学習を重視し、実験・実習も多く取り入れています。最終的な学習レベルは、大学の工学部課程に匹敵するものです。



（出典　阿南高専カレッジガイド　平成 23 年度）

資料１－１－①―７

専攻科の目的

阿南高専・専攻科の設置目的と教育理念

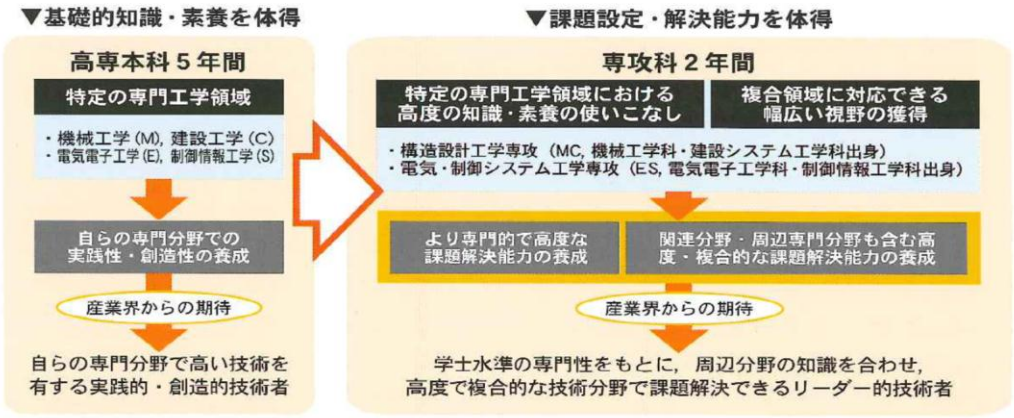
【設置目的】

高専の科学の知識と技術をさらに深めたい学生のため，より高度な技術者教育を行うことを目的として，２年間の教育課程である専攻科があります。阿南高専には平成８年４月に専攻科が設置されました。

【教育理念】

本科４・５年と専攻科の４年間における『創造技術システム教育プログラム』により，「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」を育成します。

高専教育システムの各段階で育成する実践的・創造的技術者像



（出典　専攻科パンフレット　飛翔　平成 23 年度）

資料１－１－①―８

各科の教育目的：一般教科から専攻科まで

一般教科[General Education]

一般科目は，各専門学科で共通に必要とする基礎的な科目，そして責任感・倫理観豊かな国際人となるために必要な教養を身につける科目から構成されています。そして，それらの学習を通じ，問題を見い出して計画的に解決していく能力，プレゼンテーション能力及び，充分な語学力をもつ技術者を育てることを目的としています。

Liberal Arts refers to the fundamental subjects that are required by each department. They provide students general knowledge to develop a sense of responsbility and ethical viewpoints as well as to be an international - minded person. They also give the students training to become engineers who can identify and solve problems systematically with effective presentation skills and sufficient language proficiency.

機械工学科[Department of Mechanical Engineering]

機械技術者は，機械工学だけでなく，電気・メカトロニクス・情報産業・建設・公害処理など，あらゆる分野で必要とされています。また，仕事の内容も研究開発から生産管理まで広範囲にわたっています。機械工学科では，機械の力学や加工法，材料，制御など機械工学の知識と技術を教授します。そして，機械システムの設計と製造に必要な実践的な技術能力を育成することを目的とします。

Modern mechanical engineering professionals are needed not only in the fields of traditional mechanical engineering, but also in the fields of Electronics, Mechatronics, Information, Construction and Sanitary Engineering. The description of work spreads extensively from research and development to production management. The department of Mechanical Engineering educates specialists who work in a variety of fields in machinery manufacturing and management. The primary goal of the department is to provide all graduates with a solid technical foundation in design synthesis, which will enable them to solve current problems and tackle future problems.

電気電子工学科[Department of Electrical and Electronic Engineering]

電気電子に関する技術は，現代の社会システムとマルチメディア情報通信システムを支えていると言っても過言ではなく，また，その技術革新は著しい進歩を遂げています。

電気電子工学科では，これらの技術の進歩に対応するため，創造性のある実践的電気電子技術者の育成を目標としています。低学年では専門基礎科目に重点を置き，高学年では電気主任技術者資格や無線技術士資格に対応できるようバランスよく電気，電子，情報，通信関連の科目を開講するとともに，実験実習や卒業研究を通して創造力，応用力の育成に注力しています。

卒業生は電気電子工学のみならず産業界のあらゆる分野の企業に就職し，能力を発揮し高い評価を得ています。

It is no exaggeration to say that the technology concerning electrical and electronic engineering support the modern social system and multimedia telecommunication system. In addition the technological innovations have been developed greatly.

In order to ensure that progress continues, the Department of Electrical and Electronic Engineering aims to foster creative and practical engineers through a consistent curriculum. The Department places importance on the fundamental subjects in the lower grades. In the fourth and fifth grades, the Department offers well-balanced specialized subjects concerning electrical, electronic, information, and Communication Engineering Correspondent to the National Electrical Chief Engineer Qualification and the National Radio Engineer Qualification.

Furthermore, the Department expects students to acquire creative and practical ability, providing opportunity for laboratory research, practical experience and graduation research.

Graduates have been engaged in all the fields of industry as well as electrical and electronic engineering and they have been highly evaluated demonstrating their technical ability.

制御情報工学科[Department of Systems and Control Engineering]

現代の社会は，制御，コンピュータ，電子回路，通信などが相互に関連して，高度な技術社会を形作っています。そこではそれぞれの分野での基礎を習得し，どのように関連しているかを学習することが重要です。制御情報工学科は，制御，計測，情報をカリキュラムの柱に置き，高度技術社会に対応できる技術者の養成をめざしています。

Modern society, which consists of mutually related fields such as control engineering, computer technology, electronic circuits, and communication systems, has become highly technological. In such society, it is important to train specialists who have mastered the fundamental knowledge and skills of the above-mentioned fields and their relationships. The curriculum of the department focuses on three main fields of study : control engineering, electronic circuitry, and information technology. It provides students training to be an engineer with an ability to cope with highly technological society.

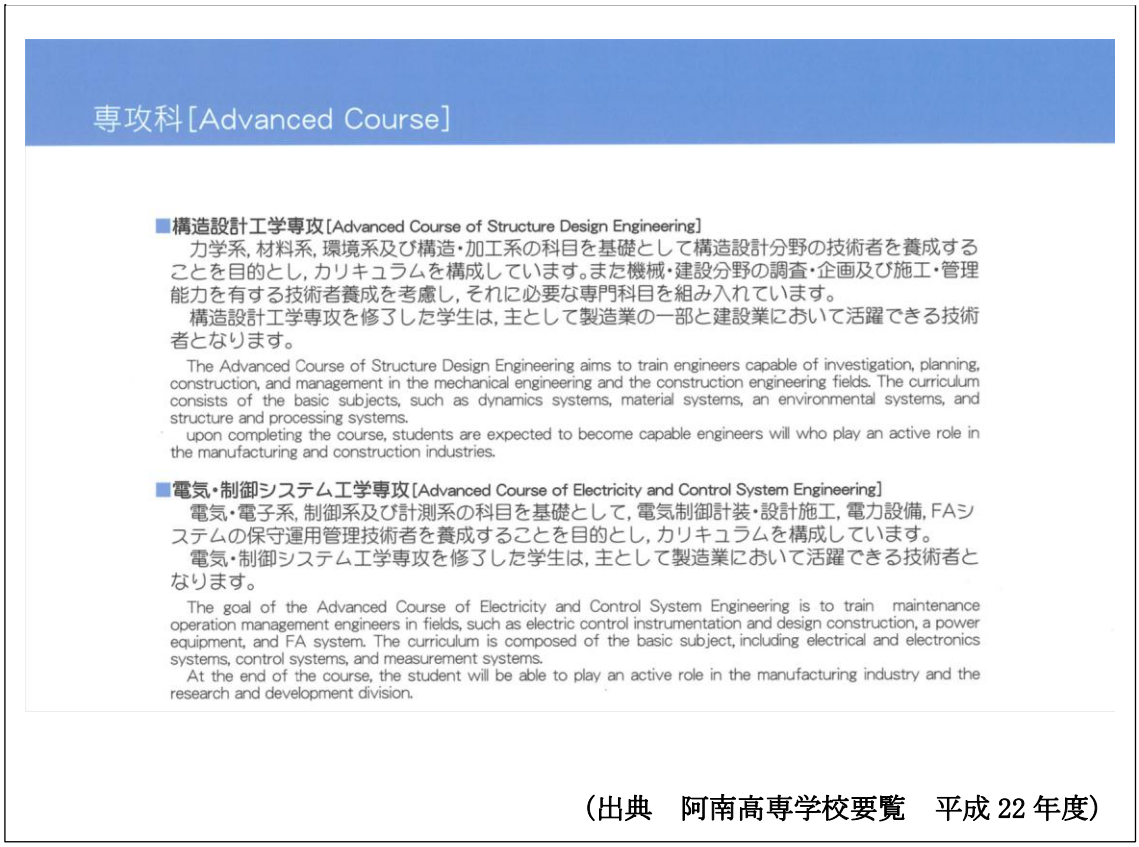
建設システム工学科[Department of Construction Systems Engineering]

建設システム工学科では，社会人としての良識と倫理観を備え，人々が安全で快適に生活するために必要な社会基盤を創造・保全できる建設技術者の養成をめざしています。この目的のために，カリキュラムには調査，設計，施工，管理などに関連する基礎的な土木工学科目をもとに，景観工学，都市計画，交通工学，環境工学などの幅広い科目を取り入れて，土木工学と環境保全のバランスがとれるようにしています。

さらに本学科の学生は，多方面の能力が発揮できるように，建築学の基礎意識も学ぶことができます。

The educational goal of the Department of Construction Systems Engineering is to train professional civil engineers who can contribute to developing and maintaining a safe society. Our study program is based on fundamental civil engineering subjects related to investigation, design, construction, and management. It also includes a wide range of subjects such as landscape engineering, city planning, transportation planning, as well as environmental engineerirg. We also place emphasis on the balance between environmental preservation and civil engineering.

Our students are also required to have a fundamental knowledge of architectural engineering.



専攻科[Advanced Course]

■**構造設計工学専攻**[Advanced Course of Structure Design Engineering]

力学系，材料系，環境系及び構造・加工系の科目を基礎として構造設計分野の技術者を養成することを目的とし，カリキュラムを構成しています。また機械・建設分野の調査・企画及び施工・管理能力を有する技術者養成を考慮し，それに必要な専門科目を組み入れています。

構造設計工学専攻を修了した学生は，主として製造業の一部と建設業において活躍できる技術者となります。

The Advanced Course of Structure Design Engineering aims to train engineers capable of investigation, planning, construction, and management in the mechanical engineering and the construction engineering fields. The curriculum consists of the basic subjects, such as dynamics systems, material systems, an environmental systems, and structure and processing systems.

upon completing the course, students are expected to become capable engineers will who play an active role in the manufacturing and construction industries.

■**電気・制御システム工学専攻**[Advanced Course of Electricity and Control System Engineering]

電気・電子系，制御系及び計測系の科目を基礎として，電気制御計装・設計施工，電力設備，FAシステムの保守運用管理技術者を養成することを目的とし，カリキュラムを構成しています。

電気・制御システム工学専攻を修了した学生は，主として製造業において活躍できる技術者となります。

The goal of the Advanced Course of Electricity and Control System Engineering is to train maintenance operation management engineers in fields, such as electric control instrumentation and design construction, a power equipment, and FA system. The curriculum is composed of the basic subject, including electrical and electronics systems, control systems, and measurement systems.

At the end of the course, the student will be able to play an active role in the manufacturing industry and the research and development division.

（出典　阿南高専学校要覧　平成 22 年度）

資料１－１－①―９

学校と学科の目的

独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校
Anan National College of Technology

Japanese/English
Search

Home | 学校案内 | 学科案内 | 教育・研究 | 産学公・地域連携 | キャンパスライフ | 付属施設・図書館 | 入試情報

受験生の皆さまへ
入試情報、Q&Aなど
在校生・保護者の皆さまへ
卒業後の進路、奨学金など
企業・研究者の皆さまへ
産学連携、調達情報、求人など
地域の皆さまへ
公開講座、施設利用案内など
卒業生の皆さまへ
証明書、同窓会など



動画で阿南高専

Home / 学科案内

学科案内

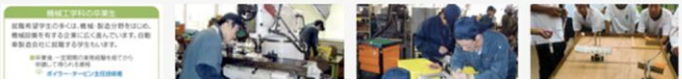


機械工学科

機械工学科では，日々変革する機械技術に対応し，自ら技術課題を設定し解決できる機械工学の専門能力を身につけ，実践力に富み創造性豊かな機械技術者を育てることを目的としています。
目的実現のため，低学年では基礎学力を養成するとともに人間性を育て，高学年になるにつれて機械工学の専門知識と技術を教育し，機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な技術力を育成しています。また，創造性豊かなエンジニアの育成を達成するため，１学年から５学年までの実験実習系の授業でPBL（Problem-Based Learning:問題設定解決型学習プログラム）を実施しています。
本学科では，次の3項目を教育目標としています。
１．機械工学に関する基本的な専門知識を習得し応用できる。
２．機械設計・製図とそれに基づく実践的ものづくりができる。
３．技術課題や実験結果を工学的に考察し，問題の発見と解決を経て，創造的な成果を生み出すことができる。

資格について

- 卒業後，一定期間の実務経験を経てから申請して得られる資格：ボイラー・タービン主任技術者
- 卒業後，一定期間の実務経験を経てから申請して得られる受験資格：昇降機検査資格者



電気電子工学科

時代にあった創造性をもつ実践的技術者を育てるために電気電子工学科では

- 電磁気現象の基礎的な知識を理解し応用できること，アナログとデジタル回路のしくみを理解し回路作りができること
- 電気電子計測器について知識を得てそれを使うことができること
- コンピュータなどを使う通信設備や電力を発生し送る設備について理解すること
- 電気，通信，情報の技術者資格試験を受けるための知識を習得すること

を目的とした教育プログラムを設けています。

資格には電力分野と情報通信分野があります。電力分野では必要な科目の単位を取得すると卒業後，一定期間の実務経験を経てから，第２種電気主任技術者，第３種電気主任技術者の資格を取得できます。また，情報通信分野では必要な科目の単位を取得すると卒業時に第１級陸上特殊無線技士，第２級陸上特殊無線技士，第２級海上特殊無線技士の資格を取得することができます。

資格について

- 卒業後，一定期間の実務経験を経てから申請して得られる資格：第2種電気主任技術者・第３種電気主任技術者
- 所定科目の単位を取得していれば，卒業時に得られる資格：第１級陸上特殊無線技士・第２級陸上特殊無線技士・第２級海上特殊無線技士



制御情報工学科

制御情報工学科では電気・電子技術をベースとしてコンピュータのハードウェアとソフトウェアの知識とその利用技術，そして機械，電気電子技術とコンピュータの統合技術であるロボットに関する知識を学びます。具体的には次の３項目を教育目標としています。

1. 情報技術を用いて調査，分析，設計およびプレゼンテーションができる
2. 電子制御情報技術者として必要な電気・電子工作，情報処理，制御工学関連の知識と技術を継続的に学習する習慣を身につける
3. 基本となる電気電子回路設計，プログラミング作成および簡単なロボット設計・製作ができる

このような教育目標を５年間で実現させるよう，綿密なカリキュラムを構成しています。

資格について

- 学習成果を生かして，在学中に合格してほしい資格試験：基本情報技術者試験・ITパスポート試験



建設システム工学科

建設システム工学科では，土木工学を中心に，環境・コンピュータ科目で知識・技術を高め，統合的な能力を磨きます。
環境に配慮しながら情報社会に対応できる建設技術者を育成します。

資格について

- 所定科目の単位を取得していれば，卒業時に得られる資格：測量士補
- 試験免除や実務期間短縮の特典が得られる受験資格：測量士，建築士・土木施工管理技士



一般科目 -各科共通-

一般科目は，各専門学科で共通に必要とする基礎的な科目，そして責任感・倫理観豊かな国際人となるために必要な教養を身につける科目です。さらにそれらの学習をつうじて，問題を見いだして計画的に解決していく能力，プレゼンテーション能力，および充分な語学力をもつ技術者を育てることを目的としています。
基礎学力を高め，さらに教科科目の枠組みを越えて，歴史的・空間的な広がりをもった視点で，自然や人間・文化・社会をみつめてください。そのまなざしが，みなさんの世界観を培い，人生観を深めるでしょう。一般科目を通じて，多様性に富む自らの個性を確立しましょう。





専攻科

専攻科は，高専５年間における教育の基盤の上に立ち，さらに2年間の課程において，より深く高度な専門知識および技術を教授し，もっと広く社会並びに産業界で活躍できる実践的かつ創造的な21世紀対応型の技術者の育成を目指しています。とりわけ専攻科に在籍する学生は大学工学部系の学部卒業者とは異なり，二年間一貫して独創的な研究活動を実行できることが最大の特色です。さらに，専攻科の課程を修了し，大学評価・学位授与機構の審査に合格すると，大学工学部卒業者と同等な学士（工学）の学位が取得できます。

専門学校 〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265 Tel:0884-23-7100 Fax:0884-22-5424 E_mail:webmaster@anan-nct.ac.jp [地図]
サイトポリシーについて | プライバシーポリシーについて | サイトマップ | アクセスマップ | お問い合わせ |
Copyright(C)2008 Anan National College of Technology. All Rights Reserved. Entries (RSS)

（出典　阿南高専 Web サイト　学科案内）

資料１－１－①―10

各科のものづくり教育カリキュラム（実験実習）

低学年からの一貫したもの作り教育カリキュラム

電気電子工学科

電気電子技術者にとってもの作りとは？

各種回路（センサー回路，モータ駆動回路，マイコン制御回路など）の製作である。

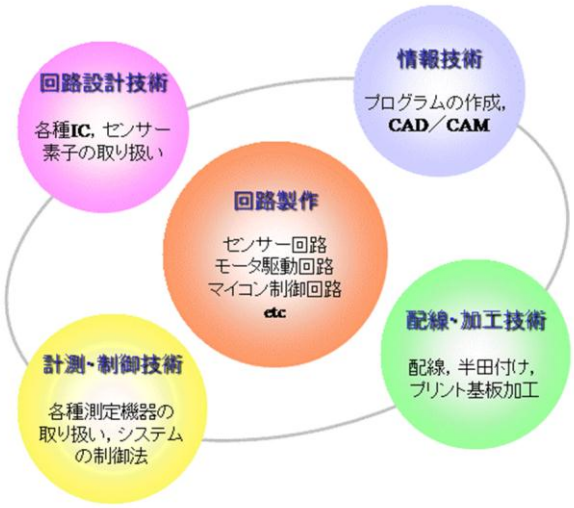
電気電子技術者に求められるもの作り基盤技術とは？

［配線・加工技術］
- 電気電子回路を組むために，各素子間を配線できる。
- CADソフトウェアを用いて，プリント基板を加工できる。
- 各素子をプリント基板に半田付けできる。

［計測・制御技術］
- 各種測定機器を使用して，回路上の物理量（電圧，電流など）を測定できる。
- システムの制御系（ブロック線図）を設計できる。

［情報技術］
- CADソフトウェアを使用して，電気電子回路（プリント基板配線図）を製図できる。
- 電気電子回路を解析するためのプログラムを作成できる。
- システムを制御するためのプログラムを作成できる。
- マイクロコンピュータを動作させるためのプログラムを作成できる。

［回路設計技術］
- 各種IC（アナログ，ディジタル）やセンサー素子の特性をデータシートから読み取ることができる。
- 各素子を効率良く安全に動作させるための回路パラメータを設計できる。



No.1

低学年からのものづくり教育カリキュラム（実験実習）

機械工学科

機械技術者にとってものづくりとは？

各種機械（不整地走行車・スターリングエンジンなど）の製作である。

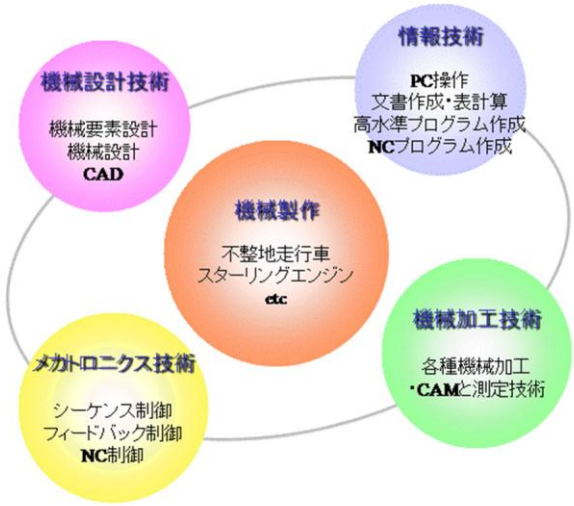
機械技術者に求められるものづくり基盤技術とは？

［機械加工技術］
- 加工品寸法をノギスやマイクロメータを用いて正確に測定できる。
- 旋盤・フライス盤を用いて簡単な部品の切削加工ができる。
- 溶接により部材の接合ができる。
- CADソフトウェアを用いて，加工シミュレーションとNCプログラム作成ができる。
- NC制御を利用した機械加工が行える。

［メカトロニクス技術］
- フィードバック制御回路を利用した制御機械が設計製作できる。

［情報技術］
- PC操作、インターネット情報検索や文書作成・表計算ができる。
- 機械設計に必要な応力やひずみを求める数値計算プログラムが利用できる。
- NC加工を行うためのNCプログラムが作成できる。

［機械設計技術］
- 材料力学・機械力学・流体力学・熱力学および工業材料、加工法等を応用して機械要素および各種機械の設計ができる。
- 2次元CADや3次元CADを利用して機械設計製図が行える。



No.1

低学年からの一貫したものづくり教育カリキュラム（実験実習）

制御情報工学科

制御情報技術者にとってものづくりとは？

情報技術を基盤とした制御情報システム（制御シミュレータ，ロボットシステム，情報通信システム等）の製作である。

制御情報技術者に求められるものづくり基盤技術とは？

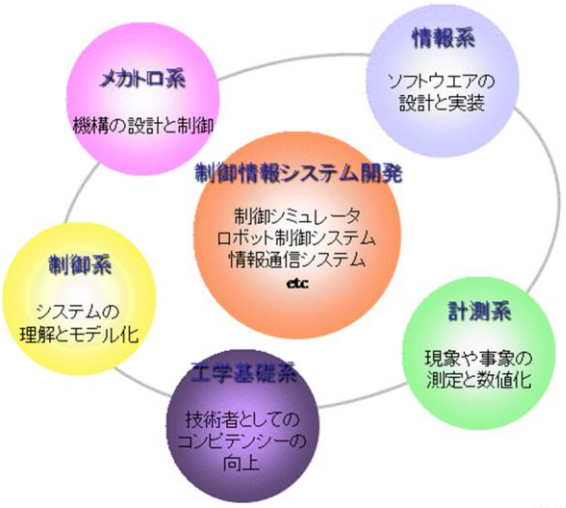
［工学基礎系］
・与えられた課題や問題を解決するための実践力を修得する．
・数学や力学などの自然科学の知識をものづくりに活用できる．

［メカトロ系］
・PICなどの組み込みデバイスの使い方を修得し，マイコン制御の周辺回路が設計・製作することができる．
・ロボットなどの機械的なメカニズムを理解し，与えられた課題を満足するメカトロ・システムの提案，構築ができる．

［制御系］
・制御理論によりシステムの理解ができ，制御設計に応用できる．
・MATLABなどのソフトウェアを用いた制御設計ができる．

［計測系］
・機械計測，電子計測，光計測などの基本的計測技術を有する．
・画像・信号処理を用いた計測・通信システムの設計開発ができる．

［情報系］
・UNIXなどのOSを理解し，OS上でアプリケーションを運用できる．
・モデリング，データ構造とアルゴリズムなどを理解でき，CやJavaによるプログラムが作成できる．
・ネットワーク，データベース，オブジェクト指向に関する知識と技術を持ち，ソフトウェアシステムの運用や設計開発ができる．



No.1

低学年からの一貫した「ものづくり」教育カリキュラム（実験実習）

建設システム工学科

建設技術者にとってものづくりとは？

市民生活に必要な安心・安全な社会基盤づくり（まちづくり）である。すなわち，当学科におけるものづくりは，環境への配慮および情報技術を活用した構造物などの社会基盤作りに必要な調査，設計，製図のことである。

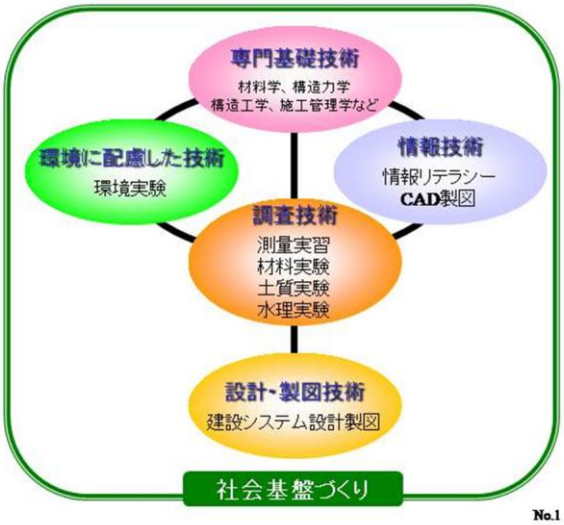
建設技術者に求められるものづくり基盤技術とは？

［環境に配慮した技術］
・構造物の建設に伴う環境変化への対応
・環境を定量的に評価する技術

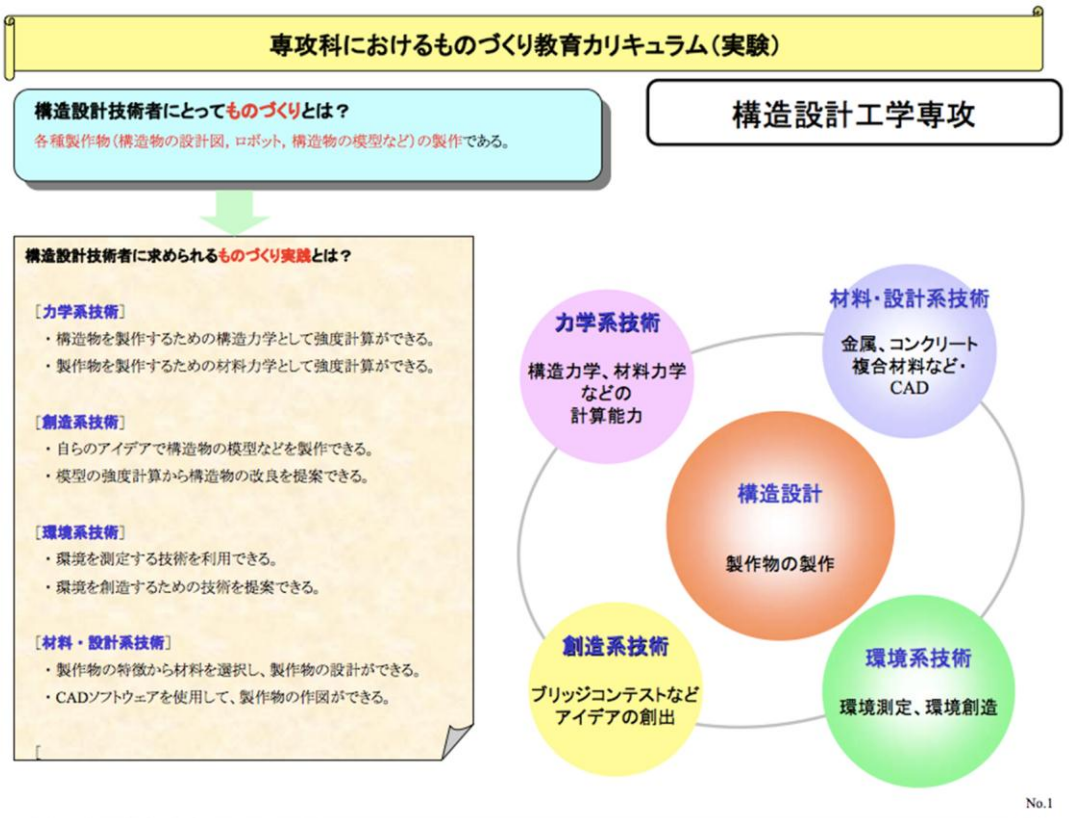
［情報技術］
・情報リテラシー
・コンピュータを用いた計算や設計
・CADソフトウェアを用いた製図

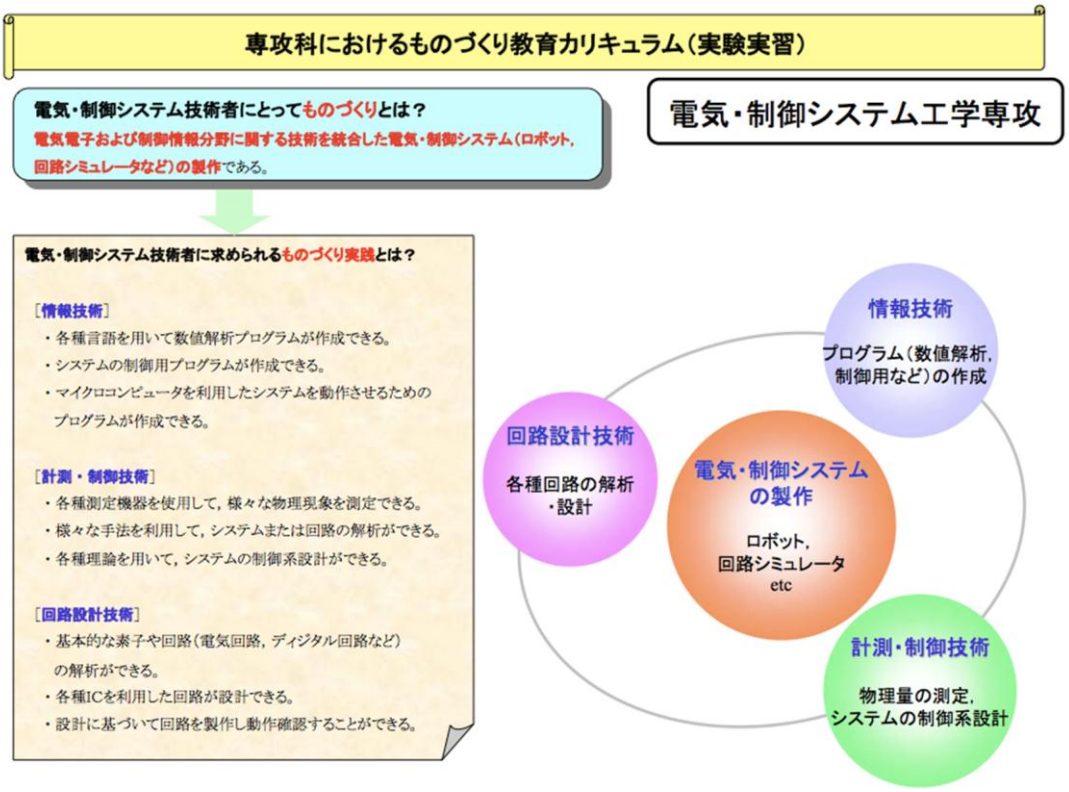
［調査技術］
・適切な測量機器の使用
・設計に必要な定数や特性値（材料，土質，水理）の測定方法

［設計・製図技術］
・示方書に準じた設計
・コンピュータを用いた計算や設計
・CADソフトウェアを用いた製図



No.1





（出典　阿南高専 Web サイト　各科のものづくり教育カリキュラム）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，高等専門学校としての目的を明確に定めている。同目的は学校教育法第115条「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成」の高等専門学校一般に求められる目的に適合している。本校の目的としての使命，教育研究活動の基本方針，養成しようとする人材像等を，校訓・教育理念，学習･教育目標，各学科及び専攻科が養成しようとするエンジニア像として明文化している。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的は，校訓，学習･教育目標として明文化するとともに，校長による教育研究に係る指針として，運営委員会，教員会議，全校集会，各種刊行物，教室掲示により，全教職員及び全学生に周知している**（前述資料１－１－①―１～９）**。

運営委員会は，校長を委員長とし，副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，地域連携･テクノセンター長，広報情報室長，各科主任，事務部長，総務課長，学生課長により構成されている。本校の最高意思決定機関であり，ここで決定･承認されたことは速やかに各部署に伝えられ，全教職員が共有する**(資料１－２－①―１)**。

教員会議では，全教員を対象に，運営委員会決定事項の中でも特に重要な事項などを中心に周知を図っている。ここで提示される校長指針の提示ならびに，それにもとづく教職員間の意見交換により，本校の目的の周知を確認している。校訓，学習･教育目標にもとづく具体的教育方法に関する意見交換ならびに同方法の策定は，本校の目的の共有として機能している。

全校集会には，本科の全学生が出席する。校長等から分かり易い本校の教育目的について訓話，説明を行っている。本科１年生及び専攻科１年生に対する新入生オリエンテーションでは，教務主事・専攻科長等がガイダンスを行っている。それ以外の学年ではクラス担任等が説明を行っている**(資料１－２－①―２)**。各教室には，校訓，学習･教育目標を掲示している。

刊行物の一つに，『高専生活のてびき』がある。校訓，学習･教育目標を掲載し，新１年生全員に配布するとともに，全クラスの教室に配置している。全教員及び各部署にも配布している。また，学習･教育目標を記載する『シラバス』も同様に，全クラスの教室に配置している。

資料１－２－①―１

本校教育目標の周知

本校の教育目標

阿南工業高等専門学校の学習・教育目標

(A)　国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。

(A)－１　世界的視野から日本の文化，社会並びに他国の文化，社会を複眼的にとらえて，両者のあるべき関係について説明することができる。

(A)－２　人間社会に対する技術者としての責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。

(A)－３　自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

(B)　社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

(B)－１　企業実習，工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。

(B)－２　線形代数，微分積分，微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)－３　力学，電磁気学，熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)－４　情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(C)　日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

(C)－１　日本語で科学技術論文を作成することができる。

(C)－２　自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき，論理的な討論をすることができる。

(C)－３　英語による基本的なコミュニケーションができ，専門分野において英語による口頭発表ができる。

(D)　継続して専門技術や知識を学習する習慣(D-1)を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力(D-2)をもった技術者を養成する。

(D)－１　設計・システム系，情報論理系，材料バイオ系，力学系を含む工学の基礎となる学問分野について，自主的かつ継続的に学習することができる。

(D)－２　専門分野における工学的問題の解決を通じて，その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。

(D)－３　複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。

(D)－４　技術開発を進めるに際して，安全，環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

(E)　「ものづくり」を重視(E-1)し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力(E-2)を有する技術者を養成する。

(E)－１　与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することができる。

(E)－２　与えられた製作課題を計画的に製作できる。

(E)－３　多様な条件の下で，技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

※サブ目標の説明
(B)－２，(B)－３は，準学士課程で達成できる目標である。
それ以外は，準学士課程・専攻科課程ともに達成できる項目であるが，それぞれ基礎と応用・実践とのレベルの違いがある。とくに波線〰でラインを引いている項目は，専攻科課程でより深く学習することで，高度に達成できる目標である。

（出典　阿南高専運営委員会資料　平成 23 年２月）

資料１－２－①―２

オリエンテーションにおける学習・教育目標の周知　本科

平成２３年度 年度当初行事予定表

月 日	曜	（A） 本 科 新 入 生				（AA）本科２～５年生（編入生含む）			
		時刻	行 事	関係者	場 所	時 刻	行 事	関係者	場 所
		8:30	新入生オリエンテーション（司会：副教務主事）	副教務主事	視聴覚教室				
		〃	（教務関係 学習教育目標の説明等）	教務主事補		8:50	旧学年ホーム・ルーム	旧学級担任	旧教室
			（学生関係 生活指導の説明等）	学生主事補		〃	学級編成発表，学級担任発表，	但し，支障がある場合は副担任あるいは主事補	
			（専攻科生・編入学生は除く。）	学級担任		9:35	教室指示，旧学年教室の清掃		
							（旧5年生の教室は，旧4年生が併せて実施）		
						9:20	始業式の準備	教務主事補	第一体育館
						〃	旧1年生の学級担任は，各クラス	学生主事補	
							5名を第一体育館に派遣すること	教務係	
								学生係	
		9:40	始業式（司会：副教務主事）	校 長	第一体育館	9:40			
			・校長訓辞	副校長					
		〃	・三主事挨拶	3主事		〃	始業式（本科新入生と同じ）		
			・新任教員紹介・挨拶						
		10:20	・校務分掌発表 （教務主事）	教 員		10:20			
			・新入生紹介						
		10:30		校長，副校長	図書館前	10:30	新学年ホームルーム	各学級担任	各教室
		〃	新入生クラス写真撮影	3主事	雨天時：		・学級担任訓話		
4月6日	水	11:00	（風力発電設備下）	1年学級担任	体育館	〃	・学習教育目標の説明〔必ず行なって下さい〕		
				1年副学級担任			・座席指定		
		11:00	新入生ホームルーム	各学級担任	各教室	11:45	・時間割，清掃分担，行事予定		
		〃	・教育方針・諸規則等・質疑応答	各学級副担任			・学級委員選出		
		12:00	・学習教育目標の説明〔必ず行なって下さい〕				・その他ホームルーム行事		
			・自己紹介				・JABEEプログラムの説明（4，5年生のみ）		
			・その他			11:45	教科書販売		
		12:50	新入生オリエンテーション（司会：副教務主事）		視聴覚教室	〃	2～5年生・編入学生・専攻科生	各業者	第二体育館
		〃	・学生相談室紹介	学生相談室長		15:00			
		13:35	・図書館紹介	図書館長					
			・総合情報処理室紹介	総合情報処理室長					
				1年学級担任					
		13:35	・校内案内	1年学級担任	視聴覚教室				
		〃	・定期健康診断（心電図検査）	（社）日本健康倶楽部，学生主事補	保健室				
		15:25	（2クラスずつ交代で）						
		15:30	学生会各クラブ紹介	学生主事	視聴覚教室				
		〃	（新入生対象）	学生主事補					
				学生会役員					
4月7日	木	8:30	SHR			8:30	SHR（1～3年生）		
		8:50	新入生基礎学力テスト			8:50	前学期授業開始		

オリエンテーションにおける学習・教育目標の周知　専攻科

（B）　専　攻　科　新　入　生				（BB）専攻科２年生			
時　刻	行　　事	関係者	場　所	時　刻	行　　事	関係者	場　所
8:40	専攻科1年　2年生との対面式	担任	マルチメディア	8:40	専攻科2年　新1年生との対面式	担任	マルチメディア
〃				〃			
9:00	始業式			9:00	始業式		
	・校長訓辞	校長	マルチメディア		・校長挨拶	校長	マルチメディア
〃	・専攻科長挨拶	副校長，教務主事		〃	・専攻科長挨拶	副校長，教務主事	
		専攻科長				専攻科長	
9:30		専攻科1・2年担任		9:30		専攻科1・2年担任	
9:40	専攻科オリエンテーション			9:40	新学年ホームルーム		
	・「創造技術システム工学」教育プログラム	専攻科長	専攻科棟		・学級担任訓話	各学級担任	専攻科棟
〃	の説明	1年担任	講義室2（合	〃	・学習教育目標の説明		講義室1・3
	・学習教育目標の説明等				〔必ず行なって下さい〕		
10:20	〔必ず行なって下さい〕			11:10	・時間割，清掃分担，行事予定		
					・学級委員選出		
10:30	・学生相談室関係	学生相談室長（委員）			・その他ホームルーム行事		
〃	・図書館関係	図書館長			・JABEEプログラムの説明		
	・学生関係	学生主事（主事補）			（必要あれば）		
	・教務関係	専攻科長					
12:00	・新入生クラス写真撮影	1年担任					
	（本科1年生撮影終了後　学生課）						
	・学級担任訓話，学級委員選出						
	・時間割，清掃分担，行事予定など						
				11:45	教科書販売		
12:50	教科書販売			〃	専攻科生	各業者	第二体育館
〃	専攻科生新入生	各業者	第二体育館	15:00			
15:00							
8:50	前学期授業開始			8:50	前学期授業開始		

（出典　平成 23 年度　年度当初行事予定表）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育目的，教育目的の核となる校訓及び学習・教育目標を明文化するとともに，運営委員会，教員会議，全校集会，各種刊行物，教室掲示により，学校の構成員（教職員及び学生）に周知できている。

観点：１－２－② 目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的は，入学募集要項**（資料１－２－②―１）**，学校紹介資料**（資料１－２－②―２，３）（前述資料１－１－①―６～８）**，本校 Web サイト**（前述資料１－１－①―９）**に記載することにより，社会に広く公表している。

入学募集要項は各中学校に配布し**（資料１－２－②―４）**，志願者が本校の目的を熟知してから志願できるようにしている。学校紹介資料は，県下中学校訪問時に配布している。さらに中学校への学校説明会，中学生や保護者に対する入試説明会等の際に配布し，口頭説明も実施している。

さらに、大学、全国高専、本校助成企業（ACT 会員）等に本校学校紹介資料を配付している**（資料１－２－②―５，６）**。

資料１－２－②―１

入学募集要項における教育目標の明記

阿南工業高等専門学校の学習・教育目標

○　目指すエンジニア像

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」

○　技術者の育成のための学習・教育目標

(A)　国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。

①　世界的視野から日本の文化，社会並びに他国の文化，社会を複眼的にとらえて，両者のあるべき関係について説明することができる。

②　人間社会に対する技術者としての責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。

③　自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

(B)　社会が要求している問題を見い出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

①　企業実習，工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。

②　線形代数，微分積分，微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

③　力学，電磁気学，熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

④　情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(C)　日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

①　日本語で科学技術論文を作成することができる。

②　自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき，論理的な討論をすることができる。

③　英語による基本的なコミュニケーションができ，専門分野において英語による口頭発表ができる。

(D)　継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力をもった技術者を養成する。

①　設計・システム系，情報論理系，材料バイオ系，力学系を含む工学の基礎となる学問分野について，自主的かつ継続的に学習することができる。

②　専門分野における工学的問題の解決を通じて，その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。

③　複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。

④　技術開発を進めるに際して，安全，環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

(E)　「もの作り」を重視し，技術的構想や創造的思考を表現させるためのデザイン能力を有する技術者を養成する。

①　与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することできる。

②　与えられた製作課題を計画的に製作できる。

③　多様な条件の下で，技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

（出典　阿南高専学生募集要項　平成 23 年度）

資料１－２－②―２

阿南高専学校要覧における校訓、学習教育目標の明記

校訓, 学習・教育目標[College Motto, Educational Goals]

校　訓

「真理・創造・礼節」

学生は, 将来, 有為な技術者として崇高な矜持と旺盛な責任感をもち,
国家社会のために貢献しうる人物となるため

一　真理を愛し, 科学的叡知の円満な発達を心掛ける。
二　学業に専念するとともに規律を重んじ, 礼儀を厳正にする。
三　勤労に親しみ, 強国な意志と頑健な身体を鍛錬する。

有為(ゆうい):才能があり, 将来役に立つこと。
矜持(きょうじ):ほこり, 自負, プライド。

College Motto

Students will become productive, and proudly assume responsibility, and contribute to society as well.
1. Students will develop love of truth and deepen well-balanced scientific knowledge.
2. Students will respect rules, concentrate on learning and uphold a strict code of manners.
3. Students will become accustomed to hard work, strengthen their bodies, and forge their determination.

学習・教育目標

目指すエンジニア像
「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち, その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」

技術者の育成のための学習・教育目標

(A)**国際人としての教養を身につけ, 人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。**
❶ 世界的視野から日本の文化, 社会並びに他国の文化, 社会を複眼的にとらえて, 両者のあるべき関係について説明することができる。
❷ 人間社会に対する技術者としての責任を自覚し, 自己の倫理観を説明することができる。
❸ 自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

(B)**社会が要求している問題を見出し, 数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。**
❶ 企業実習, 工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。
❷ 線形代数, 微分積分, 微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。
❸ 力学, 電磁気学, 熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。
❹ 情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(C)**日本語で論理的に記述・討論ができ, 専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ, 表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。**
❶ 日本語で科学技術論文を作成することができる。
❷ 自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき, 論理的な討論をすることができる。
❸ 英語による基本的なコミュニケーションができ, 専門分野において英語による口頭発表ができる。

(D)**継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ, 複合的な技術開発を進められる能力をもった技術者を養成する。**
❶ 設計・システム系, 情報論理系, 材料バイオ系, 力学系を含む工学の基礎となる学問分野について, 自主的かつ継続的に学習することができる。
❷ 専門分野における工学的問題の解決を通じて, その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。
❸ 複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。
❹ 技術開発を進めるに際して, 安全, 環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

（出典　阿南高専学校要覧　平成 22 年度 P. 4）

資料１－２－②―３

学校紹介パンフレットにおける学習・教育目標明記

① トピックス

ロボコン全国大会に，19年は合体ロボットの「PhoeniX（フェニックス）」，20年には生命進化の「ACE(エース)」が出場



全国ロボコン大会　（PhoeniX）

国際交流の推進
アメリカ，ドイツ及びタイの大学と交流協定を締結



学生国際交流フォーラム

多数の継続事業
・日亜化学講座
・LED技術者養成講座
・キャリア教育，コープ教育の充実



LED技術者養成講座



企業合同説明会(84社)

② 本校がめざすエンジニア像

核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア

本校の教育目標

(A) 国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。
(B) 社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。
(C) 日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。
(D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力をもった技術者を養成する。
(E)「ものづくり」を重視し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を養成する。

③ アドミッションポリシー

阿南工業高等専門学校は，しっかりした専門知識を，社会の中で実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のような能力などの育成に向けて，揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。

○エンジニアとしての責任感と倫理観
○問題の解決能力
○豊かなコミュニケーション能力
○自立的な学習能力

主な注意点　推薦入試について

・各出身学校長から推薦できる人数は制限がありません。
・中学校での成績条件は以下のとおりです。
　→第3学年12月末までの総合成績が，上位20%以内であること。（推薦のみ）
・推薦入試は面接です。（数学，英語の口頭試問を含む。）
・推薦定員枠は各学科定員（40名）の50%です。

入寮について

・全寮制ですが1年生から通学することもできます。

④ 入学試験　案内　阿南工業高等専門学校

機械工学科　電気電子工学科　制御情報工学科　建設システム工学科

推薦　平成23年1月16日（日）　試験場　阿南高専

願書受付期間：平成23年1月5日（水）～1月7日（金）
推薦書　調査書　面接試験（英語，数学の口頭試問を含む）
不合格でも学力試験を受けられます。

学力　平成23年2月20日（日）　試験場　阿南高専・徳島・池田

願書受付期間：平成23年1月31日（月）～2月3日（木）
調査書　学力試験（国語　数学　理科　社会　英語）
志望学科は，第1位～第4位まで記入可能
推薦・学力入試とも傾斜配点をします

（出典　阿南高専広報資料抜粋　平成 23 年度）

資料１－２－②―４

中学校への資料配布一覧

平成22年度　中学校訪問

7／13

日程	曜日	担当者	地区名	訪問中学校(数字は県内中学校の数)		公用車	備考
7月20日	火		西部	美馬，三野，三好，井川，山城，東祖谷，西祖谷	16	ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	宿泊 高速道路
7月21日	水			池田，三加茂，半田，貞光，三島，岩倉，脇町，穴吹，（穴吹公民館），江原			
7月22日	木		淡路島	岩屋，東浦，北淡，一宮，津名，安乎(ｱｲｶﾞ)，中川原(ﾅｶｶﾞﾜﾗ)，洲浜，由良，南淡，三原(ﾐﾊﾗ)，辰美，御原(ﾐﾊﾗ)，五色，倭文(ｼﾄｵﾘ)，広田，青雲）		ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	宿泊 兵庫17校
7月23日	金						
7月23日	金		阿南市	阿南，阿南第一，加茂谷，新野，福井	5	ｱﾘｵﾝ	午後 新野7/16
7月27日	火		那賀川北岸	上勝，勝浦，立江，羽ノ浦，坂野，那賀川	6	ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	
7月27日	火		阿波市、吉野川北岸	阿波，市場，土成，吉野，応神，生光	6	ｱﾘｵﾝ	高速道路？
7月28日	水		鳴門	大麻，鳴門第一，鳴門第二，鳴門，瀬戸，北灘	6	ｱﾘｵﾝ	
7月29日	木		徳島市南部	小松島，津田，文理，富田，八万，加茂名，上八万	7	ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	
7月29日	木		海部郡	宍喰，海部，海南，牟岐，日和佐，由岐，由岐(伊座利)，椿町	8	ｱﾘｵﾝ	
8月3日	火		板野郡	上板，板野，藍住，藍住東，北島，松茂，川内	7	ｱﾘｵﾝ	
8月3日	火		徳島市中央、西部	南部，城東，徳島，鳴教大附属，城西，不動，北井上，国府	8	ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	
8月4日	水		高知県	室戸，室戸東，佐喜浜，野根，甲浦		ｱﾘｵﾝ	高知5校 室戸岬休校，室戸へ統合
8月4日	水		那賀郡	阿南第二，鷲敷，相生，上那賀，木頭	5	ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	阿南第二7/13
8月6日	金		名東、名西、吉野川市	山川，川島，鴨島第一，鴨島東，高浦，石井	6	ｴﾙｸﾞﾗﾝﾄﾞ	
8月9日	月		神山など	佐那河内，入田，神山東，神山，木屋平	5	ｱﾘｵﾝ	入田7/22
8月10日以降						ｱﾘｵﾝ	予備日
※　不都合等がある場合は、教務主事、教務係長が対応する。					85	＝県内中学校数	

（出典　中学校訪問予定表　平成 22 年度）

資料１－２－②―５

阿南高専学校紹介の配布先：機構・大学等

平成２２年度学校要覧配付先一覧

・本校教職員	１１０部
（校長，教員７５，部長，２課長，３課長補佐，技術長，技術グループ・各係等）	
・独立行政法人国立高等専門学校機構本部総務課	３部
・　同　国際交流室	３０部
・文部科学省　高等教育局　専門教育課　高等専門学校係	３部
・国立国会図書館	５部
・名誉教授	３５部
・徳島大学	６部
・鳴門教育大学	２部
・全国高専	６２部
・各中学校等	１２０部
・当直室	３部
・企業広報用	３００部
・学生就職活動用	３００部
・その他配付用	２２１部
合計	１２００部

（出典　学校要覧配布先一覧　平成 22 年度）

資料１－２－②―６

ACT フェロー会員一覧

会員名簿

平成23年4月1日現在【50音順】

1	(株)アイシコー
2	(株)アイティスト ホテル石松
3	旭ｼﾝｸﾛﾃｯｸ(株)阿南営業所
4	（株）アクト
5	(株)旭金属
6	阿南化成(株)
7	阿南市産業振興懇話会
8	阿南信用金庫
9	阿南生コンクリート工業(株)
10	(株)阿部鐵工所
11	(有)天野鉄工所
12	荒川化学工業(株)徳島工場
13	(株)アルボレックス
14	(株)阿波銀行阿南支店
15	阿波製紙(株)
16	石原金属(株)
17	岩浅建設(株)
18	上田鉄工所
19	(株)魚国総本社
20	(株)エコー建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ
21	エヌ・アンド・イー(株)
22	(株)エム・システム技研
23	王子エンジニアリング(株)富岡事業部
24	王子製紙（株）富岡工場
25	(株)大竹組
26	大塚包装工業(株)
27	大塚テクノ(株)
28	(有)岡部機械工業
29	株式会社環境防災
30	喜多機械産業(株)
31	(株)北島組
32	倉敷紡績（株）徳島工場
33	光洋シーリングテクノ(株)
34	(株)佐　渡
35	四国建設(株)
36	四国工販(株)
37	四国大陽日酸(株)
38	四国電力(株) 阿南火力事業所
39	シルバーメイキング(株)
40	sumitomore（スミトモア）
41	(株)大一器械
42	太陽高速印刷（有）
43	大隆精機(株)
44	田島テクニカ(株)
45	タツミ商機株式会社
46	(株)テクノスモトキ
47	電源開発(株)火力発電部橘湾火力発電所
48	東西電工(株)
49	（株）東西
50	東邦機械工業（株）
51	(株)徳島銀行阿南支店
52	徳島ｽｸｰﾙﾀｲｶﾞｰ縫製(株)
53	(株)ﾄﾞﾊﾞｼ
54	鳥海印刷(有)
55	中川商事(株)
56	(株)ナカテツ徳島工場
57	中幸建設(有)
58	(有)西田商事
59	西野建設(株)
60	日亜化学工業(株)
61	(株)日進機械徳島支店
62	(株)日誠産業
63	日本電工(株)徳島工場
64	ニホンフラッシュ(株)
65	バイオ科学(株)
66	林金属工業株式会社
67	バンブーケミカル研究所
68	(株)ビッグウィル
69	(有)ビッグ・モデル
70	(株)ヒラノファステック
71	(株)ファルコン
72	福富工業(株)
73	ﾌｼﾞｹﾝｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ(株)
74	藤崎電機(株)
75	（有）古川運送
76	（株）平成技研
77	堀井産業（株）
78	（株）マイスターエンジニアリング
79	(有)マテリアル
80	丸井産業(有)
81	(株)丸本
82	港産業株式会社
83	宮崎基礎建設(株)
84	牟岐線通運(株)
85	（株）村元工作所
86	森田技研工業(株)
87	（有）守野
88	八木建設(株)
89	(有)山城機力工業
90	(有)山田印刷所
91	(株)山本鉄工所
92	(株)ヨコタコーポレーション
93	吉見石灰工業(株)
94	(株)四電工阿南営業所
95	リンテック(株)小松島工場
96	(株)ワークスタッフ

ほか個人会員20名

（出典　ACT フェロー会員一覧　平成 23 年４月１日版）

（分析結果とその根拠理由）

本校の使命，目的を具体的に示す学習・教育目標はWebサイトに掲載することによって，社会に広く公表している。また，同記載がある学校要覧、カレッジガイド等各種資料は県内外の中学校，地域企業や進学先等に配布するとともに，学校の目的の説明を行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

学校の構成員，特に学生に対し，本校の目的を具体化した学習・教育目標の周知状況を確認する方策については，今後，改善しつつ継続していく。

（３）基準１の自己評価の概要

本校の目的は，校訓，学習・教育目標，目指すエンジニア像として明確に定めている。学習・教育目標では，本校教育の最重要事項である「ものづくり教育」の達成すべき成果を明示している。また，各学科及び専攻科が養成しようとするエンジニア像として明文化している。このように，本校では高等専門学校としての目的を明確に定めており，同目的は学校教育法第115条「高等専門学校一般に求められる目的」に適合している。

本校の目的を具体化した学習・教育目標を各種資料に明示し，運営委員会，教員会議，全校集会，全教職員宛メール，各種刊行物，教室掲示により，全教職員及び全学生に周知している。学習・教育目標を掲載した各種資料を，適宜，中学校への学校説明会，中学生や保護者に対する入試説明会等の際に配布し，口頭説明も実施している。学習・教育目標については，ACTフェローシップを通した地域企業への公表，本校Webサイトによる公表も実施している。このように，本校ではその目的を，学校の構成員に周知し，社会に広く公表している。

基準２ 教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

現在，機械工学科・電気電子工学科・制御情報工学科・建設システム工学科の各40名を定員とする４工学科を備えている（**資料２－１－①―１**）。各学科の目的は，本校の学習・教育目標をふまえ，各学科の学習分野においてより具体化し，学則として定めている（**前述資料１－１－①－４**）。また，これらの目的達成のために養成しようとするエンジニア像の形でより具体化して、本校学校要覧等で社会に公表している（**前述資料１－１－①―８**）。なお、各学科設置には、地域等の社会の要望を受けとめるものとなっている。

平成20年度，「希望学科再選択制度」を導入した（**資料２－１－①―２**）。同制度は，1年次に４工学科の専門基礎をそれぞれ学んだ後，学生自身の希望と1年次の総合成績により，２年進級時に正式配属学科を選択するというものである（推薦選抜検査による入学者は，入学時の学科にとどまることができる）。適性に応じた学科選択を可能とする制度である。かねてより，中学校教員や保護者等から，中学生には未知の工学分野を選択して受検することが困難であり，結果として本校入学後に学科の学習内容と学生の希望する学習とがずれるのではという懸念が寄せられていた。同制度は，この社会での要望に応え，本校に入学する中学生に，自らが志向するものづくりについて慎重に見極める機会を提供し，よりよい進路選択を可能とするものである。

資料２－１－①―１

学科・学級・入学定員

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	１学年当たり学級数	入 学 定 員
機　械　工　学　科	1	40人
電 気 電 子 工 学 科	1	40人
制 御 情 報 工 学 科	1	40人
建設システム工学科	1	40人

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料１－１－①―４（再掲）

学則第７条の２，29 条　学科と専攻科の教育目的

（学科の教育目的）

第７条の２ 学科における教育目的は、次のとおりとする。

(1) 機械工学科は、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

(2) 電気電子工学科は、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術を教授し、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

(3) 制御情報工学科は、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術を教授し、制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

(4) 建設システム工学科は、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術を教授し、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な技術能力を育成することを目的とする。

（目的）

第 29 条　専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授研究し、創造力豊かな技術能力を育成することを目的とする。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料１－１－①―８（再掲）

各科の教育目的：一般教科から専攻科まで

一般教科[General Education]

一般科目は，各専門学科で共通に必要とする基礎的な科目，そして責任感・倫理観豊かな国際人となるために必要な教養を身につける科目から構成されています。そして，それらの学習を通じ，問題を見い出して計画的に解決していく能力，プレゼンテーション能力及び，充分な語学力をもつ技術者を育てることを目的としています。

Liberal Arts refers to the fundamental subjects that are required by each department. They provide students general knowledge to develop a sense of responsbility and ethical viewpoints as well as to be an international - minded person. They also give the students training to become engineers who can identify and solve problems systematically with effective presentation skills and sufficient language proficiency.

機械工学科[Department of Mechanical Engineering]

機械技術者は，機械工学だけでなく，電気・メカトロニクス・情報産業・建設・公害処理など，あらゆる分野で必要とされています。また，仕事の内容も研究開発から生産管理まで広範囲にわたっています。機械工学科では，機械の力学や加工法，材料，制御など機械工学の知識と技術を教授します。そして，機械システムの設計と製造に必要な実践的な技術能力を育成することを目的とします。

Modern mechanical engineering professionals are needed not only in the fields of traditional mechanical engineering, but also in the fields of Electronics, Mechatronics, Information, Construction and Sanitary Engineering. The description of work spreads extensively from research and development to production management. The department of Mechanical Engineering educates specialists who work in a variety of fields in machinery manufacturing and management. The primary goal of the department is to provide all graduates with a solid technical foundation in design synthesis, which will enable them to solve current problems and tackle future problems.

電気電子工学科[Department of Electrical and Electronic Engineering]

電気電子に関する技術は，現代の社会システムとマルチメディア情報通信システムを支えていると言っても過言ではなく，また，その技術革新は著しい進歩を遂げています。

電気電子工学科では，これらの技術の進歩に対応するため，創造性のある実践的電気電子技術者の育成を目標としています。低学年では専門基礎科目に重点を置き，高学年では電気主任技術者資格や無線技術士資格に対応できるようバランスよく電気，電子，情報，通信関連の科目を開講するとともに，実験実習や卒業研究を通して創造力，応用力の育成に注力しています。

卒業生は電気電子工学のみならず産業界のあらゆる分野の企業に就職し，能力を発揮し高い評価を得ています。

It is no exaggeration to say that the technology concerning electrical and electronic engineering support the modern social system and multimedia telecommunication system. In addition the technological innovations have been developed greatly.

In order to ensure that progress continues, the Department of Electrical and Electronic Engineering aims to foster creative and practical engineers through a consistent curriculum. The Department places importance on the fundamental subjects in the lower grades. In the fourth and fifth grades, the Department offers well-balanced specialized subjects concerning electrical, electronic, information, and Communication Engineering Correspondent to the National Electrical Chief Engineer Qualification and the National Radio Engineer Qualification.

Furthermore, the Department expects students to acquire creative and practical ability, providing opportunity for laboratory research, practical experience and graduation research.

Graduates have been engaged in all the fields of industry as well as electrical and electronic engineering and they have been highly evaluated demonstrating their technical ability.

制御情報工学科[Department of Systems and Control Engineering]

現代の社会は，制御，コンピュータ，電子回路，通信などが相互に関連して，高度な技術社会を形作っています。そこではそれぞれの分野での基礎を習得し，どのように関連しているかを学習することが重要です。制御情報工学科は，制御，計測，情報をカリキュラムの柱に置き，高度技術社会に対応できる技術者の養成をめざしています。

Modern society, which consists of mutually related fields such as control engineering, computer technology, electronic circuits, and communication systems, has become highly technological. In such society, it is important to train specialists who have mastered the fundamental knowledge and skills of the above-mentioned fields and their relationships. The curriculum of the department focuses on three main fields of study : control engineering, electronic circuitry, and information technology. It provides students training to be an engineer with an ability to cope with highly technological society.

建設システム工学科[Department of Construction Systems Engineering]

建設システム工学科では，社会人としての良識と倫理観を備え，人々が安全で快適に生活するために必要な社会基盤を創造・保全できる建設技術者の養成をめざしています。この目的のために，カリキュラムには調査，設計，施工，管理などに関連する基礎的な土木工学科目をもとに，景観工学，都市計画，交通工学，環境工学などの幅広い科目を取り入れて，土木工学と環境保全のバランスがとれるようにしています。

さらに本学科の学生は，多方面の能力が発揮できるように，建築学の基礎意識も学ぶことができます。

The educational goal of the Department of Construction Systems Engineering is to train professional civil engineers who can contribute to developing and maintaining a safe society. Our study program is based on fundamental civil engineering subjects related to investigation, design, construction, and management. It also includes a wide range of subjects such as landscape engineering, city planning, transportation planning, as well as environmental engineerirg. We also place emphasis on the balance between environmental preservation and civil engineering.

Our students are also required to have a fundamental knowledge of architectural engineering.



専攻科[Advanced Course]

■構造設計工学専攻[Advanced Course of Structure Design Engineering]

力学系, 材料系, 環境系及び構造・加工系の科目を基礎として構造設計分野の技術者を養成することを目的とし, カリキュラムを構成しています。また機械・建設分野の調査・企画及び施工・管理能力を有する技術者養成を考慮し, それに必要な専門科目を組み入れています。

構造設計工学専攻を修了した学生は, 主として製造業の一部と建設業において活躍できる技術者となります。

The Advanced Course of Structure Design Engineering aims to train engineers capable of investigation, planning, construction, and management in the mechanical engineering and the construction engineering fields. The curriculum consists of the basic subjects, such as dynamics systems, material systems, an environmental systems, and structure and processing systems.

upon completing the course, students are expected to become capable engineers will who play an active role in the manufacturing and construction industries.

■電気・制御システム工学専攻[Advanced Course of Electricity and Control System Engineering]

電気・電子系, 制御系及び計測系の科目を基礎として, 電気制御計装・設計施工, 電力設備, FAシステムの保守運用管理技術者を養成することを目的とし, カリキュラムを構成しています。

電気・制御システム工学専攻を修了した学生は, 主として製造業において活躍できる技術者となります。

The goal of the Advanced Course of Electricity and Control System Engineering is to train maintenance operation management engineers in fields, such as electric control instrumentation and design construction, a power equipment, and FA system. The curriculum is composed of the basic subject, including electrical and electronics systems, control systems, and measurement systems.

At the end of the course, the student will be able to play an active role in the manufacturing industry and the research and development division.

（出典　阿南高専学校要覧　平成 22 年度）

資料２－１－①―２

希望学科パンフレット

学科選びに迷っているキミへ

阿南高専には希望学科再選択制度があります

入学試験はこれまで同様に、推薦選抜と学力選抜があり各学科で合格発表をしますが、１年生の学科は仮とし、2年生進級時に学科を再選択します。２年次からの各学科の定員(本配属)は35名から45名程度とします。学科は本人の希望と学業成績により決定します。成績によっては希望の学科に進級できないことがあります。ただし、推薦選抜入学者は再選択を希望しなければ仮配属の学科にとどまることができます。

なお、推薦選抜の定員は全学科とも50%を上限とします。１年生の学級編成は混合学級で、全員が一般科目と全学科の専門基礎科目を学習します。１年かけて全学科の内容を学習し、担任やチュータからきめ細かい指導・助言を受けながら、自分にあった学科を慎重に考えることができる制度です。

入学者選抜

◆推薦による選抜
中学校からの推薦書と面接試験で選抜します。

▼学力による選抜
国語、社会、数学、理科、英語の学力試験で選抜します。

→ 学科仮配属
所属学科は仮配属となります。

第1学年

混合学級
仮配属学科に関係のない学級を編成し、共通の科目とすべての専門学科の基礎科目を学習します。

→ 一年間かけて自分に適した学科を選ぶことができます。

希望学科再選択

本人の希望と第一学年の成績に基づき学科の再選択を行います。

第2～5学年

機械工学科
電気電子工学科
制御情報工学科
建設システム工学科

希望学科再選択の方法

第２学年進級時に学科を再選択します。選択は本人の希望と第一学年の学業成績で決定します。

仮配属から本配属までの流れ
学科仮配属
→ 学科希望調査・学習支援ミーティング
（それぞれ複数回実施）
→ 学科本配属

希望学科再選択のメリット

一年間、すべての専門学科の基礎科目を学習することで、自分に適した学科を探すことができます。

ホームルームや学習支援ミーティングなどで担任やチュータ教員からきめ細かい指導・助言を受け、慎重に学科選択ができます。

希望学科再選択の注意事項

特定学科に希望者が集中した場合、第一学年の成績によっては、希望の学科に進級できない場合があります。

◆推薦選抜入学者の場合
再選択を希望しない場合には、仮配属学科にとどまることができます。再選択を希望した場合には、学力選抜入学者と同じ方法で学科の再選択をすることになります。

▼学力選抜入学者の場合
仮配属の学科とは無関係に学科の再選択をすることになります。

（出典　阿南高専　希望学科再選択パンフレット）

（分析結果とその根拠理由）

学科の目的と教育内容は，高等専門学校設置基準第二章組織編成等の規定に適合している。

また，各学科の目的は，本校の教育の目的「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」及び学習･教育目標をふまえ，それを各学科の学習分野においてより具体化している。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

平成８年４月１日専攻科を設置した。専攻科の教育目標は，「本科から学習した内容を基礎とし，専攻科における継続的な学習により専門知識及び専門技術を習得し，ものづくりに関する創造性を涵養することにより，世界に通用する複合型技術者の養成をめざす。」であり，機械工学科及び建設システム工学科に対応した構造設計工学専攻，電気電子工学科及び制御情報工学科に対応した電気・制御システム工学専攻の２つの専攻を設けている**（資料２－１－②―１，２）**。専攻科では，本科の基盤技術を活かした実践的なものづくり教育を行っている。

ものづくりにおける創造性を高めるため，各専攻の工学実験，工学演習では，ものづくりに関わる内容をテーマとしている。また，企業実習等では，社会が要求する問題点の発見とその解決を図る能力を養い，特別研究ではデザイン能力を養っている。その過程において，１年次の特別研究発表会，企業実習報告会での発表，２年次の特別研究中間発表会，最終発表会を課し，かつ，学会での発表を修了の条件としている。

資料２－１－②―１

専攻科入学定員学則

第30条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
構造設計工学専攻	８人
電気・制御システム工学専攻	８人

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料２－１－②―２

教育プログラム修了要件

５．「創造技術システム工学」教育プログラム修了要件

本校の「創造技術システム工学」教育プログラムの修了者とは，以下にあげる要件を全て満たした者とします。

(1) 全ての必修科目の単位を修得していること。
(2) 学則第 36 条第 1 項に規定（62 単位以上）するほか，一般科目については 14 単位以上，専門共通科目については 12 単位以上，専門科目については 32 単位以上（平成 20 年度以前のプログラム履修開始者は 36 単位以上）を修得していること。
(3) 学位（学士）を取得していること。
(4) JABEE 科目において，124 単位以上を修得していること。
(5) JABEE 科目のうち，次の各科目群から 1 科目以上，合計 6 科目以上の単位を修得していること。
- 設計・システム系科目群
- 情報・論理系科目群
- 材料・バイオ系科目群
- 力学系科目群
- 社会技術系科目群

(6) 本校教育プログラムにおいて，1800 時間以上の学習時間を経験していること。ただし，この時間には，250 時間以上の人文科学，社会科学等（語学教育を含む），250 時間以上の数学，自然科学，情報技術及び 900 時間以上の専門分野に関する学習・教育時間を含んでいること。
(7) 本校教育プログラムで規定した学習・教育目標と JABEE 科目との関係（配点ポイント数を含む）について，学習・教育目標（D1），（D2），（E1），（E2）における獲得ポイントが，それぞれ 20 ポイント以上であること。
(8) 特別研究内容に関連する学会等（学外）において，研究成果を発表していること。
(9) TOEIC 公開テスト又は TOEIC IP テストにおいて，430 点以上（平成 20 年度以前のプログラム履修開始者は 400 点以上）の成績を修めていること。
(10) 全ての学習・教育目標について，その目標が達成できていること。

なお，上記(3)において専攻科修了要件では「学位取得のための学修成果レポートを学位授与機構へ提出していること」ですが，JABEE プログラム修了生となるためには学位授与機構から学位を取得しなければなりません。
また，上記(10)の達成度の評価は別紙（シート１～３）で行ないます。

（出典　阿南工業高等専門学校　「創造技術システム工学」教育プログラム　履修のてびき）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の構成は，学校教育法の規定「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導すること」という目的に適合している。この構成は，本科の基盤技術を活かした実践的なものづくり教育という目的を達成するものとなっている。この目的は，社会の要望を受けとめるものとして定めた本科各学科の目的を受け，より高度化したものである。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校では，全学的なセンターとして地域連携・テクノセンターと情報処理室，国際交流室，キャリア支援室を設置している。

地域連携・テクノセンターは，高度技術専門教育、学内共同研究の推進及び地域産業の振興に寄与するため設置された。この目的達成のため、高専における高度技術教育の組織的な取り組みを行い，共同研究の企画・運営を通して技術者教育の質を高める活動，研究活動を通して地域社会に貢献する活動，公開講座等の地域住民との連携活動等を行っている（**資料２－１－③―１，２**）。

同センターの活動拠点としての創造テクノセンター棟の平面図（**資料２－１－③―３**）に示すように、３階に卒業研究・特別研究室を設け，その卒業研究・特別研究指導に活用している。１階，３階，４階に設けた実験室・プロジェクト室では，教員の研究活動に加え，それらの研究に関連した学生の卒業研究・特別研究を実施している（**資料２－１－③―４**）。４階のマルチメディア室にはノートパソコン対応の無線 LAN を備え，総合情報処理室と連携した情報教育を実施できる体制を整えている。マルチメディア室は講演会・研究発表会用の視聴覚機材も整え，各種教育活動に活用している。２階に創造工房を設け，全国高等専門学校ロボットコンテストに向けたロボット製作など，学生の自発的な創作活動の場としている。

また，情報処理技術利用のための拠点として，総合情報処理室を設置している（**資料２－１－③―５**）。同室は，本校の情報処理センターとして各教員室，実験実習室，図書館などへのネットワークの維持管理やウェブ，メール等各種サーバーの維持管理を行っている。これにより，インターネット等を活用した情報の収集･交換が担保され，教育研究が活性化している。また，同室が管轄する演習室３つは，情報技術を利用して，情報収集，加工・編集，情報発信等を学習する授業においても活用され，情報処理技術の習得に用いられている（**資料２－１－③―６**）。この演習室は，学生への学習支援としての e-learning 英語学習にも活用されている。

平成21年度，国際交流室を設けた（**資料２－１－③―７**）。同室は，国際教育研究交流及び留学生交流の推進を図るとともに、外国の大学等との交流協定に基づき海外に派遣する学生及び外国人留学生の教育と生活の支援を行うことを目的とし，国際交流プログラム等の実践を通して、異文化の人々とともに社会に貢献することのできる「真の国際人」の養成を目指し、本校の国際化教育を担っている（**資料２－１－③―８**）。

平成20年度，キャリア支援室を設けた（**資料２－１－③―９**）。同室は，低学年からのキャリア教育の推進を図り、学生に職業観・倫理観を持たせるための支援を行うと共に、就職・進学活動、インターンシップ及びコーオプ教育に関する指導や助言を行うことを目的とし，教育課程早期からの職業指導推進プログラム，高専低学年（３年生）から専門

カリキュラムとリンクしたコーオプ教育参加企業合同説明会（企業ＰＲ）等を行っている（**資料２－１－③―10**）。

資料２－１－③―１

地域連携テクノセンター規則

阿南工業高等専門学校地域連携・テクノセンター規則
（平成 21 年４月１日）
（規則第４１号）

（趣旨）
第１条高度技術専門教育、学内共同研究の推進及び地域産業の振興に寄与するため、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域連携・テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。
以下　略

（出典　阿南工業高等専門学校地域連携・テクノセンター規則）

資料２－１－③―２

地域連携テクノセンターの役割と組織

１．センターの組織

地域連携・テクノセンターは，高専の持つポテンシャルと地域の特質を生かしながら，地域の活性化・産業の振興に寄与するため，全地域的な努力と英知を結集し，技術開発の発展的交流をめざす拠点並びに本校の教育研究の総合推進の拠点として設置されています。
センターは，これらの目的を達成するため，次のような活動を行います。

① 民間との共同研究・受託研究の斡旋・実施・援助
② 地域連携研究の推進
③ 新技術等の啓蒙・普及及び指導（セミナー，特別講演など）
④ 技術者等のリフレッシュ教育・研修活動の実施（公開講座など）
⑤ 研究・実験設備等の利用に関する紹介・相談への対応
⑥ 技術相談室を置き，工業技術に関わる相談を実施
⑦ 学内共同研究，高度専門技術教育の推進
⑧ 知的財産権の取得，活用
⑨ 新分野における教育研究（寄附講座など）
⑩ 環境分野における研究教育

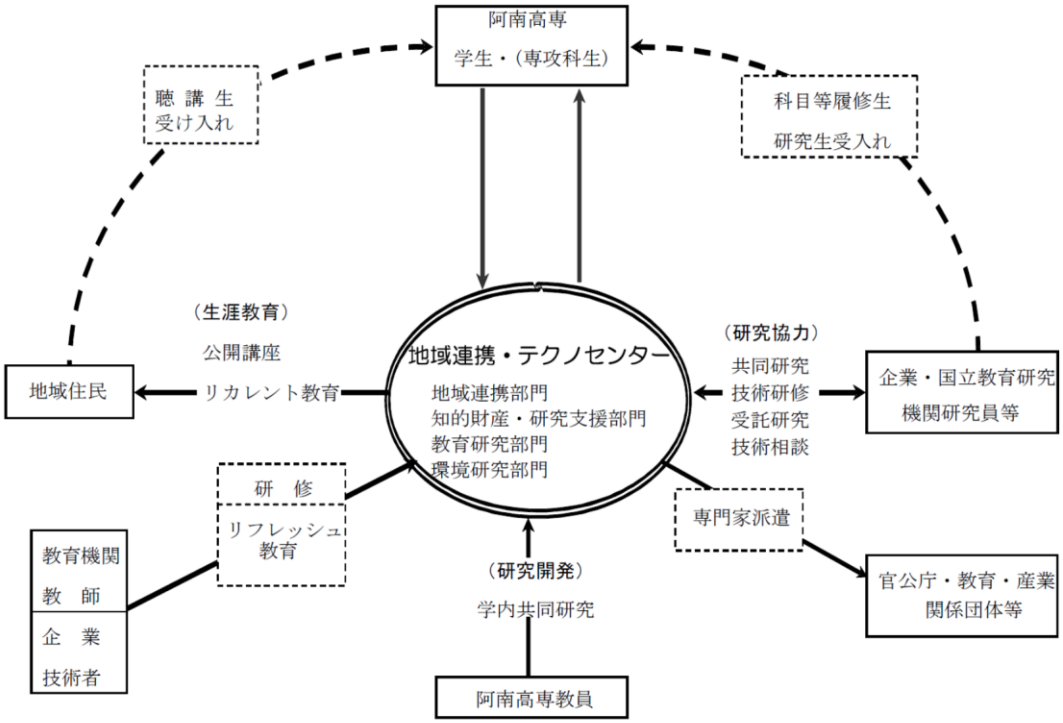
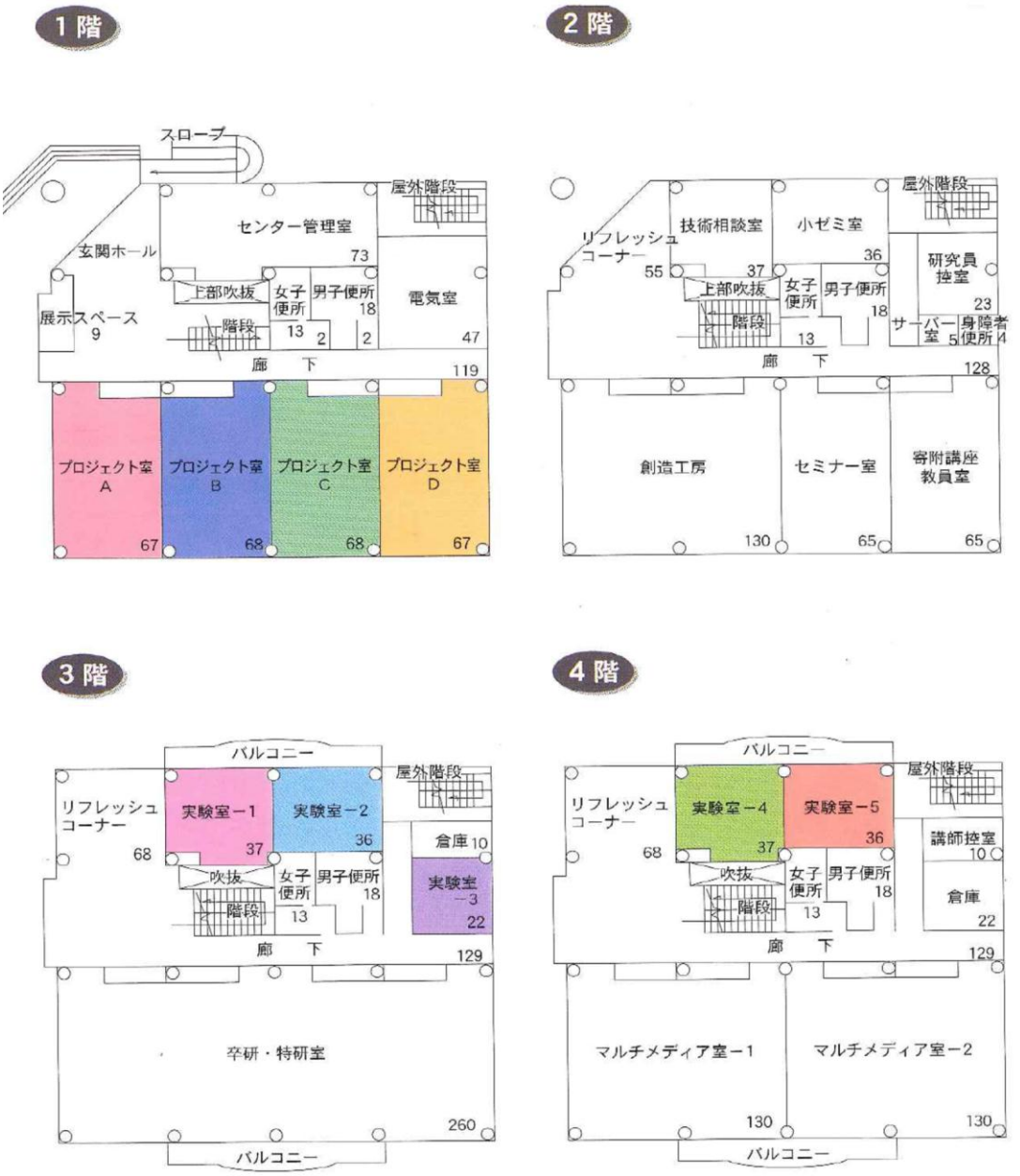


図１　センターの活動概要

（出典　技術の光　あなん高専，Vol. 15，p3，2010）

資料２－１－③―３

地域連携テクノセンター平面図



（出典　創造テクノセンター棟平面図　平成 20 年 12 月版）

資料２－１－③―４

地域連携テクノセンター活動概要

２－１　主な活動記録

- 阿南市との連携協力推進会議を開催（平成 21 年 4 月 16 日）
- 四国 6 高専産学官交流会に参加・出展（平成 21 年 4 月 30 日）
- 第 1 回研究談話会を開催（平成 21 年 5 月 15 日）
- 第 2 回研究談話会を開催（平成 21 年 6 月 18 日）
- 第 1 回徳島銀行との連携協力推進会議を開催（平成 21 年 6 月 18 日）
- ＡＣＴフェローシップ総会・特別講演会を開催（平成 21 年 7 月 10 日）
- 阿南高専交流会を開催（平成 21 年 7 月 10 日）
- 第 3 回研究談話会を開催（平成 21 年 7 月 15 日）
- 第 7 回全国高専テクノフォーラムに参加（平成 21 年 8 月 6 日－7 日）
- 第 2 回半導体ナノ構造国際会議を開催（平成 21 年 8 月 10 日－13 日）
- 学生向け知的財産セミナーを開催（平成 21 年 10 月 5 日）
- 徳島ビジネスチャレンジメッセ 2009 に出展（平成 21 年 10 月 15 日－17 日）
- 徳島県南の LED 関連技術者養成講座 第 1 回生修了・称号付与式及び成果報告会を開催（平成 21 年 10 月 16 日）
- 徳島県南のＬＥＤ関連技術者養成講座第３回生開講式を開催（平成 21 年 10 月 16 日）
- 第 4 回研究談話会を開催（平成 21 年 11 月 13 日）
- 徳島ビジネスフォーラム in 東京に出展及び講演（平成 21 年 12 月 10 日）
- 第 2 回ＡＣＴフェローシップ特別講演会（平成 21 年 12 月 11 日）
- 阿南高専交流会を開催（平成 21 年 12 月 11 日）
- 四国 5 高専技術ｼｰｽﾞ発表会に参加・出展（平成 21 年 12 月 11 日）
- 第 5 回研究談話会を開催（平成 21 年 12 月 22 日）
- 科学技術振興調整費採択高専連絡会を開催（平成 22 年 1 月 29 日－30 日）
- 徳島ビジネスフォーラム in 大阪に出展（平成 22 年 2 月 1 日）

（出典　技術の光　あなん高専，Vol. 15，p5，　2010）

資料２－１－③―５

総合情報処理室の活動

教育研究支援[Support for Education and Research]

■総合情報処理室

本校の情報処理センターとしての機能をもつ総合情報処理室は，各教員室，実験・実習室，図書館などへのネットワーク（校内LAN）の維持管理やウェブ，メール等各種サーバーの維持管理を行っています。この校内LANは専用回線を通じてインターネット接続を行い，校内から国内外の情報の閲覧やデータの送受信が可能であり，教育・研究に大いに利用されています。また，セキュリティに留意し，各種のフィルタリングシステムや稼動管理システムによって，適切な教育・研究環境を提供しています。

１クラス全員が同時に演習を行える部屋は3ケ所あり，第１演習室は学生と教員の双方向の通信を実現する中間モニタの設置によりマルチメディア教材を活用できる環境を整備し，現在のIT技術を可能な限り取り入れた演習室としています。第２演習室は主に英語教材のe-ラーニングに使われ，工業基礎英語やTOEICの自己学習ができるようになっています。第３演習室は第１演習室とほぼ同じ機能をもっています。これらの演習室により情報化社会にふさわしい教育環境を提供しています。

また，第１演習室を中心に，昼休み・放課後の自主学習のために開放しています。公開講座などの生涯教育や技術協力や地域協力にも利用されています。地域の方も申込みにより講習会等に利用可能です。

今後も安全で使いやすいシステムを目指して，技術開発や設備更新を行っていきます。

Information Technology Center

The information technology center has the function of processing information in our college. It maintains networks (inside LAN) connected to teacher's rooms, experiment / exercise rooms, library and Web / E-mail servers and so on. Using Internet connections through special lines, this inside LAN enables access to inland / overseas information and sending / receiving data from this college. It is largely used for education and research. Its security is kept high by various filtering and operation management systems, and it offers appropriate education and research environments.

There are three exercise rooms in which all students in one class can use. The first exercise room has an intermediate monitor, which enables two-way communication between students and teachers and the environment, which enables them to utilize multimedia-teaching materials. The second exercise room is mainly used for English e-learning and enables students to study TOEIC and basic industry English independently. The third exercise room has similar functions to the first one. These exercise rooms offer education and research environments suitable to our information society.

The first exercise room is mainly used to study independently during lunch break or after school. It is also used for extension courses and technical cooperation between enterprises in the area and our college.

Technology development and facility renewal are always being carried out in order to offer safe and usable systems.



第１演習室
[The First Exercise Room]

（出典　阿南高専学校要覧　平成 22 年度版）

資料２－１－③―６

情報処理関係講義



（出典　阿南高専時間割　平成 23 年度前期）

資料２－１－③―７

国際交流規則

阿南工業高等専門学校国際交流室規則

（平成 21 年４月１日）
（規則第２２号）

（設置）
第１条阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）に阿南工業高等専門学校国際交流室（以下「交流室」という。）を置く。
（目的）
第２条交流室は、国際教育研究交流及び留学生交流の推進を図るとともに、外国の大学等との交流協定に基づき海外に派遣する学生（以下「海外派遣学生」という。）及び外国人留学生（以下「留学生」という。）の教育と生活の支援を行うことを目的とする。
（業務）
第３条交流室は，次に掲げる業務を行う。
(1) 教員の国際教育研究交流に関する業務
(2) 国際交流協定校・連携企業との連絡・調整及び新規連携先の開拓等の渉外業務
(3) 海外派遣学生のための情報提供、事前教育、渡航指導に関する業務
(4) 海外派遣学生及び留学生選考に関する業務
(5) 海外派遣学生及び留学生の教育、生活支援に関する業務
(6) 海外派遣学生及び留学生の地域交流推進に関する業務
(7) その他国際教育研究交流・海外派遣学生及び留学生交流に関する業務
以下　略

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料２－１－③―８

阿南高専の学術交流

学術交流[Academic Exchange]

■**海外大学との交流**[Exchange Programs with Overseas Universities]

平成17年2月，アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるソノマ州立大学と，教育連携に関しての覚書を締結しました。この覚書は，両校が相互理解を深め，同大学が本校の学生を受け入れ，語学研修プログラムを受講させるとともに，アメリカ企業への訪問・実地調査を含む国際経験を学ぶ機会を提供することで合意されました。これまで，この語学研修プログラムに17名の学生が受講しました。その受講者全員がソノマ州立大学で単位を取得し，その単位が本校で認定されました。

The Anan National College of Technology (ANCT) and Sonoma State University (SSU) established an agreement in 2005. This agreement provides an opportunity for mutual understanding between the schools. It also paved the way for ANCT students to study English at SSU. ANCT students receive academic credits for their studies at SSU.



ソノマ州立大学［SSU］



ソノマ州立大学留学［SSU］

また，平成19年10月に，ドイツ連邦共和国のオスナブリュック応用科学大学と，平成21年10月に同国のオストファリア応用科学大学と「学術交流に関する協定書」を締結し，学生の交換留学，教員の研究交流などのプログラムを実施しています。

In 2007 ANCT established a relationship with the University of Applied Science of Osnabrueck, Germany. We are currently developing exchange programs that will benefit students and faculty at both institutions.



オスナブリュック応用科学大学
[FH Osnabrueck]



オストファリア応用科学大学
[FH Ostfalia]

（出典　阿南高専学校要覧　平成 22 年度）

資料２－１－③―９

キャリア支援室規則

阿南工業高等専門学校キャリア支援室規則

（平成 20 年５月 14 日）
（規則第２ 号）

(設置)
第１条　阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）に阿南工業高等専門学校キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。
(目的)
第２条　支援室は、低学年からのキャリア教育の推進を図り、学生に職業観・倫理観を持たせるための支援を行うと共に、就職・進学活動、インターンシップ及びコーオプ教育に関する指導や助言を行うことを目的とする。
(業務)
第３条　支援室は，次に掲げる業務を行う。
(1)キャリア教育の企画及び実施に関する事項
(2)インターンシップの企画及び実施に関する事項
(3)コーオプ教育の企画及び実施に関する事項
(4)就職及び進学ガイダンス等の企画及び実施に関する事項
(5)就職及び進学に関する情報等の収集及び提供に関する事項
(6)就職及び進学支援のための広報に関する事項
(7)進路相談に関する事項
(8)その他学生の進路支援に関する事項
以下　略

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料２－１－③―10

キャリア支援・コーオプ活動状況

5.　平成２０年度プロジェクト実績

平成２１年３月現在３年生および４年生の計５６名が３５社（うち２団体）にて就業を継続中である。４年生２５名は５年生になる平成２１年度には就業企業の技術解決課題を卒業研究指導教員とともに取り組み，成果発表を予定している。

4月
- 新３年生募集（新３年生５１名エントリー）
- 新規企業開拓２０社達成（新３年生受入企業数２９社）

5月
- 第１回企業PR実施（5月13日　２９社中10社参加）
- 志望企業へ学生履歴書送付（5月25日～）



6月
- 第２回企業PR，学生面接審査およびドラフト会議（6月13日）
- 学生-企業雇用契約，学校-企業コーオプ教育協定締結



7月
- コーオプ教育オリエンテーション（ビジネスマナー講習）（7月15日）
- 夏季就業（3週間7月22日~8月22日，3年生３５名，4年生２９名　合計６４名参加）
- 教員による企業訪問開始



8月
- 教員企業訪問（学生就業状況確認，5年生への技術解決テーマ事前打ち合わせ）
- 夏季就業終了後　ウェブアンケート入力（学生・企業）

9月
- ウェブアンケート結果集計・分析
- 就業成果ポスター作成・発表指導（4年生）

10月
- 就業成果発表と推進運営委員会（10月17日）
- ポスター発表および優秀就業学生投票（企業・教員）
- 企業合同推進運営委員会および懇親会の実施





11月
- オスナブリュック応用科学大学訪問調査
- キャリア推進フォーラム（11月20日）
- 優秀就業学生の表彰
- コーオプ教育活動報告，パネルディスカッションの実施



12月
- 平成２１年度　新3年生受け入れ企業募集開始（企業訪問）

1月
- タイ商工会議所　訪問勧誘活動
- 平成２１年度　新３年生受け入れ企業募集活動
- 企業求人人事来訪者への説明（１月~３月），企業合同説明会各社ブースへの説明（１月２８日）



2月
- 平成21年度　新３年生受け入れ企業募集活動
- 2年生HRにてコーオプ教育参加者募集説明会実施（2月18日）

3月
- コーオプ教育オリエンテーション実施（アンケート集計分析による問題点の周知）（3月3日）
- 春季就業（2週間3月９日~4月3日，3年生３１名，4年生２５名　合計５６名参加）



（出典　ものづくりエリート技術者養成コーオプ教育プロジェクト
平成 20 年度委託業務成果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

地域連携・テクノセンターと情報処理室は，本校の教育の目的に含まれる実践的技術者養成や情報技術の習得を支援している。地域連携・テクノセンターでは専攻科学生を中心に高度専門技術教育及び地域の企業との共同研究の場として利用されている。また，総合情報処理室は情報技術を習得するためのカリキュラムの設計や設備を有している。

国際交流室，キャリア支援室は，それぞれ本校の学習･教育目標のより高度な達成を企図して設置している。いずれも情報提供にとどまることなく，英語に親しむ環境の提供や語学習得・海外文化体験等を志す学生を具体的に支援し，就学・大学編入学に向けた実践的な準備を支援するキャリア教育を行っている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

効果的かつ円滑な学校運営のため，参与会，校長補佐会議，運営委員会，教員会議，人事委員会等を設けている。教育面に主として関係するものが，教務委員会を始めとする校長補佐会議，運営委員会，専攻科運営委員会，点検・評価委員会，ＪＡＢＥＥ委員会である。

教務委員会は，教務主事，各学科主任，専攻科長，教務主事補で構成する。教育全般について，検討，企画・調整を行う。審議結果は，校長補佐会議での了承，運営委員会の決議を経て，教員会議及び各科教室会議で周知している（**資料２－２－①―１，２**）。

専攻科運営委員会は，専攻科長、専攻科長補佐、教務主事、および各学科専攻科委員で構成する（**資料２－２－①―３**）。専攻科の教育全般について検討，企画・調整を行う。その審議結果は，教務委員会で本科教育との整合性の調整などを確認した上で承認し，校長補佐会議，運営委員会の決議を経て教員会議及び各科教室会議で周知する。教務委員会、専攻科運営委員会は毎月開催している。

点検・評価委員会は，点検・評価委員長、各学科委員、および専攻科委員で構成する。教員の資質の向上と自己点検を行う。ＪＡＢＥＥ委員会は，ＪＡＢＥＥ対応したカリキュラム設計や教育システムの点検を行う。いずれも，その審議結果は，校長補佐会議，運営委員会の決議を経て教員会議及び各科教室会議で周知する。

資料２－２－①―１

教務委員会規則

阿南工業高等専門学校教務委員会規則

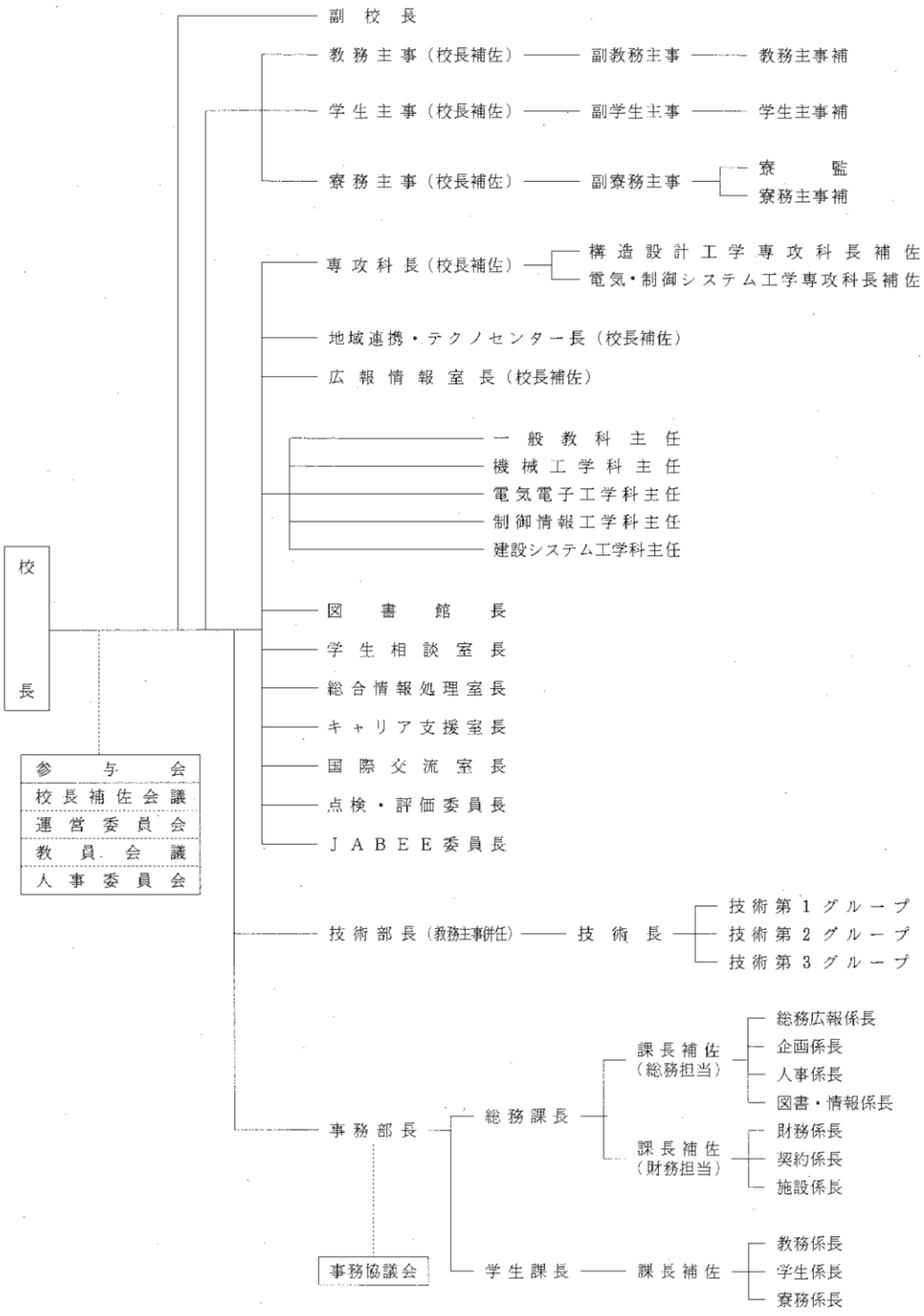
（平成 16 年４月１日）
（規則第１１号）

（設置）
第１条阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 教育課程の編成及び履修に関する事項
(2) 入学及び卒業並びに学籍に関する事項
(3) 入学者選抜に関する事項
(4) ホームルームに関する事項
(5) 実験実習業務に関する事項
(6) 実験実習工場の管理及び運営に関する事項
(7) その他教育に関する事項
（組織）
第３条委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 教務主事
(2) 専攻科長
(3) 副教務主事及び教務主事補
(4) 一般教科主任及び各学科主任
(5) 学生課長
以下　略

（出典　阿南高専　WEB サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料２－２－①―２

学校運営機構図



（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料２－２－①―３

専攻科運営委員会規則

阿南工業高等専門学校専攻科運営委員会規則
（平成16年４月１日）
（規則第２０号）

（設置）
第１条阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校専攻科運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 専攻科の運営に関する事項
(2) 専攻科の教育に関する事項
(3) その他専攻科に関する事項
以下　略

（出典　阿南高専　WEBサイト　阿南工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教務委員会を始めとし，教育活動を有効かつ円滑に実施する体制を整えている。同体制により，各委員会間の連携をふまえ，教育活動全体について慎重に検討し，整合性をもって運営している。これら組織の関係を構成図に明示し，諸規則によってその管轄業務･実施方法を定めている。また，各委員会議事録を校内LANにより，公開している。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

教育連携専門委員会を，教務委員会の下部に設けている。副教務主事を委員長とし，教育課程全体の企画及び調整，専任教員間の機能的連携を行っている**（資料２－２－②―１）**。

専攻科運営委員会の審議を経て，英語力向上のため専攻科入試方法を変更した。一般教科教員と専門学科教員との討議の中で，ヒヤリングテスト・TOEICスコアを加味することを決定した**（資料２－２－②―２）**。

資料２－２－②―１

教育連携専門委員会議事要旨

第１回教育連携専門委員会議事概要

１ 日　　時　　平成２２年６月１０日（木）　１６時１０分～１６時４０分

２ 場　　所　　セミナー室３

３ 出 席 者　　藤居委員長、長澤、吉田、加藤、原野　　陪席 湯浅教務係長
高山、勝藤（新井先生の代理）、小松（実）（１～３年生学年主任）
欠席：長谷川、杉野

４ 議題概要

（１）ロングホームルームについて（席上配付資料）

委員長から開催理由の説明があり，長澤委員から席上配付資料をもとに，ロングホームルーム（以下，ＬＨＲ）活動実施報告書について，紙媒体からサイボーズ掲載に至った経緯等について説明があった。

高山先生，勝藤先生及び小松先生から，各学年のクラス担任の意見，要望等について状況報告があった。

今後のＬＨＲ活動実施報告書の作成方法等について，教務主事管轄において，クラス担任の意見等を参考に，改善方法を検討することとした。

（２）その他

なし

（出典　教育連携専門委員会議事要旨　平成 22 年６月 10 日）

資料２－２－②―２

専攻科運営委員会議事要旨

平成２０年度　第６回　専攻科運営委員会議事要旨

１　日　時　　平成２０年９月２４日（水）１６：１０～１７：１５
２　場　所　　管理部一般教科棟２階　小会議室
３　出席者　　別紙のとおり
４　議　題

(1)　専攻科修了要件（TOEIC）引き上げに伴う入試方法の変更について

委員長から別紙「資料１」に基づき入試方法及び進級要件の変更について説明があり、審議の結果、次の事項が確認、修正された。

- 英語試験換算得点は、「創造技術システム工学」教育プログラム期間中に取得したTOEIC（公開又はIP）得点÷600点×100で得られた点数とする。（TOEIC600点で100点）
- TOEIC400点以上取得者は英語の学力試験を免除するが、本人が希望すれば英語の学力試験を受けることができる。この場合の英語得点は、換算得点と本試験とを比較し高得点の方を英語得点とする。
- 平成23年度入試（現本科3年生が受検）から適用する。また、平成22年度入試から英語選抜検査の時間及び内容を変更し、その結果を分析検討する。
- 専攻科修了要件（TOEIC成績430点以上）引き上げに伴い、専攻科2年生への進級要件のうちTOEIC（IP又は校内模試）成績350点以上を380点以上の成績に変更する。
- 専攻科修了要件（TOEIC）引き上げについては、JABEE委員会に提案する。

(2)　その他

- Y委員から別紙資料2に基づき「平成20年度企業技術者当活用プログラム」の説明及び専攻科への協力依頼があった。

審議の結果、同プログラム関連授業を11月から専攻科1年を対象に授業科目名：工学演習の中で6日分入れる。補佐会議等事前に校長に了解を得る。来年度からは、創造工学演習の中で実施する。

以上

（出典　専攻科運営委員会議事要旨　平成20年9月24日）

（分析結果とその根拠理由）

学生教育に必要な要件について，一般教科教員と専門学科教員の討議など，機能的な連携を行っている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

教員に対し，「学級担任の手引」「新任教員の手引」を毎年更新して配布している。これにより，学生指導・学級担任業務を明示している。各学年に学年主任を置き，学級担任間の指導情報の共有等を行っている**（資料２－２－③―１）**。

新任教員には，本校着任当初に，教務･学生･寮のそれぞれを管轄する主事より管轄業務について説明し，教育活動を円滑に進められるようにしている。

担任教員による学生指導を支援するため，学年主任・学生管轄が連携する体制（学生指導システム）を整え，運用している**（資料２－２－③―２）**。

着任後２年間の勤務場所として合同教員室を設けている。新任教員間での情報共有と連携強化に加え，適宜，主事・主任等が同室を訪れて，円滑な業務遂行のため新任教員に助言している。

ロングホームルーム（LHR）の指導案データベースを作成し，担任教員が効率的に効果的な教育を行えるように整えている**（資料２－２－③―３，４）**。また，教務委員会が調整し，学年共通のテーマを設定してLHRを行うことで，全学的な教育を実施している**（資料２－２－③―５）**。

クラブ顧問会議を開催し，クラブ活動に伴う学生の安全管理等について討議し，円滑なクラブ指導へと接続している**（資料２－２－③―６）**。

資料２－２－③―１

教員組織規則抜粋

（学級担任及び学年主任）

第 12 条　本校に、学級担任及び学年主任を置く。

２　学級担任は、それぞれ担当する学級の運営、指導及び監督にあたる。

３　学年主任は、それぞれ担当する学年に属する学級担任との連絡及び調整にあたる。

（出典　阿南工業高等専門学校教員組織規則）

資料２－２－③―２

学生指導：再登校指導

平成１９年６月１４日

保護者各位

学生指導システムについてのお知らせ

阿南工業高等専門学校　学生主事　岩佐健司

拝啓

向暑の候、保護者の皆様には益々ご清祥のことと存じます。

平素は本校の教育にご協力を賜りありがとうございます。

さて、本校では社会に通用する技術者の養成と責任ある学生指導を目指し、数年前より身だしなみ指導に力を注いできました。昨年 10 月に、保護者の皆様にもご説明をしましたように、これまでは集会指導等を通じて指導を行って参りました。その結果、学生としてふさわしくない頭髪・ピアス・服装の改善等については大きな効果をみせています。今後はさらなる改善を目指し、下記のような学生指導システムを立ち上げ、集会指導からさらに実効ある学生指導に進めたいと思いますので、よろしくご理解・ご協力の程をお願いします。

敬具

１．ねらい

高専の設置目的は社会に通用する技術者の養成にあり、高専は多くのすぐれた技術者を世に送り出してきた。今後も高専が果たすべき社会的役割が変わることはない。つまり、高専は社会の要請に応える義務を担っており、このためには学習面での教育のみならず生活面での教育も重要となることはいうまでもない。本学生指導システムは、本校における生活面の教育をより充実させることを目指すものである。

２．概要

（１）集会指導

・本校の全学生と教員が集合し、頭髪・ピアス・服装などの身だしなみ指導を行う。

・本集会は、身だしなみに関する指導基準を、教員および学生が共有し認識するとともに、身だしなみに問題がある学生をその場で指導する意味をもつ。

・身だしなみに問題がある学生については、期限を決めて直すように指導する。

・期限内に直らなければ再登校指導を行う。

（２）集団指導システム

Ａ：指導報告

・学生の身だしなみ、問題行動等について、全教員が日常的に指導し、指導の記録（指導日時・場所・学生の氏名・指導内容・指導教員名）を、学生係に電子メールで報告する。

・報告する指導内容は、以下のとおり。

ア）身だしなみ

例・頭髪（自然色でない髪色、学生としてふさわしくないと判断される髪型）

・耳飾り（ピアス、イヤリングなど）

・服装（１・２年生の制服未着用、制服のシャツ出し、ズボン裾のたくしあげ、女子学生のスカート丈（膝にかかる程度）、肌の露出が多い服装（ランニングシャツ、タンクトップ等）、部屋着（スウェット、作務衣、甚兵衛等）、室内での帽子の着用など）、爪の装飾等

・履物（サンダル、下駄ばきなど）

イ）交通上の問題行動

例・自転車の走行（二人乗り、その他危険な走行）

・バイクの走行（ヘルメット未着用、爆音、二人乗り、その他危険な走行）

・無許可自動車の構内乗り入れ

ウ）授業中の態度

例・徘徊、私語、携帯電話の使用、飲食、飲食物の机上保管、常習的居眠り

エ）日常生活上の問題行動

例・暴言、暴行、破壊行為

・食べ歩き

Ｂ：集団指導

・上記指導報告の集積状況を学生主事管轄で把握し、報告の多い学生について、担任に連絡するとともに集団指導の必要性を判断する。

①学生主事補等の個別指導によって改善が見られない

②学生主事補等の個別指導に対し、受容的な態度でない

③担任指導の浸透が思わしくない

このような場合には、以下のような集団指導を行う。

第一段階「集団指導Ⅰ」（学生主事補主催）

・担任、学科主任、学生主事補、学生主事が指名する教員による集団指導を行う。

・改善期限を学生および保護者に明示し、後日検証する。良好であれば経過を観察し、不調であれば、第二段階「集団指導Ⅱ」に移行する。

・状況により、「集団指導Ⅰ」は、２回実施することがある。

第二段階「集団指導Ⅱ」（学生主事主催）

・担任、学科主任、学生主事補、学生主事が指名する教員に、学生主事が加わり指導を行う。

・改善期限を学生および保護者に明示し、後日検証する。良好であれば経過を観察し、不調であれば、「再登校指導」「再入室指導」に移行する。

Ｃ：「再登校指導」「再入室指導」

・再登校指導とは、集会指導された学生に改善期限を伝え、その日にまだ改善が見られないときには、「○○を直してから再登校しなさい」と指示するものである。

・再入室指導は、授業中の問題行動について「集団指導Ⅱ」をうけ、なおかつ改善が認められない場合に実施する。再入室指導を受けた学生は、「特別学習室」（セミナー室）に移動して担当者（所属学科の教員）の指導に従う。

・「再登校指導」「再入室指導」による欠課はカウントし、未履修計算に算入する。

（出典　保護者向け通知文書「学生指導システムについてのお知らせ」
平成 19 年６月 14 日）

資料２－２－③―３

LHR アーカイヴ

LHRアーカイヴ

年度	期	学年	組	実施者	分野	テーマ	報告書ファイル	報告書に非添付の資料(AV資料等)
H21	前				環境	地球環境の環境破壊の実態から、ゴミ分別やエコ対策などの取り組みについて	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	前				交通	交通安全／自転車通学について	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	前				マナー	インターネット・携帯電話のマナーについて	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	前				夏休みに向けて	夏休みを有意義に過ごすために	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	前				人権	「男女共同参画推進会議in阿南」に参加した学生を中心に、報告会と女性の人権について基本的な用語に対する基礎知識を理解する。	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	後				環境	ディベート方法を理解する手がかりとして「環境」をテーマにしたトピックを取り上げ、それぞれの立場で経験する。	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	後				人権	就職身元調査の実態を知り、差別をしない、差別を受けない知識を身につける。	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	後				交通	自転車の正しい乗り方を理解し、危険なめに遭わない	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	後				マナー	携帯電話のマナー「こうすれば上手に使える携帯電話」	D:¥data¥091年4組¥LHR新	
H21	後				冬休みに向けて	学習面で短い冬休みを前向きに取り組むことができる。	D:¥data¥091年4組¥LHR新	

（出典　阿南高専 LHR アーカイヴ）

資料２－２－③―４

LHR 報告書例

LHR 活動実施報告書（平成２１年度前期）

クラス	担任			人権教育/交通・安全/ 〇環境/マナー/ その他(　　)
担当学生 /学生記録係		/		
テーマ	地球環境の環境破壊の実態から、ゴミ分別やエコ対策などの取り組みについて			
実施日時	平成　２１　年　６　月　２　　日（　火　　）曜日　第　７限			
ねらい	環境破壊が地球的規模で起こっていることを自覚し、次世代のためにいま私たちがしなければならない取り組みを、地道におこなう責任と義務があることを理解する。			
準備物 使用資料	●じんけんテキスト　校内ゴミ分別表 LHR環境.doc			
実施内容	［実施内容を、時系列で箇条書き］ ① ４人ずつのグループ編成。10 グループを作る。 ② 校内ゴミ分別について、資料を基に説明する。 ③ 環境クイズ及び各グループ別にエコ対策を討議する。その後発表。 ④ テキスト「じんけん」160-161 ページを読む			
反省点	耳鼻科検診で討議の最中に分散、再度集合し最後まで実施した。			
その他				

（出典　LHR 実施報告書）

資料２－２－③―５

LHR 計画表

平成23年度前期　1年生ホームルーム計画

クラス		1組	2組	3組	4組
回数	日付	内容	内容	内容	内容
1	4月12日	ゴミの分別と教室清掃（環境） ゴミ集積場			
2	4月19日	成績評価とJABEEについて（統一・視聴覚教室）			
3	4月26日	淡路研修説明会（統一・視聴覚教室）			
	5月3日	憲法記念日			
4	5月10日	図書館案内（統一）			
5	5月17日	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて
6	5月24日	校長講話（統一・視聴覚教室）			
7	5月31日	タバコの害 視聴覚室			
8	6月7日	前期中間試験に向けて	前期中間試験に向けて	前期中間試験に向けて	前期中間試験に向けて
	6月14日	前期中間試験			
9	6月21日	身だしなみ（マナー）	自転車の交通安全	交通安全について	清掃について
10	6月28日	英語実力テスト第1回			
11	7月5日	青い目と茶色い目（人権）視聴覚室			
12	7月12日	自転車事故と保障（交通）視聴覚室	エネルギー問題について	インターネットのマナー	交通について
13	7月19日	携帯電話のマナー（マナー）	ミニ敬語教室	ものづくりの楽しさ	マナーについて
14	7月26日	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて
	8月2日	前期期末試験			
15	8月8日	夏休みに向けて	夏休みに向けて	夏休みに向けて	夏休みに向けて

（出典　阿南高専 LHR 実施計画表　平成 23 年度１年生前期）

資料２－２－③―６

クラブ同好会顧問会議資料

クラブ･同好会顧問会議（１０月２３日）

学生主事

１．クラブ･同好会活動中の事故発生時の対応について（依頼）

（1）顧問の先生が対応してください

・急用等で不在の場合においてもキャプテン等に緊急連絡方法を指示願います

・学生に対し，当日の安全管理者を明確にしておいてください

（2）顧問の先生は，傷害の内容に応じた応急処置，必要に応じて保健室への搬送などをしてください

・各クラブにおいて応急処置に必要な用具を準備してください

・傷害時の応急処置方法が出来るようご準備ください

応急処置法などについて，講習会を開催予定です。（全教員対象，クラブリーダ対象）

（3）病院への搬送，医師への説明，医師からの指示の記録，関係者への連絡を実施してください

・保健室の判断で，タクシー・救急車などを手配いたします

・学生の怪我の度合いに応じ，学内に危機管理室を設置いたします

・１９時半以降の勤務に対し，超過勤務手当が支払われます

（4）事故報告書の作成をしてください（別紙　デジタルデータで提出のこと）

・災害共済給付オンライン請求を円滑に実施する為　（保健室業務が停滞している）

・事故予防，緊急対応方法に対する指導に役立てる

事故報告書の作成は，学生が怪我で病院を受診した場合に作成してください

２．次年度のクラブ・同好会顧問の決定方法(案)について

（1）現在の問題点

①クラブ顧問の適正配置が出来ていない　②クラブ指導の負担が偏っている

③学生が顧問依頼をするときの情報不足（既に決まっている，教員の希望がわからない）

（2）改善方法

①各クラブの活動実態をふまえ，クラブ・同好会顧問定員枠を事前に決定する

②教員が受け持つ顧問数を決める

③学生がクラブ顧問就任を教員に依頼するときに有益な情報を，学生に公開する

④学生と教員の双方から希望を聞き，学生管轄の調整で就任するクラブ･同好会を決める

（3）ルール　（先順位は①から順番となります）

①教員は必ず一つの運動部（体育局・体育系同好会）に就任する

②文化部（文化局・文科系同好会）の顧問は，運動部の負担量に応じて免除する場合がある

③学生と教員の双方の希望が一致した場合に顧問就任となる

（4）手順

①教員の情報を学生に対して公開（実績，所有資格，その他特記事項など）

②教員に対し，クラブ・同好会の活動・計画報告書，顧問定員枠を公開

③学生から教員に対しての顧問就任依頼　←←　これが重要

④学生と教員双方から希望調査書を学生係に提出

⑤第一希望から順に教員と学生の希望を調べ，希望が一致した場合に顧問就任となる

⑥片側からのみの希望の場合はその情報を伝え，希望に変わった場合は顧問就任となる

⑦顧問が決まらないクラブ，教員に対して第２次調査を実施する

⑧最後まで決まらないクラブ･同好会，教員への対応　（希望に沿わない場合も有る）

（出典　阿南高専クラブ同好会顧問会議資料　平成 20 年 10 月 23 日）

（分析結果とその根拠理由）

「学級担任の手引」「新任教員の手引」は全教員に配布し，指導体制･方法等について全教員が共有し，担任教員を支援する体制を整えている。学年主任制，合同教員室，学生指導システム，LHRデータベース･共通テーマ設定，クラブ顧問会議など，複数の支援体制が機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教務委員会を核として，有効な教育活動を展開できるように体制を整えている。とくに，教員の教育活動を支援する体制が充実している。教育活動に関わる情報の共有，人的ネットワーク構築などが機能している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準２の自己評価の概要

学科及び専攻科の構成は，教育の目的を達成する上で適切なものになっている。全学的なセンターででは，地域連携・テクノセンターと情報処理室，国際交流室，キャリア支援室を設置している。これらは教育の目的が達成する上で適切かつ必要なものであり，効果的に運用されている。

また，教育課程全体を企画調整する教務委員会，専攻科運営委員会が中心に教育活動等に係る重要事項を審議している。一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携や，円滑な教育活動においては，教務委員会の下部組織である教育連携専門委員会で活動が行われている。教員の学生指導を支援するため，学年主任・学生管轄が連携する体制を整え，効果的に運用している。以上のように教員組織について，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

基準３ 教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか

（観点にかかる状況）

本校の教育の目的の中心であるものづくり教育の基礎となる教養，コミュニケーション能力，倫理観，基礎学力と健康な身体を養成するために，平成 22 年度において一般教科には，国語担当教員２名，数学担当教員５名，理科担当教員３名，社会担当教員２名，英語担当教員４名，保健体育担当教員３名の計 19 名の常勤教員を配置している。それを，特に社会の一員としての規範意識や豊かな人間性養成の点から補完するため，特命講師を含む非常勤教員 14 名を配置している**（資料３－１－①－１）**。

教員が担当する授業は同教員の研究専門分野になるよう，教室会議における授業担当打ち合わせで配慮している。

資料３－１－①－１

一般教科科目別現員表

科　目	教　授	准教授	講　師	助　教	計	非常勤講師
国　語	2				2	
数　学	1	2	1	1	5	2
理　科	1	1	1		3	1
社　会	1	1			2	3
英　語	2	1	1		4	6
保健体育		2		1	3	1
芸　術						1
計	7	7	3	2	19	14

（出典　教員現員調べ　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

一般教科教員として配置する 19 名は，高等専門学校設置基準第６条を満たしている。

技術者に必要な基礎学力を養成する数学に５名，理科に３名，国際的コミュニケーション力を養成する英語に４名と重点的に配置するとともに，教員の専門分野にて適合した授業担当となるよう配慮している。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

平成 22 年度において、機械工学科では，教授３名，准教授６名，助教２名の計 11 名の常勤教員を配置している。教員の配置は，機械工学の基本力学である材料力学に３名，水力学に１名，熱力学に１名，工業力学３名とし，他に情報処理２名，応用物理１名，非常勤講師４名とともに，機械工学の専門基礎能力を養成している（**資料３－１－②－１**）。

電気電子工学科では，教授５名，准教授６名の計 11 名の常勤教員を配置している。教員の配置は，電磁気及び電気電子回路系科目４名，計測制御機器系科目４名，情報通信電力設備系科目３名を配置し，非常勤講師９名とともに，実践的電気電子技術者を育成している（**資料３－１－②－２**）。

制御情報工学科では，教授６名，准教授３名，講師１名，助教２名の計 12 名の常勤教員を配置している。教員の配置は，情報処理系科目４名，電気電子系科目４名，制御工学系科目３名を配置し，他に応用数学１名，非常勤講師３名とともに，制御システムの技術者を養成している（**資料３－１－②－３**）。

建設システム工学科では，嘱託教授を含む教授５名，准教授４名，助教１名の計 10 名の常勤教員を配置している。教員の配置は，構造系科目３名，材料系科目２名，土質系科目１名，水理系科目２名，環境系科目１名，計画系科目１名とし，非常勤講師７名とともに，建設技術者を養成している（**資料３－１－②－４**）。

いずれの学科においても，教員が担当する授業は同教員の研究専門分野になるように，教室会議における授業担当打ち合わせで配慮している。

資料３－１－②－１

機械工学科現員表

	教　授	准教授	講　師	助　教	計
材料力学	1	1		1	3
水力学		1			1
熱力学	1				1
工業力学	1	2			3
情報処理		1		1	2
応用物理		1			
計	3	6		2	11

（出典　教員現員調べ　平成 22 年度）

資料３－１－②－２

電気電子工学科現員表

	教　授	准教授	講　師	助　教	計
電磁気及び電気電子回路	1	3			4
計測制御機器	2	2			4
情報通信電力設備	2	1			3
計	5	6			11

（出典　教員現員調べ　平成 22 年度）

資料３－１－②－３

制御情報工学科現員表

	教　授	准教授	講　師	助　教	計
制　御	3	2	1	1	7
情　報	2	1		1	4
電気電子					
応用数学	1				1
計	6	3	1	2	12

（出典　教員現員調べ　平成 22 年度）

資料３－１－②－４

建設システム工学科現員表

	教　授	准教授	講　師	助　教	計
構　造	1	2			3
材　料	2				2
土　質		1			1
水　理	2				2
環　境				1	1
計　画		1			1
計	5	4		1	10

（出典　教員現員調べ　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

専門学科教員として配置する 44 名（４工学科合計，専攻科担当教員を含む）は，高等専門学校設置基準第６条を満たしている

本校の教育の目的をふまえた各学科の教育目的を実現するため，教員が担当する授業は同教員の研究専門分野になるよう，教室会議における授業担当打ち合わせで配慮している。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，２専攻に共通な一般科目に７名，専門共通科目に 10 名の常勤教員を配置し，本科において学習した内容を基礎とし，世界に通用する複合型技術者を養成している。構造設計工学専攻の専門科目担当として 24 名の教員を配置し，機械・建設分野の調査･企画及び施工･管理能力を有する技術者養成を行っている。電気・制御システム工学専攻の専門科目担当教員として 21 名の教員を配置し，電気制御計装，設計施工，電力設備，ＦＡシステムの保守運用管理技術者を養成している（**資料３－１－③－１**）。なお、科目の運営管理責任をもつ主担当としての非常勤講師は，配置していない。

なお，授業担当は教員の専門分野にて適合した授業担当となるよう配慮し、かつ学位授与機構による審査結果に沿ったものになるよう専攻科運営委員会で決定している。

資料３－１－③－１

専攻科現員表

	教　授	准教授	講　師	助　教	計
一般科目	4	3			7
専門共通科目	8	2			10
構造設計工学専攻 専門科目	9	12		3	24
電気・制御システム工学専攻 専門科目	11	8	1	1	21
計	32	25	1	4	62

（出典　教員現員調べ　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

本科から継続する教育体制を構築し，ものづくりに関する創造性を涵養することにより，世界に通用する複合型技術者を養成するという専攻科の教育目的を達成できるよう，45 名の

担当教員を適切に配置し，その配置を学位授与機構による審査で確認している。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

ものづくりを行うために必要な複合的技術の習得を可能とするため，企業，大学等の教育機関での勤務経験を持つ教員を配置している（**教員一覧表は訪問調査時に資料提示**）。それら教員の採用では，年齢構成が均衡あるものとなるよう，配慮している。企業勤務経験を有する教員は21名，大学等の教育機関の勤務経験を有する教員は23名，両方の経験を有する教員は７名である（**資料３－１－④－１**）。教員63名中，博士号取得者は51名である（**資料３－１－④－２**）。

教員組織の活性化のため，高専・両技科大間教員交流，文部科学省在外研究員・内地研究員及びその他必要な研修を活用している（**資料３－１－④－３，４**）。

平成18年，教育・研究の諸活動において優れた取組みを行った本校教職員に対し、その功績を顕彰する「高志賞」を設けている（**資料３－１－④－５**）。

平成21年，サバティカル制度を設けた。これは平成21年度特別教育研究経費として採択されたものである（**資料３－１－④－６**）。同制度は教員の資質や意欲の向上と研究活性化を目的として，教員に３ヶ月～１年未満のサバティカル期間を与えるものであり，教員はサバティカル期間を論文執筆や，大学・研究機関での研修や共同研究に使うことができる（**資料３－１－④－７**）。

資料３－１－④―１

他の機関における経験者数

企業	大学等教育機関	両方の経験者
21 名	23 名	7 名

（出典　他機関経験記録　平成 22 年度）

資料３－１－④－２

学位取得状況

学士	修士	博士
１名	１１名	51 名

（出典　学位取得状況調べ　平成 22 年度）

資料３－１－④―３

高専間人事交流状況

受入	氏　　名	交流先	期間
平成 18 年度	機械工学科　助教授 北村　一弘	高知高専より	H 18.4.1 – H 19.3.31
平成 21 年度	建設システム工学科　講師 前田　博子	豊田高専より	H 21.4.1 – H 22.3.31

派遣	氏　　名	交流先	期間
平成 18 年度	一般教科　准教授 藤居　岳人	奈良高専へ	H 18.4.1 – H 20.3.31
平成 19 年度	制御情報工学科　准教授 福田　耕治	岐阜高専へ	H 19.4.1 – H 21.3.31
平成 20 年度	電気電子工学科　准教授 中村　雄一	長岡技科大へ	H 20.4.1 – H 22.3.31
平成 21 年度	建設システム工学科　准教授 吉村　洋	長野高専へ	H 21.4.1 – H 22.3.31
平成 22 年度	一般教科　准教授 田上　隆徳	香川高専へ	H 22.4.1 – H 23.3.31

（出典　高専間人事交流記録　平成 22 年度）

資料３－１－④―４

文部科学省在外研究員，独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	滞在地名（国名） 派遣機関	出張期間
平成 23 年	申請者なし		
平成 22 年	一般教科 講師 藤井　浩美	アメリカ合衆国，英国，ドイツ ソノマ州立大学，ウォークリック大学，オスナブリュック大学	22.8.21～23.3.31
平成 21 年	申請者なし		
平成 20 年	機械工学科 助教 川畑　成之	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学サンディエゴ校	21.3.24～22.3.2
平成 19 年	制御情報工学科 准教授 岡本　浩行	アメリカ合衆国 ノースウェスタン大学	20.3.26～21.3.1
平成 18 年	機械工学科 助教授 大北裕司	イギリス ノッティンガム大学	19.3.26～20.2.26
平成 17 年	機械工学科 助教授 原野　智哉	アメリカ合衆国 イリノイ大学	18.3.27～19.2.23
平成 16 年	採択者なし		

（出典　在外研究員記録　平成 22 年度）

資料３－１－④―５

阿南高専教職員表彰要領

目的

教育・研究の諸活動において優れた取組みを行った本校教職員に対し、その功績を顕彰する。

表彰分類は，教育活動に優れた功績のあった教職員を表彰する（高志賞　教育部門）と研究活動に優れた功績のあった教職員を表彰する（高志賞　研究部門）とし、各賞について隔年で表彰する。

また、当該年度において、本校の教育研究等に多大に貢献した教職員がある場合には（高志賞　○○表彰）として表彰する。

（※１　教職員とは、教員及技術職員とする。）

（※２　当該年度において、本校の教育研究等に多大に貢献した教職員がある場合の表彰名については、その貢献内容により、校長補佐会議の議を経て校長が決定する。）

（※３　表彰される者が、当該年度で退職する者の場合の副賞については、記念品を贈与するものとし、その取扱いについては「永年勤続表彰者への記念品贈与に関する取扱いについて」（平成 16 年 8 月 16 日独立行政法人国立高等専門学校機構本部事務局長裁定）に準じて取り扱うものとする。

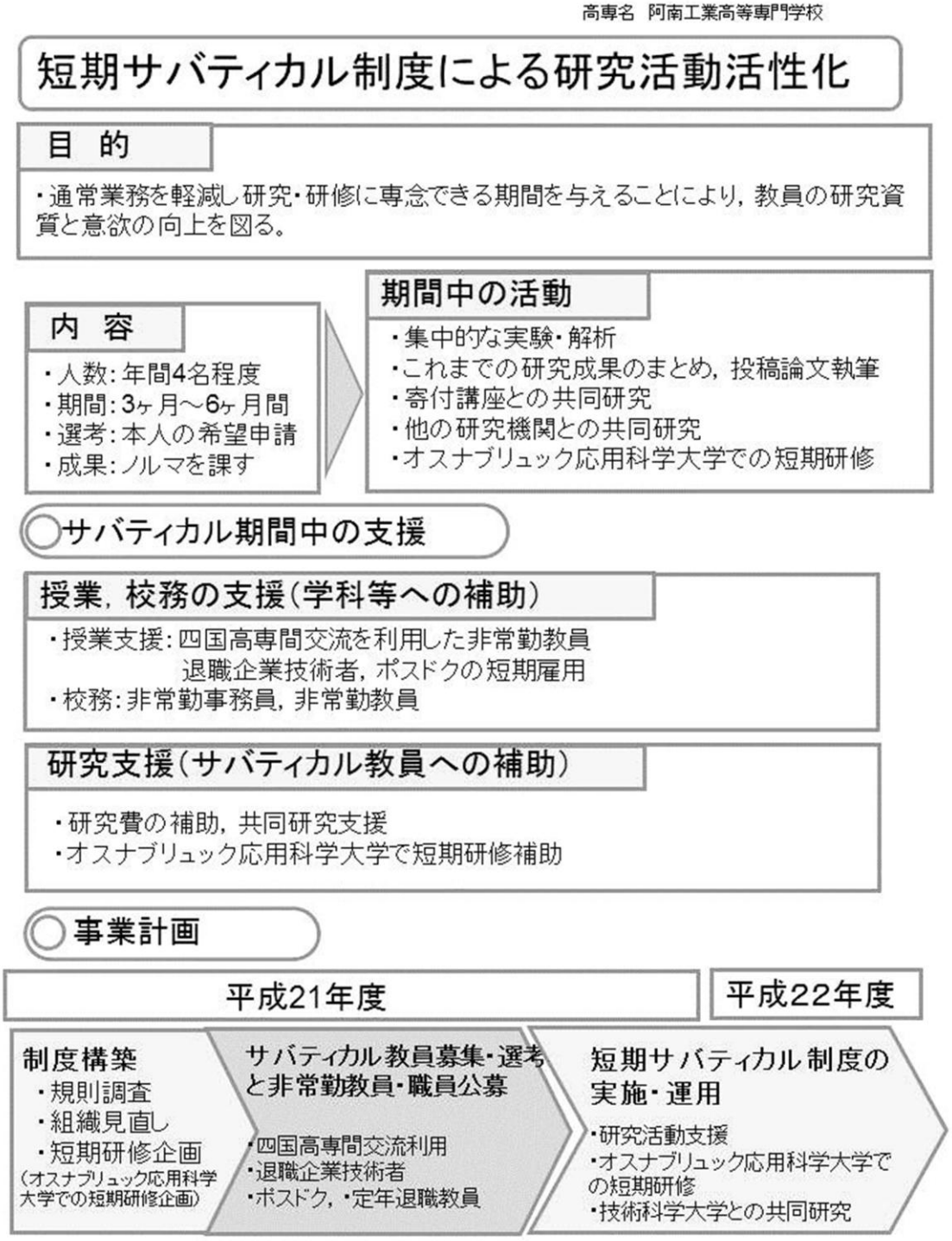
高志賞受賞者一覧

表彰年度	表彰区分	被表彰者
平成 18 年度	教育部門	技術室　室長　柳坂信孝
平成 19 年度	教育部門	一般教科　准教授　錦織浩文
		機械工学科　准教授　奥本良博
		電気電子工学科　准教授　長谷川竜生
平成 20 年度	研究部門	一般教科　講師　長澤智明
		建設システム工学科　講師　橋本温
		技術室　技術職員　西本浩司
平成 21 年度	教育部門	機械工学科　准教授　原野智哉
		電気電子工学科　准教授　釜野勝
平成 22 年度	研究部門	機械工学科　准教授　吉田岳人
	教育部門	技術部　技術長　多田孝

（出典　平成 22 年度　阿南高専教職員表彰要領）

資料３－１－④―６

サバティカル制度概要図



（出典　サバティカル制度申請書類）

資料３－１－④―７

サバティカル活動実施要領と実績

平成２３年度阿南工業高等専門学校のサバティカル活動実施要領

平成 22 年 11 月 10 日
校　長　裁　定

本校教員の授業，校内役職（委員会委員），学級担任，学寮宿日直及びクラブ顧問等に関する業務を一定期間免除することにより，教員が研究活動の推進、資格取得、新分野の知識・技術の修得、あるいは企業体験等の自己啓発に専念し，教員としての視野を広げるとともに創造性を高め，もって本校における教育研究の活性化に資する活動(以下「サバティカル活動」という。)の実施について，次のように取り扱う。　　以下略

サバティカル活動従事教員一覧表

氏　名	期　　間	活動拠点	免　除　希　望
一般教科 田中広志（講師）	H21.10.5 ～H22.3.30	和歌山大学	２クラス数学Ｂ ２クラス微分方程式
電気電子工学科 上原信知（助教）	H21.10.5 ～H22.3.31	本校他	４クラス情報リテラシ
制御情報工学科 杉野隆三郎（教授）	H21.10.5 ～H22.3.31	本校	応用数学　５科目
建設システム工学科 橋本　温（准教授）	H21.10.5 ～H22.3.31	本校，徳島大学	環境生物学 （非常勤が見つかれば環境工学２も希望）
機械工学科 西岡守（教授）	H22.4.1 ～H23.3.30	本校	環境工学，熱工学， 化学工学基礎，化学工学基礎２
電気電子工学科 松本高志（准教授）	H22.4.1 ～H23.3.30	本校，国内外の 短期出張	無線工学，電気磁気学・演習 電気計測，ものづくり工学基礎
制御情報工学科 福田耕治（准教授）	H22.4.1 ～H22.9.30	本校，国内外の 短期出張	ものづくり工学実習，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習，制御情報実験，CADｼｽﾃﾑ ﾛﾎﾞｯﾄ製作実習，ﾛﾎﾞｯﾄ工学演習 電気制御ｼｽﾃﾑ工学実験
電気電子工学科 長谷川竜生（准教授）	H23.4.1 ～H24.3.31	本校	電気磁気学，電子計測工学 学級担任，宿日直，クラブ顧問
建設システム工学科 大田直友（准教授）	H23.4.1 ～H24.3.31	本校，徳島大学	土質実験・測量実習、学寮宿日直， 学級担任，クラブ顧問

（出典　サバティカル活動実施要領と実績集計）

（分析結果とその根拠理由）

教員組織の年齢構成は，20代１名，30代16名，40代18名，50代17名，60代11名とバランスが取れたものとしている。常勤教員の約33％が企業を，約36％が他の教育機関での勤務を，約11％が両方を経験しており，時代に即応した創造性に富む実践的技術者を養成する体制となっている。さらに，教員組織の活動をより活発化させる高専間交流や本校独自のサバティカルシステムを実施している。

観点３－２－①：全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

点検・評価委員会（**資料３－２－①―１**）による全教員の教育活動を評価し，その結果を教員組織の活性化に接続している。学生による授業評価（**資料３－２－①―２**），教員相互の授業参観記録（**資料３－２－①―３**），授業参観時の保護者アンケート等を用い，授業を中心として全教員を対象として分析している。分析の結果，改善が必要と判断した教員に対し，具体的な改善方法と目標，改善の検証方法を明記した「教育改善PDCAレポート」の提出を求めている（**資料３－２－①―４，５**）。そこで推奨している改善方法の１つが，同科教員による支援であり，定期的授業参観と具体的に改善アドバイスである。

各教員の研究費配分は点検･評価委員会で審議した基準に基づく教育業績ポイントシステムにより，各教員の翌年度の研究費を決定している（**資料３－２－①―６，７**）。

教員は，中期計画等に則り，年度当初に個々の年度計画、および前年度の達成状況を文書として校長に提出している（**資料３－２－①―８，９**）。さらに校長との面談で同計画について意見交換し次年度計画に反映するというサイクルを確立している（**資料３－２－①―10**）。さらに教員は３主事等役職者に対して評価と改善すべき内容があれば、当該役職者に文書を提出している（**資料３－２－①―11**）。

この校長との面談等を定期的に行う中で確認された必要性から，運営委員会審議等を経て，進路指導の充実･強化のためのキャリア支援室の設置，国際化教育の促進のための国際交流室の設置，入試広報を含む機動的統合的学校広報のための広報情報室の設置等を行った。

資料３－２－①―１

阿南工業高等専門学校点検・評価委員会規則

（平成 16 年４月１日）
（規則第２７号）

（設置）
第１条阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 中期計画の達成度評価に関する事項
(2) 自己点検評価に関する事項
(3) 教員の自己点検の検証に関する事項
(4) 教員のファカルティディベロップメント（以下「ＦＤ」という。）に関する事項
(5) 教育方法改善等に関する事項
(6) 授業評価に関する事項
(7) 情報セキュリティーの評価に関する事項
(8) その他点検・評価に関する事項
（組織）
第３条委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 校長が指名する者２名
(2) 一般教科教員のうちから選出された者１名
(3) 各学科教員のうちから選出された者各１名
(4) 専攻科担当教員のうちから選出された者１名
（任期）
第４条前条に規定する委員の任期は、１年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条委員会に委員長及び副委員長を置き、第３条第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（議事）
第６条委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
２　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
（審議結果）
第７条委員長は、委員会の審議結果を、速やかに校長に報告するものとする。
（委員以外の者の出席）
第８条委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第９条委員会にＦＤ専門委員会を置く。
２　ＦＤ専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（部会）
第 10 条委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。
２　部会に関し必要な事項は、別に定める。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料３－２－①―２

授業評価アンケート実施説明

阿南高専　授業評価アンケート

Ｈ１９・６改訂版

＊このアンケートは，授業の改善を目的としています。

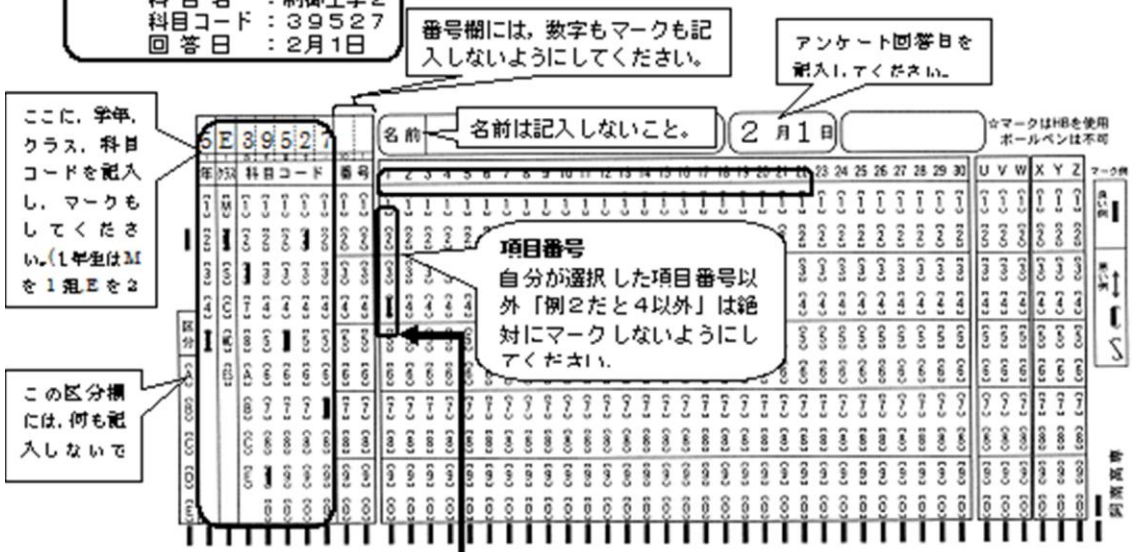
名前は記入しないでください。

マークカードの記入方法

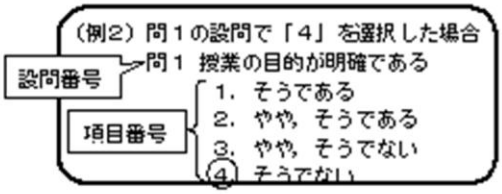
（注意）記入に際して，**ＨＢ以上の濃さの鉛筆を使用してください（ボールペンでの記入は不可です）。**

（１）「学年」，「クラス」，「科目コード」，「アンケート回答日」を下の例１に従って記述し，該当個所をマークしてください。

（例１）学　年　　：５
クラス　：Ｅ
科目名　：制御工学２
科目コード：３９５２７
回答日　：２月１日



（２）以下の各設問において，自分の考えにもっとも近いものを１つ選び，その番号をマークしてください。



<授業について>

問1 授業の目的が明確である
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問2 授業に対する姿勢や準備が整っている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問3 言葉ははっきりしていて聞き取りやすい
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問4 授業内容は分かりやすく整理されており説明は理解しやすい
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

5 板書は分かりやすく整理されている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問6 教科書やプリント資料、器具・機械などの教材は
効果的に活用されている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問7 質問や発言への対応が適切で、きちんと回答される
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問8 一回の授業の分量は適切で長さも適切である
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問9 授業の目的は達成された（達成されそうである）
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

<学習態度について>

問10 授業に対する自分自身の姿勢は
1 真剣に授業を受けている
2 だいたい真剣に授業を受けている
3 あまり真剣に授業を受けていない
4 まったく真剣に授業を受けていない

問11 授業を聴くための予習・復習などに対する自分自身の姿勢は
1 真剣に取り組んでいる
2 だいたい真剣に取り組んでいる
3 あまり真剣に取り組んでいない
4 まったく真剣に取り組んでいない

問12 授業に対するグループ学習の姿勢は
1 真剣に授業を受けている
2 だいたい真剣に授業を受けている
3 あまり真剣に授業を受けていない
4 まったく真剣に授業を受けていない

問13 授業に集中していない学生（私語・マンガ・携帯電話・
居眠り等）に対して適切な指導がなされ、
授業が成立している（順調に進行している）
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

<実験・ジアイについて>

問14 実験課題やそれに相当するレポート等は、授業内容
から見て適切であった
（授業の理解など、授業内容全般のために
それらが、今までの実験・レポート等で判断
してください）
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問15 実験課題の取扱説明書・解説、授業時間の運営は適切でありましたか
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問16 授業時間はシラバスの授業計画どおりに実施された
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。
みなさんの回答は、授業改善に生かしていきます。
これからも、学生と教員、双方の努力によって、
いっそう良い授業をつくっていきましょう。

阿南高専　授業評価アンケート（記述式）

このアンケートは、授業の改善を目的としています。授業についての意見を次の要領で記してください。

□ **[とくに良かったところ] [とくに改善してほしいところ] について、それぞれ２点以内を具体的に記入**

×（不適当な記入例）「授業を自分だけでやっている。」
○（適当な記入例）　「私語・マンガなどへの注意がなく、学生への質問もあまりない。」
×（不適当な記入例）「自習課題（宿題・レポート等）がよくわからない。」
○（適当な記入例）　「自習課題（宿題・レポート等）への指導や評価がなく、出すだけになっている。」

コード	授業名	教員名	クラス	記入日
		教員		月　　日

[あなたの授業への取り組み]＊それぞれもっともあてはまるものを○で囲んでください。

受講の態度は	真剣に取り組んでいる	だいたい真剣に取り組んでいる	あまり真剣に取り組んでいない	まったく真剣に取り組んでいない
予習・復習などの理解の努力は	真剣に取り組んでいる	だいたい真剣に取り組んでいる	あまり真剣に取り組んでいない	まったく真剣に取り組んでいない

[とくに良かったところ]

○

○

[とくに改善してほしいところ]

○

○

（出典　授業評価アンケート）

資料３－２－①―３

特別公開授業参観の通知

特別公開授業週間について(通知)

差出人：**教務係長**(学生課) 2010/6/21(月) 12:10
宛先　：宮本 陽生, 林田 栄治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, (尾崎 眞行), 川崎 敏和
(71人)

平成２２年６月２１日

教　員　各　位

点検・評価委員会

特別公開授業週間について（通知）

今年度１回目の特別公開授業週間を次のとおり設けましたので、趣旨に則り、参観記録について作成いただきますよう、お知らせします。

目的　　：教員相互の授業参観・意見交換により、授業改善に資する。
期日　　：６月２８日（月）～７月９日(金)　　(参観記録〆切　参観後１週間以内)
対象　　：全授業（授業教員への事前連絡は必要ありません）
実施方法：一つの授業参観当り、50分以上の参観を推奨いたします。
参観記録：サイボウズのトップページ（左側リンク集中段）「授業改善システム」
(http://kyomu01.anan-nct.ac.jp/kyomu/) から，教務出席管理システムと同じアカウント・パスワードにてアクセスし、参観記録を入力してください。

授業参観（記録）について
①優れた点を、自分の授業にどのように反映させるかという点から参観してください。
②自身の授業成果などをもとに、授業改善にむけて具体的な助言をしてください。
③特別公開授業週間を含む、本校の授業改善活動についてのアンケートについてもご協力願います。

その他
①この特別公開授業週間以外においても、すべての授業は公開を原則としており、授業教員への事前連絡は必要ありません。

（出典　特別公開授業週間周知メール）

資料３－２－①―４

平成 20 年度 PDCA レベル認定基準

PDCA活動の対象授業教員を、次のようにレベル認定する。

レベルⅠ：	授業改善要請書をFD専門委員会から教科担当教員に送付する.
レベルⅡ：	授業改善PDCA報告書を教科担当教員に提出してもらう(面談なし).
レベルⅢ：	授業改善PDCAをFD専門員と伴に面談の上で立案し，学科主任と学科による支援等を検討する.

レベル認定の基準は、下のa1～fそれぞれの該当状況による。

レベルⅠ：	① a3に該当する場合
	② FD専門委員会が、同レベルに相当すると判断する場合（b～fを参考に）
レベルⅡ：	① a2に該当する場合
	② 2年以上連続してレベルⅠの場合
	③ FD専門委員会が、同レベルに相当すると判断する場合（b～fを参考に）
レベルⅢ：	① a1に該当する場合
	② 2年以上連続してレベルⅡの場合
	③ FD専門委員会が、同レベルに相当すると判断する場合（b～fを参考に）

a1	：学生による授業評価アンケート（マークカード式）評価値が、50未満
a2	：学生による授業評価アンケート（マークカード式）評価値が、50以上60未満
a3	：学生による授業評価アンケート（マークカード式）評価値が、60以上70未満
b	：学生による授業評価アンケート（記述式）に、要注意コメントを確認（授業技術に関するものはクラス１割の回答数を目安）
c	：シラバス記載の到達目標修得点検アンケート評価AとBの合計が、５割に満たない場合
c2	：シラバス記載の到達目標修得点検アンケート評価の未提出
d	：シラバス実施確認表の未提出
e	：特別授業公開週間における授業参観記録に、要注意コメントを確認
f	：保護者による授業参観アンケートに、要注意コメントを確認

（**出 典** 平成 20 年度 PDCA 活動周知書類）

資料３－２－①―５

平成 20 年度　教育改善 PDCA レポート

平成２０年度　教育改善ＰＤＣＡレポート

所属	科	教員氏名	

主任氏名	

１　データ分析

データ分析（改善箇所を簡潔に）	対象データ（該当を○で囲む）
①	マーク式　記述式　教員意見　保護者意見 その他（　　）
②	マーク式　記述式　教員意見 その他（　　）
③	マーク式　記述式　教員意見 その他（　　）

２　教育改善プランと科による支援プラン

教育改善プラン（１のデータ分析と対応させ、具体的に）	科による支援プラン
①	
②	
③	

３　教育改善目標と検証（教育改善目標は、可能な限り、数値・記述意見の数など検証ができるものを）

教育改善目標（２の教育改善プランと対応させ、具体的に）と検証データ	擬(FD嘱慂餬炻鵜
①	
②	
③	

４　教育改善ＰＤＣＡ報告

＊＊３の検証を受けての結論――改善確認のため、対象から除外 ――改善確認不十分のため、対象継続

（出典　平成 20 年度 PDCA 活動周知書類）

資料３－２－①―６

阿南高専教育業績ポイント

H22.11.10

分類	項目	ポイント	備考
役職	副校長	40	
	教務主事	40	・主事が副校長を兼任する場合は，各主事のポイントに10ポイントを加算する
	学生主事，寮務主事	35	
	1・2・3年担任	24	
	4，5年，専攻科1年担任，専攻科2年担任	15	
	企業実習担当	5	
	進路指導担当	5	
	副担任	5	
	学年主任	5	1～3年のみ
	専攻科長・センター長・各科主任	35	
	副主事・副センター長	25	主事管轄委員会におけるポイント（委員）は除く
	主事補	15	主事管轄委員会におけるポイント（委員）は除く
	図書館長	30	
	専攻補佐	10	
	室長	25	
	副室長	15	
	委員長	20	主事管轄委員会におけるポイント（委員長）は除く
	専門委員会委員長	15	
	委員	5	
	ロボコン・プロコン・デザコン主担当	20	
	ロボコン・プロコン・デザコン副担当	10	
	部活動の地方，全国大会の実行委員 主担当	4	
	部活動の地方，全国大会の実行委員 副担当	2	
	外部資金による事業担当 主担当	20	対象事業：ものづくりエリート技術者養成，LED技術者養成
	外部資金による事業担当 副担当	10	対象事業：ものづくりエリート技術者養成，LED技術者養成
	上限１００ポイント		
部活動	主顧問（指導・対外連絡等の中心）	2	
	副顧問	1	主顧問の指示により，実際に応分の業務をしている場合のみ
	土・日・祝日の指導等	1	各種競技団体役員等の活動を含む
	引率　日数	1	土・日・祝日の指導と重複しない
	引率　宿泊数	1	宿泊を伴う引率の場合は，その日数を上覧に，宿泊数を本欄に記入
	上限５０ポイント		
授業	授業1単位	2	LHRも含む（特別研究・卒研除く），開講している授業に限る，授業を複数で担当している場合は担当時間数に応じて按分する
	補習10時間毎	1	上限1ポイント／任意書式により実施時間と内容・対象を明示
	卒研担当	1	学生1人あたり　学生数による加算有り（H16同様）　コーオプ教育卒研担当加算１０
	特別研究担当	2	学生1人あたり　学生数による加算有り（1年－1名5万，2年－10万）
入試	入試業務に係る役職：問題作成委員	3	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試業務に係る役職：問題チェック委員	3	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試業務に係る役職：採点委員	1	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試業務に係る役職：面接試験委員	1	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試広報活動（中学校入試説明会）	1	教務主事，広報情報室長の役職者を除く。　１回につき
その他	在外研究員，高専間交流等から帰任した場合	最終年の実績点数	育児休業，長期休職を含む
	大型予算申請（学校代表）に係る書類作成 主担当	4	
	大型予算申請（学校代表）に係る書類作成 副担当	2	
	資格管理者（学校認定書類作成）	3	電気主任技術者免状，電波法に基づく無線従事者免許，測量士補資格
FD	研修会　受講	2	1時間以上で1日間につき／上限は10ポイント（開催日・開催場所・主催者名を明記することとする）
	研修会　学内講師	5	
	研修会　学外講師	10	（注）FDの「研修会学外講師」は他機関の研修会に招待された場合を指す。研究活動ポイントの6（5）は学協会での講師であり区別している。
	授業参観	1	上限3ポイント／特別授業公開週間は除く（報告書添付が必要）

（出典　阿南高専教育業績ポイントシステム周知書類）

資料３－２－①―７

平成 22 年度研究ポイント報告要項

平成２２年度研究活動ポイント報告要項（平成22年１月１日～平成22年１２月３１日）

（学協会の役員等については平成22年４月１日から平成23年３月３１日まで）

後述の研究業績分類により、以下の表記法にしたがって提示し、記載した研究活動の証拠書類（コピーで可）を添えて提出してください。単行本等でページ数の多い場合には最初と最後のページのコピーでよいこととします。

表記法

1．オリジナル論文

著者名（全員、学生にはアンダーライン）「論文題目」、発表雑誌等の名称、号巻、発表年、論文の最初の頁と最後の頁。（例） 高専太郎、高専花子「風力発電の効率向上に関係するパラメータについて」、○○学会誌、1巻1号、（2005）100頁から104頁

2．解説・総説

オリジナル論文に準じる

3．著書（単行本）

（1）単著、

著者名「本の名称」発行所、発表年、執筆総頁数

（2）共著

著者名（全員）「本の名称」、発行所、（発行年）、分担執筆の題目、分担執筆の頁（○○頁から○○頁）

4．研究成果報告書

著者名（全員、学生にはアンダーライン）論文題目、論文の最初と最後の頁、研究支援を受けた財団等の名称、（発表年）

5．特許

発明者氏名（全員）、「特許の題目」、特許取得年月日（もしくは申請中と記す）

6．講演・口頭発表（著作物以外の研究活動）

（1）招待講演

発表者氏名（全員）、「講演題目」、会議等の名称（省略表記をしないこと）、主催団体名、発表年月日、発表場所。

（2）国際会議での発表

発表の形式（口頭発表かポスター発表の区別）、発表者氏名（全員、学生にはアンダーライン）、「講演題目」、会議等の名称（省略表記をしないこと）、主催団体名、発表年月日、発表場所。

（3）学協会での発表

発表の形式（口頭発表かポスター発表の区別）、発表者氏名（全員、学生にはアンダーライン）、「講演題目」、会議等の名称（省略表記をしないこと）、主催団体名、発表年月日、発表場所。

（4）研究成果報告会での発表

発表の形式（口頭発表かポスター発表の区別）、発表者氏名（全員、学生にはアンダーライン）、「講演題目」、会議等の名称（省略表記をしないこと）、主催団体名、発表年月日、発表場所。

（5）セミナーの講師

氏名（全員）、「講演題目」、セミナーのタイトル、セミナー主催団体、講演年月日、講演場所

（6）パネリスト

パネラーを務めた会議の名称、主催団体、、会議の開催場所、開催年月日

（7）学協会活動

役職名、役職を依頼している団体名、任期（開始と終了の年月日）

平成２２年度の研究活動ポイント集計

（1）平成22年1月1日から12月31日の間に発表した研究業績を対象とする。ただし、学協会の役員等については、平成22年4月1日から平成23年3月31日までを対象とする。
（2）著者、発表者が複数の場合には配当されている点数を人数に応じて按分する。この際学生は除外する。
（3）複数の著者による論文であるが、寄与率が異なる場合には、申請者が該当論文等の提示後に各著者の寄与率を示して説明すること。なお、複数の著者による論文等においては、最大の寄与率は70％とする。
（4）育児休業，休職等により当該年度の研究活動がない場合は，直近の年度の研究活動ポイントを当該年度の研究業績ポイントとする。

平成22年度の研究活動ポイント集計

(1)平成22年1月1日から12月31日の間に発表した研究業績を対象とする。ただし、学協会の役員等については、平成22年4月1日から平成23年3月31日までを対象とする。
(2)著者、発表者が複数の場合には配当されている点数を人数に応じて按分する。この際学生は除外する。
(3)複数の著者による論文であるが、寄与率が異なる場合には、申請者が該当論文等の提示後に各著者の寄与率を示して説明すること。なお、複数の著者による論文等においては、最大の寄与率は70%とする。
(4)育児休業，休職等により当該年度の研究活動がない場合は，直近の年度の研究活動ポイントを当該年度の研究業績ポイントとする。

研 究 活 動 ポ イ ン ト 集 計 表

1. オリジナル論文	ポイント	ポイントの計算 （寄与率×件数　等による算出の明細）
(1)学術論文(国際誌)	6点	
(2)国内学協会誌	5点	
(3)高専教育	4点	
(4)国内学協会誌のレター・速報等(論文外)	2点	
(5)大学、高専、会社の研究報告紀要	1点	

(世界的に評価を受けた或いはインパクトファクターが高い論文については，校長がポイントの査定を行い加点しますで，インパクトファクター等の証拠書類を添付すること。)

2. 解説・総説		
(1)外国誌		
①50頁以上	5点	
②20頁以上50頁以下	4点	
③20頁以下5頁以上	3点	
④5頁以下	2点	
(2)国内誌		
①20頁以上	3点	
②20頁以下10頁以上	2点	
③10頁以下	1点	

3. 著書		
単著もしくは共著の場合の分担執筆頁が		
①200頁以上	6点	
②200頁以下100頁以上	5点	
③100頁以下50頁以上	4点	
④50頁以下20頁以上	3点	
⑤20頁以下10頁以上	2点	
⑥10頁以下	1点	
(英語での執筆の場合には各1点を加算)		

4. 研究成果報告書		
①5頁以上	2点	
②2頁以上5頁以下	1点	

5. 特許		
①申請中	1点	
②権利取得	4点	

6. 講演・口頭発表(著作物以外の研究活動)		
(1)招待講演(プログラムに招待講演と明記されているものに限る)		
①国際会議(国外主催)	4点/件	
②国際会議(国内主催)	3点/件	
③国内学協会学術講演会	2点/件	
④国内学協会支部大会等	1点/件	
⑤国内学協会専門部会等	1点/件	
⑥国内学協会支部の専門部会等	1点/件	
(2)国際会議での発表		
①口頭発表(full paper プロシーディング査読有)	3点/件	
②ポスター発表(full paper プロシーディング査読有)	2点/件	
③口頭・ポスター発表(full paper プロシーディング査読無)	1点/件	
(3)学協会での発表		
①口頭発表	1点/件	
②ポスター発表	1点/件	
(4)研究成果報告会(発表会)での発表		
①口頭発表	1点/件	

(3)学協会での発表		
①口頭発表	1点/件	
②ポスター発表	1点/件	

(4)研究成果報告会(発表会)での発表		
①口頭発表	1点/件	
②ポスターまたはパネル展示	1点/件	

(5)セミナーの講師		
①学協会主催	3点/件	
②学協会の支部や専門部会等主催	2点/件	
③業者等の企画セミナー	1点/件	
④国内学協会支部の専門部会等主催	1点/件	

(6)パネリスト	1点/件	

(7)学協会活動		
①学協会支部長	4点/件	
②学協会専門部会長	3点/件	
③学協会本部役員	2点/件	
④学協会支部役員	1点/件	
⑤国際会議組織委員	1点/件	
⑥国内学会組織委員(全国規模)	1点/件	

ポイント合計

	1.論文	2.総説・解説	3.著書	4.報告書	5.特許	6-(1)招待講演	6-(2)国際会議
ポイント							
	6-(3)学協会発表	6-(4)成果報告会	6-(5)セミナー講師	6-(6)パネリスト	6-(7)学協会活動		合　計
ポイント							

所属・職

氏名

提出年月日

（出典　平成22年度研究ポイントシステム要項）

資料３－２－①―８

平成22年度教育研究活動に関する目標･計画の達成度評価書の記載要領

昨年度末又は今年度当初に提出いただきました「平成２２年度教育研究活動に関する目標・計画書」の標題に「の達成度評価」（赤字部分）を追加していただき，「計画の質・レベルに関する自己評価と評点を下した理由，評点」及び「計画の達成度に関する自己評価と評価を下した理由，評点」を記入してください。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～記～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

平成２２年度教育研究活動に関する目標・計画の達成度評価書

学科名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	特に重点的に取り組むこと	平成２１年度の計画（達成度）をふまえた改善点等	※校長記入欄（未記入のこと）
1			
2			
3			

以下に記入した取組みについて，特に今年度重点を置く事項を上欄の表内に再掲載（３件以上）願います。

※校長記入欄には，記入しないでください。

１．　日常の教育活動に関する取組

１）授業内容ならびに授業方法に関する改善・工夫

目標・計画

①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

	評　点
○計画の質・レベルに関する自己評価と評点を下した理由	
○計画の達成度に関する自己評価と評価を下した理由	

以下「略」

（出典　平成 22 年度教育研究活動に関する目標･計画の達成度評価書の記載要領メール通知）

資料３－２－①―９

平成22年度教育研究活動に関する目標･計画書の記載要領

平成２２年度教育研究活動に関する目標・計画書を，別紙の「記載すべき項目」を参考に「本校の中期計画」を踏まえ，作成してください。

なお，年度末には，この目標・計画の達成度について自己評価をしていただきます。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～記～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

平成２２年度教育研究活動に関する目標・計画書

学科名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	特に重点的に取り組むこと	平成２１年度の計画（達成度）をふまえた改善点等	※校長記入欄（未記入のこと）
1			
2			
3			

以下に記入した取組みについて､特に今年度重点を置く事項を上欄の表内に再掲載(３件以上)願います。

※校長記入欄には、記入しないでください。

１．　日常の教育活動に関する取組

１）授業内容ならびに授業方法に関する改善・工夫

目標・計画

①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成２１年度からの改善点

①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

※次の欄は年度末頃に達成度について自己評価を記載していただきますので、空欄のままとしてください。

	評　点
○計画の質・レベルに関する自己評価と評点を下した理由	
○計画の達成度に関する自己評価と評価を下した理由	

（以下同様）

○様式：Ａ４版用紙を用いて、各項目毎に簡潔・明瞭かつ具体的に記述すること。
　　該当しない項目については記載不要。
○内容：記載する項目については、「平成２１年度からの改善点」を必ず記載すること。
○本校の中期計画は、サイボーズの「ファイル管理」の「フォルダ」に掲載しています。

別　紙

平成22年度教育研究活動に関する目標･計画に記載すべき項目

１　日常の教育活動に関する取組み（全教員）
　１）授業内容ならびに授業方法に関する改善・工夫
　２）学生の学力増進に関する取組み
　３）人間性向上に関する取組み
　４）ＦＤに関する取組み
　５）学生の研究指導に関する取組み（該当教員のみ）
　６）国際化教育に関する取組み
２　学生指導重点事項に関する取組み
　１）身だしなみ指導に関する取組み
　２）授業態度改善に関する取組み
　３）校内美化、教室等の建物施設の清掃・美化に関する取組み
３　学生相談・学生支援に関する取組み（該当事項すべて）
　１）クラブ・同好会活動に対する指導・支援の取組み
　２）学寮における学生指導に関する取組み
　３）進路指導に関する取組み
　４）その他の学生相談に関する取組み
４　校内役職に関する取組み（関係するものすべて）
　１）学級担任、副学級担任、
　２）各種委員会委員長、委員（３主事、専攻科長、センター長等所掌の委員会を含む）
　３）その他の役職該当事項
５　地域連携活動と研究活動
　１）阿南市との連携に関する取組み
　２）その他の地域との連携・交流に関する取組み
　３）研究活動に関する取組み
　４）外部資金獲得に関する取組み
　５）中学校との接続に関する取組み
　６）その他の取組み
６　上記１～５以外の個性化、活性化ならびに教育研究の高度化に向けた今年度の
　目標・計画（全教員必須）

※　今年度、重点を置く事項について、「ゴシック」で記載すること。

（出典　平成 22 年度教育研究活動に関する目標・計画の記載要領メール通知）

資料３－２－①―10

校長との面談

校長との個人面談について(通知)

差出人：校長(管理部門) 2009/10/20(火) 16:38
宛先　：宮本 陽生, 林田 栄治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, (尾崎 眞
(72人)

平成２１年１０月２０日

教員各位

校長

校長との個人懇談について

今年度の個人面談を以下のような要領で始めますので、本務ご多忙のところ恐縮ですが、宜しくお願いします。いろいろな事情があって大変遅くなりましたことをお詫びいたします。
日程調整には，昨年度と同様にサイボウズのスケジュール機能を活用していただきます。
下記のとおり，各科別に一定の期間（１週間程度）を設けて，各先生方が授業等のない時間帯を校長のスケジュールに直接予約（例：懇談予約（小松）と入力）していただき，日時を決定する方法で行います。前（あるいは後ろ）の方と１０分の間隔をとってください。予約を行った後は，必ず私からの回答（了解と入力）を確認してください。
なお，私の校務等の都合で，急にキャンセルとなる場合があることを予めご了解ください。また、出張、休暇等で指定の期間が不都合な場合 には前後の週でも結構です。

記

１．懇談時間　　１人２０分間
（３日前までに予約をお願いします。なお、１１月３０日～１２月２日希望の方は１１月２０日までに入力してもらった方が確実です。）

２．懇談場所　　校長室

３．各科別懇談予約期間
一般教科
Ｈ２１．１０．２６（月）～１１．６（金）
機械工学科
Ｈ２１．１１．９（月）～１１．１７（火）
電気電子工学科
Ｈ２１．１１．１８（水）～１１．２０（金）、
１１．３０（月）～１２．４（金）
制御情報工学科
Ｈ２１．１２．７（月）～１２．１５（火）
建設ｼｽﾃﾑ工学科
Ｈ２１．１２．１６（月）～２４（木）

追記：補佐会議のメンバーの方は特に希望でなければ結構です。

(写し：総務課長、総務広報係長)

（出典　校長との個人懇談周知メール）

資料３－２－①―11

校内役職者アンケート　図書館長の例

平成２１年度　校内役職者アンケート

・対象者（１役職）につき、１枚提出してください。
・ご意見は、できるだけ具体的に書いてください。
・必ず、本校運営をより良くするための建設的なご意見をお書きください。
・主任については、所属の主任についてのみご回答ください。
・学科名及び氏名は必ず記入してください。

学科名＿＿＿＿
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿

対象者（○印を付けてください。主任については所属科の主任だけです。）
校　長　副校長　教務主事　学生主事　寮務主事　専攻科長　一般教科主任
機械工学科主任　電気電子工学科主任　制御情報工学科主任　建設ｼｽﾃﾑ工学科主任
地域連携・ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ長　広報情報室長　（図書館長）　キャリア支援室長　国際交流室長
点検・評価委員会委員長

１．今年度の所管業務において本校運営に貢献し、今後も継続してほしいこと（※要望の度合い）

① 文献検索は，教員のみならず学生の研究遂行にとても役立ちます。今後も継続していただきたいと思います。さらに利用講習会も頻繁に行っていただければありがたいです。（１）

２．来年度に向けて少し修正した方が良いと思われること（※要望の度合い）

① 借りた図書の返却は当たり前の事ですし期限までに必ず返却すべきです。しかしながら「未返却学生は表彰を・・」などの放送は，大多数の返却遅延であっても表彰の対象でない学生にとって無意味であり，聞いていて聞き苦しいです。ましてや就職での来客者にも聞こえております。もう少し穏やかな放送内容に改めて欲しいと思います。（１）

３．来年度、新たに実施したら良いと思われること（※要望の度合い）

① シラバスの参考書に図書館蔵書を指定するように良く言われますが，教育上必要な書籍を図書館蔵書かどうかを考えなければならないのは異様だと思います。寄贈も異様です。シラバスに記載する際に，たとえ次年度でも図書館側で購入するようなよう方法はできないものでしょうか。ご検討をお願いします。（２）

※「要望の度合い」を文末にカッコ書きで、次の１～３の数字を付けてください。
１：是非お願いしたい　２：できればお願いしたい　３：他に支障がなければお願いしたい

（出典　**校内役職者アンケート**）

（分析結果とその根拠理由）

点検･評価委員会及び校長による教育活動に関する定期的な評価システムを構築し，評価結果を教員組織の見直しを含む教育活動の改善に接続するよう取り組んでいる。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用･昇格は，阿南工業高等専門学校教員選考規則及び人事委員会規則により，公募を原則として実施している（**資料３－２－②－１，２**）。平成 22 年度は、これら規則に基づき一般教科・物理教員、機械工学科教員、制御情報工学科教員、および建設システム工学科教員の公募を行い、一般教科２名、機械工学科 1 名、建設システム工学科１名、および制御情報工学科１名を採用した（**資料３－２－②－３**）。さらに規則に基づき一般教科２名、機械工学科１名、制御情報工学科１名、および建設システム工学科１名の昇任人事があった。

非常勤講師の採用は，一般教科、各専門学科の本校の阿南工業高等専門学校における非常勤講師任用基準（**資料３－２－②－４**）により教務委員会、運営委員会で審議して採用している（**資料３－２－②－５**）。

資料３－２－②―１

阿南工業高等専門学校教員選考規則

（平成 14 年３月４日）
（規則第１４号）

第１章総則
（趣旨）
第１条　阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員選考は、高等専門学校設置基準（昭和 36 年８月 30 日文部省令第 23 号。以下「設置基準」という。）によるもののほか、この規則に定めるところによる。
第２章　選考の手続
（選考の開始）
第２条　教員の選考は、校長が必要と認めた場合に行う。
（選考対象教員の職務等）
第３条　校長は、選考の対象となる教員（以下「選考対象教員」という。）の担当授業科目及び教育活動等の職務を決定する。
２　前項の決定に当たり、校長は、教員選考を行う学科又は一般教科（以下「選考学科」という。）の主任等に意見を聴く。
（公募等）
第４条　選考対象教員の募集は、原則として公募によるものとし、その手続は、選考学科の主任が行う。
（人事委員会の設置）
第５条　校長は、阿南工業高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）を設置し、適任者の選出を行う。
２　委員会に関し必要な事項は、校長が別に定める。
（選考の決定等）
第６条　校長は、委員会で選出した適任者について、選考の決定を行い、運営委員会に報告する。
第３章　選考の基準
（資格）
第７条　本校の教員となることのできる者は、設置基準第 11 条から第 14 条までに規定する資格を有し、かつ、校長が別に定める資格基準を満たす者とする。
（選考）
第８条　教員選考は、前条に定める者について、教育業績、研究業績及び特殊な能力に基づく業績並びに学界及び社会における活動等を総合的に審査して行う。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料３－２－②―２

阿南工業高等専門学校人事委員会規則

（平成 16 年４月１日）
（規則第１０号）

（趣旨）
第１条　この規則は、阿南工業高等専門学校教員選考規則（以下「選考規則」という。）第５条第２項の規定に基づき、阿南工業高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。
（組織）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事、学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 教員選考を行う学科又は一般教科（以下「選考学科」という。）の主任
(6) 教務主事、学生主事、寮務主事及び専攻科長が所属しない学科又は一般教科の主任（前号に掲げる者を除く。）
（委員長）
第３条　委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
（選考）
第４条　委員会は、原則として第一次選考及び第二次選考を行い、候補者のうちから適任者を選出する。
２　委員会は、候補者が多数の場合は、第一次選考の前に予備選考を行うことができるものとする。
３　第１項の規定にかかわらず、委員会は、適任者が得られない場合は、適任者を選出しないことができる。
（予備選考）
第５条　委員会は、予備選考において、次の各号に掲げる事項について審査を行い、第一次選考の候補者を選出する。
(1) 高等専門学校設置基準（昭和 36 年文部省令第 23 号）第 11 条から第 14 条に掲げる資格
(2) 校長が別に定める資格基準
(3) 公募の資格条件
２　予備選考は、第２条第１項第１号及び第５号に規定する委員で行う。
３　委員会は、必要に応じて選考学科の教員に意見を求めることができる。
（第一次選考）
第６条　委員会は、第一次選考において、次の各号に掲げる事項について審査等を行い、候補者の中から若干名を選出する。
(1) 高等専門学校設置基準（昭和 36 年文部省令第 23 号）第 11 条から第 14 条に掲げる資格
(2) 校長が別に定める資格基準
(3) 公募の資格条件
(4) 校長が別に定める自己申告書の評価
(5) 選考規則第３条に定める選考の対象となる教員の職務等への適格性の審査

(6) 第二次選考の実施方法の決定
　２ 第一次選考は、第２条第１項第１号から第５号までに規定する委員で行う。ただし、委員長が必要と認める場合は、第２条第１項第６号に規定する委員を加えることができる。
　３ 第１項本文及び第６号の規定にかかわらず、第一次選考において適任者が得られた場合は、第二次選考は行わない。この場合、委員会は速やかに選考結果を校長に報告するものとする。
（第二次選考）
第７条　委員会は、第二次選考において、第一次選考で選出された候補者のうちから、前条第１項第６号で決定した方法により適任者の選出を行い、校長に報告するものとする。
（外部有識者の意見）
第８条　委員会は、教授の選考を行う場合は、原則として、校長が外部有識者から求めた意見を聴くものとする。
（委員以外の者の出席）
第９条　委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させることができる。
（部会）
第 10 条　委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。
　２ 部会に関し必要な事項は、別に定める。
（事務処理）
第 11 条　委員会の事務は、総務課人事係において処理する。
（その他）
第 12 条　この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、校長が別に定める。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料３－２－②―３

選考経過（平成 23 年度採用・昇任）

採用について（平成23年度採用）		
（1）機械工学科		
	4月	校長，教務主事，学科主任において，教員公募について打ち合わせ
	4月7日	教員の公募文書発送
	5月28日	公募締切
	6月9日	人事委員会（第一次選考）
		応募者7名の中から2名を採用候補者として選出
	7月6日	採用候補者の面接（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令
（2）建設システム工学科		
	7月	校長，教務主事，学科主任において，教員公募について打ち合わせ
	7月8日	教員の公募文書発送
	9月30日	公募締切
	10月12日	人事委員会（第一次選考）
		応募者8名の中から3名を採用候補者として選出
	11月24日	採用候補者の面接（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令
（3）一般教科・物理		
	8月	校長，教務主事，学科主任において，教員公募について打ち合わせ
	8月9日	教員の公募文書発送
	10月29日	公募締切
	11月10日	人事委員会（第一次選考）
		応募者11名の中から3名を採用候補者として選出
	11月22日	採用候補者の面接（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令

（４）制御情報工学科		
	11月	校長，教務主事，学科主任において，教員公募について打ち合わせ
	11月29日	教員の公募文書発送
	1月31日	公募締切
	2月10日	人事委員会（第一次選考）
		応募者7名の中から2名を採用候補者として選出
	3月1日	採用候補者の面接（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令
（５）一般教科・物理		
	12月	校長，教務主事，学科主任において，教員公募について打ち合わせ
	12月6日	教員の公募文書発送
	1月20日	公募締切
	1月	校長，副校長，学科主任で予備選考を行い，25名の応募者から11名を選考
	2月7日	人事委員会（第一次選考）
		応募者11名の中から4名を採用候補者として選出（内1名辞退）
	2月28日	採用候補者の面接（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令
昇任について（平成23年度昇任）		
（１）一般教科・教授昇任人事		
	1月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ
	2月7日	人事委員会（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
	3月	昇任適任者との面談
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令
（２）機械工学科・教授昇任人事		
	1月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ
	2月10日	人事委員会（第二次選考）
		人事委員会において適任者の選出
		校長が選考の決定
	3月	昇任適任者との面談
		運営委員会報告
	4月1日	採用発令
（３）制御情報工学科・准教授昇任人事		
	2月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ

（2）機械工学科・教授昇任人事		
1月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ	
2月10日	人事委員会（第二次選考）	
	人事委員会において適任者の選出	
	校長が選考の決定	
3月	昇任適任者との面談	
	運営委員会報告	
4月1日	採用発令	
（3）制御情報工学科・准教授昇任人事		
2月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ	
3月1日	人事委員会（第二次選考）	
	人事委員会において適任者の選出	
	校長が選考の決定	
3月	昇任適任者との面談	
	運営委員会報告	
4月1日	採用発令	
（4）建設システム工学科・准教授昇任人事		
2月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ	
3月1日	人事委員会（第二次選考）	
	人事委員会において適任者の選出	
	校長が選考の決定	
3月	昇任適任者との面談	
	運営委員会報告	
4月1日	採用発令	
（5）一般教科・講師昇任人事		
2月	校長，教務主事，学科主任において，教員昇任人事について打ち合わせ	
3月1日	人事委員会（第二次選考）	
	人事委員会において適任者の選出	
	校長が選考の決定	
3月	昇任適任者との面談	
	運営委員会報告	
4月1日	採用発令	

（出典　教員選考経過記録）

資料３－２－②―４

阿南工業高等専門学校における非常勤講師任用基準

平成１２年９月２０ 日
校長裁定
平成１６年１２月１７日改正

（非常勤講師の資格）
第１ 阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）の非常勤講師となる資格を有する者は，次の各号の一に該当する者で，教授上の能力があり，本校の教育方針を理解し，教育に熱意がある者とする。
一　修士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）以上の学位を有する者
二　学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者にあっては５年以上，準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者にあっては８年以上，学校，研究所，試験所，調査所等において教育若しくは研究又は工場その他の事業所において技術に関する業務に従事した者
三　特定の分野について，優れた知識及び経験を有する者
四　前各号に掲げる者と同等以上の能力があると校長が認めた者
（年齢による任用の制限）
第２ 非常勤講師として任用できる者は，第１に定める者のうち，６０歳に達した日以後における最初の３月３１日（以下「任用制限日」という。）までの者とする。ただし，特に校長が必要と認めた者については，この限りでない。
（選考）
第３ 選考は，原則として第一次選考及び第二次選考により行う。
２ 第一次選考は，学科又は一般教科の主任から推薦された任用候補者について，教務委員会において，第１に定める資格の審査を行う。
３ 第二次選考は，第一次選考で審査された者について，校長及び教務主事により，原則として面接を行う。
（決定）
第４ 非常勤講師の任用は，第３に定める選考結果に基づき，校長が決定する。
附則
（施行期日）
１ この基準は，平成１７年１月１日から施行する。
（経過措置）
２ この基準の施行日において任用されている者で，施行日の属する年度末において６０歳以上の者に係る第２の規定は，次の表のとおり読み替えて適用するものとする。

任　用　期　間	年　齢
平成16年10月1日～平成18年3月31日	70歳
平成18年4月1日～平成19年3月31日	65歳

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料３－２－②―５

教務委員会での非常勤講師任用審査

教務委員会議事要旨

１．日　時 平成２３年１月２８日（金）１６時１０分～１６時５０分
２．場　所 管理棟　会議室
３．議　題（１）平成２４年度専攻科学生募集要項（案）について（資料１）
（２）２０１１年度第３学年編入学試験(外国人学生対象)の志願状況について
（３）平成２３年度非常勤講師の任用について（資料２）
（４）新５年生保護者懇談会について（資料３）
（５）各科のＨＰの見直等について（資料４）
（６）本校の教育目標について（資料５）
（７）その他

４．議事概要　別紙のとおり
５．出席者

氏　名	出席状況	職　　名	備　考
岩佐　健司	○	教務主事	
當宮　辰美	○	専攻科長	
藤居　岳人	○	副教務主事	
福見　淳二	○	副教務主事	
長澤　智明	○	教務主事補	
吉田　岳人	○	教務主事補	
原野　智哉	×	教務主事補	
上原　信知	○	教務主事補	
加藤　研二	○	教務主事補	
錦織　浩文	×	一般教科主任	
西野　精一	×	機械工学科主任	
中野　好典	×	電気電子工学科主任	
田中　達治	×	制御情報工学科主任	
島田富美男	○	建設システム工学科主任	
杉野　彰一	×	学生課長	
多田　　孝	○	技術長	

※陪席者　澤邊学生課長補佐，教務係長，坂本教務主任，谷口教務主任

議事概要　（抜粋）

（３）平成２３年度非常勤講師の任用について（資料２）

委員長から，非常勤講師の任用基準について説明があった。資料をもとに，任用継続者，新規任用者に関する経歴等の説明があり，審議の結果，任用基準が満たされていることが確認され，提案のとおり了承された。

（出典　平成 23 年 1 月 28 日実施の教務委員会議事録　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

高等専門学校設置基準に則った採用･昇格基準を明確に定め，適切に運用している。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

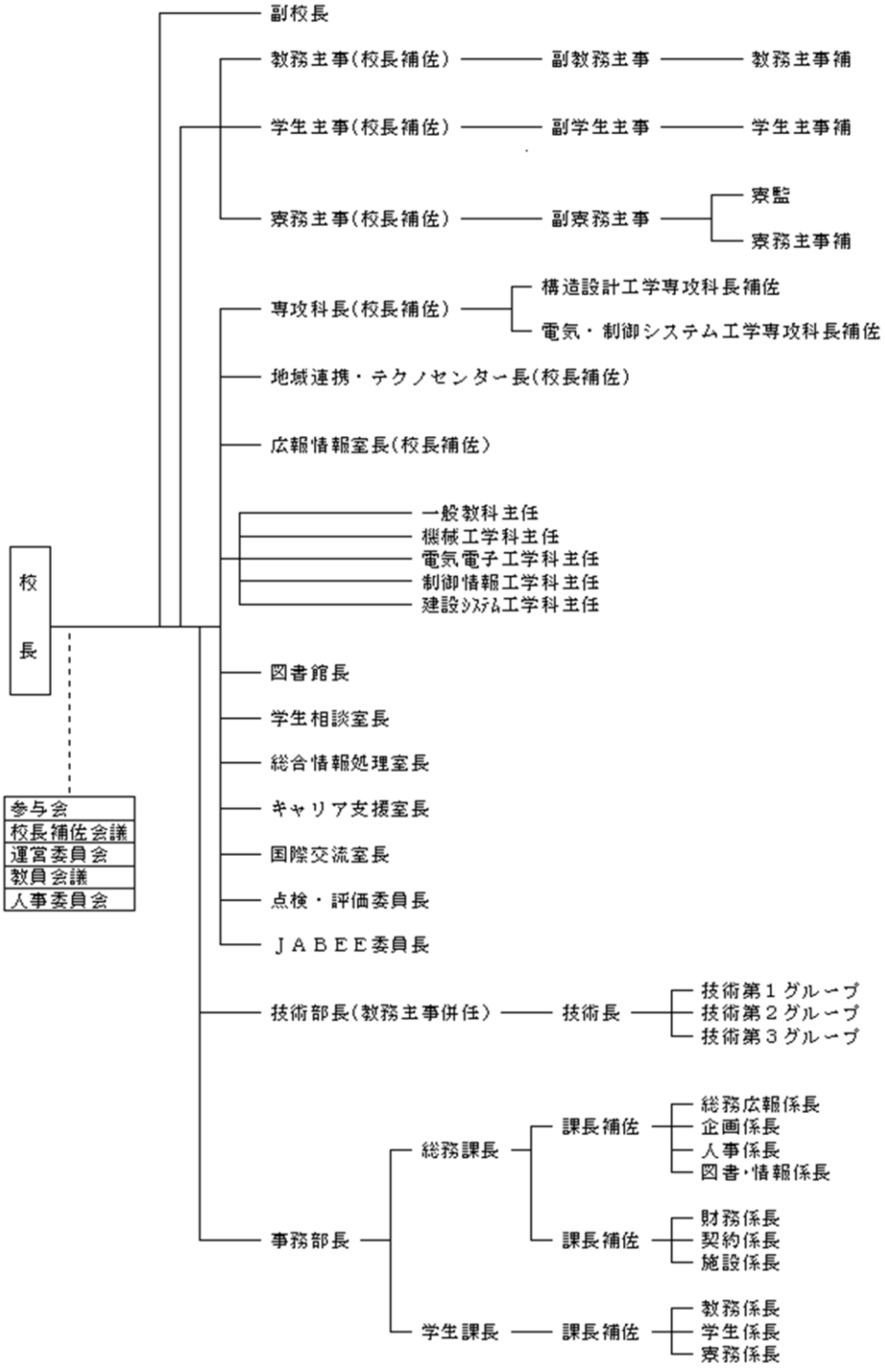
（観点に係る状況）

学生課事務職員として，本科の教務を担当する教務係に４名，学生の厚生補導を担当する学生係に４名，学生寮を担当する寮務係に２名、および課内全体を統括する学生課長、課長補佐各１名の計12名を配置している**（前述資料２－２－①－２）**。

技術室の技術職員として，技術部の業務を統括する技術長１名，ものづくり担当の第１グループ３名，電気・情報担当の第２グループ５名，地域連携担当の第３グループ３名の計12名を配置している**（資料３－３－①－１）**。技術職員によるものづくり教育支援を適切に行うため，各教員が必要とする支援を確認して技術職員の授業配置も行っている**（資料３－３－①－２）**。平成16年度より，技術職員を学生課所属から教務主事直属に変更し，教育連携専門委員会で教員との連携により，ものづくり教育支援を効果的に実施できる体制とした。さらに，平成20年11月１日より技術指導のさらなる充実の観点から，技術室を技術部に組織変更を行った。

資料２－２－①―２　（再掲）

学校運営組織図



（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料３－３－①－１

技術部および学生課職員

技術部職員

技術部長(教務主事兼)	岩佐　健司
技術長	多田　孝

技術第1グループリーダー	高岸　時夫
	森時　秀司
	小土手　秀一
技術第2グループリーダー	平田　均
	川端　明洋
	立石　清
	武藏　美緒
	東條　孝志
技術第3グループリーダー	木原　義文
	遠野　竜翁
	立石　学

学生課職員

学生課長	杉野　彰一

課長補佐	澤邊　正幸

教務係長	湯浅　剛
	坂本　恵子
	谷口　まどか
	神田　理江
学生係長	橋倉　雅彦
	宮崎　啓子
	青木　久美子
	呉羽　豊子
寮務係長	古田　克治
	山川　敦子

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料３－３－①－２

阿南工業高等専門学校技術部組織規則

（平成 20 年 11 月１日）
（規則第１１号）

第１章総則
（目的）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 12 条及び阿南工業高等専門学校学則第 11 条の規定に基づき、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）の技術部組織及び所掌業務の範囲を定めることを目的とする。
第２章　技術部組織
第２条　技術部に次のグループを置く。
(1) 技術第一グループ（ものづくり担当）
(2) 技術第二グループ（電気・情報担当）
(3) 技術第三グループ（地域連携担当）
（技術部長）
第３条　技術部に技術部長を置く。
２ 技術部長は、教務主事をもって充てる。
３ 技術部長は、校長の命を受け、所属職員を指揮監督し、技術部の業務を掌理する。
（技術長）
第４条　技術部に技術長を置く。
２ 技術長は、技術職員をもって充てる。
３ 技術長は、上司の命を受け、技術専門員、主任技術専門職員、技術専門職員及び技術部員の業務を統括し技術部の業務を処理する。
（技術専門員）
第５条　技術部に技術専門員を置くことができる。
２ 技術専門員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術専門員は、上司の命を受け、技術長を補佐するとともに、技術部の業務のうち、極めて高度な専門的事項に係る業務を主として処理する。
（主任技術専門職員）
第６条　技術部に主任技術専門職員を置く。
２ 主任技術専門職員は、技術職員をもって充てる。
３ 主任技術専門職員は、上司の命を受け、技術部の業務のうち、高度な専門的事項に係る業務を主として処理するとともに、グループリーダーとして、グループの業務を処理する。
（技術専門職員）
第７条　技術部に技術専門職員を置く。
２ 技術専門職員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術専門職員は、上司の命を受け、技術部の業務のうち、専門的事項に係る業務を主して処理する。
（技術部員）
第８条　技術部に技術部員を置く。
２ 技術部員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術部員は、上司の命を受け、技術部の業務に従事する。

（所掌業務）
第９条　技術部は、第２条に定めるグループごとに、次の業務を処理する。
(1) 学生の実験・実習及び卒業研究等の技術指導に関すること。
(2) 教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
(3) 教育研究用機械器具の整備に関すること。
(4) 実験実習工場及び地域連携・テクノセンターの技術的業務に関すること。
(5) 共同研究等の技術業務に関すること。
(6) 技術の継承及び保存に関すること。
(7) 技術職員の専門研修に関すること。
(8) その他技術部の業務に関すること。
（雑則）
第 10 条　の規則に定めるもののほか、この規則の実施に必要な事項は、別に定める。
附則
この規則は、平成 20 年 11 月１日から施行する。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

ものづくり教育を支援するため，事務職員を適切に配置し，技術職員を専門科目及び一般科目の実験授業に配置し，５ヵ年一貫教育の有効性を高めている。

事務職員，技術職員の配置が適切であるように，継続的に組織を見直している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教員組織を活性化させる独自制度（教育改善 PDCA レポート，教育業績ポイントシステム，校長による教員年度計画管理）を備え，教育活動を定期的に評価し，教育組織の見直しに活用するシステムを確立・運用している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準３の自己評価の概要

一般科目及び専門教科教員を，専門分野と授業科目の適合性に配慮して配置している。それら教員組織を活性化させるため，企業，大学等の教育機関での勤務経験や博士号を有する教員を含め，年齢構成を考慮して採用している。職員については，教育の効果的支援に留意して配置している。

教員組織を活性化させる独自制度（教育改善 PDCA レポート，教育業績ポイントシステム，校長による教員年度計画管理）を備え，教育活動を定期的に評価し，教育組織の見直しに活用するシステムを確立・運用している。

高等専門学校設置基準に則った採用･昇格基準を明確に定め，適切に運用している。
ものづくり教育を支援する事務職員，技術職員を適切に配置し，教員と協力して教育の目的を達成できる体制を構築している。

基準４ 学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①:教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

教育の目的に沿って，準学士課程入学生，準学士課程編入学生，専攻科入学生に対してアドミッション・ポリシーを設定し**（資料４－１－①－1～３）**，以下のように公表･周知している。

準学士課程のアドミッション・ポリシーは，徳島県全域，兵庫県（淡路島），の中学校を校長，教務主事，教務主事補等が訪問する際，進学に関する説明の中で公表･周知している**（資料４－１－①－４）**。平成 22 年度は 107 校の中学校を訪問した。

中学生，保護者，中学校教員を対象とする進学説明会を県西部ならびに県央部で実施し**（資料４－１－①－５）**，進学に関する説明の中で公表･周知している。

８月下旬開催の中学生１日体験入学において，生徒引率の教員，保護者に対し，進学に関する説明を・入学検査に関する説明の中で公表･周知している。

本校 Web サイトの入試情報に入学試験に関する情報ページにアドミッション・ポリシーを掲載し，広く社会に対しても公表･周知している**（資料４－１－①－６）**。

編入学生募集要項にアドミッション・ポリシーを明記し，公表･周知している**（資料４－１－①－７）**。

専攻科アドミッション・ポリシーを，本校 Web サイトに掲載し，専攻科学生募集要項にも明記し，広く社会に対しても公表･周知している**（資料４－１－①－８）**。在学生には，各科進学担当教員から希望学生に対して専攻科入学検査に関する説明を個別に実施する中で，公表･周知している。

アドミッション・ポリシーを，教職員は入試広報業務を実施する中で確認し，毎年実施する入学者選抜検査業務説明会において，教務主事による説明の中でアドミッション・ポリシーについて確認するとともに，入試問題の校内作成，推薦による選抜における面接時の質問についてもアドミッション・ポリシーによって作成するよう，担当教員に指示している**（資料４－１－①－９）**。これらの説明･指示及びそれに対する確認の中で，全教職員への周知ができていることを確認している。

資料４－１－①－1

準学士過程のアドミッションポリシー

阿南工業高等専門学校は，しっかりした専門知識を，社会の中で実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。

そのために必要な，次のような能力などの育成に向けて，揺らぐことのない目的意識と強い意欲を持つ人を求めています。

○エンジニアとしての責任感と倫理観
○問題の解決能力
○豊かなコミュニケーション能力
○自立的な学習能力

（出典　平成 23 年度　学生募集要項入学案内）

資料４－１－①－2

準学士課程編入学生のアドミッションポリシー

阿南工業高等専門学校は，専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のよう能力・素養等の修得・育成に，揺らぐことのない目的意識と強い意識と強い意欲を持つ人を求めています。

○国際人としての教養
○社会・自然への責任感と倫理観
○問題の発見・解決能力
○幅広いコミュニケーション能力
○自律的かつ柔軟な学習能力
○「ものづくり」につながる創造的思考力

（出典　平成 23 年度　編入学生募集要項）

資料４－１－①－３

専攻科入学生のアドミッションポリシー

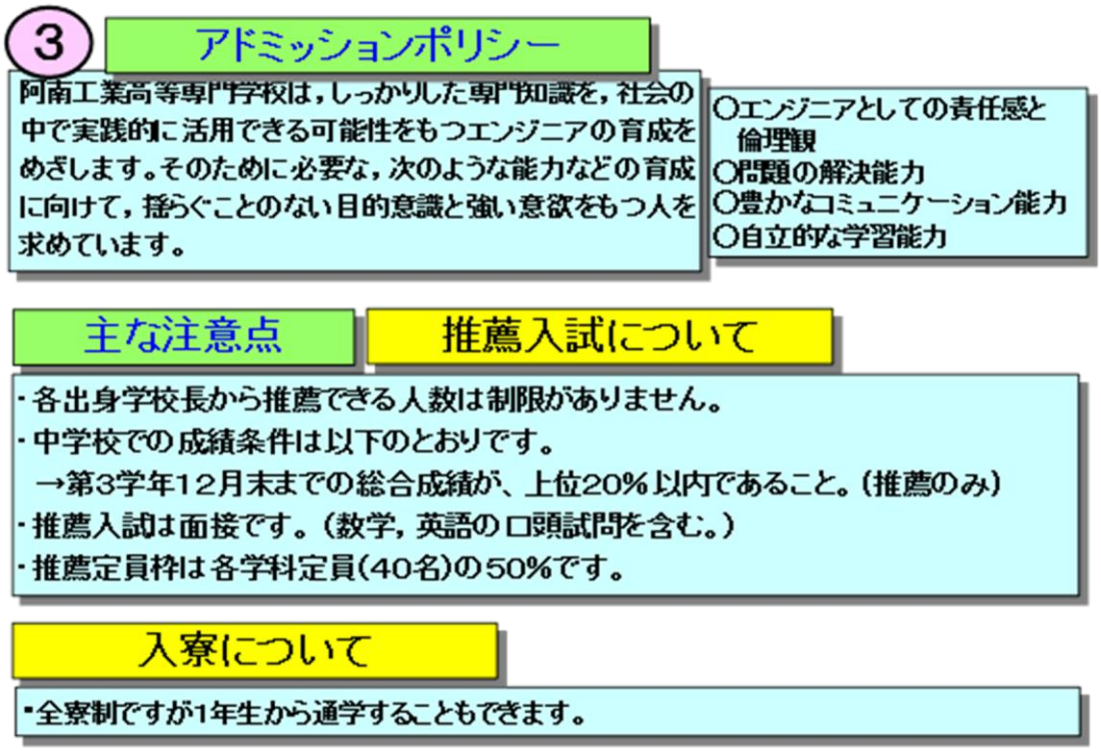
阿南高専専攻科は，専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のよう能力・素養等の修得・育成に，揺らぐことのない目的意識と強い意欲を持つ人を求めています。

○　国際人としての教養
○　社会・自然への責任感と倫理観
○　問題の発見・解決能力
○　幅広いコミュニケーション能力
○　自律的かつ柔軟な学習能力
○　「ものづくり」につながる創造的思考力

（出典　平成 23 年度　専攻科学生募集要項入学案内）

資料４－１－①－４

入試広報資料アドミッションポリシー部分



（出典　平成 23 年度 ppt 入試広報資料　）

資料４－１－①－５

入試説明会参加者数

	9 月 22，24 日 10 月 23 日	10 月 24 日
	徳島地区	西部地区
中学生	20	10
保護者	47	12
教員等	0	0
計	67	22

（出典　一日体験入学、入試説明会参加者数リスト）

資料４－１－①－６

阿南高専 Web サイトの本科入学生アドミッションポリシー掲示箇所



（出典　阿南高専 Web サイト）

資料４－１－①－７

阿南高専 Web サイトの編入学生アドミッションポリシー掲示箇所



独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校
Anan National College of Technology

Japanese/English
Search

Home | 学校案内 | 学科案内 | 教育・研究 | 産学公・地域連携 | キャンパスライフ | 付属施設・図書館 | 入試情報

受験生の皆さまへ 入試情報、Q&Aなど
在校生・保護者の皆さまへ 卒業後の進路、奨学金など
企業・研究者の皆さまへ 産学連携、調達情報、求人など
地域の皆さまへ 公開講座、施設利用案内など
卒業生の皆さまへ 証明書、同窓会など

クリック!
動画で阿南高専

Home / 入試情報 / 本科4年次編入学検査

本科4年次編入学検査

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

阿南工業高等専門学校は，専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のような能力・素養等の修得・育成に，揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。

- ○国際人としての教養
- ○社会・自然への責任感と倫理観
- ○問題の発見・解決能力
- ○幅広いコミュニケーション能力
- ○自律的かつ柔軟な学習能力
- ○「もの作り」につながる創造的思考力

入学検査日程

入学検査種別	募集要項	出願期間	検査日	合格発表日（推薦選抜は内定通知発送日）	入学確約書提出期限
学力選抜	H23年度	7/20(火)～7/22(木)	7/31(土)	8/5(木)	8/27(金)

前のページにもどる

（出典　阿南高専 Web サイト）

資料４－１－①－８

阿南高専 Web サイトの専攻科入学生アドミッションポリシー掲示箇所

独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校
Anan National College of Technology

Japanese/English
Search

Home | 学校案内 | 学科案内 | 教育・研究 | 産学公・地域連携 | キャンパスライフ | 付属施設・図書館 | 入試情報

受験生の皆さまへ
入試情報、Q&Aなど
在校生・保護者の皆さまへ
卒業後の進路、奨学金など
企業・研究者の皆さまへ
産学連携、調達情報、求人など
地域の皆さまへ
公開講座、施設利用案内など
卒業生の皆さまへ
証明書、同窓会など

クリック!
動画で阿南高専

Home / 入試情報 / 専攻科入学検査

専攻科入学検査

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のような能力・素養等の修得・育成に，揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。

- ○国際人としての教養
- ○社会・自然への責任感と倫理観
- ○問題の発見・解決能力
- ○幅広いコミュニケーション能力
- ○自律的かつ柔軟な学習能力
- ○「もの作り」につながる創造的思考力

入学検査日程

入学検査種別	募集要項	出願期間	検査日	合格発表日	入学確約書提出期限
推薦選抜	H23年度募集要項（PDF）	5/25(火)～5/27(木)	6/5(土)	6/10(木)	6/21(月)
学力選抜（前期）		6/15(火)～6/18(金)	6/26(土)	7/1(木)	9/27(月)
学力選抜（後期） 社会人特別選抜		9/27(月)～9/29(水)	10/9(土)	10/15(金)	11/12(金)

掲載している募集要項（PDF形式）を閲覧するためにはAcrobat Reader等のソフトウェアが必要です。Acrobat ReaderはAdobe Systemsのサイトから無償でダウンロードできます。

ダウンロードページへ(adobe)

前のページにもどる

（出典　阿南高専 Web サイト）

資料４－１－①－９

本校アドミッションポリシーの確認と周知

アドミッションポリシー（入学者受入方針）　　本校HPからの抜粋

本科入学検査

阿南工業高等専門学校は，しっかりした専門知識を，社会の中で実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のような能力などの育成に向けて，揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。

○エンジニアとしての責任感と倫理観
○問題の解決能力
○豊かなコミュニケーション能力
○自立的な学習能力

本科４年次編入学検査

阿南工業高等専門学校は，専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニ アの育成をめざします。そのために必要な，次のような能力・素養等の修得・育成に，揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。

○国際人としての教養
○社会・自然への責任感と倫理観
○問題の発見・解決能力
○幅広いコミュニケーション能力
○自律的かつ柔軟な学習能力
○「もの作り」につながる創造的思考力

専攻科入学検査

専門分野における確固たる知識を基盤に，幅広い工学分野において，その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざします。そのために必要な，次のような能力・素養等の修得・育成に，揺らぐことのない目的意識と強い意欲をもつ人を求めています。

○国際人としての教養
○社会・自然への責任感と倫理観
○問題の発見・解決能力
○幅広いコミュニケーション能力
○自律的かつ柔軟な学習能力
○「もの作り」につながる創造的思考力

（出典　平成 23 年 1 月 24 日教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーを明確に定め，教職員に周知するとともに周知状況を確認し，進学説明会･募集要項・Webサイト及び資料として広く将来の学生を含む社会に公表している。

観点４－２－①：入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の入学者選抜検査として，推薦による選抜と学力による選抜とを実施している。推薦による選抜では，中学校長から推薦のあった者を面接し，推薦書，調査書の評価とあわせて運営委員会において合格者を決定している。学力による選抜では，数学，英語，国語，理科，社会の学力を行い，調査書の評価とあわせて運営委員会において合格者を決定している。

準学士課程４年次への編入学者選抜検査として，高等学校長から推薦のあった者に数学，英語，専門の学力検査及び面接を行い，運営委員会において合格者を決定している。

専攻科への入学者選抜検査として，推薦による選抜，学力による選抜，社会人特別選抜を実施している。合格者の決定は，運営委員会において行っている。推薦による選抜では，推薦書，調査書及び各専攻における口頭試問の結果を総合的に評価し，合格者を決定している。学力による選抜では，調査書，数学及び英語の筆記試験ならびに各専攻における口頭試問の結果を総合的に評価し，合格者を決定している。社会人特別選抜では，企業等の長から提出される推薦書，調査書，各専攻における口頭試問及び英語筆記試験の結果を総合的に評価し，合格者を決定している。

毎年実施する入学者選抜検査業務説明会において，教務主事による説明の中でアドミッション・ポリシーについて確認するとともに，入試問題の校内作成，推薦による選抜における面接時の質問についてもアドミッション・ポリシーによって作成するよう，教務主事から担当教員に指示している。

（分析結果とその根拠理由）

入学者選抜検査における推薦による選抜及び学力による選抜は，いずれもアドミッション・ポリシーを記載し公表している募集要項に則って実施している。

これらの実施については，アドミッション・ポリシーに則って行うよう関係教職員に指示している。推薦による選抜では，面接時の質問はアドミッション・ポリシーに則って行っている。学力による選抜では，学生募集要項にアドミッション・ポリシーを明記するとともに希望学科再選択制度を導入し，中学生の志望を本校のアドミッション・ポリシーに照らしてから志願するように求めている。

観点４－２－②：入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

運営委員会，教務委員会，専攻科運営委員会において，各種入試成績結果に基づいて本校アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているか検証し，今後の入試方法の改善に向けた取組を継続的に実施している。以下にこれまでに検証に基づき入学者選抜の改善の取組を述べる。毎年入学後に新１年生に入学動機等に関するアンケートを実施している。この結果から本校入学を希望する学生の殆どが，本校アドミッション・ポリシーである技術者教育，早期からの専門教育について理解と期待を持って入学していることが分かる**（資料４－２－②－１）**。

アドミッション・ポリシーの公表を継続するとともに，平成20年度に希望学科再選択制度を導入した**（資料４－２－②－２）**。同制度は，１年次に４工学科の専門基礎をそれぞれ学んだ後，学生自身の希望と1年次の総合成績により，２年進級時に正式配属学科を選択するというものである。適性に応じた学科選択を可能とする制度である。かねてより，中学校教員や保護者等から，中学生には未知の工学分野を選択して受検することが困難であり，結果として本校入学後に学科の学習内容と学生の希望する学習とがずれるのではという懸念が寄せられていた。同制度は，この社会での要望に応え，本校に入学する中学生に，自らが志向するものづくりについて慎重に見極める機会を提供し，よりよい進路選択を可能とするものである。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の入学を促進するため，これまで準学士課程の推薦による選抜に関し，中学校１校あたりの推薦者数の拡大，１学科への推薦者数の制限の撤廃などを行ってきた。平成 18 年度以降，準学士課程入学者選抜検査では，選抜検査，調査書において数学・英語を重視した傾斜配点を導入している。

専攻科入学者選抜検査のうち推薦による選抜において，TOEIC 400 点を出願要件とした。また学力による選抜においても出願日から遡って２年以内にTOEIC公開テストまたはTOEIC IP テストにおいて 400 点以上の成績を有する者は，英語筆記試験を免除する場合があると定めている**（資料４－２－②－３）**。さらに平成 25 年度入試より学力による選抜試験において TOEIC スコアを英語筆記試験に加味する専攻科入試方法を導入することが決定している**（資料４－２－②－４）**。

また，専攻科学生の国際交流への関心が高まり，平成 22 年度にはドイツのオスナブリュック応用科学大学に２名，オストファリア・ボルヘンビュッテル応用科学大学に３名の計５名が３ヶ月の長期イーターンシップに参加した。アドミッション・ポリシーである「国際人としての教養」を具現化できる学生が入学している。

資料４－２－②－１

平成 22 年度入学動機に関するアンケート

本校入学の動機調査結果

1 入学を志望した動機　（3つまで回答可）		M	E	S	C	計
項目	1 技術者教育	14	17	15	16	62
	2 理工系の5年間一貫教育	7	9	9	6	31
	3 早期からの専門教育	15	14	17	10	56
	4 就職率がよい	33	33	33	32	131
	5 大学3年に編入学できる	7	2	3	5	17
	6 専攻科では，学士を取得できる	2	2	1	3	8
	7 JABEE	0	0	0	0	0
	8 優れた教員が多い	1	2	4	4	11
	9 寮がある	7	1	5	6	19
	10 立地，通学環境	2	3	1	4	10
	11 「ロボコン」に興味がある	7	1	4	1	13
	12 課外活動に興味がある	4	3	2	6	15
	13 その他	0	2	1	0	3
	計	99	89	95	93	376

「13その他」の内容
・親の薦め(3名)

（出典　平成 22 年度入学者アンケートから抜粋）

資料４－２－②－２

希望学科再選択制度の説明



（出典　希望学科再選択パンフレットから抜粋）

資料４－２－②－３

英語筆記試験の免除

3　選 抜 の 方 法

学力による選抜検査は，調査書，数学及び英語（リスニングを含む。）の筆記試験並びに面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）により行う。ただし，学士水準の技術者教育プログラム開始学年（本校では本科第４学年）以降に受験したＴＯＥＩＣ公開テストまたはＴＯＥＩＣ　ＩＰテストにおいて，400点以上の成績を有する者は申請により，その点数を英語筆記試験の得点に換算し，英語筆記試験を免除する。この場合TOEICの600点を英語の得点100点とする比例式で換算し，600点以上は100点とする。なお，その場合でも希望すれば英語筆記試験を受験することができる。この場合には，得点の高い方を英語の得点とする。

(1)　前期日程日時　　平成22年６月26日(土)
　　数　学　　9：30 ～ 11：00
　　英　語　　11：20 ～ 12：50
　　面　接　　13：40 ～
　後期日程日時　　平成22年10月９日(土)
　　数　学　　9：30 ～ 11：00
　　英　語　　11：20 ～ 12：50
　　面　接　　13：40 ～
　　＊９時00分までに本校の指定する場所に集合すること。
　　＊選抜当日には，「受検票」を必ず携行すること。
(2)　場　　所　　阿南工業高等専門学校

（出典　平成23年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－②－４

英語筆記試験における TOEIC スコアの取扱

平成 22 年度　第６回　専攻科運営委員会議事要旨

１　日　時　　平成 22 年 10 月 28 日（月）16：10～17：00
２　場　所　　管理部一般教科棟３階　会議室
３　出席者　　別紙のとおり
４　議 題
(1)　専攻科の学力選抜・社会人特別選抜への TOEIC スコアの導入について
英語科の勝藤和子教員（林田栄治委員の代理）から、別紙資料 11～３に基づき現状、導入理由、実施時期及び奈良高専の実例についての説明があった。
委員長から別紙資料 21～２に基づき導入方法等について提案があり、審議の結果、つぎの事項が決定された。
・　英語の総成績は、筆記試験５０％（５０点）と TOEIC５０％（５０点）とする。
・　TOEIC のスコアは、「一般公開テスト」及び「TOEIC　IP テスト」を対象とする。
・　TOEIC スコアの選抜試験に関する有効期間は、選抜検査日の年度の前年度からとする。
・　出願の際に TOEIC のスコアの原本を提出させ、コピーを取った後に返却する。
・　TOEIC 未受検者の英検及び TOFEL については、考慮しない。
以下　略

（出典　平成 22 年度　第６回　専攻科運営委員会議事要旨　）

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れについて，運営委員会，教務委員会，専攻科運営委員会において検証してきている。その検証にもとづく入学者選抜の改善として，準学士課程の推薦について，選抜に関する制限の緩和と数学・英語を重視した傾斜配点を実施し，希望学科再選択制度の導入（準学士過程），入学者選抜における TOEIC の出願要件化及び TOEIC 高得点者の優遇（専攻科）を実施してきた。

観点４－３－①：実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程において，過去５年間，実入学者数が大幅に定員を越える，または下回る状況にない（**資料４－３－①－１**）。編入学者数についても，毎年数名の入学があるが，総入学定員を大幅に越えない数になっている（**資料４－３－①－２**）。

専攻科入学者数は，過去５年間定員を上回る。アドミッション・ポリシーに則って優秀な学生を受け入れることにより，専攻科教育の充実を企図したことによるものであり，その教育の充実のため，十分な教員組織，教育体制を整えている。一例として，阿南高専「創造技術システム工学」教育プログラムにおいて，学習保証時間2500時間を越える十分な指導を行っており，専攻科修了生の学位取得状況も良好である（**資料４－３－①－３**）。

アドミッション・ポリシーに沿った実入学者数が入学定員を下回る状況になることのないよう，平成21年度，校長直属の広報情報室を設置した。入試広報も管轄し，中学生や中学校教員，本校学生の視点を活用した広報コンテンツ及び広報方法を見直した（**資料４－３－①－４**）。結果として，平成22年度の入学者選抜検査志願倍率は1.52倍となり，近年５年間で最も高くなっている。

資料４－３－①－１

準学士課程における実入学者数(過去5年間)

年　度	入学定員（各学科）	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科
平成 18 年度	40	40	40	40	40
平成 19 年度	40	40	40	40	40
平成 20 年度	40	40	40	40	40
平成 21 年度	40	40	40	40	40
平成 22 年度	40	40	40	40	40

（出典　阿南工業高等専門学校　準学士課程における実入学者数集計）

資料４－３－①－２

準学士課程における編入学実入学者数(過去6年間)

年　度	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科
平成 18 年度	2	2	2	1
平成 19 年度	1	2	1	1
平成 20 年度	1	2	1	1
平成 21 年度	1	1	1	0
平成 22 年度	0	1	1	0
平成 23 年度	0	1	0	0

（出典　阿南工業高等専門学校　準学士課程における編入学実入学者数集計）

資料４－３－①－３

専攻科修了生の学位取得数

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
専攻科終了数	23 名	22 名	10 名	21 名	19 名
学位合格者	23 名	22 名（1 名）※1	10 名	21 名（2 名）※2	18 名

※1　（ ）内の数字は、平成 20 年度合格

※2　（ ）内の数字は、平成 22 年度合格

（出典　阿南工業高等専門学校　専攻科修了生の学位取得状況）

資料４－３－①－４

阿南高専広報活動の基点

阿南高専広報ドクトリン2010(教育サービス業としてのプロ意識を共有)

Ⅰ　基本理念

ⅰ 少子化でものづくり志向の中学生(アドミッション・ポリシーに適合)総数は，減少。
ⅱ 高等学校入学者定員調整は志願倍率維持に働くが，本校に適性のあるハイレベル中学生の志願とは無関係。
ⅲ 県央部からの志願者獲得を着実に進める広報を確立できなければ，本校教育レベルの低下は必至。
ⅳ 授業，学生・寮生指導，校風，学生・保護者(地域住民・社会)による学校への理解と信頼は，広報成果に直結。
ⅴ 教育を始めとするすべての学校活動に，広報の視点を確立(教育こそが本校存在意義の中核)。

Ⅱ　基本原則

ⅰ 県西部(他高専との差別化)，県央部(国立大学編入学)，県南部(地元就職)等の地域別に，広報を特化。
ⅱ 県央部を中心に重点広報対象中学校を明確にし，「営業的視点」に立って戦略的に広報。
ⅲ 広報対象者視点に立ち，[ヒューマンリレーション][PRツール][PRシチュエーション]を，戦略的に実施。
ⅳ 全学協同により，教育を高度化(授業，学生・寮生指導，校風，学生・保護者の信頼)。
ⅴ 自らに自信を持ち本校に誇りを抱く学生を，養成(学生の活性化＝最大の広報)。

Ⅲ　PRアクティビティ

[ヒューマンリレーション;営業的視点で戦略的に]

ⅰ 中学校・教員との情報ネットワーク構築により，同教員を本校PRメンバーに。学生から母校への葉書を活用。
ⅱ 情報ネットワーク担当教員固定化など，戦略的に配置。中学教員の利便性に配慮して，広報アプローチ。
ⅲ 実験や総合学習の面における中学校理科教員支援により，関係を強化。
ⅳ ポスター掲示等に，徳島銀行・阿南市・公立図書館・ACTフェローシップ会員・後援会理事の協力を要請。
ⅴ 学生の参画・協力等をスムーズにしていくため，広報許諾書，16時間上限の特別欠席を活用。

[PRツール;魅力を高度化]

ⅰ 特長を，具体的データ(数値)を用いて，高デザイン性により印象的に提示。パッションステートメントとともに。
ⅱ 「工学の世界への招待」は，訴求力の高い広報として，進学説明会を補完。営業視点に立ち，戦略的に実施。
ⅲ CG・リーフレット・ポスター・広報グッズ・広報ビデオを，中学生(本校学生)視点(AIDMA)で作成，効率的に配布。
ⅳ 資料配付用紙製バックなどルーティン業務用物品を，広報グッズ化。

[PRシチュエーション;広報視点に立った運営]

ⅰ 体験入学等に学生による相談コーナー・キャンパスツアー，教員による相談コーナーを開設・実施。
ⅱ 参加しやすいサイエンスフェアを実施，日時を定めてキャンパスツアーを設定。
ⅲ 全活動に広報の視点を(学生と連携して広報)を導入，体験ブースや相談コーナーを集約して，見せる工夫。
ⅳ マスメディア広報，地域連携，学校説明会(近年の卒業生講演，進路状況説明，進路相談)を継続強化。
ⅴ 広報展示室を継続的に充実(学生制作物)させ，電子掲示板活用で学内情報も有効に発信し，学生を活性化。
ⅵ 中学生視点に立ったHPの充実。地域・企業への情報発信とあわせ，親しみやすさとアカデミックさを両立。
ⅶ 学校通信の定期的発信(HPと連動)，授業公開日運用(授業公開周知を含む)により，信頼される情報発信を。

(出典　阿南高専広報ドクトリン2010)

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では，適正な入学定員の確保が十分できている。専攻科では入学者数が定員を上回る状況に対し十分な教育指導体制を取っており，指導時間を確保している。広報情報室により，適正な入学定員を確保できるよう入試広報にあたった。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

アドミッション・ポリシーを明確に定め，教職員に周知するとともに周知状況を確認し，進学説明会･募集要項・Webサイト及び資料として広く将来の学生を含む社会に公表している。

入学者選抜検査における推薦による選抜及び学力による選抜は，いずれもアドミッション･ポリシーを記載し公表している募集要項に則って実施している。

アドミッション･ポリシーに沿った学生の受け入れについて，教務委員会，専攻科運営委員会等において検証してきている。その検証にもとづく入学者選抜の改善を行っている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準４の自己評価の概要

アドミッション・ポリシーを明確に定め，教職員に周知するとともに，進学説明会･募集要項・Webサイト及び資料として広く将来の学生を含む社会に公表している。入学者選抜検査における推薦による選抜及び学力による選抜は，いずれも学生募集要項にアドミッション･ポリシーを明記している。

入学者選抜検査における推薦による選抜では，面接時の質問はアドミッション・ポリシーに則って行っている。学力による選抜では，希望学科再選択制度を導入し，中学生の志望を本校のアドミッション･ポリシーに照らしてから志願するように求めている。

アドミッション･ポリシーに沿った学生の受け入れについて，教務委員会，専攻科運営委員会等において検証してきている。その検証にもとづく入学者選抜方法の改善として，準学士課程の推薦について，選抜に関する制限の緩和と数学・英語を重視した傾斜配点を実施し，希望学科再選択制度の導入（準学士過程），入学者選抜における TOEIC の出願要件化及び TOEIC 高得点者の優遇（専攻科課程）を実施してきた。

準学士課程では，適正な入学定員の確保が十分できている。専攻科課程では入学者数が定員を上回る状況にある場合には十分な教育指導体制で対応している。

基準５ 教育内容及び方法

＜準学士課程＞

（１）観点ごとの分析

観点５－１－①： 教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校では，平成８年度に学習･教育目標を掲げ，平成14年度に具体的な表現（A）～（E）に改定した。さらに一般教科及び専門学科における教育目標も同年度に設定した**(資料5－1－①－1)**。平成15年度以降，一般教科及び各専門学科の教育課程を改定している **(資料５－１－①－２～６)**。

一般教科では，学習･教育目標（A）及び（C）の達成，学習・教育目標（B）における数学や自然科学の知識の習得に留意して教育課程を編成した **(資料５－１－①－７)**。学習･教育目標（A）「国際人としての教養を身に付け，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を養成する。」を，社会科，英語，保健系科目，体育が担当している。学習･教育目標（C）「日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。」を，日本語と英語が担当している。外国語習得における系統的反復学習に留意し，英語を全学年に配当している。学習･教育目標（B）「社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。」を，数学，物理，化学が担当している。数学では，中学校教育課程との接続に配慮し，文科省検定済み教科書を採用するとともに **(資料５－１－①－８)**，専門学科で必要な数学知識を習得させるため，３年次に微分方程式を教授するなどの工夫をしている **(資料５－１－①－９)**。

専門学科では，一般科目と専門科目とを有機的に結合した楔形教育 **(資料５－１－①－10)** の実施，学習･教育目標（B）と（D）の達成，さらには学習･教育目標（E）の達成，すなわち，ものづくりを重視した専攻科課程までの７年間一貫教育の実施に留意している **(資料５－１－①－11～14)**。具体的には，学習･教育目標（B）に関し，情報技術を習得させるため情報リテラシーを１年次に配当し，４～５年次に自然科学の応用系科目（応用数学と応用物理），また，数学，自然科学，情報技術を活用しなければ問題解決ができない専門科目を配当している。学習･教育目標（D）「継続して専門技術や知識を学習する習慣を身に付け，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。」に関し，低学年では専門基礎科目を，高学年では専門科目をそれぞれ配当している。学習･教育目標（E）「もの作りを重視し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を養成する。」に関し，実験実習系科目を中心とした専門科目を配当している **(資料**

５－１－①－15～19)。

シラバスには，授業ごとに達成目標（学生の到達目標）を掲げるとともに，同目標の学習･教育目標（A）～（E）との関係性を明記している（資料５－１－①－20)。シラバスにもとづく授業は，通年科目の場合，35週を超えて実施している（資料５－１－①－21)。

資料５－１－①－１

教育目標とＪＡＢＥＥ基準との対応

ＪＡＢＥＥ基準

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養
(b) 技術が社会および自然に及ぼす影響，効果に関する理解力や責任など，技術者として社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）
(c) 数学，自然科学，情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる能力
　(d) の (1)　基礎工学の知識・能力
　(d) の (2a) 専門工学の知識・能力
　(d) の (2b) いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，かつ説明・説得する能力
　(d) の (2c) 工学の基礎的な知識・技術を統合し，創造性を発揮して課題を探求し，組み立て，解決する能力
　(d) の (2d) (工学) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し，適切に対応する基礎的な能力
(e) 種々の科学，技術，情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
(g) 自主的，継続的に学習できる能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力

表１　本校の学習・教育目標とＪＡＢＥＥ基準との対応

	(a)	(b)	(c)	(d)					(e)	(f)	(f)	(h)
				(1)	(2a)	(2b)	(2c)	(2d)				
(A)	◎	◎		○				○				
(B)			◎	○			○	◎	◎			
(C)							◎			◎		○
(D)		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
(E)			○	○	○	◎	◎		◎		○	◎

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－１－①－２

別表第１（第13条関係）

一般教科教育課程

（平成22年度以降の入学生に適用）

必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	基礎数学1	4	4					
	数学A	2	2					
	基礎数学2	4		4				
	数学B	2		2				
	微分積分	4			4			
	数学C	1			1			
	微分方程式	1			1			
	英語1	2	2					
	英語2	3		3				
	英語3	3			3			
	英語総合1	2				＊2		
	必修科目合計単位数	28	8	9	9	2		
選択科目	日本語総合	6	2	2	2			
	倫理	2	2					
	地理	2		2				
	世界史	2		2				
	日本史	2			2			
	政治社会	2			2			
	物理	3	1	2				
	物理実験・演習	1		1				
	化学1	2	2					
	化学2	2		2				
	保健	1	1					
	体育	9	2	3	2	1	1	
	美術・デザイン	2	2					
	英文法	2	2					
	英語総合2	2					＊2	
	英会話英作文	6	2	2	2			
	英語の語彙・文法(1)	1				1		
	英語の語彙・文法(2)	1				1		
	英語の語彙・文法(3)	1					1	
	英語の語彙・文法(4)	1					1	
	日本語の表現	2					＊2	
	経済学	2					＊2	
	哲学	2				2		} 並列開講
	法学	2				2		
	化学3	2				＊2		ヒューマンヘルスケアリングと並列開講
	バイオテクノロジー	2					＊2	
	ヒューマンヘルスケアリング	2				2		化学3と並列開講
	選択科目合計単位数	64	16	16	10	11	11	
一般科目合計単位数		92	24	25	19	13	11	
一般科目履修可能単位数		88	24	25	19	9	11	

＊学修単位を示す

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 P.90）

資料５－１－①－３

別表第２（第13条関係）

機械工学科教育課程

（平成21年度以降の入学生に適用）

必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	ものづくり工学基礎	2	2					
	ものづくり工学実習	4	4					
	デザイン基礎	2	2					
	情報リテラシー	2	2					
	機械製図	2		2				
	機械設計製図	6			2	＊4		
	機械工作実習	3		3				
	機械工作創造実習	3			3			
	機械工学実験	5				＊3	＊2	
	卒業研究	10					10	
	必修科目合計単位数	39	10	5	5	7	12	
	応用数学１	2				＊2		
	応用数学２	2				＊2		
	応用物理１	2			2			
	応用物理２	2				＊2		
	応用物理３	2					＊2	
	情報処理	4		2	2			
	加工学	3		2	1			
	機構学	1			1			
	機械要素設計	1			1			
	３次元ＣＡＤ	1				＊1		
	工業力学	2				＊2		
	材料力学	4			2	＊2		
	材料力学演習	1				＊1		
	材料学	3			1	＊2		
	水力学	2				＊2		
	水力学演習	1				＊1		
	熱力学	2				＊2		
	熱力学演習	1				＊1		
	電気電子工学概論	1				1		
	メカトロニクス	2				＊2		
	機械力学	2					＊2	
	制御システム工学	2					＊2	
	流体力学	2					＊2	
	熱工学	2					＊2	
	環境工学	2					＊2	
	材料科学	1					1	
	塑性加工工学	1					1	
	生産技術概論	2					＊2	
	プログラミング演習	2					＊2	
	文献講読	1				＊1		
	校外実習	1				1		
	選択科目合計単位数	57	0	4	10	25	18	
専門科目合計単位数		96	10	9	15	32	30	
一般科目合計単位数		92	24	25	19	13	11	
開講講座合計単位数		188	34	34	34	45	41	
専門科目履修可能単位数		96	10	9	15	32	30	
一般科目履修可能単位数		88	24	25	19	9	11	
履修可能単位数合計		184	34	34	34	41	41	

＊学修単位を示す

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 P.93）

資料５－１－①－４

別表第３（第13条関係）

電気電子工学科教育課程

（平成22年度の入学生に適用）

必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	ものづくり工学基礎	2	2					
	ものづくり工学実習	4	4					
	デザイン基礎	2	2					
	情報リテラシー	2	2					
	ディジタル回路	1		1				
	電気磁気学	2		2				
	電気回路論	2		2				
	電気計測	2			2			
	電子回路	1			1			
	電子回路設計製作実習	2				＊2		
	創造工学実習	2					＊2	
	電気電子工学実験	12		3	3	＊3	＊3	
	卒業研究	10					10	
	必修科目合計単位数	44	10	8	6	5	15	
選択科目	応用数学１	2				＊2		
	応用数学２	2				＊2		
	応用物理１	2			2			
	応用物理２	2				＊2		
	応用物理３	2					＊2	
	校外実習１	1				1		
	校外実習２	1				1		
	半導体電子工学	2					＊2	
	電気電子製図	1		1				
	ディジタル回路	1			1			
	電子工学	1			1			
	電気磁気学	4			2	＊2		
	電気回路論	4			2	＊2		
	電子回路	2				＊2		
	電気機器工学１	1			1			
	電気機器工学２	2				＊2		
	電気機器工学３	1				1		
	パワーエレクトロニクス	1					1	
	制御工学１	2				＊2		電気主任技術者の資格関係科目
	制御工学２	2					＊2	
	電気電子材料	2				＊2		
	プログラミング実習	2				＊1	＊1	
	情報理論	2					＊2	
	オプトエレクトロニクス	2					＊2	
	発変電工学	2				2		
	送配電工学	2					2	
	原子力工学	2					＊2	
	高電圧工学	1					1	
	電気法規	1					1	
	電磁波工学	2				＊2		
	通信工学理論	2					＊2	特殊無線技士の資格関係科目
	無線工学	2					＊2	
	電波法規	1					1	
	選択科目合計単位数	59	0	1	9	26	23	
専門科目合計単位数		103	10	9	15	31	38	
一般科目合計単位数		92	24	25	19	13	11	
開講講座合計単位数		195	34	34	34	44	49	
専門科目履修可能単位数		103	10	9	15	31	38	
一般科目履修可能単位数		88	24	25	19	9	11	
履修可能単位数合計		191	34	34	34	40	49	

＊学修単位を示す

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 p. 98）

資料５－１－①－５

別表第４（第13条関係）

制御情報工学科教育課程

（平成21年度以降の入学生に適用）

必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	ものづくり工学基礎	2	2					
	ものづくり工学実習	4	4					
	デザイン基礎	2	2					
	情報リテラシー	2	2					
	電気基礎	2		2				
	回路技術実習	2		2				
	回路技術基礎	2			2			
	プログラミング演習	2		2				
	マイクロコンピュータ	1			1			
	組み込みマイコン実習	3			3			
	ロボット創造実習	4				＊4		
	組み込み制御実験	2					＊2	
	制御工学基礎	2				＊2		
	計測工学基礎	2				＊2		
	計測基礎実習	1				1		
	卒業研究	10					10	
	必修科目合計単位数	43	10	6	6	9	12	
選択科目	応用数学1	2				＊2		
	応用数学2	2				＊2		
	応用物理1	2			2			
	応用物理2	2				＊2		
	応用物理3	2					＊2	
	プログラミング演習	2			2			
	データ構造とアルゴリズム	2		2				
	ソフトウェア設計	2			2			
	計算基礎演習	2		2				
	情報処理演習	2			2			
	シーケンス制御工学	2				＊2		
	文献講読	2				＊2		
	信号処理工学	2					＊2	
	回路技術	4				＊2	＊2	
	計測自動制御学	4					＊4	
	制御数理	1				1		
	情報数理	1				1		
	応用プログラミング1	2				＊2		
	応用プログラミング2	2					2	
	生産技術概論	2					＊2	
	コンピュータグラフィックス	2					＊2	
	システム技術開発	4					＊4	
	ロボット工学基礎	2				＊2		
	機械工学概論	2				＊2		
	材料科学概論	2					＊2	
	校外実習	1				1		
	創造工学ゼミナール	2				2		
	選択科目合計単位数	57	0	4	8	23	22	
専門科目合計単位数		100	10	10	14	32	34	
一般科目合計単位数		92	24	25	19	13	11	
開講講座合計単位数		192	34	35	33	45	45	
専門科目履修可能単位数		100	10	10	14	32	34	
一般科目履修可能単位数		88	24	25	19	9	11	
履修可能単位数合計		188	34	35	33	41	45	

＊学修単位を示す

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 P.102）

資料５－１－①－６

別表第５（第13条関係）

建設システム工学科教育課程

（平成21年度以降の入学生に適用）

必修選択の別	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	ものづくり工学基礎	2	2					
	ものづくり工学実習	4	4					
	デザイン基礎	2	2					
	情報リテラシー	2	2					
	構造力学基礎	1		1				
	構造力学１	2			2			
	水理学１	2			2			
	土質工学１	2			2			
	測量学１	2		2				
	材料学	1		1				
	測量実習	4		2	2			
	材料実験	2				2		
	土質実験	2				＊2		
	水理実験	1					＊1	
	環境実験	1					＊1	
	卒業研究	10					10	
	必修科目合計単位数	40	10	6	8	4	12	
選択科目	応用数学１	2				＊2		
	応用数学２	2				＊2		
	応用物理１	2			2			
	応用物理２	2				＊2		
	応用物理３	2					＊2	
	ＣＡＤ製図	1		1				
	データ処理	1			1			
	プログラミング	2				2		
	構造力学２	3				3		
	構造工学１	2				＊2		
	構造工学２	2					＊2	
	構造解析学	2					＊2	
	水理学２	2				＊2		
	水工学	2				＊2		
	土質工学２	2				＊2		
	施工管理学	2					＊2	
	測量学２	2			2			
	測量学３	1				1		
	コンクリート構造学１	2				＊2		
	コンクリート構造学２	2					＊2	
	応用材料学	2					＊2	
	環境生物学	1		1				
	環境工学１	2					＊2	
	環境工学２	2					＊2	
	地域計画	2					＊2	
	建築計画	2					2	
	景観工学	1					1	
	都市計画	2					＊2	
	建設システム総合演習	1				1		
	建築環境工学	1				1		
	建築設備	1				1		
	建築法規	1					1	
	建築製図	1			1			
	環境デザイン	2				＊2		建築設計製図１と並列開講
	橋梁設計製図	2					＊2	建築設計製図２と並列開講
	建築設計製図１	2				＊2		環境デザインと並列開講
	建築設計製図２	2					＊2	橋梁設計製図と並列開講
	校外実習	1				1		
	選択科目合計単位数	66	0	2	6	30	28	
専門科目合計単位数		106	10	8	14	34	40	
一般科目合計単位数		92	24	25	19	13	11	
開講講座合計単位数		198	34	33	33	47	51	
専門科目履修可能単位数		102	10	8	14	32	38	
一般科目履修可能単位数		88	24	25	19	9	11	
履修可能単位数合計		190	34	33	33	41	49	

＊学修単位を示す

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 P.105）

資料５－１－①―７

教育目的に照らした科目系統図(一般教科)

	１年	２年	３年	４年	５年
(A)国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を育成する。	英語１，倫理，保健，体育，英文法，英会話英作文	英語２，地理，世界史，体育，英会話英作文	英語，日本史，政治社会，体育，英会話英作文	英語総合，体育，英語の語彙･文法（１），英語の語彙・文法（２），法学，哲学，ヒューマンヘルスケアリング	体育，英語総合，日本語の表現，英語の語彙･文法（３），英語の語彙･文法（４），経済学
(B)社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。	基礎数学１，数学A，物理，化学１	基礎数学２，数学B，物理，化学２，物理実験・演習	微分積分，数学C，微分方程式	化学３	バイオテクノロジー
(C)日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションが取れ，表現力豊かに口頭発表できる技術者を養成する。	英語１，日本語総合，英文法，英会話英作文	英語２，日本語総合，英会話英作文	英語，日本語総合，英会話英作文	英語総合，英語の語彙・文法（１），英語の語彙・文法（２）	英語総合，日本語の表現，英語の語彙・文法（３），英語の語彙・文法（４）
(D)継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。	基礎数学１，数学A，物理，化学１	基礎数学２，数学B，物理，化学２，物理実験・演習	微分積分，数学C，微分方程式	化学３	バイオテクノロジー
(E)「もの作り」を重視し，技術的構想や創造的指向を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を育成する。	美術・デザイン				

（出典　教育目的に照らした科目系統図(一般教科)）

資料５－１－①―８

文部科学省検定済み教科書一覧

世界史B	002	東書	110202002013	世界史B
日本史B	081	山川	110204081017	高校日本史　改訂版
地理B	046	帝国	110206046007	新詳地理B　初訂版
地図	046	帝国	110207046010	新詳高等地図　初訂版
倫理	183	第一	110302183016	高等学校　改訂版　倫理
数学Ⅰ	002	東書	110402002021	数学Ⅰ
数学Ⅱ	002	東書	110403002021	数学Ⅱ
数学A	002	東書	110405002021	数学A
数学B	002	東書	110406002020	数学B
物理Ⅰ	104	数研	110504104014	改訂版　高等学校　物理Ⅰ
物理Ⅱ	104	数研	110505104010	改訂版　高等学校　物理Ⅱ
化学Ⅰ	183	第一	110506183024	高等学校　改訂　化学Ⅰ
保健体育	050	大修館	110601050006	現代保健体育　改訂版
美術Ⅰ	038	光村	110704038004	美術1
オーラル・コミュニケーションⅠ	109	文英堂	110801109029	New Edition Birdland Oral Communication Ⅰ
英語Ⅰ	104	数研	110803104050	Revised POLESTAR English Course Ⅰ
英語Ⅱ	104	数研	110804104053	Revised POLESTAR English Course Ⅱ
リーディング	212	桐原	110805212038	PRO−VISION ENGLISH READING New Edition
ライティング	104	数研	110806104033	Revised POLESTAR Writing Course
工業	007	実教	111201007030	製図

（出典　検定済み教科書使用調査結果　平成 22 年度）

資料５－１－①－９

微分方程式のシラバス

一般教科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
3年	微分方程式 Differential Equations	11375	宮本陽生 柏原健司	後期	1	必修	

【授業目的】

数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業の前半では放物線，楕円，双曲線などの2次曲線の性質ならびに媒介変数表示と極座標について学習する。後半の微分方程式では，基本的な微分方程式の解法を習得し，計算力を養う。

【到達目標】

1. 放物線，楕円などの2次曲線のグラフを描くことができる。
2. 曲線の媒介変数表示，極座標と極方程式の基本的な計算ができる。
3. 変数分離形，線形微分方程式など基本的な微分方程式の一般解を求めることができる。
4. 変数分離形，線形微分方程式など基本的な微分方程式の特殊解を求めることができる。

【授業計画】授業時間33時間

授業項目	授業時間	内　容
2次曲線	6	放物線 楕円 双曲線 2次曲線と直線
媒介変数表示と極座標	6	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式
微分方程式	2	微分方程式と解
【後期中間試験】	2	
微分方程式	16	変数分離形 同次形 1階線形微分方程式 定数係数2階同次線形微分方程式 定数係数2階線形微分方程式
【後期期末試験】		
【答案返却】	1	

【履修上の注意】

1. 授業に集中し，効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。
2. 定期試験はもちろん重要であるが，平常の小テストの勉強，提出物なども努力を怠らないこと。
3. 課題など提出物は提出期限を厳守すること。

【教科書】

「数学C」数研出版
「微分積分　改訂版」矢野健太郎　石原繁　編　裳華房

【参考書】

「チャート式　基礎と演習　数学Ⅲ+C」数研出版

【成績評価の方法】

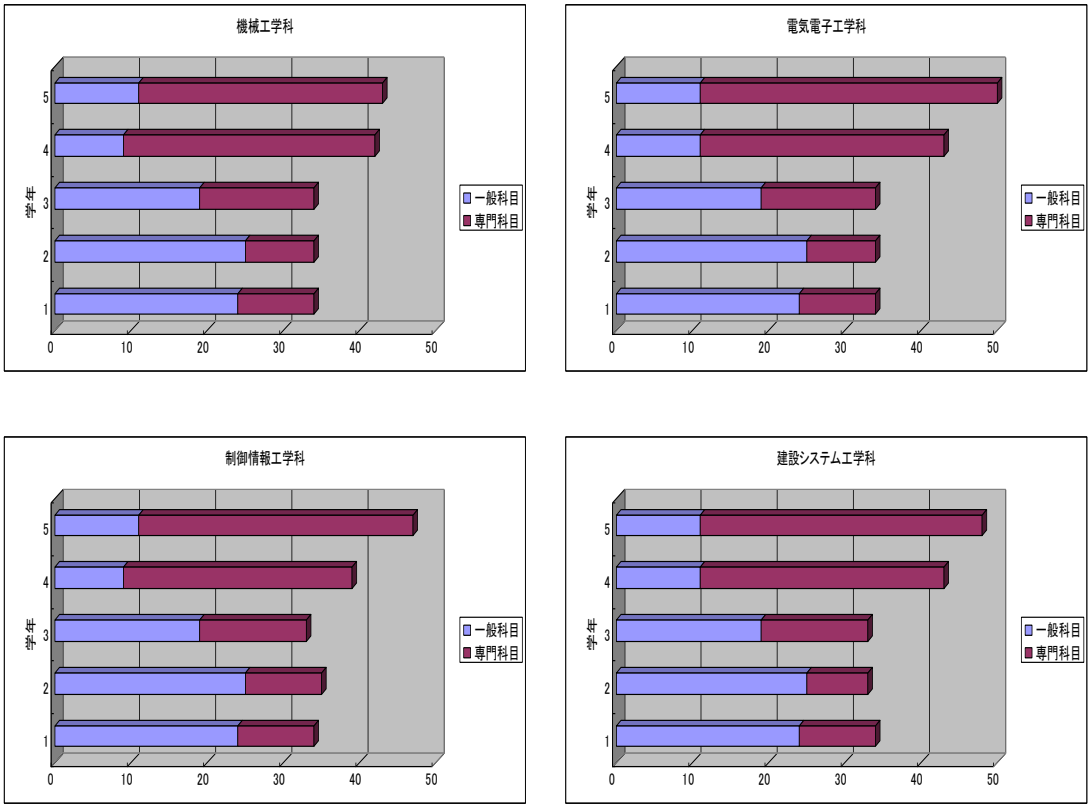
総合成績は，定期試験を90%，学習指導点（小テスト，提出物等）を10%として評価する。

【関連する阿南高専の学習・教育目標】（B），（D1）
【関連するJABEE基準】（c），（d），（e），（g）

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校　）

資料５－１－①－10

一般科目と専門科目の学年別配当単位数



（注）各図とも横軸は単位数を表す。

（出典　一般科目と専門科目の学年別配当単位数　平成 22 年度）

資料５－１－①－11

教育目的に照らした科目系統図(機械工学科)

	１年	２年	３年	４年	５年
(A)国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を育成する。	情報リテラシー			校外実習	環境工学
(B)社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。	情報リテラシー	情報処理 機械製図	応用物理１、情報処理 機械設計製図	応用数学１、応用数学２、応用物理２、熱力学、電気電子工学概論 校外実習	応用物理３､情報理論、機械力学、塑性加工工学 プログラミング演習 卒業研究
(C)日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションが取れ，表現力豊かに口頭発表できる技術者を養成する。	ものづくり工学基礎		機械工学創造実習	文献購読 校外実習	塑性加工工学、材料工学２、材料工学３ 卒業研究
(D)継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。	ものづくり工学基礎、情報リテラシー、 デザイン基礎、 ものづくり工学実習	加工学、 機械製図 機械工作実習	応用物理１､材料力学、材料学、加工学、機構学、機械要素設計 機械設計製図 機械工学創造実習	応用数学１、応用数学２、応用物理２、材料力学、材料学、工業力学、水力学、熱力学、電気電子工学概論、メカトロニクス、材料工学１ 機械設計製図、材料力学演習、水力学演習、熱力学演習､文献購読、３次元ＣＡＤ 機械工学実験	制御システム工学、応用物理３、生産技術概論、流体力学、機械力学、熱工学、材料科学、塑性加工工学、環境工学、材料工学２、材料工学３ プログラミング演習 機械工学実験、卒業研究
(E)「もの作り」を重視し，技術的構想や創造的指向を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を育成する。	ものづくり工学基礎、 デザイン基礎、 ものづくり工学実習	加工学、 機械製図 機械工作実習	材料力学、加工学、機械要素設計 機械設計製図 機械工学創造実習	材料力学、 機械設計製図、３次元ＣＡＤ 機械工学実験、プログラミング実習	制御システム工学、生産技術概論、塑性加工工学 プログラミング演習 機械工学実験、卒業研究

（出典　教育目的に照らした科目系統図(機械工学科)　平成22年度）

資料５－１－①－12

教育目的に照らした科目系統図(電気電子工学科)

	１年	２年	３年	４年	５年
(A)国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を育成する。	情報リテラシー			送配電工学、 校外実習２	原子力工学、電波法規
(B)社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。	情報リテラシー	ディジタル回路、電気磁気学	電気計測、応用物理１、ディジタル回路	応用数学１、応用数学２、応用物理２、 電気磁気学・演習、 プログラミング実習、 校外実習１、校外実習２	応用物理３、情報理論、 電気電子工学実験５、 卒業研究、プログラミング実習
(C)日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションが取れ，表現力豊かに口頭発表できる技術者を養成する。	ものづくり工学基礎			校外実習２	材料工学２、材料工学３、 卒業研究
(D)継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。	ものづくり工学基礎、 情報リテラシー、 デザイン基礎、 ものづくり工学実習	ディジタル回路、電気磁気学、電気回路論、 電気電子製図、 電気電子工学実験２	電気計測、電子回路、応用物理１、電気磁気学、電気回路論、電子工学、ディジタル回路、電気機器工学１、 電気電子工学実験３	応用数学１、応用数学２、応用物理２、制御工学１、送配電工学、電気電子材料、電気機器工学２、電気機器工学３、材料工学１、電磁波工学、 電子回路論、電子回路設計製作実習、電気磁気学・演習、電気回路論・演習、 電気電子工学実験４、 プログラミング実習、 校外実習	発変電工学、原子力工学、パワーエレクトロニクス、電気法規、応用物理３、高電圧工学、制御工学２、半導体電子工学、オプトエレクトロニクス、材料工学２、材料工学３、通信工学理論、無線工学、情報理論、 電気電子工学実験５、 創造工学実習、卒業研究、プログラミング実習
(E)「もの作り」を重視し，技術的構想や創造的指向を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を育成する。	ものづくり工学基礎、 デザイン基礎、 ものづくり工学実習	ディジタル回路、電気回路論、 電気電子製図、 電気電子工学実験２	電気計測、電子回路、電気回路論、電子工学、電気機器工学１、 電気電子工学実験３	制御工学１、電気電子材料、 電子回路論、電子回路設計製作実習、電気磁気学・演習、電気回路論・演習、 電気電子工学実験４、 プログラミング実習	パワーエレクトロニクス、制御工学２、通信工学理論、情報理論、 電気電子工学実験５、 創造工学実習、卒業研究、プログラミング実習

（出典　教育目的に照らした科目系統図(電気電子工学科)　平成 22 年度）

資料５－１－①－13

教育目的に照らした科目系統図(制御情報工学科)

	１年	２年	３年	４年	５年
(A)国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を育成する。	情報リテラシー			校外実習	
(B)社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。	情報リテラシー	データ構造とアルゴリズム、プログラミング演習、計算機基礎演習	応用物理１、ソフトウェア設計、情報処理演習、プログラミング演習	応用数学１、応用数学２、応用物理２、ロボット工学基礎、プログラミング応用、校外実習	応用物理３、CADシステム、卒業研究
(C)日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションが取れ，表現力豊かに口頭発表できる技術者を養成する。	ものづくり工学基礎	データ構造とアルゴリズム、計算機基礎演習		文献購読、校外実習、創造工学ゼミナール	情報理論、材料工学２、材料工学３、卒業研究
(D)継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。	ものづくり工学基礎、情報リテラシー、デザイン基礎、ものづくり工学実習	電気基礎、データ構造とアルゴリズム、計算機基礎演習、回路技術実習	回路技術基礎、マイクロコンピュータ、応用物理１、ソフトウェア設計、情報処理演習、組み込みマイコン実習	制御工学１、計測工学、応用数学１、応用数学２、応用物理２、文献購読、回路設計、電子回路、ロボット工学基礎、機械工学概論、材料工学１、プログラミング応用、創造工学ゼミナール、制御情報実験	応用物理３、信号処理基礎、制御工学２、制御工学３、情報理論、生産技術概論、ソフトウェア工学、言語処理、ネットワーク技術、計算機工学、材料工学２、材料工学３、CADシステム、システム開発、卒業研究
(E)「もの作り」を重視し，技術的構想や創造的指向を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を育成する。	ものづくり工学基礎、デザイン基礎、ものづくり工学実習	電気基礎、データ構造とアルゴリズム、プログラミング演習、計算機基礎演習、回路技術実習	回路技術基礎、マイクロコンピュータ、ソフトウェア設計、情報処理演習、プログラミング演習、組み込みマイコン実習	制御工学１、計測工学、回路設計、電子回路、機械工学概論、プログラミング応用、創造工学ゼミナール、制御情報実験	制御工学２、制御工学３、情報理論、生産技術概論、ソフトウェア工学、言語処理、ネットワーク技術、計算機工学、システム開発、ロボット製作実習、卒業研究

(注)赤字は実験実習系科目を表す。

(注)青字は講義と演習の割合が同程度の科目を表す。

(出典　教育目的に照らした科目系統図(制御情報工学科)　平成 22 年度)

資料５－１－①－14

教育目的に照らした科目系統図(建設システム工学科)

	１年	２年	３年	４年	５年
(A)国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を育成する。	情報リテラシー	環境生物学，測量学１，測量実習		建設システム総合演習，校外実習	環境工学１，環境実験
(B)社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。	情報リテラシー	環境生物学，測量学１，測量実習	応用物理１，測量学２，応用物理１，水理学１，データ処理，建築製図	応用数学１、応用数学２、応用物理２，測量学３，構造力学２，建設システム設計製図，材料実験、校外実習	応用物理３，環境工学１，構造解析学，水理実験，環境実験、卒業研究
(C)日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションが取れ，表現力豊かに口頭発表できる技術者を養成する。	ものづくり工学基礎	測量実習	データ処理	建設システム総合演習，校外実習	材料工学２、材料工学３、卒業研究
(D)継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力を持った技術者を養成する。	ものづくり工学基礎、情報リテラシー、デザイン基礎、ものづくり工学実習	測量学１，材料学，構造力学基礎，環境生物学，CAD製図，測量実習	測量学２，応用物理１，構造力学１，土質工学１，水理学１，データ処理，建築製図，測量実習	応用数学１、応用数学２、応用物理２，測量学３，土質工学２，構造工学１，構造力学２，水工学，水理学２，コンクリート構造学１，建設システム総合演習，建設システム設計製図，プログラミング２，材料実験、校外実習，土質実験	応用物理３、材料工学２、材料工学３，応用材料学，施工管理学，構造工学１，構造解析学，景観工学，コンクリート構造学２，都市計画，地域計画，建築計画，環境工学１，環境工学２，建設システム設計製図，水理実験，環境実験、卒業研究
(E)「もの作り」を重視し，技術的構想や創造的指向を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を育成する。	ものづくり工学基礎、デザイン基礎、ものづくり工学実習	CAD製図，測量実習	建築製図	測量学３，建設システム設計製図，建設システム総合演習，材料実験，校外実習，土質実験	卒業研究，水理実験，環境実験

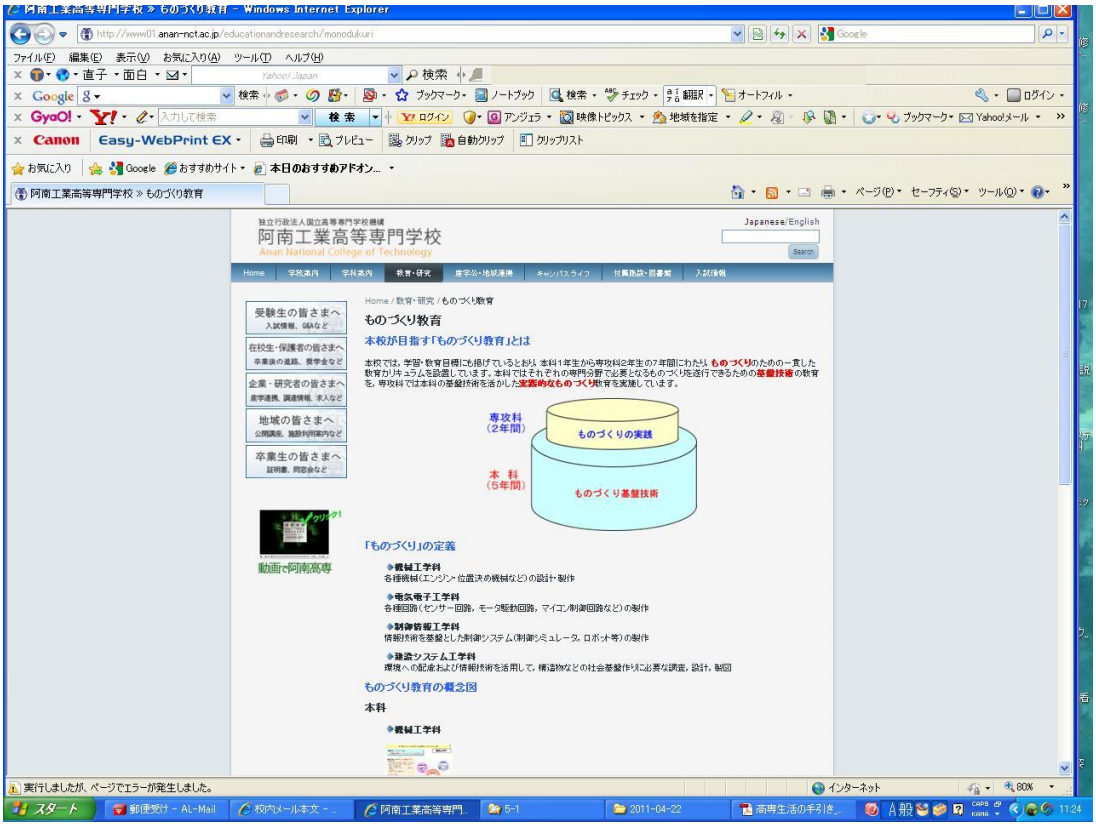
(注)赤字は実験実習系科目を表す。

(注)青字は講義と演習の割合が同程度の科目を表す。

(出典　教育目的に照らした科目系統図(建設システム工学科)　平成 22 年度)

資料５－１－①－15

本校が目指す「ものづくり教育」とは



（出典　阿南高専　Web サイト）

資料５－１－①－16

ものづくり教育のための座学と実験実習カリキュラムとの連携・機械工学科

技術分野 / 学年	機械加工技術	メカトロニクス技術	情報技術	機械設計技術	ものづくり（機械あるいは機械部品製作）
本科1年	・フライス実習 ・旋盤実習 ・溶接実習 ・手作業実習	・LEDオブジェの製作 ・二足歩行ロボット	・二足歩行ロボットプログラミング ・光通信・音声処理実験 情報リテラシー	・バイクの分解組み立て実習 デザイン基礎	・ペーパークラフト飛行機製作（PBL） ・滞空時間の長い落下物の製作（PBL） ・Taller Towerの製作（PBL） ものづくり基礎
本科2年	加工学	・マイクロロボット実習 ・NCフライス実習 ・CNC旋盤実習	情報処理	機械製図	・ペーパークラフトクレーンの製作(PBL)
本科3年	・不整地走行車の製作（機械加工による構成部品製作） 加工学	・不整地走行車の製作（光センサ回路とモータドライバ回路の製作）	・不整地走行車の製作（モータ制御プログラミング） 情報処理	・不整地走行車の製作（設計図・設計書の作成） 機械要素設計　機械設計製図	・不整地走行車の製作（PBL）
本科4年	・塑性加工実験	メカトロニクス 電気電子工学概論	・座標変換・陰影処理・シェーディング ・レイトレーシング・マッピング ・CAMとパラメトリック曲線・曲面	・引張強さ・衝撃強さ・硬さ測定 ・流量係数・管摩擦係数の測定 機械設計製図　3次元CAD	・スターリングエンジンカーの製作（PBL）
本科5年	・ウオータージェットによる切断加工 塑性加工工学	・サーボモータ制御系の特性計測 ・シーケンス制御プログラム応用 制御システム工学	・数値計算法 ・PLCを用いたプログラミング プログラミング演習	・渦巻きポンプの性能計測 ・熱分析，鋼の熱処理	生産技術概論
専攻科1年	材料加工学		数値計算力学 情報処理演習	構造設計工学演習 機械設計システム工学	
専攻科2年	・ウォータージェット加工と乱流境界層の特性 ・未利用木質材料のボード化とその評価試験 生産システム工学	・ロボティクス制御実験 信号処理工学		・ウォータージェット・境界層はりのたわみ計測による弾性理論の検証 ・実験計画法を用いた紙ヘリコプターの最適化実験	・紙ヘリコプターの最適化実験 創造工学演習

（注）表中の黒字は実験テーマ。青字は実習系科目で実施しているテーマ。灰色部分が座学。

（出典　阿南高専　Web サイト）

資料５－１－①－17

ものづくり教育のための座学と実験実習カリキュラムとの連携・電気電子工学科

技術分野 / 学年	配線・加工技術	計測・制御技術	情報技術	回路設計技術	もの作り（回路製作）
本科1年	・半田付け実習 ・回路製作実習	・電気量測定 ・二足歩行ロボット実習	・PCの基本操作 ・CADによる製図	・電気回路製作 ・電子回路製作	ものづくり工学基礎
本科2年	・電気配線実習	・電流計と電圧計の校正 ・直流電位差計の実験 ・電圧降下法による抵抗の測定 ・ホイーストンブリッジによる抵抗測定	・LEGO Mindstormsによるプログラム実習	・電気製図 ディジタル回路 電気回路	・ロボット製作 ・回路製作
本科3年		・オシロスコープ実習 ・交流ブリッジによるLCMの測定 ・電気計器の指示特性 電気計測		・ディジタルICの実験 ・組み合わせ論理回路の実験 ・整流回路，平滑回路の特性 ・交流回路のベクトル軌跡 ・交流ブリッジによるLCMの測定 ディジタル回路 電気回路 電子回路	・CAD・CAM演習 ・基板加工演習
本科4年		・燃料電池に関する実験 ・LabVIEWを用いたPCからの信号入出力 制御工学1	・C言語 ・LabVIEWプログラミング	・オペアンプの実験 ・FETの実験 ・順序論理回路 電気回路 電子回路	・PICによる回路製作
本科5年		・シーケンサ ・フォトダイオード・太陽電池の特性 制御工学2	・Html，JavaScript，JAVA ・ディジタル信号処理	・振幅変調回路の実験 ・オペアンプの実験	・赤外線通信ロボット製作 ・自立型走行ロボット製作
専攻科1年		・シーケンス制御 現代制御工学	・3次元CAD ・Javaプログラミング ・MATLABによる数値解析 ・ディジタル信号処理 ・Visual Basicプログラミング 光通信工学	電気回路解析 電子回路解析	・高機能マイコンによるロボット製作
専攻科2年		・GPIBによる自動計測 ・シーケンス制御 ・PID&ファジ制御 電子計測工学	・ネットワークサーバ構築 ・光通信システム 光通信工学 信号処理工学	・センサの特性 ・FPGAを用いた論理回路設計	・ライントレースロボットのマイコン制御

（注）表中の黒字は実験テーマ。青字は実習系科目で実施しているテーマ。灰色部分が座学。

（出典　阿南高専　Web サイト）

資料５－１－①－18

ものづくり教育のための座学と実験実習カリキュラムとの連携・制御情報工学科

技術分野 / 学年	メカトロ系	情報系	制御系	計測系	ものづくり（工学基礎系）
本科1年		・情報リテラシー			・デザイン基礎 ・ものづくり工学基礎 ・ものづくり工学実習
本科2年	・各種電子デバイスの基本特性 ・テスター，オシロスコープ測定 電気基礎 回路技術基礎	・UNIX実習 ・C++，Java実習 データ構造とアルゴリズム			
本科3年	・PICマイコンの実習 マイクロコンピュータ	・デザインパターン実習 ・オブジェクト指向実習 ・GUIプログラミング実習 ソフトウエア設計基礎			
本科4年	回路技術1 ロボット工学基礎	・データベース実習 ・ネットワーク実習 応用プログラミング1	制御工学基礎 計測自動制御学1 シーケンス制御工学	・歪計測，光学計測，温度計測，機械計測の実習 計測工学基礎	ロボット創造コンテスト 情報数理 制御数理 機械工学概論
本科5年	・搬送装置，自動ドアの設計 回路技術2 システム開発技術1	・数値計算実習 ・進化計算実習 ・CG実習 システム開発技術2	・シーケンス制御，PIDI制御の実験	・デジタルフィルタ，画像処理，信号処理の実験 信号処理技術 計測自動制御学2	卒業研究 材料科学概論 生産技術概論
専攻科1年	・dsPIC回路の実習 電気回路解析 電子回路解析	・TCP/IPプログラミング ・Linux，Tex演習 ・VBによる数値解析 ・Java演習	・制御系ソフトウエアによる制御設計シミュレーション ・プログラマブルコントローラーによるシーケンス演習 現代制御工学	・ネットワークアダプタによる遠隔制御・計測の実習 光通信工学	3次元CAD演習 ロボット工学演習
専攻科2年	・FPGAを用いた論理回路設計 ・ライントレースロボットの制御	・ネットワークサーバーの構築	・PIDファジィ制御実験 ・SFCによるシーケンス制御	・センサ特性計測実験 ・GBIBを用いた自動計測 ・光通信システム 電子計測工学 信号処理工学	創造工学演習

（注）表中の黒字は実験テーマ。青字は実習系科目で実施しているテーマ。灰色部分が座学。

No.2

（出典　阿南高専　Web サイト）

資料５－１－①－19

ものづくり教育のための座学と実験実習カリキュラムとの連携・建設システム工学科

技術分野 / 学年	専門基礎技術	環境に配慮した技術	ものづくり 調査技術	情報技術	ものづくり 設計・製図技術
本科1年	ものづくり工学基礎 ものづくり工学実習			・コンピュータリテラシ ・CADによる製図 情報リテラシー1	・平面図 ・投影図 ・透視図 デザイン基礎 ものづくり工学基礎 ものづくり工学実習
本科2年	材料学	環境生物学	・距離測量　・角測量 ・トラバース測量　・平板測量 測量学1	・プログラミングの基礎 CAD製図	
本科3年	応用物理1 構造力学1		・水準測量　・三角測量 ・地形測量　・路線測量 ・写真測量 測量学2 水理学1 土質工学1	データ処理 プログラミング言語	
本科4年	応用数学1，2 応用物理2 構造力学2 構造工学1 土質工学2	環境水資源学	・土の物理的性質 ・土の力学的性質 ・セメント，骨材，鉄筋の試験 ・コンクリートの配合設計 ・コンクリートの製造，試験 ・RCの製造，構造実験 水理学2 土質工学2 測量学3 コンクリート構造学1	プログラミング演習	建設システム設計製図
本科5年	応用物理3 構造工学2 応用材料学 施工管理学	・水質の測定 ・大気の測定 ・潮間帯生態系の観察 環境工学1 環境工学2	・三角ゼキの検定　・管水路の損失水頭 ・波と破砕の性質　・開水路の流速分布 ・オリフィスからの流出　・波の反射 コンクリート構造学2		・RC製逆T型擁壁の設計製図 ・プレートガーダー橋の設計 ・トラス橋の設計 ・都市交通の需要予測 建設システム設計製図 都市計画，地域計画，景観工学
専攻科1年	応用構造力学	数値計算力学 情報処理演習	企業実習 構造設計工学演習 建設設計システム工学		
専攻科2年	複合材料学	・阿南市における海洋環境と生物多様性 環境工学特論	・各種コンクリートの製造と試験 ・根固めブロック周辺の流速分布特性 ・はりのたわみ計測による弾性理論の検証 構造設計工学セミナー		・ブリッジコンテスト

（注）表中の黒字は実験・実習等のテーマ，灰色部分が座学

No.2

（出典　阿南高専　Web サイト）

資料５－１－①－20

微分積分のシラバス

一般教科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
3年	微分積分 Differential and Integral Calculus	11373	宮本陽生 川崎敏和 田中広志	前期 後期	4	必修	

【授業目的】
数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では極限，微分法および積分法についての理解を深め，関数の解析，図形の計量に応用できる知識と技能を修得する。また偏微分，重積分の基本的な考え方を理解し，計算力を養う。

【到達目標】
1. 関数の極限の概念を理解し，具体的な極限の計算ができる。
2. 導関数の公式を用いて様々な関数の導関数が求められる。
3. 基本的な関数の不定積分と定積分の計算ができる。
4. 偏微分，重積分の基本的な計算ができる。

【授業計画】授業時間126時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 微分	18	(1)関数の極限・連続関数 (2)微分の基本公式 (3)三角関数・逆三角関数 (4)指数関数・対数関数
2. 微分の応用	12	(1)関数の増減 (2)極値・凹凸 (3)高次導関数
【前期中間試験】	2	
3. 不定積分	30	(1)基本的な不定積分 (2)置換積分・部分積分 (3)三角関数の積分 (4)有理関数，無理関数の積分
【前学期末試験】		
【答案返却】	1	
4. 定積分	16	(1)定積分の計算 (2)広義の積分 (3)面積・体積
5. 微分積分の応用	14	(1)数列・級数 (2)関数の展開 (3)不定形の極限 (4)定積分の応用
【後期中間試験】	2	
6. 偏微分	16	(1)2変数関数 (2)偏導関数・高次偏導関数 (3)合成関数の微分
7. 重積分	14	(1)累次積分 (2)2重積分 (3)極座標による2重積分
【学年末試験】		
【答案返却】	1	

【履修上の注意】
1. 授業に集中し，効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。
2. 定期試験はもちろん重要であるが，平常の小テスト，提出物等での努力を怠らないこと。
3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。

【教科書】
「微分積分　改訂版」 矢野健太郎　石原繁 編　裳華房

【参考書】
「はぎ取り式　練習ドリル　数学Ⅲ」 数研出版
「チャート式　基礎と演習　数学Ⅲ+C」 数研出版

【成績評価の方法】
総合成績は，定期試験および数学実力試験を70%，国立高専学習到達度試験を20%，学習指導点（小テスト，提出物等）を10%として評価する。

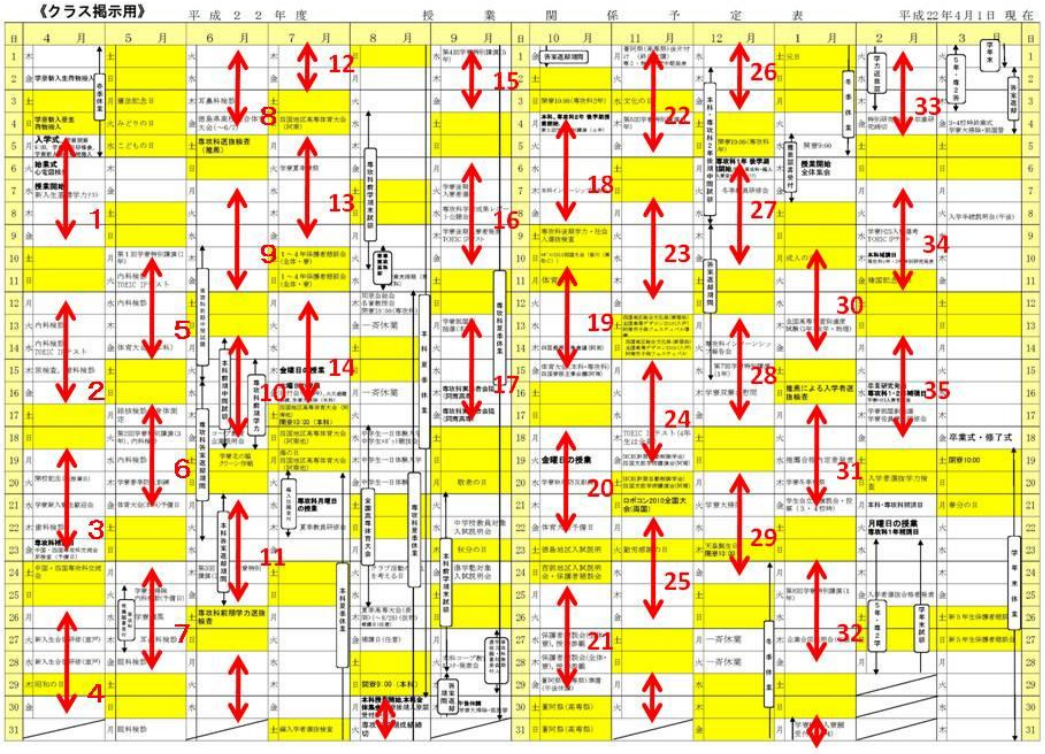
【関連する阿南高専の学習・教育目標】(B)，(D1)
【関連するJABEE基準】(c)，(d)，(e)，(g)

— 41 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校　）

資料５－１－①－21

年間 35 週の授業週確保資料



（出典　授業関係予定表　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的を達成できるよう，一般教科と専門科目の授業科目を楔形に配置し，教育課程を体系的に編成している。学科内の授業科目の配置も，ものづくり基盤技術の教育という観点から，体系的に行っている。

各授業科目のシラバスには，授業ごとに達成目標（学生の到達目標）を掲げるとともに，同目標の学習･教育目標との関係性を明記している。シラバスにもとづく授業は，通年科目の場合，35週にわたって実施している。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

平成 20 年度に「希望学科再選択制度」を導入した（**資料５－１－②－１**）。同制度は，1 年次に４工学科の専門基礎をそれぞれ学んだ後，学生自身の希望と 1 年次の総合成績により，２年進級時に正式配属学科を選択するというものである。適性に応じた学科選択を可能とする制度である。共通で学ぶ授業科目として，「ものづくり工学実習」と「ものづくり工学基礎」がある（**資料５－１－②－２，３**）。

企業が求める実践的人材の要請に資するため，インターンシップの充実，ＡＣＥ（阿南高専キャリア教育推進プログラム），コーオプ教育を実施している。

インターンシップに関しては本科４年生の選択科目として実施している（**資料５－１－②－４**）。キャリア支援室が企業にアンケートを実施し，インターンシップの実現性を確認した上で，学生の希望と調整を行った後に派遣企業が決定される（**資料５－１－②－５**）。就業内容の改善等については担当教員が派遣先の企業を視察し，就業状況を確認し，企業からの要望を把握することで対応している（**資料５－１－②－６**）。

平成18年度より開始したＡＣＥでは，学生に「阿南高専生のキャリアデザイン・ワークブック」を配布し，ロングホームルームを活用し年４回，３年間で合計12回の職業指導プログラムを実施している（**資料５－１－②－７**）。高学年学生の就職活動に対する進路支援教員による面接指導等の全般的な進路指導を行っている（**資料５－１－②－８**）。

平成 19 年度からはものづくりエリート技術者養成コーオプ教育プロジェクトを運用している。３年生から実際に長期休暇を利用し，専門関連企業における仕事内容をステップアップしながら５年生まで就業することによって，就業基盤能力・デザイン能力・問題解決能力を養成している（**資料５－１－②－９～11**）。

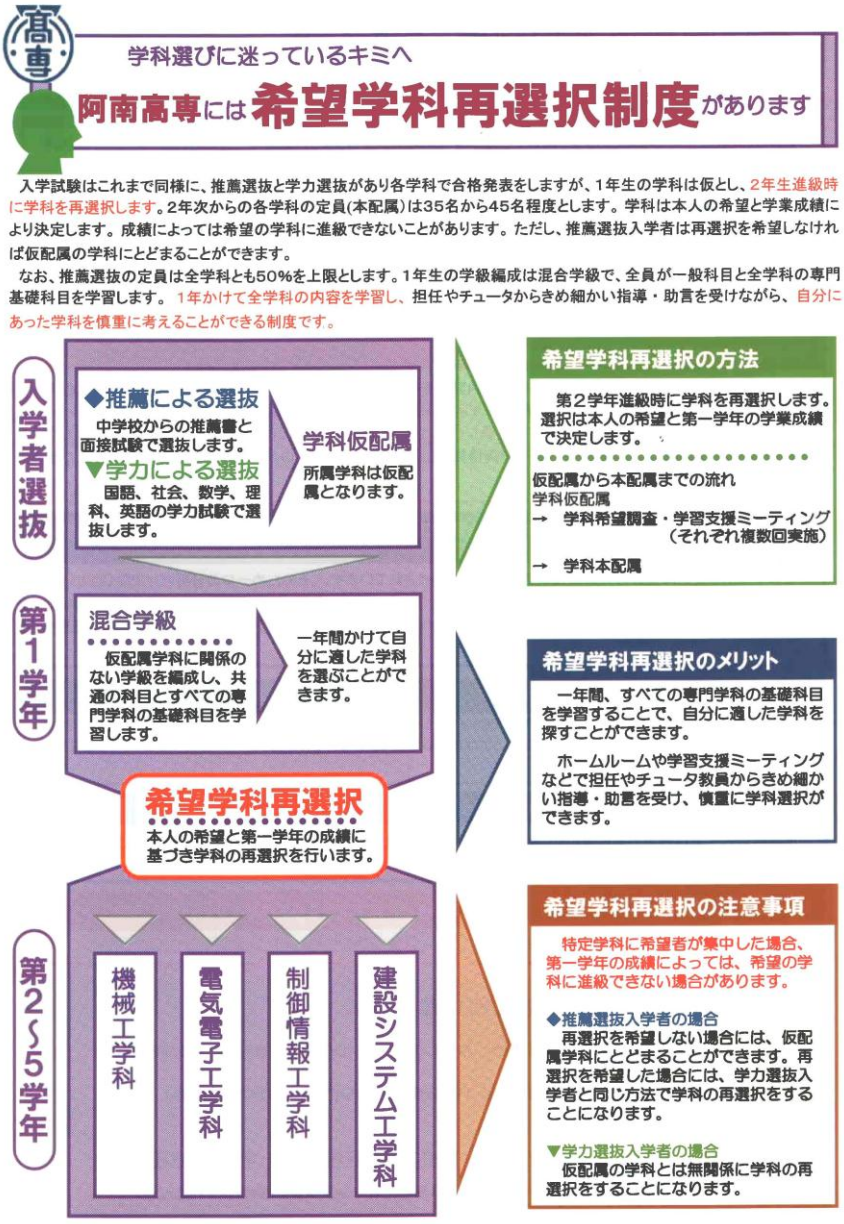
本校で開講していない授業の受講を求める学生ニーズに応え，多様な学習機会を保障するため，徳島大学と単位互換協定を結んでいる（**資料５－１－②－12，13**）。また，平成 21 年度より，学習成果の確認や発展の指標となる各種資格の取得に単位化を行っている（**資料５－１－②－14**）。

地元企業との意見交換及び学術発展動向の検討から，同企業による寄付講座を開設し，授業「材料工学１・２・３」を開講した（**資料５－１－②－15**）。

国際化を志向する中で，英語授業においてヒヤリング試験を課し，外部単位として TOEIC スコアを単位化した。また，米国ソノマ州立大学と語学研修に関する協定を締結し，語学研修制度を整えている（**資料５－１－②－16，17**）。さらに学生が英語を実際に使う機会と留学生との交流の場として「イングリッシュ・カフェ」を設けた（**資料５－１－②－18**）。そこでは学生が英語のみの会話とし，リラックスした雰囲気のなかで多くの日本人学生・留学生が参加している。このイングリッシュ・カフェは日本人学生にとって英会話能力と国際的コミュニケーション向上の場として有効なものとなっている。

資料５－１－②－１

希望学科再選択制度の紹介



（出典　希望学科再選択制度の紹介パンフレット）

資料５－１－②－２

ものづくり工学実習のシラバス

本科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	ものづくり工学実習 Basic Practice for Engineer	51103	川畑、中村、 福見、松保　他	前期 後期	4	必修	

【授業目的】

ものづくりに関わる技術者としての基礎を身につけるため、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、建設システム工学の4学科の内容を、1年間を4つの期間に分けローテーションで各分野の実験・実習を行って学ぶ。広い工学分野の知識を身につけることで、現在の社会が求めている複合融合分野の技術者となるための基礎を築き、ものづくりの楽しさを得ることで、2年次以降の専門科目の勉強に取り組む意欲を持つことを目標とする。

【到達目標】

1. 実験実習の目的，原理を理解し，正しい手順で実験実習を進めることができる．
2. 実験実習装置の使用法，原理を理解し，正しく使用することができる。
3. 実験実習データを整理分析し，報告書をまとめることができる。

【授業計画】 授業時間120時間

授業項目	授業時間	内　容
オリエンテーション、関数電卓演習など	8	
機械工学分野	28	1. ガイダンス：実習内容の説明、工場見学 2. フライス盤実習 3. 旋盤実習 4. 手仕上げ実習 5. 溶接実習 6. バイクの分解組み立て実習 7. まとめ: 作品コンテスト、レポート指導、学科の紹介
電気電子工学分野	28	1. はんだ付け練習、配線練習、テスターによる測定練習 2. LEDオブジェの製作 3. 500 in ONEによる電子回路製作実習1 4. 500 in ONEによる電子回路製作実習2 5. バーサライタの製作 6. 風力発電実験 7. 光通信実験
制御情報工学分野	28	1. ガイダンス、実習内容の説明 2. Legoロボットの製作(1) 3. Legoロボットの製作(2) 4. Legoロボット競技会 5. 2足歩行ロボットの動作確認(1) 6. 2足歩行ロボットのプログラミング(1) 7. 2足歩行ロボットのプログラミング(2)
建設システム工学分野	28	1. ガイダンス、実験の説明等 2. 構造系実験1 3. 構造系実験2 4. 土質実験1 5. 土質実験2 6. コンクリート実験1 7. コンクリート実験2

【履修上の注意】

提出物の期限は厳守すること。
2年生進級時の正式配属学科を考えるための情報を得ることのできる重要な科目です。世の中にある製品は複数の分野の技術者が協力して製作されています。そのため、一つの分野だけでなく他の分野の知識を持っていることは、社会に出てからたいへん役立ちますので、興味を持って学習してください。

【教科書】

各学科の担当教員が作成したテキストを使用する。

【参考書】

【成績評価の方法】

4分野それぞれ25%として総合的に評価する。それぞれの分野における評価は以下の通りである
機械工学：作品点80%、レポート点20%、　電気電子工学：製作物およびレポート：60%、筆記試験：40%、
制御情報工学：製作物50%、筆記試験50%、　建設システム工学：模型60%，レポート(計画書)40%

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

— 70 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－１－②－３

ものづくり工学基礎シラバス

本科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	ものづくり工学基礎 Basic Lecture and Exercise for Engineer	51101	奥本、當宮、 田中、湯城　他	前期 後期	2	必修	

【授業目的】

ものづくりに関わる技術者としての基礎を身につけるため、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、建設システム工学の4学科の内容を、1年間を4つの期間に分けローテーションで各分野の講義および演習によって学ぶ。広い工学分野の知識を身につけることで、現在の社会が求めている複合融合分野の技術者となるための基礎を築くことを目標とする。

【到達目標】

1. 機械工学分野の理論と応用に関する基礎的事項を習得し、説明することができる。
2. 電気電子工学分野の理論と応用に関する基礎的事項を習得し、説明することができる。
3. 制御情報工学分野の理論と応用に関する基礎的事項を習得し、説明することができる。
4. 建設システム工学分野の理論と応用に関する基礎的事項を習得し、説明することができる。

【授業計画】授業時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
オリエンテーション、関数電卓演習など	4	
機械工学分野	14	1. 機械工学科ガイダンス 2. Taller Tower　1 3. Taller Tower　2 4. ペーパークラフト飛行機　1 5. ペーパークラフト飛行機　2 6. 鋳造実習型製作 7. 鋳造実習鋳込
電気電子工学分野	14	1. 電気電子工学科の講義・実習内容の説明 2. 電気回路の基本事項について説明 3. 電気磁気の基本事項について説明 4. 機器分野の概論と最新技術紹介 5. 発電分野の概論と最新技術紹介 6. 通信分野の概論と最新技術紹介 7. 半導体分野の概論と最新技術紹介
制御情報工学分野	14	1. 情報分野の概論とプログラミングコンテストの紹介 2. プログラミング入門(1) 3. プログラミング入門(2) 4. プログラミング入門(3) 5. プレゼンテーション手法の概論 6. プレゼンテーション資料の作成 7. 発表会
建設システム工学分野	14	1. 学校・学科紹介、建設業の歴史 2. 安全・安心のための防災講座 3. 社会資本整備のための建設技術 4. 建設工事現場（四国横断道）見学 5. 持続可能な社会をつくるための環境講座 6. 生態系環境を守る現場見学 7. 建設ものづくりの基礎（高さと長さを測る）

【履修上の注意】

提出物の期限は厳守すること。
2年生進級時の正式配属学科を考えるための情報を得ることができる重要な科目です。世の中にある製品は複数の分野の技術者が協力して製作されています。そのため、一つの分野だけでなく他の分野の知識を持っていることは、社会に出てからたいへん役立ちますので、興味を持って学習してください。

【教科書】

各学科の担当教員が作成したテキストを使用する。

【参考書】

【成績評価の方法】

4分野それぞれ25%として総合的に評価する。それぞれの分野における評価は以下の通りである。
機械工学：演習成果50%、レポート50%、　電気電子工学：筆記試験60%、演習・レポート40%、
制御情報工学：筆記試験50%、演習成果50%、　建設システム工学：プレゼンテーション30%，レポート70%

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(C)，(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(f)，(g)，(h)

— 235 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－１－②－４

校外実習のシラバス

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	校外実習 Internship	29486	松浦史法	前期 後期	1	選択	JABEE

【授業目的】

企業における生産と技術の実際に触れることによって，技術者になるための心構えや自覚を促すと共に，実務経験を通して，視野の拡大と人間的成長を目標とする．

【到達目標】

1. 企業における基本的勤務態度を身につける．
2. 企業における基本的業務が理解できる．
3. 企業での実習成果の報告書を作成できる．
4. 企業での実習成果を発表できる．

【授業計画】授業時間30時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 実習先の決定	30	夏期休暇中に企業で，4日前後の期間で特定テーマについて企業の指導の元に実習及び研修を受ける．
2. 実習前の計画		企業内実習（インターンシップ）が可能な各企業・団体からの募集は不特定で不定期になるが，随時応募を募る予定である．応募が受領され次第に，企業からは実習開始時期や実施場所について連絡がある．充分に下調べをし，実習前に実習計画書を作成すること．
3. 実習内容の記録		実習派遣先ではその日の作業項目を振り返り，日報を作成する．
4. 実習成果のまとめ		実習後に成果の報告書を作成し，クラスメイト，機械工学科教官の前で発表を行う．自分ではひと通りの実習しか体験できないため，他の学生の発表も参考にすると良い．

【履修上の注意】

実習を完了することとレポート提出と報告会での発表は必須である．また期間中途での欠勤は履修放棄となり科目の修得条件を満たすことができないので注意すること．また往復の交通と期間中の通勤計画を作成する必要がある．実習期間前は健康に留意し，実習期間中は遅刻や欠勤等に十分注意を払い，毎日の勤務に励むことが大事である．なお，インターネット等を利用して情報を取り入れるための準備をしておくこと．

【教科書】

特になし

【参考書】

たとえば，「13歳のハローワーク」，村上龍著，幻冬舎，ISBN:4-344-00429-9

【成績評価の方法】

企業の実施担当者の評価を50%，報告書の提出状況・内容及び発表会の内容などを50%で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)，(B)，(C)
【関連するJABEE基準】(a)，(b)，(c)，(d)，(e)，(f)，(h)

— 103 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－１－②－５

平成２２年度　インターンシップに関するアンケート

貴　社　名
ご担当部署
ご担当者氏名

電話番号：　　FAX 番号：

E-mail：

○恐縮ですが、下記の該当する項目について、必要な事項をご記入ください。

１．２２年度受入について

☐ **予定している**（下表にご記入ください）

区分	受入予定学科名（本校の設置学科及び専攻科）	受入予定員数	男女問わない	内訳 男子	内訳 女子
本科	機械工学科４年	名	名	名	名
	電気電子工学科４年	名	名	名	名
	制御情報工学科４年	名	名	名	名
	建設ｼｽﾃﾑ工学科４年	名	名	名	名
専攻	専攻科１年（構造設計工学専攻）	名	名	名	名
	専攻科１年（電気・制御ｼｽﾃﾑ工学専攻）	名	名	名	名

☐ **不可である**
☐ **現在のところ決定していない状況である**
（この場合、参考として昨年度の実績をご記入ください）

２．実習内容について（作成されているものをお送りくだされば幸いです）

３．実習受入期間について（期間が決定していない場合、概ねの実働日数をご記入ください。）
平成２２年　月　日（　）～　月　日（　）：　日間程度

※　本科（機械工学科・電気電子工学科・制御情報工学科・建設ｼｽﾃﾑ工学科）の４学科は７月中旬から８月末まで。専攻科は２週間・５週間・７週間・１０週間の４種類の実習期間を設定しています（８月中旬から１１月末まで）。

４．実習期間中における宿泊施設について
①宿泊施設　☐ 会社施設使用可　☐ 会社施設使用不可　☐ 実習生にて確保する
②宿泊経費　☐ 会社負担　☐ 実習生負担

５．交通費について
①自宅から通勤の場合　☐ 会社負担　☐ 実習生負担
②自宅から宿泊施設への場合　☐ 会社負担　☐ 実習生負担
③宿泊施設から実習現場への場合　☐ 会社負担　☐ 実習生負担

６．その他（貴社の特定条件、スケジュール、女子受入時の条件等をご記入ください）

※ 本インターンシップにおける費用（日当）については、支給しないようお願いいたします。

以上、ご協力いただきまことに有り難うございました。

（出典　インターンシップ依頼先企業へのアンケート　平成 22 年度）

資料５－１－②－６

派遣教員提出用

インターンシップ状況調査報告書

平成 19年 9月 5日

教員氏名 川畑 成之 印

調査年月日	時間　平成 19年 8月 31日(金)時 13:00分～ 17時 30分
実習学生所属学科 学生氏名	学科(機械・電気電子・制御情報・建設システム)工学科　4年 氏名
実習先企業等の 配属先	
企業実習責任者	職名 氏名
調査項目等概要	○本校学生の様子：遅刻等もなく真剣に研修に取り組んでおり特に問題はない。15名の研修生がいるがその中でも選んでリーダーシップを発揮し皆をまとめてくれている。 ○研修内容等について：訪問日は研修最終日であり、研修成果報告会が4時間にわたり開催された。以下はそれから判明した研修内容である。10日間のうち5日くらいは午前、学校で配属先における現行プロジェクトに関わり開発ツールやプログラミング等を学習すると同時にビジネスマナー等の講座を受けていた。また3日間はマキタ、三菱自動車、ダイワ各社の工場見学を行った。学生にとって非常に有益であったとの報告があった。 ○高専に期待すること：他高専(沼津、仙台電波)の先生方もいらっしゃったので本校に限定せずお聞きしたい内容です。高専で5年間まじめに取り組んできた学生の能力には素晴らしいものがある。特にものづくりの能力については大学生より非常に優秀。今後もものづくりに重点をおいた教育を推進していらいたい。 所感　近年の専攻科設置に伴う高専の大学化には危惧している。むしろ不況との差別化をはかり、独自のカリキュラムで優秀な技術者を育成していらいたい。 所感　今年度より始まったとは思えない程しっかりしたカリキュラムによって実習が行なわれており、学生は皆充実した表情を見せていた。

（出典　派遣企業視察報告書の例　平成 19 年度）

資料５－１－②－７

低学年職業指導プログラム

表：低学年職業指導プログラムの内容と各段階での目標

	1	2	3	4
1年生	高専生活を有意義なものにするために	社会に出て働くことの意義	企業と社会	高専で学びながら身につけたいマナー
1年生修了の段階での目標： 将来の自分をイメージし，高専で何を学ぶのか決断できる				
2年生	会社の組織とエンジニアの仕事	企業にとって好ましい人材とは	必要とされるコミュニケーション力	先輩（卒業生）の体験に学ぶ
2年生修了の段階での目標： エンジニアとはどんな仕事なのか理解できる				
3年生	業界研究と企業研究	自分を知り，自分を知ってもらう	インターンシップ参加の目的と意義	就職・進学の流れ
3年生修了の段階での目標： 就職か進学かの決断をし，具体的な進路の候補を挙げられる				

（出典　低学年職業指導プログラムの年間計画表）

資料５－１－②－８

阿南高専キャリア支援室の利用実績

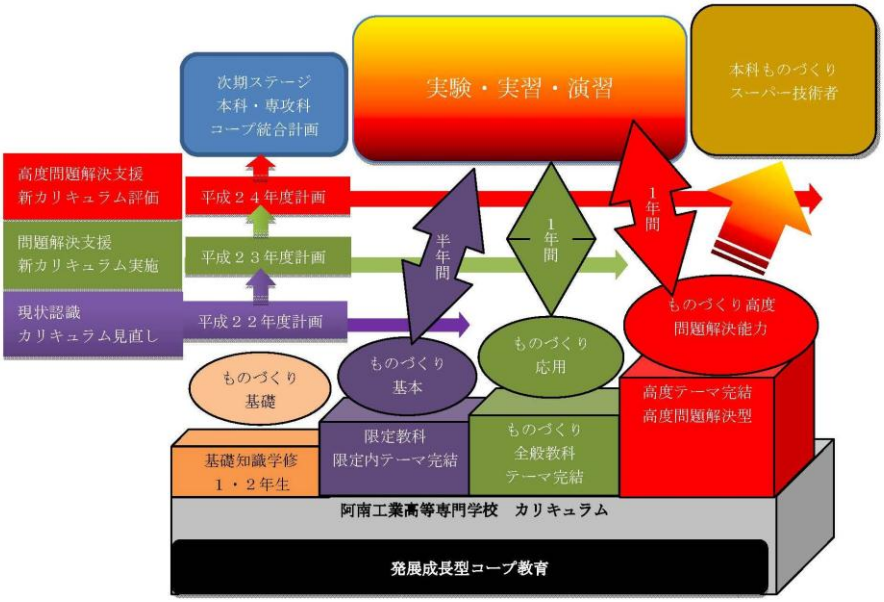
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
面接練習等に利用	延べ人数	51	85	※	237
履歴書添削指導	機械	14	35	※	22
	電気電子	36	40	※	26
	制御	31	38	※	22
	建設	37	41	※	22

平成23年4月キャリア支援室調べ
※平成21年度のデータは紛失

（出典　キャリア支援室の利用実績調査結果）

資料５－１－②－９

コーオプ教育概念図



阿南高専本科コーオプ教育　概念図（平成 22 年度～平成 24 年度）

（出典　コーオプ教育報告書　平成 22 年度）

資料５－１－②－10

阿南高専コーオプ参加企業数･学生数一覧

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
企業数	20	35	34	28
3年機械	14	14	12	11
3年電気	6	8	4	4
3年制御	5	7	3	3
3年建設	5	6	3	0
4年機械	－	13	13	10
4年電気	－	6	7	3
4年制御	－	5	4	2
4年建設	－	5	6	2
5年機械	－	－	10	9
5年電気	－	－	5	6
5年制御	－	－	5	3
5年建設	－	－	3	2

平成23年4月　キャリア支援室調べ

（出典　コーオプ参加企業数・学生数調査結果）

資料５－１－②－11

コープ教育成果報告会等の開催案内

平成２２年８月２４日

関　係　企　業　各位

阿南工業高等専門学校
キャリア支援室長　　正木　和夫
キャリア支援副室長　原野　智哉

「ものづくりエリート技術者育成コーオプ教育プロジェクト」
第４回企業合同推進運営委員会等の開催について（ご案内）

残暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は本校コーオプ教育に関しまして格別のご配慮とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、本校「ものづくりエリート技術者育成コーオプ教育プロジェクト」も３年が経過し、１期生全員が今年の４月に企業等へ巣立っていきました。就職した学生はコーオプ教育での就業経験を直ぐに活用していると確信していますし、進学した学生は就業経験で必要と感じた専門知識の習得により一層精進するものと考えております。
また、１期生の全プログラムの修了に伴い 2010 コーオプ教育シンポジウムを去る５月２１日(金)に開催し、本プロジェクトの成果を多くの高専へ情報発信することができました。参加企業には厚くお礼申し上げます。
これからも、参加企業の皆様にご協力いただき、本校の学生がコーオプ教育を通じて仕事への魅力を感じ、一人でも貴社へ就職し高専人材の獲得として結実すればと願っております。そのためにも本プロジェクトの制度、本校のカリキュラムは元より、企業就業プログラムに至るまで改善へ向け直接意見を頂き、活発なディスカッションを行いたく存じます。
ついては、学生・企業・教員の３者による企業合同推進運営委員会、学生による就業成果ポスター発表に加え、学生・企業・教員による意見交換会や、教員と企業の懇親会を下記のように企画しました。是非ともご出席くださるようお願い申し上げます。
なお、準備の都合上お手数ですが別紙に必要事項をご記入のうえ、９月１０日（金）までに、メールまたはＦＡＸにてご返信をお願いします。

記

開 催 日 時　：　平成２２年　９月２８日（火）　１３：３０～
場　　所　：　阿南工業高等専門学校創造テクノセンター棟４階マルチメディア室他

＜スケジュール＞

１．４年生ポスターセッション　４階マルチメディア室１　１３：３０～１５：００
・４年生就業学生１７名によるポスター展示およびポスターセッションを行います。
・企業・教員による優秀就業ポスター賞投票（学生の成果をご覧になり、投票をお願いします。）

２．第４回企業合同推進運営委員会　４階マルチメディア室２　１５：００～１６：５５
（ア）　校長挨拶
（イ）　就業成果報告または技術課題解決中間発表　各科１名
（ウ）　優秀就業ポスター賞の承認
（エ）　コーオプ教育状況・新規取組コーオプ教育関係プロジェクト紹介
（オ）　企業・学生・教員３者討論

３．意見交換会　本校高志会館食堂　１７：００～１８：００　※会費：２，０００円／人
・学生（コーオプ教育参加４年生全員）・企業・教員による情報交換を目的とした立食パーティです。軽食とし、学生も参加しますのでノンアルコールです。
・１名につき参加費２，０００円を当日受付時に集めさせていただきます。
・優秀就業ポスター賞授与式も行います。技術課題指導教員の紹介も兼ねております。

４．懇親会　阿南市内　１８：３０～２０：３０　※会費４，０００円程度／人

（出典　コーオプ教育委員会資料）

資料５－１－②－12

徳島大学との単位互換協定書

徳島大学工学部と阿南工業高等専門学校の教育・研究に関する協定書
に基づく学生の単位互換に関する実施要項

（趣旨）
第１条　この要項は、徳島大学工学部と阿南工業高等専門学校（以下「両校」という。）の教育・研究に関する協定に基づき、学生の単位互換に関する必要な事項を定める。

（受入）
第２条　両校の学生が、相互の定める授業科目の履修を希望するときは、受入校は、教育研究に支障のない場合に限り、派遣校の学生を受け入れるものとする。

（受入学生の範囲及び呼称）
第３条　この協定により受け入れる学生は、徳島大学工学部においては阿南工業高等専門学校本科４、５年生及び専攻科学生とし、阿南工業高等専門学校においては徳島大学工学部学生とし、それぞれ「特別聴講学生」と称する。

（履修できる授業科目の範囲）
第４条　特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲は次のとおりとする。
(1) 徳島大学工学部の学生は、阿南工業高等専門学校本科及び専攻科が開設する授業科目のうち徳島大学工学部が認めた授業科目とする。
(2) 阿南工業高等専門学校の学生は、徳島大学工学部が開設する授業科目のうち阿南工業高等専門学校が認めた授業科目とする。
(3) 卒業研究及び特別研究の授業科目については、相互に研究指導ができるものとする。

（履修期間）
第５条　特別聴講学生の履修期間は１年以内とし、授業科目の開講年度又は開講学期の間とする。

――――――――――――――　中略　――――――――――――――

（協議）
第 13 条　この実施要項に定めるもののほか、運用に関して必要な事項が生じた場合は、両校間で随時協議する。

（改廃）
第 14 条　この実施要項の改廃は、両校間の協議による。

附　則
この要項は、平成１７年１１月２２日から実施する。

（出典　徳島大学との単位互換協定関係書類）

資料５－１－②－13

徳島大学における単位互換科目履修手続き書類

学科主任	学級担任

徳島大学工学部と阿南工業高等専門学校の単位互換科目履修願

平成　　年　　月　　日

下記のとおり徳島大学工学部の授業科目を履修したいので，出願します。

記

1. 出願者

学科・専攻 学　　年	工学科 専　攻　第　　年次	フリガナ 氏　　名		男 ・ 女
現住所	〒　　－			
自　　宅 電話番号		携　　帯 電話番号		
生年月日	平成　　年　　月　　日　本籍地	県	※徳島大学 学生番号	

※過去（現在）特別聴講学生として受け入れられた者のみ記載すること。

2. 出願科目等（他の出願科目と開講日時が重複する等により受講できない科目の出願は認めない。）

開講学科	工学科	開講学年	第　　年次	担当教員	
授業科目		単位数	単位	時間割 コード	
開講日時	前期（第1ｸｫｰﾀ・第2ｸｫｰﾀ） 後期（第3ｸｫｰﾀ・第4ｸｫｰﾀ）　曜　講時 通　年	集中講義 月　日 ～ 月　日 月　日 ～ 月　日			
出願理由					

3. 出願科目の状況等

		開講学科	授業科目名	担当教員	単位数
出願する科目の全てを希望順に記載すること	1	工学科			単位
	2	工学科			単位
	3	工学科			単位
	4	工学科			単位
	5	工学科			単位

注：単位互換科目履修願は１科目について１枚提出すること。

以下は徳島大学にて記載します。

審査結果 （担当教員の押印）	許　可	不許可

（担当教員は押印後，各学科教務委員又は学務係まで送付ください。）

教務委員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

（出典　徳島大学単位履修願）

資料５－１－②－14

認定される資格の種類と単位数

資格取得に係る単位認定について

○　資格試験等に合格した場合は，「学外単位」として認定することができる。
　①　単位認定できる資格の名称及び単位数は，別表のとおりとする。
　②　学外単位として認定できる単位数は５単位を上限とする。
　③　単位の認定は，合格等の証明書を学年末試験までに教務係に提出されたものについては，その年度内に認定する。ただし，履修単位には含めない。

（別表）

学科等	資格の名称	単位数	備考
学科共通	ＩＴパスポート試験	1	
	工業英語３級	1	※
	工業英語２級	3	
	Ｃ言語プログラミング能力認定試験３級	1	※
	Ｃ言語プログラミング能力認定試験２級	3	
	３次元ＣＡＤ利用技術試験２級	1	※
	３次元ＣＡＤ利用技術試験準１級	2	
	３次元ＣＡＤ利用技術試験１級	3	
	２次元ＣＡＤ利用技術者試験２級	1	※
	２次元ＣＡＤ利用技術者試験１級	2	
機械	機械設計技術者３級	2	
電気電子	第一種電気工事士試験	1	
	第二種電気主任技術者試験	2	※
	第三種電気主任技術者試験	1	
	第一級陸上無線技術士試験	2	
制御	基本情報処理技術者試験	2	
	応用情報処理技術者試験	2	

学科等	資格の名称	単位数	備考
建設システム	測量士	4	※
	測量士補	2	
	２級土木施工管理技士	1	学科試験の合格者を認定する
	２級管工事施工管理技士	1	学科試験の合格者を認定する
	２級造園施工管理技士	1	学科試験の合格者を認定する
	福祉住環境コーディネーター検定（１級）	3	※
	福祉住環境コーディネーター検定（２級）	2	
	福祉住環境コーディネーター検定（３級）	1	
	２級ビオトープ計画管理士	1	
	２級ビオトープ施工管理士	1	
	環境計量士（濃度関係，騒音・振動）	4	
	公害防止管理者（水質，大気，騒音）	2	

注　備考欄※書きは，既に資格取得により単位を認定された学生が，さらに上位の等級の資格を取得した場合は，当該上位の等級の単位数と既に認定された単位数との差を単位として認定する。（例：工業英語３級合格者（１単位認定済み）が，工業英語２級を取得した場合，３単位を２単位認定に調整する。）

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－１－②－15

材料工学１のシラバス

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	材料工学1 Materials Engineering 1	29498	小西智也	後期	1	選択	JABEE

【授業目的】

半導体，セラミックス，高分子材料，合金など種々の新しい機能性の材料が広範な産業を発展させてきた。「材料工学」では，種々の機能を有する材料について製造法から物性評価までの基礎知識を学び，実践的技術者としての基礎的素養を身につけるとともに将来の材料開発にも資する基礎知識を身につける。

【到達目標】

1. 各種材料についてその特徴を説明できる。
2. 各種材料の機能的物性とその評価法を説明できる。
3. 新しい材料の開発について提言できる。

【授業計画】授業時間30時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 材料工学とは？	2	材料工学の概説
2. 材料工学の基礎	12	材料の種類と特性 材料化学の復習 材料の加工技術と評価技術 （バルク材料からナノスケール材料まで）
【後期中間試験】	2	
3. セラミックス材料	13	セラミックス材料の概説 セラミックスの物性と用途 セラミックスの作製・加工方法 セラミックスナノ粒子の作製・物性・用途
【後期期末試験】 【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】

これまでに習った基礎知識・基礎概念を活用し，ニーズや目的にマッチした材料設計についてよく理解してほしい．なるべく実例や具体例を挙げながら講義を進めて行きたいと考えています．

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法】

総合成績は，中間試験および期末試験を合わせて70%，平常点（小テスト，レポート等）を30%で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】（D1）
【関連するJABEE基準】（b），（d），（e），（g）

— 104 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－１－②－16

ソノマ州立大学との教育連携

SONOMA STATE UNIVERSITY
1801 East Cotati Avenue
Rohnert Park, CA 94928-3609

AMERICAN LANGUAGE INSTITUTE
707.664.2742 • Fax 707.664.2749
ssali@sonoma.edu • www.sonoma.edu/exed/ssali

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING FOR EDUCATIONAL COLLABORATION
BETWEEN
SONOMA STATE UNIVERSITY
AND
ANAN NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

Sonoma State University (SSU) and Anan National College of Technology (ANCT) hereby agree to promote educational collaboration, with the joint purposes of improving mutual understanding between the two academic institutions as well as between Japan and the United States.

1. The two academic institutions agree especially to promote educational collaboration in terms of English education and American culture.

2. SSU will accommodate students of ANCT (Anan students) at Sonoma State American Language Institute (SSALI) and provide them with an opportunity to study English, learn about and experience American hospitality and American culture, do field surveys, and visit American corporations.

―――――――――― 中略 ――――――――――

9. This agreement shall become effective when the representatives of the two institutions sign below, and shall remain effective for a period of five years. The agreement will be renewed unless each of the two institutions is notified of the end of the agreement in writing.

10. The text of this agreement is established in English and Japanese, both versions being equally valid. Should any questions on any part of the agreement arise, the two institutions will confer with each other to reach a mutual solution.

Sonoma State University

Ruben Armiñana Ph.D.
President

Date Feb 3 2005

Anan National College of Technology

Hiroshi Yoneyama Dr. of Eng.
President

Date Feb 3, 2005

（出典　ソノマ州立大学との教育連携に関する覚書）

資料５－１－②－17

ソノマ研修の過去５年間の参加実績

学術交流[Academic Exchange]

海外大学との交流[Exchange Programs with Overseas Universities]

平成17年2月，アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるソノマ州立大学と，教育連携に関しての覚書を締結しました。この覚書は，両校が相互理解を深め，同大学が本校の学生を受け入れ，語学研修プログラムを受講させるとともに，アメリカ企業への訪問・実地調査を含む国際経験を学ぶ機会を提供することで合意されました。これまで，この語学研修プログラムに17名の学生が受講しました。その受講者全員がソノマ州立大学で単位を取得し，その単位が本校で認定されました。

The Anan National College of Technology (ANCT) and Sonoma State University (SSU) established an agreement in 2005. This agreement provides an opportunity for mutual understanding between the schools. It also paved the way for ANCT students to study English at SSU. ANCT students receive academic credits for their studies at SSU.



ソノマ州立大学［SSU］



ソノマ州立大学留学［SSU］

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
3	2	6	4	2	2
				平成23年4月　教務係調べ	

（出典　学校要覧　平成 22 年度 P. 42）

資料５－１－②－18

イングリッシュ・カフェの案内

English Café

Want to join us for English Conversations?

Date: Every Tuesday

Time: 15:00-16:30

Place: International Exchange Office

(Library Building 2F)

イングリッシュ・カフェ

英会話に参加しませんか？

日時：毎週火曜日

時間：15 時～16 時 30 分

場所：国際交流室（図書館棟２階）





（出典　国際交流室メール案内）

（分析結果とその根拠理由）

学生や社会からの教育的ニーズ並びに学術の発展動向に配慮し，教育課程・授業科目内容の改定に反映している。その結果，希望学科再選択制度とものづくり共通教育，インターンシップ，コーオプ教育，他の高等教育機関との連携，企業による寄付講座，海外語学研修など充実した教育課程及び授業となっている。

観点５－２－①　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

一般教科は主に学習･教育目標（A），（B），（C）を達成するための科目を担当し，専門学科は主に教育目標（B），（C），（D），（E）を達成するための科目を担当している。一般科目の授業は基本的に講義及び演習で構成し**（前述資料５－１－①－２）**，専門学科における科目の授業は講義と実験実習系科目で構成している**（前述資料５－１－①－３～６）**。

一般科目では，講義を基本的授業形態とし，一部の理数系科目には実験実習を取り入れ**（資料５－２－①－１）**，人文系科目には対話・討論型授業やフィールド型授業を取り入れている**（資料５－２－①－２，３）**。英語においては，e-learningシステムを活用した授業を展開し，学生は自習等に活用している**（資料５－２－①－４）**。

専門学科では，学習･教育目標（B）を達成するための科目として情報リテラシーやコンピュータープログラムに関する科目を開講し，情報機器を活用しながら情報技術の基礎から応用までを習得させている**（資料５－２－①－５）**。学習･教育目標（C）については，実験実習科目におけるレポート作成や卒業研究論文の作成を通じてその達成を図っている**（資料５－２－①－６）**。学習･教育目標（D）については，講義内容の学習理解を深めるため基準の自学自習時間を設定し，各自習課題に明記し，学生の自習の目安としている**（資料５－２－①－７）**。学習･教育目標（E）については，ほとんどを実験実習系科目（演習も含む）で構成し，同科目は基本的に少人数で実施している**（資料５－２－①－８）**。全体としては，全開講科目のうち40～50％を実験実習系科目が占め（**資料５－２－①－９）**，ものづくり基盤技術を教育するために適した科目を多く配当している。なお，教育内容と実社会での就業内容との乖離を是正するために，企業経験のある卒業生にものづくり系授業の改善案の策定を依頼した**（資料５－２－①－10)**。

低学年の数学指導のひとつとして，数学成績が良くない学生に対して，数学教科教員が本科１～３年を対象に特別数学補習を実施している**（資料５－２－①－11)**。

国語では，養成しようとする能力を明確にし，効率的な教育を行うため，自作のテキストを作成し，使用している**（資料５－２－①－12)**。

資料５－２－①－１

実験・演習を取り入れた科目のシラバス

一般教科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	物理実験・演習 Experiments and Exercises of Physics	19233	中村 厚信 長澤 智明	前期	1	選択	

【授業目的】

1学年及び2学年の物理で学習した内容をより深く理解するために，実験及び演習を行う．そして実験のレポートを書くことを通して，自分の行ったことや考えたことを文章にまとめる能力を身につける．

【到達目標】

1. 安全を確保した上で実験を行うことができる．
2. 演習問題を解き，1学年及び2学年の物理で学習した内容をより深く理解する．
3. 実験レポートを書き，自分の考えをまとめることができる．

【授業計画】 授業時間30時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 演習 (1) 等加速度直線運動 (2) 落下運動 (3) 運動方程式 (4) 摩擦力を受ける運動 (5) 剛体のつりあい (6) 力学的エネルギー (7) 熱量と比熱	22	演習に関しては，当初は1年生で学んだ内容に関する問題を解いていく．2年生の内容は授業進度に合わせて行っていく．従って，演習に関しては「物理」の授業とリンクして行う．
2. 実験 (1) ガイダンス (2) 重力加速度の測定 (3) 比熱の測定 (4) ホイートストンブリッジ回路	8	安全上の注意や，レポートの書き方などに関するガイダンスを行った後，5～6名のグループに分かれて左の実験を行う． 実験後には，レポートを書いて提出する．もしレポート内容に不備などがあれば再提出させる．

【履修上の注意】

実験を行う場合には，常に安全上の注意を怠らないようにしてください．また実験後には，実験器具をもと通りにして，机上を掃除するなど，マナーを守ってください．なお，実験データを記入するためのノートや集計に利用する電卓などは必ず各自で準備しておいてください．

【教科書】

改訂版　高等学校　物理Ⅰ　　國友正和 他著　数研出版
実験に関しては，プリントを配布します．

【参考書】

改訂版　トライアル　物理Ⅰ　　数研出版編集部 編　数研出版
チャート式シリーズ　新物理Ⅰ　数研出版

【成績評価の方法】

総合成績は，実験（レポート，実験態度，実験器具の扱い方など）を40%，演習問題の提出状況などを60%の割合で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】（B），（D1），（D2）
【関連するJABEE基準】（b），（c），（d），（e），（g）

— 37 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－２－①－２

人文系科目の対話・討論型科目のシラバス

一般教科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	日本語総合 Japanese	19146	錦織浩文	前期 後期	2	選択	

【授業目的】

日本語の表現に関する基礎知識を理解し，論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする．
授業内容は，文章表現に関する学習・練習を基本とする．あわせて，読解力を育み，知識を広げるために，評論などの文章を読む．また，表現力・理解力を育むために漢字学習をおこなう．

【到達目標】

1. 様々な文章表現の形式を学び，実践を通して確認する．
2. 読書の習慣を身につける．
3. 漢字能力検定5級相当問題で8割程度の力をもつ．

【授業計画】 授業時間63時間

授業項目	授業時間	内　容
1. ガイダンス	1	シラバス説明
2. 表現1	4	文書作成（履歴書）
3. 理解1	8	敬語の練習
【前期中間試験】	1	
4. 表現2	8	詩歌作成（短歌・俳句）
5. 表現3	4	スピーチ（自己PR）
6. 理解2	5	文章読解（評論）
【前期期末試験】		
【答案返却】	1	
7. 表現4	6	文章作成（読書感想文）
8. 表現5	8	文章作成（超短文）
9. 理解3	6	漢詩・格言
10. 表現6	4	文書作成（通信文）
11. まとめ	6	本の紹介、まとめ
【後期期末試験】		
【答案返却】	1	

【履修上の注意】

毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので，各自で本を用意すること．

【教科書】

日本語総合1　錦織浩文　山田印刷

【参考書】

級別漢字学習7級～準2級　東京法令出版・出版第二部　とうほう

【成績評価の方法】

定期試験成績60%，平常点（提出物など）40%で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】（C）
【関連するJABEE基準】（f）

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－２－①－３

フィールド型授業を取り入れた科目のシラバス

一般教科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	ヒューマンヘルスケアリング Human Health Caring	19402	高山　直子	前期 後期	2	選択	

【授業目的】

福祉・看護分野におけるエンジニアとしての責任と素養を身につけ、高齢者や障害者を支援するための知識と技術を学び、社会が要求する問題を見いだすことができる。

【到達目標】

1.高齢者や障害者に対する日常生活行動について、支援する知識と技術を理解する。
2.ノーマライゼーションを理解し、バリアフリーやユニバーサルデザインについて説明できる。
3.高齢者や障害者が抱えている問題をエンジニアの視点で見いだすことができる。

【授業計画】授業時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
1.ヒューマンヘルスケアリングの概念 2.成人・老年各期の特徴と発達課題	4	1.HHCの定義・構成要素、ケアリング、介護・看護 2.成人期・老年期・終末期の特徴と発達課題、
中間試験	4	3.生命倫理とワークショップ　4.障害者との共生(VTR)
3.ヒューマンヘルスケアリングの技術	12	5.保健医療と現代社会　6.観察のスキル 7.コミュニケーションの理論と技法 8.プロセスレコード　9.ロールプレイ　10.コミュニケーションスキル
定期試験	6	
4.介護老人福祉施設実習	4	11.栄養の基礎知識　12.食事援助のスキル 13.食事実習 14.排泄の基礎知識　15.活動・ボディメカニクス、レクリェーションの援助スキル 16.17.移動動作の知識と実技
5.社会福祉サービス	10	
中間試験	6	18.車イスの基礎知識、19.車いす体験 20.高齢者体験
6.ノーマライゼーションとバリアフリー	8	21.感染症の基礎知識　22.23.介護老人福祉施設実習 24.生活環境の調整　25.睡眠・休息
7.福祉用具とユニバーサルデザイン 期末試験	6	26.皮膚の生理と清潔 27.衣生活 28.福祉と介護保険制度 29.ノーマライゼーションとバリアフリー 30.福祉用具と福祉車両、ユニバーサルデザイン

【履修上の注意】

長寿社会のなかで、幅広く学んだ知識をエンジニアとして共生する社会づくりに役立ててください。

【教科書】

ケアリングスキル入門　教育出版センター

【参考書】

日本人の生活と看護　坂田三允　中央法規

【成績評価の方法】

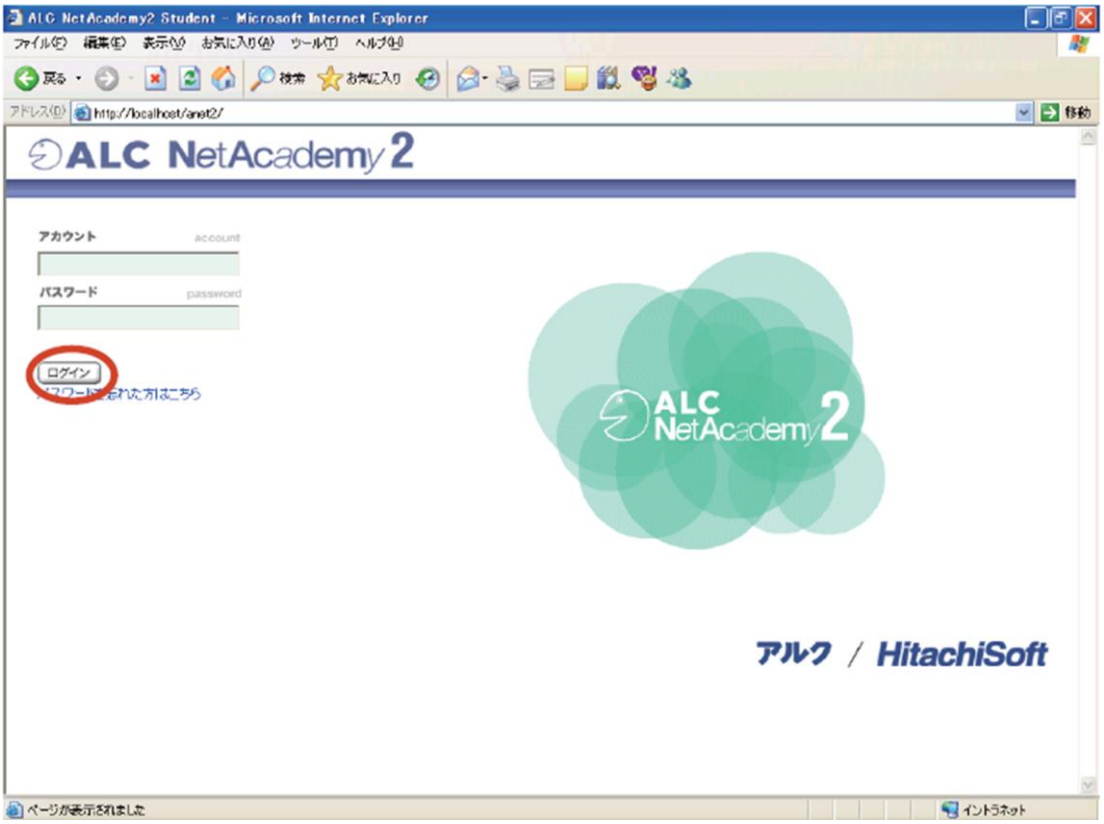
実習成績レポート50%、 定期試験50%

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)
【関連するJABEE基準】(a), (b), (d)

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－２－①－４

e-learning による学習



（出典　e-learning 画面）

資料５－２－①－５

情報リテラシーに関する科目のシラバス

本科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	情報リテラシー Computer Literacy	51107	石橋賢諭、上原信知	前期 後期	2	必修	

【授業目的】

技術者として身につけておくべきコンピュータの基本操作を実習によって修得する。また、専門教科を学習する上で必要なソフトウエアとハードウエアの基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

1. パソコンを使うときに守るべきマナーを理解する。
2. ワープロや表計算のソフトを学習する。
3. パソコンの構造やネットワークの仕組みについて理解する。
4. 簡単なWEBページを作成することができる。

【授業計画】授業時間64時間

授業項目	授業時間	内　容
1. オリエンテーション	2	(1)オリエンテーション、システム使用上の注意点
2. パソコンの基本操作	6	(1)情報セキュリティーとマナーについて (2)Windowsの基本操作 (3)メールの使用法
3. Wordと文書作成	8	(1)Wordの基本操作 (2)Wordによる文章入力 (3)表や画像を活用した文書作成
【前期中間試験】	1	
4. Excelとデータ処理	8	(1)Excelの基本操作 (2)基礎的な表計算 (3)関数とグラフの利用
5. Power Pointとプレゼンテーション	6	(1)Power Pointの基本操作 (2)テキストの入力 (3)図やグラフの活用
【前期期末試験】 【答案返却】	1	
6. レポート作成	2	(1)オフィスソフトによるレポート作成
7. コンピュータの歴史	2	(1)CUIからGUIへ
8. ディレクトリ構造	4	(1)ディレクトリ構造について (2)コマンドライン操作
9. ハードウェアとソフトウェア	4	(1)パソコンのハードウェア構成 (2)ソフトウェアの分類
10. 演習	2	(1)演習
【後期中間試験】	1	
11. 情報の表現	6	(1)2進数の計算 (2)小数や負の数の2進数表示 (3)浮動小数点法、文字コード
12. コンピュータネットワーク	8	(1)LANとWAN、IPアドレス (2)プロトコル、URL (3)タグによるWEBページ作成 (4)インターネットの利用とトラブル例
13. 演習	2	(1)演習
【後期末試験】 【答案返却】	1	

【履修上の注意】

情報リテラシーは、技術者にとって非常に大切な道具として、日常的に利用します。これに対し、ハードウエアやソフトウエアは日進月歩ですから、常に新しい知識や技法を修得する必要があります。この為、マニュアルを読んで理解し、それを活用することに習熟しなければなりません。授業では、情報リテラシーの一部しか取り扱いませんので、自分から進んで勉強し、得られた知識を応用する習慣を身につけてください。

【教科書】

Windows Vista 対応　Office 2007 実業出版編集部編　実業出版(株)

【参考書】

超図解　Word で困った　こんな時どうする　エクスメディア著　(株)エクスメディア
情報処理入門　松下浩明　今城一夫　宮武明義　著　コロナ社

【成績評価の方法】

前期成績は、定期試験(前期中間・期末)を50%、レポートなどの平常点を50%で評価し、後期成績は定期試験(前期中間・期末)を60%、レポートなどの平常点を40%で評価する。総合成績は前期成績と後期成績の平均とする。

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)、(B)、(D1)
【関連するJABEE基準】(a)、(b)、(c)、(d)、(e)、(g)

(出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校)

資料５－２－①－６

レポート指導のある実験系科目のシラバス

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	機械工学実験 Experiments in Mechanical Engineering	21444	西岡,西野,原野 大北,西本	前期 後期	3	必修	JABEE 学修単位

【授業目的】

機械工学実験は座学で学んだ事柄の実証であり，機械工学に関連した種々の力学的現象や材料などの性質を調べ，諸機械の特性を自らの実験によって直接体得し，理解することを目標とする．機械工学に関する各分野について多くの実験を行い，幅の広い実験基礎能力を習得するとともに，創造力の育成を目的とする．

【到達目標】

1.実験の目的・原理を理解し，明記された実験方法に基づき実験を遂行できる．
2.実験装置等の原理を理解し，取り扱いと測定方法を体得する．
3.実験誤差を学び，測定値の持つ意味を理解する．
4.実験結果を整理・分析し，報告書（レポート）をまとめる能力を習得する．
5.スターリングエンジンカーを創造的な設計により製作できる．

【授業計画】授業時間91時間＋自学自習時間45時間

授業項目	授業時間	内　容
1. オリエンテーション	2	安全教育・実験の心得・レポートの書き方
2. スターリングエンジンカー設計	28	(1)エンジン部設計 (2)シャーシ部設計 (3)設計審査と製作準備
3. スターリングエンジンカー製作Ⅰ	12	(1)部品切り出し (2)エンジン部加工
4. スターリングエンジンカー製作Ⅱ	12	(1)シャーシ部加工 (2)組立て・試走
5. 流体力学	12	(1)60°三角セキの流量係数の測定 (2)円管摩擦係数の測定 (3)オリフィス・ノズル・ベンチュリー管の流量係数の測定
6. 材料強度	12	(1)引張り強さの測定 (2)衝撃強さと硬さの測定 (3)実験考察，強度コンテスト
7. 塑性加工	12	(1)深絞り加工 (2)張出加工 (3)材料の成形性
【期末試験・習熟度試験】		習熟度試験
【答案返却】	1	

【履修上の注意】

実験前にあらかじめ指導書を熟読し，内容を理解しておくことが望ましい．実験に際しては必ず実験ノートを用意する．実験ノートには，実験データや実験の状況を図・表を交えて丁寧に記述することはもちろん，実験中に気づいた事柄なども記述する．また，実験においてレポートの提出は必須である．期限内にレポートを作成し提出すること．レポートの提出がない場合には実験を欠席したものとみなす．

【教科書】

機械工学実験指導書　阿南工業高等専門学校機械工学科編　阿南高専機械工学科発行

【参考書】

機械工学実験法　小茂鳥和生　編　日刊工業新聞社

【成績評価の方法】

各ショップの評価（製作物，レポート）を90%，習熟度試験の評価を10%として評価する．
なお，欠席した場合（レポート未提出含む）には単位が認められないので注意すること．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D2)，(E1)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－２－①－７

学修単位について

「学修単位」では，講義科目と演習・実験・実習科目で授業時間と単位の関係が違います。講義科目の場合は，例えば，A．週２校時（90分授業）で半年間（15週以上）の授業時間と週180分で半年間（15週以上）の自学自習時間とで２単位，B．週２校時（90分授業）で半年間（15週以上）の授業時間と週180分で半年間（15週以上）の自学自習時間（そのうち週90分で半年間（15週以上）の補講時間を含む）とで２単位，C．週２校時（90分授業）で１年間（30週以上）の授業時間と週45分で１年間（30週以上）の自学自習時間とで２単位というような３種類の科目があります。演習・実験・実習科目では，例えば，半年間（15週以上）の授業時間と授業時間の半分の時間以上の自学自習時間で２単位というようになります。「学修単位」では，授業に出席して試験を受けるだけでは単位を得ることはできません。単位を得るためには，予習・復習などの自学自習が求められます。参考までに講義科目のAからDまでを表にまとめると以下のようになります。

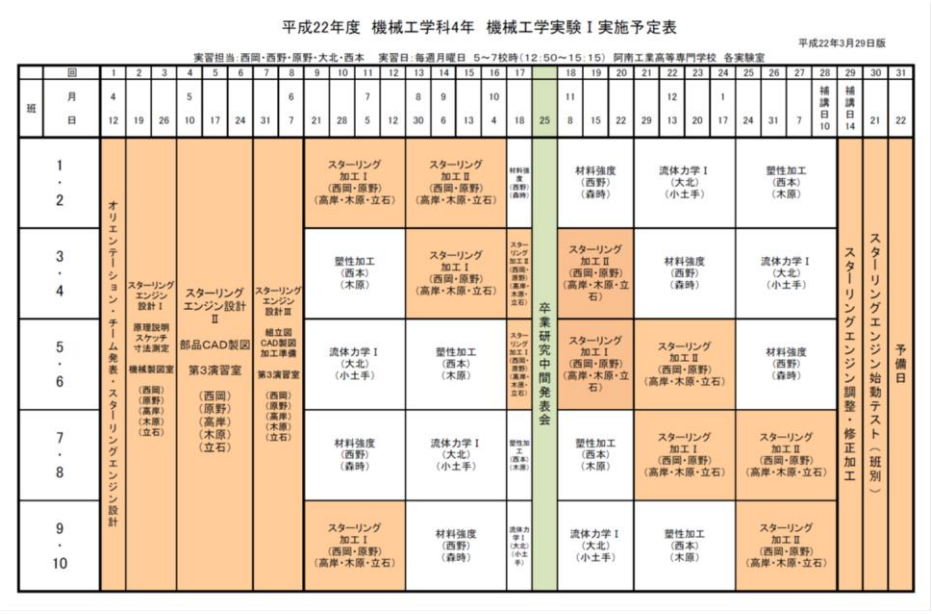
＜２単位講義科目の場合＞

	区分	授業時間（時間）	自学自習時間（時間）
学修単位	A	30	60
学修単位	B	30	60（30時間の補講時間を含む）
学修単位	C	60	30
履修単位	D	60	—

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－２－①－８

少人数での実験実習の実施例



平成22年度　機械工学科4年　機械工学実験Ⅰ実施予定表

平成22年3月29日版

実習担当：西岡・西野・原野・大北・西本　実習日：毎週月曜日 5～7校時（12:50～15:15）阿南工業高等専門学校 各実験室

班	回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	4	19	26	5	17	24	31	6	21	28	5	12	30	6	13	4	18	25	8	15	22	29	13	20	17	24	31	7	14	21	22
	日	12			10				7			7			9		10			11				12							補講日10		
1・2		オリエンテーション・チーム発表・スターリングエンジン設計	スターリングエンジン設計Ⅰ 原理説明 スケッチ寸法測定 機械製図室 （西岡）（原野）（高岸）（木原）（立石）		スターリングエンジン設計Ⅱ 部品CAD製図 第3演習室 （西岡）（原野）（高岸）（木原）（立石）			スターリングエンジン設計Ⅲ 組立図 CAD製図 加工準備 第3演習室 （西岡）（原野）（高岸）（木原）（立石）		スターリング加工Ⅰ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				スターリング加工Ⅱ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				材料強度（西野）（森時）		材料強度（西野）（森時）		流体力学Ⅰ（大北）（小土手）			塑性加工（西本）（木原）				スターリングエンジン調整・修正加工	スターリングエンジン始動テスト（一班別）	予備日
3・4										塑性加工（西本）（木原）				スターリング加工Ⅰ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				スターリング加工Ⅱ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				スターリング加工Ⅱ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				材料強度（西野）（森時）		流体力学Ⅰ（大北）（小土手）				
5・6										流体力学Ⅰ（大北）（小土手）				塑性加工（西本）（木原）				スターリング加工Ⅰ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				スターリング加工Ⅰ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				スターリング加工Ⅱ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）		材料強度（西野）（森時）				
7・8										材料強度（西野）（森時）				流体力学Ⅰ（大北）（小土手）				塑性加工（西本）（木原）				塑性加工（西本）（木原）				スターリング加工Ⅰ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）		スターリング加工Ⅱ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				
9・10										スターリング加工Ⅰ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				材料強度（西野）（森時）				流体力学Ⅰ（大北）（小土手）				流体力学Ⅰ（大北）（小土手）				塑性加工（西本）（木原）		スターリング加工Ⅱ（西岡・原野）（高岸・木原・立石）				

（出典　実験実習班分け事例：機械工学科　平成 22 年度）

資料５－２－①－９

講義と実験系実習科目との割合

実験実習系科目の占める割合

	一般教科	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科
実験実習系科目の単位数	1	51	42	46	40
全開講科目の単位数	92	99	107	100	102
実験実習系科目の割合	1.1%	51.5%	39.3%	46.0%	39.2%

一般教科

必修選択の別	授業科目	単位数
必修科目	基礎数学1	4
	数学A	2
	英語1	2
	基礎数学2	4
	数学B	2
	英語2	3
	微分積分	4
	数学C	1
	微分方程式	1
	英語3	3
	英語総合	2
	必修科目合計単位数	28
選択科目	日本語総合	6
	倫理	2
	物理	3
	化学1	2
	保健	1
	体育	9
	美術・デザイン	2
	英文法	2
	英文読解英作文	6
	地理	2
	世界史	2
	物理実験・実習	1
	化学2	2
	日本史	2
	政治社会	2
	英語の語彙・文法(1)	1
	英語の語彙・文法(2)	1
	法学	2
	経済	2
	化学3	2
	ヒューマンヘルスケアリング	2
	英語総合	2
	日本語の表現	2
	英語の語彙・文法(3)	1
	英語の語彙・文法(4)	1
	経済学	2
	バイオテクノロジー	2
	選択科目合計単位数	84
一般科目合計単位数		92

機械工学科

必修選択の別	授業科目	単位数
必修科目	ものづくり工学基礎	2
	ものづくり工学実習	4
	デザイン基礎	2
	情報リテラシー	2
	機械製図	2
	機械工作実習	3
	機械設計製図	6
	機械工学創造実習	3
	機械工学実験	5
	卒業研究	10
	必修科目合計単位数	39
選択科目	情報処理	4
	加工学	3
	応用物理1	2
	材料力学	4
	材料学	3
	機構学	1
	機械要素設計	1
	応用数学1	2
	応用数学2	2
	応用物理2	2
	材料力学実習	1
	工業力学	2
	水力学	2
	水力学実習	1
	熱力学	2
	熱力学実習	1
	文献講読	1
	電気電子工学概論	1
	メカトロニクス	2
	3次元CAD	1
	校外実習	1
	材料工学1	1
	制御システム工学	2
	応用物理3	2
	生産技術概論	2
	プログラミング実習	2
	流体力学	2
	機械力学	2
	熱工学	2
	材料科学	1
	塑性加工工学	1
	環境工学	2
	材料工学2	1
	材料工学3	1
	選択科目合計単位数	60
専門科目合計単位数		99

電気電子工学科

必修選択の別	授業科目	単位数
必修科目	ものづくり工学基礎	2
	ものづくり工学実習	4
	デザイン基礎	2
	情報リテラシー	2
	ディジタル回路	1
	電気磁気学	2
	電気回路論	2
	電気電子工学実験	12
	電気計測	2
	電子回路	2
	電子回路論	2
	電子回路設計製作実習	2
	創造工学実習	2
	卒業研究	10
	必修科目合計単位数	47
選択科目	電気電子製図	1
	応用物理1	2
	電気磁気学	2
	電気磁気学・演習	2
	電気回路論	2
	電気回路論・演習	2
	電子工学	1
	ディジタル回路	1
	電気機器工学1	1
	応用数学1	2
	応用数学2	2
	応用物理2	2
	制御工学1	2
	プログラミング実習	2
	送配電工学	4
	電気電子材料	2
	電気機器工学2	2
	電気機器工学3	1
	校外実習1	1
	校外実習2	1
	材料工学1	1
	電磁波工学	2
	原子力工学	2
	パワーエレクトロニクス	1
	電気法規	1
	応用物理3	2
	高電圧工学	1
	制御工学2	2
	半導体電子工学	2
	オプトエレクトロニクス	2
	材料工学2	1
	材料工学3	1
	通信工学理論	2
	原検工学	2
	情報理論	2
	電波法規	1
	選択科目合計単位数	80
専門科目合計単位数		107

制御情報工学科

必修選択の別	授業科目	単位数
必修科目	ものづくり工学基礎	2
	ものづくり工学実習	4
	デザイン基礎	2
	情報リテラシー	2
	電気基礎	2
	回路技術実習	2
	プログラミング実習	2
	回路技術基礎	2
	マイクロコンピュータ	1
	組み込みマイコン実習	3
	制御情報実験	4
	制御工学1	2
	計測工学	2
	ロボット製作実習	2
	卒業研究	10
	必修科目合計単位数	42
選択科目	データ構造とアルゴリズム	2
	計算機基礎実習	2
	応用物理1	2
	プログラミング実習	2
	ソフトウェア設計	2
	情報処理実習	2
	応用数学1	2
	応用数学2	2
	応用物理2	2
	文献講読	2
	回路設計	2
	電子回路	2
	プログラミング応用	2
	ロボット工学基礎	2
	機械工学概論	2
	校外実習	1
	創造工学ゼミナール	2
	材料工学1	1
	応用物理3	2
	信号処理基礎	2
	制御工学2	2
	制御工学3	2
	情報理論	2
	システム開発	2
	生産技術概論	2
	CADシステム	2
	ソフトウェア工学	1
	言語処理	1
	ネットワーク技術	2
	計算機工学	2
	材料工学2	1
	材料工学3	1
	選択科目合計単位数	58
専門科目合計単位数		100

建設システム工学科

必修選択の別	授業科目	単位数
必修科目	ものづくり工学基礎	2
	ものづくり工学実習	4
	デザイン基礎	2
	情報リテラシー	2
	構造力学基礎	1
	測量学1	2
	材料学	1
	測量実習	4
	構造力学1	2
	水理学1	2
	土質工学1	2
	土質実験	2
	水理実験	1
	環境実験	1
	卒業研究	10
	必修科目合計単位数	38
選択科目	CAD製図	1
	環境生物学	1
	応用物理1	2
	測量学2	2
	データ処理	1
	プログラミング1	1
	応用数学1	2
	応用数学2	2
	応用物理2	2
	構造力学2	4
	構造工学1	2
	水理学2	2
	水工学	2
	土質工学2	2
	測量学3	2
	コンクリート構造学1	2
	建設システム設計製図	2
	プログラミング実習	2
	電気電子工学概論	1
	校外実習	1
	建設システム総合実習	1
	材料工学1	1
	応用物理3	2
	施工管理学	2
	環境工学1	2
	都市計画	1
	建築計画	2
	建設システム設計製図	2
	構造工学2	2
	構造解析学	2
	応用材料学	2
	環境工学2	2
	コンクリート構造学2	2
	景観工学	1
	地球計画	2
	材料工学2	1
	材料工学3	1
	選択科目合計単位数	84
専門科目合計単位数		102

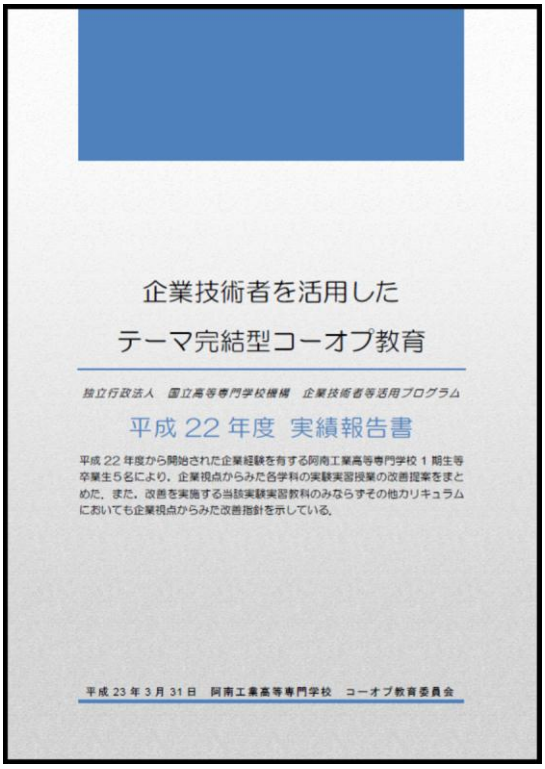
(注)　緑色で塗りつぶした科目：　機械(座学)と実習との割合が同程度(50:50)のもの

　　黄色で塗りつぶした科目：　実習・実験・実習が主体となるもの

（出典　講義と実験実習科目との割合調べ　平成 22 年度）

資料５－２－①－10

実験・実習科目の改善提言



企業技術者を活用した

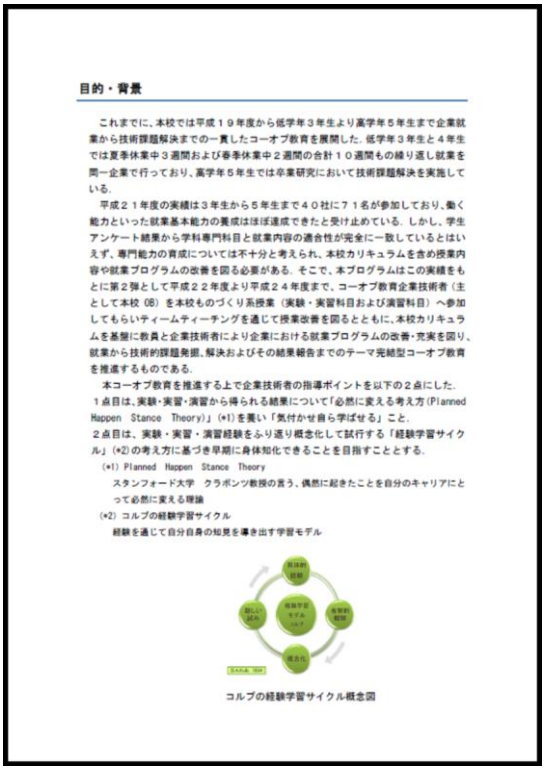
テーマ完結型コーオプ教育

独立行政法人　国立高等専門学校機構　企業技術者等活用プログラム

平成 22 年度 実績報告書

平成 22 年度から開始された企業経験を有する阿南工業高等専門学校１期生等卒業生５名により，企業視点からみた各学科の実験実習授業の改善提案をまとめた．また，改善を実施する当該実験実習教科のみならずその他カリキュラムにおいても企業視点からみた改善指針を示している．

平成 23 年 3 月 31 日　阿南工業高等専門学校　コーオプ教育委員会



目的・背景

これまでに，本校では平成１９年度から低学年３年生より高学年５年生まで企業就業から技術課題解決までの一貫したコーオプ教育を展開した．低学年３年生と４年生では夏季休業中３週間および春季休業中２週間の合計１０週間もの繰り返し就業を同一企業で行っており，高学年５年生では卒業研究において技術課題解決を実施している．

平成２１年度の実績は３年生から５年生まで４０社に７１名が参加しており，働く能力といった就業基本能力の養成はほぼ達成できたと受け止めている．しかし，学生アンケート結果から学科専門科目と就業内容の適合性が完全に一致しているとはいえず，専門能力の育成については不十分と考えられ，本校カリキュラムを含め授業内容や就業プログラムの改善を図る必要がある．そこで，本プログラムはこの実績をもとに第２弾として平成２２年度より平成２４年度まで，コーオプ教育企業技術者（主として本校 08）を本校ものづくり系授業（実験・実習科目および演習科目）へ参加してもらいティームティーチングを通じて授業改善を図るとともに，本校カリキュラムを基盤に教員と企業技術者により企業における就業プログラムの改善・充実を図り，就業から技術的課題発掘，解決およびその結果報告までのテーマ完結型コーオプ教育を推進するものである．

本コーオプ教育を推進する上で企業技術者の指導ポイントを以下の２点にした．

１点目は，実験・実習・演習から得られる結果について「必然に変える考え方（Planned Happen Stance Theory）」（*1）を養い「気付かせ自ら学ばせる」こと．

２点目は，実験・実習・演習経験をふり返り概念化して試行する「経験学習サイクル」（*2）の考え方に基づき早期に身体知化できることを目指すこととする．

（*1）Planned Happen Stance Theory

スタンフォード大学　クランボンツ教授の言う，偶然に起きたことを自分のキャリアにとって必然に変える理論

（*2）コルブの経験学習サイクル

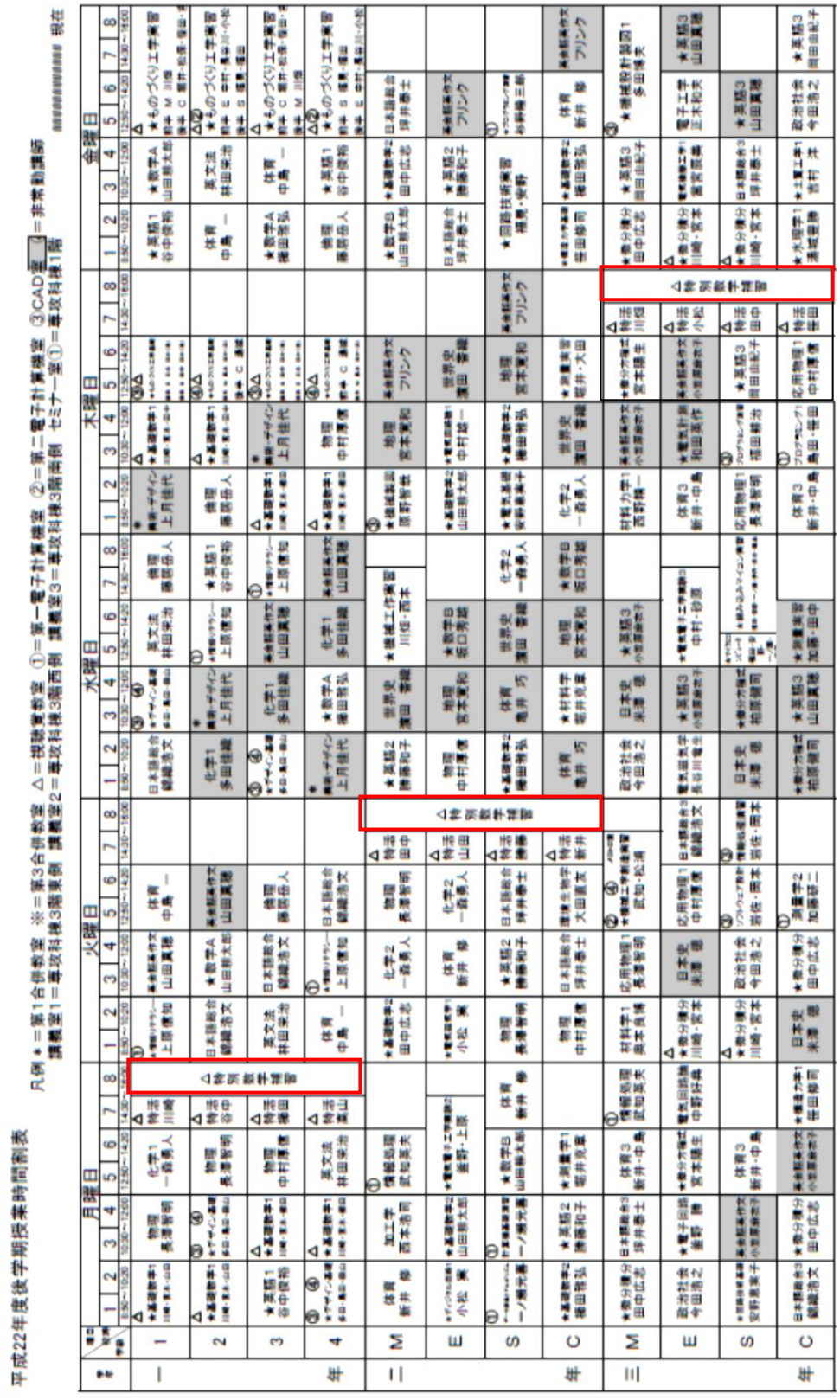
経験を通じて自分自身の知見を導き出す学習モデル

コルブの経験学習サイクル概念図

（出典　コーオプ教育実績報告書　平成 22 年度）

資料５－２－①－11

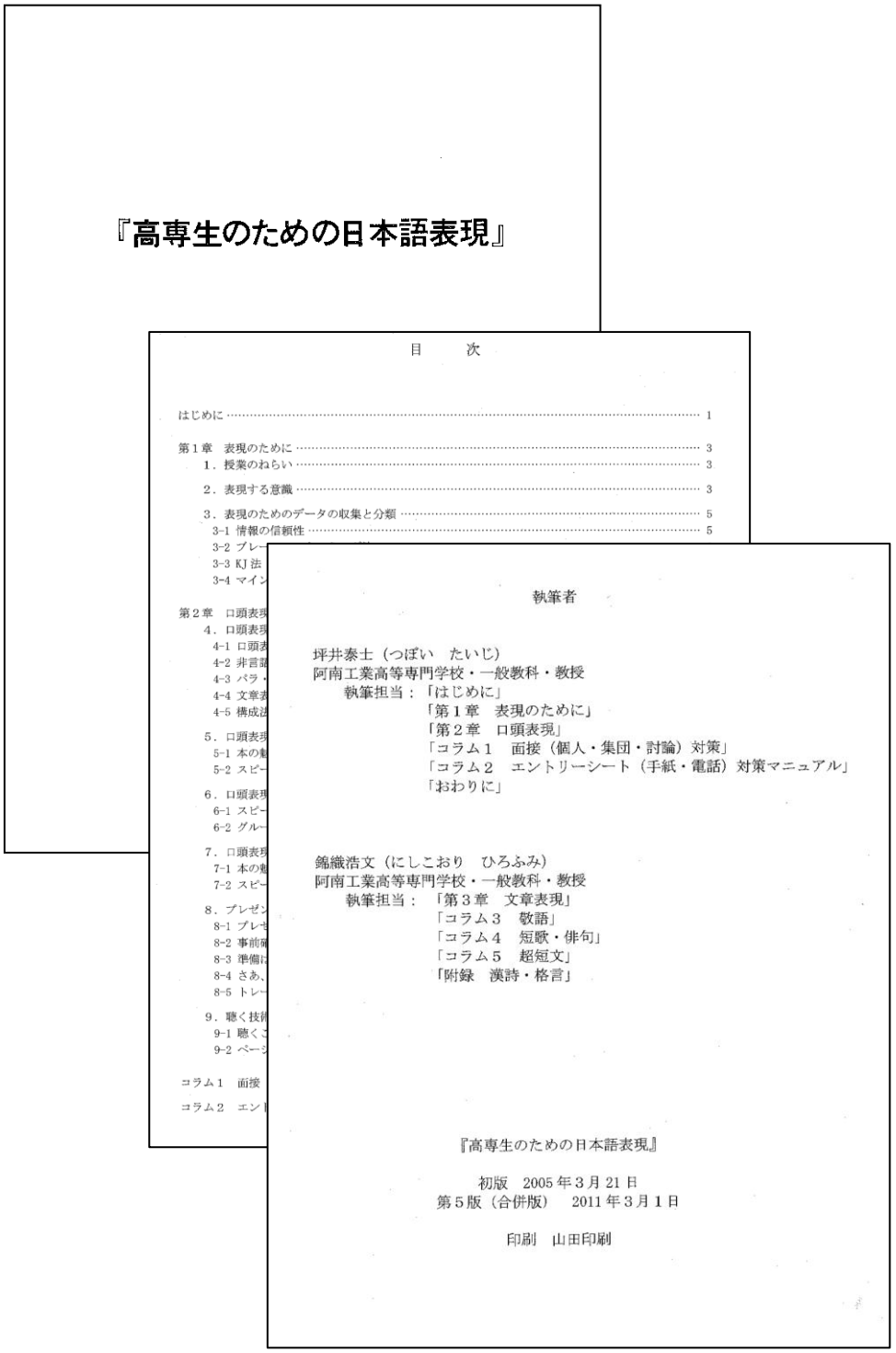
特別数学補習の実施状況



（出典　後学期授業時間割表　平成 22 年度　）

資料５－２－①－12

自作テキストを用いた国語の授業



『高専生のための日本語表現』

目　　次

はじめに …… 1

第１章　表現のために …… 3
1．授業のねらい …… 3
2．表現する意識 …… 3
3．表現のためのデータの収集と分類 …… 5
3-1 情報の信頼性 …… 5

執筆者

坪井泰士（つぼい　たいじ）
阿南工業高等専門学校・一般教科・教授
執筆担当：「はじめに」
「第１章　表現のために」
「第２章　口頭表現」
「コラム１　面接（個人・集団・討論）対策」
「コラム２　エントリーシート（手紙・電話）対策マニュアル」
「おわりに」

錦織浩文（にしこおり　ひろふみ）
阿南工業高等専門学校・一般教科・教授
執筆担当：「第３章　文章表現」
「コラム３　敬語」
「コラム４　短歌・俳句」
「コラム５　超短文」
「附録　漢詩・格言」

『高専生のための日本語表現』

初版　2005年３月21日
第５版（合併版）　2011年３月１日

印刷　山田印刷

（出典　日本語のテキスト　平成22年度）

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的に照らし，もの作りを重視して実験実習系科目を全体の 40～50%配当するなど，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスは適切である。

また，教育の目的のよりよい達成のため，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用，自作テキストの活用など学習指導法を工夫している。さらに補習等を通じ基礎学力不足への対応した指導に配慮している。

観点５－２－②：教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育により養成しようとする人材像を校訓及び教育理念に定め，学習･教育目標として具体化している**（前述資料１－１－①―３）**。教育課程は，学習･教育目標に照らして編成している**（例として前述資料５－１－①－２）**。

シラバスは，これらの校訓，教育理念，学習･教育目標に則って作成している。シラバスは平成８年度に初版を発行した後，改訂を重ね，現行シラバスには，授業目標と概要，到達目標，授業時間，自習時間（学習単位授業のみ），授業計画，履修上の注意，教科書，参考書，成績評価の方法及び当該授業科目と本校の教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性について記述している**（資料５－２－②－１）**。同項目のうち，到達目標と本校の学習・教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性の項目は，当該授業科目の受講によって習得できる能力及び当該授業科目と本校が目指す技術者像（教育目標）との関連を明示するものである。

授業を変更等する際には必ず授業変更･交代届**（資料５－２－②－２）**を提出することとしており，同届には１単位あたりの授業時数を明記して，学生の履修時間を確保している。

シラバス（冊子）は各学級に配置するとともに本校Ｗｅｂサイトにも掲載し**（資料５－２－②－３）**，学生が閲覧できるように配慮している。年度当初の授業ガイダンスでは，各教員から受講学生にシラバス内容を明示し，周知している。授業内容とシラバスとの整合性を学生が確認する体制を整えている**（資料５－２－②－４）**。授業開講期末には到達目標（シラバスに記載）の達成度を問うアンケートを実施し**（資料５－２－②－５）**，年１回実施している授業評価アンケート結果のうち，シラバスとの整合性に関する回答ポイントから，シラバスの有効活用を確認している**（資料５－２－②－６）**。

資料１－１－①―３（再掲）

教育目標

阿南工業高等専門学校の学習・教育目標

(A)　国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。

(A)－１　世界的視野から日本の文化，社会並びに他国の文化，社会を複眼的にとらえて，両者のあるべき関係について説明することができる。

(A)－２　人間社会に対する技術者としての責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。

(A)－３　自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

(B)　社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

(B)－１　企業実習，工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。

(B)－２　線形代数，微分積分，微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)－３　力学，電磁気学，熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)－４　情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(C)　日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

(C)－１　日本語で科学技術論文を作成することができる。

(C)－２　自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき，論理的な討論をすることができる。

(C)－３　英語による基本的なコミュニケーションができ，専門分野において英語による口頭発表ができる。

(D)　継続して専門技術や知識を学習する習慣(D-1)を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力(D-2)をもった技術者を養成する。

(D)－１　設計・システム系，情報論理系，材料バイオ系，力学系を含む工学の基礎となる学問分野について，自主的かつ継続的に学習することができる。

(D)－２　専門分野における工学的問題の解決を通じて，その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。

(D)－３　複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。

(D)－４　技術開発を進めるに際して，安全，環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

(E)　「ものづくり」を重視(E-1)し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力(E-2)を有する技術者を養成する。

(E)－１　与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することができる。

(E)－２　与えられた製作課題を計画的に製作できる。

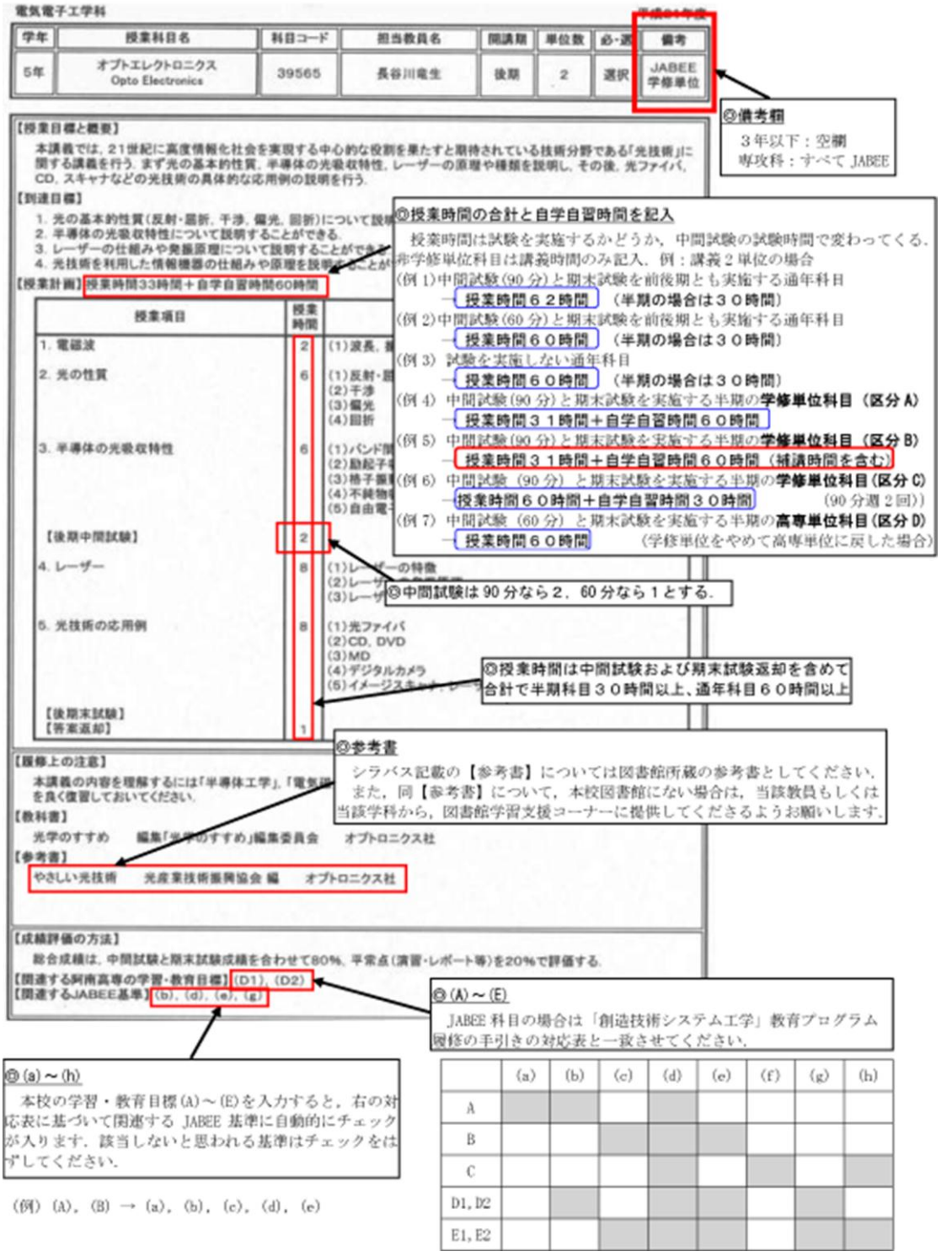
(E)－３　多様な条件の下で，技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

※サブ目標の説明
(B)－２，(B)－３は，準学士課程で達成できる目標である。
それ以外は，準学士課程・専攻科課程ともに達成できる項目であるが，それぞれ基礎と応用・実践とのレベルの違いがある。とくに波線～～でラインを引いている項目は，専攻科課程でより深く学習することで，高度に達成できる目標である。

（出典　高専生活のてびき　平成 23 年度）

資料５－２－②－１

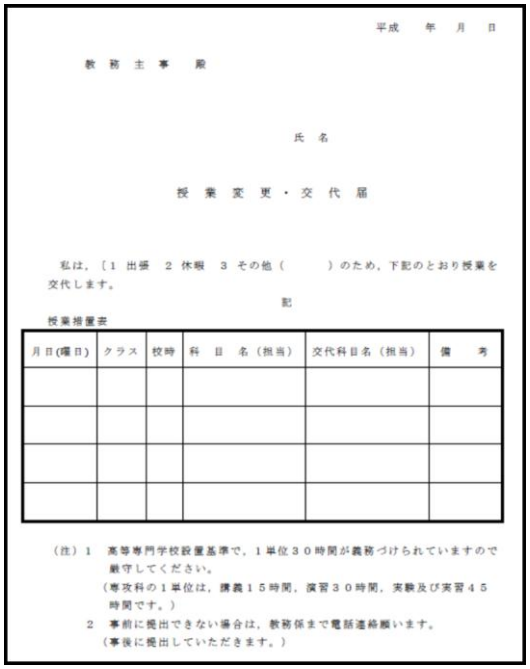
平成２３年度シラバスの注意点



（出典　シラバス作成の注意点：メール添付資料）

資料５－２－②－２

授業変更･交代手続き



平成　年　月　日

教 務 主 事　殿

氏 名

授 業 変 更 ・ 交 代 届

私は，［1 出張　2 休暇　3 その他（　　）のため，下記のとおり授業を交代します。

記

授業振替表

月日(曜日)	クラス	校時	科 目 名（担当）	交代科目名（担当）	備　考

（注）1　高等専門学校設置基準で，１単位３０時間が義務づけられていますので厳守してください。
（専攻科の１単位は，講義１５時間，演習３０時間，実験及び実習４５時間です。）
2　事前に提出できない場合は，教務係まで電話連絡願います。
（事後に提出していただきます。）

（出典　授業変更･交代届）

資料５－２－②－３

シラバスの公開



阿南工業高等専門学校
平成22年度　シラバス

2. 本科	2-1 一般教科 一般教科シラバス
	2-2 機械工学科 機械工学科シラバス
	2-3 電気電子工学科 電気電子工学科シラバス
	2-4 制御情報工学科 制御情報工学科シラバス
	2-5 建設システム工学科 建設システム工学科シラバス
3. 専攻科	3-1 共通科目 共通科目シラバス
	3-2 構造設計工学専攻 構造設計工学専攻シラバス
	3-3 電気･制御システム工学専攻 電気･制御システム工学専攻シラバス

阿南工業高等専門学校

（出典　阿南高専 Web サイト　シラバス一覧のトップページ）

資料５－２－②－４

授業内容とシラバスとの整合性の確認

制御情報工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	回路設計 Circuit Design	79406	岩佐 健司	前期	2	選択	JABEE 学修単位

【授業目的】
本講義では，電子回路設計に必要となるデジタル回路およびアナログ回路の電気電子部品素子についての動作原理を学び，回路設計の基礎となる技術の習得することを目標とする．

【到達目標】
1. カウンタ，シフト回路などの基本的なデジタル回路が設計できる．
2. トランジスタによる電圧制御，電力制御などの基本回路が説明できる．
3. 位相制御の考え方が説明できる．
4. オペアンプの動作原理とその特徴が説明できる

【授業計画】授業時間32時間＋自学自習時間60時間（補講時間を含む）

授業項目	授業時間	内　容
1. デジタル回路 5/13（石原）	10	(1)カウンタ回路（同期式） (2)シフト回路 (3)比較演算回路
2. トランジスタの動作原理と基本回路 6/10（石原）	8	(1)トランジスタの動作，コレクタ損失 (2)電圧制御回路 (3)電力制御回路 (4)シュミットトリガ回路
【中間試験】	1	
3. 位相制御 7/16（石原）	6	(1)SCR，トライアック，UJT
4. オペアンプの動作原理と基本回路 9/16（石原）		オペアンプの動作，正帰還，負帰還
【後期末試験】 【答案返却】		

授業項目ごとに授業内容を確認し、学級委員のサインをもらう。

【履修上の注意】
本講義で重要なキーワードはフリップフロップ，カウンタ，演算回路，トランジスタ，位相制御，オペアンプ，増幅回路，ONOFF制御が挙げられる．補講時間が設定されているので必ず出席してください．課題レポートの指導をします．

【教科書】
デジタル制御　松下電器製造技術研修所　及び　電子制御　松下電器製造技術研修所

【参考書】

【成績評価の方法】
総合成績は，中間試験および期末成績試験を合わせて70%，レポート等提出物を30%で評価する

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

（出典　平成 22 年 5 月 24 日　教員会議資料）

資料５－２－②－５

到達目標の達成度を問うアンケート

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
3年	材料学 Engineering Materials	29320	奥本　良博	後期	1	選択	

【授業目的】
前半は機械の材料として代表的である金属（特に鋼）の生産について，後半は金属の強度についての基本的な知識を整理する．材料学の工学技術および知識を継続して学習する習慣を育成する．

【到達目標】
1．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し，説明することができる．
2．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．

【授業計画】授業時間32時間

授業項目	授業時間	内　容
1．金属の生産	2	①金属と私達の生活
	2	②鉄の生産設備
	2	③銑鉄を生み出す(高炉)1
	2	④銑鉄を生み出す(高炉)2
	2	⑤鋼を生み出す(転炉)1
	2	⑥鋼を生み出す(転炉)2
	2	⑦他の金属の生産
	2	⑧【金属の生産】のまとめ

シラバス記載の到達目標修得点検アンケート

科目名：材料学１　　クラス：３Ｍ　　担当教員：奥本　良博

本科目受講を終わるにあたり，シラバスに記載してある［到達目標］について，あなたはどの程度理解および修得できたと思いますか．各項目について以下の自己評価をして，A,B,C,Dで記入してください．

Ａ：よく理解できた
Ｂ：やや理解できた
Ｃ：あまり理解できなかった
Ｄ：全く理解できなかった

［到達目標］

１．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し，説明することができる．　（　）

２．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．　（　）

（出典　シラバス達成目標修得点検アンケートの例）

資料５－２－②－６

授業評価アンケートの結果の一例

阿南高専授業評価アンケート集計結果

コード	科目名	選別	対象学年	学科	教員名
29420	材料学	授業全般	4	M	美本 良博

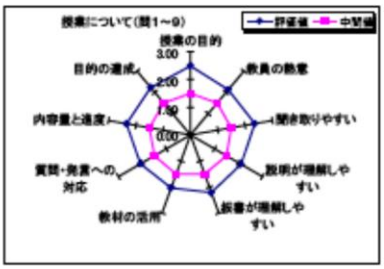
人力読マークカード数: 39

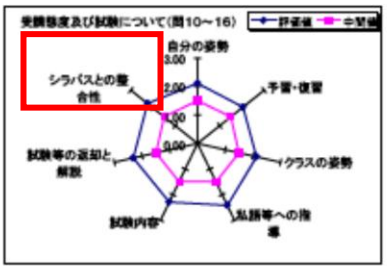
問毎の集計結果

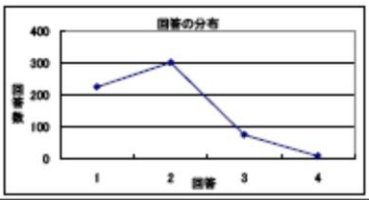
	設問	1全回答(そう)	2全回答(ややそう)	3全回答(やや違う)	4全回答(違う)	有効回答数	評価値	中間値
問1	授業の目的	22	14	3	0	39	2.49	1.50
問2	教員の熱意	11	23	4	1	39	2.13	1.50
問3	聞き取りやすい	19	15	5	0	39	2.36	1.50
問4	説明が理解しやすい	12	18	8	0	38	2.11	1.50
問5	板書が理解しやすい	14	19	6	0	39	2.21	1.50
問6	教材の活用	12	16	9	1	38	2.03	1.50
問7	質問・発言への対応	11	21	4	2	38	2.08	1.50
問8	内容量と速度	15	21	2	0	38	2.34	1.50
問9	目的の達成	13	22	4	0	39	2.23	1.50
問10	自分の姿勢	10	23	4	1	38	2.11	1.50
問11	予習・復習	13	16	9	1	39	2.05	1.50
問12	クラスの姿勢	10	23	5	0	38	2.13	1.50
問13	私語等への指導	19	16	3	0	38	2.42	1.50
問14	試験内容	17	16	4	1	38	2.29	1.50
問15	試験等の返却と解説	16	19	2	1	38	2.32	1.50
問16	シラバスとの整合性	12	21	3	0	36	2.25	1.50
	回答数の合計	226	303	75	8	612	2.22	

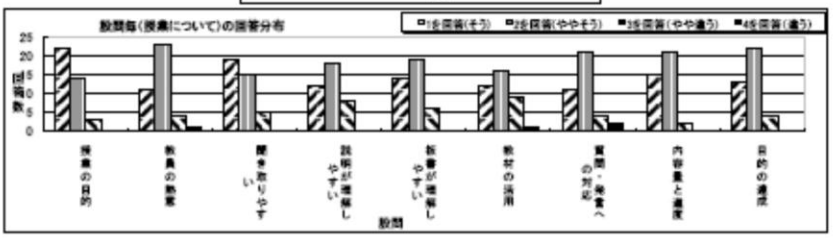
問2，問4，問7，問13のポイントを2倍として100点換算

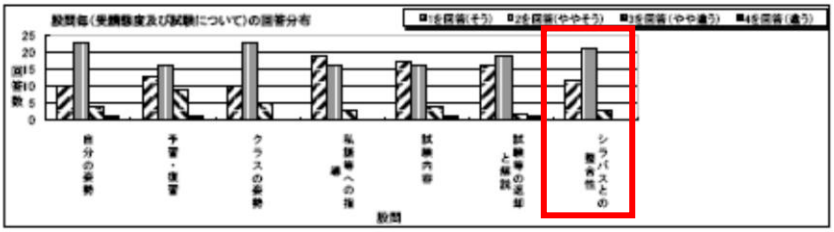
73.82 / 100











（出典　平成 22 年度　阿南高専授業評価アンケート集計結果）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成趣旨に沿ってシラバスを作成し，授業目標と概要，到達目標，授業時間，自習時間（学習単位授業のみ），授業計画，履修上の注意，教科書，参考書，成績評価の方法及び当該授業科目と本校の教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性について記述し，学生の学習に資するようにしている。また，学生によるシラバス活用の利便性に配慮している。さらに，授業内容とシラバスとの整合性を学生が確認する体制を整え，シラバス活用状況をチェックできる体制も整備している。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程においては，ものづくり基盤技術教育に適したＰＢＬを取り入れており，全学科ともハードウェア製作及びソフトウェア製作をおこなっている**（資料５－２－③－１）**。

ＰＢＬの一例として，機械工学科４学年の機械工学実験１（機械設計製図）を挙げる。この授業は機械設計製図と機械工学実験１を関連づけ，同一テーマで企画～設計～モノづくり～性能評価まで，企業の製品開発ステップを導入し系統的に授業を運営する。その際，既存商品調査，構想立案，市場性調査，特許調査からプレゼンし商品開発企画書を作成し，設計製図すなわち設計計算・計画図および部品・組立図を経て，商品製作と性能評価まで実施する。なお，平成23年度テーマは「ねじ商品開発」である。この授業の特徴である市場調査を行う点からも，考案したねじ商品の改善・工夫を行うことが必要となる点からも創造性育成の効果は高いものとなっている。

インターンシップに関し，全学科とも４年次に実施しており単位認定している。その成果は報告会で発表している**（前述資料５－１－②－４，資料５－２－③－２）**。さらに平成22年度には，環境学サマースクール2010「四国の水循環を考える」として外部単位として，他高専を含む５年生・専攻科生を対象とし，徳島県牟岐少年自然の家を会場に環境学専門家によるゼミやフィールド活動を実施した**（資料５－２－③－３）**。

資料５－２－③－１

平成２２年度　PBL 実施テーマ一覧

学科／学年	一般教科	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科
１年		TallerTower 競技・ペーパークラフト製作･鋳造によるアクセサリー製作(ものづくり工学基礎)			コンクリート製作・ブリッジコンテスト・土の強度変形学習（ものづくり工学実習）
２年		ペーパークラフト飛行機を製作(機械工作実習)	ＬＥＧＯ（電気電子工学実験２）		
３年		課題解決のための製品作成(機械工学創造実習)			
４年		製品開発ステップを導入した製作(機械工学実験１･機械設計製図) コンテスト形式の設計実習（三次元ＣＡＤ）	マイコンのプログラミングと自由課題製作（電子回路設計製作実習）		ユニバーサルデザインを考慮した設計製図（建設システム設計製図）
５年	豆腐づくり(バイオテクノロジー)		マイコンのプログラミングと課題製作（電子回路設計製作実習）	小型移動ロボット e-puck を用いた迷路探索競技(ロボット製作実習) 中学生に体験させるテーマの選定･製作と運用（システム開発）	

（出典　PBL 実施テーマ調べ　平成 22 年度）

資料５－２－③－２

平成２２年度　インターンシップ報告会実施要領

阿南工業高等専門学校

1　開催日時

平成２２年１０月７日(木)１２時５０分～１７時(予定)

(受付を創造テクノセンター棟１階玄関で行いますので、お立ち寄りください。)

2　会　　場

阿南工業高等専門学校構内

学科・専攻名	担当教員	会　　場
機 械 工 学 科 ４ 年	松浦史法	創造テクノセンター棟４階・マルチメディア室１
電 気 電 子 工 学 科 ４ 年	長谷川竜生	創造テクノセンター棟４階・マルチメディア室２
制 御 情 報 工 学 科 ４ 年	岡本浩行	創造テクノセンター２階・セミナー室
建 設 ｼｽﾃﾑ 工 学 科 ４ 年	吉村　洋	建設ｼｽﾃﾑ工学科棟２階・４C教室

＊別紙「平成 22 年度インターンシップ報告会会場図」をご参照ください。

3　内容

実習の概要、実習の内容、感想

社会が要求している問題

企業が環境等に配慮している事柄

4　報告会プログラム

別紙「プログラム」のとおり。

(出典　平成 22 年度インターンシップ報告会実施要領)

資料５－２－③－３

フィールド活動による外部単位科目



身近な『水』をテーマに県南の水環境を考える環境学サマースクールを開催します.
日頃のタイトな授業では学べない,水環境の「現場」があります.

例えば,大規模な水処理施設を持つ工場の見学,
県南屈指のサンゴ分布域―牟岐大島での野外観察,
清廉な水質を誇る牟岐川と打桶川の水質比較,

これらの野外実習や見学,講義を行いながら,
汚水処理の仕組み,水生生物の多様性,
河川環境汚染の現状を学びます.

また,四国の高専から「水環境」が専門のゲスト教員を招き,
四国の高専で学ぶ学生同士の交流も予定しています.

■参加資格レポート・申込みについて
建設システム工学科・大田教員まで
申込み締め切り:7月7日17:00
レポート締め切り:7月15日17:00

（出典　環境学サマースクール 2010 パンフレット）

（分析結果とその根拠理由）

ものづくり基盤技術教育に適したＰＢＬを低学年時から実施するなど，創造性を育む教育方法を工夫して実施している。インターンシップや他の高等教育機関との教育連携事業を展開し，本校教育課程上の単位として認定しているなど，校外における実習も充分に活用している。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

全学級に担任制を採用している（**資料５－３－①－１**）。学級担任教員は，学生の個人面談や保護者との３者懇談を通じて学生の学業や生活面での状況把握に努め，その指導状況を担任指導記録に記載している（**資料５－３－①－２**）。全教員が全学生に対して生活指導をするという観点から，登校時間帯に教員が構内への出入口で，学生への挨拶とあわせて身だしなみ指導，通学指導を行っている（**資料５－３－①－３**）。教員が交代で行う学生寮当直には，寮生居室を巡回し学校生活の相談に乗り，生活指導を行っている（**資料５－３－①－４**）。

学生の精神面や生活指導上の諸問題に対応するために教職員と外部の専門医（臨床心理士）から構成される学生相談室を設置し，学生をはじめ保護者や教職員のケアを担っている（**資料５－３－①－５**）。

同じく教育理念「勤労に親しみ，強固な意志と頑健な身体を鍛錬する」に基づいて，課外活動を奨励している（**資料５－３－①－６**）。毎秋実施する学校祭も，学生会が企画･準備･運営全般にわたり，主体的に実施している（**資料５－３－①－７**）。また，これらの課外活動においては学生の自主を尊重するとともに，活動を活性化するため顧問教員が立ち会い，助言できるように配慮している。

学生寮では，教養講座（茶道，華道），外部講師を招いての特別講演及び福祉施設へのボランティア活動など，各種行事を通じて人間性向上のための指導を実施している（**資料５－３－①－８**）。

１年次授業として倫理を開講している（**資料５－３－①－９**）。１～３年次の教育課程において，特別活動を年間 30 単位時間以上（３年間で 90 単位時間以上）実施することとし，特別活動の合格を２～４年次への進級要件の一つとしている（**資料５－３－①－10，11**）。特別活動として，ロングホームルーム（ＬＨＲ），ショートホームルーム（ＳＨＲ）及び学校行事（始業式，合宿研修，球技大会，全体集会，特別講演会，終業式）を評価対象とすることを学業成績評価に関する規則の申し合わせ事項に規定している（**資料５－３－①－12**）。ロングホームルーム（ＬＨＲ）を週１回（１単位時間）30 週にわたって実施している。さらに，その内容をアーカイブとして保存して他教員の参考となるようにしている（**資料５－３－①－13**）。４年進級時点では，高等専門学校設置基準第 17 条第５項に定められた特別活動の実施時間数を確保している。なお，４～５年生については，学級担任を中心とする関係教員により，各種学校行事への参加を指導している（**資料５－３－①－14**）。

資料５－３－①－１

主事・学級担任等一覧表

職名	氏名
校長	小松満男
副校長	岩佐健司

職名	氏名	教員室電話番号
教務主事	岩佐健司	7182
学生主事	多田博夫	7159
寮務主事	堀井克章	7192
専攻科長	當宮辰美	7168
地域連携・テクノセンター長	西岡守	7158
広報情報室長	坪井泰士	7147

職名	氏名	教員室電話番号
一般教科主任	錦織浩文	7119
機械工学科主任	西野精一	7196
電気電子工学科主任	中野好典	7164
制御情報工学科主任	田中達治	7109
建設システム工学科主任	島田富美男	7190

学級名		学級担任	教員室電話番号	学級副担任	教員室電話番号
一年	1組	川崎敏和	7150	宮本陽生	7275
	2組	谷中俊裕	7149	長澤智明	7208
	3組	櫛田雅弘	7148	林田栄治	7114
	4組	○高山直子	7113	今田浩之	7146
二年	M	田中広志	7126	坪井泰士	7147
	E	山田耕太郎	7127	藤居岳人	7154
	S	勝藤和子	7145	中島一	
	C	○新井修	7115	二森勇人	7117
三年	M	川畑成之	7217	原野智哉	7179
	E	○小松実	7167	三木哲志	7205
	S	田中達治	7109	一ノ瀬元喜	7180
	C	笹田修司	7193	島田富美男	7190
四年	M	松浦史法	7153		
	E	長谷川竜生	7169		
	S	○岡本浩行	7206		
	C	吉村洋	7186		
五年	M	武知英夫	7156		
	E	砂原米彦	7165		
	S	宮城勢治	7178		
	C	○湯城豊勝	7191		
専攻科	1MC	森山卓郎	7187		
	1ES	安野恵実子	7172		
	2MC	奥本良博	7160		
	2ES	中村厚信	7110		

※直通電話
0884－23のあとに番号を続けて下さい。

○ 学年主任

（出典　高専生活のてびき　平成22年度）

資料５－３－①－２

担任指導記録のフォーマットと記入例

記載例

平成 18 年○○月分　担任指導記録　○○○○学科　○年　担任　○○○○

日付	指導対象	指導場所	指導内容
８日（火） 1時間目	全学生	教室	・ 新学期を迎え、生活指導について指導した。その具体的な内容は身だしなみ、アルバイトの禁止、髪型・・・・・。学習指導については・・・・・・・を指導した。 ・ 清掃分担を決めその励行を指導した。
○日（○）	○○	教官室	欠席している学生に電話連絡をとり、欠席理由を聞くと共に明日の予定について連絡した。
○ 日（土） 13:00-15:30	○○	教官室	母親とともに本校を訪問し、学生○○君が本校を退学したいとの意向を伝えに来た。しかし、母親はそのことについて反対であり、・・ ・・・・・ 本人の退学の理由は・・・・・であり勉学意欲を失っている。担任としては・・・・の助言を与え、即退学の結論を出すのではなく、学校へ来るよう指導し本人もそれに同意した。
○ 日（水） 18:00-18:30	○○	主事室	○○君が喫煙しているところを○○教官に見つかり、学生主事とともに反省文を書かせた。その書類は学生係にて保管してある。
○日（○）	－	教室	教室の清掃状況をチェックする。ごみ箱の処理ができていない。○○君の机の上に教科書が置かれたままである。またロッカーの上の整理整頓ができていないことを確認する。明日指導する予定。
○日（○）	○○	機械棟３F廊下	実験のレポートの提出が遅れている。早急に提出するよう指導した。
○ 日（月） 20:00-20:30	○○	教官自宅	最近学校を休み勝ちであり、定期試験の結果が悪い学生○○の保護者に電話をした。そして学校での生活状況を報告し、留年の可能性があることを伝えた。保護者からの指導の協力を得るとともに担任としても粘り強く指導する宗を伝えた。
○日（○）	○ ○ ○ ○	メール	担任に提出する身上報告書が未だである早急に提出するよう指導する。
○ 日（○） 14:00-15:00	○○	保護者宅(○○市)	謹慎処分を受けた学生の自宅に行き、謹慎状況を視察する。本人は真面目に生活しているようである。改めて本人の行った行為にたいして反省を促すとともに、謹慎処分解除後の生活等についての指導をおこなった。

主任・専攻科長　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　印

（出典　担任指導記録要綱）

資料５－３－①－３

登校時の指導

平成23年度　登校指導割り振り表

5月分

日	曜日	正門		特別指導	備　考
1	日				
2	月				一斉休業(4／16分)
3	火				憲法記念日
4	水				みどりの日
5	木				こどもの日
6	金				一斉休業(4／29分)
7	土				
8	日				
9	月	奥本　良博	富宮　康美	大北	
10	火	原野　智哉	正木　和夫	勝藤	
11	水	吉田　岳人	中野　好典		新入生合宿研修(波路)
12	木	西本　浩司	砂原　米彦		新入生合宿研修(波路)
13	金	松浦　史法	松本　高志	吉村	
14	土				
15	日				
16	月	川畑　成之	長谷川竜生	伊丹	
17	火	安田　武司	釜野　勝		
18	水	上原　信知	岩佐　健司	松尾	
19	木	中村　雄一	田中　謙治	小松	
20	金	中村　厚信	杉野隆三郎		体育大会(本科)
21	土				
22	日				
23	月	福見　淳二	島田喜美男	大北	
24	火	岡本　浩行	湯城　豊勝		
25	水	福田　詳治	堀井　克章	松尾	
26	木	安野恵美子	松保　重之	小松	
27	金	一ノ瀬元喜	笹田　修司		体育大会予備日
28	土				
29	日				
30	月	小林　美緒	森山　卓郎	伊丹	
31	火	加藤　研二	大田　直友		

（出典　登校指導割り振り表：メール添付資料）

資料５－３－①－４

学寮当直日誌のフォーマット

校　長	寮務主事	寮　監

学生課長	寮務係長	係　員

学　寮　当　直　日　誌

平成　年　月　日　曜日　天候

日直教員名　印　宿直教員名　印

Ⅰ 夜点呼確認

保護者からの(本人不可)不帰寮・点呼遅刻連絡は「帰寮に関する電話連絡簿」と寮事務室ホワイトボードに記載
「点呼遅刻」連絡後、帰寮確認できなければ「b」の対応

a:全員在寮の報告あり

b:不在寮生の報告あり → 自宅に電話して在宅確認

＊保護者に説明　:「外泊届不提出のための安否確認」)

＊電話時に本人在宅 : 必ず本人と直接対話 → 本人確認の有無を役員寮生に連絡

＊電話時に本人不在 : 保護者に指導依頼(帰寮or寮へ安否連絡) → 理由・所在等を「安否連絡」に記入

寮室番号	クラス	寮生氏名	在宅確認(対応・確認したものに○)	;保護者説明
ー　ー			本人と対話　保護者「外出中」　不帰宅(後に帰寮・後に帰宅)	; 実施
ー　ー			本人と対話　保護者「外出中」　不帰宅(後に帰寮・後に帰宅)	; 実施
ー　ー			本人と対話　保護者「外出中」　不帰宅(後に帰寮・後に帰宅)	; 実施
ー　ー			本人と対話　保護者「外出中」　不帰宅(後に帰寮・後に帰宅)	; 実施
ー　ー			本人と対話　保護者「外出中」　不帰宅(後に帰寮・後に帰宅)	; 実施

安否確認	

Ⅱ 朝点呼確認(Ⅰで在寮を確認した寮生が対象)

a:全員在寮の報告あり

b:不在寮生の報告あり → ①当該寮室を確認、②放送で呼び出し

＊在寮が確認できない場合は、「Ⅰのb」の対応

寮室番号	クラス	寮生氏名	在宅確認(対応・確認したものに○)	;保護者説明
			在寮を確認(理由　) 在寮確認できず	; 実施
			在寮を確認(理由　) 在寮確認できず	; 実施

Ⅲ 寮生指導(減点指導相当分のみ記載)・巡回対象

a:特段の指導なし

b:指導あり → 寮室番号・クラス・氏名・概要のみ記入／執筆指導した「寮生報告書」「被害届」添付

＊減点指導を伴わない巡回時の指導については、「学寮指導・巡回簿」に記入

巡回対象	号館　階	／	号館　階

Ⅳ 施錠時刻(4号館:22時 / 5号館:23時施錠、試験時間割発表～試験期間:24時施錠 を目安)

4号館	施錠時刻　時　分	5号館	施錠時刻　時　分

Ⅴ 集会・役員寮生会議の開催(開催されたものに○／集会時には、対象寮生を記入)

開催名	指導寮生会議　高学年役員会議　女子役員会議　集会(　)

Ⅵ 急病・怪我の対応(病院搬送時:可能であれば事前に保護者に連絡／クラス・氏名・経過等)

Ⅶ その他の連絡事項(施設故障・備品不足等 寮生の申し出があった場合、「学寮内設備等修繕要望書」を提出するよう指導してください。)

○「学寮当直スケジュール」「学寮対応マニュアル」「当直日誌記入要領」を参照してください。

(出典　学寮当直日誌)

資料５－３－①－５

学生相談室利用案内



（出典　学生相談室の紹介リーフレット）

資料５－３－①－６

平成23年度　クラブ顧問教員一覧表

文化局顧問	ロボット研究	模道	ボランティア	落語研究	写真	茶道
	○川畑 成之 釜野 勝 多田 博夫 伊丹 伸	○松本 高志 伊丹 伸 岩佐 健司	○中野 好典 一森 勇人 安田 武司	○岡本 浩行 奥本 良博	○松本 高志 坪井 泰士	○藤居 岳人 大北 裕司
	書道	吹奏楽	軽音楽	演劇		
	○鳥田 富美男 川上 周司	○宮本 勝生 鍛織 浩文	○武知 英夫	○上原 信知 西本 浩司		
体育局顧問	硬式野球	バレーボール	バスケットボール	サッカー	ソフトテニス	テニス
	○小松 実 山田勝太郎 中島 一 堀井 克章 富宮 辰美	男○新井 修 女○多田 博夫 川上 周司 上原 信知 杉野 隆三郎	○釜野 勝 宮本 勝生 宮城 勢治 岡本 浩行 松保 豊之	○一ノ瀬 元喜 川畑 成之 林田 栄治 平山 基 松尾 俊寛	○椛田 雅弘 今田 浩之 川崎 敬和 安野 恵実子	○大北 裕司 原野 智哉 砂原 米彦 安田 武司
	陸上競技	ラグビー	弓道	柔道	剣道	卓球
	○谷中 俊裕 伊丹 伸 正木 和夫 藤居 岳人	○一森 勇人 鳥田 富美男 田中 達治 小林 勇輝	○西野 精一 坪井 泰士 鍛織 浩文 吉田 岳人	○加藤 研二 吉村 洋 武知 英夫	○湯城 豊勝 笹田 修司 森山 卓郎	○西岡 守 福見 淳二 福田 勲治
	バドミントン	ハンドボール	ソフトボール			
	○西本 浩司 中村 厚信 岩佐 健司	○田中 広志 藤井 浩美 松浦 史法	○中村 雄一 田上 隆徳			
文科系同好会顧問	英語	プログラミング	美術	工作オーディオ	Lego	ラジオ無線
	○林田 栄治 勝藤 和子 谷中 俊裕 藤井 浩美	○杉野 隆三郎 一ノ瀬 元喜 岡本 浩行 田中 達治.	○正木 和夫 谷中 俊裕 原野 智哉	○釜野 勝 上原 信知	○安野 恵実子 福見 淳二	○松本 高志 笹田 修司
	構造デザイン	化学	コンクリート研究会	自動車	沖縄文化交流会	物理同好会
	○笹田 修司 森山 卓郎	○一森 勇人 谷中 俊裕	○堀井 克章	○宮城 勢治	○藤居 岳人	○中村 厚信
体育系同好会顧問	ワンダーフォーゲル	ストリートダンス	水泳	空手		
	○奥本 良博	○勝藤 和子	○松本 高志	○中野 好典		

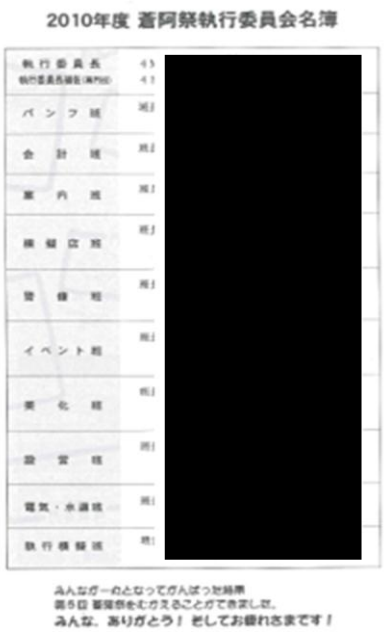
上記のとおり委嘱する。
任期は平成24年3月31日までとする。

平成23年4月1日
阿南工業高等専門学校長 小 松 満 男

（出典　クラブ顧問教員の委嘱書類）

資料５－３－①－７

学生会主体による学園祭


2010年度 蒼阿祭執行委員会名簿

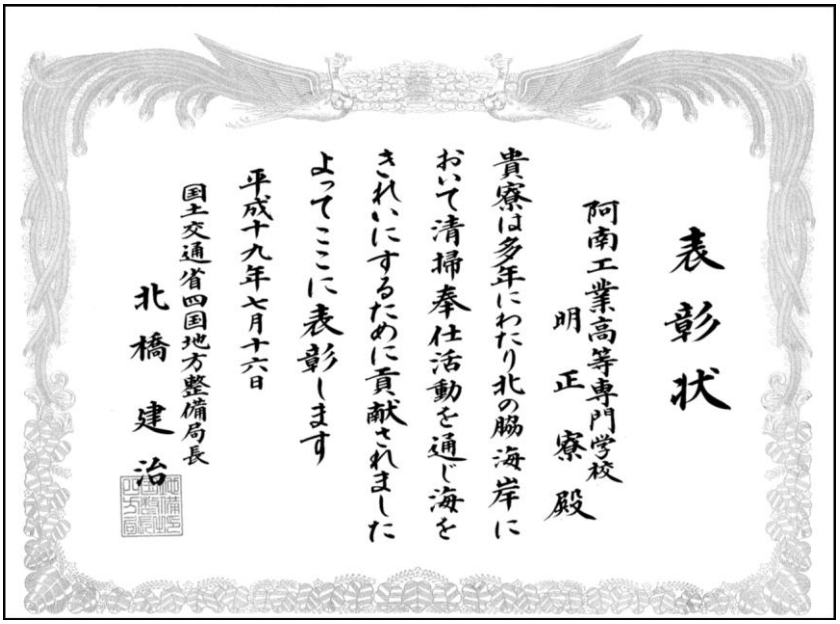



編集後記

（出典　2010 年度蒼阿祭パンフレット）

資料５－３－①－８

寮生の北の脇清掃活動


表彰状

阿南工業高等専門学校
明正寮殿

貴寮は多年にわたり北の脇海岸において清掃奉仕活動を通じ海をきれいにするために貢献されましたよってここに表彰します

平成十九年七月十六日

国土交通省四国地方整備局長
北橋建治

（出典　寮生の清掃活動に対しての感謝状）

資料５－３－①－９

倫理のシラバス

一般教科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	倫理 Ethics	19149	藤居岳人	前期 後期	2	選択	

【授業目的】

我々人間は社会の中で生活している関係上，自己実現を果たしながら，なおかつ他者とうまく折り合いをつけてゆく必要があります．自己と他者との間の，共感できる点や異質な点について自分なりに考えるところに「倫理」が生まれます．本講義では，自己と他者との関係について自分で考えるための材料を提供してゆきたいと思います．

【到達目標】

自分と社会との関係について自分なりに考えるという「倫理」の目標を達成するために，
1．自分を取り巻く現代社会の状況について理解を深める．
2．日本とは異なった外国文化等，広義の「倫理」に関する諸知識に対する理解を深め，
　国際人としての教養を身につける．
ことを目標とします．

【授業計画】授業時間64時間

授業項目	授業時間	内　容
1．「倫理」とは？	2	・「倫理」の本来の意味について
2．ギリシアの思想	4 6	・自然哲学の萌芽 ・ソクラテス・プラトン・アリストテレスらの倫理観
【前期中間試験】	1	
3．キリスト教	4 6	・ユダヤ教と現代史と ・イエスの倫理観
4．イスラム教	4 4	・イスラム文化と現代と ・イスラムの倫理観
【前期期末試験】 【答案返却時間】	1	
	2	・イスラムの歴史
5．インドの思想	4 8	・インド人の社会観（カースト制等） ・ゴータマの思想
【後期中間試験】	1	
	4	・仏教のアジアへの拡大とインド文化と
6．中国の思想	4 6 2	・アジアにおける儒教文化（現代との関連も含めて） ・儒家の倫理観（孔子の「孝」の理論，孟子・荀子の思想） ・道家の思想
【後期期末試験】 【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】

成績評価とも関連しますが，講義で述べたことについて定期試験・中間試験で確認する方針なので，「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います．

【教科書】

高等学校倫理　越智貢 他 著　第一学習社

【参考書】

講義中に適宜，紹介します．また，プリント資料を配付します．

【成績評価の方法】

中間試験・定期試験90％＋平常点（レポート等）10％で評価します．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】（A）
【関連するJABEE基準】（a），（b），（d）

— 22 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－３－①－10

特別活動の単位時間数

別表第６（第13条関係）

特　別　活　動

（平成12年度の入学生から適用）

特別活動	学年別配当					計
	1年	2年	3年	4年	5年	
	30単位時間以上	30単位時間以上	30単位時間以上			90単位時間以上

（出典　高専生活のてびき　平成２２年度）

資料５－３－①－11

特別活動が進級および卒業認定要件であることの規則

第５章　進級及び卒業の認定

第15条　卒業及び進級の認定は，卒業・進級判定会議の議を経て，校長が行う。

２　次の各号のいずれにも該当しない者については，原則として進級，卒業を認める。

(1)　年間欠席日数が出席すべき日数の３分の１を超える者

(2)　不合格科目のある者

(3)　特別活動履修状況等が不良の者

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－３－①－12

LHR について

５．規則第15条第２項の三号について

(1)　第３学年までの学級担任は，学年末にロングホームルーム・ショートホームルームの実施時数と欠課時数及び学校行事と学習支援ミーティングの実施回数と欠席回数を教務主事に報告する。ただし，学校行事は出欠確認１回を，学習支援ミーティングは１回分をロングホームルーム１回分相当とする。

(2)　ロングホームルーム(学校行事と学習支援ミーティングを含む)とショートホームルーム，どちらか一方でも実施時数の３分の１の時数（端数切り捨て）を超えて欠課したものは，特別活動は不合格となる。

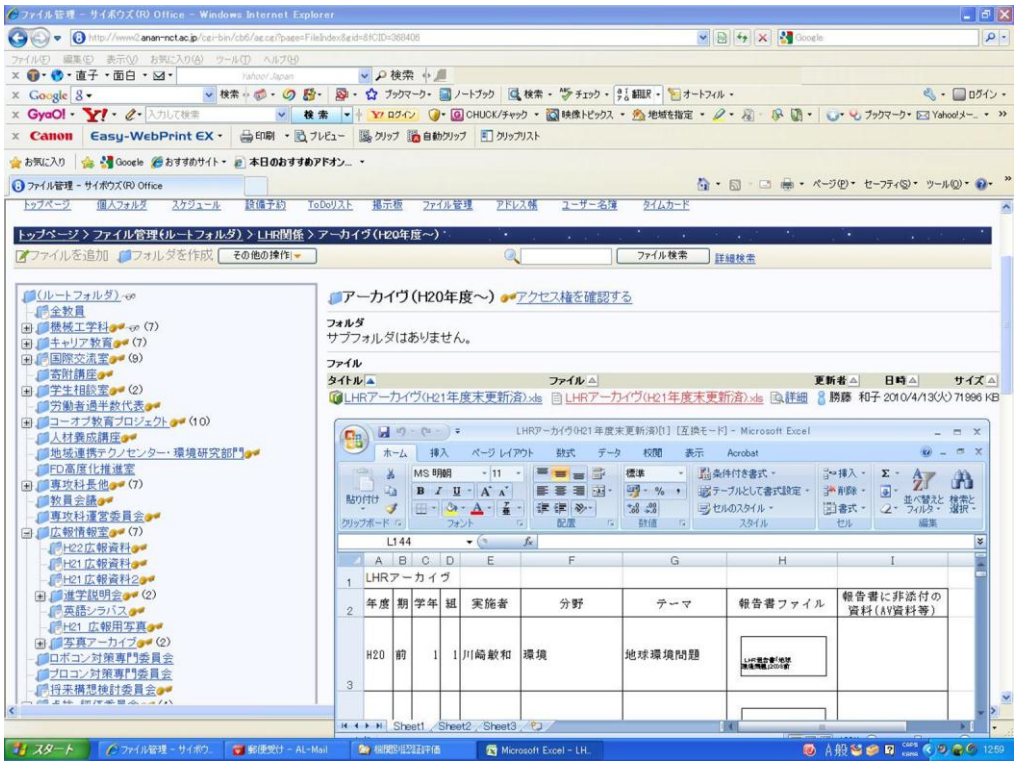
(3)　特別活動の評価対象は，ロングホームルーム・ショートホームルーム・学校行事及び学習支援ミーティングとする。学級担任は，学年末にこれらについて総合的に評価し，その合否を教務主事に報告する。

(4)　学校行事として，評価対象となるものは次のものである。
始業式・合宿研修・体育大会・全体集会・特別講演会・終業式・その他

（出典　教務委員会申し合わせ事項）

資料５－３－①－13

LHR アーカイブ



（出典　LHR アーカイブ検索画面）

資料５－３－①－14

学校行事への出席状況



（出典　平成 22 年度行事出席簿）

（分析結果とその根拠理由）

校訓及び教育理念に示している人間性の涵養に向けた取り組みを行っている。

１～３年次に30単位時間の特別活動を設け，その履修状況を進級要件の一つとしている。人間性の涵養に特に大切な時期である１～３年生については，ロングホームルーム（ＬＨＲ）及びショートホームルーム（ＳＨＲ）を実施し，いっそうの教育に努めている。

観点５－４－①：成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価・単位認定規定及び進級・卒業認定規定は，学業成績評価に関する規則を定めている**（資料５－４－①－１）**。成績評価は，定期試験の成績，中間試験の成績，平素の成績等を総合して 100 点法により判断することとし，優（80 点以上），良（65～79 点），可（60～64 点），不可（60 点未満）の 4 段階で評定している。可以上を単位認定の合格基準とすることを明記し，進級や卒業に必要な最低履修単位数，最低修得単位数及びその他学科特有の進級条件を学業成績評価に関する規則についての申し合わせ事項を規定している**（資料５－４－①－２）**。なお，学業成績評価に関する規則及び学業成績評価に関する規則についての申し合わせ事項の一部を『高専生活のてびき』に掲載し，配付することにより学生に開示している。各科目の成績評価方法はこの規則に基づいて授業科目担当教員が策定し，シラバスに記載することにより，学生に開示している**（前述資料５－２－②－１）**。また，成績評価，単位認定及び進級・卒業認定に関わる事項は，学生に周知し**（資料５－４－①－３）**，各科目の成績評価方法は授業科目担当教員が授業中に受講学生に周知している。『高専生活のてびき』には，学修単位について，「単位を得るためには，予習・復習などの自学自習が求められます」と説明している**（資料５－４－①－４）**。

シラバスへの授業目標と概要，到達目標，授業時間，自習時間（学修単位授業のみ），授業計画，履修上の注意，教科書，参考書，成績評価の方法及び当該授業科目と本校の教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性の明示成績評価に関わるエビデンス（シラバス，個人別成績表，試験問題，答案，平常点に係わるレポートや小テスト等）の共同保管とチェック体制により，成績評価の厳正な実施を確認している（答案などの成績保管資料は訪問調査時に資料提示）。

成績評価に関する学生の疑義については，各定期試験すべてについて答案返却期間を設け，授業科目担当教員からの答案返却，正答提示，採点確認を行うことで対応している。平成 23 年度からは，年度末に，学年最終成績を確認する時間を設けることに決定している**（資料５－４－①－５）**。

単位認定及び進級認定は進級判定会議において，卒業認定は卒業者判定会議において学業成績評価に関する規則に基づいて審議し，各判定会議の審議結果に基づいて校長が進級及び卒業の認定を行っている**（資料５－４－①－６，７）**。

資料５－４－①－１

学業成績評価に関する規則

第１章　総則

第１条　阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）における試験，学業成績の評価，進級及び卒業の認定については，本校学則に規定するもののほか，この規則の定めるところによる。

第２章　試験

第２条　定期試験は，各学期末ごとに実施する。なお，必要ある科目については中間試験を行う。

2　定期試験及び中間試験は，原則として筆記試験とする。ただし，成績評価が筆記試験により難い場合は，口述試験等他の方法に替えることがある。

第３条　定期試験及び中間試験を欠席した者で，願い出により，やむを得ない事由によると認められた者については，追試験を行う。ただし，後学期末試験の追試験は行わない場合がある。

第４条　出席時数が著しく少ない時は，その科目の受験資格を与えないことがある。

第５条　故意に試験を忌避したと認められる者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該試験科目の試験成績は０点とする。

第６条　試験中不正行為をした者は，当日以後の受験を停止し，当該試験期間中の全科目の試験成績は０点とする。

第３章　評価及び単位の認定

第７条　学業成績は，定期試験の成績，中間試験の成績，平素の成績等を総合したものを，各科目ごとに100点法で評価する。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－４－①－２

5　学年の修了と卒業の認定

１学年から２学年へ，２学年から３学年へと進級するのは，無条件でという訳にはいきません。上級の学年になるほど，勉強の内容も，より専門的により難しくなっていきますから，それなりの学力をつけておかないと，たとえ進級しても勉強についていけないのです。従って，学年を修了して，上級の学年に進級するには，それなりの条件をクリアする必要がある訳です。また，卒業するためには高等専門学校の卒業生としての力を充分身につけておかなければなりません。それが高専に対する社会の評価につながるのです。そのため，卒業のための必要な認定基準は法令で定められており，それをクリアしなければなりません。そこに到達するためにも，それぞれの学年において，各授業科目に対しての実力をしっかりとつけておく必要があります。

(1)　学年の修了

各学年毎に，学年を修了して進級するための条件が定められています。その条件は次のとおりです。

① 年間欠席日数が出席すべき日数の１／３を超えないこと
② 最低履修単位数を満たしていること
③ 最低修得単位数を満たしていること
④ 専門学科及び一般教科が必要と認める科目を修得すること
⑤ 特別活動が合格であること
⑥ 必修科目を履修していること（平成16年度入学生から適用）
⑦ 前々学年度の必修科目を修得していること（平成16年度入学生から適用）

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－４－①－３

ＬＨＲ年間計画表

平成23年度前期　1年生ホームルーム計画

クラス		1組	2組	3組	4組
回数	日付	内容	内容	内容	内容
1	4月12日	ゴミの分別と教室清掃（環境） ゴミ集積場			
2	4月19日	成績評価とJABEEについて（統一・視聴覚教室）			
3	4月26日	淡路研修説明会（統一・視聴覚教室）			
	5月3日	憲法記念日			
4	5月10日	図書館案内（統一）			
5	5月17日	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて
6	5月24日	校長講話（統一・視聴覚教室）			
7	5月31日	タバコの害 視聴覚室			
8	6月7日	前期中間試験に向けて	前期中間試験に向けて	前期中間試験に向けて	前期中間試験に向けて
	6月14日	前期中間試験			
9	6月21日	身だしなみ（マナー）	自転車の交通安全	交通安全について	清掃について
10	6月28日	英語実力テスト第1回			
11	7月5日	青い目と茶色い目（人権）視聴覚室			
12	7月12日	自転車事故と保障（交通）視聴覚室	エネルギー問題について	インターネットのマナー	交通について
13	7月19日	携帯電話のマナー（マナー）	ミニ敬語教室	ものづくりの楽しさ	マナーについて
14	7月26日	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて
	8月2日	前期期末試験			
15	8月8日	夏休みに向けて	夏休みに向けて	夏休みに向けて	夏休みに向けて

（出典　平成 23 年度 LHR 計画）

資料５－４－①－４

学修単位についての説明

⑸　単位について

高専では，全ての授業科目に，授業時間数に応じた「単位」と呼ばれる数字が割り当てられています。単位には「履修単位」と「学修単位」（4，5 年次の上限60単位分）の 2 種類があります。3 年生までの科目はすべて「履修単位」科目ですが，4，5 年生では，ほとんどの科目が「学修単位」科目になります。

「履修単位」（下表のD）では，週 2 校時（90分授業）で 1 年間（30週以上）を通じて行われる科目であれば，2 単位となっています。学生の皆さんは，この授業に出席し，定期試験などを受け，学年末に「合格」の評価を得てはじめて割り当てられたその「2 単位」を獲得(修得)することができます。

「学修単位」では，講義科目と演習・実験・実習科目で授業時間と単位の関係が違います。講義科目の場合は，例えば，A．週 2 校時（90分授業）で半年間（15週以上）の授業時間と週180分で半年間（15週以上）の自学自習時間とで 2 単位，B．週 2 校時（90分授業）で半年間（15週以上）の授業時間と週180分で半年間（15週以上）の自学自習時間（そのうち週90分で半年間（15週以上）の補講時間を含む）とで 2 単位，C．週 2 校時（90分授業）で 1 年間（30週以上）の授業時間と週45分で 1 年間（30週以上）の自学自習時間とで 2 単位というような 3 種類の科目があります。演習・実験・実習科目では，例えば，半年間（15週以上）の授業時間と授業時間の半分の時間以上の自学自習時間で 2 単位というようになります。「学修単位」では，授業に出席して試験を受けるだけでは単位を得ることはできません。単位を得るためには，予習・復習などの自学自習が求められます。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－４－①－５

成績確認のＨＲ

授　業　関　係　予　定　表　　平成23年3月25日 現在

月	9月		日	10月		11月		12月		1月		2月		3月	日
	木	補講日(海外語学研修等対象)	1	土		火	金曜日の授業		日	元日		水		木	卒業研究発表	1
	金	補講日(海外語学研修等対象)	2	日	開寮9:00(専攻科2年)	水		金	月		冬季休業	木	学力選抜願書受付	金	専攻科(2年)特別研究発表	2
寮部屋抽選	土		3	月	後学期授業開始(本科・専2年)	木	文化の日	土				金	専攻科1年特別研究報告書提出締切	土		3
	日		4	火		金	蒼阿祭準備(午後休講)	日	開寮(専攻科1年)	水		土		日		4
	月	前学期末追試験(～9/9)	5	水	第5学寮特別講演(4年)	土	蒼阿祭(高専祭)	月	専攻科1年 後学期授業開始,学寮 専攻科・編入学生入寮受付(～12/16)	木		日		月	午前:成績確認等HR・終業式 午後:学寮大掃除・寮部屋替	5
	火		6	木		日	蒼阿祭(高専祭)	火		金		月		火	午後:入学手続説明会(予)	6
	水		7	金		月	蒼阿祭後片付け(終日休講) 専攻科2年特別研究中間発表会	水		土	推薦願書受付	火	推薦内定者確約書締切	水		7
	木		8	土	専攻科後期学力・社会人選抜検査	火		木	第7学寮特別講演(1年)	日		水		木	卒業者・修了者・JABEE修了者判定会議	8
掃除	金	編入願学書受付	9	日		水		金		月	成人の日 開寮9:00	木	実験等補講日、4年生は11/18,1/26両日午後分の補講日、学寮H24入寮選考	金		9
大掃除・全体集会	土		10	月	体育の日	木	第6学寮特別講演(1年)	土		火	授業開始 全体集会	金	再試結果等報告・資格取得単位認定申請の締切	土		10
	日		11	火		金		日		水	月曜日の授業	土	建国記念の日	日		11
	月	前学期成績素点出期(4年以外)専攻科学修成ポート公募会	12	水		土	全国高専デザコン2011(予定)	月		木	全国高専学習到達度試験(3年:数学・物理)	日		月		12

月	午前:成績確認等HR・終業式 午後:学寮大掃除・寮部屋替	5	

（出典　授業関係予定表　平成 23 年度）

資料５－４－①－６

進級判定(本科１～４年，専攻科１年)・ＪＡＢＥＥ単位認定会議

進級判定(本科１～４年，専攻科１年）・ＪＡＢＥＥ単位認定会議議事要旨

１　日　時　　平成２３年3月１６日（水）９時３０分～１０時３０分

２　場　所　　創造テクノセンター４階マルチメディア室

３　議　題　　（１）平成 22 年度本科進級者の判定について
（２）平成 22 年度専攻科進級者の判定について
（３）その他

４　出席者　　別紙のとおり

事務陪席者：杉野学生課長，澤邊課長補佐，教務係長，
坂本教務主任，谷口教務主任

議事概要

（１）平成 22 年度本科進級者の判定について（資料）

議長（教務主事）から配付資料をもとに，学業成績評価に関する規則第 10 条から第 15 条及び第 17 条で規程される進級要件等について，説明があった。

また，進級者判定資料に関して，同資料の抵触マークの表示について，表示のない学生は単位取得状況が進級要件を満たしていること及び添付の個人成績表は単位不足等に該当する学生のものである旨の補足説明があった。

○１年●組担任から，特別活動について，全員合格であるとの報告があった。抵触マークの付いた学生に該当はなく，４０名全員が進級要件を満たしていると報告があった。

審議の結果，４０名全員の進級が了承された。

---------- 中略 ----------

・33 番　●●：成績不振。在学する。
・31 番　●●：公務員に採用される予定である。進級要件は満たしている。

審議の結果，３７名のうち，●名を除く●●名が進級することで了承された。

以上，２年生から４年生の進級判定結果について，校長から，判定結果を承認すると発言があった。

（出典　進級判定(本科１～４年，専攻科１年）・ＪＡＢＥＥ単位認定会議議事要旨）

資料５－４－①－７

卒業者判定及び専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ判定会議

卒業者判定及び専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ判定会議議事要旨

１　日　時　　平成２３年3月１０日（木）９時３０分～１０時００分

２　場　所　　創造テクノセンター４階マルチメディア室

３　議　題　　（１）平成 22 年度卒業者の判定について
（２）平成 22 年度専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ修了判定について

４　出席者　　別紙のとおり

事務陪席者：杉野学生課長，澤邊課長補佐，湯浅教務係長，坂本教務主任，谷口教務主任
議事概要

（１）平成 22 年度卒業者の判定について（資料）

議長（教務主事）から，配付資料に基づき，学業成績に関する規則（抜粋）第 15 条関係による卒業認定に関しての確認（卒業の認定は卒業研究 10 単位の合格を含む 167 単位以上の修得と，さらにその内訳として，一般科目 75 単位以上，専門科目 82 単位以上（卒業研究を含む。）の修得が必要であること。）及び資料についての説明あった。また，個別の資料は，卒業要件の規定に抵触する学生の資料である旨の説明があった。

続いて，各学科主任及び５年生クラス担任に対して，単位の取得状況及び卒業研究の結果について報告を求めた。

○機械工学科主任から，卒業研究は●●名全員が合格であること及び抵触マークの付いた●名を除く●●名は，卒業に必要な単位を満たしている旨の報告があった。抵触マークの付いた●名について，●●教員（５Ｍクラス担任）から，次の状況報告があった。

―――――――――――――――――――― 中略 ――――――――――――――――――――

○建設システム工学科主任から，卒業研究は●●名全員が合格であること及び抵触マークの付いた●名を除く●●名は，卒業に必要な単位を満たしている旨の報告があった。抵触マークの付いた●名について，●●教員（５Ｃクラス担任）から，次の状況報告があった。

●番　●●●●：１単位の不足が生じた。来年度も在学する。

議長から，●名を除いた●●名の卒業を認定するとの提案があり，審議の結果，提案のとおり了承された。

上記の判定について，校長から，ただいまの判定会議の結果を承認しますと発言があり，機械工学科３６名，電気電子工学科３８名，制御情報工学科３４名，建設システム工学科２７名，合計１３５名の卒業が認定された。

（出典　卒業者判定及び専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ判定会議議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定を組織として策定している。関連規則をシラバスや便覧で学生に開示するとともに，その内容を学生にも周知している。また，成績評価はシラバスに記載した方法に基づいて厳正に実施しており，単位認定，進級認定及び卒業認定は関連規則に基づいて慎重かつ適切に実施している。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

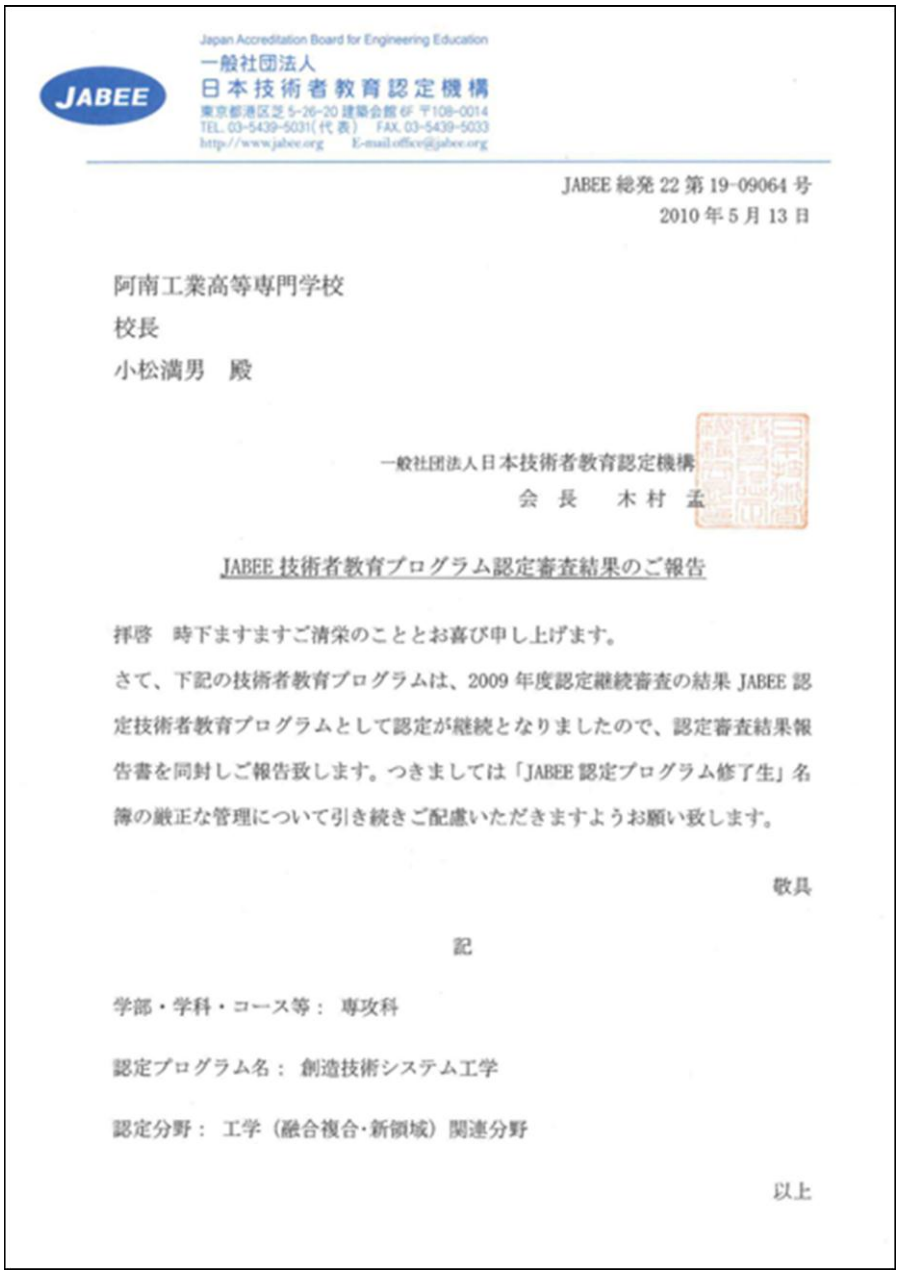
本校では，準学士課程４，５年から専攻科１，２年の課程に対応した「創造技術システム工学」教育プログラムを設定し，日本技術者教育認定機構により６年間継続して認定されている（**資料５－５－①－１**）。なお，本校の専攻科課程は同プログラムの後半部分と完全に一致している。

「創造技術システム工学」教育プログラムを設定するに当たり科目間調整を行い，準学士課程との連携を図っている。これにより，準学士課程から専攻科への連続性を保持し，専攻科に進学した学生は円滑に専攻科課程を履修することが可能である。

ものづくり教育における準学士課程と専攻科との連携について，Webサイトに（**前述資料５－１－①－16～19**），各科目群における準学士課程と専攻科との連携を「創造技術システム工学」教育プログラム履修の手引きに記載している（**資料５－５－①－２**）。

資料５－５－①－１

ＪＡＢＥＥ技術者教育プログラム認定審査結果の報告



Japan Accreditation Board for Engineering Education
一般社団法人
日本技術者教育認定機構
東京都港区芝5-26-20 建築会館6F 〒108-0014
TEL. 03-5439-5031(代表)　FAX. 03-5439-5033
http://www.jabee.org　E-mail:office@jabee.org

JABEE 総発 22 第 19-09064 号
2010 年 5 月 13 日

阿南工業高等専門学校
校長
小松満男　殿

一般社団法人日本技術者教育認定機構
会　長　木村　孟

JABEE 技術者教育プログラム認定審査結果のご報告

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、下記の技術者教育プログラムは、2009 年度認定継続審査の結果 JABEE 認定技術者教育プログラムとして認定が継続となりましたので、認定審査結果報告書を同封しご報告致します。つきましては「JABEE 認定プログラム修了生」名簿の厳正な管理について引き続きご配慮いただきますようお願い致します。

敬具

記

学部・学科・コース等：　専攻科

認定プログラム名：　創造技術システム工学

認定分野：　工学（融合複合・新領域）関連分野

以上

（出典　ＪＡＢＥＥ審査結果通知書）

資料５－５－①－２

科目群と教育プログラム修了要件との関連表

表2　科目群と教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ修了要件との関連表　　23年度用

M:機械工学科　E:電気電子工学科　S:制御情報工学科　C:建設システム工学科

学習保証時間要件（JABEE基準2）	群	科目名	単位数	開講学科	学年	必修	分野(融合複合新領域)とJABEE合格要件	本校教育目標と科目との関係 ◎密接に関係する　○やや関係する (A)	(B)	(C)	(D) (D1)継続して専門技術や知識を学習する習慣	(D2)複合的な技術開発を進められる能力	(E) (E1)「もの作り」を重視	(E2)技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力
人文科学、社会科学等(語学教育を含む) 250時間以上	Ⅰ群	工業英語	2	専攻全	1	○		○		◎	○			
		英語講読	2	専攻全	1	○		○		◎				
		英語講読	2	専攻全	2	○		○		◎				
		環境政策論	2	専攻全	2	○		◎						
		国際協力論	2	専攻全	1	○		◎						
		比較文化論	2	専攻全	2	○		◎		○				
		技術者倫理	2	専攻全	1	○		◎	○			○		○
		日本語表現特論	2	専攻全	2					◎				
		日本語の表現	2	本科全	5					◎				
		英語総合(注5)	2	本科全	4			○		◎				
		英語総合1(注2)	2	本科全	4			○		◎				
		英語総合	2	本科全	5			○		◎				
		英語の語彙・文法(1)(注1)	1	本科全	4			○		◎				
		英語の語彙・文法(2)(注1)	1	本科全	4			○		◎				
		英語の語彙・文法(3)	1	本科全	5			○		◎				
		英語の語彙・文法(4)	1	本科全	5			○		◎				
		英語の語彙・文法(注3)	2	本科全	4			○		◎				
		法学(注1)	2	本科全	4			◎						
		法学(注4)	2	本科全	5			◎						
		哲学	2	本科全	4			◎		○				
数学、自然科学、情報技術 250時間以上	Ⅱ群	線形代数論	2	専攻全	1				◎		◎	○		
		基礎物理学	2	専攻全	1				◎		◎	○		
		解析学	2	専攻全	1				◎		○	○		
		応用線形代数	2	専攻全	2				◎		◎	○		
		応用解析学	2	専攻全	2				◎		○	○		
		応用数学1	2	本科全	4				◎		○			
		応用数学2	2	本科全	4				◎		○			
		現代物理学	2	専攻全	2				◎		○	○		
		化学工学基礎2	2	専攻全	2				◎		○	○		
		化学工学基礎	2	専攻全	1	○			◎		◎	○		
		生命科学	2	専攻全	1				○		◎	○		
		数値計算力学	2	専攻MC	1				◎		◎	○		
		応用物理2	2	本科全	4				○		◎			
		応用物理3	2	本科全	5				○		◎			
		化学3	2	本科全	4				◎		◎			
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習	2	本科M	5				◎		◎		○	
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習	2	本科E	4				◎		◎		○	
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習	2	本科E	5				◎		◎		○	
専門分野 900時間以上							(1)基礎工学の知識・能力							
	Ⅲ群	生産システム工学	2	専攻MC	2		①設計・システム系科目群				◎	○	◎	○
		機械設計システム工学演習	2	専攻MC	1						◎	○	○	○
		建設設計システム工学演習	2	専攻MC	1						◎	○	○	○
		ロボット工学演習	4	専攻ES	1						◎	○	◎	◎
		3次元CAD	1	本科M	4						◎		◎	○
		制御システム工学	2	本科M	5						◎			○
		機械設計製図	4	本科M	4						◎		◎	◎
		建設システム設計製図	2	本科C	4						◎		◎	◎
		建設システム設計製図	2	本科C	5						◎		◎	○
		電気回路論・演習(注5)	2	本科E	4						◎		○	◎
		電気回路論(注2)	2	本科E	4						◎		○	◎
		制御工学1	2	本科E	4						◎		○	◎
		制御工学2	2	本科E	5						◎		○	◎
		電子回路設計製作実習	2	本科E	4						◎	○	◎	◎
		制御工学1(注5)	2	本科S	4						◎		○	◎
		制御工学基礎(注2)	2	本科S	4						◎		○	◎
		制御工学2	2	本科S	5						◎		○	◎
		回路設計(注5)	2	本科S	4						◎	○	○	◎
		機械工学概論	2	本科S	4						◎		○	
		計測工学(注5)	2	本科S	4						◎		○	○
		計測工学基礎(注2)	2	本科S	4						◎		○	○
		生産技術概論	2	本科MS	5						◎	○		○
	Ⅳ群	信号処理工学	2	専攻全	2		②情報・論理系科目群				◎	○	○	
		情報処理演習	1	専攻全	1						◎	○	○	
		メカトロニクス	2	本科M	4						○	◎		
		測量学3	2	本科C	4				◎		◎	◎	○	○
		プログラミング演習(注5)	2	本科C	4						○	◎		
		プログラミング2(注2)	2	本科C	4						○	◎		
		通信工学理論	2	本科E	5						◎	○	○	
		信号処理基礎	2	本科S	5						◎	○		
		情報理論	2	本科ES	5				○		◎	◎		○
	Ⅴ群	応用材料特論	2	専攻MC	2		③材料・バイオ系科目群				◎	○		
		材料加工学	2	専攻MC	1						◎	○	○	
		複合材料学	2	専攻MC	2						◎	○		○
		電子物性	2	専攻ES	2						◎	○		
		バイオテクノロジー	2	本科全	5						◎	○	◎	
		材料工学4(注6)	2	専攻全	2						◎			
		材料工学3(注6)	1	本科全	5					◎		◎		
		材料工学2(注6)	1	本科全	5					◎		◎		
		材料工学1(注6)	1	本科全	4						◎			
		材料学	2	本科M	4						◎			
		応用材料学	2	本科C	5						◎	○		
		半導体電子工学	2	本科E	5						◎	○		
		オプトエレクトロニクス	2	本科E	5						◎	◎		
		電気電子材料	2	本科E	4						◎	○		
		回路技術(注2)	2	本科S	4						◎	◎	○	○
		電子回路(注5)	2	本科S	4						◎	◎	○	○
	Ⅵ群	流体の力学	2	専攻MC	1						◎			
		応用構造力学	2	専攻MC	2						◎	○		○
		電気回路解析	2	専攻ES	1						◎	○		
		材料力学	2	本科M	4						◎		◎	
		工業力学	2	本科M	4						◎			
		水力学	2	本科M	4						◎			
		熱力学	2	本科M	4				◎		◎			
		機械力学	2	本科M	5				○		◎			

①～⑤の各系から少なくとも1科目　合計6科目以上

資料５－５－①－２（つづき）

専門分野900時間以上	Ⅵ群	構造力学2	4	本科C	4		④力学系科目群		◎		◎	○			
		水理学2	2	本科C	4						◎	○			
		土質工学2	2	本科C	4						◎	○			
		ｺﾝｸﾘｰﾄ構造学1	2	本科C	4						◎	○			
		ｺﾝｸﾘｰﾄ構造学2	2	本科C	5						◎	○			
		構造解析学	2	本科C	5						◎	○			
		電気磁気学・演習(注5)	2	本科E	4				◎		◎		○	◎	
		電気磁気学(注2)	2	本科E	4				◎		◎		○	◎	
		電磁波工学	2	本科E	4						◎	○			
		ﾛﾎﾞｯﾄ工学基礎	2	本科S	4						◎	○	○	◎	
	Ⅶ群	安全工学	2	専攻全	1	○	⑤社会技術系科目群		○		○	◎	◎		
		経営工学	2	専攻全	2						○	◎	◎		
		環境工学特論	2	専攻全	2	○			◎			◎		◎	
		環境工学	2	本科M	5				◎		○	○			
		原子力工学	2	本科E	5				○			◎			
							(2)専門工学の知識・能力								
	Ⅷ群	エネルギー工学	2	専攻MC	2		a)専門工学の知識と能力					◎		○	
		ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ	2	専攻ES	2						○	◎	○	○	
		ｼｰｹﾝｽ制御	2	専攻ES	1						○	◎	○	○	
		電子回路解析	2	専攻ES	1						○	◎	○	○	
		光通信工学	2	専攻ES	2						○	◎		○	
		電子計測工学	2	専攻ES	2						○	◎		○	
		現代制御工学	2	専攻ES	2						◎	◎		◎	
		文献講読	1	本科M	4						◎	○		○	
		塑性加工学	1	本科M	5						◎	○	○		
		材料科学	1	本科M	5						◎				
		熱工学	2	本科M	5						◎	◎			
		構造工学1	2	本科C	4						○	◎			
		水工学	2	本科C	4						○	◎			
		施工管理学	2	本科C	5						○	◎			
		建設ｼｽﾃﾑ総合演習	1	本科C	4						◎	○		○	
		構造工学2	2	本科C	5						○	◎			
		環境工学1	2	本科C	5						○	◎			
		環境工学2	2	本科C	5						○	◎			
		ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ	1	本科E	5						○	◎	○	○	
		電子回路論(注5)	2	本科E	4						○	◎	○	◎	
		電子回路(注2)	2	本科E	4						○	◎	○	◎	
		無線工学	2	本科E	5						◎	○			
		電気機器工学2	2	本科E	4						◎	○			
		制御工学3	2	本科S	5						◎	○	○	◎	
		CADｼｽﾃﾑ	2	本科S	5							◎	○	○	
		計算機工学	2	本科S	5						◎	○		○	
		ｼｽﾃﾑ開発	2	本科S	5						◎	○		○	
		ｼｰｹﾝｽ制御工学(注2)	2	本科S	4						◎	○	○	○	
		文献講読	2	本科S	4						◎	○		○	
		ﾈｯﾄﾜｰｸ技術	2	本科S	5						○	◎	○	○	
	Ⅸ群	構造設計工学実験	4	専攻MC	2	○	b)いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力				◎	◎	◎	○	
		電気・制御ｼｽﾃﾑ工学実験	4	専攻ES	2	○					◎	◎	◎	○	
		機械工学実験	3	本科M	4							○	◎		
		機械工学実験	2	本科M	5							○	◎		
		土質実験	2	本科C	4							○	◎	○	
		水理実験	1	本科C	5							○	◎	○	
		環境実験	1	本科C	5				◎			○	◎	○	
		電気電子工学実験	3	本科E	4							○	◎	○	
		電気電子工学実験	3	本科E	5				◎			○	◎	○	
		創造工学実習	2	本科E	5						◎	○	◎	◎	
		制御情報実験(注5)	4	本科S	4							○	◎	○	
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ応用(注5)	2	本科S	4				◎			○	◎	◎	
		応用ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ1(注2)	2	本科S	4				◎			○	◎	◎	
		ﾛﾎﾞｯﾄ製作実習(注5)	2	本科S	5								◎	◎	
		ﾛﾎﾞｯﾄ創造実習(注2)	2	本科S	5								◎	◎	
	Ⅹ群	構造設計工学特別研究	7	専攻MC	2	○	c)工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し組み立て、解決する能力		◎		◎		◎	◎	
		構造設計工学特別研究	3	専攻MC	1	○			◎		◎		◎	◎	
		構造設計工学ｾﾐﾅｰ	1	専攻MC	2	○			◎	○	◎			○	
		電気・制御ｼｽﾃﾑ工学ｾﾐﾅｰ	1	専攻ES	2	○			◎	○	◎			○	
		電気・制御ｼｽﾃﾑ工学特別研究	7	専攻ES	2	○		◎	◎		◎		◎	◎	
		電気・制御ｼｽﾃﾑ工学特別研究	3	専攻ES	1	○		◎	◎		◎		◎	◎	
		卒業研究	10	本科全	5				◎	◎	◎	○	◎	○	
	ⅩⅠ群	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ1(注7)	3	専攻全	3		d)(工学)技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力		◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ2(注7)	6	専攻全	6				◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ3(注7)	9	専攻全	9				◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ4(注7)	12	専攻全	12				◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		構造設計工学演習	2	専攻MC	1	○					◎	◎	○	◎	
		創造工学演習	2	専攻MC	2			◎	◎			◎		◎	
		電気・制御ｼｽﾃﾑ工学演習	2	専攻ES	1	○					◎	◎	○	◎	
		創造工学演習	2	専攻ES	2			◎	◎			◎		◎	
		熱力学演習	1	本科M	4						◎				
		水力学演習	1	本科M	4						◎				
		材料力学演習	1	本科M	4						◎				
		校外実習	1	本科M	4			◎	○	○					
		校外実習	1	本科C	4			◎	○	○					
		校外実習2	1	本科E	4			◎	○	○					
		校外実習	1	本科S	4			◎	○	○					

（出典　創造技術システム工学教育プログラム履修のてびき）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程と連携した専攻科課程を設け，教員及び学生に周知し，実施している。

観点５－５－②：教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

教育の目的に照らし，「創造技術システム工学」教育プログラムに関する科目群の選定，科目群をバランス良く修得できる授業科目の配置を実施している**（前述資料５－５－①－２）**。授業科目を修得することにより，学士の学位取得条件を満たすように編成している**（資料５－５－②－１）**。また，全体として，全ての学習･教育目標を達成できるように各授業に個別の教育目標を割り当て，授業内容を定めている。授業内容等については継続的な見直しており，平成 22 年度，３ヶ月のインターンシップを授業「インターンシップ４」（12 単位）として開講した**（資料５－５－②－２）**。

資料５－５－②－１

専攻科教育課程表

別表第７（第35条関係）

専攻科共通教育課程

（平成22年度以降の入学生に適用）

区分		授業科目	単位数	１年	２年	備考
一般科目	必修科目	工業英語	2	2		
		英語講読	4	2	2	
		技術者倫理	2	2		
		環境政策論	2		2	
		国際協力論	2	2		
		比較文化論	2		2	
		計	１４	8	6	
	選択科目	日本語表現特論	2		2	
		生命科学	2	2		
		計	4	2	2	
	一般科目単位数合計		１８	１０	8	
専門共通科目	必修科目	化学工学基礎	2	2		
		安全工学	2	2		
		環境工学特論	2		2	
		計	6	4	2	
	選択科目	線形代数論	2	2		
		応用線形代数	2		2	
		解析学	2	2		
		応用解析学	2		2	
		現代物理学	2		2	
		基礎物理学	2	2		
		化学工学基礎２	2		2	
		信号処理工学	2		2	
		情報処理演習	1	1		
		経営工学	2		2	
		材料工学４	2		2	
		計	２１	7	１４	
		（修得単位）	６単位以上修得			
合計			４５	２１	２４	
一般・専門共通科目修得単位			２６単位以上修得			

別表第８（第35条関係）

構造設計工学専攻教育課程

（平成22年度以降の入学生に適用）

区分	授業科目	単位数	１年	２年	備考
必修科目	構造設計工学セミナー	1		1	
	構造設計工学演習	2	2		
	構造設計工学実験	4		4	
	構造設計工学特別研究	１０	3	7	
	計	１７	5	１２	
選択科目	創造工学演習	2		2	
	数値計算力学	2	2		
	生産システム工学	2		2	
	流体の力学	2	2		
	応用構造力学	2		2	
	材料加工学	2	2		
	機械設計システム工学演習	2	2		
	応用材料特論	2		2	
	複合材料学	2		2	
	エネルギー工学	2		2	
	建設設計システム工学演習	2	2		
	インターンシップ１	3	3		インターンシップ１～インターンシップ４のいずれか１つを修得すること
	インターンシップ２	6	6		
	インターンシップ３	9	9		
	インターンシップ４	１２	１２		
	計	３４	２２	１２	
	（修得単位）	１２単位以上修得			
専門科目履修可能単位合計		５１	２７	２４	
専門科目修得単位		３６単位以上修得			
一般・専門共通科目修得単位		２６単位以上修得			
全科目修得単位		６２単位以上修得			

別表第９（第35条関係）

電気・制御システム工学専攻教育課程

（平成22年度以降の入学生に適用）

区分	授業科目	単位数	１年	２年	備考
必修科目	電気・制御システム工学セミナー	1		1	
	電気・制御システム工学演習	2	2		
	電気・制御システム工学実験	4		4	
	電気・制御システム工学特別研究	１０	3	7	
	計	１７	5	１２	
選択科目	創造工学演習	2		2	
	現代制御工学	2		2	
	シーケンス制御	2	2		
	電子回路解析	2	2		
	光通信工学	2		2	
	電子計測工学	2		2	
	ロボット工学演習	4	4		
	電気回路解析	2	2		
	パワーエレクトロニクス	2		2	
	電子物性	2		2	
	インターンシップ１	3	3		インターンシップ１～インターンシップ４のいずれか１つを修得すること
	インターンシップ２	6	6		
	インターンシップ３	9	9		
	インターンシップ４	１２	１２		
	計	３４	２２	１２	
	（修得単位）	１２単位以上修得			
専門科目履修可能単位合計		５１	２７	２４	
専門科目修得単位		３２単位以上修得			
一般・専門共通科目修得単位		２６単位以上修得			
全科目修得単位		６２単位以上修得			

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－５－②－２

インターンシップ４のシラバス

専攻科構造設計工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	インターンシップ4 Internship 4	C9135	1MC担任ほか	前期 後期	12	選択	JABEE

【授業目的】

国内外の企業，研究所，大学等において機械工学および建設システム工学に関連する専門的実習を行い，実務上の問題点と課題を理解し，適切に対応する基礎的能力を養う．

【到達目標】

1．実習機関（企業，研究所等）の現状をより深く把握する．
2．実習体験を通して，実践的・技術的感覚を養うとともに，専攻科での研究目的を明確化する．

【授業計画】授業時間540時間＋自学自習時間0時間

授業項目	授業時間	内　容
ガイダンス等	6	ガイダンス，事前打ち合わせ等 (1)事前に，目的，心構え，社会のルール等についてきめ細かな指導を受ける． (2)派遣先と具体的な実習内容等について打合せを行う．
学外における実習	510	国内外の企業，研究所，大学等における実習 (1)派遣先の実習指導者にもとで実習する． (2)実習期間中，2週間に1回程度の報告書を担当教員に提出する．
インターンシップ報告会	24	報告書作成，発表準備，報告会発表 (1)実習終了後，学生は実習先の責任者の評価を受けるとともに，実習全体の成果をまとめた報告書を担当教官に提出する． (2)すべての実習が完了した時点で，「インターンシップ報告会」を開催し，内容，感想，学習内容などを発表する．

【履修上の注意】

(1)学生は総実習期間に応じて，インターンシップ1から4のうち必ずいずれかを選択すること。(2) 企業，研究所等で実習を行うので，特別研究指導教員及び派遣先実習指導者の指示に従うこと．原則として，専攻科第1年次の8月中旬～11月末に実施する．(3) 複数箇所で実習を行った場合は，各実習先ごとに発表，レポートを作成する．(4)インターンシップ期間にインターンシップ以外で余った時間は特別研究に専念すること．

【教科書】

派遣先実習指導者の指示による．

【参考書】

派遣先実習指導者の指示による．

【成績評価の方法】

・インターンシップ報告会での発表60%，企業からの評価20%，レポート内容20%で評価する．
・複数箇所で実習を行った場合は，各実習先の実習時間数に応じた加重平均により評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(B)，(C)，(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(f)，(g)，(h)

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的に照らして，授業科目を適切に配置し，体系的に教育課程を編成している。授業内容は，教育の目的を達成するように定めている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

幅広い専門知識を保有し，適応力の高い技術者を望む社会からの要請に対し，専門共通科目を設定し，構造設計工学専攻，電気・制御システム工学専攻ともにこれを履修できるように配慮している（**前述資料５－５－②－１**）。視野が広い技術者を望む社会からの要請に対し，徳島大学工学部及び大阪大学工学部と教育・研究に関する連携協力協定を締結している（**資料５－５－③－１**）。社会の実態を把握する実践的な技術者になりたいという学生のニーズとそのような技術者を望む社会からの要請に対し，専攻科１年次にインターンシップを課している。平成22年度からは，同単位を３・６・９・12単位からの選択制とし，３単位を必須とした上で，インターンシップに関する選択の幅を広げた（**前述資料５－５－②－２**）。さらに国際化に対応できる能力を身に付けたいという学生のニーズとそのような人材を望む社会からの要請に対し，従来の企業実習の他，ドイツの大学と３月間の国際交流活動を行っている。22年度は５名の参加があった（**資料５－５－③－２**）。なお，インターンシップ終了後に学生アンケートを実施した。その結果からインターンシップの期間の長さ，テーマ・課題，および全般的な評価において良好であったことが分かる（**資料５－５－③－３**）。

授業「工学セミナー」は，学術発展の動向を踏まえて，最近のトピックスを踏まえた技術英語文献等を読解することで技術的視野を広めることを目的としている（**資料５－５－③－４**）。

資料５－５－③－１

大阪大学工学部と教育・研究に関する連携協力協定

大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意するものである。

第１条　大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、次により交流を行うものとする。
１．講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生、研究者の交流
２．両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
３．上記１以外の学生、研究者の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度両者で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　本協定は、両者の代表者による署名完了の日に効力が生じるものとし、５年間有効とする。なお、両者は６ヶ月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期限内に廃止されない場合は、本協定の有効期限満了日の６ヶ月前までに両者により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　この協定書に定めるもののほか、必要事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　この協定の定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、両者が協議のうえ処理するものとする。

上記協定の証として、協定書を２通作成し、両者がそれぞれ１通保有するものとする。

平成18年10月17日

独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校長
小松　満男

平成18年10月17日

国立大学法人大阪大学
工　学　部　長
大学院工学研究科長
豊田　政男

（出典　大阪大学との教育・研究に関する連携協力協定書）

資料５－５－③－２

オスナブリュック大学での交際交流活動

構　造　設　計　工　学　専　攻

予稿集番号	氏　名	実　習　先
MC-1	[redacted]	株式会社泉製作所(コーオプ)
MC-2		株式会社泉製作所(コーオプ)
MC-3		ドイツ・オスナブリュック応用科学大学
MC-4		株式会社泉製作所(コーオプ)
MC-5		日亜化学工業株式会社

電　気　・　制　御　シ　ス　テ　ム　工　学　専　攻

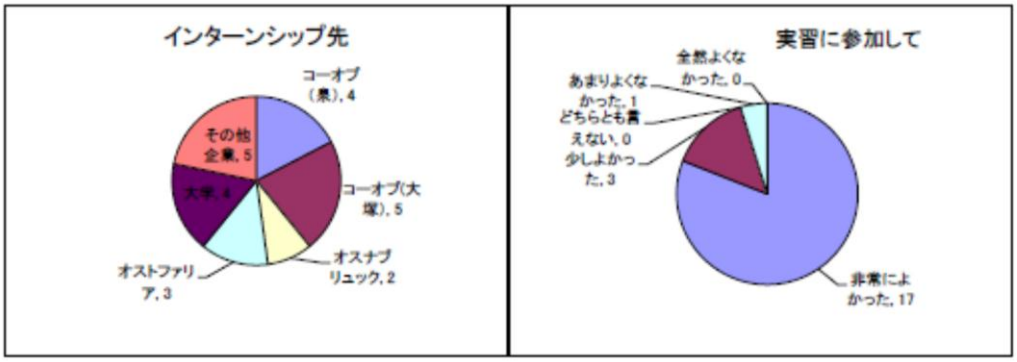
予稿集番号	氏　名	実　習　先
ES-1	[redacted]	徳島大学工学部電気電子工学科
ES-2		高槻電器工業株式会社
ES-3		大塚テクノ株式会社(コーオプ)
ES-4		徳島大学工学部光応用工学科
ES-5		大塚テクノ株式会社(コーオプ)
ES-6		奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科
ES-7		大塚テクノ株式会社(コーオプ)
ES-8		日亜化学工業株式会社
ES-9		ドイツ・オストファリア応用科学大学
ES-10		ドイツ・オストファリア応用科学大学
ES-11		大塚テクノ株式会社(コーオプ)
ES-12		ドイツ・オスナブリュック応用科学大学
ES-13		トヨタテクニカルディベロップメント株式会社
ES-14		徳島大学工学部電気電子工学科
ES-15		ドイツ・オストファリア応用科学大学
ES-16		株式会社泉製作所(コーオプ)
ES-17		大塚テクノ株式会社(コーオプ)
ES-18		徳島大学大学院エコシステム工学コース

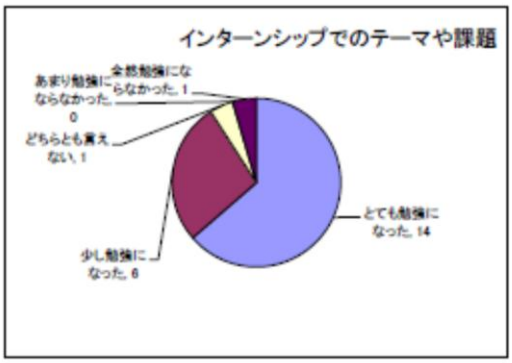
（出典　平成 22 年度　インターンシップ参加者一覧）

資料５－５－③－３

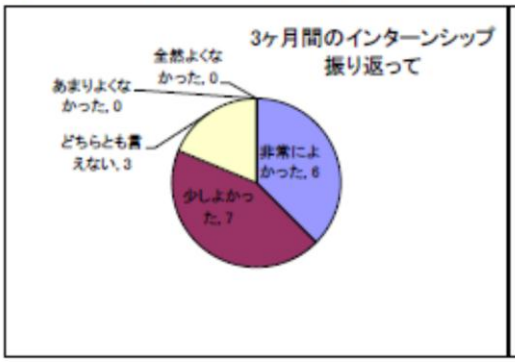
平成２２年度　専攻科１年　インターンシップアンケート結果（抜粋）　　資料３

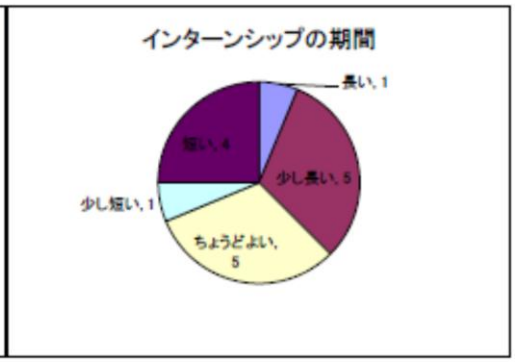
１．インターンシップに参加して





２．インターンシップの制度について





（出典　平成 23 年 1 月 19 日　運営委員会資料）

資料５－５－③－４

工学セミナーのシラバス

専攻科構造設計工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	構造設計工学セミナー Mechanical and Construction Design Engineering Seminar	C1201	機械工学科教員／建設システム工学科教員	前期 後期	2	必修	JABEE

【授業目的】

各教員が保有している最新技術情報を知ることにより，学生の研究意欲や学習意欲を高めたり，技術的視野を広めることを目的とする．

【到達目標】

1. 各分野の英語の科学技術論文を読解し，その内容を説明できる．
2. 技術者として必要な専門知識を習得し，その内容を説明できる．

【授業計画】授業時間62時間＋自学自習時間30時間

授業項目	授業時間	内　容
前期：英文講読	24	○技術英語論文および文献和訳 (1)材料の強度と破壊 (Strength and Fracture of Materials) (2)シミュレーションとモンテカルロ法 (Simulation and Monte Carlo Method) (3)土と構造物の相互作用 (Soil-Structure Interaction) (4)アクティビティ分析 (Activity-based approach)
前期：特別演習	6	○外部講師等による特別演習
【前期末試験】 【答案返却時間】	1	
後期：英文講読	24	○技術英語論文および文献和訳 (5)工業材料 (Engineering Materials) (6)エアロゾルと環境・産業 (Aerosol Technology) (7)レーザ溶接 (Laser Welding) (8)災害と環境 (Disaster and Environment)
後期：特別演習	6	○外部講師等による特別演習
【前期末試験】 【答案返却時間】	1	※テーマおよびスケジュールは状況により変更する可能性がある．詳細は別途提示する．

【履修上の注意】

英文講読では技術英語文献についての単なる和訳に留まらず，そのテーマと社会が要求する問題や工学的問題ついても心がけて受講してほしい．
特別演習は外部講師等による授業であり，他分野の技術的視野を少しでも広げて欲しい．

【教科書】

各テーマの担当教員が準備した技術資料

【参考書】

各テーマの担当教員が紹介した参考書

【成績評価の方法】

全テーマの平均得点で総合評価する．英文講読ではレポート・作品等を60%，定期試験を40%として総合評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(B)，(C)，(D1)，(D2)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(f)，(g)，(h)

— 330 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

（分析結果とその根拠理由）

共通専門科目の履修，米国の大学との教育連携，徳島大学及び大阪大学との教育･研究に関する連携協力，インターンシップなどを通して学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成を行っている。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

「創造技術システム工学」教育プログラムでは，各学習･教育目標を達成できるよう科目群と必要単位を設定し，科目群に偏りが生じないよう，学生が偏りなく単位を修得できるカリキュラムを組んでいる（**前述資料５－５－①－２**）。そこでは，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスにも配慮している。

工学セミナーでの指定された英語論文の解釈をゼミ形式で発表する対話･討論型授業（**資料５－６－①－１**），与えられた課題についての調査結果を発表する授業（**資料５－６－①－２**），e-learning システムによる自学自習を活用する英語等の工夫を行っている。

資料５－６－①－１

工学セミナー実施計画（学生配布資料）

H22. 4. 6

学生配布用　　*平成 22 年度　構造設計工学セミナー 実施計画*

平成22年度　構造設計工学セミナー（C1201，2単位通年 演習科目）実施計画

１．授業目標と到達目標，及び成績評価の方法は下記の通りです．

【授業目標と概要】

各教員が保有している最新技術情報を知ることにより，学生の研究意欲や学習意欲を高めたり，技術的視野を広めることを目的とする．

【到達目標】

１．各分野の英語の科学技術論文を読解し，その内容を説明できる．

２．技術者として必要な専門知識を習得し，その内容を説明できる．

【成績評価の方法】

全テーマの平均得点で総合評価する．技術英語文献等の講読ではレポート・作品等を60%，筆記試験を40%として総合評価する．

２．実施日時と場所

【前期】木曜日５・６校時，専攻科棟３階　講義室２．【後期】未定

３．テーマごとに，レポート（又は作品）を100点満点，筆記試験を100点満点，で評価します．総合成績は，全テーマの平均点をレポート60%，筆記試験40%に換算します．

４．レポートの表紙には必ず，自学自習の日時と時間数を記入してください．自学自習時間としてレポートに設定された時間は１テーマ当たり３時間以上です．（時間数が未記入の場合，自学自習は０時間となり，単位認定ができない場合があります）

５．レポート等の提出締め切りは各担当教員からの指示に従って必ず提出して下さい．提出しなければそのテーマのレポート得点は０点，自学自習時間も０時間となります．

６．授業には全て出席することが前提です．欠課すると不合格になる場合があります．疾病等やむを得ない事情や特別欠席の場合には，早急に担当教員に申し出て補講などの措置を行って頂いて下さい．

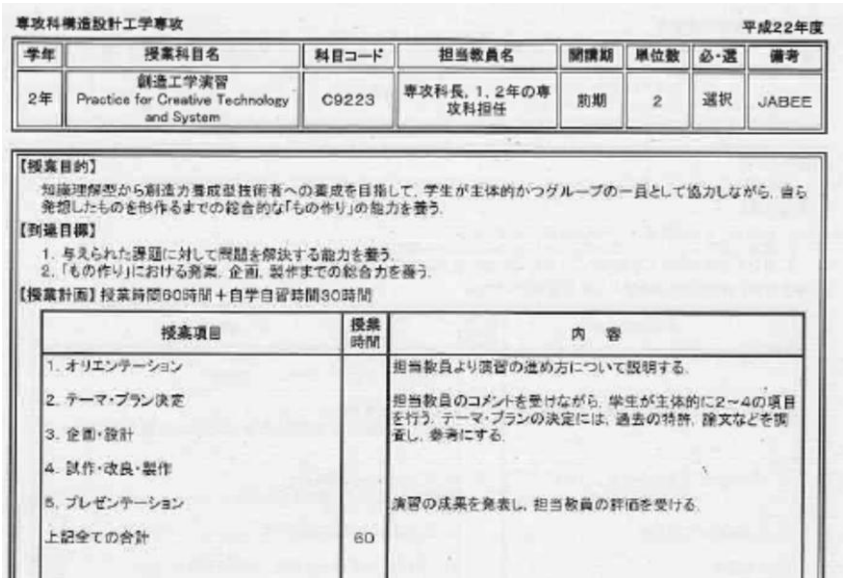
７．日程（木曜日5・6校時）後期は未定です．

No.	担当教員	テーマ名	実施予定日			備考
①	西野精一	材料の強度と破壊 (Strength and Fracture of Materials)	4月8日	4月15日	4月22日	4月15日：歯科検診 4月22日：歯科検診
②	松保重之	シミュレーションとモンテカルロ法 (Simulation and Monte Carlo Method)	5月6日	5月13日	5月20日	
③	吉村　洋	土と構造物の相互作用 (Soil-Structure Interaction)	5月27日	6月3日	6月24日	6月3日：耳鼻科検診
④	加藤研二	アクティビティ分析 (Activity-based approach)	7月1日	7月8日	7月16日*	
⑤	外部講師	調整中	7月21日*	7月29日	8月2日	2ESと合同のため月曜日3･4校時開講
	奥本良博	定期試験，成績とりまとめ	試験期間：8月4日～8月10日			返却期間：8月10日～8月11日
⑥	奥本良博	工業材料(Engineering Materials)	10月7日	10月14日	10月21日	
⑦	吉田岳人	エアロゾルと環境・産業 (Aerosol Technology)	10月28日	11月4日	11月11日	10月28日：保護者懇談会
⑧	西本浩司	レーザ溶接(Laser Welding)	11月18日	11月25日	12月9日	11月18日：TOEIC IP
⑨	湯城豊勝	災害と環境 (Disaster and Environment)	12月16日	1月6日	1月13日	1月6日：授業開始（午後平常授業）
⑩	外部講師	調整中	1月17日	1月24日	1月31日	2ESと合同のため月曜日3･4校時開講
	奥本良博	定期試験，成績とりまとめ・到達目標修得点検アンケートなど	試験期間：2月23日～2月28日			返却期間：3月1日～3月3日 成績締め切り3月4日
	後期予備日		2月17日			

（出典　平成 22 年度工学セミナー実施計画資料）

資料５－６－①－２

課題についての調査結果を発表する授業事例



専攻科構造設計工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	創造工学演習 Practice for Creative Technology and System	C9223	専攻科長，1，2年の専攻科担任	前期	2	選択	JABEE

【授業目的】
知識理解型から創造力養成型技術者への養成を目指して，学生が主体的かつグループの一員として協力しながら，自ら発想したものを形作るまでの総合的な「もの作り」の能力を養う．

【到達目標】
1．与えられた課題に対して問題を解決する能力を養う．
2．「もの作り」における発案，企画，製作までの総合力を養う．

【授業計画】授業時間60時間＋自学自習時間30時間

授業項目	授業時間	内　容
1．オリエンテーション		担当教員より演習の進め方について説明する．
2．テーマ・プラン決定		担当教員のコメントを受けながら，学生が主体的に2～4の項目を行う．テーマ・プランの決定には，過去の特許，論文などを調査し，参考にする．
3．企画・設計		
4．試作・改良・製作		
5．プレゼンテーション		演習の成果を発表し，担当教員の評価を受ける．
上記全ての合計	60	

（出典　平成 22 年度創造工学演習シラバスの一部）

（分析結果とその根拠理由）

「創造技術システム工学」教育プログラムに基づき教育の目的に照らし，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが取れるようにカリキュラムを編成している。

対話・討論型授業，課題解決学習，e-learningを利用した英語教育など，学習指導法についての工夫を行っている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスには，授業目標と概要，到達目標，授業時間，自習時間，授業計画，履修上の注意，教科書，参考書，成績評価の方法及び当該授業科目と本校の教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性について記述している（**資料５－６－②－１**）。同項目のうち，到達目標と本校の学習・教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性の項目は，当該授業科目の受講によって習得できる能力及び当該授業科目と本校が目指す技術者像（教育目標）との関連を明示するものである。

シラバス（冊子）は各学級に配置するとともに本校 Web サイトにも掲載し（**資料５－６－②－２**），学生が閲覧できるように配慮している。年度当初の授業ガイダンスでは，各教員から受講学生にシラバス内容を明示し，周知している。

準学士課程と同様に授業開講期末にはシラバスに記載した到達目標の達成度を問うアンケートを実施している（**資料５－６－②－３**）。さらに年１回，授業評価アンケートを実施してシラバスとの整合性に関する回答ポイントからシラバスの有効活用を確認している（**資料５－６－②－４**）。

資料５－６－②－１

授業科目と教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性を明記

専攻科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	安全工学 Safety Engineering	B1127	宮城勢治、三木哲志	前期	2	必修	JABEE

【授業目的】
現代社会において，産業の現場あるいは日常生活はさまざまな危険性をはらんでいる．本講義ではその危険性を安全工学という学問で捉え，危険性と対処の仕方を具体的に学び，安全なシステム及び物づくりに貢献する．

【到達目標】
1．安全に対する考え方が理解できる．
2．産業災害の実態と対策が把握できる．
3．信頼性工学を応用してプラント等の信頼性解析ができる．

【授業計画】授業時間32時間＋自学自習時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
1．事故と安全	1	日常生活，実習，化学工場における事故と安全
2．産業災害の実態	3	災害の種類，産業災害の統計
3．産業災害の防止	4	災害の原因，災害原因のつながり，災害の起こる背景，災害と損失，安全のための法令と資格，産業安全の歴史
4．燃焼と爆発	8	燃焼と火災，爆発と爆発災害，火災と爆発災害の防止，混合危険，高圧ガス
【中間試験】	1	
5．有害物質	6	有害物質，工業中毒と薬傷，有害物質による障害の予防
6．化学プラントの安全	4	設備災害と安全，化学プラントの安全，安全管理と安全教育
7．安全と信頼性工学	4	システムの信頼性と安全，故障率，信頼度など
【期末試験】 【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】
履修条件ではないが，化学，熱力学，環境工学などの知識が必要である．

【教科書】
工業安全　内藤道夫監修（実教出版）

【参考書】
機械安全工学　清水久二，福田隆文編著（養賢堂）
設備安全工学　清水久二著（裳華房），信頼性工学テキスト　栗原謙三著（日本理工出版会）

【成績評価の方法】
総合成績は中間試験と期末試験を合わせて70点，平常点（演習，レポート等）を30点として評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)，(B)，(D1)，(D2)，(E1)
【関連するJABEE基準】(a)，(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

— 302 —

（出典　平成 22 年度安全工学シラバス）

資料５－６－②－２

阿南高専 Web サイト　専攻科シラバス公開



（出典　阿南高専 Web サイト　専攻科シラバス）

資料５－６－②－３

シラバスに記載した到達目標の達成度を問うアンケート

専攻科構造設計工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	構造設計工学特別研究 Mechanical and Constructional Design Engineering Special Research	C1207	特別研究指導教員	前期 後期	7	必修	JABEE

【授業目的】
各指導教員のもとでそれぞれの分野の研究に専念し，研究に対する基本姿勢を身につけるとともに，複合的視野を持って研究開発の重要性を学ぶ．さらに，もの作りを考慮しながら，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を養う．

【到達目標】
1．複合的な技術開発を進められる能力や技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を保持している．
2．文献調査・実験・計算などができ，目標に向かって自主的に研究できる．
3．論文が作成でき，また，研究発表ができる．

【授業計画】授業時間315時間＋自学自習時間0時間

授業項目	授業時間	内　容
特別研究の遂行		指導教員の指導の下で，ゼミ，実験，計算などを行う．
中間発表会		中間発表会の概要原稿を作成する． プレゼンテーションの練習をした後，中間発表を行い，出席教員の質問に答えるとともに，コメントを受け，以降の研究に反映させる．

シラバス記載の到達目標修得点検アンケート

科目名：特別研究　　クラス：２MC　　担当教員：奥本　良博

本科目受講を終わるにあたり，シラバスに記載してある［到達目標］について，あなたはどの程度理解および修得できたと思いますか．各項目について以下の自己評価をして，A,B,C,Dで記入してください．

A：よく理解できた
B：やや理解できた
C：あまり理解できなかった
D：全く理解できなかった

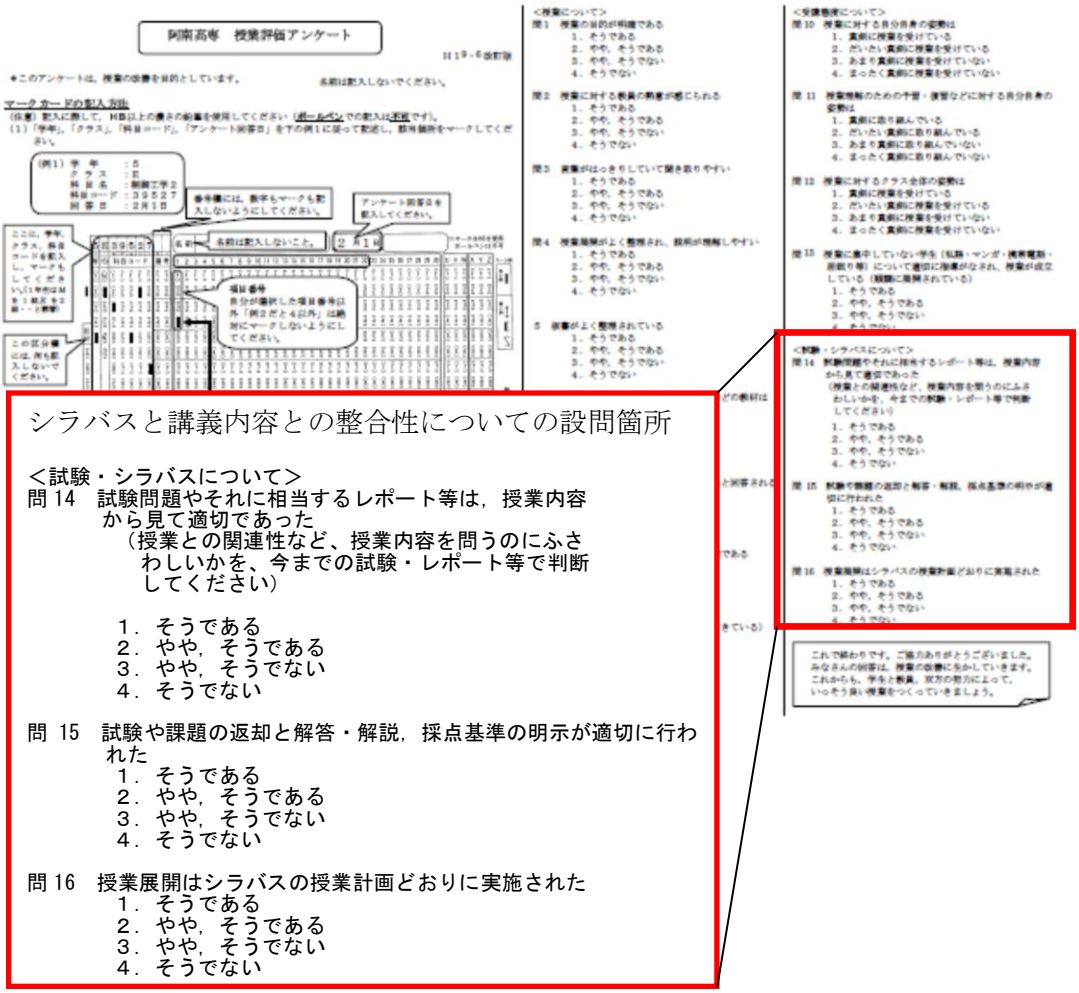
［到達目標］

1．複合的な技術開発を進められる能力や技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を保持している．（　）
2．文献調査・実験・計算などができ，目標に向かって自主的に研究できる．（　）
3．論文が作成でき，また，研究発表ができる．（　）

（出典　平成 22 年度シラバスと到達目標修得点検アンケート用紙）

資料５－６－②－４

シラバスと講義内容との整合性についての設問



（出典　学生配布用　授業評価アンケート質問シート）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成趣旨に沿ってシラバスを作成し，授業目標と概要，到達目標，授業時間，自習時間（学習単位授業のみ），授業計画，履修上の注意，教科書，参考書，成績評価の方法及び当該授業科目と本校の教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性について記述し，学生の学習に資するようにしている。

シラバス冊子の各学級への配置，Web サイトへの掲載により，学生によるシラバス活用の利便性に配慮している。教員による，授業ごとのシラバスの記載内容に関するガイダンスを行っている。シラバス活用状況を授業評価アンケートにより確認しており，同状況は満足できるものとなっている。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

専攻科１年次で開講のロボット工学演習では，１年間通じて機械工学，電気電子工学，情報工学，プログラミングなどの知識と技術を駆使して，２，３名のグループを構成してロボットシステムの完成を行う（**資料５－６－③－１**）。構造設計工学演習では高度な情報処理技術の修得、３次元CAD、特許知識の概略を学ぶ演習を行っている（**資料５－６－③－２**）。これらの演習を通じて全体のものづくりの流れをシステムとして意識できるよう教育方法に工夫を行った授業を実施している。専攻科２年次の電気・制御システム工学実験（**資料５－６－③－３**）および構造設計工学実験（**資料５－６－③－４**）では，ものづくりに繋がる創造的思考力や実践的な技術の取得に向けた教育方法の工夫を行った授業を実施している。

専攻科１年次にインターンシップを課している。平成22年度からは，同単位を３・６・９・12単位からの選択制とし，３単位を必須とした上で，インターンシップに関する選択の幅を広げた（**前述資料５－５－②－２**）。さらにその評価はインターンシップ後の学生アンケートからその効果が示されている（**前述資料５－５－③－３**）。

資料５－６－③－１

ロボット工学演習のシラバス

専攻科電気・制御システム工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	ロボット工学演習 Robot Engineering Exercises	E9125	長谷川竜生，小松実 福田耕治，宮城勢治	前期 後期	4	選択	JABEE

【授業目的】

ロボットは，機械工学，電気電子工学，情報工学，プログラミングなど多くの工学分野が融合して製作できるものであり，現場で必要とされる工学全般の実践的知識の習得に最適な教材である．本科目では，ワンチップマイコンdsPICの使用法に関する演習を行い，ロボットシステムに関する知識の習得とグループでの設計・製作・システム開発の手法を学ぶことを目的とする．

【到達目標】

1. ロボットの構造・システム・制御方法が理解できる．
2. マイコン制御の周辺回路の設計・製作・プログラミングができる．
3. グループでのシステム開発の手法を理解し実践できる．
4. 工作機械で加工し，ロボットシステムの組み立てができる．

【授業計画】 授業時間123時間＋自学自習時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
【マイコン回路演習】		
1．dsPIC回路の学習	32	LEDの点灯制御，PWM制御，7セグメントLED，ダイナミック点灯制御，LEDディスプレイ
【前期中間試験】	2	
	28	割り込み処理，モーター制御，ADコンバータ，シリアル通信，フィルタ処理
【前期末試験】 【答案返却】	1	
【ロボットシステムの設計製作】		
1．ロボットシステム全般	8	機構学（動作機構）
2．加工・工作法とセンサ・モータ	4	機械加工法，電子工作法，各種センサ・モータの種類など
3．プログラミング法	4	マイコンシステムのプログラム開発環境
4．テーマの提示とグループ分け	4	グループごとに課題をクリアするアイディアを話し合う
5．アイディアの提出と調整	4	課題をクリアする機構，使用センサ，プログラム構成の提示
6．ロボットシステムのグループ製作	32	ロボットの製作およびドキュメントの作成
7．発表会	4	作品を用いた発表

【履修上の注意】

前期は長谷川・小松教員担当でマイコン回路演習を行い，後期は福田・宮城教員担当でロボットシステムの設計製作を行う．グループ単位(2～3名)で実習を行うので，協力して計画的に進めること．

【教科書】

担当教員が作成したテキスト

【参考書】

電子制御・信号処理のためのdsPIC活用ガイドブック　後閑哲也　技術評論社
ロボット製作のキーワード　清弘智昭，鈴木昇共著　オーム社

【成績評価の方法】

マイコン回路演習50%，ロボットシステムの設計製作50%で評価する．マイコン回路演習は中間試験と期末試験成績を合わせて60%，演習・レポートを40%で評価する．ロボットシステムの設計製作は製作物70%，レポートを30%で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】（D1），（D2），（E1），（E2）
【関連するJABEE基準】（b），（c），（d），（e），（g），（h）

— 345 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－６－③－２

構造設計工学演習のシラバス

専攻科構造設計工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	構造設計工学演習 Mechanical and Constructional Design Engineering Exercises	C1104	1MC担任 他	前期	2	必修	JABEE

【授業目的】

専門技術の基礎となる情報処理工学に関する演習を行い，基本的な知識・技術を習得するとともに，特許申請の具体的な演習を通して実践的技術者としての能力を養う．

【到達目標】

1. Linux等のOSを使用し，各種書類が作成できる．
2. 3次元CADを使用し，簡単な設計図を作成できる．
3. 特許に関する基礎知識を修得し，特許情報の検索・活用ができる．

【授業計画】授業時間60時間＋自学自習時間30時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 情報処理演習	12 12 8 8	(1)3次元CAD演習 (2)OS(Linux)演習 (3)Tex演習基礎 (4)Tex演習応用
2. 特許の基礎	20	(1) 特許制度の基礎 (2) 特許情報の取得・活用の基礎 (3) 特許明細書の基礎と各論

【履修上の注意】

電気・制御システム工学専攻および構造設計工学専攻合同で行う．
授業項目に関する基礎知識を十分に復習し，これらの基礎知識が実際のものづくりにどのように結びつくかを体得すること．

【教科書】

各担当教員より紹介

【参考書】

各担当教員より紹介

【成績評価の方法】

作業の進め方，最終作品やレポート等(想像力，デザイン能力など)より，担当教員の評価を平均する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－６－③－３

電気・制御システム工学実験のシラバス

専攻科電気・制御システム工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	電気・制御システム工学実験 Electrical and Control System Engineering Experiment	E1205	電気電子工学科教員/制御システム工学科教員/建設システム工学科教員	前期 後期	4	必修	JABEE

【授業目的】

「もの作り」につながる創造的思考力や実践的な問題の発見・解決能力，及び複合的な技術開発を進める能力を養成することを目的とする．

【到達目標】

1. 実験目的に応じた基本的な実験技術を習得し，実験を遂行することができる．
2. 実験結果を工学的に考察し，問題解決することができる．

【授業計画】授業時間180時間＋自学自習時間0時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 前期実験	90	(1) ラインセンサ回路の設計製作実習 (2) 光学素子を用いた創造製作実習 (3) FPGAを用いた論理回路設計 (4) SFC方式によるシーケンス制御 (5) はりのたわみ測定による力学理論の検証
2. 後期実験	90	(6) Legoを用いた組み込みシステム製作実習 (7) 自動計測システムの構築 (8) ネットワークサーバ構築に関する実験 (9) 基本素子アンテナの製作とその放射特性測定 (10) センサ特性計測実験 ※ テーマおよびスケジュールは都合により変更される可能性がある．詳細は別途提示する．

【履修上の注意】

1テーマは3週間（18時間）で実施する．テーマ担当教員の判断により，理解度を確認するための筆記試験を実施することがある．
実験中は，安全に十分配慮し，担当教員の指示に従うこと．

【教科書】

各テーマの担当教員が作成あるいは指定した実験説明書

【参考書】

各テーマの担当教員が指定した参考書

【成績評価の方法】

成績評価はテーマ毎に100点満点で評価し，全テーマの平均得点を総合評価とする．筆記試験の有無，レポート等との評価の比率は，各担当教員より授業時に知らせる．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

— 352 —

（出典　阿南高専シラバス　平成 22 年度）

資料５－６－③－４

構造設計工学実験のシラバス

専攻科構造設計工学専攻　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	構造設計工学実験 Mechanical and Constructional Design Engineering Experiments	C1205	機械工学科教員/建設システム工学科教員/電気電子工学科教員	前期 後期	4	必修	JABEE

【授業目的】

「ものづくり」につながる創造的思考力や実践的な問題の発見・解決能力及び複合的な技術開発を進められる能力を養成することを目的とする.

【到達目標】

1. 実験目的に応じた基本的な実験技術を習得し, 実験を遂行することができる.
2. 実験結果を工学的に考察し, 問題解決することができる.

【授業計画】授業時間182時間＋自学自習時間0時間

授業項目	授業時間	内　容
前期実験	90	(1)LabVIEWによるGPIB制御〔融合・複合系〕 (2)未利用竹材・廃棄物を利用した製品の試作〔環境系・創造系〕 (3)実験計画法を用いた紙ヘリコプターの最適化実験〔創造系〕 (4)平板上に生成された境界層流れの特性〔流体系〕 (5)干潟の絶滅危惧種分布調査〔環境系〕
【前期末試験】 【答案返却時間】	1	
後期実験	90	(6)多孔質セラミックスの熱的・機械的特性試験〔材料系〕 (7)メカトロモータ制御実験〔メカトロ系〕 (8)開水路における掃流砂量特性の実験〔流体系〕 (9)環境に配慮したコンクリートの製造とその評価試験〔環境系・材料系〕 (10)橋梁模型の製作と載荷実験〔創造系・力学系〕
【後期末試験】 【答案返却時間】	1	
※テーマおよびスケジュールは状況により変更される可能性があり, 詳細は別途提示する.		

【履修上の注意】

1テーマは3週間(18時間)で実施し, テーマ担当教員の判断に応じて理解度を計るための筆記試験を実施します.
実験中は, 安全に十分注意し, 担当教員の指示に従うこと

【教科書】

各テーマの担当教員が作成あるいは指定した実験説明書

【参考書】

各テーマの担当教員が指定した参考書

【成績評価の方法】

成績評価はテーマ毎に100点満点で評価し, 全テーマの平均得点で総合評価する. 筆記試験, レポート等との評価の比率は各テーマの担当教員から授業時に知らせる.

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1), (D2), (E1), (E2)
【関連するJABEE基準】(b), (c), (d), (e), (g), (h)

— 331 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

（分析結果とその根拠理由）

工学演習や工学実験等において，学生の創造性を育むように教育方法を工夫している。インターンシップ制度を充実させ，学生の多様なニーズに対応できるようにしている。

観点５－７－①　：教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程に，環境政策論，国際協力論，比較文化論，技術者倫理の各授業を必修科目として配し，多岐にわたる教養の獲得を可能としている。一方向的な講義でなく，教員と学生，学生相互の意見交換など双方向的な授業形態を基本とし，学生自身の調査や思考を重視し単なる知識の伝達･記憶に終わらないようにするなど，学習内容が深く定着し教養となるよう，本校の校訓及び教育理念，学習･教育目標の観点から工夫している**（資料５－７－①－１～４）**。

特別研究では，学生が提出する研究時間報告書**（資料５－７－①－５）**，学習支援ミーティング**（資料５－７－①－６）**により，研究の進捗状況や今後の研究予定を確認することによって研究レベルを高位に維持し，ものづくりに関する創造性の涵養できるようにしている。また，専攻科の修了要件として学会発表を義務付け，それらの実施を確認している**（資料５－７－①－７）**。

演習や実験科目，教員指導の下で学生が実施する研究について，教員の指導の下，効果的な研究が進むよう技術職員を配置している**（資料５－７－①－８）**。本校出身の学生については専攻科受検時に研究分野希望を聴取し，入学時に学生と相談して担任教員が指導教員を決定し，指導教員の指導の下で各学生は専攻科研究として適切なテーマを選択している**（資料５－７－①－９）**。

資料５－７－①－１

環境政策論のシラバス

専攻科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	環境工学特論 Advanced Environmental Engineering	B1243	湯城豊勝	前期	2	必修	JABEE

【授業目的】

環境問題が，なぜどのように起きたかを歴史的に理解させる．また，日本の公害問題から地球環境問題になった経緯と，個々の環境問題についても理解させる．環境問題は、原因としては一般・産業廃棄物，大規模な工業化，食糧問題，エネルギー問題等が挙げられ，結果としては健康被害，経済の停滞，自然破壊等、人類の生存に関係することについても理解させることを目的とする．

【到達目標】

1. 環境問題の歴史，とくにその背景と関係する法規が理解できる．
2. 大気・水・土を中心として，現在どのような環境問題が発生しているかが理解できる．
3. 地球環境問題から身近な環境問題まで理解できる．
4. 技術者倫理と環境問題を結びつけて考えることができる．

【授業計画】授業時間32時間＋自学自習時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 環境問題の歴史と法規	4	(1)環境問題の種類と歴史 (2)環境に関する法規制定の歴史
2. 大気環境問題	4	(1)音と振動 (2)大気汚染
3. 水環境問題	6	(1)水質汚濁 (2)水質汚濁対策 (3)洪水と渇水
【中間試験】	1	
4. 土環境問題	4	(1)地盤沈下 (2)土壌汚染
5. 廃棄物問題	2	(1)廃棄物の発生と処理
6. 自然環境問題	2	(1)自然環境の破壊と保全
7. 地球環境問題	2	(1)地球環境の変化と対応
8. エネルギー問題	2	(1)新しいエネルギー
9. 環境影響評価法	2	(1)環境アセスメントと環境保全
10. 環境施設見学	2	
【期末試験】		
【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】

環境問題は最近のマスメディアをにぎわせている．新聞・学会誌・雑誌・テレビ・ラジオ等に注視し，現在問題になっている事柄に興味を持つように努める．レポート作成に際しては，図書館やインターネットを積極的に利用して自ら調べることと考える姿勢を大切にする．

【教科書】

環境工学　石井一郎　森北出版

【参考書】

手にとるように環境問題がわかる本　三和総合研究所監修　かんき出版

【成績評価の方法】

総合成績は試験成績を50%，平常点（レポート）50%で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)，(D2)，(E2)
【関連するJABEE基準】(a)，(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

— 307 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－７－①－２

国際協力論のシラバス

専攻科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	国際協力論 International Cooperation	A1123	今田浩之	前期	2	必修	JABEE

【授業目的】

本講義では，転換期を迎えたとされる日本の国際協力のあり方について，ODAを基軸に，その他の手法も併せて，その意義と課題を多角的に検討することを目標とする．

授業では，まず，国際協力の歴史を振り返る．また現在のODAの諸類型・諸アプローチを概観する．その上で，国際協力の主要な諸課題を検討していく．そして，国際協力の実施方針・実施体制を含む国際協力改革の動向を踏まえ，今後のあり方を構想する．

【到達目標】

1. ODAの諸類型・諸アプローチについて理解する．
2. 国際協力の主要な課題について理解する．
3. 国際協力改革の動向について理解する．

【授業計画】授業時間31時間＋自学自習時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 国際協力とは何か		
(1)国際貢献と国際協力	1	国際貢献，国際協力
(2)国際協力の歴史	3	国際的な国際協力の歴史 わが国の国際協力の歴史
2. ODAとは何か		
(1)ODAの諸類型	4	有償資金協力，無償資金協力，技術協力
(2)各国のODAの特徴	1	政策的特徴，援助体制
(3)ODAの諸アプローチ	6	「構造調整」アプローチ 「人間の安全保障」アプローチその他
3. 国際協力の主要な課題		
(1)紛争予防と復興支援	2	紛争予防，平和構築，PKO
(2)貧困削減	2	重債務貧困国支援
(3)持続可能な発展	2	開発・経済発展と環境保全
(4)良き統治	2	人権保障，民主政治，良き統治
4. 転換期の日本の国際協力		
(1)ODA実施の基本方針	3	新旧ODA大綱，中期政策
(2)国際協力改革	4	実施体制その他国際協力改革
【期末試験】 【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】

ODA以外の国際協力のあり方についても関心を持つようにして下さい．
国際政治経済に関わる時事的な話題にも目を向けましょう．

【教科書】

『開発援助の経済学(第四版)』 西垣　昭ほか　有斐閣　(2009)

【参考書】

【成績評価の方法】

試験成績を60%，レポート等の提出課題を40%として評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)
【関連するJABEE基準】(a)，(b)

— 296 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－７－①－３

比較文化論のシラバス

専攻科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
2年	比較文化論 Comparative Culturology	A1221	藤居岳人	前期	2	必修	JABEE

【授業目的】

異文化と比較することによって，自分自身が基底とする日本文化に対する意識を高める．本講義では，特に東アジア（中国・朝鮮等）の文化と日本文化との類似点・相違点に関する問題をいくつか取り上げて概説する．特に時事問題をできる限り取り上げて，国際社会に生きる技術者としての自覚を高めてもらいたい．また，テーマを設定して議論もしてゆきたい．

【到達目標】

東アジア文化に関する講義と意見交換とを通じて，
1．東アジアを含む国際社会の歴史（特に近現代）の学習を通して，周囲の文化に対する理解を深められる．
2．日本と東アジア（特に中国）との文化の比較を通して，日本人としての自覚を高め，その類似点・相違点を説明することができる．

【授業計画】授業時間31時間+自学自習時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
1．異文化を比較することの意味	4	・文化の比較はなぜ必要か？ ・日本と中国とは同文同種？全くの異文化？
2．中国と台湾と	6	・現代の中国・台湾問題を概説しつつ，その文化の違いについて述べる．
3．日本語と中国語と	6	・主に漢字について日本語・中国語の類似点・相違点について述べる．
4．中国・朝鮮と儒教文化と	4	・現代の中国・朝鮮問題と関連づけつつ，伝統的な儒教文化の影響を考える．
5．東アジアの社会観	4	・日本と中国との社会に対する見方の相違点について概説する．（タテ社会とヨコ社会と）
6．日本の文化と中国の文化と	6	・日本と中国との文化のそれぞれの特性について概説する．（武士文化と文人文化と）
【期末試験】		
【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】

簡単な中国語会話の時間も設けることによって，言語の方面からも異文化に対する関心を深めることができるようにする．

【教科書】

使用しない．適宜，プリント資料を配付する．

【参考書】

講義中に適宜，紹介する．

【成績評価の方法】

定期試験60%＋レポート点40%で評価する．

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)，(C)
【関連するJABEE基準】(a)，(b)，(f)

— 299 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－７－①－４

技術者倫理のシラバス

専攻科共通科目　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
1年	技術者倫理 Engineering Ethics	A1131	藤居岳人	前期	2	必修	JABEE

【授業目的】

「倫理」は本来，他人に押しつけられるものではなく，自分自身で考えるものである．それは技術者をめざす諸君も同じである．本講義では，具体的事例に見える倫理的問題の検討を通して，将来，技術者として社会に貢献してゆくうえで必要な倫理観を養うことを目標とする．

【到達目標】

1. 技術者として社会に貢献するための倫理観を養い，自らの責任について自覚できる．
2. 事例研究やディスカッションを通じて，社会が要求する問題への認識を深め，その解決策を考えられる．
3. 将来「ものづくり」に従事する技術者として，継続して専門的知識を学習するための方法の基礎を養う．

【授業計画】授業時間31時間＋自学自習時間60時間

授業項目	授業時間	内　容
1. 技術者と倫理と	6	・社会に生きる技術者として必要な倫理観について概説する．そのうえで技術者が直面する倫理的問題の代表的事例を紹介する．
2. 技術者と倫理綱領と	4	・技術者が倫理綱領について頭に入れておくべきことについて考察し，倫理問題の解決方法について概説する．
3. 技術者と安全と	4	・技術者が安全について考えるべきことをトレードオフの考えを紹介しつつ，事例研究を通して考察する．
4. 技術者と環境と	4	・技術者が環境に配慮する必要があることを環境汚染事故に関する事例研究を通して考察する．
5. 技術者と消費者と	4	・消費者に対する技術者の責任について，製造物責任法・知的財産権を中心に考察する．
6. 技術者と社会と	4	・技術者と社会全体とのかかわりについて，セクハラ・賄賂等の事例研究を通して考察する．
7. 組織の中で働く者としての技術者	4	・組織の中で働く技術者として守るべきモラル，組織と個人との間の葛藤，内部告発問題等について事例研究を通して考察する．
【期末試験】		
【答案返却時間】	1	

【履修上の注意】

事例研究の報告は事前に決めておいた学生に担当してもらう予定である．また，事例研究ごとに小レポート・ディスカッションを実施する．事例研究の報告の順によって，上記のシラバスの順が前後する場合がある．

【教科書】

はじめての工学倫理・第2版　斎藤了文・坂下浩司 著　昭和堂

【参考書】

科学技術者倫理の事例と考察　米国NSEP倫理審査委員会 編　丸善
科学技術者の倫理－その考え方と事例－　日本技術士会 編　丸善
技術者倫理　札野順 著　放送大学教育振興会
誇り高い技術者になろう　黒田光太郎他 編　名古屋大学出版会
その他，講義中に指示する．

【成績評価の方法】

定期試験20%＋レポート点（平常時間中に実施する事例報告，小レポート等）80%で評価する

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(A)，(B)，(D2)，(E2)
【関連するJABEE基準】(a)，(b)，(e)，(g)，(h)

— 295 —

（出典　平成 22 年度　シラバス　阿南工業高等専門学校）

資料５－７－①－５

研究時間報告書

研究時間報告(No.　　)　（ 特別研究 ・ 卒業研究 ）　クラス　　氏名

年　月　日(　　)	場所:: 研究室　その他(　　)
研究内容をキーワードで記載	□文献講読　□調査・分析　□その他 □レポート作成　□実験 □プログラミング　□打合せ

時　刻	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	#	小　計
研究時間														時間
教官指導														時間

年　月　日(　　)	場所:: 研究室　その他(　　)
研究内容をキーワードで記載	□文献講読　□調査・分析　□その他 □レポート作成　□実験 □プログラミング　□打合せ

時　刻	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	#	小　計
研究時間														時間
教官指導														時間

このシートでの研究時間累計	時間
このシートでの指導時間累計	時間
全研究時間累計	時間
全指導時間累計	時間

指導教員　　印

（出典　研究時間報告書書式）

資料５－７－①－６

学習支援ミーティング総括表

学習支援ミーティング総括表

クラス（　　）　学生名（　　）

１．ミーティング実施履歴

ミーティング日	時間	教員メンバー名	場所	学生サイン
月　日	:			
月　日	:			
月　日	:			
月　日	:			

２．特別研究の進捗状況（研究時間報告の記載状況・研究活動全般）

３．TOEIC の取り組み

ＩＰテスト結果	実施日	備考

模擬テスト結果	実施日	備考

４．自宅での学習状況（３時間の学習を学生から聞き取り）

５．出欠状況

６．進路に関する指導（本人の希望を聞く）

７．その他生活指導

８．教育支援として特別なプログラム（補習、再試験等）が必要と思われる場合にその内容を学生に提案

（出典　学習支援ミーティング資料）

資料５－７－①－７

学生の学会発表状況

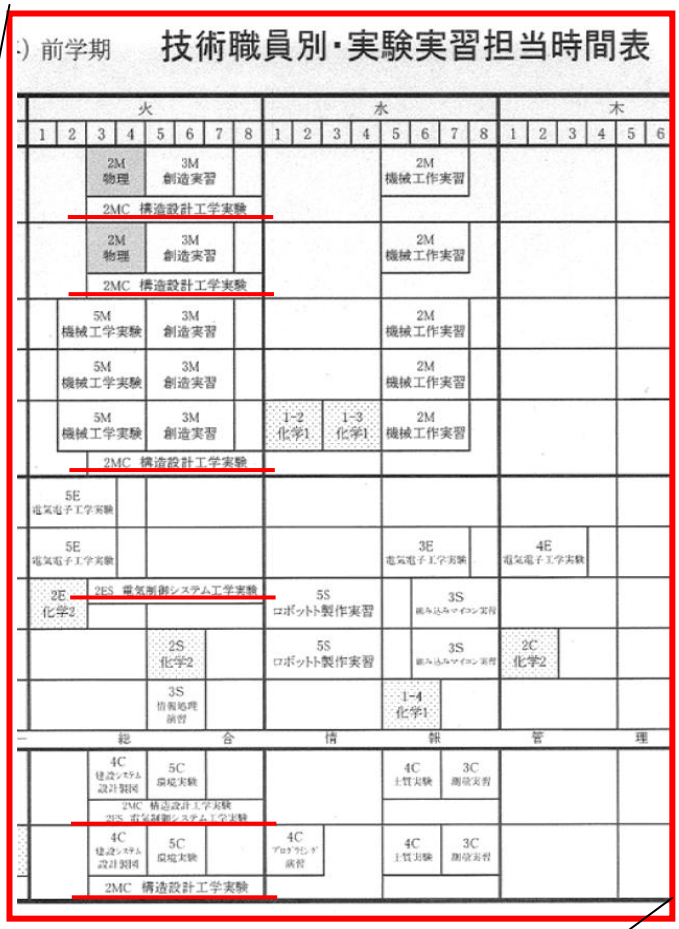
専攻科・JABEE修了要件取得確認表

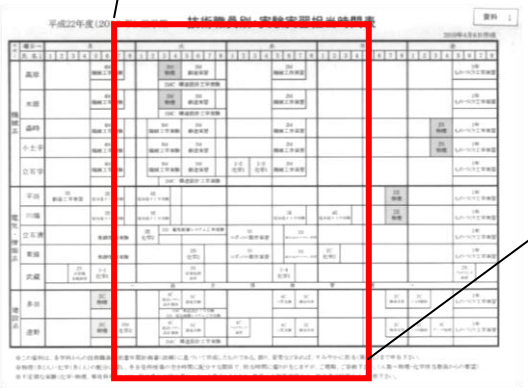
修了要件			構造設計工学専攻						
			●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●
（1）	1	工業英語	○	○	○	○	○	○	○
	2	英語購読（専攻科１年）	○	○	○	○	○	○	○
	3	英語購読（専攻科２年）	○	○	○	○	○	×	○
	4	環境政策論	○	○	○	○	○	○	○
	5	国際協力論	○	○	○	○	○	○	○
	6	比較文化論	○	○	○	○	○	×	○
	7	技術者倫理	○	○	○	○	○	○	○
	8	化学工学基礎	○	○	○	○	○	○	○
	9	安全工学	○	○	○	○	○	○	○
（8）	学会等発表		○	○	○	○	○	×	○
（9）	TOEICの成績が400点以上		○	○	○	○	×	○	○
	公開又はIP		485	405	415	415	385	460	425
（10）	学習・教育目標の達成（学習支援記録による）		○	○	○	○	○	×	○
※	学習成果・試験の審査		可	可	可	可	不可	――	可

（出典　専攻科修了要件確認表）

資料５－７－①－８

技術職員の配置





（出典　平成 22 年 5 月 24 日教員会議資料）

資料５－７－①－９

特別研究テーマと指導教員名

４－２専攻科特別研究の内容

専攻科特別研究の研究題目と指導教員名を表９に示す

表９．平成２１年度専攻科２年特別研究の研究題目と指導教員名

専門分野	特別研究題目	学生氏名	指導教員名
構造設計工学専攻			
材料加工・処理	液圧張出加工による深い角筒容器の成形		畑中　伸夫
水工水理学	木質バイオマスの環境配慮型加工方法に関する研究		西岡　守
土木環境システム	糞便汚染指標としての嫌気性芽胞の水質管理における意義		橋本　温
水工水理学	ニューギニア北部地震津波の検潮記録を用いた振動解析		島田富美男
機械力学・制御	モード変位計測センサの最適設計およびモード振動制御システムの基礎的検討		多田　博夫
構造工学・地震工学・維持管理工学	連続して強震動を受けるRC橋脚の耐震性能の検討		笹田　修司
流体工学	微細加工用アブレシブ・サスペンションジェット切断機の開発		大北　裕司
土木環境システム	小型巻貝に寄生する吸虫セルカリアの感染率への季節的および物理的環境の影響		橋本　温
土木環境システム	ＬＥＤ光が栽培クビレズタの生長に及ぼす影響		湯城　豊勝
電気・制御システム工学専攻			
計測工学	非発光再結合に伴う半導体試料表面の熱膨張に関する研究		上原 信知
電子デバイス・電子機器	照明分野におけるＬＥＤの導入およびその検討		釜野　勝
合成化学	Pd-GaAs基板を用いた溝呂木-Heck反応の触媒活性比較		宮城 勢治 塚本 史郎 小西 智也 西脇 永敏
知覚情報処理・知能ロボティクス	レベルセット法を用いた3D-CG表現		杉野隆三郎
計測工学	小型風車の音・振動信号を用いた状態診断プログラムの開発		當宮 辰美
知覚情報処理・知能ロボティクス	フェロモン・コミュニケーションに基づくデスクトップ型群ロボットシステムの開発		福田 耕治
電子・電気材料工学	微細構造磁性体における電磁波散乱の数値解析		小松　実
薄膜・表面界面物性	III-V族化合物半導体へき開表面のSTM観察		上原 信知
知覚情報処理・知能ロボティクス	カメラを用いた移動ロボットの軌道追従制御		福見 淳二
知能情報学	最適化アルゴリズムの比較と動的指標切り替えを導入したGAによる外国為替取引戦略最適化への応用		一ノ瀬元喜 田中 達治
感性情報学・ソフトコンピューティング	LRFを用いた移動ロボットの環境認識システム		福見 淳二
電力工学・電気機器工学	線路故障時の交流送電線下における地表面近傍の磁界解析		松本 高志

（出典　阿南高専テクノセンター活動報告書・技術の光あなん 2010）

（分析結果とその根拠理由）

他分野の授業を双方向授業，学生の調査･思考の重視など，多岐にわたる教養獲得の工夫をしている。

研究時間報告書でのコンタクトタイムの確認や学習支援ミーティングにおける研究指導及び学会発表等の義務付けにより，一定レベル以上の研究指導を行っている。その成果は，専攻科生による継続的な国際会議での発表に現れている。技術職員による研究支援，研究テーマ設定指導を適切に行っている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価・単位認定規定及び進級・修了認定規定は，学業成績評価に関する規則を定めている**（資料５－８－①－１）**。成績評価は，定期試験の成績，中間試験の成績，平素の成績等を総合して 100 点法により判断することとし，優（80 点以上），良（65～79 点），可（60～64 点），不可（60 点未満）の 4 段階で評定している。可以上を単位認定の合格基準とすることを明記し，進級や卒業に必要な最低履修単位数，最低修得単位数及びその他学科特有の進級条件を学業成績評価に関する規則についての申し合わせ事項を規定している**（前述資料５－４－①－２）**。なお，学業成績評価に関する規則及び学業成績評価に関する規則についての申し合わせ事項の一部を『高専生活のてびき』に掲載し，配付することにより学生に開示している。各科目の成績評価方法はこの規則に基づいて授業科目担当教員が策定し，シラバスに記載することにより，学生に開示している**（前述資料５－７－①－１）**。また，成績評価，単位認定及び進級・修了認定に関わる事項は，専攻科長補佐・特別研究担当教員等が学習支援ミーティングを活用して学生に周知し，各科目の成績評価方法は授業科目担当教員が授業中に受講学生に周知している。単位を得るためには，予習・復習などの自学自習が求められることを説明している**（前述資料５－４－①－４）**。

シラバスへの授業目標と概要，到達目標，授業時間，自習時間，授業計画，履修上の注意，教科書，参考書，成績評価の方法及び当該授業科目と本校の教育目標及びＪＡＢＥＥ目標との関連性の明示成績評価に関わるエビデンスの共同保管とチェック体制により，成績評価の厳正な実施を確認している（答案などの成績保管資料は訪問調査時に資料提示）。

成績評価に関する学生の疑義については，各定期試験すべてについて答案返却期間を設け，授業科目担当教員からの答案返却，正答提示，採点確認を行うことで対応している。平成 23 年度からは,学期末に学年最終成績を確認する時間を設けることに決定している**（前述資料５－４－①－５）**。

単位認定及び進級認定は進級判定会議において，修了認定は修了者判定会議において学業成績評価に関する規則に基づいて慎重に審議し，各判定会議の審議結果に基づいて校長が進級及び修了の認定を行っている**（資料５－８－①－２，３）**。

資料５－８－①－１

専攻科の学業成績評価に関する規則

第１章　総則

第１条　阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科における授業，試験及び学業成績の評価並びに単位，進級及び修了の認定については，本校学則に規定するもののほか，この規則の定めるところによる。

第２章　授業

第２条　授業は，講義，演習，実験及び実習のいずれか又はこれらの併用により行うものとする。

中略

第25条　大学及び他の教育施設等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は，大学等の許可を得た上，事前に届け出なければならない。

なお，その授業科目を履修の上修得した単位は，16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし，単位の修得を認定することができる。

附　則

1　この規則は，平成22年４月１日から施行する。

2　平成22年３月31日に在学する者に係る第23条第１項第１号及び第24条第１項第２号の規程は，従前の例による。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P.129）

資料５－８－①－２

専攻科単位認定および進級判定会議の実施

進級判定(本科１～４年，専攻科１年）・ＪＡＢＥＥ単位認定会議議事要旨

１　日　時　　平成２３年3月１６日（水）９時３０分～１０時３０分

２　場　所　　創造テクノセンター４階マルチメディア室

３　議　題　　（１）平成 22 年度本科進級者の判定について
（２）平成 22 年度専攻科進級者の判定について
（３）その他

４　出席者　　別紙のとおり

事務陪席者：杉野学生課長，澤邊課長補佐，教務係長，坂本教務主任，谷口教務主任

議事概要

（２）平成 22 年度専攻科進級（ＪＡＢＥＥ単位認定）の判定について

専攻科長から，別紙資料「専攻科の学業成績評価に関する規則（抜粋)」に基づき，第 23 条（学修成果レポート及び特別研究論文の提出許可）に定められている４項目について説明があり、続いて次ページの判定資料要件（１）～（４）について順次確認を行った。なお，要件（３）について以下のように説明があった。昨日の専攻科運営委員会において，各担任から学習支援ミーティング状況についての説明があり，それを受けて要件（３）の就学状況は全員問題なしと判定された。これらの説明後，各担任から修学状況についての補足説明があった。

専攻科長から構造設計工学専攻１年生●名及び電気・制御システム工学専攻１年生●名について，学修成果レポート及び特別研究論文提出許可（進級）の提案があり，審議の結果，全員の進級が了承された。

校長から，ただ今の進級判定会議の結論を承認するとの発言があった。各教員に対して，教育・学生指導に対する取組みについての謝辞があった。

（出典　進級判定(本科１～４年，専攻科１年）・ＪＡＢＥＥ単位認定会議議事要旨）

資料５－８－①－３

卒業者判定及び専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ判定会議の実施

卒業者判定及び専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ判定会議議事要旨

１　日　時　　平成２３年３月１０日（木）９時３０分～１０時００分

２　場　所　　創造テクノセンター４階マルチメディア室

３　議　題　　（１）平成 22 年度卒業者の判定について
（２）平成 22 年度専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ修了判定について

４　出席者　　別紙のとおり

事務陪席者：杉野学生課長，澤邊課長補佐，湯浅教務係長，坂本教務主任，谷口教務主任

議事概要

（２）平成 22 年度専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ修了予定者の判定について（資料）

専攻科長から別添資料「平成 22 年度専攻科修了判定資料」により，専攻科修了要件の１０項目について，説明があった。昨日の専攻科運営委員会において，各担任からの修了要件（3），(8)，(9)及び(10)の報告に基づき作成した「専攻科・ＪＡＢＥＥ修了要件取得確認表」により，修了要件(1)～(10)の確認し，構造設計工学専攻は●●及び●●を除く●名を，電気・制御システム工学専攻は●●及び●●を除く●名の計●名を専攻科修了予定者としたいとの提案があり，了承を得た。

専攻科長からＪＡＢＥＥ修了要件（学位の取得：レポート試験に合格し，単位取得証明書を送付し，３月末にその結果が出る）についての説明があった。専攻科修了予定者の内，構造設計工学専攻は●●を除く●名及び，電気・制御システム工学専攻は●名がレポート試験に合格しているので，構造設計工学専攻●名，電気・制御システム工学専攻●名の合計●名を，ＪＡＢＥＥ修了予定者としたいとの提案があり，了承を得た。

各担任から，次の補足説明があった。

- ●●は復学し，就職活動をする。
- ●●は修業年限４年を越えるので自主退学の予定。…

校長から，ただいまの専攻科修了判定会議及びＪＡＢＥＥ修了判定会議の結論を承認しますとの発言があり，専攻科修了者及びＪＡＢＥＥ修了者について，それぞれ案のとおり認定された。

（出典　卒業者判定及び専攻科修了者・ＪＡＢＥＥ判定会議議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定規定や進級・修了認定規定を組織として策定している。関連規則をシラバスや便覧で学生に開示するとともに，その内容を学生にも周知している。成績評価はシラバスに記載した方法に基づいて厳正に実施しており，単位認定，進級認定及び修了認定は関連規則に基づいて慎重かつ適切に実施している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育活動を有効かつ円滑に実施する体制を整え，教育の目的に照らした教育課程の体系的編成，同課程の内容･水準の確認を行っている。学生や社会からの教育的ニーズ並びに学術の発展動向に配慮し，教育課程・授業科目内容の改定に反映している。

教育課程の編成趣旨に沿ってシラバスを作成し，シラバス冊子の各学級への配置，Web サイトへの掲載により，学生によるシラバス活用の利便性に配慮するとともに，授業内容とシラバスとの整合性を学生が確認する体制を整えている。

ものづくり基盤技術教育に適したＰＢＬを低学年時から実施し，専攻科では教育の目的のよりよい達成のため，学習指導法を工夫することにより，創造性を育む教育方法を取り入れている。インターンシップや他の高等教育機関との教育連携事業を展開し，本校教育課程上の単位として認定している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準５の自己評価の概要

教育活動を有効かつ円滑に実施する体制を整え，教育の目的に照らした教育課程の体系的編成，同課程の内容･水準の確認及び継続的改定，周知した規定に基づく厳正な成績評価，進級･卒業･修了判定を行っている。学生や社会からの教育的ニーズ並びに学術の発展動向に配慮し，教育課程・授業科目内容の改定に反映し，希望学科再選択制度とものづくり共通教育，インターンシップ，コーオプ教育，他の高等教育機関との連携，企業による寄付講座，海外語学研修など充実した教育課程及び授業を，科目間の連携や教員と技術職員間との連携により実施している。

これらの取り組みは，７年間一貫のものづくり教育カリキュラムに結実している。ものづくり基盤技術教育に適したＰＢＬを低学年時から実施し，専攻科では教育の目的のよりよい達成のため，対話・討論型授業など学習指導法を工夫することにより，創造性を育む教育方法を取り入れている。インターンシップや他の高等教育機関との教育連携事業を展開し，本校教育課程上の単位として認定しているなど，校外における実習も充分に活用している。

教育の目的と方法を学生と共有するため，教育課程の編成趣旨に沿ってシラバスを作成し，シラバス冊子の各学級への配置，Web サイトへの掲載により，学生によるシラバス活用の利便性に配慮するとともに，授業内容とシラバスとの整合性を学生が確認する体制を整えている。また，校訓及び教育理念に示している人間性の涵養に向けた様々な取り組みを行っている。

専攻科では，準学士課程教育との連携を考慮することに加え，他分野知識・技術修得に向けた取り組み，学生の調査･思考の重視など，多岐にわたる教養獲得の工夫をしている。

また，研究時間管理や学習支援ミーティングにおける研究指導及び学会発表等の義務付けにより，一定レベル以上の研究指導を行っている。

基準６ 教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①： 高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

教育の目的達成のため本校で履修および取得する科目を配置している。必修科目の履修･修得に留意しつつ，準学士課程では進級判定会議及び卒業判定会議において，学生の修得単位数及び学習教育･目標に則った卒業研究論文の評価によって達成状況を適切に把握・評価して卒業を判定している（**資料６－１－①―１**）。同様に専攻科課程では，進級判定会議及び修了判定会議において，修得単位数や学習教育･目標に則った特別研究論文などの達成状況を適切に把握・評価して修了を判定している（**資料６－１－①―２**）。卒業研究の指導においては，中間発表を各専門学科で実施している。とくに制御情報工学科では学生が研究ノートを持って同学科教員全てに説明するシステムを採り，研究内容の学習･教育目標との整合性，研究内容・方法の把握と助言などを行っている（**資料６－１－①―３**）。

学生が身に付ける学力や資質・能力，および養成しようとする人材像についての評価等の取組は，定期的に各科教室会議や教務委員会，専攻科運営委員会等にて実施している（**資料６－１－①―４，５**）。

この学習・教育目標の達成状況を把握・評価するための具体として，平成 15 年度以降，全授業科目について年度末に，学生自身によるシラバス記載の到達目標修得点検アンケートを導入し，各科目における到達目標の到達度を４段階で評価させている（**前述資料５－２－②―６**）。

４年生から専攻科２年生までの４年間については，「創造技術システム工学」教育プログラムそのものを専攻科の修了要件としている（**前述資料５－８－①―１**）。さらに，専攻科学生に対しては，専攻主任，クラス担任，指導教員等の複数教員からなる学習支援チームを構成し，学習支援ミーティングを年間４回程度実施し，各学生の履修状況や学習・教育目標の達成状況を点検し，科目の修得単位数，履修時間数などのチェックや特別研究の進捗状況などの把握を行っている（**前述資料５－７－①－６**）。

資料６－１－①―１

卒業研究評価シート

平成 23 年 2 月 16 日

卒業研究評価シート

（1）内容梗概について（各５点×３）　評点１［1　2　3　4　5］
評価基準（研究グループ単位での評価）　（劣）←→（良）
① 内容梗概の形式は整っているか？
② 研究内容（目的，方法，結果，検討，今後の課題など）が系統立てて説明されているか？
③ 卒業研究において創造性を発揮し，ものづくり（実験装置，ソフトウェア等を含む）の能力を高めているか？

（2）卒業研究の発表（プレゼンテーション）方法について（各５点×３）　評点２［1　2　3　4　5］
評価基準（主として個人単位での評価）　（劣）←→（良）
① 発表形式（視覚的情報，発声，時間，態度など）が整っているか？
② 発表内容（目的，方法，結果，検討，今後の課題など）が系統立てて説明されているか？
③ 質疑に対して的確に応答できているか？

（3）卒業研究を通じてのデザイン能力（各５点×２）　評点３［1　2　3　4　5］
評価基準（主として個人単位での評価）　（劣）←→（良）
① 卒業研究を計画的に遂行し，論理的に結果を導いているか？
② 論文の考察から問題点と発展性がみられるか？

以上，40 点満点で採点していただき，集計後，発表・梗概 30%として成績評価します．

教員名：＿＿＿＿＿＿＿＿

テーマ名	評点1				氏名	評点2				評点3			合　計　（40点満点）
	①	②	③	小計		①	②	③	小計	①	②	小計	
ネットワークシステムを利用したスコアーボードの作製													
PICを用いた電子音の品質の検討													
電池の厚さを非接触で測定するシステム構築													
PC と温度調節器を組み合わせた PID 制御実習の構築													
三菱製 PLC を用いた学生実験の構築													
センサ機能を併せ持った LED ディスプレイの開発と応用													
構造性複屈折多層近似による構造性発色の数値解析													
竹炭を用いた電波吸収体の数値解析													
3 次元における表面プラズモン共鳴吸収の特性解析													
小型変圧器の運転状態推定に関する研究													
流量制御のための PID 制御法に関する基礎研究													
小型風力発電用シミュレータ開発に関する研究													
独立成分分析による信号分離処理について													
ニューラルネットワークの環状結合構造と発振リズムについて													
H 波入射による四角柱導体からの散乱波に対する物理光学の精度検討													
E 波入射による四角柱導体からの散乱波に対する物理光学の精度検討													
方向を変える送電線下に地表面近傍における磁界解析													
電力系統ハイリスク事象探索に及ぼす信頼度制御の影響評価													
電力系統過渡安定度向上のための発電機制御系の優先順位決定													
水と水蒸気に対するマイクロ波の吸収測定実験													
超音波距離計の改善及び検討													
光ファイバ通信システムの通信品質の検討													
半導体薄膜のへき開と STM 観察													
LED 封止用樹脂のための蛍光ガラスの開発													
光干渉計を利用した歪み量の実測													
LED電極の腐食における電解液と電極材料の関係													
コットレルケーブル代替ケーブルの実機実証試験													
蜘蛛の網膜電位測定													
半導体の表裏における熱拡散信号の測定													
発光面照度の均一な LED フラットライトの開発													
マイコンによる磁性流体のスパイク現象の制御													
3次元スキャナーによる物体の形状測定													
メタマテリアルを用いた光の操作に関する検討													
物体探索システム													
自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用を指向した電気二重層ｷｬﾊﾟｼﾀの充放電特性について													
LabVIEW による TCP/IP 通信プログラムの作成													
工場生産に適した簡易沈降速度測定装置の開発													
光触媒による環境浄化実験の構築													

（出典　阿南高専電気電子工学科　卒業研究評価シート　平成 22 年度）

資料６－１－①―２

専攻科特別研究評価シート

平成22年度 2ES特別研究発表会の評価シート

2011.2.10

評価教員名（　　）

下記の各項目に関し、５，４，３，２，１ で評価をお願いします。

５:優秀　　４:良　　３:可　　２以下:不可

発表番号	氏　名	発表に関する評価		研究内容に関する評価		
		発表態度（質疑応答含む）	プレゼンテーション能力(注1)	国際人としての教養等(注2)	デザイン能力及び複合能力(注3)	概要のまとめかた
2ES-01						
2ES-02						
2ES-03						
2ES-04						
2ES-05						
2ES-06						
2ES-07						
2ES-08						
2ES-09						
2ES-10						
2ES-11						
2ES-12						

（注1）英語発表含む
（注2）他に社会、環境に対する責任感、倫理観;教育プログラムにおける学習教育目標の(A)
（注3）教育プログラムにおける学習教育目標の(D)及び(E)

注意:特別研究の評価は、下記に示すように他の評価も合わせて評価します。今回の発表での評価点に1または2の項目があっても、必ずしも特別研究が不合格になるわけではありません。

特別研究の成績評価

1年		2年	
・指導教員による評価	50%	・指導教員による評価	50%
・中間発表の評価	35%	・中間発表および概要集の評価	10%
・中間発表の概要	15%	・本論文の査読による評価	15%
		・発表会および概要集の評価	25%

（出典　阿南高専専攻科　特別研究評価シート　平成 22 年度）

資料６－１－①―３

制御情報工学科中間発表評価シート

評価：0，全くできていない、1，標準以下、2，標準、3，良くできている

No	氏　名	指導教員	研究目標を設定できているか	研究計画ができているか	必要な知識の習得に努力しているか	研究の向計画に設定できているか	研究完成に向けて問題解決のアプローチができているか	研究成果をドンシステムキャンセルできるか	研究ノートページ数(合計)
3									
8									
16									
4									
24									
25									
29									
34									
1									
7									
12									
19									
23									
17									
18									
35									
22									
28									
30									
26									
31									
14									
20									
27									
36									
2									
9									
10									
11									
5									
6									
13									
32									
15									
33									

（出典　制御情報工学科　卒業研究中間発表評価シート　平成 22 年度）

資料６－１－①―４

卒業生の教育達成状況の把握と評価の検討

１．日　時　　平成２３年４月２７日（水）１６時１０分～１７時

２．場　所　　管理棟　会議室

３．議　題　（１）　　（略）

（２）　　（略）

（３）**卒業生及び修了生の教育達成状況の把握と評価について**

（以下略）

４．議事概要　別紙のとおり

（１）（２）　略

（３）卒業生及び修了生の教育達成状況の把握と評価について（資料）

委員長から本科を卒業した学生，専攻科長から専攻科を修了した学生に対して行った教育達成状況等に関するアンケート調査結果について，資料をもとに，詳細な報告があった。

また，吉田主事補から，機械工学科における教育目標達成状況に関する検討結果について，資料をもとに報告があった。

委員長から，アンケート結果を活用し，教育の指導方法や卒業研究のあり方等について，各学科で継続的に議論するよう依頼があった。

（以下略）

（出典　阿南高専教務委員会議事要旨抜粋　平成 23 年 4 月 27 日）

資料６－１－①―５

修了生の教育達成状況の把握と評価の検討

１．日　時　　平成２３年４月１９日（水）１６時１０分～１６時４５分

２．場　所　　管理部一般教科棟３階　会議室

３．議　題　（１）～（６）　　（略）

（７）**その他**

４．議事概要　別紙のとおり

（１）～（６）　略

（７）認証評価検討事項について

委員長から別紙資料４（アンケート項目、アンケート対象者）、別紙資料５（アンケート結果）について説明があった。

（以下略）

（出典　阿南高専専攻科運営委員会議事要旨抜粋　平成 23 年 4 月 19 日）

資料５－２－②―６（再掲）

授業評価アンケート結果の一例

阿南高専授業評価アンケート集計結果

コード	科目名	選別	対象学年	学科	教員名
29420	材料学	授業全般	4	M	奥本 良博

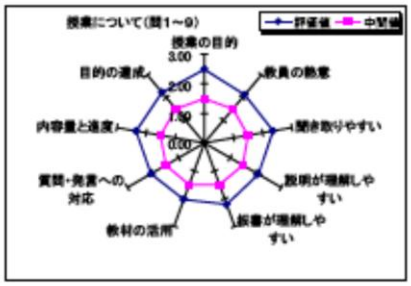
人力算マークカード数
39

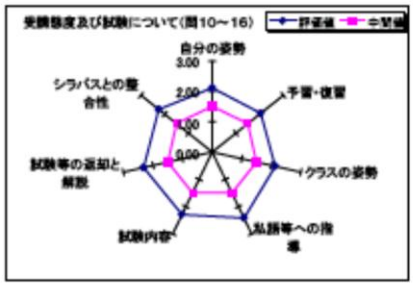
問毎の集計結果

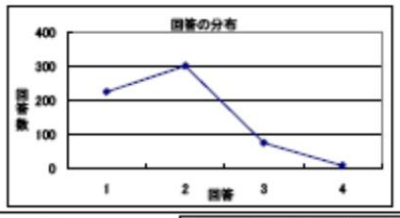
	設問	1全回答(そう)	2全回答(ややそう)	3全回答(やや違う)	4全回答(違う)	有効回答数	評価値	中間値
問1	授業の目的	22	14	3	0	39	2.49	1.50
問2	教員の熱意	11	23	4	1	39	2.13	1.50
問3	聞き取りやすい	19	15	5	0	39	2.36	1.50
問4	説明が理解しやすい	12	18	8	0	38	2.11	1.50
問5	板書が理解しやすい	14	19	6	0	39	2.21	1.50
問6	教材の活用	12	16	9	1	38	2.03	1.50
問7	質問・発言への対応	11	21	4	2	38	2.08	1.50
問8	内容量と進度	15	21	2	0	38	2.34	1.50
問9	目的の達成	13	22	4	0	39	2.23	1.50
問10	自分の姿勢	10	23	4	1	38	2.11	1.50
問11	予習・復習	13	16	9	1	39	2.05	1.50
問12	クラスの姿勢	10	23	5	0	38	2.13	1.50
問13	私語等への指導	19	16	3	0	38	2.42	1.50
問14	試験内容	17	16	4	1	38	2.29	1.50
問15	試験等の返却と解説	16	19	2	1	38	2.32	1.50
問16	シラバスとの整合性	12	21	3	0	36	2.25	1.50
	回答数の合計	226	303	75	8	612	2.22	

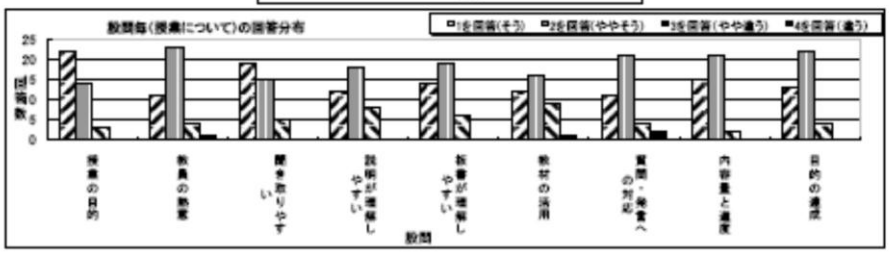
問2，問4，問7，問13のポイントを2倍として100点換算。

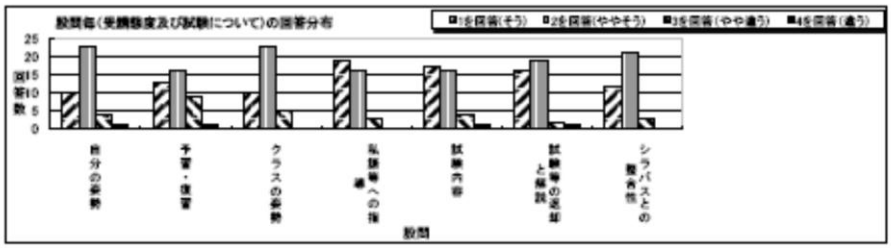
73.82 / 100











（出典　平成 22 年度　阿南高専授業評価アンケート集計結果）

資料５－８－①―１（再掲）

専攻科の学業成績評価に関する規則

専攻科の学業成績評価に関する規則

第１章　総則

第１条　阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科における授業，試験及び学業成績の評価並びに単位，進級及び修了の認定については，本校学則に規定するもののほか，この規則の定めるところによる。

第２章　授業

第２条　授業は，講義，演習，実験及び実習のいずれか又はこれらの併用により行うものとする。

―――――――――――――――― 中略 ――――――――――――――――

第25条　大学及び他の教育施設等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は，大学等の許可を得た上，事前に届け出なければならない。

なお，その授業科目を履修の上修得した単位は，16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし，単位の修得を認定することができる。

附　則

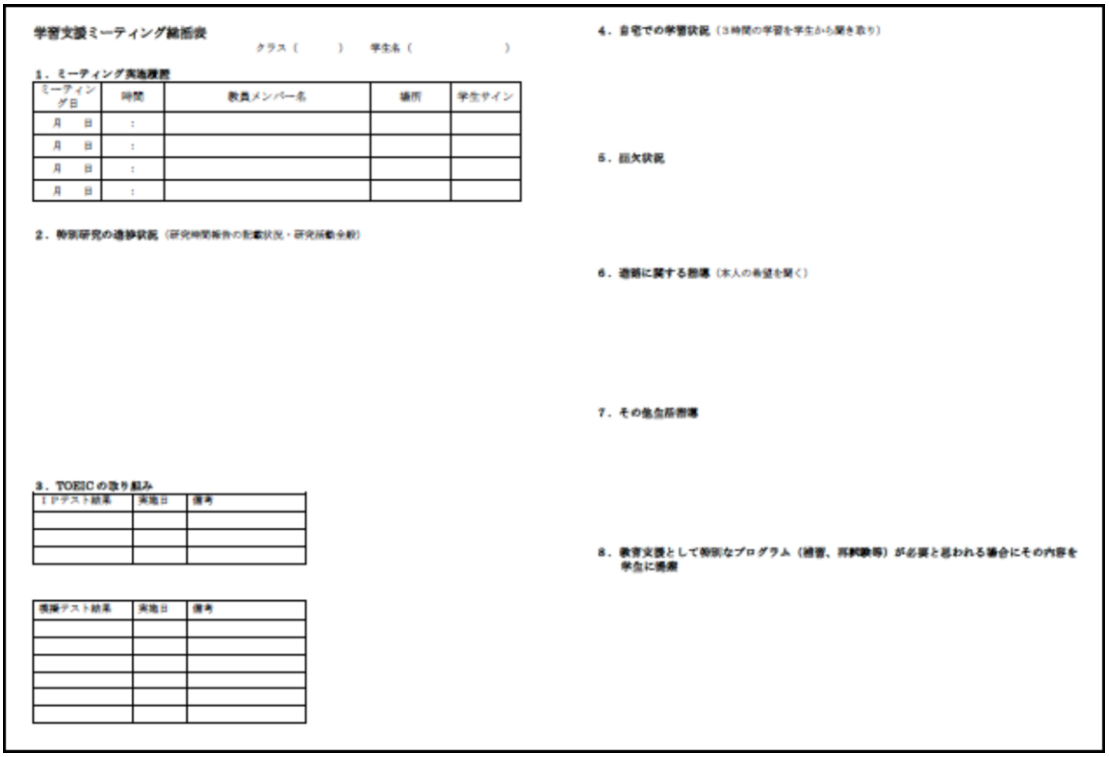
1　この規則は，平成22年４月１日から施行する。

2　平成22年３月31日に在学する者に係る第23条第１項第１号及び第24条第１項第２号の規程は，従前の例による。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度）

資料５－７－①－６（再掲）

学習支援ミーティング総括表



学習支援ミーティング総括表

クラス（　　）　学生名（　　）

1．ミーティング実施履歴

ミーティング日	時間	教員メンバー名	場所	学生サイン
月　日	:			
月　日	:			
月　日	:			
月　日	:			

2．特別研究の進捗状況（研究時間報告の記載状況・研究活動全般）

3．TOEICの取り組み

TOEIC テスト結果	実施日	備考

模擬テスト結果	実施日	備考

4．自宅での学習状況（３時間の学習を学生から聞き取り）

5．出欠状況

6．進路に関する指導（本人の希望を聞く）

7．その他生活指導

8．教育支援として特別なプログラム（補習、再試験等）が必要と思われる場合にその内容を学生に通知

（出典　学習支援ミーティング資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的の達成に必要な授業科目として必修科目を定め，その履修・修得についてとくに留意しつつ進級･卒業･修了を判定している。卒業研究論文･特別研究論文の審査は，学習･教育目標に則って審査している。卒業研究の指導において中間発表を実施し，研究内容の学習･教育目標との整合性，研究内容・方法の把握と助言などを行っている。

学生が身に付ける学力や資質・能力，および養成しようとする人材像についての評価等の取組は各科教室会議や教務委員会，専攻科運営委員会等にて実施している

シラバス記載の到達目標修得点検アンケートを行い，各科目における到達目標の到達度を評価している。加えて専攻科課程では，複数教員が個々の学生を対象に学習支援ミーティングを実施し，各学生の履修状況や学習・教育目標の達成状況を把握・評価を行っている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

必修科目を含む単位の取得率，進級率，留年・休学・退学状況，卒業者数から，教育の成果を確認している（**資料６－１－②―１～４**）。単位の取得，修了時の成績等の評価は，準学士課程においてはＪＡＢＥＥ基準に準拠し，また，専攻科においてはＪＡＢＥＥ基準に則って，適切に行っている。

卒業研究論文･特別研究論文の内容も，教育の成果を十分に表している（**資料６－１－②―５**）。過去５年間の卒業論文及び特別研究論文は各学科で保存し，各学科での中間発表評価等で内容・水準が検証できる体制を整えている。専攻科では，特別研究内容に関する学会発表を修了要件としている（**資料６－１－②―６**）。

教育の成果の発表の場である各種コンペティションに，学生が積極的に参加し，優秀な成績を収めている（**資料６－１－②―７**）。専攻科インターンシップにより，22年度は５名の学生がドイツの大学で３ヶ月の研究を行うなど，外国語能力や積極性など学習･教育目標の延長上にある能力や資質を獲得している。

資料６－１－②―１

単位取得率　平成 18～22 年度

単位取得率

準学士課程

クラス	H18			H19			H20			H21			H22		
	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率
1M	680	637	93.7	681	651	95.6	656	637	97.1	640	634	99.1	639	602	94.2
1E	680	669	98.4	663	632	95.3	640	636	99.4	640	640	100.0	625	617	98.7
1S	680	645	94.9	697	640	91.8	657	648	98.6	640	628	98.1	640	633	98.9
1C	760	706	92.9	779	726	93.2	640	618	96.6	640	617	96.4	639	608	95.1
2M	659	567	86.0	721	601	83.4	724	633	87.4	720	692	96.1	645	641	99.4
2E	600	580	96.7	600	581	96.8	585	565	96.6	672	661	98.4	656	651	99.2
2S	692	619	89.5	624	583	93.4	640	552	86.3	688	645	93.8	704	691	98.2
2C	672	618	92.0	608	558	91.8	624	570	91.3	612	562	91.8	612	528	86.3
3M	800	701	87.6	745	662	88.9	780	697	89.4	879	811	92.3	846	803	94.9
3E	757	736	97.2	720	682	94.7	741	691	93.3	720	674	93.6	792	767	96.8
3S	701	632	90.2	774	694	89.7	684	644	94.2	683	618	90.5	720	681	94.6
3C	737	656	89.0	723	655	90.6	666	530	79.6	702	617	87.9	646	581	89.9
4M	879	791	90.0	869	795	91.5	843	722	85.6	901	852	94.6	949	883	93.0
4E	928	865	93.2	1037	973	93.8	902	843	93.5	956	848	88.7	928	842	90.7
4S	691	572	82.8	743	657	88.4	769	679	88.3	823	697	84.7	791	674	85.2
4C	785	645	82.2	864	762	88.2	878	786	89.5	649	596	91.8	823	729	88.6
5M	577	491	85.1	508	465	91.5	455	409	89.9	495	422	85.3	579	470	81.2
5E	555	522	94.1	696	636	91.4	688	626	91.0	614	570	92.8	605	553	91.4
5S	581	463	79.7	567	489	86.2	645	532	82.5	596	480	80.5	684	577	84.4
5C	512	446	87.1	581	527	90.7	585	511	87.4	642	536	83.5	434	399	91.9

専攻科課程

クラス	H18			H19			H20			H21			H22		
	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率	受講者	合格者	取得率
1MC	230	223	97.0	120	116	96.7	127	127	100.0	211	211	100.0	73	73	100.0
1ES	190	190	100.0	164	158	96.3	292	289	99.0	208	204	98.1	202	202	100.0
2MC	102	102	100.0	93	92	98.9	34	31	91.2	72	72	100.0	60	60	100.0
2ES	70	70	100.0	82	82	100.0	86	77	89.5	139	131	94.2	87	82	94.3

（出典　成績等調査資料　平成 18～22 年度）

資料６－１－②―２

進級率　平成 18～22 年度

進級率一覧

進級率（準学士課程）

平成１８年度

クラス / 摘要	1M	1E	1S	1C	2M	2E	2S	2C	3M	3E	3S	3C	4M	4E	4S	4C	5M	5E	5S	5C
在学者数	40	40	40	40	44	40	46	42	40	43	39	41	39	44	41	40	37	43	34	28
留年者数	1	0	1	3	8	0	5	2	6	1	5	3	3	2	11	7	0	0	3	0
進級率	97.5	100	97.5	92.5	81.8	100	89.1	95.2	85	97.7	87.2	92.7	92.3	95.5	73.2	82.5	100	100	91.2	100

平成１９年度

クラス / 摘要	1M	1E	1S	1C	2M	2E	2S	2C	3M	3E	3S	3C	4M	4E	4S	4C	5M	5E	5S	5C
在学者数	41	40	42	42	46	40	42	38	38	41	44	41	38	46	42	44	36	42	33	33
留年者数	1	2	3	1	8	0	4	2	2	3	5	1	3	1	3	6	0	0	4	1
進級率	97.6	95	92.9	97.6	82.6	100	90.5	94.7	94.7	92.7	88.6	97.6	92.1	97.8	92.9	86.4	100	100	87.9	97

平成２０年度

クラス / 摘要	1M	1E	1S	1C	2M	2E	2S	2C	3M	3E	3S	3C	4M	4E	4S	4C	5M	5E	5S	5C
在学者数	41	41	42	40	48	39	41	39	39	42	39	37	38	40	41	43	35	45	41	39
留年者数	0	1	1	0	7	1	4	2	4	3	1	9	3	1	4	2	0	0	3	2
進級率	100	97.6	97.6	100	85.4	97.4	90.2	94.9	89.7	92.9	97.4	75.7	92.1	97.5	90.2	95.3	100	100	92.7	94.9

平成２１年度

クラス / 摘要	1M	1E	1S	1C	2M	2E	2S	2C	3M	3E	3S	3C	4M	4E	4S	4C	5M	5E	5S	5C
在学者数	40	41	40	40	49	42	44	37	44	41	38	41	38	41	42	29	35	39	40	41
留年者数	0	1	0	0	3	1	3	2	3	3	3	5	0	3	7	1	0	0	2	1
進級率	100	97.6	100	100	93.9	97.6	93.2	94.6	93.2	92.7	92.1	87.8	100	92.7	83.3	96.6	100	100	95	97.6

平成２２年度

クラス / 摘要	1M	1E	1S	1C	2M	2E	2S	2C	3M	3E	3S	3C	4M	4E	4S	4C	5M	5E	5S	5C
在学者数	40	40	40	40	43	41	46	36	48	45	45	39	41	42	41	37	38	38	36	28
留年者数	3	1	0	1	0	0	2	5	2	1	1	5	1	3	8	4	2	0	2	1
進級率	92.5	97.5	100	97.5	100	100	95.7	86.1	95.8	97.8	97.8	87.2	97.6	92.9	80.5	89.2	94.7	100	94.4	96.4

進級率（専攻科課程）

平成１８年度

クラス / 摘要	1MC	1ES	計	2MC	2ES	計
在学者数	12	11	23	15	9	24
留年者数	0	1	1	0	0	0
進級率	100	90.9	95.7	100	100	100

平成１９年度

クラス / 摘要	1MC	1ES	計	2MC	2ES	計
在学者数	6	8	14	12	11	23
留年者数	0	0	0		1	1
進級率	100	100	100	100	90.9	95.7

平成２０年度

クラス / 摘要	1MC	1ES	計	2MC	2ES	計
在学者数	6	14	20	6	9	15
留年者数	0	0	0	4	1	5
進級率	100	100	100	33.3	88.9	66.7

平成２１年度

クラス / 摘要	1MC	1ES	計	2MC	2ES	計
在学者数	10	10	20	10	14	24
留年者数	0	0	0	1	2	3
進級率	100	100	100	90	85.7	87.5

（出典　成績等調査資料　平成 18～22 年度）

資料６－１－②―３

休学・退学状況　平成 18～22 年度

休学者の状況

年度	平成１８年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科・専攻名	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率
機械工学科	40	0	0.0	44	2	0.0	40	0	0.0	39	0	0.0	37	0	0.0	200	2	0.0
電気電子工学科	40	0	0.0	40	0	0.0	43	0	0.0	44	1	0.0	43	0	0.0	210	1	0.0
制御情報工学科	40	0	0.0	46	2	0.0	39	1	0.0	41	4	0.1	34	0	0.0	200	7	0.0
建設システム工学科	40	0	0.0	42	0	0.0	41	0	0.0	40	1	0.0	28	0	0.0	191	1	0.0
計	160	0	0.0	172	4	0.0	163	1	0.0	164	6	0.0	142	0	0.0	801	11	0.0
構造設計工学専攻	12	0	0.0	15	0	0.0										27	0	0.0
電気制御システム専攻	11	2	0.2	9	1	0.1										20	3	0.2
計	23	2	0.1	24	1	0.0										47	3	0.1
年度	平成１９年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率
機械工学科	41	0	0.0	48	0	0.0	39	0	0.0	38	0	0.0	35	0	0.0	201	0	0.0
電気電子工学科	41	1	0.0	39	0	0.0	42	1	0.0	40	1	0.0	45	0	0.0	207	3	0.0
制御情報工学科	42	1	0.0	41	2	0.0	39	1	0.0	41	3	0.1	41	0	0.0	204	7	0.0
建設システム工学科	40	1	0.0	39	0	0.0	37	0	0.0	43	1	0.0	39	0	0.0	198	2	0.0
計	164	3	0.0	167	2	0.0	157	2	0.0	162	5	0.0	160	0	0.0	810	12	0.0
構造設計工学専攻	6	0	0.0	12	0	0.0										18	0	0.0
電気制御システム専攻	8	1	0.1	11	0	0.0										19	1	0.1
計	14	1	0.1	23	0	0.0										37	1	0.0
年度	平成２０年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率
機械工学科	41	0	0.0	48	3	0.1	39	0	0.0	38	1	0.0	35	0	0.0	201	4	0.0
電気電子工学科	41	1	0.0	39	0	0.0	42	0	0.0	40	0	0.0	45	0	0.0	207	1	0.0
制御情報工学科	42	1	0.0	41	1	0.0	39	1	0.0	41	2	0.0	41	2	0.0	204	7	0.0
建設システム工学科	40	0	0.0	39	0	0.0	37	0	0.0	43	1	0.0	39	1	0.0	198	2	0.0
計	164	2	0.0	167	4	0.0	157	1	0.0	162	4	0.0	160	3	0.0	810	14	0.0
構造設計工学専攻	6	0	0.0	6	1	0.2										12	1	0.1
電気制御システム専攻	14	0	0.0	9	0	0.0										23	0	0.0
計	20	0	0.0	15	1	0.1										35	1	0.0
年度	平成２１年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率
機械工学科	40	0	0.0	49	1	0.0	44	0	0.0	38	0	0.0	35	0	0.0	206	1	0.0
電気電子工学科	41	1	0.0	42	0	0.0	41	1	0.0	41	0	0.0	39	0	0.0	204	2	0.0
制御情報工学科	40	0	0.0	44	1	0.0	38	0	0.0	42	0	0.0	40	0	0.0	204	1	0.0
建設システム工学科	40	0	0.0	37	0	0.0	41	1	0.0	29	0	0.0	41	1	0.0	188	2	0.0
計	161	1	0.0	172	2	0.0	164	2	0.0	150	0	0.0	155	1	0.0	802	6	0.0
構造設計工学専攻	10	0	0.0	10	0	0.0										20	0	0.0
電気制御システム専攻	10	0	0.0	14	0	0.0										24	0	0.0
計	20	0	0.0	24	0	0.0										44	0	0.0
年度	平成２２年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率	在学者	休学者	率
機械工学科	40	0	0.0	43	0	0.0	48	1	0.0	41	1	0.0	38	0	0.0	210	2	0.0
電気電子工学科	40	1	0.0	41	0	0.0	45	0	0.0	42	1	0.0	38	0	0.0	206	2	0.0
制御情報工学科	40	0	0.0	46	2	0.0	45	0	0.0	41	0	0.0	36	0	0.0	208	2	0.0
建設システム工学科	40	0	0.0	36	0	0.0	39	1	0.0	37	0	0.0	28	0	0.0	180	1	0.0
計	160	1	0.0	166	2	0.0	177	2	0.0	161	2	0.0	140	0	0.0	804	7	0.0
構造設計工学専攻	4	1	0.3	11	0	0.0										15	1	0.1
電気制御システム専攻	12	0	0.0	12	0	0.0										24	0	0.0

退学者の状況

年度	平成１８年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科・専攻名	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械工学科	40	0	0.0	44	2	4.5	40	4	10.0	39	0	0.0	37	0	0.0	200	6	3.0
電気電子工学科	40	0	0.0	40	0	0.0	43	1	2.3	44	0	0.0	43	0	0.0	210	1	0.5
制御情報工学科	40	0	0.0	46	2	4.3	39	3	7.7	41	5	12.2	34	0	0.0	200	10	5.0
建設システム工学科	40	1	2.5	42	0	0.0	41	1	2.4	40	3	7.5	28	0	0.0	191	5	2.6
計	160	1	0.6	172	4	2.3	163	9	5.5	164	8	4.9	142	0	0.0	801	22	2.7
構造設計工学専攻	12	0	0.0	15	0	0.0										27	0	0.0
電気制御システム専攻	11	0	0.0	9	0	0.0										20	0	0.0
計	23	0	0.0	24	0	0.0										47	0	0.0
年度	平成１９年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械工学科	41	1	2.4	48	3	6.3	39	1	2.6	38	1	2.6	35	0	0.0	200	6	3.0
電気電子工学科	41	1	2.4	39	0	0.0	42	2	4.8	40	1	2.5	45	0	0.0	210	4	1.9
制御情報工学科	42	1	2.4	41	3	7.3	39	2	5.1	41	2	4.9	41	1	2.4	200	9	4.5
建設システム工学科	40	2	5.0	39	0	0.0	37	1	2.7	43	3	7.0	39	0	0.0	191	6	3.1
計	164	5	3.0	167	6	3.6	157	6	3.8	162	7	4.3	160	1	0.6	801	25	3.1
構造設計工学専攻	6	0	0.0	12	0	0.0										27	0	0.0
電気制御システム専攻	8	0	0.0	11	0	0.0										20	0	0.0
計	14	0	0.0	23	0	0.0										47	0	0.0
年度	平成２０年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械工学科	41	0	0.0	48	3	6.3	39	3	7.7	38	1	2.6	35	0	0.0	200	7	3.5
電気電子工学科	41	0	0.0	39	0	0.0	42	1	2.4	40	0	0.0	45	0	0.0	210	1	0.5
制御情報工学科	42	1	2.4	41	0	0.0	39	0	0.0	41	1	2.4	41	0	0.0	200	2	1.0
建設システム工学科	40	0	0.0	39	1	2.6	37	5	13.5	43	1	2.3	39	2	5.1	191	9	4.7
計	164	1	0.6	167	4	2.4	157	9	5.7	162	3	1.9	160	2	1.3	801	19	2.4
構造設計工学専攻	6	0	0.0	6	0	0.0										27	0	0.0
電気制御システム専攻	14	0	0.0	9	1	11.1										20	1	5.0
計	20	0	0.0	15	1	6.7										47	1	2.1
年度	平成２１年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械工学科	40	0	0.0	49	1	2.0	44	1	2.3	38	0	0.0	35	0	0.0	200	2	1.0
電気電子工学科	41	1	2.4	42	0	0.0	41	1	2.4	41	0	0.0	39	0	0.0	210	2	1.0
制御情報工学科	40	0	0.0	44	1	2.3	38	0	0.0	42	2	4.8	40	1	2.5	200	4	2.0
建設システム工学科	40	0	0.0	37	1	2.7	41	1	2.4	29	0	0.0	41	1	2.4	191	3	1.6
計	161	1	0.6	172	3	1.7	164	3	1.8	150	2	1.3	155	2	1.3	801	11	1.4
構造設計工学専攻	10		0.0	10	0	0.0										27	0	0.0
電気制御システム専攻	10		0.0	14	0	0.0										20	0	0.0
計	20	0	0.0	24	0	0.0										47	0	0.0
年度	平成２２年度																	
	１学年			２学年			３学年			４学年			５学年			計		
学科／専攻名	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率	在学者	退学者	率
機械工学科	40	0	0.0	43	0	0.0	48		0.0	41	0	0.0	38	0	0.0	200	0	0.0
電気電子工学科	40	1	2.5	41	0	0.0	45		0.0	42	0	0.0	38	0	0.0	210	1	0.5
制御情報工学科	40	0	0.0	46	1	2.2	45		0.0	41	0	0.0	36	0	0.0	200	1	0.5
建設システム工学科	40	0	0.0	36	2	5.6	39	3	7.7	37	0	0.0	28	0	0.0	191	5	2.6
計	160	1	0.6	166	3	1.8	177	3	1.7	161	0	0.0	140	0	0.0	801	7	0.9
構造設計工学専攻	4	0	0.0	11	0	0.0										27	0	0.0
電気制御システム専攻	12	0	0.0	12	0	0.0										20	0	0.0

（出典　成績等調査資料　平成 18～22 年度）

資料６－１－②―４

卒業者数　平成 18～22 年度

１．卒業者数、進学状況（就職・進学）

本科

学科 / 年度	機械工学科			電気電子工学科			制御情報工学科			建設システム工学科			計		
	卒業者	就職	進学	卒業者	就職	進学	卒業者	就職	進学	卒業者	就職	進学	卒業者	就職	進学
18	37	27	8	43	36	7	31	22	8	28	18	10	139	103	33
19	36	23	13	42	30	12	29	13	16	32	22	8	139	88	49
20	35	20	15	45	32	11	38	26	11	37	28	8	155	106	45
21	35	26	9	39	25	13	38	26	10	40	29	6	152	106	38
22	36	22	14	38	28	10	34	18	13	27	21	6	135	89	43

（卒業者には就職進学以外のものも含む。）

専攻科

学科 / 年度	構造設計工学専攻			電気・制御システム工学専攻			計		
	修了者	就職	進学	修了者	就職	進学	修了者	就職	進学
18	15	15	0	8	4	4	23	19	4
19	12	11	1	10	6	4	22	17	5
20	2	1	0	8	4	4	10	5	4
21	9	9	0	12	10	1	21	19	1
22	9	9	0	10	8	2	19	17	2

（修了者には就職進学以外のものも含む。）

（出典　成績等調査資料　平成 18～22 年度）

資料６－１－②―５

卒業研究発表会目次

平成22年度　卒業研究論文発表会プログラム

番号	開始時間	発表者	研究テーマ		指導教員
セッション「ものづくり」：9:00～9:58 6件			座長：　先生		
1	9:00		ネットワークシステムを利用したスコアーボードの作製	PDF	
2	9:09		PICを用いた電子音の品質の検討	PDF	
3	9:18		電池の厚さを非接触で測定するシステム構築	PDF	
4	9:27		PCと温度調節器を組み合わせたPID制御実習の構築	PDF	
5	9:40		三菱製PLCを用いた学生実験の構築	PDF	
6	9:49		センサ機能を併せ持ったLEDディスプレイの開発と応用	PDF	
休憩（9:58～10:05）					
セッション「理論1」：10:05～10:59 6件			座長：　先生		
7	10:05		構造性複屈折多層近似による構造性発色の数値解析	PDF	
8	10:14		竹炭を用いた電波吸収体の数値解析	PDF	
9	10:23		3次元における表面プラズモン共鳴吸収の特性解析	PDF	
10	10:32		小型変圧器の運転状態推定に関する研究	PDF	
11	10:41		流量制御のためのPID制御法に関する基礎研究	PDF	
12	10:50		小型風力発電用シミュレータ開発に関する研究	PDF	
休憩（10:59～11:10）					
セッション「理論2」：11:10～12:13 7件			座長：　先生		
13	11:10		独立成分分析による信号分離処理について	PDF	
14	11:19		ニューラルネットワークの環状結合構造と発振リズムについて	PDF	
15	11:28		H波入射による四角柱導体からの散乱波に対する物理光学の精度検討	PDF	
16	11:37		E波入射による四角柱導体からの散乱波に対する物理光学の精度検討	PDF	
17	11:46		方向を変える送電線下に地表面近傍における磁界解析	PDF	
18	11:55		電力系統ハイリスク事象探索に及ぼす信頼度制御の影響評価	PDF	
19	12:04		電力系統過渡安定度向上のための発電機制御系の優先順位決定	PDF	
昼食（12:08～13:10）					
セッション「実験1」：13:10～14:04 6件			座長：　先生		
20	13:10		水と水蒸気に対するマイクロ波の吸収測定実験	PDF	
21	13:19		超音波距離計の改善及び検討	PDF	
22	13:28		光ファイバ通信システムの通信品質の検討	PDF	
23	13:37		半導体薄膜のへき開とSTM観察	PDF	
24	13:46		LED封止用樹脂のための蛍光ガラスの開発	PDF	
25	13:55		光干渉計を利用した歪み量の実測	PDF	
休憩（14:04～14:10）					
セッション「実験2」：14:10～15:13 7件			座長：　先生		
26	14:10		LED電極の腐食における電解液と電極材料の関係	PDF	
27	14:19		コットレルケーブル代替ケーブルの実機実証試験	PDF	
28	14:28		蜘蛛の網膜電位測定	PDF	
29	14:37		半導体の表裏における熱拡散信号の測定	PDF	
30	14:46		発光面照度の均一なLEDフラットライトの開発	PDF	
31	14:55		マイコンによる磁性流体のスパイク現象の制御	PDF	
32	15:04		3次元スキャナーによる物体の形状測定	PDF	
休憩（15:13～15:25）					
セッション「その他」：15:25～16:19 6件			座長：　先生		
33	15:25		メタマテリアルを用いた光の操作に関する検討	PDF	
34	15:34		物体探索システム	PDF	
35	15:43		自然エネルギー利用を指向した電気二重層キャパシタの充放電特性について	PDF	
36	15:52		LabVIEWによるTCP/IP通信プログラムの作成	PDF	
37	16:01		工場生産に適した簡易沈降速度測定装置の開発	PDF	
38	16:10		光触媒による環境浄化実験の構築	PDF	

本講演概要集は、阿南工業高等専門学校（特許法第30条第1項の規定に基づく学術団体指定　平成18年10月13日）が主催する平成22年度電気電子工学科5年　卒業研究発表会の要旨を収めたもので、そのすべての内容は特許法第30条第1項における新規性喪失の例外に該当します。

（出典　阿南高専電気電子工学科　卒業研究論文発表会プログラム　平成 22 年度）

資料６－１－②―６

平成 21 年度学会発表

専門分野	論文題目	掲載誌名・巻・号	氏　名	所属（大学名等）
知能情報学	巡回セールスマン問題におけるメタヒューリスティクスの融合に向けて	第10回AI若手の集いオンライン資料集，pp55-57，(2009)	佐藤忍 一ノ瀬元喜 中道義之	阿南高専・専 阿南高専 沼津高専
知覚情報処理・知能ロボティクス	カメラを用いた移動ロボットの自己位置推定に関する研究	平成21年度 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集，p. 94，2009	佐藤志保理 福見淳二	阿南高専・専 阿南高専
	ファジィ制御による移動ロボットの軌道追従特性の改善	2009年度　計測自動制御学会四国支部学術講演会講演論文集，No. A113，2009	佐藤志保理 福見淳二	阿南高専・専 阿南高専
感性情報学・ソフトコンピューティング	LRF を用いた移動ロボットの環境認識に関する研究	平成21年度 電気関係学会四国支部連合大会講演論文集，p. 91，2009	松本剛 福見淳二	阿南高専・専 阿南高専
医用生体工学・生体材料	局所組織インピーダンスにおける等価回路モデルのパラメータ推定	Proceedings of the International Symposium on Biomedical Engineering and Related Technologies /The Symposium to Honor Dr. Kinouchi，pp. 7-10(2009)	Emiko Yasuno Xueli Zhao Yohsuke Kinouchi Tadaoki Morimoto	Anan NCT The Univ. of Tokushima The Univ. of Tokushima The Univ. of Tokushima
	複素ニューラルネットワークを用いた自律分散ロボットシステムの協調搬送制御	平成21年度電気関係学会四国支部連合大会論文集p. 92，No. 8-10(2009)	鈴木浩司 安野　卓 漆原史朗 安野恵実子 桑原明伸	徳島大学 徳島大学 長岡技術科学大学 阿南高専 徳島大学
	生体インピーダンス計測でのガード電極効果の検証	平成21年度電気関係学会四国支部連合大会論文集p. 239，No. 14-23(2009)	小谷亮介 服部圭吾 木内陽介 芥川正武 森本忠興 丹黒　章 岡崎憲二 安野恵実子	徳島大学 徳島大学 徳島大学 徳島大学 NPO 法人ﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨ検診精度管理中央委員会 徳島大学 徳島大学
福祉工学	高齢者の体格の変化に対応した歩行補助車の高さ調節機構の改善	日本福祉工学会，第13回学術講演会講演論文集，pp. 33-34	山田耕平 田中達治 高山直子 宮本陽生 田中達治	阿南高専・専 阿南高専 阿南高専 阿南高専 阿南高専
スポーツ工学	自作のゲーム分析シートによるバレーボール部活動指導	論文集「高専教育」・第32号，pp. 769-773，(2009)	新井　修 多田　博夫 上原　信知	阿南高専
教育工学	英国におけるコーオプ教育（プレースメント）に関する調査研究（高専型コーオプ教育への一考察）	独立行政法人国立高等専門学校機構，論文集「高専教育」，第32号，pp. 321-326(2009)	原野智哉 林田英治 大北裕司 吉村　洋 安野恵実子 上原信知	阿南高専
	阿南高専におけるコーオプ教育の教育効果と問題点（第１報）	平成21年度独立行政法人国立高等専門学校機構教育教員研究集会論文集，pp. 65-68(2009)	原野智哉 吉村　洋 安野恵実子 上原信知	阿南高専
	ものづくりエリート技術者養成コーオプ教育プロジェクトの取り組みと成果	平成21年度工学・工業教育研究講演会講演論文集，日本工学教育協会，pp. 118-119(2009)	原野智哉 吉村　洋 安野恵実子 上原信知	阿南高専
	ものづくり技術者養成コーオプ教育プロジェクトにおける教育効果と問題点	第７回全国高専テクノフォーラム，独立行政法人国立高等専門学校機構，p73(2009)	原野智哉 吉村　洋 安野恵実子 上原信知	阿南高専
	阿南高専におけるコーオプ教育の成果と問題点	平成21年度四国地区国立高等専門学校教員研究集会報告書，独立行政法人高等専門学校機構，pp. 7-18(2009)	原野智哉 吉村　洋 安野恵実子 上原信知	阿南高専

（出典　技術の光　あなん高専 平成 21 年度学会発表一覧（抜粋）　Vol. 15 p36）

資料６－１－②―７

平成 22 年度における各種コンテスト参加実績

平成２２年度各種コンテスト参加実績

コンテスト名	内　　容	成　績	開催年月
全国高等専門学校第21回プログラミングコンテスト	競技部門：「水瓶の恵み」ー緑と水のネットワークー	予選通過 準々決勝敗退 （一回戦突破）	2010.6 2010.10
全国高等専門学校デザインコンペティション2010 in 八戸	ものづくりコンペティション部門（本選） 作品名：ぼたっち 構造デザインコンペティション部門 (1)作品名：四次元ポケット (2)作品名：AwaのHashii	審査員特別賞 総合成績23位 総合成績33位	2010.11.13-14 2010.11.13-14
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2010（四国地区大会）	激走！ロボ力車 Aチーム「SOKUTATU」 Bチーム「SICE」	 デザイン賞 特別賞（東京エレクトロンFE株式会社）	2010.10.10
英語スピーチコンテスト（於：第32回四国地区高等専門学校総合文化祭）	自由弁論の部　松田将希 （第4回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストへ出場）	優秀賞	2010.11.11

（出典　阿南高専各種コンテスト参加実績調査　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

学生個人の進路変更・希望等により留年・休学・退学はあるが，全体的に高い単位取得率，進級率，卒業率，進学率，就職率となっている。

卒業研究の内容については，教育目的に照らして適正なものとなっている。平成22年度専攻科修了生は，各専攻とも全員が国内外の学会で発表を行っている。各種コンペティションにも多く参加し成果を挙げている。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

各学科とも就職希望学生の就職率，進学希望学生の進学率は，ほぼ100％である**（資料６－１－③―１）**。平成 22 年度卒業生の就職先を産業別に見ると，機械工学科では製造業に100％就職しており，他の学科においては製造業だけでなく情報通信業や建設業にも就職している。建設システム工学科の就職先企業の約１割が，建設分野以外となっている**（資料６－１－③―２）**。本科卒業生及び専攻科修了生の進学先は，ほとんどが工学部や理工学部である**（資料６－１－③―３）**。

資料６－１－③―１

平成 22 年度進路状況

平成22年度 卒業者の進路について

H23.3.29

学科名		就職			進学			その他専門学校等	未定者	卒業者数
		県内	県外	計	大学	専攻科	計			
機械	男	10	12	22	6	8	14	0	0	36
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	10	12	22	6	8	14	0	0	36
電気電子	男	2	26	28	4	6	10	0	0	38
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	26	28	4	6	10	0	0	38
制御情報	男	5	7	12	8	1	9	0	2	23
	女	3	3	6	4	0	4	0	1	11
	計	8	10	18	12	1	13	0	3	34
建設システム	男	3	11	14	3	3	6	0	0	20
	女	5	2	7	0	0	0	0	0	7
	計	8	13	21	3	3	6	0	0	27
全体集計		28	61	89	25	18	43	0	3	135

○主な就職先

機械	県内	日亜化学工業㈱(4)、㈱泉製作所、大塚化学㈱、光洋シーリングテクノ㈱、四国トーセロ㈱、大鵬薬品工業㈱、リンテック㈱
	県外	大阪サニタリー金属工業協同組合(2)、㈱カネカ(2)、大岡技研㈱、川重マリンエンジニアリング㈱、関西電力㈱、JFEスチール㈱西日本製鉄所、中部電力㈱、東京電力㈱、㈱森精機製作所、㈱吉野工業所
電気電子	県内	大塚化学㈱、エヌ・アンド・イー㈱
	県外	四国電力㈱(3)、関西電力㈱(2)、大岡技研㈱、京セラ㈱、㈱きんでん、三洋電機㈱モバイルエナジーカンパニー、三和電気土木工事㈱、㈱ジェイペック、ダイセル化学工業㈱、中部電力㈱、東京電力㈱、東芝エレベータ㈱、東レ㈱、日本電設工業㈱、日本電産㈱、㈱富士通ゼネラル、富士古河E&C㈱、扶桑建設工業㈱、三菱重工業㈱神戸造船所、三菱電機㈱伊丹製作所、三菱電機㈱福山製作所、山崎製パン㈱、㈱リコー
制御情報	県内	日亜化学工業㈱(5)、アクサス㈱、㈱大塚製薬工場、四国化工機㈱
	県外	オムロンフィールドエンジニアリング㈱、京セラ㈱、㈱システムランド、㈱ジャパンコミュニケーション、神鋼テクノ㈱、㈱ソルクシーズ、東海旅客鉄道㈱、㈱酉島製作所、日立INSソフトウェア㈱、三菱電機システムサービス㈱
建設システム	県内	日亜化学工業㈱(2)、㈱エー・アンド・ビー、四国建設㈱、西野建設㈱、㈱姫野組、㈱ファルコン、守野(有)
	県外	出光興産㈱、関西保温工業㈱、㈱三晃空調、四国電力㈱、㈱ダイキンアプライドシステムズ、大鉄工業㈱、東海旅客鉄道㈱、西日本旅客鉄道㈱、㈱NIPPO、阪神測建㈱、三菱地所藤和コミュニティ㈱、メタウォーター㈱、㈱森本組

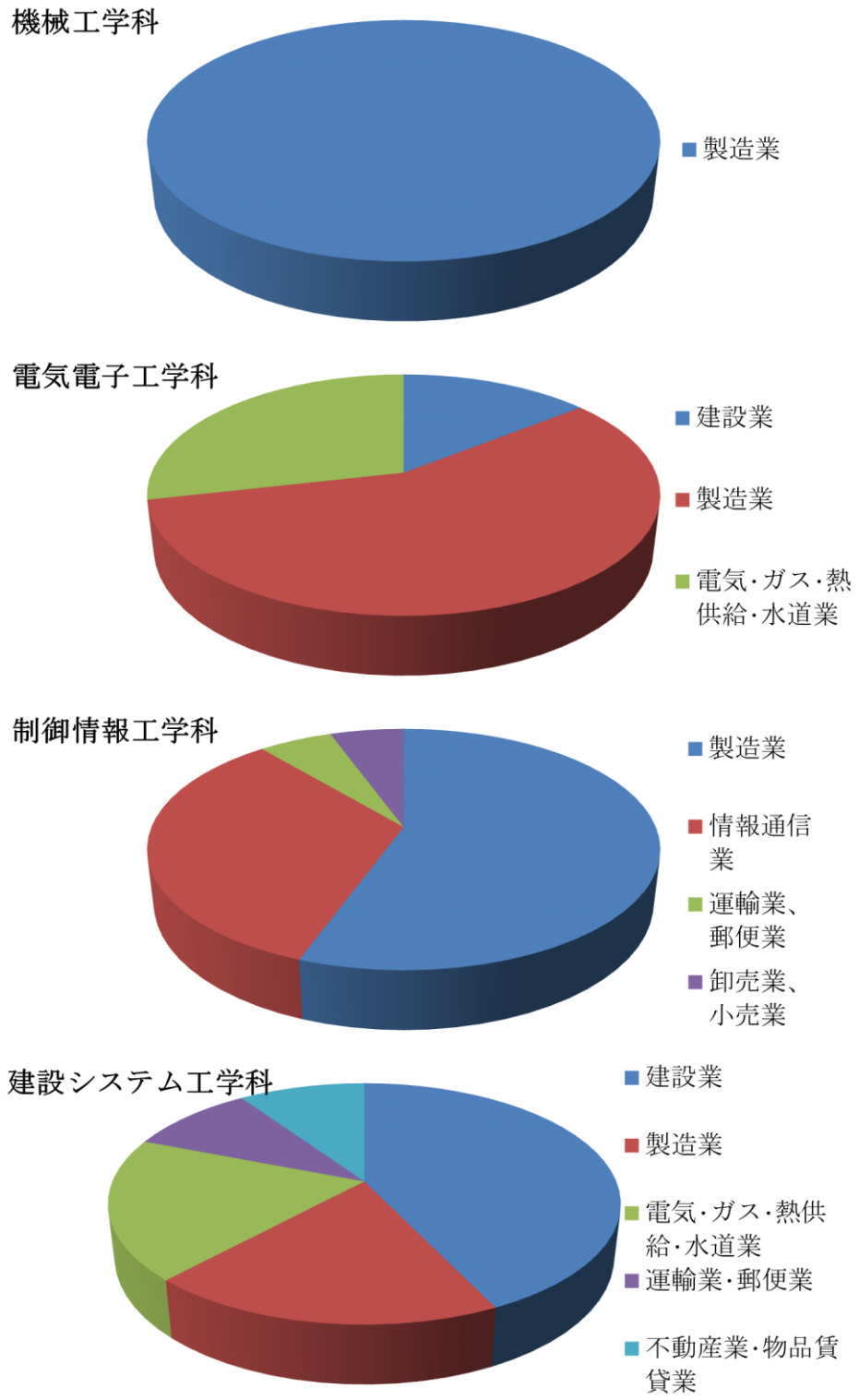
○進学先(大学)

機械	秋田大学、東京工業大学、長岡技科大(2)、千葉大学、三重大学
電気電子	豊橋技科大(2),大阪大学、岡山大学
制御情報	札幌市立大学、筑波大学、長岡技科大(3)、豊橋技科大(4)、徳島大学(3)
建設システム	豊橋技科大(2)、徳島大学

(出典　阿南高専　Web サイト　卒業後の進路　平成 22 年度)

資料６－１－③―２

卒業後の進路：産業別



（出典　阿南高専 Web サイト　卒業後の進路：産業別）

資料６－１－③―３

過去５年間の進学状況

⑨専攻科・大学編入学状況[Advanced Course and University Enrollment Status]

大学名[University]	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度				合計[Total]
	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C	
徳島大学 [The University of Tokushima]	1	1	1	1	1	2	1	2	2	3	3	3	2	2	1	3			3	1	33
香川大学 [Kagawa University]				1			1								1	1					4
愛媛大学 [Ehime University]			1						1												2
長岡技術科学大学 [Nagaoka University of Technology]	3			1	2	1		2	1		1		1	1		2	2		1	1	19
豊橋技術科学大学 [Toyohashi University of Technology]	2		3	1	3		2			1	3	1		1		1		2		2	22
東北大学 [Tohoku University]										1											1
筑波大学 [University of Tsukuba]																			1		1
埼玉大学 [Saitama University]																			1		1
東京農工大学 [Tokyo University of Agriculture and Technology]			1																		1
東京工業大学 [Tokyo Institute of Technology]																		1			1
電気通信大学 [The University of Electro-Communications]										1	1										2
金沢大学 [Kanazawa University]																	1				1
名古屋大学 [Nagoya University]																			1		1
名古屋工業大学 [Nagoya Institute of Technology]	1																				1
京都工芸繊維大学 [Kyoto Institute of Technology]			1																		1
大阪大学 [Osaka University]									1					1				1			3
神戸大学 [Kobe University]							1														1
島根大学 [Shimane University]			1																		1
岡山大学 [Okayama University]				1	1				2	1		1					1				7
広島大学 [Hiroshima University]								1					1		1		2				5
九州工業大学 [Kyushu Institute of Technology]									1												1
熊本大学 [Kumamoto University]			1									1								1	3
兵庫県立大学 [University of Hyogo]						1									1						2
岡山県立大学 [Okayama Prefectual University]			1																		1
高知工科大学 [Kochi University of Technology]															1						1
東京工科大学 [Tokyo University of Technology]											1				1						2
帝京大学 [Teikyo University]													1								1
早稲田大学 [Waseda University]															1				1		2
大阪経済法科大学 [Osaka University of Economics and Law]									1												1
大阪工業大学 [Osaka Institute of Technology]													1								1
阿南工業高等専門学校専攻科[Anan National College of Technology Advanced Course]	6	6	4	6	1	3	3	5	4	5	7	2	9	6	4	1	3	9	2	1	87
合　計 [Total]	45				33				49				45				38				210

表内のクラス表示　M:機械工学科　E:電気電子工学科　S:制御情報工学科　C:建設システム工学科

⑩大学院進学状況[Graduate School Enrollment Status]

大 学 院 [Graduate School]	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		合計[Total]
	MC	ES	MC	ES	MC	ES	MC	ES	MC	ES	
徳島大学 [The University of Tokushima]	1	1		3		3		3			11
東京大学 [Tokyo University]				1							1
大阪大学 [Osaka University]		1									1
奈良先端科学技術大学院大学 [Nara Institute of Science and Technology]		1						1		1	3
豊橋技術科学大学 [Toyohashi University of Technology]					1						1
京都情報大学院大学 [Kyoto College of Graduate Studies for Informatics]						1					1
合　計 [Total]	4		4		5		4		1		18

表内のクラス表示　MC:構造設計工学専攻　ES:電気・制御システム工学専攻

（出典　阿南高専学校要覧　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

就職先及び進学先は，いずれも本校の教育目的において目指している人材像として相応しい進路先であり，各学科ともほぼ 100%の就職率である。この実績は，企業･大学が本校卒業生に教育の成果を確認していることによる。

これらのことから，教育の目的において意図する要請しようとする人材像に相応しい進路状況であることを，確認している。

観点６－１－④：学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

学生が自らの学力や資質･能力の向上について評価する指標として，学生による授業評価アンケートとシラバス記載の到達目標修得点検アンケートを実施している。

授業評価アンケートでは授業目的の達成度を問い（**前述資料５－２－②―６**），シラバス記載の到達目標修得点検アンケートでは，各授業科目の到達目標の到達度を［Ａ：よく理解できた，Ｂ：やや理解できた，Ｃ:あまり理解できなかった，Ｄ:全く理解できなかった］の４段階で評価をしている（**前述資料５－２－②―５**）。

今年度，卒業式・専攻科修了式開催を間近に迎えた５年生と専攻科生に学生生活を振り返りアンケートを実施した（**資料６－１－④―１**）。そのうち本校教育目標の達成状況についての結果は一定以上の教育の成果を確認している（**資料６－１－④－２**）。

資料５－２－②―６（再掲）

授業評価アンケートの結果の一例

阿南高専授業評価アンケート集計結果

コード	科目名	種別	対象学年	学科	教員名
29420	材料学	授業全般	4	M	奥本 良博

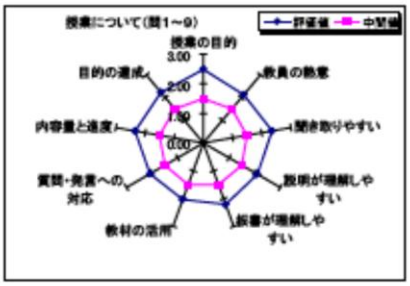
人方算マークカード数
39

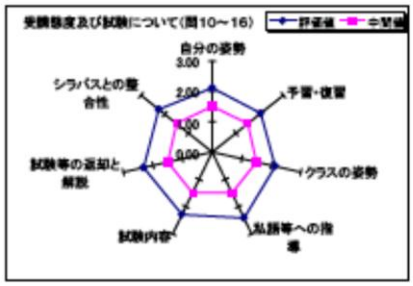
問毎の集計結果

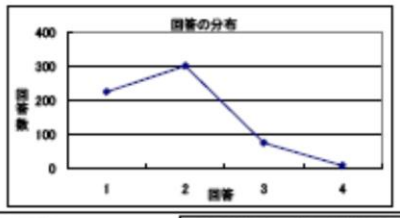
	設問	1全回答(そう)	2全回答(ややそう)	3全回答(やや違う)	4全回答(違う)	有効回答数	評価値	中間値
問1	授業の目的	22	14	3	0	39	2.49	1.50
問2	教員の熱意	11	23	4	1	39	2.13	1.50
問3	聞き取りやすい	19	15	5	0	39	2.36	1.50
問4	説明が理解しやすい	12	18	8	0	38	2.11	1.50
問5	板書が理解しやすい	14	19	6	0	39	2.21	1.50
問6	教材の活用	12	16	9	1	38	2.03	1.50
問7	質問・発言への対応	11	21	4	2	38	2.08	1.50
問8	内容量と進度	15	21	2	0	38	2.34	1.50
問9	目的の達成	13	22	4	0	39	2.23	1.50
問10	自分の姿勢	10	23	4	1	38	2.11	1.50
問11	予習・復習	13	16	9	1	39	2.05	1.50
問12	クラスの姿勢	10	23	5	0	38	2.13	1.50
問13	私語等への指導	19	16	3	0	38	2.42	1.50
問14	試験内容	17	16	4	1	38	2.29	1.50
問15	試験等の返却と解説	16	19	2	1	38	2.32	1.50
問16	シラバスとの整合性	12	21	3	0	36	2.25	1.50
	回答数の合計	226	303	75	8	612	2.22	

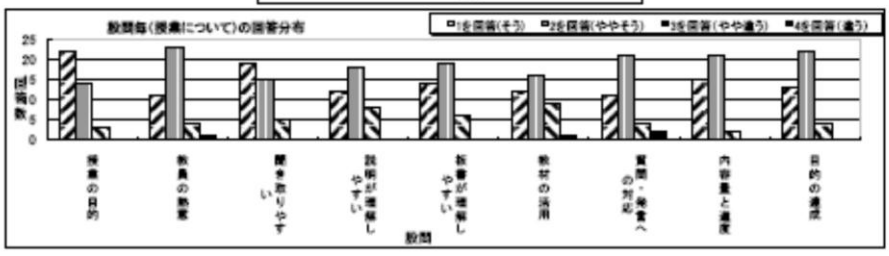
問2，問4，問7，問13のポイントを2倍として100点換算。

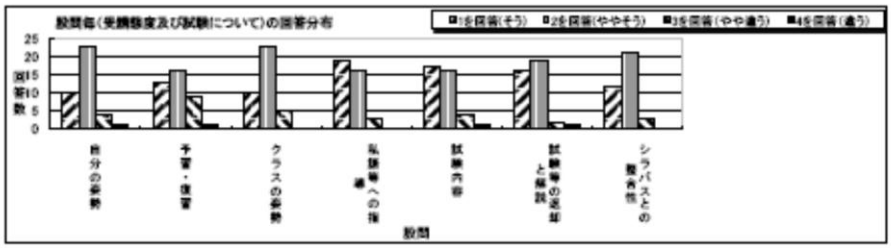
73.82 / 100











（出典　平成 22 年度　阿南高専授業評価アンケート集計結果）

資料５－２－②―５（再掲）

到達目標の達成度を問うアンケート

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
3年	材料学 Engineering Materials	29320	奥本　良博	後期	1	選択	

【授業目的】
前半は機械の材料として代表的である金属（特に鋼）の生産について，後半は金属の強度についての基本的な知識を整理する．材料学の工学技術および知識を継続して学習する習慣を育成する．

【到達目標】
1．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し，説明することができる．
2．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．

【授業計画】授業時間32時間

授業項目	授業時間	内　容
1．金属の生産	2	①金属と私達の生活
	2	②鉄の生産設備
	2	③銑鉄を生み出す(高炉)1
	2	④銑鉄を生み出す(高炉)2
	2	⑤鋼を生み出す(転炉)1
	2	⑥鋼を生み出す(転炉)2
	2	⑦他の金属の生産
	2	⑧【金属の生産】のまとめ

シラバス記載の到達目標修得点検アンケート

科目名：材料学１　　クラス：３M　　担当教員：奥本　良博

本科目受講を終わるにあたり，シラバスに記載してある［到達目標］について，あなたはどの程度理解および修得できたと思いますか．各項目について以下の自己評価をして，A,B,C,Dで記入してください．

A：よく理解できた
B：やや理解できた
C：あまり理解できなかった
D：全く理解できなかった

［到達目標］

1．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し，説明することができる．　（　）

2．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．　（　）

（出典　シラバス達成目標修得点検アンケートの例）

資料６－１－④―１

卒業生修了生アンケート内容

2011 年度「卒業生アンケート」

このアンケートは、卒業にあたって阿南工業高等専門学校での学生生活を振り返っていただき、皆さんの考えをお伺いするものです。調査は無記名で行われ、回答はすべて統計的に処理されます。

阿南工業高等専門学校

1）所属学科
□　機械工学科　　□　電気電子工学科　　□　制御情報工学科
□　建設システム工学科
2）性別　　□　男性　　□　女性
3）入試方法
□　推薦入試　　□　一般入試
4）寮生活の期間　　□　４年間以上　□　２～3 年間　□　２年未満　□　なし
5）クラブ活動をされていましたか　□　はい　　□　いいえ
6）卒業後は　　□　就職　　□　進学

設問１　以下のことにどのくらい満足していますか。

	とても満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満足
キャンパスの雰囲気	5	4	3	2	1
専門科目の授業内容	5	4	3	2	1
一般科目の授業内容	5	4	3	2	1
卒業研究	5	4	3	2	1
キャリア教育	5	4	3	2	1
所属学科のカリキュラム	5	4	3	2	1
教職員による学生サポート	5	4	3	2	1
クラブ活動	5	4	3	2	1
キャンパスの施設・設備	5	4	3	2	1
卒業後の進路	5	4	3	2	1

設問２　高専生活を通じて、以下のことにどのくらい力を入れて取り組みましたか。

	とても力を入れた	わりと力を入れた	どちらともいえない	あまり力を入れなかった	まったく力を入れなかった
専門科目の授業内容	5	4	3	2	1
一般科目の授業内容	5	4	3	2	1
卒業研究	5	4	3	2	1
キャリア教育	5	4	3	2	1
クラブ活動	5	4	3	2	1
インターンシップ	5	4	3	2	1
ボランティア活動	5	4	3	2	1
国際交流	5	4	3	2	1
就職活動	5	4	3	2	1

設問３　以下の本校の教育目標について、身についたと思いますか。

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
（A）　国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。	5	4	3	2	1
（B）　社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。	5	4	3	2	1
（C）　日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。	5	4	3	2	1
（D）　継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力をもった技術者を養成する。	5	4	3	2	1
（E）「ものづくり」を重視し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する技術者を養成する。	5	4	3	2	1

設問４　阿南工業高等専門学校での生活を振り返り、全般的に満足していますか。

□　満足だった　　□　どちらかといえば満足だった

□　どちらかといえば不満足だった　　□　不満足だった

設問５　阿南高専の教育について、思うことがあれば以下にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。いただいた回答をよりよい阿南高専へと改善するための資料として利用させていただきます。
最後に卒業生のみなさまの今後のご活躍をお祈りいたします。

（出典　阿南高専卒業式・修了式後のアンケート　平成 22 年度）

資料６－１－④―２

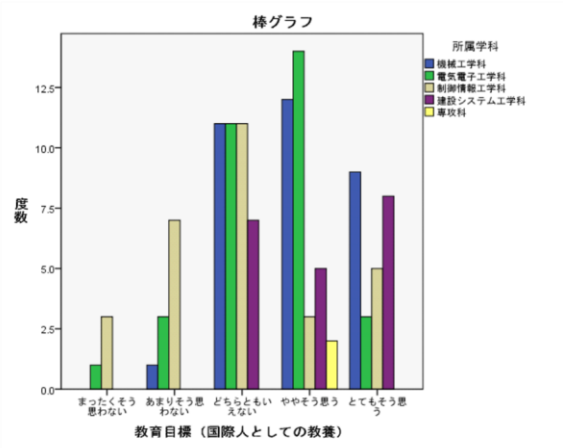
卒業生修了生アンケートに基づく教育目標達成状況評価

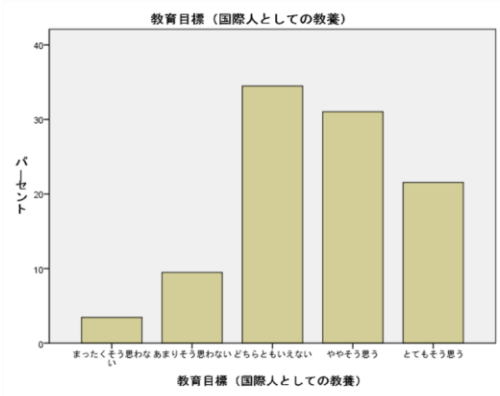
設問　以下の本校の教育目標について、身についたと思いますか

教育目標（国際人としての教養）　と 所属学科 のクロス表

度数

	所属学科					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	専攻科	合計
まったくそう思わない	0	1	3	0	0	4
あまりそう思わない	1	3	7	0	0	11
どちらともいえない	11	11	11	7	0	40
ややそう思う	12	14	3	5	2	36
とてもそう思う	9	3	5	8	0	25
合計	33	32	29	20	2	116

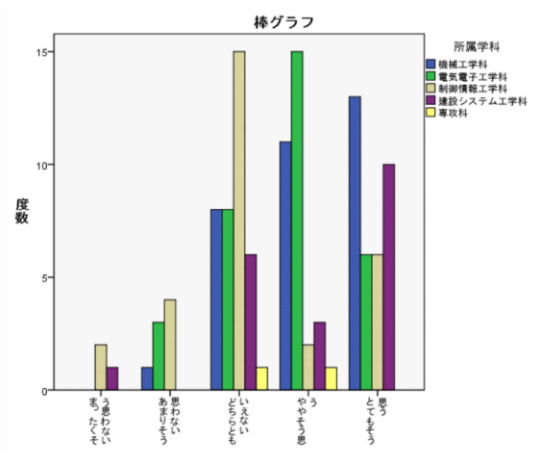


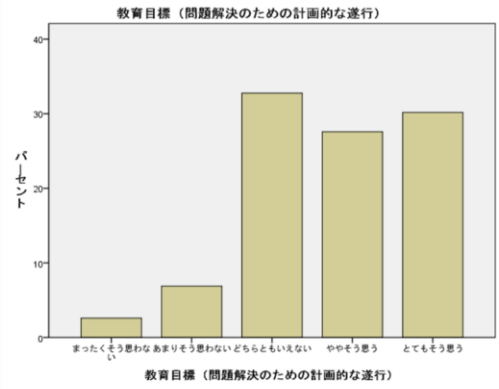


教育目標（問題解決のための計画的な遂行）　と 所属学科 のクロス表

度数

	所属学科					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	専攻科	合計
まったくそう思わない	0	0	2	1	0	3
あまりそう思わない	1	3	4	0	0	8
どちらともいえない	8	8	15	6	1	38
ややそう思う	11	15	2	3	1	32
とてもそう思う	13	6	6	10	0	35
合計	33	32	29	20	2	116

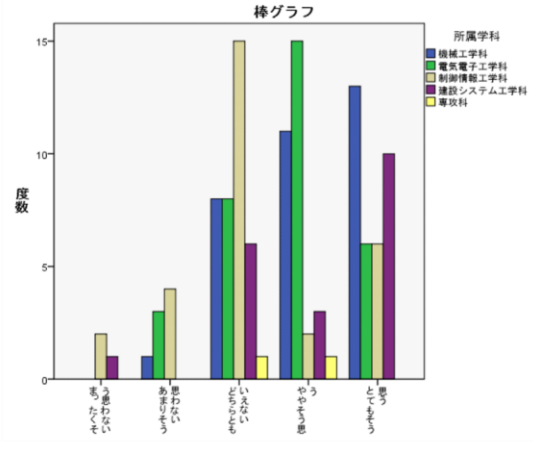


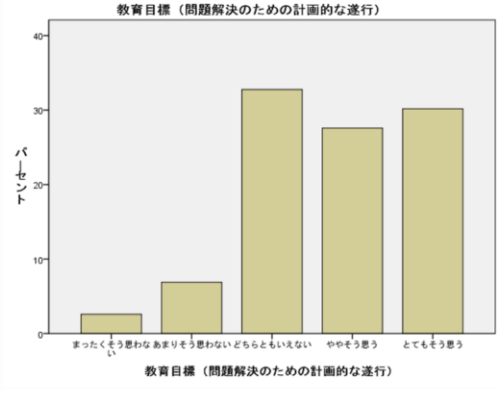


教育目標（問題解決のための計画的な遂行）　と 所属学科 のクロス表

度数

	所属学科					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	専攻科	合計
まったくそう思わない	0	0	2	1	0	3
あまりそう思わない	1	3	4	0	0	8
どちらともいえない	8	8	15	6	1	38
ややそう思う	11	15	2	3	1	32
とてもそう思う	13	6	6	10	0	35
合計	33	32	29	20	2	116

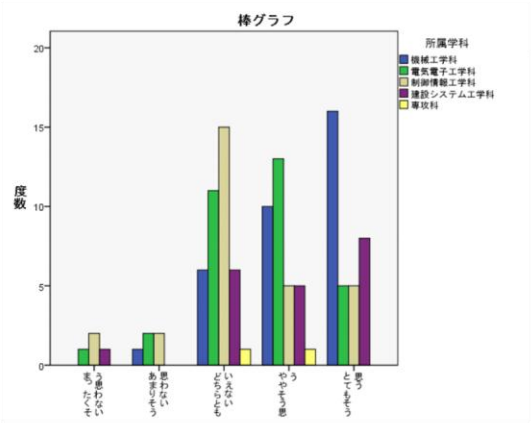


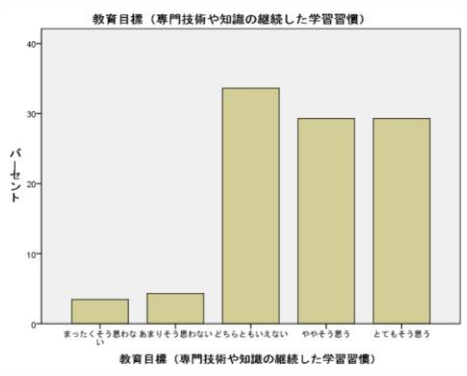


教育目標（専門技術や知識の継続した学習習慣）　と 所属学科 のクロス表

度数

	所属学科					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	専攻科	合計
まったくそう思わない	0	1	2	1	0	4
あまりそう思わない	1	2	2	0	0	5
どちらともいえない	6	11	15	6	1	39
ややそう思う	10	13	5	5	1	34
とてもそう思う	16	5	5	8	0	34
合計	33	32	29	20	2	116

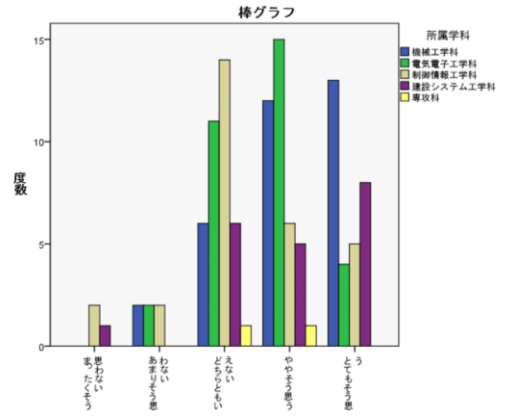


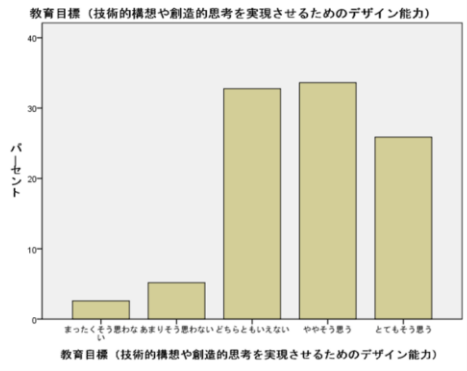


教育目標（技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力）　と 所属学科 のクロス表

度数

	所属学科					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	専攻科	合計
まったくそう思わない	0	0	2	1	0	3
あまりそう思わない	2	2	2	0	0	6
どちらともいえない	6	11	14	6	1	38
ややそう思う	12	15	6	5	1	39
とてもそう思う	13	4	5	8	0	30
合計	33	32	29	20	2	116





（出典　阿南高専卒業式・修了式後のアンケート　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

授業評価アンケート及びシラバス記載の到達目標修得点検アンケートの結果から，各教科には一定以上の教育の成果を確認している。さらに卒業性アンケートからは卒業･修了時の学習･教育目標の達成が一定以上であることを確認している。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

専攻科修了後，ＪＡＢＥＥ認定された修了生に，学習･教育目標の達成度を問う同アンケートを実施している（**資料６－１－⑤―１**）。その結果から，教育目標達成について，一定程度以上の成果を確認している。一方，語学力向上についての成果の伸長が望まれる。これについては，今後，国際化に向けた本校教育方法等の改善を行うことを検討している。

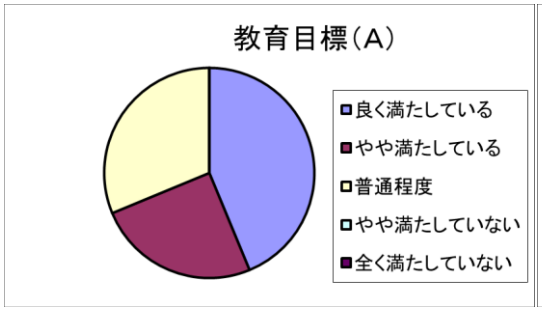
進路先企業関係者からは，インターンシップ担当教員・就職担当教員，学科主任・専攻科長等が，インターンシップ状況視察及び企業関係者が本校を訪問した際などにおいて，卒業生･修了生の学力や資質･能力について高い評価を得ている。高評価は，本校の校訓「規律を重んじ，礼儀を厳正にする」及びエンジニア像「専門分野におけるベースとなる知識」を中心としている。参与会でも，社会においての高専生の高評価は，専門知識等に加えて，挨拶等の礼儀によるところが大きいとの意見があった。

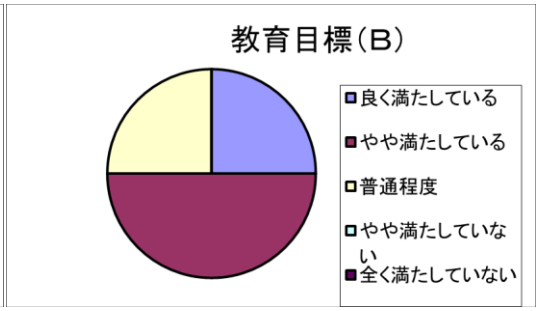
３年生から職業教育の一環システムであるコーオプ教育（**前述資料５－１－②－９**）においてもコーオプ参加企業からも参加学生が企業での研修を重ねる毎に多岐の渉る項目において教育の成果が向上しているとの評価を得ている（**資料６－１－⑤―２**）。

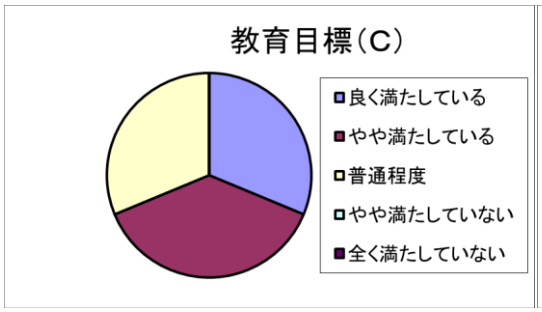
資料６－１－⑤―１

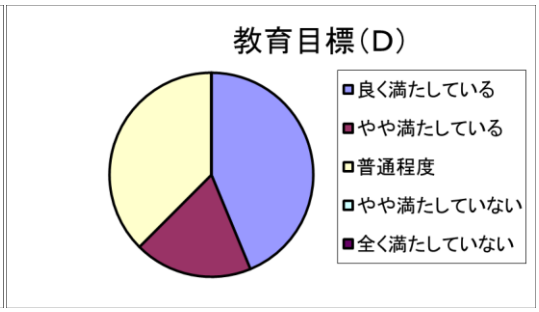
ＪＡＢＥＥ修了生からのアンケート結果

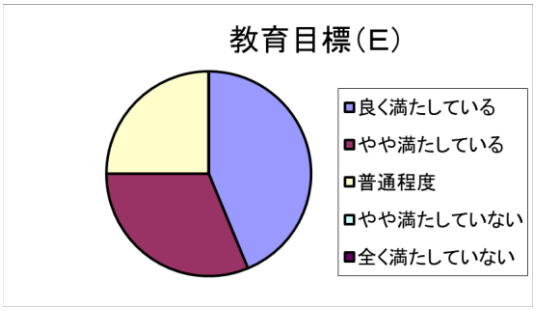
設問 1：あなたは専攻科の終了時点で教育目標(A)～(E)について、どの程度満たしていますか。







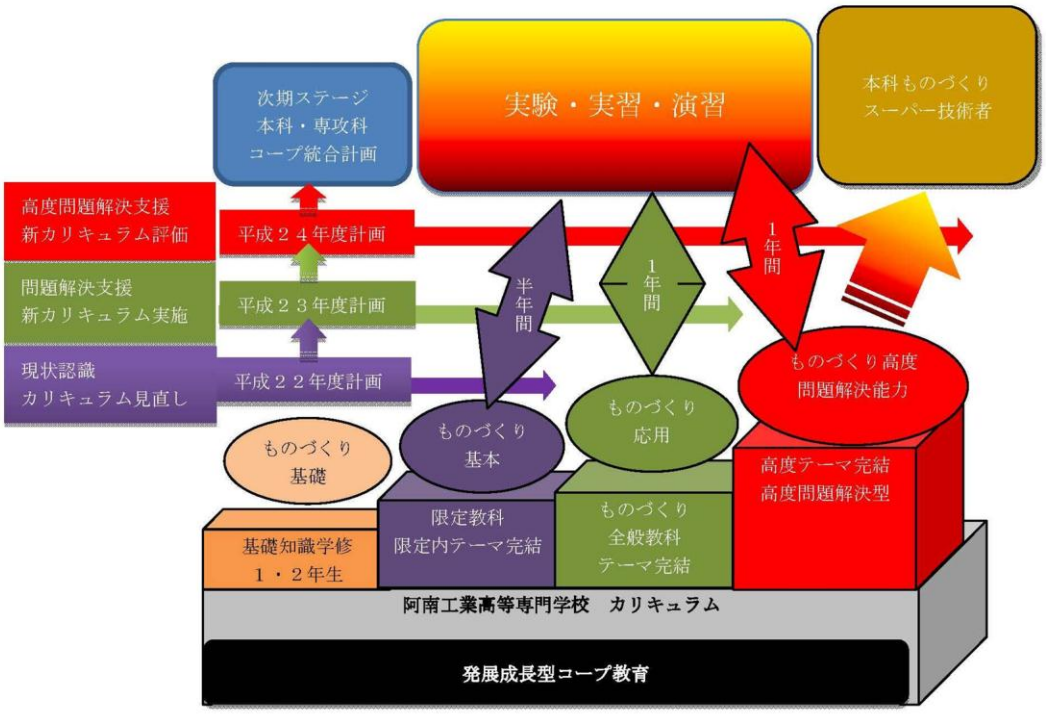




（出典　阿南高専　ＪＡＢＥＥ修了生アンケート集計結果　平成 22 年度）

資料５－１－②―９（再掲）

コーオプ教育概念図

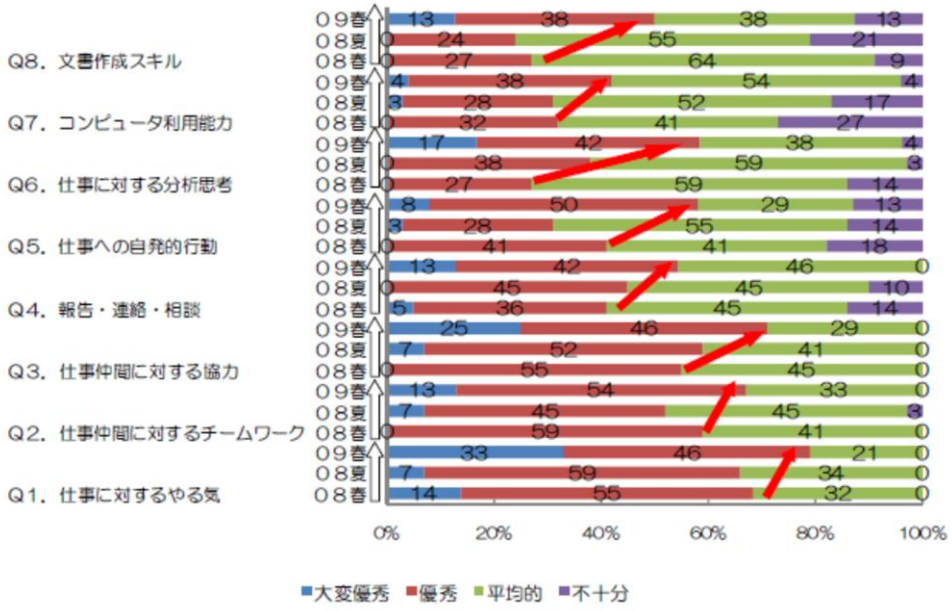


阿南高専本科コーオプ教育　概念図（平成 22 年度～平成 24 年度）

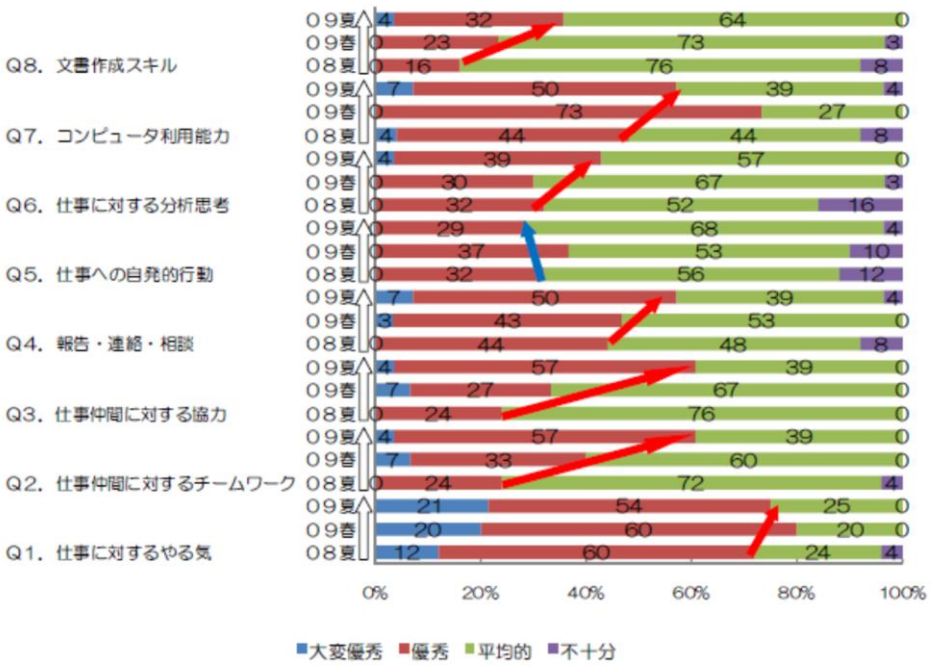
（出典　コーオプ教育報告書　平成 22 年度）

資料６－１－⑤―２

コーオプ教育参加企業からの評価



（ａ）１期生（春季２週間→夏季３週間→春季２週間）N=24



（ｂ）２期生（夏季３週間→春季２週間→夏季３週間）N=25

図５．企業指導者による就業能力（働く能力）評価の変化

（出典　ものづくりエリート技術者養成コーオプ教育プロジェクト平成 21 年度委託業務成果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

卒業生・修了生の進路先企業関係者，本校運営と地域での高専生評価との両方を知る参与会から，卒業生･修了生が在学時に得た学力や資質･能力についての高評価を得ている。これらの関係者から得られた意見は，適宜，各担当部署で把握され，運営委員会で共有されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

全体的に高い単位取得率，進級率，卒業率，進学率，就職率となっている。就職先及び進学先は，いずれも本校の教育目的において目指している人材像として相応しい進路先である。専攻科修了生による学会・国際会議発表が継続的に実施されている。

卒業生・修了生の進路先企業関係者，本校運営と地域での高専生評価との両方を知る参与会から，卒業生･修了生が在学時に得た学力や資質･能力についての高評価を得ている。

（改善を要する点）

企業関係者・参与会からの意見の集約を，いっそう体系的に行うことが望まれる。

（３）基準６の自己評価の概要

教育の目的の達成に必要な授業科目として必修科目を定め，その履修・修得についてとくに留意しつつ進級･卒業･修了を判定している。卒業研究論文･特別研究論文の審査は，学習･教育目標に則って審査している。

全体的に高い単位取得率，進級率，卒業率，進学率，就職率となっている。就職先及び進学先は，いずれも本校の教育目的において目指している人材像として相応しい進路先である。

専攻科修了生による学会・国際会議発表があり，デザインコンペティション，ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト，四国地区高等専門学校英語スピーチコンテスト，等に積極的に参加し，好成績を修めている。

５年生必修科目，専攻科２年科目に関する授業評価アンケート及びシラバス記載の到達目標修得点検アンケートの結果から，一定以上の教育の成果を確認している。５年生・専攻科２年生との意見交換，アンケート結果から，卒業･修了時の学習･教育目標の達成が一定以上であることを確認している。

卒業生・修了生の進路先企業関係者，本校運営と地域での高専生評価との両方を知る参与会から，卒業生･修了生が在学時に得た学力や資質･能力についての高評価を得ている。これらの関係者から得られた意見は，適宜，各担当部署で把握され，運営委員会で共有されている。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

入学時の新入生オリエンテーション及び新入生合宿研修において，学習を進める上で必要なガイダンスを実施している（**資料７－１－①－１，２**）。

１年生から３年生について，週１回のロングホームルーム及び毎朝のショートホームルームを通じてガイダンスを行っている（**資料７－１－①－３**）。４年生以上について，ＪＡＢＥＥ対応の教育プログラムについて手引き書を配付し，ガイダンスを行っている。

本科全学年でクラス担任制を採用（３年生までは副担任も配置）し，クラス担任・副担任が自主学習に関わる相談･助言等にあたっている（**資料７－１－①－４**）。１・２年生には，各学科教員からチューター教員を定め，担任・副担任教員と協同して，自主学習等に関わる相談･助言を行う学習支援ミーティングを，年４回程度行っている（**資料７－１－①－５**）。

専攻科における学習を進める上でのガイダンスとして，入学時に新入生オリエンテーションを実施し，教育プログラム履修に関するガイダンスを行っている（**資料７－１－①－６**）。

専攻科全学年で，各学生に対し，専攻主任，クラス担任，特別研究指導教員が協同して自主学習に関わる相談･助言等にあたる学習支援ミーティングを，年３回程度行っている（**前述資料５－７－①－６**）。専攻科においても，クラス担任を配置している（**前述資料７－１－①－４**）。

本科１年生，専攻科生，編入学生，新留学生を対象とし，図書館利用オリエンテーションを実施し，シラバス記載の参考書を開架する学習支援図書コーナー，蔵書検索方法，文献検索方法等について周知している（**資料７－１－①－７**）。

資料７－１－①－１

新入生オリエンテーション

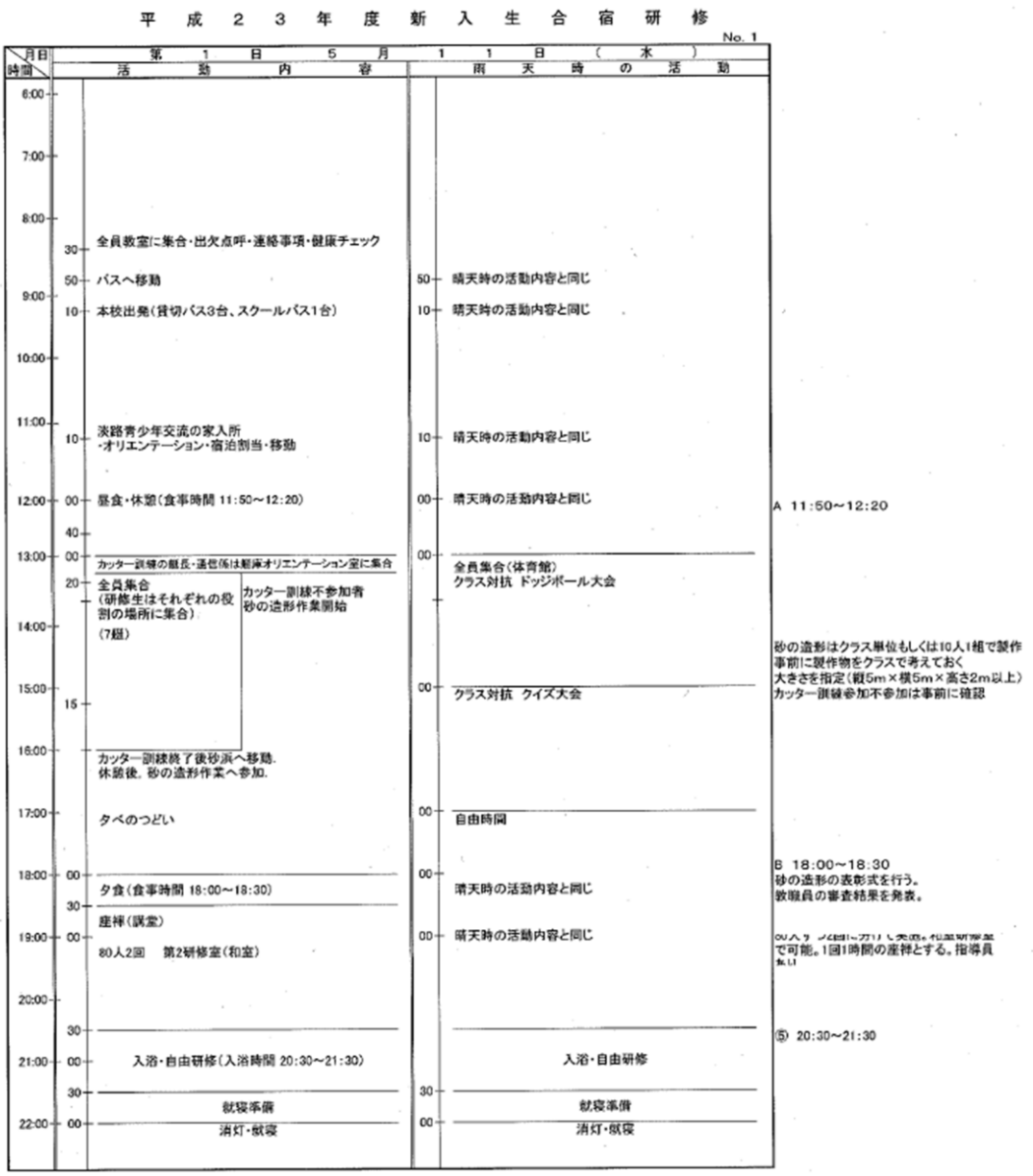
月 日	曜	（B） 専 攻 科 新 入 生				（BB）専攻科２年生			
		時 刻	行　　事	関係者	場 所	時 刻	行　　事	関係者	場 所
4月6日	水	8:40	専攻科1年　2年生との対面式	担任	マルチメディア	8:40	専攻科2年　新1年生との対面式	担任	マルチメディア
		～				～			
		9:00	始業式			9:00	始業式		
			・校長訓辞	校長	マルチメディア		・校長挨拶	校長	マルチメディア
		～	・専攻科長挨拶	副校長，教務主事		～	・専攻科長挨拶	副校長，教務主事	
				専攻科長				専攻科長	
		9:30		専攻科1・2年担任		9:30		専攻科1・2年担任	
		9:40	専攻科オリエンテーション			9:40	新学年ホームルーム		
			・「創造技術システム工学」教育プログラム	専攻科長	専攻科棟		・学級担任訓話	各学級担任	専攻科棟
		～	の説明	1年担任	講義室2（合同）	～	・学習教育目標の説明		講義室1・3
			・学習教育目標の説明等				〔必ず行なって下さい〕		
		10:20	〔必ず行なって下さい〕			11:10	・時間割，清掃分担，行事予定		
							・学級委員選出		
		10:30	・学生相談室関係	学生相談室長（委員）			・その他ホームルーム行事		
		～	・図書館関係	図書館長			・JABEEプログラムの説明		
			・学生関係	学生主事（主事補）			（必要あれば）		
			・教務関係	専攻科長					
		12:00	・新入生クラス写真撮影	1年担任					
			（本科1年生撮影終了後　学生課）						
			・学級担任訓話，学級委員選出						
			・時間割，清掃分担，行事予定など						
						11:45	教科書販売		
		12:50	教科書販売			～	専攻科生	各業者	第二体育館
		～	専攻科生新入生	各業者	第二体育館	15:00			
		15:00							
4月7日	木								
		8:50	前学期授業開始			8:50	前学期授業開始		

月 日	曜	（A） 本 科 新 入 生				（AA）本科２～５年生（編入生含む）			
		時刻	行 事	関係者	場 所	時 刻	行 事	関係者	場 所
		8:30	新入生オリエンテーション（司会：副教務主事）	副教務主事	視聴覚教室				
		↓	（教務関係 学習教育目標の説明等）	教務主事補		8:50	旧学年ホーム・ルーム	旧学級担任	旧教室
			（学生関係 生活指導の説明等）	学生主事補		↓	学級編成発表，学級担任発表，	但し，支障がある場合は副担任あるいは主事補	
			（専攻科生・編入学生は除く。）	学級担任		9:35	教室指示，旧学年教室の清掃		
							（旧5年生の教室は，旧4年生が併せて実施）		
						9:20	始業式の準備	教務主事補	第一体育館
						↓	旧1年生の学級担任は，各クラス	学生主事補	
							5名を第一体育館に派遣すること	教務係	
								学生係	
		9:40	始業式（司会：副教務主事）	校 長	第一体育館	9:40			
			・校長訓辞	副校長					
		↓	・三主事挨拶	3主事		↓	始業式（本科新入生と同じ）		
			・新任教員紹介・挨拶						
		10:20	・校務分掌発表 （教務主事）	教 員		10:20			
			・新入生紹介						
		10:30		校長，副校長	図書館前	10:30	新学年ホームルーム	各学級担任	各教室
		↓	新入生クラス写真撮影	3主事	雨天時：		・学級担任訓話		
4月6日	水	11:00	（風力発電設備下）	1年学級担任	体育館	↓	・学習教育目標の説明（必ず行なって下さい）		
				1年副学級担任			・座席指定		
		11:00	新入生ホームルーム	各学級担任	各教室	11:45	・時間割，清掃分担，行事予定		
		↓	・教育方針・諸規則等・質疑応答	各学級副担任			・学級委員選出		
		12:00	・学習教育目標の説明（必ず行なって下さい）				・その他ホームルーム行事		
			・自己紹介				・JABEEプログラムの説明（4，5年生のみ）		
			・その他			11:45	教科書販売		
		12:50	新入生オリエンテーション（司会：副教務主事）		視聴覚教室	↓	2～5年生・編入学生・専攻科生	各業者	第二体育館
		↓	・学生相談室紹介	学生相談室長		15:00			
		13:35	・図書館紹介	図書館長					
			・総合情報処理室紹介	総合情報処理室長					
				1年学級担任					
		13:35	・校内案内	1年学級担任	視聴覚教室				
		↓	・定期健康診断（心電図検査）	（社）日本健康倶楽部，学生主事補	保健室				
		15:25	（2クラスずつ交代で）						
		15:30	学生会各クラブ紹介	学生主事	視聴覚教室				
		↓	（新入生対象）	学生主事補					
				学生会役員					
4月7日	木	8:30	SHR			8:30	SHR（1～3年生）		
		8:50	新入生基礎学力テスト			8:50	前学期授業開始		

（出典　平成 23 年度年度当初行事予定表）

資料７－１－①－２

新入生合宿研修予定表



平　成　２　３　年　度　新　入　生　合　宿　研　修

No. 1

月日／時間	第１日　５月１１日（水）　活動内容	雨天時の活動	
6:00			
7:00			
8:00			
8:30	全員教室に集合・出欠点呼・連絡事項・健康チェック		
8:50	バスへ移動	8:50 晴天時の活動内容と同じ	
9:00	9:10 本校出発（貸切バス3台、スクールバス1台）	9:10 晴天時の活動内容と同じ	
10:00			
11:00	11:10 淡路青少年交流の家入所 ・オリエンテーション・宿泊割当・移動	11:10 晴天時の活動内容と同じ	
12:00	12:00 昼食・休憩（食事時間 11:50～12:20）	12:00 晴天時の活動内容と同じ	A 11:50～12:20
13:00	13:00 カッター訓練の組長・通信係は組座オリエンテーション室に集合	13:00 全員集合（体育館） クラス対抗 ドッジボール大会	
14:00	14:20 全員集合 （研修生はそれぞれの役割の場所に集合） （7組） カッター訓練不参加者 砂の造形作業開始		砂の造形はクラス単位もしくは10人1組で製作 事前に製作物をクラスで考えておく 大きさを指定（縦5m×横5m×高さ2m以上） カッター訓練参加不参加は事前に確認
15:00	15:15	15:00 クラス対抗 クイズ大会	
16:00	カッター訓練終了後砂浜へ移動. 休憩後、砂の造形作業へ参加.		
17:00	夕べのつどい	17:00 自由時間	
18:00	18:00 夕食（食事時間 18:00～18:30）	18:00 晴天時の活動内容と同じ	B 18:00～18:30 砂の造形の表彰式を行う。 教職員の審査結果を発表。
19:00	19:00 座禅（講堂） 80人2回　第2研修室（和室）	19:00 晴天時の活動内容と同じ	80人を2回に分けて実施。他研修室 で可能。1回1時間の座禅とする。指導員 あり
20:00			
21:00	21:30 入浴・自由研修（入浴時間 20:30～21:30）	21:30 入浴・自由研修	⑤ 20:30～21:30
22:00	22:30 就寝準備 23:00 消灯・就寝	22:30 就寝準備 23:00 消灯・就寝	

（出典　平成 23 年 4 月 4 日　教員会議資料）

資料７－１－①－３

２年生の LHR(LHR 計画表)

平成22年度前期 ２年生ホームルーム計画

クラス		M	E	S	C
回数	日付	内容	内容	内容	内容
1	4月13日	数学実力試験	数学実力試験	数学実力試験	数学実力試験
2	4月20日	今年度の目標	今年度の目標設定	今年度の目標	身だしなみについて
3	4月27日	体育祭について	体育祭に向けて	体育大会に向けて	あいさつ・礼儀について
	5月4日	みどりの日	みどりの日	みどりの日	みどりの日
4	5月11日	キャリア教育1(統一・視聴覚教室)			
5	5月18日	プロコン(統一・視聴覚教室)			
6	5月25日	人権について	交通安全について	マナーについて	人権教育について
7	6月1日	交通について	人権について	試験の心構え	マナーについて
8	6月8日	中間試験に向けて	試験に向けて	コミュニケーションについて	試験前の特別学習
	6月15日	前期中間試験	前期中間試験	前期中間試験	前期中間試験
9	6月22日	清掃について	学習自己点検	交通安全について	前期中間試験の反省と今後の対策
10	6月29日	友人について	マナーについて	国際理解について	交通安全について
11	7月6日	キャリア教育2(統一・視聴覚教室)			
12	7月13日	夏休みの過ごし方について	夏休みに向けて	夏休みの過ごし方	夏休みの過ごし方について
13	8月31日	英語実力試験	英語実力試験	英語実力試験	英語実力試験
14	9月7日	数学実力試験	数学実力試験	数学実力試験	数学実力試験
15	9月14日	前期末試験に向けて	試験に向けて	学年末試験に向けて	環境教育について
	9月21日	前期末試験	前期末試験	前期末試験	前期末試験
	9月28日	前期末試験	前期末試験	前期末試験	前期末試験

人権、交通、環境、マナー(携帯電話・インターネット等):それぞれ，年度に1回以上実施して下さい。前期に実施するか，後期に実施するかは担任の任意といたします。

平成22年度後期 ２年生ホームルーム計画

クラス		M	E	S	C
回数	日付	内容	内容	内容	内容
1	10月5日	前期の反省	前期を振り返って	前期の反省と後期の計画	後期の学習計画について
2	10月12日	体育大会に向けて	体育大会に向けて	体育大会に向けて	環境教育について
	10月19日	金曜日の授業			
3	10月26日	キャリア教育(統一・視聴覚室)			
4	11月2日	後期の目標	後期の目標設定	教室の美化について	教室の美化について
5	11月9日	マナー	環境について	人権について	喫煙が及ぼす体への影響について
6	11月16日	環境	コミュニケーションについて	健康管理について	マナーについて
	11月23日	勤労感謝の日			
7	11月30日	試験に向けて	後期中間試験の目標	後期中間試験の目標設定	後期中間試験の対策
	12月7日	後期中間試験			
8	12月14日	試験の反省	後期中間試験の反省	環境について	後期中間試験を振り返って
9	12月21日	冬休みの過ごし方について	1年を振り返って	冬休みの過ごし方	冬休みの過ごし方について
10	1月11日	数学実力試験			
11	1月18日	英語実力試験			
12	1月25日	キャリア教育(統一・視聴覚室)			
13	2月1日	一年を振り返って	今年度の反省	学年末試験に備える	今年一年を振り返って
14	2月8日	専攻科の紹介(統一・視聴覚室)			
15	2月15日	コーオプ教育紹介(統一・視聴覚室)			
	2月22日	月曜日の授業			
	3月1日	学年末試験			

人権、交通、環境、マナー(携帯電話・インターネット等):それぞれ，年度に1回以上実施して下さい。前期に実施するか，後期に実施するかは担任の任意といたします。

（出典　平成 22 年度 LHR 計画表）

資料７－１－①－４

主事・学級担任一覧表

主事・学級担任等一覧表

職名	氏名
校長	小松満男
副校長	岩佐健司

職名	氏名	教員室電話番号
教務主事	岩佐健司	7182
学生主事	多田博夫	7159
寮務主事	堀井克章	7192
専攻科長	當宮辰美	7168
地域連携・テクノセンター長	西岡守	7158
広報情報室長	坪井泰士	7147

職名	氏名	教員室電話番号
一般教科主任	錦織浩文	7119
機械工学科主任	西野精一	7196
電気電子工学科主任	中野好典	7164
制御情報工学科主任	田中達治	7109
建設システム工学科主任	島田富美男	7190

学級名		学級担任	教員室電話番号	学級副担任	教員室電話番号
一年	1組	川崎敏和	7150	宮本陽生	7275
	2組	谷中俊裕	7149	長澤智明	7208
	3組	櫛田雅弘	7148	林田栄治	7114
	4組	○高山直子	7113	今田浩之	7146
二年	M	田中広志	7126	坪井泰士	7147
	E	山田耕太郎	7127	藤居岳人	7154
	S	勝藤和子	7145	中島一	
	C	○新井修	7115	一森勇人	7117
三年	M	川畑成之	7217	原野智哉	7179
	E	○小松実	7167	三木哲志	7205
	S	田中達治	7109	一ノ瀬元喜	7180
	C	笹田修司	7193	島田富美男	7190
四年	M	松浦史法	7153		
	E	長谷川竜生	7169		
	S	○岡本浩行	7206		
	C	吉村洋	7186		
五年	M	武知英夫	7156		
	E	砂原米彦	7165		
	S	宮城勢治	7178		
	C	○湯城豊勝	7191		
専攻科	1MC	森山卓郎	7187		
	1ES	安野恵実子	7172		
	2MC	奥本良博	7160		
	2ES	中村厚信	7110		

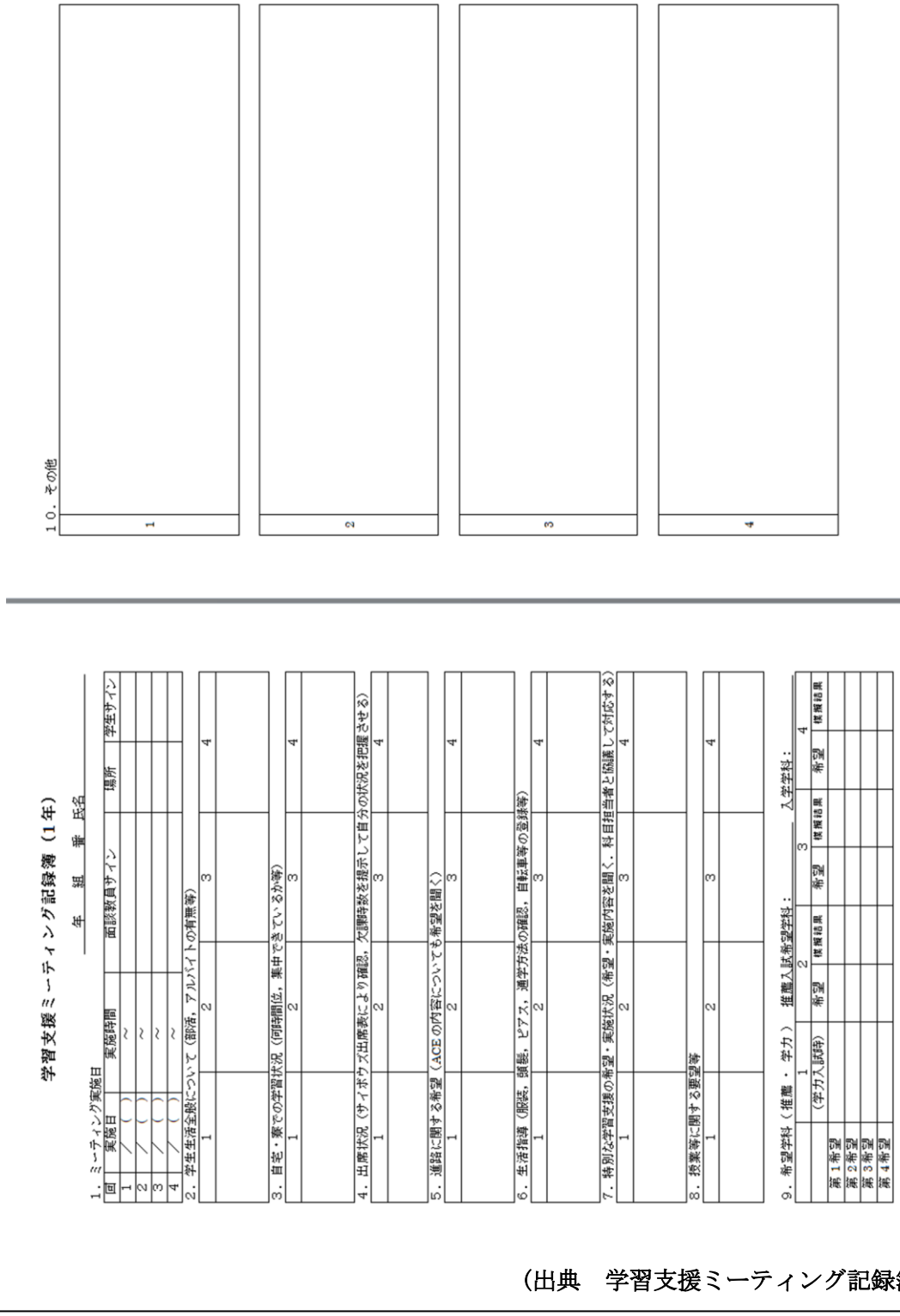
※直通電話
0884－23のあとに番号を続けて下さい。

○ 学年主任

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 P. 184）

資料７－１－①－５

本科・学習支援ミーティングのシート



学習支援ミーティング記録簿（1年）

年　組　番　氏名

1．ミーティング実施日

回	実施日	実施時間	面談教員サイン	場所	学生サイン
1	／（ ）	～			
2	／（ ）	～			
3	／（ ）	～			
4	／（ ）	～			

2．学生生活全般について（部活，アルバイトの有無等）

1	2	3	4

3．自宅・寮での学習状況（何時間位，集中できているか等）

1	2	3	4

4．出席状況（サイボウズ出席表により確認，欠課時数を提示して自分の状況を把握させる）

1	2	3	4

5．進路に関する希望（ACEの内容についても希望を聞く）

1	2	3	4

6．生活指導（服装，頭髪，ピアス，通学方法の確認，自転車等の登録等）

1	2	3	4

7．特別な学習支援の希望・実施状況（希望・実施内容を聞く．科目担当者と協議して対応する）

1	2	3	4

8．授業等に関する要望等

1	2	3	4

9．希望学科（推薦・学力）　推薦入試希望学科：　　入学学科：

	1		2		3		4	
	（学力入試時）	希望	模擬結果	希望	模擬結果	希望	模擬結果	希望	模擬結果
第１希望									
第２希望									
第３希望									
第４希望									

10．その他

1	2	3	4

（出典　学習支援ミーティング記録簿）

資料７－１－①－６

専攻科履修のてびき前半部分

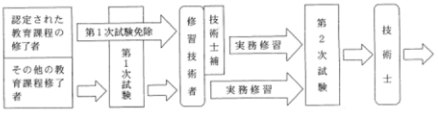
１．教育プログラムと JABEE について

現在の産業界では，今日的問題である環境問題に対する知識，技術者特有の倫理的思考及び国際的な視野に基づいた見識を有したうえで，工学の多岐にわたる分野の知識と技術とを用いて，工学の融合複合分野において独創的な技術開発を進めることのできる技術者が求められています。

本校では，国際化に対応できる上記のような技術者を育成するために「創造技術システム工学」教育プログラムを設定しました。この教育プログラムは本科４年次から専攻科２年次までの４年間が該当し，そのプログラム中の科目の履修・修得を通じて本校独自の技術者育成教育を行ないます。

この教育プログラムを国際的に認定する組織が，日本技術者教育認定機構（JABEE～Japan Accreditation Board for Engineering Education）です。JABEE は，高等教育機関で実施されている技術者教育が，社会の要求基準を満たしているかどうかを技術系学協会（学会，協会）と密に連携しながら審査し，国際的に通用する教育プログラムであるかどうかを認定する組織です。本校の「創造技術システム工学」教育プログラムは，平成 16 年度から継続して JABEE の認定を受けています。

具体的には，このプログラムを修了した学生は技術者に必要な基礎教育を完了したと見なされ，技術士になるための技術士第一次試験を免除されて直接“修習技術者”として実務修習に入ることができます。



２．本校の学習・教育目標

「創造技術システム工学」教育プログラムは，まず，機械・建設・電気電子・情報等のあらゆる工学を対象として，それらの分野に関連する専門技術や工学一般の知識を広く学び，その知識の定着をめざします。そのうえで，自己の得意分野を核としてもち，学んだ専門技術や工学知識をシステムとして幅広く有機的に活用できる方法論・実践力を養成する教育を行います。したがって，本校がめざすエンジニア像は以下のようになります。

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち，その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもったエンジニア」

このエンジニア像をめざして，以下の５項目（A）～（E）からなる技術者の育成を本校の学習・教育目標とします。また，それらを具体的に説明したものが（A）－１～（E）－３です。

（A）国際人としての教養を身につけ，人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者を養成する。

（A）－１：世界的視野から日本の文化，社会並びに他国の文化，社会を複眼的にとらえて，両者のあるべき関係について説明することができる。

（A）－２：人間社会に対する技術者としての責任を自覚し，自己の倫理観を説明することができる。

（A）－３：自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

（B）社会が要求している問題を見出し，数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

（B）－１：企業実習，工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。

（B）－２：線形代数，微分積分，微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

（B）－３：力学，電磁気学，熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

（B）－４：情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

（C）日本語で論理的に記述・討論ができ，専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ，表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

（C）－１：日本語で科学技術論文を作成することができる。

（C）－２：自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき，論理的な討論をすることができる。

（C）－３：英語による基本的なコミュニケーションができ，専門分野において英語による口頭発表ができる。

（D）継続して専門技術や知識を学習する習慣[3]を身につけ，複合的な技術開発を進められる能力[2]をもった技術者を養成する。

（D）－１：設計・システム系，情報論理系，材料バイオ系，力学系を含む工学の基礎となる学問分野について，自主的かつ継続的に学習することができる。

（D）－２：専門分野における工学的問題の解決を通じて，その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。

（D）－３：複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。

（D）－４：技術開発を進めるに際して，安全，環境について配慮すべき事柄を説明することができる。

（E）「ものづくり」を重視[3]し，技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力[1]を有する技術者を養成する。

（E）－１：与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することができる。

（E）－２：与えられた製作課題を計画的に製作できる。

（E）－３：多様な条件の下で，技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

なお，本校で定めた教育目標が，JABEE で定める基準（学習・教育目標の設定と公開）として，自立した技術者の育成を目的として，下記の(a)から(h)に示した知識・能力等を網羅しておく必要があります。この JABEE 基準と本校の教育目標との関係を表１に表しています。

JABEE 基準

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果，および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
(c) 数学，自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力
(e) 種々の科学，技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議等などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
(g) 自主的，継続的に学習できる能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力
(d)の(1)　基礎工学の知識・能力
(d)の(2a)　専門工学の知識と能力
(d)の(2b)　いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，かつ説明・説得する能力
(d)の(2c)　工学の基礎的な知識・技術を統合し，創造性を発揮して課題を探求し，組み立て，解決する能力
(d)の(2d)　（工学）技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し，適切に対応する基礎的な能力

表１　本校の学習・教育目標と JABEE 基準との対応表

学習・教育目標 ＼ 基準１の(1)の知識・能力	(a)	(b)	(c)	(d)					(e)	(f)	(g)	(h)
				(1)	(2a)	(2b)	(2c)	(2d)				
(A)	◎	◎		○				○				
(B)			◎	○			○	◎	◎			
(C)							◎			◎		○
(D)		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
(E)			○	○	○	◎	◎		◎		○	◎

（注）学習教育目標［(A)，(B)，(C)，(D)，(E)］が基準１の(1)の知識・能力［(a)～(h)］を主体的に含んでいる場合には◎印を，付随的に含んでいる場合には○印で示す。

３．履修対象者

本校の「創造技術システム工学」教育プログラムは，上述したように本科４年次から始まり，専攻科２年次で修了するまでの４年間の課程です。教育プログラムの履修者の決定は本科では行いませんが，専攻科入学者は全員コース学生としてプログラム履修者名簿に登録します。

本科５年次を卒業後そのまま専攻科に進学する場合の他に，本科５年次卒業後就職し，その後社会人選抜により専攻科に入学する場合などもあります。従って，本科５年次卒業後就職を希望する本校の本科学生も「創造技術システム工学」教育プログラムを履修する可能性があります。

また，本科５年次卒業後，大学への編入学を目指している学生は，編入学先の大学が設定する技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性があることを十分認識しておいてください。もちろん，本科５年次卒業後一旦就職し，その後大学へ編入学する場合も，同様に編入学先の大学が設定する技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性があります。

従って，本科の学生諸君はみな技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性があります。

なお，他高専・短期大学等を卒業し，本校の専攻科に入学を許可された場合についても，本校のコース学生としてプログラム履修者名簿に登録します。

４．履修について

（１）　教育プログラムの科目

本校の「創造技術システム工学」教育プログラムの科目は，表２（科目群と教育プログラム修了要件との関連表）に記載しています。なお，表２のうち本科出身学科別の表を表２－１から表２－４を示します。これらの表には教育プログラムの学習・教育目標との対応及び修得すべき知識能力について（A）～（E）の記号で表記されています。

（２）単位の認定

各科目に定められた到達目標に到達していれば JABEE 科目合格として，通常の成績簿とは異なる JABEE 成績簿に登録します。具体的には本科の JABEE 単位取得として，通常の成績簿とは異なる JABEE 成績簿に登録します。JABEE 合格は学業成績６０点以上です。

（出典　「創造技術システム工学」教育プログラム履修の手引き）

資料５－７－①－６（再掲）

学習支援ミーティング総括表

学習支援ミーティング総括表

クラス（　　）　学生名（　　）

1．ミーティング実施履歴

ミーティング日	時間	教員メンバー名	場所	学生サイン
月　日	:			
月　日	:			
月　日	:			
月　日	:			

2．特別研究の進捗状況（研究時間報告の記載状況・研究活動全般）

3．TOEIC の取り組み

ＩＰテスト結果	実施日	備考

模擬テスト結果	実施日	備考

4．自宅での学習状況（３時間の学習を学生から聞き取り）

5．出欠状況

6．進路に関する指導（本人の希望を聞く）

7．その他生活指導

8．教育支援として特別なプログラム（補習、再試験等）が必要と思われる場合にその内容を学生に通達

（出典　学習支援ミーティング資料）

資料７－１－①－７

新入生対象の図書館利用オリエンテーションの実施

【図書館利用ガイダンス　進行表】

H23.4.8 作成

１．視聴覚教室へ集合（14:30）

※1 年生は，各クラス担任が視聴覚教室へ引率

※編入生・留学生は，希望日時に図書館 2 階受付窓口に集合

２．視聴覚教室での全体説明（14:30～14:40）

■開館時間

※平常

月曜日～金曜日 …… 9:00～20:45

土曜日 …… 11:00～17:00（寮側階段の扉のみ開放）

日曜日・祝休日 …… 休館

※閉寮期間中（夏休みなどの長期休業中が該当）

月曜日～金曜日 …… 9:00～17:00

土曜日 …… 休館

■貸出冊数・期間

上限 5 冊・2 週間の貸出　※ただし休業期間中の冊数，期間は別に定める

■学習閲覧室

自学自習のための部屋。4 人掛けの大きい机があるので，共同学習に適している。

設置してある雑誌・新聞もここで自由に閲覧してよい。

新聞は過去 6 ヶ月分を書庫に保存しているので，古い号を見たい場合はカウンターへ。

■ロッカー

図書閲覧室へは，私物の持ち込みを禁止している。

筆記用具以外の持ち物（鞄等）はロッカーへ入れて，鍵を掛ける。

貴重品は身につけておく。（盗難の責任は持てない）

■飲食禁止

閲覧室内は飲食禁止。　持ち込みもしないこと。

３．図書館内での説明（14:40～15:20，各クラス 20 分程度）

雑誌閲覧室

■雑誌

図書館で購読している各種雑誌が備え付けられており，室内で閲覧できる。

新号が立てかけてあり，古い号は棚の前面を開いた中にある。

■PC 端末

学内の LAN（Local Area Network）に接続されており，インターネットが利用できる。

あくまで学習用。遊び目的で使用しない。

プリンタが設置されていないので，プリントアウトはできない。

勝手にプログラムを削除／インストールしない。

不正な使用にはペナルティも課すこともある。

※ログイン／ログオフの方法

総合情報処理室の端末と同様（PC 横に説明の紙あり）。

■カウンター

図書の貸出・返却等を受け付ける窓口。

・貸出

貸出を希望する図書に**学生証**を添えてカウンターへ。

合計 5 冊まで，2 週間の貸出。

「＊禁帯出」という赤いシールの貼ってある図書（辞典類）は貸出できない。（どうしても借りたい場合は，その日の放課後から次の日の昼休みまでの特別貸出は可能）

※雑誌も，古い号は貸出できるが，最新号は貸出できない。

（出典　図書館利用ガイダンス進行表）

（分析結果とその根拠理由）

学習を進める上でのガイダンスについて，複数の機会をとらえて実施するとともに，ロングホームルームを年間通して継続的に実施している。クラス担任制，学習支援ミーティングなど学生が相談しやすく，自主的学習を機能的に支援できるような体制を整え，機能させている。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

学生の自主学習に供している施設として，総合情報処理室・演習室，図書館，実習工場，卒論研究室，実験室等がある。また，福利厚生施設等にコミュニケーションスペースを設けている。

総合情報処理室・演習室は，校内３ヶ所に設け，各々，50台のパソコンが設置されている。同室は，専門科目に関わる自主的学習，英語e-learning等に活用されている**（資料７－１－②－１）**。利用規則のもと，学生に，昼休み時間と授業終了後17：00までの時間を開放している**（資料７－１－②－２）**。図書館には平成23年４月現在，蔵書79,000冊，雑誌256種を備えており，図書閲覧室に加え，学習閲覧室，雑誌閲覧室，AVブースを整備している**（資料７－１－②－３）**。

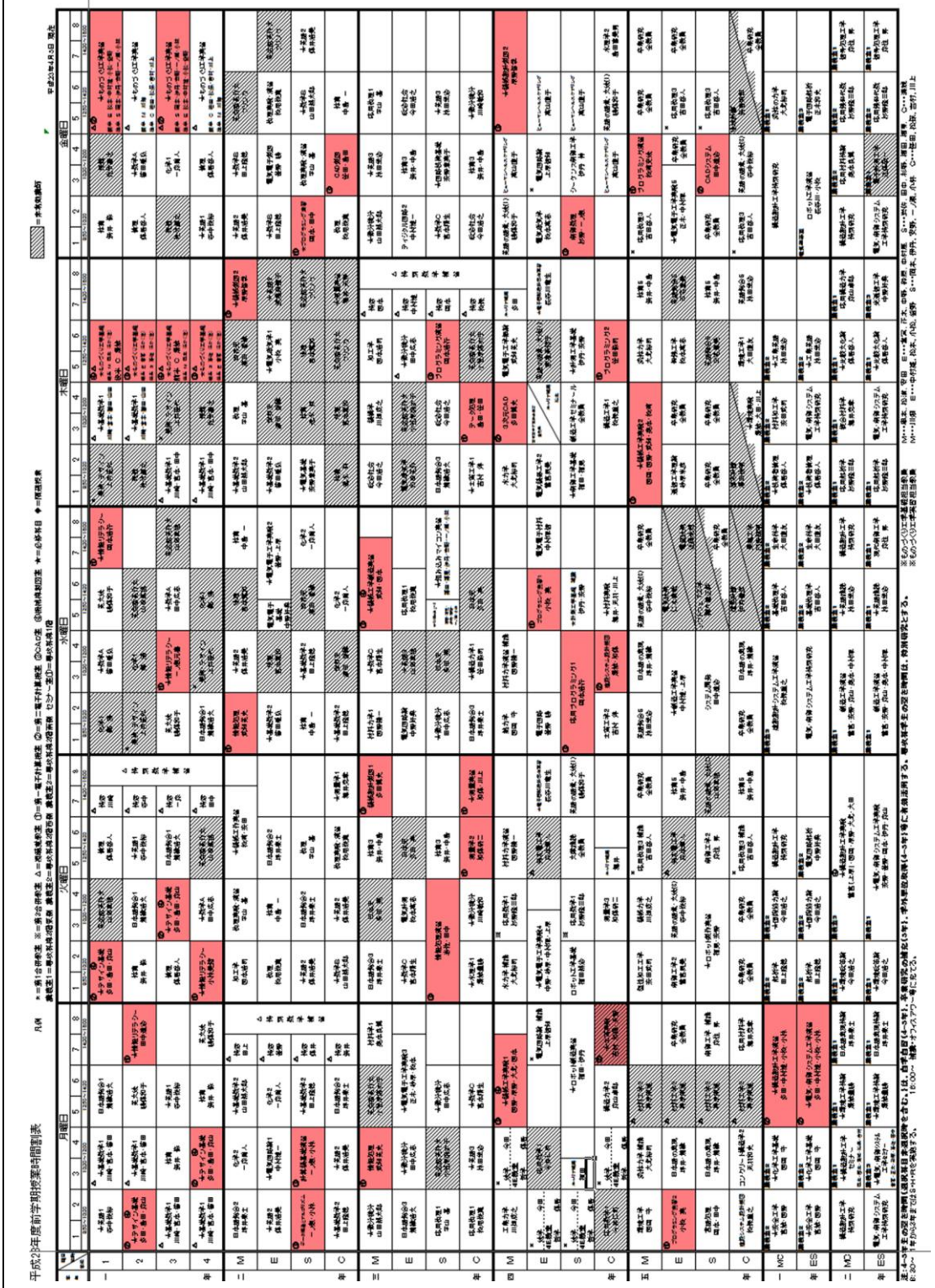
実験実習工場の利用は，指導教員または技術職員の指導下にあることを条件に，授業以外で使用を認めている**（資料７－１－②－４）**。創造テクノセンターの卒研・特研室及び実験室等は，事前に指導教員の許可を得て登録された学生は，カード式入退室により時間的制約を受けることなく使用できる**（資料７－１－②－５）**。

学生食堂，コンビニエンス・ストア等からなる福利厚生施設「高志会館」１階に，コミュニケーションスペースとしての学生休憩室を設け，歓談･飲食に供している**（資料７－１－②－６）**。他，自動販売機を２ヶ所に設置し，うち１ヶ所にベンチを併設している。

課外教育共同施設として研修所を設けている。課外活動指導教員（顧問教員）の指導の下での宿泊が可能であり，クラブ活動等に使用している**（資料７－１－②－７）**。

資料７－１－②－１

総合情報処理室の利用状況（赤色が使用時間）



（出典 平成 23 年度前学期授業時間割　平成 23 年 4 月 5 日現在）

資料７－１－②－２

総合情報処理室の利用規則

附　則

この細則は，平成20年11月１日から施行する。

附　則

この細則は，平成21年３月11日から施行し，平成20年11月１日から適用する。

総合情報処理室利用細則

（趣旨）

第１条　この細則は，阿南工業高等専門学校総合情報処理室規則第９条第２項の規定に基づき，阿南工業高等専門学校総合情報処理室（以下「総合情報処理室」という。）の利用について定めるものとする。

（利用の目的）

第２条　総合情報処理室は，教育・学術研究・本校の管理運営上必要な業務及びその他校長が適当と認めた業務のために利用するものとする。

（セキュリティポリシー）

第３条　利用者は別に定める基準により阿南工業高等専門学校セキュリティポリシー（以下「セキュリティポリシー」という。）を遵守しなければならない。

（利用者）

第４条　総合情報処理室を利用できる者は，次のとおりとする。

(1)　本校学生

(2)　本校教職員

(3)　その他校長の承認を受けた者

（利用時間）

第５条　総合情報処理室の機器を利用できる時間は，８時30分から17時までとする。ただし，次の各号に規定する日を除く。

(1)　土曜日及び日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3)　年末，年始の特別休暇の日

２　室長は，必要があると認めるときは，前項に規定する時間及び日を変更することができるものとする。

（利用の手続）

第６条　総合情報処理室演習室を利用しようとする者は，総合情報処理室演習室利用申請書（別紙様式１）を総合情報処理室に提出し，校長の承認を受けなければならない。

２　総合情報処理室が管理するネットワーク（以下「ネットワーク」という。）を使用して電子メールを利用しようとする者は，電子メール利用申請書（別紙様式２）を総合情報処理室に提出し，校長の承認を受けなければならない。

—159—

（出典　高専生活のてびき　平成22年度 P.159）

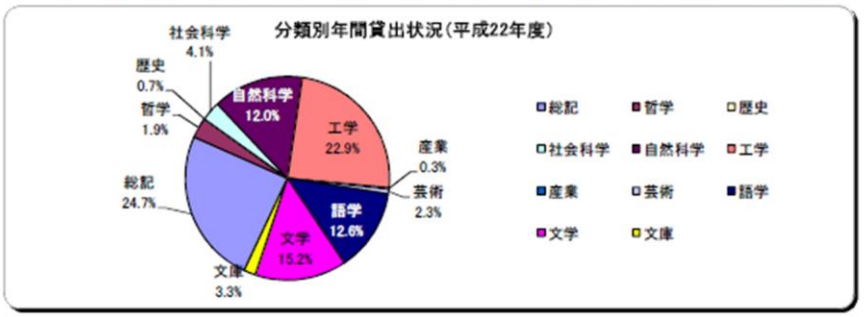
資料７－１－②－３

図書館入館者数・貸出冊数，開館時間，時間別利用者数など

別紙3

※ 図書貸出冊数集計表（分類別）（平成22年度）　（単位：冊）

		分類別 0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 工学	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	S 文庫	合計
21年 4月	学生	160	21	0	20	93	157	1	5	85	94	12	648
	教員	0	0	0	0	0	3	0	0	2	2	4	11
	事務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
	学外	6	11	1	3	4	8	2	2	0	5	2	44
	小計	166	32	1	23	97	168	3	7	87	106	18	708
5月	学生	217	8	1	22	92	164	0	18	59	107	16	704
	教員	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	事務	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	6
	学外	2	4	2	3	3	10	0	1	1	6	0	32
	小計	220	12	3	25	95	176	0	20	60	117	16	744
6月	学生	180	1	6	20	99	130	0	18	38	105	31	628
	教員	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	6
	事務	0	2	0	0	0	1	0	0	0	4	0	7
	学外	9	7	1	0	8	14	3	1	0	5	0	48
	小計	190	10	7	22	107	148	3	19	38	114	31	689
7月	学生	120	5	1	15	88	192	1	9	126	71	28	656
	教員	1	0	0	4	3	12	0	0	1	0	0	21
	事務	0	3	0	0	6	1	0	1	1	4	0	16
	学外	4	0	1	3	3	13	0	1	3	4	1	33
	小計	125	8	2	22	100	218	1	11	131	79	29	726
8月	学生	46	4	2	6	21	48	0	7	69	35	8	246
	教員	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	5
	事務	8	0	0	0	0	3	0	0	1	8	0	20
	学外	0	1	1	0	0	5	0	1	0	2	0	10
	小計	54	5	3	6	24	56	0	8	72	45	8	281
9月	学生	164	3	2	9	49	91	0	29	65	82	56	550
	教員	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	事務	4	0	3	0	0	2	0	0	0	6	2	17
	学外	1	4	2	7	1	9	0	2	2	6	1	35
	小計	172	7	7	16	51	102	0	31	67	94	59	606
10月	学生	161	5	3	19	64	174	1	13	77	100	14	631
	教員	1	2	0	4	3	8	2	0	0	0	0	20
	事務	3	4	0	0	2	3	0	0	0	9	0	21
	学外	5	0	1	1	6	7	1	1	0	6	3	31
	小計	170	11	4	24	75	192	4	14	77	115	17	703
11月	学生	156	8	2	18	46	194	3	12	138	141	13	731
	教員	8	2	1	3	4	12	0	0	0	2	0	32
	事務	5	0	0	0	1	6	0	0	0	14	0	26
	学外	0	1	0	0	2	13	3	0	1	8	0	28
	小計	169	11	3	21	53	225	6	12	139	165	13	817
12月	学生	212	12	3	19	51	126	4	16	57	120	13	633
	教員	7	1	0	3	5	4	0	0	0	0	0	20
	事務	2	0	1	0	0	3	0	0	1	14	1	22
	学外	5	8	0	2	2	9	0	1	0	3	1	31
	小計	226	21	4	24	58	142	4	17	58	137	15	706
22年 1月	学生	158	4	0	27	83	136	1	25	93	79	11	617
	教員	1	0	1	1	5	3	0	0	0	1	0	12
	事務	6	0	1	1	4	0	0	0	0	8	0	20
	学外	12	0	2	0	1	10	0	0	0	0	0	25
	小計	177	4	4	29	93	149	1	25	93	88	11	674
2月	学生	95	11	3	31	52	86	0	7	80	51	23	439
	教員	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	事務	5	0	0	11	0	0	0	0	0	8	0	24
	学外	10	3	3	1	0	1	0	0	3	0	0	21
	小計	110	14	6	43	52	88	0	8	83	59	23	486
3月	学生	101	10	5	54	108	89	1	4	54	34	13	473
	教員	4	0	0	3	1	1	1	0	2	0	0	12
	事務	4	0	1	2	5	0	0	0	0	5	0	17
	学外	3	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	8
	小計	112	11	6	59	114	93	2	4	56	40	13	510
総合計	学生	1,770	92	28	260	846	1,587	12	163	941	1,019	238	6,956
	教員	26	5	2	20	25	49	3	1	7	5	4	147
	事務	38	9	6	14	18	19	0	2	3	89	3	201
	学外	57	40	14	20	30	102	9	10	10	46	8	346
	合計	1,891	146	50	314	919	1,757	24	176	961	1,159	253	7,650
前年度計	学生	1,334	124	18	162	880	1,645	22	144	673	1,015	155	6,172
	教員	7	5	2	6	15	43	5	3	8	3	0	99
	事務	55	11	6	2	12	9	2	6	15	70	5	193
	学外	21	32	13	21	59	70	3	17	45	41	33	355
	合計	1,447	172	39	193	966	1,767	32	170	741	1,129	193	6,849



貸出動態統計　　利用者

2011年05月09日　1頁

カウンタ：図書館　～図書館　身　分：　～　対象期間：2010年04月01日　～2011年03月31日

貸出種別：　～　学　年：

	月曜日 (52回)	火曜日 (52回)	水曜日 (52回)	木曜日 (53回)	金曜日 (52回)	土曜日 (52回)	日曜日 (52回)	実数合計
- 9:00	18	17	9	20	17	0	0	81
9:00 - 9:30	9	23	5	9	14	0	0	60
9:30 - 10:00	3	15	16	16	18	0	0	68
10:00 - 10:30	13	14	18	29	33	0	0	107
10:30 - 11:00	6	19	13	19	30	1	0	88
11:00 - 11:30	17	19	7	13	12	17	0	85
11:30 - 12:00	24	35	18	19	23	2	0	121
12:00 - 12:30	50	69	51	45	66	9	0	290
12:30 - 13:00	38	69	41	37	50	13	0	248
13:00 - 13:30	15	14	19	25	19	26	0	118
13:30 - 14:00	15	13	20	19	7	15	0	89
14:00 - 14:30	42	46	23	40	39	5	0	195
14:30 - 15:00	57	47	33	46	39	12	0	234
15:00 - 15:30	52	40	37	45	39	10	0	223
15:30 - 16:00	64	39	43	44	39	18	0	247
16:00 - 16:30	71	54	50	62	41	13	0	291
16:30 - 17:00	42	46	43	34	42	29	0	236
17:00 - 17:30	34	25	36	27	25	0	0	147
17:30 - 18:00	22	29	38	25	28	0	0	142
18:00 - 18:30	30	20	21	17	37	0	0	125
18:30 - 19:00	29	20	28	22	13	0	0	112
19:00 - 19:30	19	19	23	18	16	0	0	95
19:30 - 20:00	23	24	24	16	20	0	0	107
20:00 - 20:30	23	29	21	25	14	0	0	112
20:30 - 21:00	13	18	15	10	11	0	0	67
21:00 -	0	0	0	0	0	0	0	0
実数合計	**729**	**763**	**652**	**682**	**692**	**170**	**0**	**3,688**
実数平均	**0.20**	**0.21**	**0.18**	**0.18**	**0.19**	**0.05**	**0.00**	

（出典　平成22年度_図書館利用状況報告書）

資料７－１－②－４

実験実習工場の利用のてびき

◆◇ 実験実習工場の利用についてのお願い ◇◆

2011年4月1日

①安全管理・工場管理について

◆実験実習工場利用の際には、備え付けの工場利用簿(工場入口)に、氏名・所属・使用機械等を記入、作業場・機械・工具等の使用許可を得ること。

◆工場利用者は、工場の利用、工作機械の使用状況に応じて、工場実習の経験等を考慮した安全講習を担当者より受けてから、利用及び使用を行う。

◆実験実習工場の利用時間は 17:00 までを原則とする。時間外の危険が伴う作業や機械使用は、事前に許可を得て 19:00 までを原則とする。

※平日 17:00 以降の時間外利用、土日祝祭日の利用には、指導教員から担当指導員へ相談の上、実験実習工場利用細則により技術部長(＝教務主事)の承認と実験実習工場利用願(阿南高専技術部ウエブサイト) が必要。工場キーの貸出は、教職員にのみ可能である。

◆実験実習授業以外で、工場利用の必要が生じた学生は、担当教員(卒業研究以外は、実験実習担任、学級担任、クラブ顧問など)に申し出て、使用前に予め当該教員から技術部担当者まで、口頭、電話、電子メール等で申し込む。担当教員の把握なしに学生が無断で工作機械等を使用しないこと。

※学生の実験実習工場利用を、教員及び技術職員、両方が把握し、安全と技術指導の徹底を図る為。

◆工場製作のある卒研など年間(年度)利用は、工場での製作期限を原則12月末迄とする。但し、組立調整、修正加工等は特に期限を設けない。

②機械・工具等の使用について

◆実験実習工場にある機械・工具の使用は、担当技術職員などの許可を得て、工具は工場内での使用を原則とする。持ち出しが必要な工具は、技術職員の許可を得て貸出簿(工場入口)に氏名、所属等を記入し、返却時は返却確認を職員に記入依頼し、元にあった場所へ返却する。

③作業服・安全保護具の着用等について

◆工場で、機械・工具等を使用(見学、付き添い含む)する場合は、機械使用及び手作業に関わらず作業服・帽子(CAP)の着用、足が完全に覆われた靴の着用を原則とする。

※ジャージなど柔らかい服装は不可。また、肌の露出する、短パン、スカート、タンクトップ、サンダル履きなどは、入場禁止。

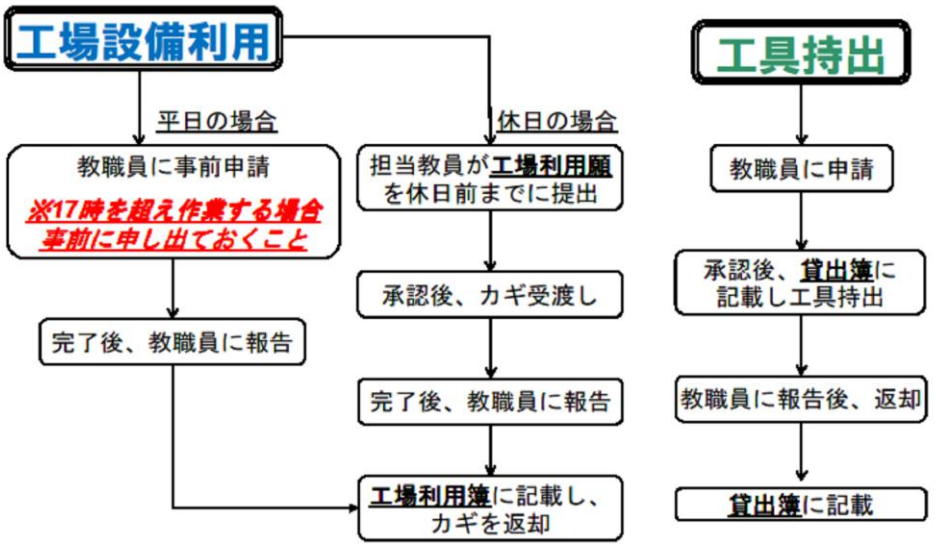
◆機械使用時、保護メガネを着用、作業によっては指定の保護具を必ず着用。機械使用時、手袋(軍手など)は着用禁止。

④全体のマナー・その他について

◆常識と技術者倫理に基づき、マナーとルールを守った安全作業を行い、整理整頓、清掃等は、「使う前より美しく」の原則で、周りへの配慮と思いやり、気遣い、感謝の気持ちを忘れない。規則とマナーを守れない方の使用は禁止する。

技術部長(教務主事)

◆◇ 工場利用に関してのフロー ◇◆



Date: 2011/4/1　阿南工業高等専門学校

（出典 実習工場利用についてのお願い・工場利用に関してのフロー）

資料７－１－②－５

テクノセンター入退室カードの Web 申請画面

各種申請書

こんにちはmusashiさん

1. IPアドレス利用申請
2. 電子メール利用申請
3. 演習室利用申請
4. 外部接続申請
5. 入退室管理カード貸出申請
   - 新規
   - 継続・変更・取消
6. メーリングリスト利用申請
7. 財務会計システム接続申請
8. ファイルサーバ利用申請
9. VPN接続申請
10. 無線アクセスポイント利用申請
11. 迷惑メール対策申請
12. 管理用

ログアウト

入退室管理カード貸出申請【新規】

総合情報処理室長殿
創造テクノセンター長殿

入退室管理カードの利用について、次の通り申請します。

申請区分		新規
申請者	氏名	
	所属	
	職名	
	電子メールアドレス	
	内線	
カードの有無		◎既に持っている（カード番号*1: ） ◎持っていない
利用施設		□第1演習室 □第2演習室 □第3演習室 プロジェクト室、卒研特研室の場合は、右欄にプロジェクト名又は卒研名を記入してください。 □プロジェクトA室 □プロジェクトB室 □プロジェクトC室 □プロジェクトD室 □卒研・特研室
利用期間		平成23年4月05日～ 平成24年3月31日
利用時間*2		0 時～ 24 時 ◉平日のみ ◎土日祭日も使用する
利用者		◎申請者と同じ ◎申請者以外（学生，企業の方等）（利用者詳細*3 ）
利用目的		◎授業 ◎その他（ ）
備考		

*1 既に磁気カードを持っている方は記入してください。
*2 プロジェクト室、卒研特研室利用のみ有効です。
*3 利用者が申請者以外の場合は必ず記入してください。（学生の場合は，所属，学年，氏名）

[注意事項]

1. 利用期間が過ぎたカードでの入退室はで出来なくなります。速やかに総合情報処理室または技術室に返却してください。
2. カードは大切に扱ってください。

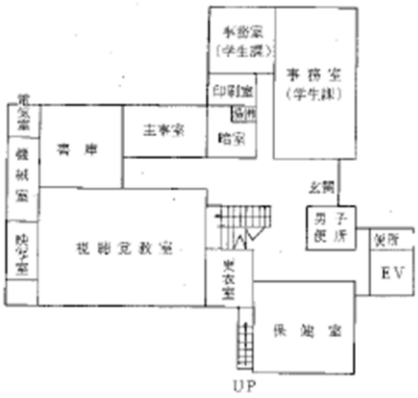
上記の内容でよろしければ「確認」ボタンを押してください。

（出典 校内 Web 申請書）

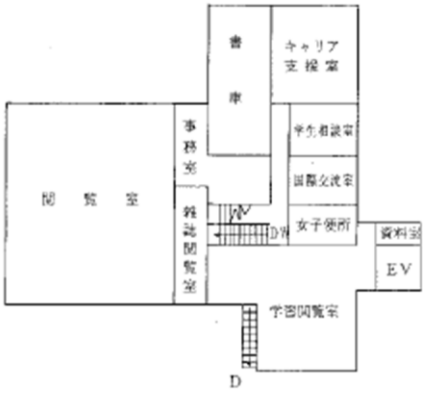
資料７－１－②－６

福利施設平面図

図書館平面図

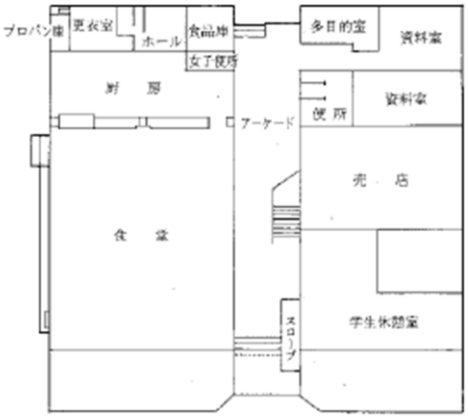


【１階平面図】

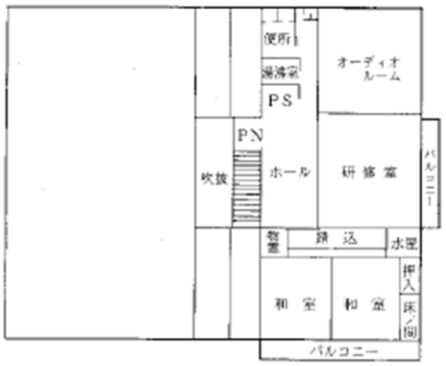


【２階平面図】

福利施設（高志会館）平面図



【１階平面図】



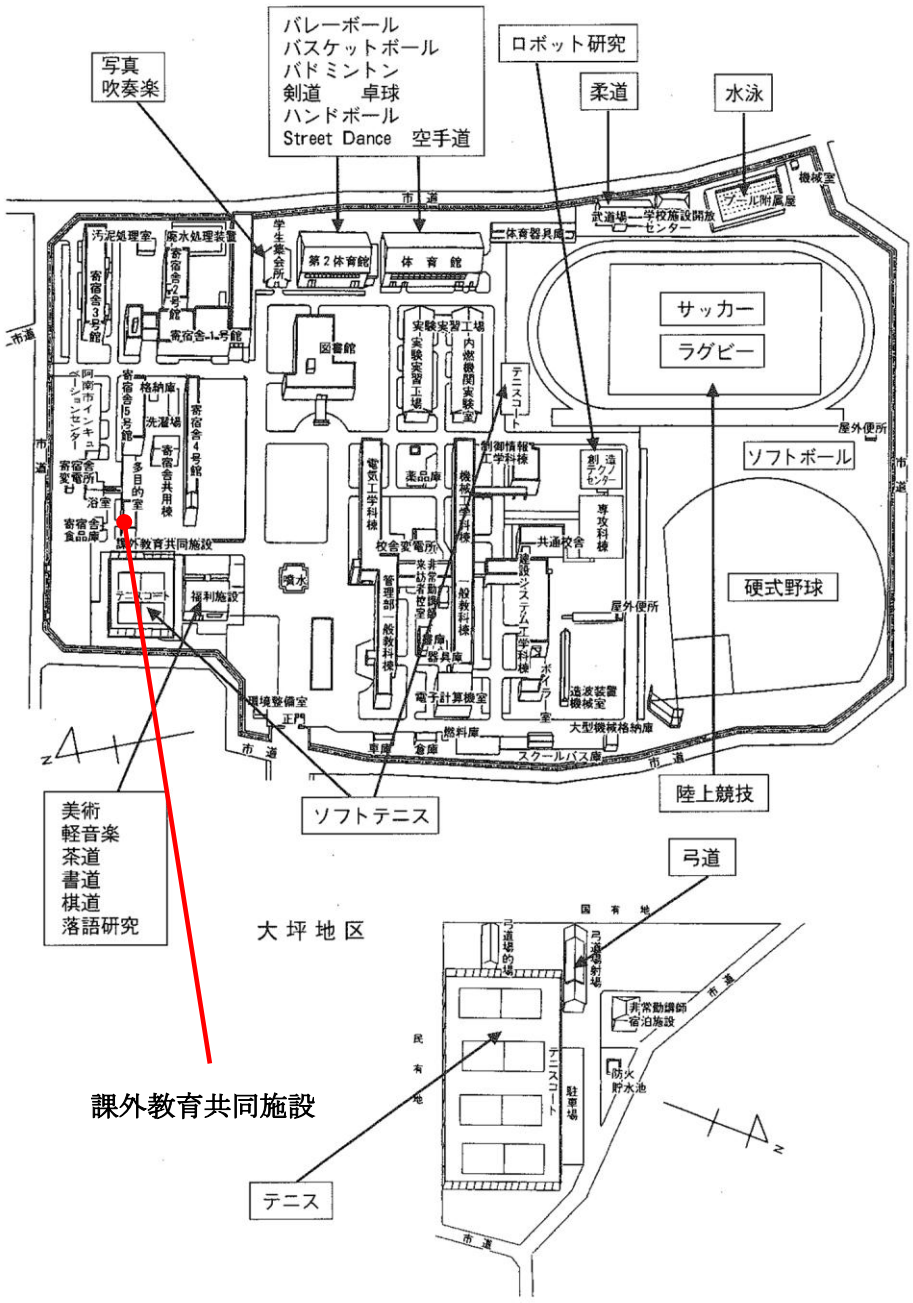
【２階平面図】

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P.199）

資料７－１－②－７

課外教育共同施設の位置

3　活動場所



（出典　高専生活のてびき　平成 23 年度 P. 55）

（分析結果とその根拠理由）

学生の自主学習，コミュニケーションのための環境として，総合情報処理室・演習室，図書館，実習工場，卒論研究室，実験室，コミュニケーションスペース，研修所等を設けており，多様なニーズに応えたこれらの施設は，各々，必要とする学生により効果的に利用されている。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学習支援に関する学生の相談･要望は，本科１～３年生，専攻科生を対象とする学習支援ミーティングにより聴取している（**前述資料７－１－①－５**）。資格・検定試験の内容･受験方法･学習方法等についての相談･要望を受け，適切に助言･支援している。本科４・５年生については，各クラスに配した担任教員が中心となり，資格･検定試験のアナウンス及び関心の高い学生への助言を行っている（**資料７－１－③－１**）。

各学科が推奨する資格試験を定め，公表している（**資料７－１－③－２**）。また，電気主任技術者試験の補習授業を行っている（**資料７－１－③－３**）。これら資格・検定試験については，外部単位として認定している（**前述資料５－１－②－14，資料７－１－③－４**）。

TOEICについては，IP試験を学内で定期的に実施している（**資料７－１－③－５**）。また，TOEIC対応のe-learning環境を整え，校内の全パソコンからアクセスできる。

アメリカ合衆国カリフォルニア州のソノマ州立大学と教育連携に関する協定を結んでいる。本校学生は，同大学で５週間の語学研修プログラムを受講し，国際経験を得ている（**前述資料５－１－②－17**）。

図書館には，学生の要望に応え，また，学生の意識喚起を目的とし，資格試験コーナーを設けている。電気主任技術者，TOEIC等に対応する図書，参考書は継続的に更新している。

学校運営上の課題・問題点を把握し，その改善に資する目的で広く意見・要望を受ける本校への意見・要望をメールで送るシステムをWebサイトで紹介している（**資料７－１－③－６**）。さらに，同じ趣旨で文書による意見・要望を投函できる高専意見箱を平成22年７月より開設した（**資料７－１－③－７**）。

資料７－１－③－１

工業英検アナウンスの例

平成 22 年 10 月 15 日

学生各位

一般教科 谷中俊裕
機械工学科 川畑成之

工業英検受験者募集

工業英語能力検定試験(工業英検)は、英語でのテクニカルライティング、テクニカルコミュニケーションについて、国内で最も認知されている公認資格です。本校でも、本校を受験会場として受験を奨励してきました。

工業英検対策の学習は、一般的な英語学習では登場しない分野の語句の習得を含んでいることも確かですが、英文での専門論文の作成や一般的な英語力の増強にもきっと役立ちます。これからも、全学の学生諸君に積極的に受験を働きかけていく予定です。

本年度の工業英検は、今後以下の要領での実施を予定しています。今回は、四国高専総合文化祭と日程が重なっています。受験できない学生も多いかと思いますが、総合文化祭に参加しない学生で関心のある学生はふるって申し込んでください。

・日時と実施級
第 85 回 2010 年 11 月 14 日(日) 4 級(9:30～10:30)・3 級(10:50～12:00)・2 級(12:20～14:00)
[集合は各級とも開始 10 分前]
＊1 級は公開会場のみの実施になります。
第 86 回 2011 年 1 月 29 日(土) 4 級・3 級
・受験料： 4 級 2,000 円、3 級 4,600 円、2 級 6,400 円
・会場： 第 1 合併教室(2S 棟)
＊4 級・3 級は全問マークシート方式です。

11 月 14 日実施の分は、校内締め切りを **10 月 22 日(金)**としています。受験希望の学生は、受験料を添えて一般教科谷中教員か機械工学科川畑教員まで申し込んで下さい。申込用紙(この案内と同じ用紙)は両教員のところと図書館の資格試験コーナーにありますが、この用紙をコピーして使ってもかまいません。

受験人数が 10 人に達しないと、学校での団体受験ができません。友達ともさそいあって、積極的に申し込んでください。低学年の学生諸君(4 級なら、1 年生からでも対応可能です)の受験も歓迎します。

工業英検対策の参考書、問題集は、本校図書館に所蔵されているものを利用することができます。また、過去問題集を機械工学科でも貸し出しているので、貸し出し希望者は、機械工学科川畑教員まで申し込んで下さい。これらには、部数に限りがあるので、自分で購入されることをお勧めします。過去問題集の他、自習解説書、単語集の見本と在庫が谷中教員のところにあります。在庫品の販売(団体受験校への特別割引で定価の 1 割引き)も可能ですし、現物を確認して購入を希望する場合は、出版社に一括注文します(一般書店の店頭では販売されていません)ので、谷中教員まで申し込んで下さい。

---------- 申し込み用紙 ----------

学校控

2010 年 11 月 14 日(日)実施の工業英検＿＿級を
受験料＿＿＿＿＿円を添えて申し込みます。

2010 年 月 日
Class No.
氏名
緊急連絡先
＊申込用紙に記入いただいた個人情報は、今回の工業英検についての緊急連絡以外には使用しません。

領収書

2010 年 11 月 14 日(日)実施の工業英検＿＿＿級の
受験料として金＿＿＿＿＿円を領収いたしました。

Class No.
氏名 殿
2010 年 月 日
阿南工業高等専門学校一般教科 谷中俊裕 印
機械工学科 川畑成之 印

（出典　学生配布資料）

資料７－１－③－２

各学科が推奨する資格試験一覧

機械工学科

機械工学科では，日々変革する機械技術に対応し，自ら技術課題を設定し解決できる機械工学の専門能力を身につけ，実践力に富み創造性豊かな機械技術者を育てることを目的としています。
目的実現のため，低学年では基礎学力を養成するとともに人間性を育て，高学年になるにつれて機械工学の専門知識と技術を教育し，機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な技術力を育成しています．また，創造性豊かなエンジニアの育成を達成するため，1学年から5学年までの実験実習系の授業でPBL(Problem-Based Learning:問題設定解決型学習プログラム)を実施しています。

本学科では，次の3項目を教育目標としています．
1. 機械工学に関する基本的な専門知識を習得し応用できる．
2. 機械設計・製図とそれに基づく実践的ものづくりができる．
3. 技術課題や実験結果を工学的に考察し，問題の発見と解決を経て，創造的な成果を生み出すことができる．

資格について

- 卒業後，一定期間の実務経験を経てから申請して得られる資格：ボイラー・タービン主任技術者
- 卒業後，一定期間の実務経験を経てから申請して得られる受験資格：昇降機検査資格者









電気電子工学科

時代にあった創造性をもつ実践的技術者を育てるために電気電子工学科では

- 電磁気現象の基礎的な知識を理解し応用できること，アナログとデジタル回路のしくみを理解し回路作りができること
- 電気電子計測器について知識を得てそれを使うことができること
- コンピュータなどを使う通信設備や電力を発生し送る設備について理解すること
- 電気，通信，情報の技術者資格試験を受けるための知識を習得すること

を目的とした教育プログラムを設けています。

資格には電力分野と情報通信分野があります。電力分野では必要な科目の単位を取得すると卒業後，一定期間の実務経験を経てから，第2種電気主任技術者，第3種電気主任技術者の資格を取得できます。また，情報通信分野では必要な科目の単位を取得すると卒業時に第1級陸上特殊無線技士，第2級陸上特殊無線技士，第2級海上特殊無線技士の資格を取得することができます。

資格について

- 卒業後，一定期間の実務経験を経てから申請して得られる資格：第2種電気主任技術者・第3種電気主任技術者
- 所定科目の単位を取得していれば，卒業時に得られる資格：第1級陸上特殊無線技士・第2級陸上特殊無線技士・第2級海上特殊無線技士

制御情報工学科

制御情報工学科では電気・電子技術をベースとしてコンピュータのハードウェアとソフトウェアの知識とその利用技術，そして機械，電気電子技術とコンピュータの統合技術であるロボットに関する知識を学びます。具体的には次の3項目を教育目標としています。

1. 情報技術を用いて調査，分析，設計およびプレゼンテーションができる
2. 電子制御情報技術者として必要な電気・電子工作，情報処理，制御工学関連の知識と技術を継続的に学習する習慣を身につける
3. 基本となる電気電子回路設計，プログラミング作成および簡単なロボット設計・製作ができる

このような教育目標を5年間で実現させるよう，綿密なカリキュラムを構成しています。

資格について

- 学習成果を生かして，在学中に合格してほしい資格試験：基本情報技術者試験・ITパスポート試験






建設システム工学科

建設システム工学科では，土木工学を中心に，環境・コンピュータ科目で知識・技術を高め，統合的な能力を磨きます。
環境に配慮しながら情報社会に対応できる建設技術者を育成します。

資格について

- 所定科目の単位を取得していれば，卒業時に得られる資格：測量士補
- 試験免除や実務期間短縮の特典が得られる受験資格：測量士，建築士・土木施工管理技士





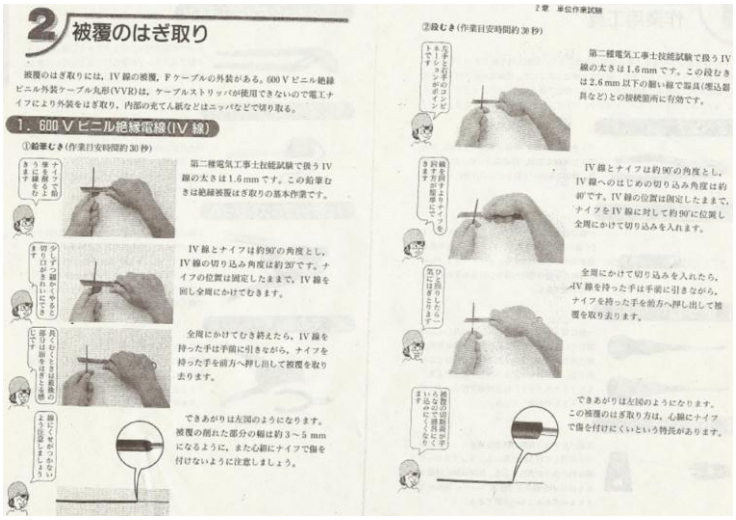


（出典　阿南高専 Web サイト　学科案内）

資料７－１－③－３

電気主任技術者試験使用一部資料





（出典　学生配布資料一部）

資料５－１－②－14（再掲）

認定される資格の種類と単位数

資格取得に係る単位認定について

○　資格試験等に合格した場合は，「学外単位」として認定することができる。
　①　単位認定できる資格の名称及び単位数は，別表のとおりとする。
　②　学外単位として認定できる単位数は５単位を上限とする。
　③　単位の認定は，合格等の証明書を学年末試験までに教務係に提出されたものについては，その年度内に認定する。ただし，履修単位には含めない。

（別表）

学科等	資格の名称	単位数	備考
学科共通	ＩＴパスポート試験	1	
	工業英語３級	1	※
	工業英語２級	3	
	Ｃ言語プログラミング能力認定試験３級	1	※
	Ｃ言語プログラミング能力認定試験２級	3	
	３次元ＣＡＤ利用技術試験２級	1	※
	３次元ＣＡＤ利用技術試験準１級	2	
	３次元ＣＡＤ利用技術試験１級	3	
	２次元ＣＡＤ利用技術者試験２級	1	※
	２次元ＣＡＤ利用技術者試験１級	2	
機械	機械設計技術者３級	2	
電気電子	第一種電気工事士試験	1	
	第二種電気主任技術者試験	2	※
	第三種電気主任技術者試験	1	
	第一級陸上無線技術士試験	2	
制御	基本情報処理技術者試験	2	
	応用情報処理技術者試験	2	

学科等	資格の名称	単位数	備考
建設システム	測量士	4	※
	測量士補	2	
	２級土木施工管理技士	1	学科試験の合格者を認定する
	２級管工事施工管理技士	1	学科試験の合格者を認定する
	２級造園施工管理技士	1	学科試験の合格者を認定する
	福祉住環境コーディネーター検定（１級）	3	※
	福祉住環境コーディネーター検定（２級）	2	
	福祉住環境コーディネーター検定（３級）	1	
	２級ビオトープ計画管理士	1	
	２級ビオトープ施工管理士	1	
	環境計量士（濃度関係，騒音・振動）	4	
	公害防止管理者（水質，大気，騒音）	2	

注　備考欄※書きは，既に資格取得により単位を認定された学生が，さらに上位の等級の資格を取得した場合は，当該上位の等級の単位数と既に認定された単位数との差を単位として認定する。（例：工業英語３級合格者（１単位認定済み）が，工業英語２級を取得した場合，３単位を２単位認定に調整する。）

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P. 25）

資料７－１－③－４

認定される資格の合格者数

平成22年度学外単位認定者数

資格名	単位数	認定者数
2次元CAD試験2級	1	18
3次元CAD試験2級	1	4
C言語認定試験2級	3	2
C言語認定試験3級	1	25
工業英語3級	1	14
ITパスポート	1	4
基本情報処理技術者	2	2
第三種電気主任技術者	1	1
合計		70

（出典　平成 22 年度資格単位取得者一覧）

資料７－１－③－５

TOEIC IPの開催日，受験者数

TOEIC IP　2010.2.9.～2011.4.13.　年５回　実施
全学希望者　　本科３年から専攻科２年まで

2009 年度				
	実施日		受験者数	
第１回	2009.4.17.		29	
第２回	2009.5.12.		59	
第３回	2009.9.8		130	
第４回	2009.11.12.		154	
第５回	2010.2.9		88	
総合計			460	
2010 年度				
第１回	2010.4.14.		20	
第２回	2010.5.11.		48	
第３回	2010.9.9		167	
第４回	2010.11.19		174	
第５回	2011.2.9.		51	
総合計			460	
2011 年度				
第１回	2011.4.13		13	

（出典 TOEIC IPの開催日，受験者数調べ）

資料５－１－②－17（再掲）

ソノマ研修の過去５年間の参加実績

学術交流[Academic Exchange]

■海外大学との交流[Exchange Programs with Overseas Universities]

平成17年2月，アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるソノマ州立大学と，教育連携に関しての覚書を締結しました。この覚書は，両校が相互理解を深め，同大学が本校の学生を受け入れ，語学研修プログラムを受講させるとともに，アメリカ企業への訪問・実地調査を含む国際経験を学ぶ機会を提供することで合意されました。これまで，この語学研修プログラムに17名の学生が受講しました。その受講者全員がソノマ州立大学で単位を取得し，その単位が本校で認定されました。

The Anan National College of Technology (ANCT) and Sonoma State University (SSU) established an agreement in 2005. This agreement provides an opportunity for mutual understanding between the schools. It also paved the way for ANCT students to study English at SSU. ANCT students receive academic credits for their studies at SSU.



ソノマ州立大学［SSU］



ソノマ州立大学留学［SSU］

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
3	2	6	4	2	2
				平成23年4月　教務係調べ	

（出典　学校要覧　平成 22 年度 P. 42）

資料７－１－③－６

阿南高専Webサイト　ご意見・ご要望窓口



（出典　阿南高専 Web サイト　ご意見・ご要望窓口）

資料７－１－③－７

「阿南高専意見箱」の開設等について

平成22年7月22日

保護者および関係者のみなさまへ

阿南工業高等専門学校長
小　松　　満　男

「阿南高専意見箱」の開設等について(お知らせ)

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご協力いただきありがとうございます。

さて，学校運営上の課題・問題点を早期に把握し，その改善に資することを目的として，この度，下記のとおり「阿南高専意見箱」を開設いたしましたのでお知らせいたします。

皆様からの率直なご意見，ご要望，ご指摘をお待ちしております。

なお，意見箱横に専用の意見書用紙を備えておりますが，様式はご自由ですので申し添えます。また，ホームページに意見書用紙様式を掲載しておりますのでご利用ください。

保護者の皆様におかれましては，郵送等にて下記問い合わせ先までお送りくださる方法も可能としておりますのでよろしくお願いいたします。

まずはご通知かたがたお願い申し上げます。

記

1　設置場所　○阿南工業高等専門学校　学生昇降口　エレベータ入口左側
　　○阿南工業高等専門学校　図書館棟　学生課前

2　意見書用紙　　別紙のとおり

3　問い合わせ先　〒774－0017　阿南市見能林町青木265
　　阿南工業高等専門学校　総務課　総務広報係
　　電話0884－23－7100

意見箱用用紙

学校運営に関する意見，要望，指摘などお書きください。

差し支えなければ，所属欄 □に✓を，教員・学生は該当に○印を付けてください。
所属欄
□　教員：一般教科・機械工学科・電気電子工学科・制御情報工学科・建設システム工学科
□　学生：1-1　1-2　1-3　1-4　2M　2E　2S　2C　3M　3E　3S　3C
　　4M　4E　4S　4C　5M　5E　5S　5C　1MC　1ES　2MC　2ES
□　技術職員
□　事務職員
□　保護者
□　その他

連絡先(電話番号)：
※　ご意見に対する回答について，連絡を希望される場合は，連絡先及びお名前をご記入ください。

※　いただきましたご意見等は学校運営上の課題・問題点を早期に把握し，その改善に資することを目的として，活用させていただきます。

（出典　阿南高専 Web サイト　「阿南高専意見箱」の開設等について）

（分析結果とその根拠理由）

学習支援に関する学生の相談･要望を継続的に聴取する体制を整え，適切に助言している。図書館の参考図書コーナー，海外大学への留学制度を設け，資格・検定試験受験についても支援している。さらに「高専意見箱」等を設置して広く学習支援等に活用できる体制を整えている。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

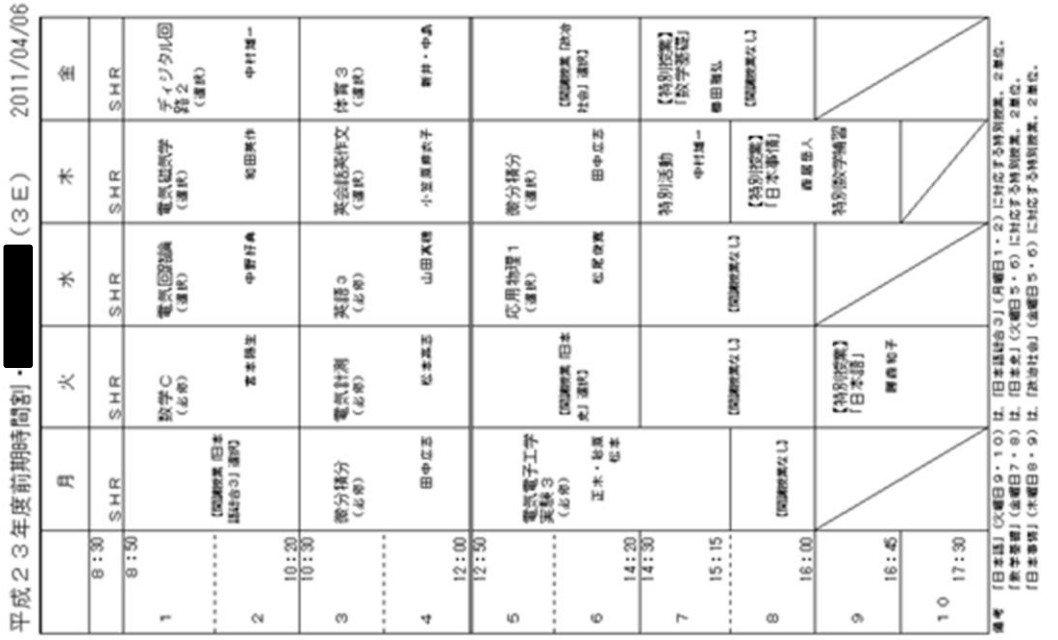
（観点に係る状況）

留学生への学習支援として，留学生特別授業を実施している。日本語，日本事情を開講し，日本語能力の向上や日本文化の理解を支援するため，特別時間割を組み，就学上の便宜を図っている（**資料７－１－④－１**）。留学生経費を利用して留学生用ＰＣを購入するなどの支援も行っている（**資料７－１－④－２**）。また，人物･成績に秀でる日本人の同級生を各留学生に個別のチューターとし，学習・生活に関する支援を行っている（**資料７－１－④－３，４**）。同チューターは寮生から選定し，学生寮の留学生居室近接の寮室に配している。

編入学生への学習支援として，編入学前に事前説明資料を配布し編入学後にスムーズに学習できる準備を行っている（**資料７－１－④－５**）。また編入学後はクラス担任による個別学習支援，ならびに同斡旋による他教員による個別学習支援を行っている。

資料７－１－④－１

留学生支援の時間割


平成２３年度前期時間割・[redacted]（３Ｅ）　2011/04/06

		月	火	水	木	金
	8:30	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR
1	8:50		数学Ｃ（必修）	電気回路論（選択）	電気磁気学（選択）	ディジタル回路２（選択）
		【関連授業 日本語および日本事情】（選択）	宮本陽至	中野利典	加田英作	中村雄一
2	10:20					
3	10:30	微分積分（必修）	電気計測（必修）	英語３（必修）	英会話英作文（選択）	体育３（選択）
4	12:00	田中広志	松本高志	山田大樹	小笠原恭子	新井・中島
5	12:50	電気電子工学実験３（必修）正木・岩瀬・松本		応用物理１（選択）	微分積分（選択）	【関連授業 日本史】（選択）
			【関連授業 日本史】（選択）	松尾俊彦	田中広志	【関連授業 政治社会】（選択）
6	14:20					
7	14:30			特別活動 中村雄一	【特別授業】「日本事情」 森原恭人	【特別授業】「数学基礎」 ■田晋弘
	15:15					
8	16:00	【関連授業なし】	【関連授業なし】	【関連授業なし】		【関連授業なし】
9	16:45		【特別授業】「日本語」	特別数学補習		
10	17:30		舞森知子			

備考　「日本語」（火曜日９・10）は、「日本語総合３」（月曜日１・２）に対応する特別授業、２単位。
「数学基礎」（金曜日７・８）は、「日本史」（火曜日５・６）に対応する特別授業、２単位。
「日本事情」（木曜日８・９）は、「政治社会」（金曜日５・６）に対応する特別授業、２単位。

平成２３年度前期時間割・[redacted]（３Ｅ）　2011/04/06

		月	火	水	木	金
	8:30	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR
1	8:50		数学Ｃ（必修）	電気回路論（選択）	電気磁気学（選択）	ディジタル回路２（選択）
		【関連授業 日本語および日本事情】（選択）	宮本陽至	中野利典	加田英作	中村雄一
2	10:20					
3	10:30	微分積分（必修）	電気計測（必修）	英語３（必修）	英会話英作文（選択）	体育３（選択）
4	12:00	田中広志	松本高志	山田大樹	小笠原恭子	新井・中島
5	12:50	電気電子工学実験３（必修）正木・岩瀬・松本		応用物理１（選択）	微分積分（選択）	【関連授業 日本史】（選択）
			【関連授業 日本史】（選択）	松尾俊彦	田中広志	【関連授業 政治社会】（選択）
6	14:20					
7	14:30			特別活動 中村雄一	【特別授業】「日本事情」 森原恭人	【特別授業】「数学基礎」 ■田晋弘
	15:15					
8	16:00	【関連授業なし】	【関連授業なし】	【関連授業なし】		【関連授業なし】
9	16:45		【特別授業】「日本語」	特別数学補習		
10	17:30		舞森知子			

備考　「日本語」（火曜日９・10）は、「日本語総合３」（月曜日１・２）に対応する特別授業、２単位。
「数学基礎」（金曜日７・８）は、「日本史」（火曜日５・６）に対応する特別授業、２単位。
「日本事情」（木曜日８・９）は、「政治社会」（金曜日５・６）に対応する特別授業、２単位。

（出典　平成 23 年 4 月教務委員会資料）

資料７－１－④－２

留学生用ＰＣの購入

購入物品（PC 関係）	金額	納品日
パソコン本体	184,960	2010/2/19
CPU	5,360	2010/2/19
HDD	21,420	2010/2/19
スーパーマルチドライブ	24,800	2010/2/19
内蔵FDD	5,340	2010/2/19
リカバリーディスク	5,340	2010/2/19
保証拡張	4,940	2010/2/19
ソフトウエア（Office 20	56,000	2010/2/19
液晶ディスプレイ	28,000	2010/2/19
メモリ	17,840	2010/2/19

（出典　平成 21 年度留学生用 PC の購入）

資料７－１－④－３

チューター一覧，チューターマニュアル

平成23年度　外国人留学生名簿

平成23年4月13日現在

（フリガナ）　氏名 ※下線部は本人申告による呼び名	性別	生年月日	国籍	身分	在学期間	学科・学年	学級担任 （上段　担任、 下段　副担任）	チューター氏名
[redacted]	男	1988 10 20	ベトナム	国費 089051	2009 4 ～ 2012 3	電気電子工学科 5年	今田 裕之	なし
	男	1989 12 21	マレイシア	マレーシア政府派遣 CDJ200708	2009 4 ～ 2012 3	機械工学科 5年	武知 英夫	なし
	男	1989 6 8	マレイシア	マレーシア政府派遣 CDJ200741	2009 4 ～ 2012 3	機械工学科 5年	武知 英夫	なし
	男	1989 8 5	ベトナム	国費 099039	2010 4 ～ 2013 3	制御情報工学科 4年	福田 耕治	大野 達也
	男	1990 4 18	モンゴル	国費 099073	2010 4 ～ 2013 3	電気電子工学科 4年	松本 高志	北　征也
	女	1990 9 18	マレイシア	マレーシア政府派遣 CDJ200819	2010 4 ～ 2013 3	電気電子工学科 4年	松本 高志	新居 若菜
	男	1991 10 16	インドネシア	国費 109016	2011 4 ～ 2014 3	電気電子工学科 3年	中村 雄一 中野 好典	奥野 晃平
	男	1991 5 26	モロッコ	国費 109123	2011 4 ～ 2014 3	制御情報工学科 3年	岡本 浩行 田中 達治	栄 誠一郎
	男	1991 2 12	マレイシア	マレーシア政府派遣 KTJ200902	2011 4 ～ 2014 3	電気電子工学科 3年	中村 雄一 中野 好典	井上 秀文
	男	1991 4 1	マレイシア	マレーシア政府派遣 KTJ200968	2011 4 ～ 2014 3	機械工学科 3年	西本 浩司 原野 智哉	牛尾 亨裕

現住所は 阿南市見能林町青木265 明正寮内

（出典　平成 23 年度外国人留学生名簿）

資料７－１－④－４

チューター実施要項，チューター報告書

阿南工業高等専門学校外国人留学生学生相談員（チューター）実施要項

（平成５年12月８日）

（要　項　第　４　号）

（目的）

第１　この要項は、阿南工業高等専門学校外国人留学生規則（以下「規則」という。）第７条の規定によるもののほか、外国人留学生学生相談員（以下「チューター」という。）制度の実施について、必要な事項を定めるものとする。

（指導対象）

第２　チューターは、入学後２年以内の外国人留学生を指導する。

（委嘱期間）

第３　規則第７条第２項に基づく委嘱の期間は、１年間とする。ただし、更新を妨げない。

（指導内容）

第４　チューターは、次の事項に基づき計画的に日本語能力や基礎学力を補足し、学習上の援助を行うとともに、日常生活上の助言を行うものとする。

(1) 一般教科

(2) 専門教科

(3) 日本語

(4) 生活相談

（チューター報告書）

第５　チューターは、毎月、チューター報告書（別紙様式）を作成し、翌月の５日までに留学生指導担当教員を経由して国際交流室長に提出し、校長に報告するものとする。

（謝金）

第６　チューターに対する謝金は、前条の規定によるチューター報告書に基づき、予算の範囲内において、３月毎に支給する。

（雑則）

第７　この要項に定めるもののほか、チューター制度の実施に関し必要な事項は、別に規定する国際交流室で処理する。

附　則

この要項は、平成５年12月８日から施行する。

附　則

この要項は、平成11年10月１日から施行し、平成11年４月１日から適用する。

附　則

この要項は、平成16年４月１日から施行する。

附　則

この要項は、平成21年４月１日から施行する。

国際交流室長	留学生指導担当教員

記　入　例

平成２３年１０月　１日

チ　ュ　ー　タ　ー　報　告　書

阿南工業高等専門学校長　殿

機械工学科　　３　年

氏　名　日本人チューターの氏名・印

平成２３年　９月分の実施状況について、下記のとおり報告いたします。

留学生　機械工学科　３　年　　組　　氏　名　留学生の氏名

※平日は原則授業終了後～就寝時間までの間で記入してください。休日は終日OK。

３０分（０．５時間単位）で記入、月合計時間数は、整数とすること。

相談日（曜）	時　　間　　帯	時　間	相　談　内　容
１　日（月）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	宿題について
３　日（水）	２１時００分　～２１時３０分	０．５　時間	製図について
５　日（金）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	実習について
８　日（月）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	提出物について
１１　日（水）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	レポートについて
１３　日（金）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	日本語について
１６　日（月）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	テストについて
１８　日（水）	２１時００分　～２１時３０分	０．５　時間	日本文化について
２１　日（金）	２１時００分　～２２時００分	１　時間	資格について
日（　）	時　分　～　時　分	時間	
日（　）	時　分　～　時　分	時間	
日（　）	時　分　～　時　分	時間	
時　間　数　合　計		８	時間

↑必ず整数。

相談内容は，次の事項に基づくチューターにふさわしい内容を

１．一般教科
２．専門教科
３．日本語
４．生活相談

（出典　チューター実施要領）

資料７－１－④－５

編入学生配布資料一部

－ 目　　次 －

１　編入学手続に関する日程表 …… １頁
２　編入学者連絡事項 …… ２頁
３　編入学手続に必要な提出書類 …… ４頁
４　編入学時所要経費 …… ４頁
５　編入学生使用教科書・諸物品一覧表 …… ６頁
　　諸物品販売業者一覧表 …… ７頁
６　入学料・授業料免除等について …… ８頁
購入・採寸リストチェック表 …… １０頁
※別添　「通学方法申告書・通学許可願」
　　「諸　証　明　書　発　行　願」

平成２３年度

編入学手続

案内資料

阿南工業高等専門学校
阿南市見能林町青木２６５番地
電話 0884-23-7130（学生課）

（出典　編入生配布資料）

（分析結果とその根拠理由）

留学生への特別授業・時間割割，チューター配置，編入学生への担任教員を中心とする個別支援体制を整備し，機能させている。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生委員会が中心となり，課外活動を支援している（**資料７－１－⑤－１**）。平成23年４月現在，クラブ（体育系:16団体，文化系10団体）と同好会（17団体）が複数顧問の指導のもと活動している（**資料７－１－⑤－２**）。クラブ顧問会議，クラブリーダー研修などを実施し，活動の活性化に努めている（**資料７－１－⑤－３**）。部室および練習場所を学内の各所に配置している（**資料７－１－⑤－４**）。なお，体育系クラブの練習においては，顧問教員が立ち会うこととしている（**資料７－１－⑤－５**）。また，学生課を中心に危機管理体制を確立し，クラブ活動時の万一の事故に備えている（**資料７－１－⑤－６**）。AEDを校内６ヶ所に設置し，使用研修を定期的に実施している（**資料７－１－⑤－７，８**）。

学生会が実施する学園祭「蒼阿祭」では，学生委員会が助言･指導等の支援を行っている（**資料７－１－⑤－９**）。なお，学生会室を設け，備品購入等の支援を行っている（**資料７－１－⑤－10**）。

後援会より，課外活動における公式大会等への旅費の一部を援助している（**資料７－１－⑤－11**）。

資料７－１－⑤－１

学生会組織図

１　学　生　会

自分たちの学生生活を自分たちの手で，より豊かで有意義なものにしていく，その活動母体が学生会であり，学生全員が会員です。顧問の先生は，皆さんの自主的な学生活動の支援にあたります。

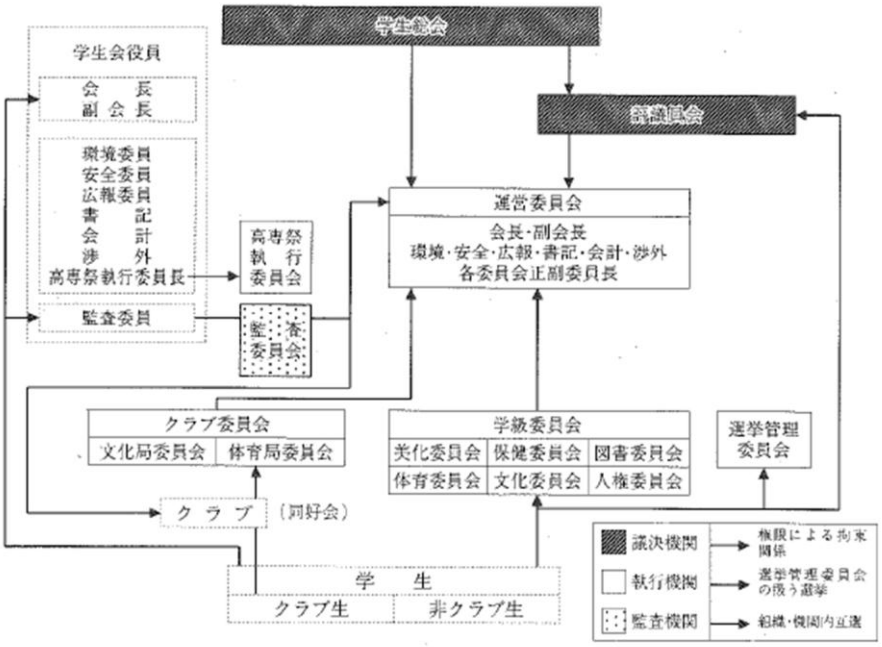
学生会には，会長，副会長をはじめとする役員が置かれ，運営の中心的役割を果たすことが期待されます。特に会長，副会長は皆さんが選挙で選びます。選挙の管理は選挙管理委員会が行います。

学生会の予算をはじめとするさまざまな課題・案件についての最高議決機関が学生会総会で，全会員で組織します。評議員会はその代行機関です。議決されたことは，役員を含む運営委員会主導で各種委員会等を通じて実施されます。

クラスの美化・保健・図書・体育・文化・人権といった委員は，各学級での活動のみならず学級委員会で学校全体を配慮した活動が求められます。また，クラブ活動に関してはクラブ委員会があります。各クラブの会計・活動監査を行うのが監査委員会です。

学生会はまた，各種の諸行事を自ら企画・実施します。高専祭の運営は高専祭執行委員会が中心となり，体育祭や球技大会に関しては体育委員会が活躍します。これらの行事では，皆さん自身の主体的で，かつ全員による組織的な参画が求められます。

学生会組織図



（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P. 47）

資料７－１－⑤－２

クラブ・同好会顧問一覧

平成23年度　クラブ顧問教員一覧表

文化局顧問	ロボット研究	棋道	ボランティア	落語研究	写真	茶道
	○川畑　成之 釜野　勝 多田　博夫 伊丹　伸	○松本　高志 伊丹　伸 岩佐　健司	○中野　好典 一森　勇人 安田　武司	○岡本　浩行 奥本　良博	○松本　高志 坪井　泰士	○藤居　岳人 大北　裕司
	書道	吹奏楽	軽音楽	演劇		
	○島田　富美男 川上　周司	○宮本　陽生 錦織　浩文	○武知　英夫	○上原　信知 西本　浩司		
体育局顧問	硬式野球	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	サッカー	ソフトテニス	テニス
	○小松　実 山田耕太郎 中島　一 堀井　克章 當宮　辰美	男○新井　修 女○多田　博夫 川上　周司 上原　信知 杉野　隆三郎	○釜野　勝 宮本　陽生 宮城　勢治 岡本　浩行 松保　重之	○一ノ瀬　元喜 川畑　成之 林田　栄治 平山　基 松尾　俊寛	○椚田　雅弘 今田　浩之 川崎　敏和 安野　恵実子	○大北　裕司 原野　智哉 砂原　米彦 安田　武司
	陸上競技	ラグビー	弓道	柔道	剣道	卓球
	○谷中　俊裕 伊丹　伸 正木　和夫 藤居　岳人	○一森　勇人 島田　富美男 田中　達治 小林　美緒	○西野　精一 坪井　泰士 錦織　浩文 吉田　岳人	○加藤　研二 吉村　洋 武知　英夫	○湯城　豊勝 笹田　修司 森山　卓郎	○西岡　守 福見　淳二 福田　耕治
	バドミントン	ハンドボール	ソフトボール			
	○西本　浩司 中村　厚信 岩佐　健司	○田中　広志 藤井　浩美 松浦　史法	○中村　雄一 田上　隆徳			
文科系同好会顧問	英語	プログラミング	美術	工作ｵｰﾃﾞｨｵ	Lego	ラジオ無線
	○林田　栄治 勝藤　和子 谷中　俊裕 藤井　浩美	○杉野　隆三郎 一ノ瀬　元喜 岡本　浩行 田中　達治	○正木　和夫 谷中　俊裕 原野　智哉	○釜野　勝 上原　信知	○安野　恵実子 福見　淳二	○松本　高志 笹田　修司
	構造デザイン	化学	ｺﾝｸﾘｰﾄ研究会	自動車	沖縄文化交流会	物理同好会
	○笹田　修司 森山　卓郎	○一森　勇人 谷中　俊裕	○堀井　克章	○宮城　勢治	○藤居　岳人	○中村　厚信
体育系同好会顧問	ﾜﾝﾀﾞｰﾌｫｰｹﾞﾙ	ｽﾄﾘｰﾄﾀﾞﾝｽ	水泳	空手		
	○奥本　良博	○勝藤　和子	○松本　高志	○中野　好典		

上記のとおり委嘱する。
任期は平成24年3月31日までとする。

平成23年4月1日
阿南工業高等専門学校長　小　松　満　男

（出典 平成 23 年度クラブ顧問教員の発令）

資料７－１－⑤－３

クラブ顧問会議議事の一部

クラブ･同好会顧問会議（１０月２３日）

学生主事

１．クラブ･同好会活動中の事故発生時の対応について（依頼）

（1）顧問の先生が対応してください

・急用等で不在の場合においてもキャプテン等に緊急連絡方法を指示願います

・学生に対し，当日の安全管理者を明確にしておいてください

（2）顧問の先生は，傷害の内容に応じた応急処置，必要に応じて保健室への搬送などをしてください

・各クラブにおいて応急処置に必要な用具を準備してください

・傷害時の応急処置方法が出来るようご準備ください

応急処置法などについて，講習会を開催予定です。（全教員対象，クラブリーダ対象）

（3）病院への搬送，医師への説明，医師からの指示の記録，関係者への連絡を実施してください

・保健室の判断で，タクシー・救急車などを手配いたします

・学生の怪我の度合いに応じ，学内に危機管理室を設置いたします

・１９時半以降の勤務に対し，超過勤務手当が支払われます

（4）事故報告書の作成をしてください（別紙　デジタルデータで提出のこと）

・災害共済給付オンライン請求を円滑に実施する為　（保健室業務が停滞している）

・事故予防，緊急対応方法に対する指導に役立てる

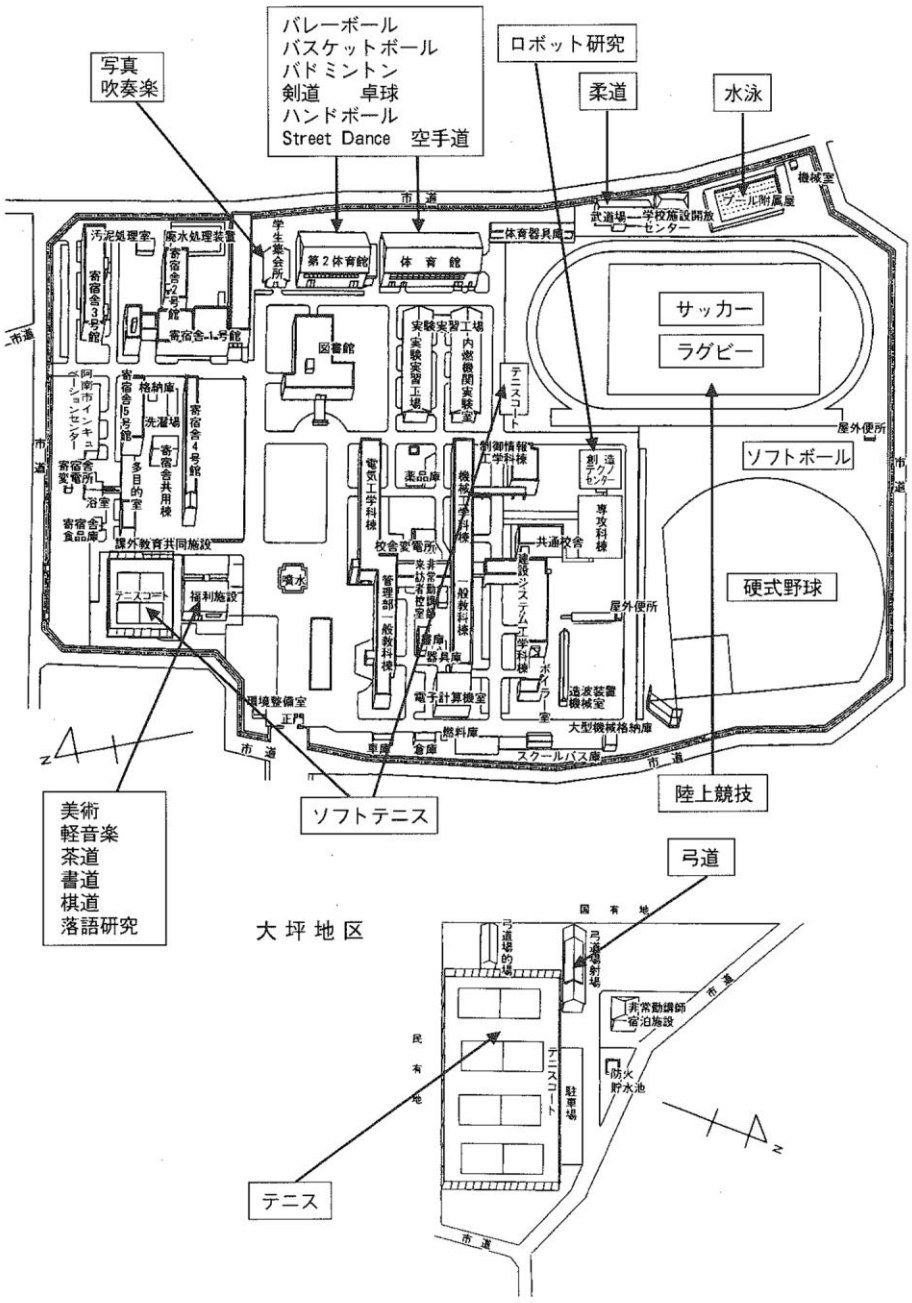
事故報告書の作成は，学生が怪我で病院を受診した場合に作成してください

（出典　平成 22 年 10 月クラブ顧問会議事録）

資料７－１－⑤－４

クラブ等活動場所の配置図

3　活動場所



（出典　高専生活のてびき　平成 23 年度 P. 55）

資料７－１－⑤－５

体育系クラブの立ち会い一覧

クラブ活動予定表　　第1体育館

4 月

日付	曜日	バスケットボール部 使用時間	担当教員	試合	バドミントン部 使用時間	担当教員	試合	剣道部 使用時間	担当教員	試合	空手道同好会 使用時間	担当教員	試合
1	金				13:00-17:00	西本	第一体育館						
2	土	9:00-13:00	岡本(1)	第1体育館									
3	日	【女子】県リーグ:開会式	宮本(1)	鳴門県民体育館									
4	月	第2体育館は物品販売等のため　4月4日(月)9:30～4月6日(水)12:00　の間は使用できません。 ※6日は撤収が終わり次第使用できます。											
5	火												
6	水												
7	木	16:10-19:00	岡本	第1体育館							17:00-19:00	中野	第一体育館
8	金	16:10-19:00	松保	第1体育館	16:30-19:00	岩佐	第一体育館	16:30-18:30	湯城	第一体育館			
9	土	9:00-13:00	松保(1)	第1体育館									
10	日	【女子】県リーグ	宮本(2)	鳴門県民体育館									
11	月	16:10-19:00	金野	第1体育館	16:30-19:00	西本	第一体育館	16:30-18:30	森山	第一体育館			
12	火	16:10-19:00	宮本	第1体育館				16:30-18:30	笹田	第一体育館	17:00-19:00	中野	第一体育館
13	水	16:10-19:00	宮城	第1体育館	16:30-19:00	中村	第一体育館	16:30-18:30	北條	第一体育館			
14	木	16:10-19:00	岡本	第1体育館							17:00-19:00	中野	第一体育館
15	金	16:10-19:00	松保	第1体育館	16:30-19:00	岩佐	第一体育館	16:30-18:30	湯城	第一体育館			
16	土	【男子】第64回徳島県高等学校バスケットボール選手権大会	釜野(1)	鴨島体育館									
17	日							会長杯県下高校剣道大会 7:00-17:00	湯城	第一体育館			
18	月	16:10-19:00	金野	第1体育館	16:30-19:00	西本	第一体育館	16:30-18:30	森山	第一体育館			
19	火	16:10-19:00	宮本	第1体育館				16:30-18:30	笹田	第一体育館	17:00-19:00	中野	第一体育館
20	水	16:10-19:00	宮城	第1体育館	16:30-19:00	中村	第一体育館	16:30-18:30	北條	第一体育館			
21	木	16:10-19:00	岡本	第1体育館							17:00-19:00	中野	第一体育館
22	金	16:10-19:00	松保	第1体育館	16:30-19:00	岩佐	第一体育館	16:30-18:30	湯城	第一体育館			
23	土	【男子】第64回徳島県高等学校バスケットボール選手権大会	釜野(2)	脇町高校									
24	日							山家旗県下剣道大会 7:00-17:00	湯城	第一体育館			
25	月	16:10-19:00	金野	第1体育館	16:30-19:00	西本	第一体育館	16:30-18:30	森山	第一体育館			
26	火	16:10-19:00	宮本	第1体育館				16:30-18:30	笹田	第一体育館	17:00-19:00	中野	第一体育館
27	水	16:10-19:00	宮城	第1体育館	16:30-19:00	中村	第一体育館	16:30-18:30	北條	第一体育館			
28	木	16:10-19:00	岡本	第1体育館							17:00-19:00	中野	第一体育館
29	金	16:10-19:00	松保	第1体育館	16:30-19:00	岩佐	第一体育館	16:30-18:30	湯城	第一体育館			
30	土	9:00-13:00	宮城(1)	第1体育館									

（出典　平成 23 年度クラブ活動予定表第１体育館）

資料７－１－⑤－６

危機管理マニュアル一部

１　危機管理の目的

（１）学生及び教職員の生命や身体を守り，安全を確保するとともに安否確認をシステム的に実施すること

（２）学生や保護者との信頼関係を保つこと

（３）学生及び教職員の心理的動揺を防ぎ，学校を安定した状態にすること

２　災害対策本部の設置

（１）災害発生時において，被害を最小限にとどめるため災害対策本部を設置する。（阿南工業高等専門学校防災規則第６条）

（２）校長は，次の場合に災害対策本部を招集し，自ら本部長となり必要な任務を指揮する。

①火災，震災，風水害及びその他の災害が発生したとき

②震災，風水害及びその他の災害に関する警報発令があったとき

③その他，災害発生のおそれがあると認めたとき

（３）災害対策本部は、本部長の指揮のもと、非常態勢を整えるとともに，危険がないと認められ又は警報が解除されるまで，火気の使用を制限するなど，適宜の措置をとるものとする。

（４）役割分担については，「災害発生時の危機管理体制（表１）」によるものとする。（災害対策本部の編成及び任務は，防災規則別表第一のとおり）

３　危機管理対策室の設置

（１）本校の管理下において生じた次の危機に対応するため，危機管理対策室を設置する。（阿南工業高等専門学校危機管理対策室設置規則第１条）

①教職員，学生が本校内において遭遇した危機

（外部の者が本校内において遭遇した場合を含む。）

②教職員が学校行事等により，本校以外の場所で職務遂行等している時に遭遇した危機

③学生が学校行事，クラブ活動等により，本校以外の場所で活動している時に遭遇した危機

④その他本校に関係する危機

上記①～③以外で，本校の管理下において本校に関係する事故等により生じた危機。

（２）危機管理対策室は，できるだけ速やかに，かつ，多方面から情報収集を行い，正確な状況把握に努めて，必要な措置を決定する。

（出典　阿南工業高等専門学校　危機管理マニュアル）

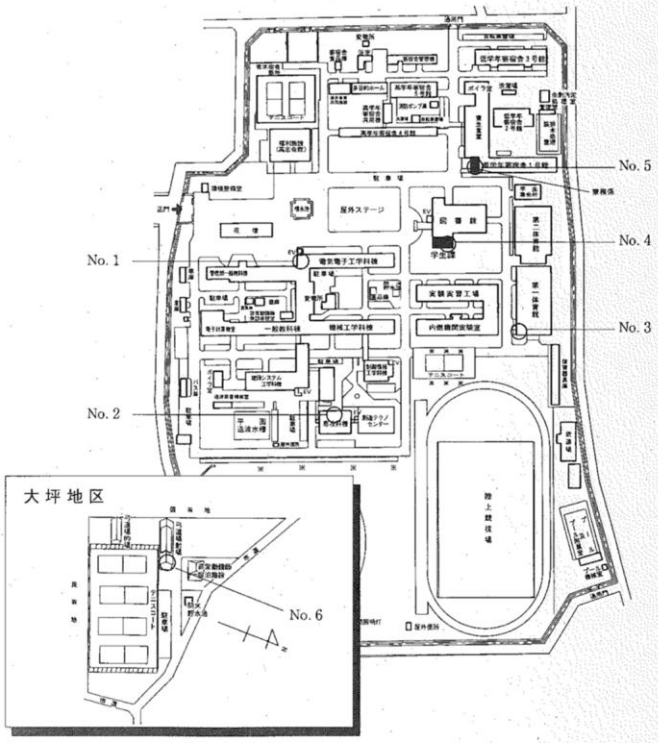
資料７－１－⑤－７

AED 設置場所，AED 研修スケジュール・参加者数

阿南工業高等専門学校「AED（自動体外式除細動器）」設置箇所一覧

No.	設置場所
1	学生昇降口玄関
2	専攻科棟玄関
3	第１体育館玄関
4	学生課事務室内
5	学寮１号館事務室内
6	ばつらつランド

＊AEDとは，電気ショックが必要な心臓の状態を判断できる心臓電気ショックの器械



—30—

平成２２年９月１４日（火）１６：１０から１７：００

創造テクノセンター棟４階マルチメディア室

参加者

各クラブの主将の学生　約２０名

学寮役員　　７名

（出典 学生係資料）

資料７－１－⑤－８

救急救命講習会開催案内



トップページ > 個人フォルダ(受信箱) > 校内メール本文

書き込み情報　その他の操作

救命救急講習への派遣について

差出人　　：学生係長(学生課) 2011/5/10(火) 12:49
最終更新者：学生係長(学生課) 2011/5/10(火) 18:18
宛先　　：宮本　陽生，林田　栄治，中村　厚信，坪井　泰士，川崎　敏和，一森　勇人，櫛田　雅弘
(84人)

教員各位

学生主事　坪井　泰士

以下の要領で救命救急講習会（ＡＥＤ操作等含む）を実施いたします。
クラブリーダー，教員，学寮役員を対象とします。受講を希望される方は，
本メールフォローへ書き込みをお願いします。
全ての申込〆切りを５月２０日（金）とします。 申込状況に応じ，教員参加者を
調整することがあります。

*****心肺蘇生法（胸骨圧迫，ＡＥＤ）講習のご案内*****

●体育局クラブリーダー，新任教員及び受講希望教職員対象
　日時：５月２６日（木）
　　１）１５：００～１５：５０（教職員，クラブリーダー（通学生））
　　２）１６：１０～１７：００（クラブリーダー（通学生））
　場所：マルチメディア室（テクノセンター４階）
　定員：各20名
　　＊学生を優先します。教職員のご希望が多い場合，後日に開く講習会への
　　ご参加をお願いすることがあります。
　　＊学寮役員であるクラブリーダーについては，学寮役員寮生対象講習を
　　受講してください。

●学寮役員寮生対象
　日時：５月２６日（木）１７：３０～１８：３０（クラブリーダー（寮生））
　場所：学寮集会室

****

クラブ顧問の先生

以下の体育系クラブ・同好会より各１名の学生を出してください。
　・男女・高低で活動が異なるクラブは，それぞれより出していただきます。
　・学寮役員と重複しての出席可能です。学寮時間で受けるようにしてください。
　　（余分に出す必要はありません。その分を教員に回します）
　・フォローに，クラブ名・クラス・氏名（・学寮役員　←学寮役員として
　　重複して参加の場合）

(1)硬式野球高学年
(2)硬式野球低学年
(3)バレーボール男子

（出典 サイボウズ校内メール）

資料７－１－⑤－９

学園祭に関する審議

●第７回学生委員会　平成２２年７月５日（月）開催

報告

（５）蒼阿祭について

委員長から、口頭により、蒼阿祭について報告があった。

●第９回学生委員会　平成２２年８月３０日（月）開催

報告

（３）蒼阿祭について

委員長から、口頭により、蒼阿祭（徳島県知事との対話「しゃべり場」）について次のとおり実施予定であることの報告があった。

実施日時：平成２２年１０月３１日（日）１０時３０分～１２時００分

●第１３回学生委員会　平成２２年１０月４日（月）開催

報告

（５）蒼阿祭について

委員長から、口頭により、蒼阿祭について報告があった。

●第１６回学生委員会　平成２２年１１月８日（月）開催

議題

（４）蒼阿祭について

委員長から、資料に基づき、蒼阿祭について説明があり、審議の結果、次のとおり承認された。

＜次年度の計画＞

○実施日：11 月 5 日，6 日（セメスタ導入に伴い、準備期間を確保するため）

○保護者懇談会と分離。学校広報の拡大。駐車場対策。

○保護者は学校へ足を運ぶ機会が増えてしまうが、それに見合う蒼阿祭に育てていく。

●第１７回学生委員会　平成２２年１１月１１日（木）開催

議題

（２）その他

■蒼阿祭と保護者懇談会の同時開催について

委員長から、資料に基づき、蒼阿祭と保護者懇談会の同時開催について説明があり、審議の結果、学生委員会における意見を運営委員会等に伝え、決定を仰ぐことが承認された。

＜学生委員会における意見＞

①　蒼阿祭の雨天時開催を考慮し、蒼阿祭と保護者懇談会は別開催が望ましい。

②　２回目の保護者懇談会は、生活指導面を考慮し、１月が望ましい。

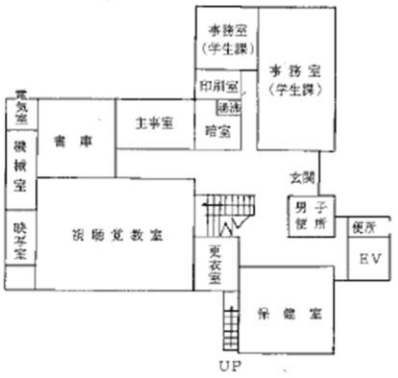
③　保護者懇談会は、後期中間試験の成績が判明した１２月が望ましい。

（出典　学園祭に関する学生委員会議事録）

資料７－１－⑤－10

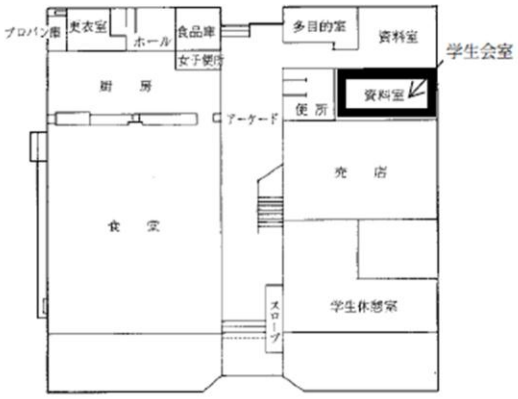
学生会室の配置図

図書館平面図



【１階平面図】

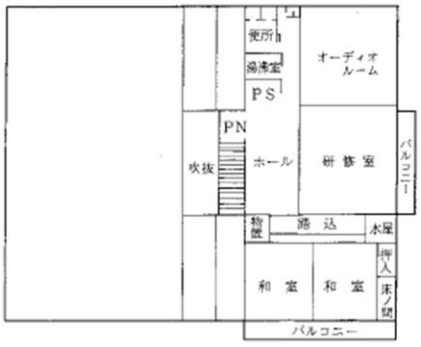
福利施設（高志会館）平面図



【１階平面図】



【２階平面図】



【２階平面図】

（出典　高専生活のてびき　平成 23 年度 P. 203）

資料７－１－⑤－11

後援会からの課外活動の公式大会参加等への旅費の援助

平成２２年度からの後援会会則第３条に規定する
学生の各種活動への補助基準について

平成21年9月8日運営委員会承認済
会長、副会長2名 、学校側:学生課長、学生課課長補

1　各種大会(高専体育大会、高専総合文化祭、高校総体、西日本大会、ﾛﾎﾞｺﾝ、ﾌﾟﾛｺﾝ、ﾃﾞｻﾞｺﾝ等)等に登録参加する学生への旅費等の補助基準は、次のとおりとする。

① 各種大会分担金、参加費及び登録費は、全額補助する。

② 交通費(経路は阿南高専旅費計算を準用する)は、会場までの往復運賃を全額補助する(到着後の移動(会場及び宿舎間)の交通費は補助しない)。
借り上げバス(原則定員の7割以上の選手及び教員等が利用する場合)料金は、全額補助する。

③ 宿泊費の補助は、つぎのとおりとする。
イ 借り上げバス利用時は、参加登録学生1名1泊あたり6，000円とする。ただし、宿泊費が6，000円に満たない場合は、その実費額とする。
ロ 借り上げバス以外の場合は、参加登録学生1名1泊あたり2，000円とする。ただし、宿泊費が2，000円に満たない場合は、その実費額とする。
ハ パック航空券に含まれる宿泊料は、全額補助する。

④ 緊急時の搬送費等は、その全額を補助する。

⑤ 激励金(四国地区高専体育大会参加登録者1名につき500円)は、平成22年度から廃止する。

⑥ 宿泊費に含まれない食事(朝食・夕食)代は、補助しない。
昼食代は、補助しない。

2　専攻科生の学会発表等に係る旅費の補助について

必要額の三分の二を補助する(上限三万円)。

3　他から給付を受ける場合は、その給付相当額を補助しない。

体育大会援助費について

後援会会則第14条第3号「体育大会援助費は、年度ごとに決定する納付額(毎年度所要額を推算して決定する。)を、毎年4月中に納付するものとする。」に基づき当該年度納付額を決定する。

（出典　平成 22 年度からの後援会会則第３条に規定する学生の各種活動への補助基準について）

（分析結果とその根拠理由）

クラブ活動への複数顧問の配置，クラブ顧問会議，クラブリーダー研修，学生会活動諸行事を学生委員会が中心になって計画的にかつ組織的に行っている。さらに，危機管理体制ならびに後援会による課外活動における公式大会等への旅費の一部助成制度を整え，運用している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活面に関わる指導・相談・助言を行うため，学生相談室を設置している。学生相談室は室長，相談室委員（各学科の教員が兼任），看護師，及び非常勤カウンセラーで構成している。非常勤カウンセラーは３名，１名は月 1 回，他２名は毎週２回来校し，カウンセリングを実施している（**資料７－２－①－１**）。本校 Web サイトに相談室の案内をしており，リーフレットを発行している（**資料７－２－①－２**）。

学生の経済面に係わる指導・相談・助言を行うため，各種奨学金（日本学生支援機構，徳島県奨学会，各市町村奨学金など）の斡旋を学生課学生係が行っている（**資料７－２－①－３**）。また，入学料及び授業料の免除制度，学生の保護者に不幸があった時等に後援会が支援する就学援助金制度を備え，担任教員を通して適宜，助言し活用している（**資料７－２－①－４**）。

指導･相談･助言のインテーカーとして全クラスに配置した担任教員を始め，副担任教員，チューター教員等が学生相談室及び学生係等と密接に連携して組織的に機能している（**資料７－２－①－５**）。これらの案内は，学生相談室については入学式の際に，学校の諸届けについては入学後のガイダンスにおいて「高専生活のてびき」を配布し，担任教員から周知を行っている（**前述資料７－１－①－１**）。このほか，各種ハラスメントに対応する体制も整えている（**資料７－２－①－６**）。

資料７－２－①－１

保健室・学生相談室の利用

1　保健室の利用

学生及び職員の健康の保持管理のために保健室があります。
具体的な仕事の内容は下記のとおりです。

① 定期及び臨時の健康診断の実施。
学校保健法に基づき，毎年４～５月にかけて定期健康診断を実施します。これらを受診しなければ証明書の発行等ができませんので，必ず受診してください。受診時には，高専生としてのマナーを遵守するよう，各自が心掛けてください。

② 急病や外傷などに対する応急処置。
しかし，薬に対する個人の体質を考慮し，内服薬の服用による重大な事故を防ぐためにも，保健室には内服薬は置いていません。持病のある方や体調の悪いときは，自分の体にあった薬を持参するようにしてください。

③ 身体的，精神的病気や悩みに対する相談。また，学生相談室の窓口にもなっていますので，気軽に利用してください。

④ 定期健康診断終了後に健康診断証明書の発行を行います。
ただし，定期健康診断を受けていなければ，健康診断証明書の発行ができませんので，必ず受診してください。

⑤ 独立行政法人日本スポーツ振興センターや学生傷害保険の事務窓口になっています。学校管理下において災害が生じたときは，速やかに学級担任（クラブ活動中は顧問教員並びに学級担任）に連絡するとともに，保健室に報告してください。

2　学生相談室の利用

(1) 学生相談室とは

本校には学生相談室があり，学校生活で生じる様々な悩みや心配事の相談に応じています。学業・将来について，対人関係について，自分自身について，家族や友人に相談しにくい問題など，どんなことでもかまいません。
相談内容の秘密は厳守されます。
学生に関することであれば，保護者の利用も可能です。

(2) 学校カウンセラーとの面談

学生相談室には，次の時間帯，学校カウンセラーが在室しています。

藤井　哲（精神科医）	第２月曜日	15:30～16:30
佐藤幸男（臨床心理士）	毎週月曜日	14:00～19:00
	毎週水曜日	14:00～19:00
荒木有貴（臨床心理士）	毎週火曜日	13:00～17:00
	毎週木曜日	13:00～17:00

学生相談室は，図書館２階（階段をあがって左方向）にあります。
入り口に「open」とあれば，カウンセラーが在室，面談可能です。ノックして入ってください。

不在の場合には入り口の表示が「closed」となっており，すでに他の人が面談している場合には「面談中」となっています。

面談の予約をすることもできます。学生相談室に直接電話するか，下に掲げる学生相談室委員にその旨を伝えてください。

学生相談室直通電話番号　０８８４－２３－７２１８

⑶　学生相談室委員

学校カウンセラーのほかに，本校には学生相談室委員がいます。

室長　錦　織　浩　文（一般教科　国語）
委員　高　山　直　子（一般教科　保健）
〃　勝　藤　和　子（一般教科　英語）
〃　奥　本　良　博（機械工学科）
〃　當　宮　辰　美（電気電子工学科）
〃　安　野　恵実子（制御情報工学科）
〃　森　山　卓　郎（建設システム工学科）
〃　青　木　久美子（看護師）

以上の学生相談室委員に相談することもできます。その場合は，教員室，もしくは保健室を訪ねてください。

（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P29）

資料７－２－①－２

学生相談室のリーフレット





（出典　阿南高専学生相談室利用案内）

資料７－２－①－３

各種奨学金説明会の案内（学生向け）

平成23年度奨学金出願説明会の開催について

学生各位

学生主事　坪井泰士

平成23年度日本学生支援機構奨学生出願説明会
及び徳島県奨学金出願説明会の開催について

このことについて，下記のとおり開催しますので，出願を希望する学生は必ず出席してください。

記

1 対 象 者　1年～5年(専攻科含む)で，新規に奨学金の出願を希望する学生
2 日　　時　平成23年4月13日(水)16時10分～
3 場　　所　図書館棟1階視聴覚教室
4 注意事項
・この説明会に出席しない者は、出願の受付を行いません。
・説明は、それぞれ20分程度で終了します。
・筆記用具を持参してください。

※ 1年生で，中学卒業時，既に予約採用されている学生及び
2年生以上で，引き続き継続して奨学金を貸与されている学生は
本説明会に出席する必要はありません。

学生課　学生係からの連絡

（出典　平成 23 年度奨学金出願願説明会の開催通知）

資料７－２－①－４

就学支援金の制度紹介



（出典　就学支援金制度紹介パンフレット）

資料７－２－①－５

担任教員の業務の一部

【その他の業務】

1　諸届・諸納付金の納入などの指導を行なう。

2　教務係、学生係、寮務係、図書・情報係、財務係と連絡の確認をする。

3　届出・願いについて
　1　該当学生に、「届出」・「願い」に関する指導を適宜行なう。
　2　届出等期限を過ぎると認められないものもあるので、厳守するよう指導する。

（1）『教務係へ提出』
　① 転科願、休学願、復学願、退学願、転学願
　② 特別欠席・欠課願、欠席・欠課・遅刻・早退届、忌引願
　③ 追試験願、再試験願
　④ 選択科目履修願、選択科目履修変更願
　⑤ 保証人変更届、保証人改姓届・保証人住所変更届・身上異動届
　⑥ 諸証明書発行願

（2）『学生係へ提出』
　① 通学等関係
　　学生宿所届、学生宿所変更届
　　バイク等通学（新規・継続・車種変更）許可願、自転車通学届
　　自動車通学許可願
　② アルバイト関係
　　アルバイト許可願
　③ 交通関係
　　交通違反（事故）届、自動二輪車運転免許取得許可願、
　　自動二輪車運転免許取得済届
　④ 日本学生支援機構奨学生及び徳島県奨学金関係
　　日本学生支援機構奨学金貸与の申請（書類配付：４月）
　　適格認定報告（２月）
　　徳島県奨学金貸与の申請（書類配付：４月）
　⑤ 授業料免除申請関係
　　授業料免除申請（書類配付：２月、７月）
　⑥ 学生会活動関係
　　施設・設備・備品使用許可願、集会・行事許可願、校外団体参加願
　　印刷物配付・販売許可願、掲示許可願、学生団体結成願
　　オーディオルーム使用許可願
　⑦ クラブ活動及び授業中のけが
　　事故届

-23-

（出典　　平成 23 年度学級担任のてびき）

資料７－２－①－６

セクシュアル・ハラスメント防止委員会規則

（平成 16 年４月１日）
（規則第７　号）

（設置）
第１条この規則は、阿南工業高等専門学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則第５条第２項の規定に基づき、阿南工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメント防止委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) セクシャルハラスメントの防止に関する事項
(2) その他セクシャルハラスメントに関する事項
（組織）
第３条委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事、学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 一般教科主任及び各学科主任
(6) 事務部長
(7) 総務課長
(8) その他校長が指名する者
（任期）
第４条前条第８号に規定する委員の任期は、１年とし、再任を防げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（議事）
第６条委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
２　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第７条委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
（部会）
第８条委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。
２　部会に関し必要な事項は、別に定める。

以下　略

（出典　阿南高専 Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

学生相談室，学生係，担任教員等が密接に連携しつつ，学生の生活・経済面に係わる指導･相談・助言等を行い，入学料等の免除制度，各種奨学金制度等を適宜，活用できる体制を整え，機能させている。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

国際交流室が中心となり，留学生の生活面での支援をしている。人物･成績に秀でる日本人の同級生を各留学生に個別のチューターとし，学習・生活に関する支援を行っている**（前述資料７－１－④－３）**。

全留学生は学生寮に居住し，留学生専用シャワーやイスラム教徒に配慮した専用補食室，留学生専用パソコンルームを設けている**（資料７－２－②－１）**。

現在，介助を要する学生はいないが，校内施設はバリアフリーを前提に整備している。エレベーター４機（本科棟２，専攻科棟１，図書館棟１）を設けるほか，身障者用トイレ，車椅子用スロープを配している**（資料７－２－②－２）**。

以前在籍していた聴覚障害学生には，ノートテイクや校内放送のメール配信等の対応を行った。

資料７－２－②－１

留学生専用設備一覧

学　寮　１　号　館　平　面　図



１号館２階　学習室・談話室の利用ルールについて

1. 利用者；留学生専用（原則）

2. 使用時間；　平日；14時00分～24時00分
　　休日；　7時00分～26時00分
　　※一般寮生が隣接しているため，騒音に注意すること

3. 持込み物品；私物を置きっぱなしにしない
　寮で許可を得た共用品（パソコン，テレビ・ＡＶ機器など）に限る
　・パソコン（学校経費購入分）
　　※２４時～２４時０５分は使用不可（メンテナンスのため）
　・ゲーム（ＰＳ３）･･･談話室のみの使用
　・テレビ
　・ＡＶ機器

4. そうじ当番（シャワー室・風呂・補食室・トイレ・洗面所も同様）；
　月単位で当番表（カレンダー利用）を作成する
　・掃除当番表は留学生で作成

5. その他の注意；
　①まわりの寮生に迷惑をかけない（騒音など）
　　・一般寮生が使用できないので，そのことを心得ること

　②テレビ，ゲームなどの持込禁止物品は自室に持ち込まない
　（１号館２階 学習室・談話室のみの使用可とする）

　③ゴミを分別する（食べ物は食堂に許可を得た分別方法で出す）
　　・補食室も掃除すること
　【分別方法】
　　もえるゴミ，もえないゴミ，ペットボトル，
　　カン・ビン，雑誌類，粗大ゴミ，
　　生ゴミ･･･ア）残食材（魚・肉の骨，リンゴ等果実の皮を除く）
　　イ）　魚・肉の骨，リンゴ等果実の皮など

１号館２階　学習室・談話室の利用ルール
（留学生）

1. **利用者**
　留学生のみ利用可能

2. **使用時間**
　平日；14時00分～24時00分
　休日；　7時00分～26時00分

3. **そうじ当番**
（シャワー室・風呂・補食室・トイレ・洗面所も同様）
・月単位で当番表（カレンダー利用）を作成
・掃除当番表は留学生で作成

4. **その他の注意**
・ゴミはきちんと分別する

上記のことが守れない場合は使用を禁止する

（出典　学寮１号館平面図、留学生談話室配置図面）

資料７－２－②－２

バリアフリー箇所



（出典　校内配置図）

（分析結果とその根拠理由）

留学生にチューター学生を配し，留学生専用シャワー等の生活設備を整えている。エレベーター・スロープを設け，校内施設のバリアフリー化を進めている。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

女子寮１棟を含む全５棟を，設置している。平成 23 年４月１日現在，423 名の寮生が生活し，学生寮収容定員を満たしている。

食堂，浴場，ＴＶ室，各階に自習室・補食室，パン・飲料水等の自動販売機，冷水器を備えている。留学生には，専用シャワー等の設備を整えている。全寮室にはエアコンを設

置し，各階に洗濯機･乾燥機を備えている。

寮祭，学外清掃活動，特別講演，防災訓練，清掃を，役員寮生を中心として寮生が主体的に行えるようにしている（**資料７－２－③－１**）。

寮日課の中に自習時間を設けて学習を促している（**資料７－２－③－２**）。

寮務主事の下，副主事１名，一般教科を含む各科より１名以上の主事補，寮務係長と寮務係員が学生の指導・支援を行っている（**資料７－２－③－３**）。一般寮生を指導・支援する寮生として，役員寮生を配し，寮関係教職員との連携のもと活動させている（**資料７－２－③－４**）。役員寮生には各月の指導報告を求め，寮生指導を共有している（**資料７－２－③－５**）。また，施設･設備の修理要望も，寮生から提出できるようにしている（**資料７－２－③－６**）。

授業日には２名の教員が宿直し，寮生の指導・支援にあたるとともに，救急対応の体制を整えている（**資料７－２－③－７**）。

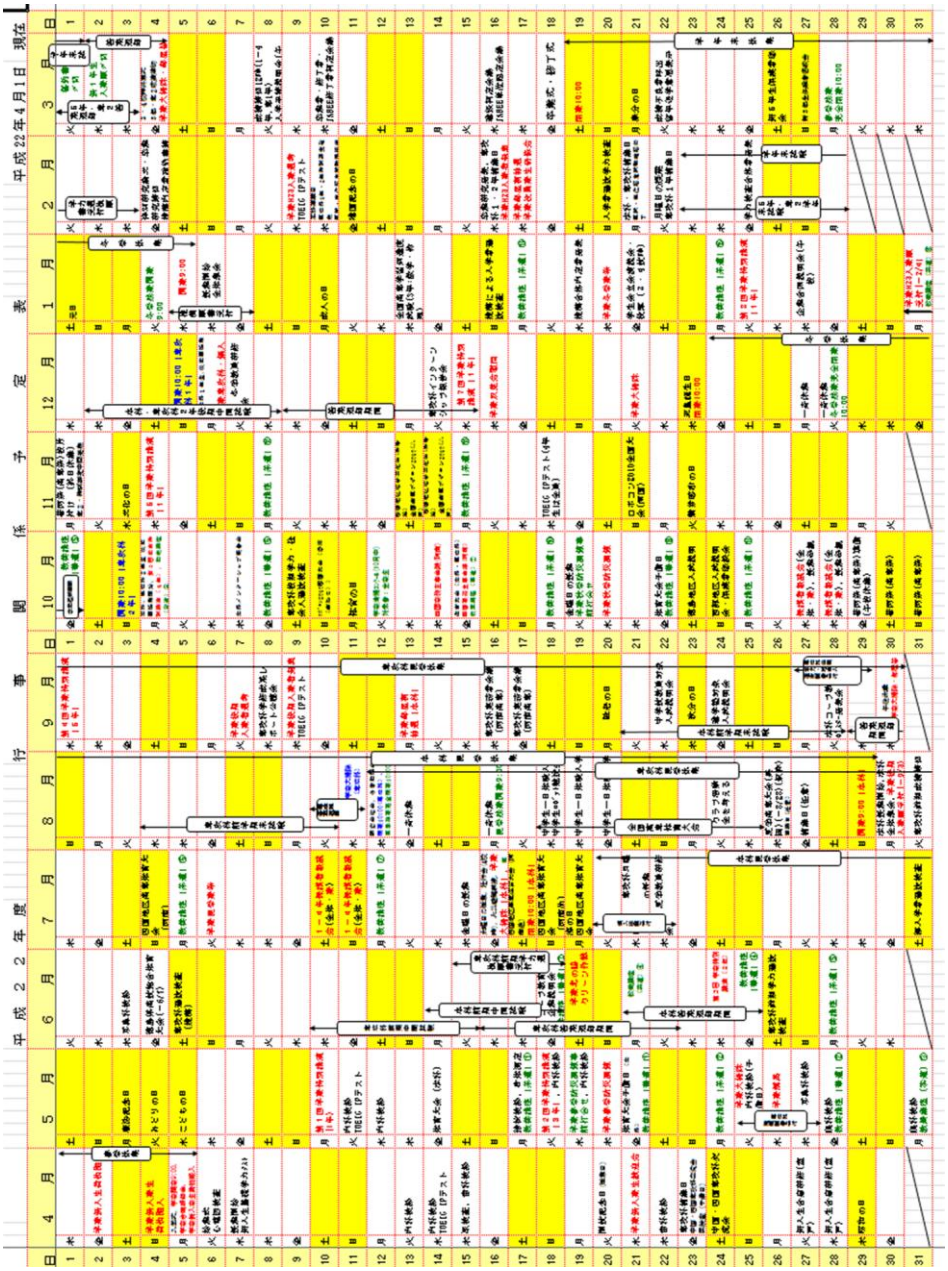
点呼（在寮確認）は，役員寮生と寮関係教職員との緊密な連携の下で実施している。平日朝，寮関係教職員が全寮室を巡回し，登校確認･指導を行い，体調不良寮生については速やかに保健室と連絡を取り，救護している（**資料７－２－③－８**）。

全寮制個別に作成した寮生指導記録により，寮関係教職員及び担任教員を中心とした全教員が連携して寮生を指導･支援できる体制を整え，活用している。寮における指導情報を校内 LAN により学科主任等と共有し，各科での指導と連携させている。

１年生と新編入学生・新留学生を対象に，月１回寮務主事補との懇談を実施している（**資料７－２－③－９**）。とくに１年生女子については，学生相談室女性カウンセラーとの懇談を行っている（**資料７－２－③－10**）。また，役員寮生の寮生指導を支援するため，役員寮生とカウンセラーとのミーティングを行っている。

資料７－２－③－１

寮年間行事予定表と寮での行事の例



平成２２年度　学寮校外清掃　計画表

内　　容	実施日	予備日
第１回 ・時間　16:10～17:00 （雨天の場合は、次週に順延） ・参加者：１Ｍ寮生、環境委員、 指導寮生、西本先生 ・清掃場所：阿南高専周辺、見能林駅と通学路	１０月７日 （木）	１０月１２日 （火）
第２回 ・時間　16:10～17:00 （雨天の場合は、次週に順延） ・参加者：１Ｅ寮生、環境委員、 指導寮生、釜野先生 ・清掃場所：阿南高専周辺、見能林駅と通学路	１０月２１日 （木）	１０月２６日 （火）
第３回 ・時間　16:10～17:00 （雨天の場合は、次週に順延） ・参加者：１Ｓ寮生、環境委員、 指導寮生、一ノ瀬先生 ・清掃場所：阿南高専周辺、見能林駅と通学路	１１月４日 （木）	１１月９日 （火）
第４回 ・時間　16:10～17:00 （雨天の場合は、次週に順延） ・参加者：１Ｃ寮生、環境委員、 指導寮生、大田先生 ・清掃場所：阿南高専周辺、見能林駅と通学路	１１月１８日 （木）	１１月２５日 （木）

平成22年度学寮特別講演実施

回	月　日	曜日	時　間	対象学年	テーマ	依頼窓口
第１回	5月9日	(月)	16:30-17:30	1	こころのプロセス	佐藤幸男　氏 （本校カウンセラー）
第２回	5月17日	(火)	16:30-17:30	3	ウミガメと蒲生田岬	新居順子　氏
第３回	6月23日	(木)	16:30-17:30	2	ものづくりの楽しさ	阿南市科学センター 館長代理　山川茂則氏
第４回	8月31日	(水)	16:10-16:55	4	就職と進学を振り返って	本校寮生
第５回	10月5日	(水)	16:30-17:30	5	しあわせな人生	社会福祉法人　徳島県自殺予防協会 理事長　　近藤治郎　氏
第６回	11月3日	(木)	20:00－21:00	1	学科紹介	本校寮生
第７回	12月14日	(水)	20:00－21:00	1	母国のこと・日本に来て感じたこと	本校留学生
第８回	1月24日	(火)	16:30-17:30	1	ものづくりの楽しさ	阿南市科学センター 館長代理　山川茂則氏

（出典　平成 22 年度 寮運営書類）

資料７－２－③－２

寮　生　日　課　表

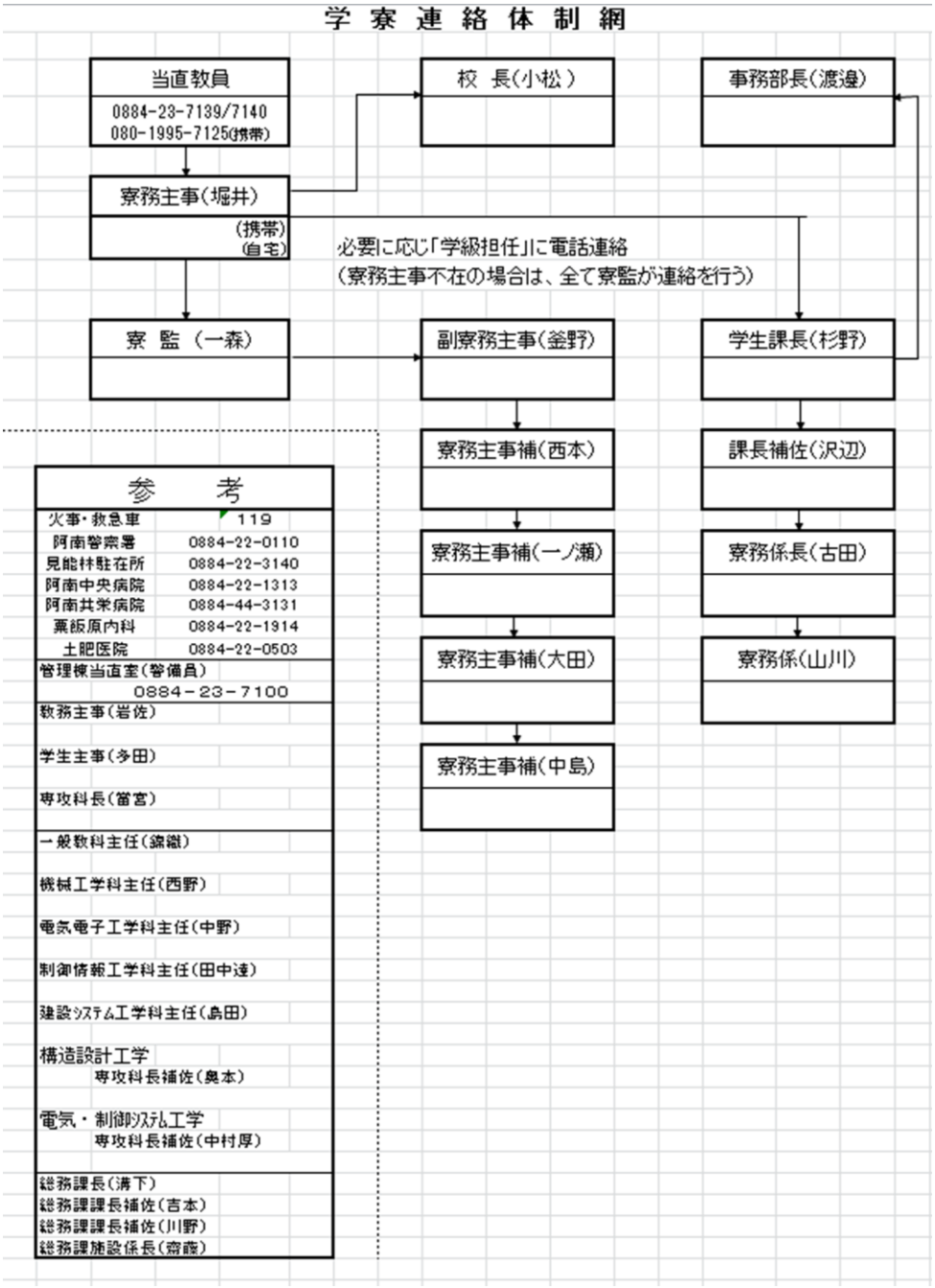
低学年		高学年	
日課	時刻	日課	時刻
起床予告		起床予告	
起床		起床	
第一点呼	7:00	第一点呼	7:00
体操		体操	
洗面・清掃		洗面・清掃	
朝食	7:05～8:10	朝食	7:05～8:10
ＳＨＲ	8:30～	ＳＨＲ（３年生のみ）	8:30～
授業	8:50～12:00		8:50～12:00
昼食	12:00～12:45	授業	12:00～12:45
授業	12:50～16:00	昼食	12:50～16:00
		授業	
入浴	17:00～20:00		17:00～21:30
夕食	17:30～20:00	入浴	17:30～20:00
門限	20:00　（平日）	夕食	
自習	20:00～21:00		20:00～21:00
休憩	21:00～21:30	自習	21:00～21:30
第二点呼	21:00	休憩	21:30
自習	21:30～22:30	第二点呼	21:30～24:00
週番会議		自習	
就寝	23:00（完全消灯）	就寝	24:00（自主消灯）

（低学年：１・２年生，高学年：３～５年生・専攻科生）
（上記時間帯は，平日のもので，学年，男子，女子によって異なるところがあります。）

（出典　寮生日課表）

資料７－２－③－３

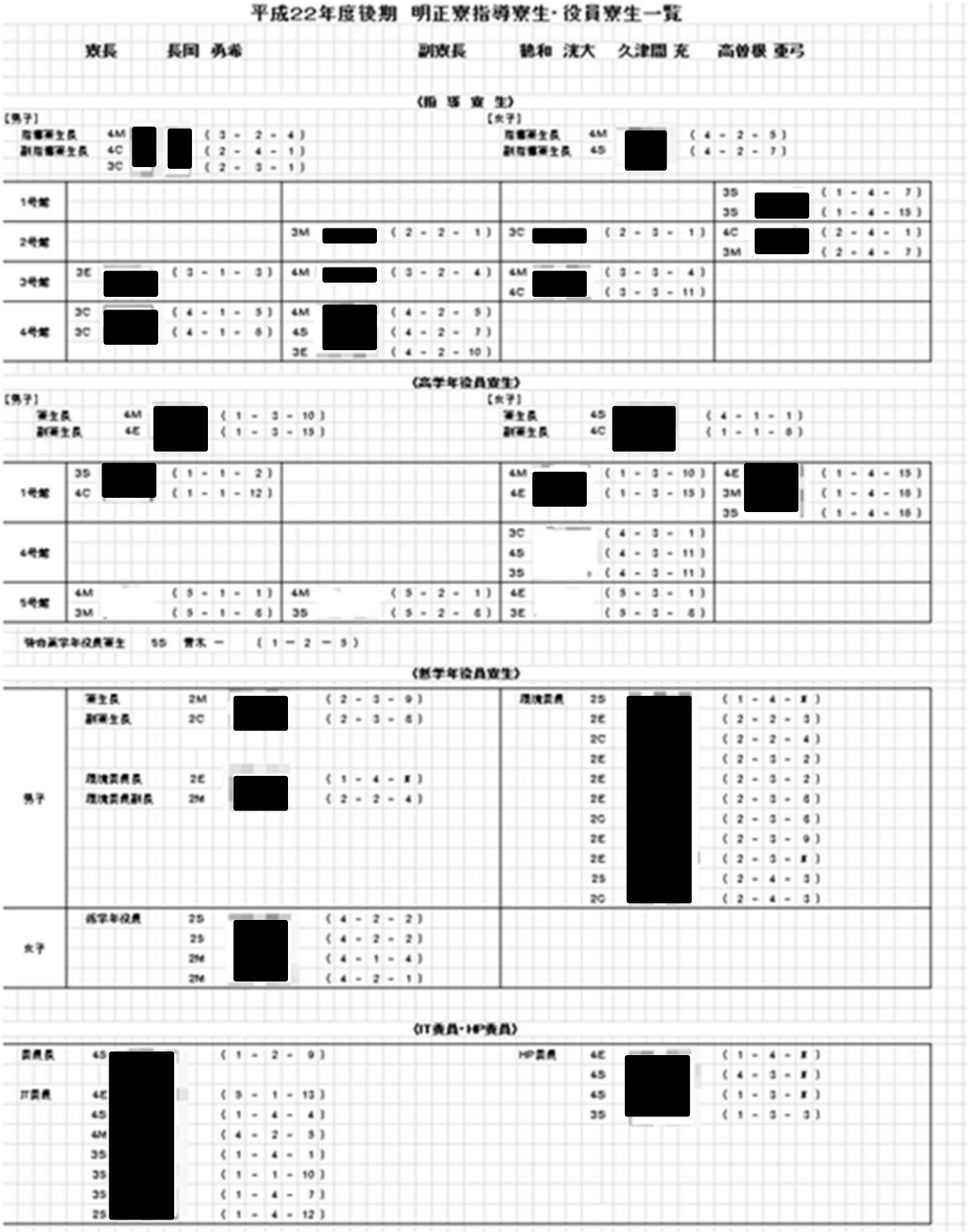
学寮連絡体制網



（出典　平成 22 年度　学寮対応マニュアル）

資料７－２－③－４

明正寮指導寮生・役員寮生一覧



（出典　明正寮指導寮生・役員寮生一覧）

資料７－２－③－５

役員寮生の月報

平成22年度 寮生活指導報告書（指導寮生・高学年男子役員寮生・女子役員寮生）（　　月）

指導階	号館　　階
指導期間	平成　年　月　日～　月　日
報告者	
報告日	平成　年　月　日

【課題点，その他の報告】

【個別指導】：減点指導のみ記録（減点にいたらないものについては，「指導寮生会議報告書」「高学年役員会議報告書」「女子役員寮生会議報告書」により報告する。）

① 役員寮生指導による「寮生指導記録」への入力は，本報告書を基に寮務主事が行う。

②「点呼遅刻」「点呼不在」は，必ず詳細を当直教員に伝える。

③「点呼遅刻」「点呼不在」については，括弧内（夜　朝）いずれかを○で囲む。

④「点呼遅刻」については，本人に遅刻であることを説明した上で，本報告書に記載する。

⑤「日課不履行」「身だしなみ」「騒音」などで減点指導を行う場合は，必ず主事・主事補が同席の下，実施する。（1回目の注意は必ず記入しておくこと。）

備考：「いじめ，暴力，窃盗，寮侵入，寮外部者の引き入れ，寮設備等の損壊等，飲酒・喫煙，ゲーム等」を記入する。

号室	クラス	寮生名	指導日	指導項目（該当項目に○印，空欄には項目記入）				備　考
				注意／－2点（注意でない場合は右肩に－2と記入）	－2点	－3点	－5点	
－　－			月　日	寮日課不履行（　）　身だしなみ 禁止物品持込（　）　騒音	（夜　朝）点呼遅刻	外泊出し忘れ	（夜　朝）点呼不在　行事不参加　時間外外出 扉の時間外開放等　無断寮泊　土足	
－　－			月　日	寮日課不履行（　）　身だしなみ 禁止物品持込（　）　騒音	（夜　朝）点呼遅刻	外泊出し忘れ	（夜　朝）点呼不在　行事不参加　時間外外出 扉の時間外開放等　無断寮泊　土足	
－　－			月　日	寮日課不履行（　）　身だしなみ 禁止物品持込（　）　騒音	（夜　朝）点呼遅刻	外泊出し忘れ	（夜　朝）点呼不在　行事不参加　時間外外出 扉の時間外開放等　無断寮泊　土足	
－　－			月　日	寮日課不履行（　）　身だしなみ 禁止物品持込（　）　騒音	（夜　朝）点呼遅刻	外泊出し忘れ	（夜　朝）点呼不在　行事不参加　時間外外出 扉の時間外開放等　無断寮泊　土足	
－　－			月　日	寮日課不履行（　）　身だしなみ 禁止物品持込（　）　騒音	（夜　朝）点呼遅刻	外泊出し忘れ	（夜　朝）点呼不在　行事不参加　時間外外出 扉の時間外開放等　無断寮泊　土足	
－　－			月　日	寮日課不履行（　）　身だしなみ 禁止物品持込（　）　騒音	（夜　朝）点呼遅刻	外泊出し忘れ	（夜　朝）点呼不在　行事不参加　時間外外出 扉の時間外開放等　無断寮泊　土足	

（出典　平成 22 年度　寮生活指導報告書）

資料７－２－③－６

学寮内設備等修繕要望手続き

学 寮 内 設 備 等 修 繕 要 望 書

平成　年　月　日

学 生 課 寮 務 係　殿

記載者
号館　階　号室
氏名

下記のとおり学寮内設備の修繕を要望します。

修繕を要する品名等

設置場所（裏面に位置図等詳細を記載のこと）

修繕内容（現在の状況を具体的に記載すること）

寮務係受付	現状確認年月日	年　月　日	修 理 概 要	修理不能確認
	業者等依頼年月日	年　月　日		
	修繕等確認年月日	年　月　日		

（出典　学寮内設備等修繕要望書）

資料７－２－③－７

救急時の学寮対応

『その時　どうする？』

－学寮対応マニュアル－

平成２２年４月１日
寮務主事　堀井克章

災害の発生から寮生の問題行動，そして備品の修理依頼まで当直教員には様々な対応が必要です。
それらの対応の基本となるものを，以下に掲げます。
なお，ご不明な点については主事宛，お問い合わせください。

Ａ：①**「寮生報告書」「被害届」**等は，寮事務室西壁下段の透明キャビネット内にあります。
②**「特別外泊願」「学寮内設備等修繕要望書」「自転車使用届」「行事出席簿」**は，寮事務室カウンター上の透明キャビネット内にあります。
③**「通学生入室記録簿」「時間外入室記録簿」「荷物受領簿」「書留受領簿」「物品・鍵貸出簿」「ドア解錠簿」「貴重品ボックスキー貸出簿」「アイロン貸出簿」**は，寮事務室カウンター上にあります。
④**「非常用持出ファイル」「学寮対応マニュアル」「寮生活のしおり」「帰寮に関する電話連絡簿」「没収品管理簿」**は，主事机上にあります。
⑤**「当直日誌」「検食日誌」「学生写真」**は，主事机隣席机上にあります。
⑥**「学寮指導・巡回簿」**は，主事机隣席机上（文書箱）にあります。
⑦**「身上報告書」**は寮事務室西側の上段キャビネット内にあります。
⑧**寮生宛荷物**は，寮事務室東壁下のラック内・同付近もしくは同室隣室にあります。
⑨**寮生宛郵便**は，寮事務室入口左のラック内（男子用）もしくは，寮事務室東壁下のラック内（女子用）にあります。ただし，書留等は金庫内にあります。
⑩**「週番日誌」**は，寮事務室隣室のロッカー上のラックにあります。
⑪**寮生供与物品**は，寮事務室・１号館１階面談室（旧売店），２号館１階等にあります。本マニュアルにより，対応してください。

Ｂ：［寮生報告書］執筆指導等の**寮生指導は最長でも24時まで**とします（提出された「寮生報告書」は，寮務係員机上に整理）。２４時には就寝を指導し，指導時間不足の場合には明朝朝食後に指導してください。なお，食事等の時間確保に配慮してください。

Ｃ：緊急対応時においても，**寮事務室・宿直室は必ず施錠するか，教員もしくは複数の役員寮生の在室**をお願いします。

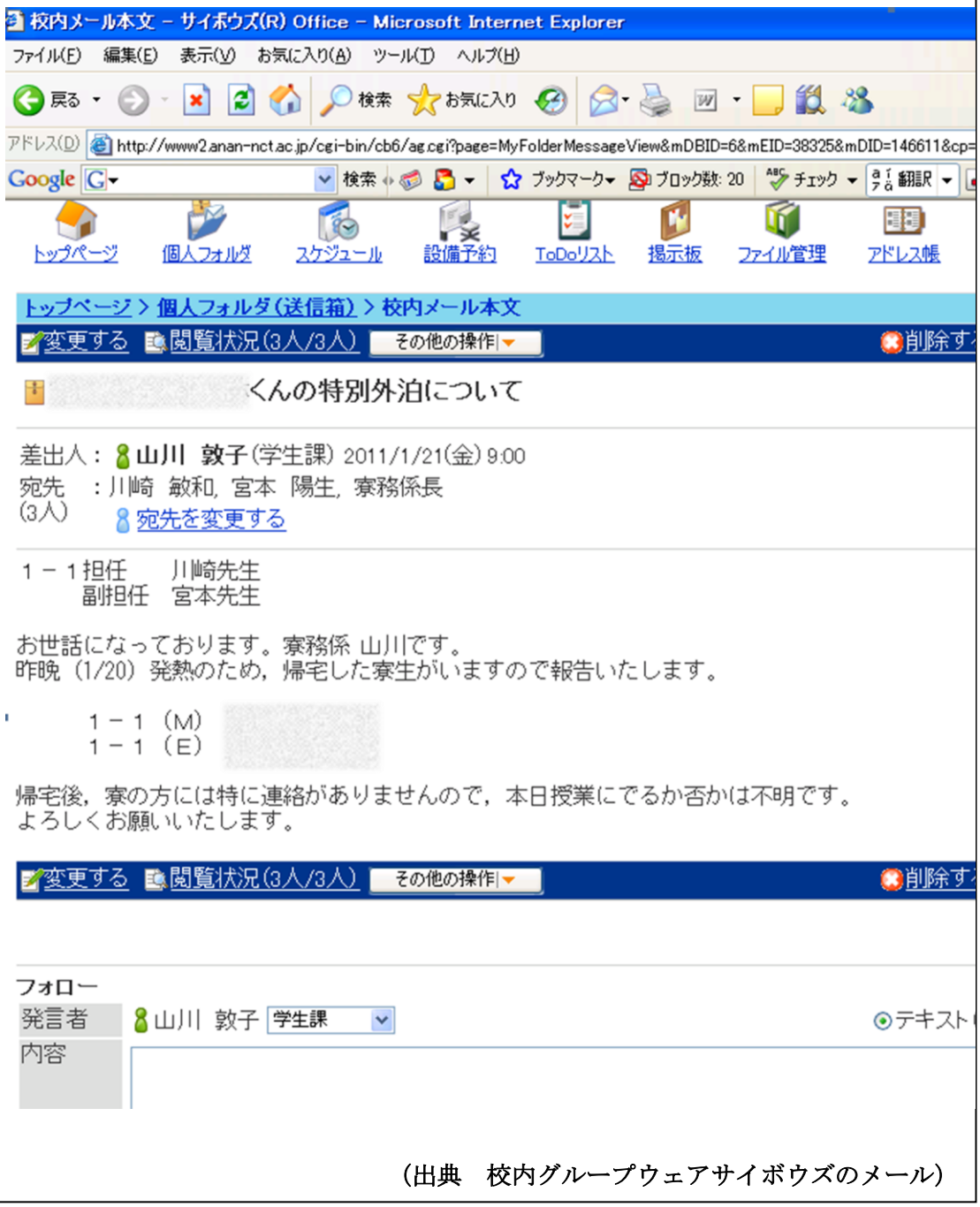
Ｄ：**対応時には，マスターキー・寮携帯電話（主事机上）を携行**してください。
☆いかなる場合でも，マスターキーは学生に貸与しないでください。
また，マスターキーの紛失のないよう留意してください。すべての寮室ドアノブを交換等のため多額の費用が必要となります。

Ｅ：**緊急に避難等する場合等は，以下のものを携行**してください。
①**非常用持ち出しファイル**（主事机上）
②**マスターキー**（金庫内／金庫鍵は主事机隣席机上の手提げ金庫内）
③**寮携帯電話**（主事机上）

（出典　学寮対応マニュアル）

資料７－２－③－８

担任への連絡メールの例



（出典　校内グループウェアサイボウズのメール）

資料７－２－③－９

新入寮生と主事補との面談

平成22年度　1年寮生等懇談記録＋寮生支援情報　　学科 → 寮　（　～　月　）

学科主任	先生
寮務主事補	

期間　月　日 ～ 月　日

Ｉ 主事補は，所属科寮生に関わる以下の記録を，実施後すみやかに寮監までメール添付にて提出する。
①寮務主事補・チューター教員と1年寮生との懇談（2～3ヶ月1回：個別懇談）結果
②教室会議での1年寮生支援情報等のうち，寮での指導に参考となること（生活行動，学習態度，成績など）
③2年以上についての①②の寮生支援情報
＊懇談内容・支援情報は概要とし，連携指導が必要な場合は担任・各科主任・寮監と協議し対応する。

クラス	NO.	組	氏　名	懇談日	懇談者	懇談内容・支援情報
1		1				
1		2				
1		3				
1		4				
1		5				
1		6				
1		7				
1		8				
1		9				
1		10				
1		11				
1		12				
1		13				
1		14				
1		15				
1		16				
1		17				
1		18				
1		19				
1		20				
1		21				
1		22				
1		23				
1		24				
1		25				
1		26				
1		27				
1		28				
1		29				
1		30				
1		31				
1		32				
1		33				
1		34				
1		35				
1		36				
1		37				
1		38				
1		39				
1		40				

［2年生以上の寮生について］

クラス	NO.	氏　名	寮生支援情報

（出典　平成 22 年度　１年寮生等懇談記録＋寮生支援情報）

資料７－２－③－10

１年生女子と学生相談室女性カウンセラーとの懇談

クラス	氏名	面談予定日時	面談実施日時	確認（西本）
1E	[redacted]	6月17日(木)　15:00 ～	6月17日(木)15:00～15:20	済み
1S		6月17日(木)　15:30 ～	6月17日(木)15:20～15:40	済み
1S		6月 1日(火)　15:00 ～	6月1日(火)15:00～15:15	済み
1S		6月 1日(火)　14:30 ～	6月1日(火)14:30～14:45	済み
1C		6月 8日(火)　15:30 ～	6月8日(火)15:10～15:30	済み
1C		6月22日(火)　15:30 ～	6月22日(火)15:20～15:40	済み
1C		6月 8日(火)　15:00 ～	6月8日(火)14:50 ～ 15:10	済み
1C		6月10日(木)　16:00 ～	6月10日(木)16:00 ～ 16:30	済み
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	
		月　日　：　～	月　日　：　～	

（出典　１年生女子と学生相談室女性カウンセラーとの懇談スケジュール表）

（分析結果とその根拠理由）

寮生の自主性・協調性の養成，学習習慣の定着，より良い生活習慣を身につける場として，教職員と役員寮生が協同する体制を整え，機能させている。教職員及び役員寮生による寮生指導を一元化し，各学科とも連携して指導･支援できる体制を整備し，機能させている。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

平成 18 年，キャリア支援室を設置し，各学科の進路担当教員と連携しつつ，就職や進学等の進路指導を行っている（**資料７－２－④－１**）。

キャリア支援室では，ＡＣＥ（阿南高専キャリア教育推進プログラム）として，低学年キャリア教育を実施している。学生に「阿南高専生のキャリアデザイン・ワークブック」を配布し，ロングホームルームを活用し年４ 回，３年間で合計 12 回の職業指導プログラ

ムを実施している（**前述資料５－１－②－７**）。

高学年学生の就職活動に対する進路支援教員による面接指導，エントリーシート記入指導含む，全般的な進路指導を行っている（**前述資料５－１－②－８**）。教員用マニュアル「阿南高専生のキャリア教育のために」を全教員に配布し，教員全体の進路指導スキルを向上させている。

ものづくりエリート技術者養成コーオプ教育プロジェクト（**前述資料５－１－②－11**），インターンシップ実施の効果と相俟って十分な進路実績を収めている（**前述資料６－１－③－１**）。平成 19 年度より，本校を会場に企業合同説明会を本科４年生を対象に実施している。平成 19 年度以降，91 社，109 社，84 社，79 社の参加があった（**資料７－２－④－２，３**）。

資料７－２－④－１

キャリア支援室担当教員一覧

内 各 役 職 ・ 委 員 等 一 覧 表

平成23年4月27日現在

各種委員会・室等委員　　（○印は委員長等）

会

攻科運営委員会
)専攻科長
各専攻科長補佐
教務主事
（一般）林田　栄治，田上　隆徳
（機械）奥本　良博
（電気）上原　信知
（制御）福田　耕治
（建設）森山　卓郎
（専攻科）今田　浩之，安野　恵実子

務処理　学生課）

攻科修了・進級判定会議
校長
)専攻科長
専攻科担当専任教員

務処理　学生課）

域連携・テクノセンター委員会
)センター長
副センター長
地域連携部門長
知的財産・研究支援部門長
教育研究部門長
環境研究部門長

総務課長
務処理　企画係）

報情報室委員会
)室長
副室長
メディア情報管理部門長
ホームページ広報部門長
入試広報部門長
務処理　総務課、学生課）

専門委員会等

将来構想検討委員会
○ 湯城　豊勝
（一般）一森　勇人
（機械）西野　精一
（電気）松本　高志
（制御）杉野　隆三郎
（建設）堀井　克章
藤居　岳人
西岡　守
釜野　勝
福見　淳二

（事務処理　総務課）

教育・研究活動企画推進委員会
○校長
副校長
各主事
専攻科長
(副) 地域連携・テクノセンター長
（一般）一森　勇人
（機械）吉田　岳人
（電気）砂原　米彦
（制御）杉野　隆三郎
（建設）吉村　洋

（事務処理　総務課及び学生課）

安全衛生委員会
○副校長
衛生管理者
産業医
安全管理者
事務部長
校長指名（衛生2／安全2）
総務課長、人事係長
総務課長、施設係長

教育連携専門委員会
○(副教）上原　信知
（一般）山田　耕太郎
（機械）吉田　岳人
（電気）中村　厚信
（制御）福田　耕治
（建設）加藤　研二
（専攻科）小林　美緒

（事務処理　教務係）

プロコン対策専門委員会
○　岡本　浩行
大北　裕司
中村　雄一
一ノ瀬　元喜
加藤　研二
松浦　史法
（事務処理　技術部）

ロボコン対策専門委員会
○　川畑　成之
多田　博夫
釜野　勝
伊丹　伸
高岸　時夫，平田　均，木原　義文
立石　清，立石　学
（事務処理　技術部）

デザコン対策専門委員会
○　笹田　修司
森山　卓郎
西野　精一
吉村　洋
加藤　研二
森時　秀司，遠野　竜翁
（事務処理　技術部）

人権教育推進専門委員会

室　員　等

キャリア支援室
副室長（インターンシップ）就支担当）　中村　雄一
副室長（コーオプ教育担当）原野　智哉
副室長（進学担当）　岡本　浩之
キャリア教育担当教員（インターンシップ担当教員）
（機械）多田　博夫
（電気）松本　高志
（制御）福田　耕治
（建設）堀井　克章
（専攻科）森山　卓郎，安野　恵実子
コーオプ教育担当教員
（機械）西本　浩司
（電気）釜野　勝
（制御）福田　耕治
（建設）吉村　洋
就職担当教員
（機械）原野　智哉
（電気）正木　和夫
（制御）杉野　隆三郎，宮城　勢治
（建設）笹田　修司，天羽　和夫
（専MC）奥本　良博
（専ES）中村　厚信
進学担当教員
（一般）川崎　敏和，谷中　俊裕
（機械）吉田　岳人
（電気）上原　信知
（制御）岡本　浩行
（建設）笹田　修司
進路支援教員　中村　克孝　客員教授
同　大谷　良治　客員教授

国際交流室
副室長（国際交流担当）
杉野　隆三郎
副室長（留学生指導担当）
勝藤　和子
国際交流担当教員
専攻科長補佐

（出典　平成 23 年度校内各役職・委員等一覧表）

資料５－１－②－７（再掲）

低学年職業指導プログラム

表：低学年職業指導プログラムの内容と各段階での目標

	1	2	3	4
1年生	高専生活を有意義なものにするために	社会に出て働くことの意義	企業と社会	高専で学びながら身につけたいマナー
1年生修了の段階での目標： 将来の自分をイメージし，高専で何を学ぶのか決断できる				
2年生	会社の組織とエンジニアの仕事	企業にとって好ましい人材とは	必要とされるコミュニケーション力	先輩（卒業生）の体験に学ぶ
2年生修了の段階での目標： エンジニアとはどんな仕事なのか理解できる				
3年生	業界研究と企業研究	自分を知り，自分を知ってもらう	インターンシップ参加の目的と意義	就職・進学の流れ
3年生修了の段階での目標： 就職か進学かの決断をし，具体的な進路の候補を挙げられる				

（出典　低学年職業指導プログラムの年間計画表）

資料５－１－②－８（再掲）

阿南高専キャリア支援室の利用実績

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
面接練習等に利用	延べ人数	51	85	※	237
履歴書添削指導	機械	14	35	※	22
	電気電子	36	40	※	26
	制御	31	38	※	22
	建設	37	41	※	22

平成23年4月キャリア支援室調べ
※平成21年度のデータは紛失

（出典　キャリア支援室の利用実績）

資料５－１－②－11（再掲）

コーオプ教育成果報告会等の開催案内

平成２２年８月２４日

関　係　企　業　各位

阿南工業高等専門学校
キャリア支援室長　　正木　和夫
キャリア支援副室長　原野　智哉

「ものづくりエリート技術者育成コーオプ教育プロジェクト」
第４回企業合同推進運営委員会等の開催について（ご案内）

残暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は本校コーオプ教育に関しまして格別のご配慮とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、本校「ものづくりエリート技術者育成コーオプ教育プロジェクト」も３年が経過し、１期生全員が今年の４月に企業等へ巣立っていきました。就職した学生はコーオプ教育での就業経験を直ぐに活用していると確信していますし、進学した学生は就業経験で必要と感じた専門知識の習得により一層精進するものと考えております。
また、１期生の全プログラムの修了に伴い 2010 コーオプ教育シンポジウムを去る５月２１日(金)に開催し、本プロジェクトの成果を多くの高専へ情報発信することができました。参加企業には厚くお礼申し上げます。
これからも、参加企業の皆様にご協力いただき、本校の学生がコーオプ教育を通じて仕事への魅力を感じ、一人でも貴社へ就職し高専人材の獲得として結実すればと願っております。そのためにも本プロジェクトの制度、本校のカリキュラムは元より、企業就業プログラムに至るまで改善へ向け直接意見を頂き、活発なディスカッションを行いたく存じます。
ついては、学生・企業・教員の３者による企業合同推進運営委員会、学生による就業成果ポスター発表に加え、学生・企業・教員による意見交換会や、教員と企業の懇親会を下記のように企画しました。是非ともご出席くださるようお願い申し上げます。
なお、準備の都合上お手数ですが別紙に必要事項をご記入のうえ、９月１０日（金）までに、メールまたはＦＡＸにてご返信をお願いします。

記

開 催 日 時　：　平成２２年　９月２８日（火）　１３：３０～
場　　所　：　阿南工業高等専門学校創造テクノセンター棟４階マルチメディア室他

＜スケジュール＞

１．４年生ポスターセッション　４階マルチメディア室１　１３：３０～１５：００
・４年生就業学生１７名によるポスター展示およびポスターセッションを行います。
・企業・教員による優秀就業ポスター賞投票（学生の成果をご覧になり、投票をお願いします。）

２．第４回企業合同推進運営委員会　４階マルチメディア室２　１５：００～１６：５５
（ア）　校長挨拶
（イ）　就業成果報告または技術課題解決中間発表　各科１名
（ウ）　優秀就業ポスター賞の承認
（エ）　コーオプ教育状況・新規取組コーオプ教育関係プロジェクト紹介
（オ）　企業・学生・教員３者討論

３．意見交換会　本校高志会館食堂　１７：００～１８：００　※会費：２，０００円／人
・学生（コーオプ教育参加４年生全員）・企業・教員による情報交換を目的とした立食パーティです。軽食とし、学生も参加しますのでノンアルコールです。
・１名につき参加費２，０００円を当日受付時に集めさせていただきます。
・優秀就業ポスター賞授与式も行います。技術課題指導教員の紹介も兼ねております。

４．懇親会　阿南市内　１８：３０～２０：３０　※会費４，０００円程度／人

（出典　コーオプ教育委員会資料）

資料６－１－③―１（再掲）

平成 22 年度進路状況

平成22年度 卒業者の進路について

H23.3.29

学科名		就職			進学			その他専門学校等	未定者	卒業者数
		県内	県外	計	大学	専攻科	計			
機械	男	10	12	22	6	8	14	0	0	36
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	10	12	22	6	8	14	0	0	36
電気電子	男	2	26	28	4	6	10	0	0	38
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	26	28	4	6	10	0	0	38
制御情報	男	5	7	12	8	1	9	0	2	23
	女	3	3	6	4	0	4	0	1	11
	計	8	10	18	12	1	13	0	3	34
建設システム	男	3	11	14	3	3	6	0	0	20
	女	5	2	7	0	0	0	0	0	7
	計	8	13	21	3	3	6	0	0	27
全体集計		28	61	89	25	18	43	0	3	135

○主な就職先

機械	県内	日亜化学工業㈱（4）、㈱泉製作所、大塚化学㈱、光洋シーリングテクノ㈱、四国トーセロ㈱、大鵬薬品工業㈱、リンテック㈱
	県外	大阪サニタリー金属工業協同組合（2）、㈱カネカ（2）、大岡技研㈱、川重マリンエンジニアリング㈱、関西電力㈱、JFEスチール㈱西日本製鉄所、中部電力㈱、東京電力㈱、㈱森精機製作所、㈱吉野工業所
電気電子	県内	大塚化学㈱、エヌ・アンド・イー㈱
	県外	四国電力㈱（3）、関西電力㈱（2）、大岡技研㈱、京セラ㈱、㈱きんでん、三洋電機㈱モバイルエナジーカンパニー、三和電気土木工事㈱、㈱ジェイペック、ダイセル化学工業㈱、中部電力㈱、東京電力㈱、東芝エレベータ㈱、東レ㈱、日本電設工業㈱、日本電産㈱、㈱富士通ゼネラル、富士古河E&C㈱、扶桑建設工業㈱、三菱重工業㈱神戸造船所、三菱電機㈱伊丹製作所、三菱電機㈱福山製作所、山崎製パン㈱、㈱リコー
制御情報	県内	日亜化学工業㈱（5）、アクサス㈱、㈱大塚製薬工場、四国化工機㈱
	県外	オムロンフィールドエンジニアリング㈱、京セラ㈱、㈱システムランド、㈱ジャパンコミュニケーション、神鋼テクノ㈱、㈱ソルクシーズ、東海旅客鉄道㈱、㈱酉島製作所、日立INSソフトウェア㈱、三菱電機システムサービス㈱
建設システム	県内	日亜化学工業㈱（2）、㈱エー・アンド・ビー、四国建設㈱、西野建設㈱、㈱姫野組、㈱ファルコン、守野(有)
	県外	出光興産㈱、関西保温工業㈱、㈱三晃空調、四国電力㈱、㈱ダイキンアプライドシステムズ、大鉄工業㈱、東海旅客鉄道㈱、西日本旅客鉄道㈱、㈱NIPPO、阪神測建㈱、三菱地所藤和コミュニティ㈱、メタウォーター㈱、㈱森本組

○進学先（大学）

機械	秋田大学、東京工業大学、長岡技科大(2)、千葉大学、三重大学
電気電子	豊橋技科大(2),大阪大学、岡山大学
制御情報	札幌市立大学、筑波大学、長岡技科大(3)、豊橋技科大(4)、徳島大学(3)
建設システム	豊橋技科大(2)、徳島大学

（出典　阿南高専　後援会資料　平成 22 年度）

資料７－２－④－２

企業合同説明会の案内文



トップページへ　始める

トップページ　個人フォルダ　スケジュール　設備予約　ToDoリスト　掲示板　ファイル管理　アドレス帳　ユーザー名簿　タイムカード

ユーザー名簿

トップページ > 個人フォルダ(受信箱) > 校内メール本文

閲覧状況(148人/166人)　その他の操作　削除する

企業合同説明会の実施について

差出人 : 呉羽　豊子(学生課) 2011/1/17(月) 9:06

宛先　: 校長, 事務部長, 総務課長, 総務課長補佐(総務), 総務広報係, 総務広報係長, 濵名　美香, 企画係, 企画係長, 呉羽　泰枝, …(→宛先を(166人)

平成23年1月17日

教職員各位

企業合同説明会の実施について

キャリア支援室長　正木　和夫

企業合同説明会を、1月27日（木）13時から第一体育館において実施いたします。
日程は次のとおりです。
12:30　受付開始（企業関係者）　第一体育館
12:40　４年生視聴覚教室に集合(４年生担任・奥本先生)
12:50　専攻科1年の学生は直接第一体育館へ
12:50　挨拶(校長先生)
　　日程の説明　(キャリア支援室長)
13:00　企業合同説明会　開始
16:00　企業合同説明会　終了

参加企業・参加者名簿は添付ファイルのとおりです。

つきまして、関係される教職員の方に次の点を確認していただけますようお願い申し上げます。

「全教職員の方」：27日の当日は車を各自の決められたところに駐車願います。

「授業、クラブ顧問関係者」：26日午後から27日の終日、第一体育館は使用できませんのでよろしくお願いいたします。

「学寮」：27日のお昼休み時間、4年生、専攻科1年生がスーツに着替えにいきますのでよろしくお願いいたします。

「専攻科1年生担任の先生」：学生は当日12時50分に直接第一体育館の受付に行くようにご指導願います。

「本科4年生の担任の先生」：学生を当日12時40分に視聴覚教室に集合させ、13時前に、学科ごとに第一体育館に引率願います。

「専攻科2年生と本科5年生の担任の先生」：就職内定者は内定した企業に挨拶に行くようにご指導願います。服装は学生らしい身なりです。

以　上

（出典　校内グループウェアサイボウズメール）

資料７－２－④－３

企業合同説明会参加者名簿

企業合同説明会参加者名簿　　開催日時：平成23年1月27日　場所：第一体育館

	参加企業名	参加 人数	卒業生○和暦○、3月卒 氏名		参加企業名	参加 人数	卒業生○和暦○、3月卒 氏名
1	旭化成(株)	1	[redacted]	40	テック情報(株)	3	
2	(株)アルバック	1		41	(株)電業社機械製作所	2	
3	アワジダイヤモンド工業(株)	1		42	東光(株)	2	
4	(株)イシダ	1		43	東西電工(株)	1	
5	NECフィールディング(株)	1		44	東邦機械工業 (株)	2	
6	(株)NTTネオメイト 四国支店	2		45	(株)十川ゴム 徳島工場	2	
7	(株)エム・システム技研	1		46	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	2	
8	大同技研(株)	1		47	(株)ナカテツ 徳島工場	2	
9	大阪ガス(株)	2		48	西精工(株)	2	
10	大阪シーリング印刷(株)	2		49	西日本旅客鉄道(株)	1	
11	大塚製薬(株)	2		50	日亜化学工業(株)	3	
12	(株)大塚製薬工場	3		51	日新電機(株)	1	
13	大塚テクノ(株)	2		52	日進電子工業(株)	1	
14	オムロンフィールドエンジニアリング(株)	2		53	(株)NIPPO	2	
15	花王(株)	2		54	日本原子力発電(株)	1	
16	(株)カネカ 大阪工場	3		55	日本ゼオン(株)水島工場	2	
17	関西電力(株)和歌山支店	2		56	日本電工(株)	2	
18	京セラ(株)滋賀蒲生工場	1		57	日本電設工業(株)	1	
19	光洋シーリングテクノ(株)	3		58	フジケンエンジニアリング(株)	1	
20	(株)広見空調	1		59	富士通(株)	1	
21	三洋電機(株)モバイルエナジーカンパニー	1		60	(株)富士通エフサス	1	
22	三和電気土木工事(株)	3		61	(株)富士通四国システムズ	2	
23	JFEスチール(株) 西日本製鉄所	1		62	富士電機システムズ(株)	3	
24	四国化工機(株)	2		63	富士古河E＆C(株)	1	
25	四国計測工業(株)	1		64	扶桑建設工業(株)	2	
26	四国電力(株)	2		65	ベガサスミシン製造(株)	2	
27	四国トーセロ(株)	2		66	前田道路(株)	3	
28	(株)システム・ランド	1		67	三浦工業(株)	1	
29	(株)ジャパンコミュニケーション	3		68	三菱電機(株)伊丹製作所	1	
30	神鋼テクノ(株)	3		69	三菱電機システムサービス(株)	1	
31	(株)ソフトサービス	1		70	三菱電機(株)通信機製作所	1	
32	ダイキン工業(株)	1		71	三菱電機(株)姫路製作所	1	
33	(株)ダイキンアプライドシステムズ	1		72	三菱電機ビルテクノサービス(株)	2	
34	ダイセル化学工業(株)	2		73	メタウォーター(株)	2	
35	ダイソー(株)	3		74	安川エンジニアリング(株)関西支店	1	
36	大八化学工業(株)	1		75	山崎製パン(株)	2	
37	大鵬薬品工業(株)	2		76	四電エンジニアリング(株)	2	
38	中部電力(株)	1		77	(株)菱友システム技術	1	
39	(株)ディスコ	1		78	リンテック(株)	4	
				79	奥村組土木興業(株)	1	

（分析結果とその根拠理由）

就職や進学等の進路指導を行うキャリア支援室を設け，各学科の進路担当教員と連携しつつ，低学年からのキャリア教育，３年生から５年生にかけての長期休暇を利用した就業と通じて企業と連携したコーオプ教育を行っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学寮においては，点呼（在寮確認）は，役員寮生と寮関係教職員との連携の下で実施している。平日の朝は，寮関係教職員が全寮室を巡回し，登校確認･指導を行っている。また寮内の情報を共有することで全教員が連携して寮生の指導･支援できる体制を整えている。また，１年生と新編入学生・新留学生と寮務主事補との懇談、１年生女子と学生相談室女性カウンセラーとの懇談を行っている。さらに，役員寮生の寮生指導を支援するため，役員寮生とカウンセラーとのミーティングを行っている。

就職や進学等の進路指導には，キャリア支援室を設け，各学科の進路担当教員と連携しつつ，低学年からのキャリア教育，３年生から５年生にかけての長期休暇を利用した就業を通じて企業と連携したコーオプ教育を行っている。

（改善を要する点）

経年劣化による施設の老朽化，住環境劣化への対応を，今後とも継続していく必要がある。

（３）基準７の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスや，自主的学習を支援する学習支援ミーティングは年間を通して継続的に実施している。また，総合情報処理室・演習室，図書館，実習工場等の自主学習やコミュニケーションのための施設整備と学習環境を整えることで必要とする学生に効果的に利用されている。

海外大学への留学制度を設けることで専攻科生を中心に多くの利用がある。他方，本校への留学生には特別授業・時間割割，チューター配置，編入学生への担任教員を中心とする個別支援体制を整え実施している。

クラブ活動への複数顧問の配置，クラブ顧問会議，クラブリーダー研修，学生会活動諸行事を学生委員会が中心になって計画的にかつ組織的に行っている。なお，後援会による課外活動における公式大会等への旅費の一部助成制度を整えて運用している。

学生の生活・経済面に係わる指導･相談・助言は学生相談室，学生係，担任教員等が密接に連携して行っている。また入学料等の免除制度，各種奨学金制度等を適宜活用できる体制を整えている。

学寮では，寮生の自主性・協調性の養成，学習の深化に加え，より良い生活習慣を身に

つける場として，教職員と役員寮生が協同する体制を整え，機能させている。また寮内の情報を共有することで全教員が連携して寮生の指導･支援できる体制を整えている。

就職や進学等の進路指導を行うキャリア支援室を設け，各学科の進路担当教員と連携しつつ，低学年からのキャリア教育，３年生から５年生にかけての長期休暇を利用した就業を通じて企業と連携したコーオプ教育を行っている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設･設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の主な施設，および主たる大型設備は資料のとおりである（**資料８－１－①－１，２**）。教室・合併教室・視聴覚教室・セミナー室・第一演習室・第二演習室・ＣＡＤ室の使用状況は授業時間割表のとおりである（**資料８－１－①―３**）。実験実習工場については，実習授業以外に卒論研究等にも利用している（**資料８－１－①－４**）。学生宿舎の利用状況は入居率94%である（**資料８－１－①－５**）。体育施設については，授業のほか，教職員及び学生の福利厚生用として使用されるだけでなく，テニスコート・野球場等は公開講座で使用され，使用料徴収のうえ一般に開放している。

施設整備に係る管理運営については施設・設備委員会にて審議される（**資料８－１－①―６**）。毎年，施設設備の充実のため機構本部に営繕要求している（**資料８－１－①―７**）。さらに施設設備の安全管理の方策は安全衛生委員会で審議される（**資料８－１－①―８**）。同委員会にて安全衛生推進計画が策定される（**資料８－１－①―９**）。校内バリアフリー化については積極的に推進している（**前述資料７－２－②－２**）。

資料８－１－①－１

学校施設

■施設[Facilities]

区分 [Classification]		土地㎡ [Land]	建物 [Buildings] 建面積㎡ [Floor Space]	建物 [Buildings] 延面積㎡ [Total Floor Space]	備考 Notes
校舎・管理部	Classroom and Administration Buildings	43,268	3,392	10,296	RC3
制御情報工学科棟	Dept. of Systems and Control Engineering		260	829	RC3
専攻科棟	Advanced Course Building		329	1,008	RC3
創造テクノセンター	Creative Technology Center		579	2,344	RC4
実験実習工場	Factory for Practice		1,266	1,338	RC1
内燃機関実験室	Internal Combustion Engine Laboratory		144	144	RC1
総合情報処理室	Information Technology Center		318	318	RC1
図書館	Library Complex		807	1,702	RC2
体育館	Gymnasiums		2,016	2,016	S1
学生集会所	Student Meeting Room		169	169	S1
福利施設	Welfare Facility Building		516	757	RC2
その他の施設	Other Facilities		644	644	RC2　B1
陸上競技場	Track and Field	44,236			400mトラック
テニスコート	Tennis Courts				3面
野球場	Baseball Ground				1面
プール附属屋	Swimming Pool Annex		77	77	RC1
学校施設開放センター	Training Gym		119	119	S1
武道場	Training Hall for Martial Arts		64	64	W1　借受233㎡
その他の施設	Other Facilities		179	179	B1
低学年寄宿舎１号館	1st Dormitory for Lower Grades	15,090	1,382	3,525	RC4
低学年寄宿舎２号館	2nd Dormitory for Lower Grades		363	1,386	RC4
低学年寄宿舎３号館	3rd Dormitory for Lower Grades		457	1,371	RC3
高学年寄宿舎４号館	4th Dormitory for Upper Grades		406	1,126	RC3
高学年寄宿舎５号館	5th Dormitory for Upper Grades		340	1,035	RC3
高学年寄宿舎共用棟	Dormitory for Upper Grades		125	274	RC3
課外教育共同施設	Lodging Center for Extracurricular Activities		102	204	RC2
その他の施設	Other Facilities		606	606	RC1　B1
非常勤講師宿泊施設	Guest House	6,282	80	127	W2
弓道場・テニスコート	Archery Range and Tennis Courts		264	264	S1 テニスコート４面
計	Total	108,876	15,004	31,922	
阿南住宅	Staff Housing	2,679	463	1,700	RC4,S1,B1

（出典　学校要覧　平成 22 年度　P. 43）

資料８－１－①－２

大型設備一覧表

【機械工学科】
・マシニングセンタ
平成　６年３月３０日設置　15,460,300 円
授業（実験実習）及び卒業研究に使用
・ミクロ表面構造三次元計測・評価システム（顕微鏡）
平成１０年３月２３日設置　30,030,000 円
教員研究及び卒業研究に使用
・高出力固体レーザ先端加工システム
平成１３年１月２５日設置　34,552,950 円
教員研究及び卒業研究に使用
・炭酸ガスレーザ加工機
平成２１年３月　９日設置　33,600,000 円
授業（実験実習）及び卒業研究に使用
・Ｘ線回折装置
平成２２年３月１５日設置　23,940,000 円
教員研究及び卒業研究に使用

【電気電子工学科】
・高電圧試験装置
平成２３年３月２５日設置　10,279,500 円
授業（実験実習）及び卒業研究等に使用

【総合情報処理室】
・超高速ネットワークシステム
平成１４年３月２８日設置　47,017,000 円
校内及び学生のネットワーク利用に使用

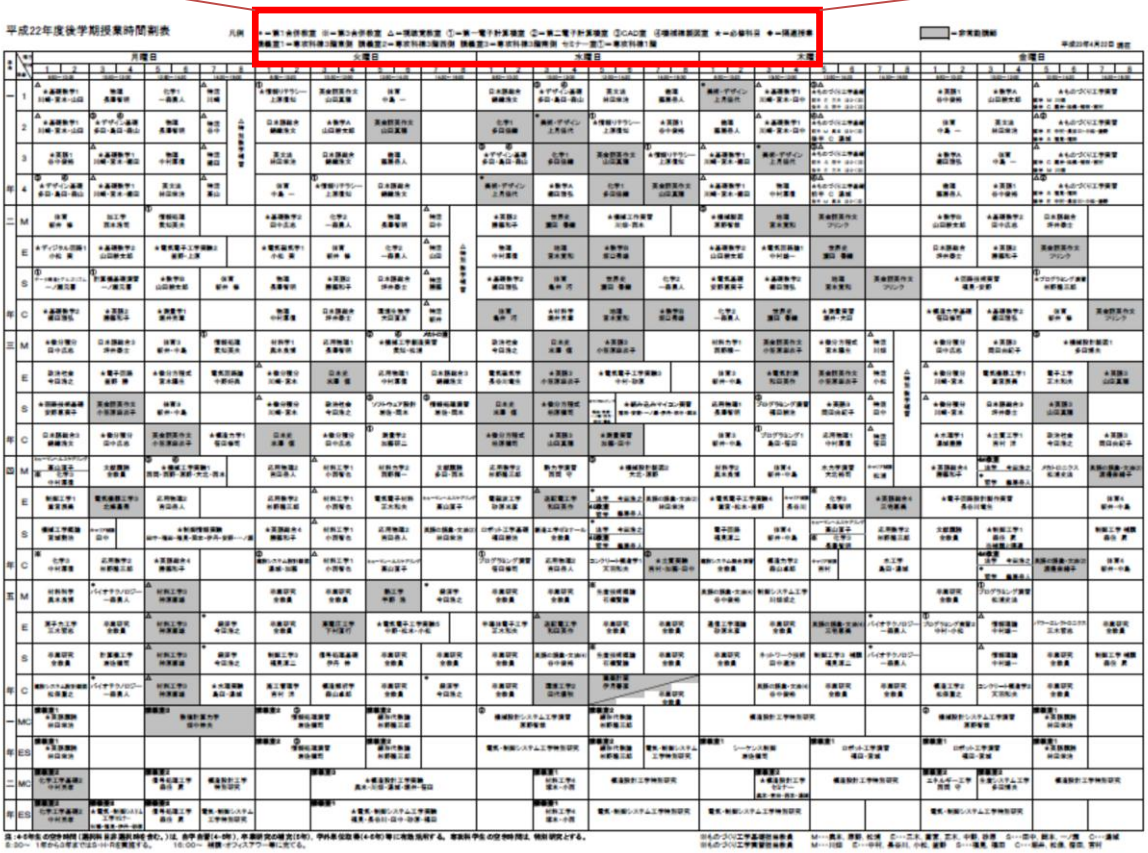
【地域連携・テクノセンター】
・波長可変レーザーシステム
平成１５年３月１２日設置　23,142,000 円
教員研究及び卒業研究に使用
・放電プラズマ焼結システム
平成１５年３月２５日設置　14,595,000 円
教員研究及び卒業研究に使用
・風力発電システム
平成１５年３月２５日設置　13,440,000 円
教員研究及び卒業研究に使用

（出典　総務課契約係調べ）

資料８－１－①－３

教室以外の施設での授業

凡例　＊＝第１合併教室　※＝第３合併教室　△＝視聴覚教室　①＝第一電子計算機室　②＝第二電子計算機室　③CAD室　④機械棟製図室　★＝必修科目　◆＝隔週授講義室１＝専攻科棟３階東側　講義室２＝専攻科棟３階西側　講義室３＝専攻科棟３階南側　セミナー室①＝専攻科棟１階



（出典　平成 22 年度前期時間割）

資料８－１－①―４

実験実習工場での安全管理周知

◆◇ 実験実習工場の利用についてのお願い ◇◆

2011年4月1日

①安全管理・工場管理について

◆実験実習工場利用の際には、備え付けの工場利用簿(工場入口)に、氏名・所属・使用機械等を記入、作業場・機械・工具等の使用許可を得ること。

◆工場利用者は、工場の利用、工作機械の使用状況に応じて、工場実習の経験等を考慮した安全講習を担当者より受けてから、利用及び使用を行う。

◆実験実習工場の利用時間は 17:00 までを原則とする。時間外の危険が伴う作業や機械使用は、事前に許可を得て 19:00 までを原則とする。

※平日17:00以降の時間外利用、土日祝祭日の利用には、指導教員から担当指導員へ相談の上、実験実習工場利用細則により技術部長(＝教務主事)の承認と実験実習工場利用願(阿南高専技術部ウエブサイト)が必要。工場キーの貸出は、教職員にのみ可能である。

◆実験実習授業以外で、工場利用の必要が生じた学生は、担当教員(卒業研究以外は、実験実習担任、学級担任、クラブ顧問など)に申し出て、使用前に予め当該教員から技術部担当者まで、口頭、電話、電子メール等で申し込む。担当教員の把握なしに学生が無断で工作機械等を使用しないこと。

※学生の実験実習工場利用を、教員及び技術職員、両方が把握し、安全と技術指導の徹底を図る為。

◆工場製作のある卒研など年間(年度)利用は、工場での製作期限を原則12月末迄とする。但し、組立調整、修正加工等は特に期限を設けない。

②機械・工具等の使用について

◆実験実習工場にある機械・工具の使用は、担当技術職員などの許可を得て、工具は工場内での使用を原則とする。持ち出しが必要な工具は、技術職員の許可を得て貸出簿(工場入口)に氏名、所属等を記入し、返却時は返却確認を職員に記入依頼し、元にあった場所へ返却する。

③作業服・安全保護具の着用等について

◆工場で、機械・工具等を使用(見学、付き添い含む)する場合は、機械使用及び手作業に関わらず作業服・帽子(CAP)の着用、足が完全に覆われた靴の着用を原則とする。

※ジャージなど柔らかい服装は不可。また、肌の露出する、短パン、スカート、タンクトップ、サンダル履きなどは、入場禁止。

◆機械使用時、保護メガネを着用、作業によっては指定の保護具を必ず着用。機械使用時、手袋(軍手など)は着用禁止。

④全体のマナー・その他について

◆常識と技術者倫理に基づき、マナーとルールを守った安全作業を行い、整理整頓、清掃等は、「使う前より美しく」の原則で、周りへの配慮と思いやり、気遣い、感謝の気持ちを忘れない。規則とマナーを守れない方の使用は禁止する。

技術部長(教務主事)

（出典　平成 23 年度　実験実習工場使用時の注意：技術部）

資料８－１－①―５

学寮収容人数と入寮現員数

収容人数及び入寮現員 [Capacity and Residents]　　平成22.5.1現在[As of May 1, 2010]

区分 [Classfication]	室数 [Room] 1名収容 [Single Room]	2名収容 [Twin Room]	3名収容 [Triple Room]	収容人数 [Capacity]	建物面積 [Floor Area]	入寮状況 [Number of Boardes] 1年 [1st]	2年 [2nd]	3年 [3rd]	4年 [4th]	5年 [5th]	専攻科 [Advanced Cource]	ドイツ人留学生 [Garman Students]	計 [Total]
1号館 [Dormitory No.1]	43室 [Room]	0室 [Room]	28室 [Room]	127人 (15)	3,525㎡	0	21	42 (7)	30 (1)	28 (7)	8	3	132 (15)
2号館 [Dormitory No.2]	3	0	27	84	1,386	17	60	1	1	2	0	0	81
3号館 [Dormitory No.3]	0	3	29	93	1,371	78	0	2	2	1	0	0	83
4号館 [Dormitory No.4]	27	17	0	61 (61)	1,116	8 (8)	9 (9)	11 (11)	8 (8)	4 (4)	2 (2)	0	42 (42)
5号館 [Dormitory No.5]	4	41	0	86	1,035	0	1	40	25	20	0	0	86
計 [Total]	77	61	84	451 (76)	8,433	103 (8)	91 (9)	96 (18)	66 (9)	55 (11)	10 (2)	3	424 (57)

( )内数字は女子で内数
( ): Female Students

（出典　平成 22 年度 学校要覧 P.25　）

資料８－１－①―６

阿南工業高等専門学校施設・設備委員会規則

（平成16年６月16日）
（規則第8 3 号）

（設置）
第１条阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校施設・設備委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 施設整備に関する事項
(2) 設備に関する事項
(3) 施設・設備の点検・評価及び有効活用に関する事項
(4) その他施設・設備に関する事項
（組織）
第３条委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 副校長
(2) 教務主事、学生主事及び寮務主事
(3) 専攻科長
(4) 地域連携・テクノセンター長
(5) 一般教科教員の中から選出された者１名
(6) 各学科教員の中から選出された者各１名
(7) 総務課及び学生課の中から選出された者各１名
（委員長等）
第４条委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。
２ 委員会に副委員長を置き、教務主事をもって充てる。
３ 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
４ 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。
（以下　略）

（出典　阿南高専Webサイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料８－１－①―７

阿南高専営繕工事の過去５年間実績

平成18年度	第2体育館屋根改修工事
	屋外給水管改修工事
	(大坪)テニスコート改修工事
	第1体育館耐震補強工事
	第2体育館耐震改修工事
	管理部一般教科棟3階便所改修工事
	管理部一般教科棟3階便所改修電気設備工事
	管理部一般教科棟3階便所改修機械設備工事
	寄宿舎1号館耐震改修その他工事
	寄宿舎1号館耐震改修その他電気設備工事
平成19年度	(大坪)テニスコート改修2期工事
	寄宿舎5号館耐震改修工事
	第1体育館床改修工事
	図書館他便所改修工事
	図書館他便所改修機械設備工事
	野球場防球ﾈｯﾄ改修工事
平成20年度	共通校舎棟耐震改修その他工事
	図書館空調設備等改修工事
	寄宿舎5号館等便所改修工事
	寄宿舎5号館等便所改修機械設備工事
	寄宿舎2号館等便所改修工事
	寄宿舎2号館等便所改修機械設備工事
	寄宿舎5号館等寮室内装改修その他工事
	寄宿舎1号館等空調用電源取設工事
平成21年度	福利施設等空調設備改修工事
	寄宿舎1号館改修工事
	寄宿舎1号館改修電気設備工事
	寄宿舎1号館改修機械設備工事
	第1体育館建具改修工
平成22年度	寄宿舎高学年浴室給湯設備改修工事

（出典　施設・設備委員会調べ　平成 22 年度）

資料８－１－①―８

阿南工業高等専門学校安全衛生委員会規則

（平成 16 年４月１日）
（規則第６　号）

（設置）
第１条この規則は、労働安全衛生法（昭和 47 年６月８日法律第 57 号）及び独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則（平成 16 年４月１日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 31 号）に基づき、阿南工業高等専門学校安全衛生委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。
（審議事項）
第２条委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 教職員の危険及び健康管理を防止するための基本となるべき対策に関する事項
(2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事項
(3) 労働災害の原因及び再発防止対策で、安全及び衛生に係るものに関する事項
(4) 前３号に掲げるもののほか、教職員の危険の防止及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関する重要事項
（組織）
第３条委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 副校長
(2) 衛生管理者
(3) 産業医
(4) 安全管理者
(5) 事務部長
(6) 安全に関し経験を有する者の中から校長が指名した者２名
(7) 衛生に関し経験を有する者の中から校長が指名した者２名
２ 校長は、前項第６号及び第７号の委員については、過半数代表者（阿南工業高等専門学校の教職員の過半数を代表する者をいう。）の推薦に基づき指名する。
（任期）
第４条前条第６号及び第７号に規定する委員の任期は、１年とし、再任を防げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。
２ 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３ 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（議事）
第６条委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
２ 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
（以下　略）

（出典　阿南高専Webサイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料８－１－①―９

安全衛生推進計画の策定

安全衛生委員会（３月）　議事要旨

１．日　時：平成２３年3月１６日（水）　１０：００　～　１０：３５

２．場所等：セミナー室３（管理棟２階）

３．出席者：【委員】岩佐副校長（委員長），高山准教授（衛生管理者）

溝下総務課長（安全管理者），齋藤施設係長，尾本人事係長

欠席者：【委員】児玉産業医，渡邊事務部長

【陪席】中島助教，木原技術専門職員

４．議　題：

（１）平成２３年度安全衛生推進計画（案）について

資料により人事係長から説明があり，審議の結果，一部修正の上，原案のとおり承認された。

（追加項目）大津波訓練：隔年で実施　９／３０実施予定（全体集会）

不動産監守：不動産管理規則の制定　毎年１回（１２月以降）の状況報告並びに

毎年２回の監守点検

（２）校内の安全衛生について

資料により総務課長から説明があり，この度の不動産管理規則の制定に伴い，校内の安全計画をたてるとともに，年間２回点検を行い，安全確保に努めていただくことで了承された。

また，学生の実験実習での安全面については，機構からのハンドブックをもとに学生の安全確保に努めていただくことで了承された。

５．報告事項：

（１）衛生管理者の交代について

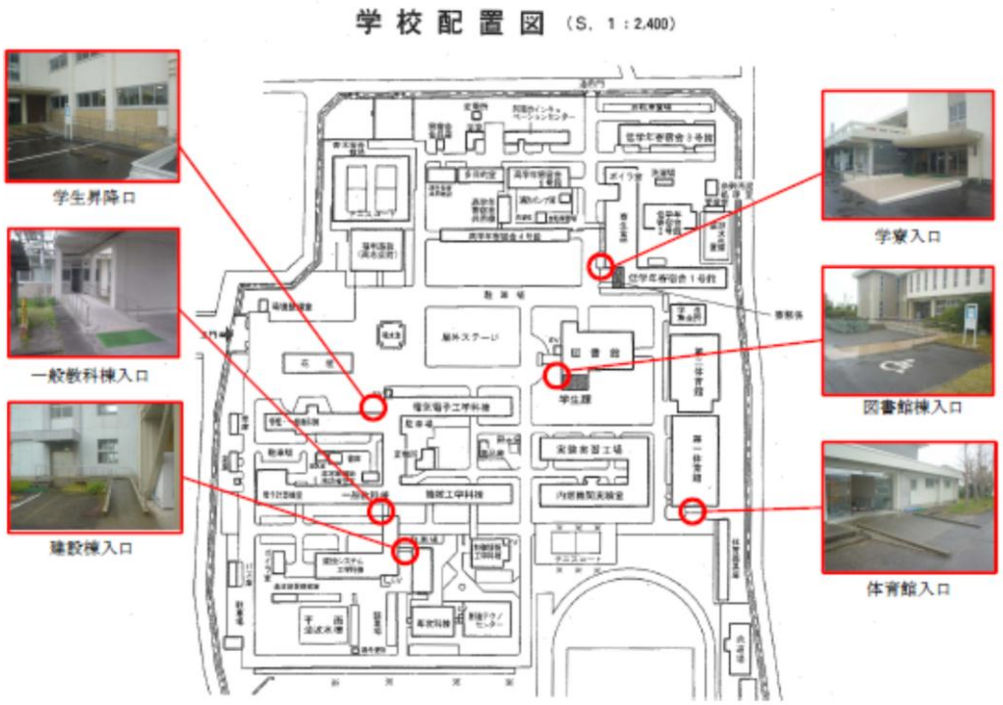
人事係長から，高山先生の退職に伴い，後任の衛生管理者として一般教科の中島助教を選任したことの報告があった。

また，総務課長から今後，衛生管理者の資格取得のため，希望者を募るとともに学校としても支援し，資格者の育成に努めていくとの報告があった。

（出典　安全衛生委員会議事要旨　平成 23 年３月）

資料７－２－②－２（再掲）

バリアフリー箇所



（出典　学校配置図（代表的な箇所の写真を載せた））

（分析結果とその根拠理由）

施設・設備の整備は進んでいるが，今後の教育・研究のさらなる発展及び創造教育を充実させるためには，よりいっそう整備の充実と効果的利用方法等の改善が必要である。また施設・設備委員会，安全衛生委員会等を通じて安全管理の下で施設・設備が利用されている。バリアフリー化についても着実に整備している。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の学習・教育目標（B）に見える「情報技術を利用しながら問題解決を遂行できる」を達成するために総合情報処理室を設置している（**資料８－１－②―１**）。同室はキャンパスネットワークと電算演習室の管理・運営を主とした業務としておりＩＣＴ分野全般についての教職員および学生の総合窓口となっている。平成22年度にはマイクロソフト包括ラ

イセンスの提供をおこなっている（資料８－１－②―２）。

平成14年度に光ファイバーによる１GB（幹線）のネットワークを構築し，運用している。これにより校内の伝送速度は幹線（１GB），支線（100MB）の超高速ネットワークが利用できようになった。また，外部接続は10MBイーサネット方式である。

セキュリティ対策はファイアウオールによるアクセス制御とアンチウイルスソフトウェアによるウイルス防御システムを採用している。また，学生が誤った操作によって研究・教育以外のWebサイトへ飛ばされることを防ぐためにコンテンツ制御も行っている。この校内LANシステムを24時間稼働させ，学生はいつでも研究室からメールやインターネットサービスを利用できる。

平成15年度より学生の英語学習支援のため，e-learningシステムを導入した。現在，工業基礎英語とTOEIC学習プログラムの２コースを提供している。２コースともに校内の全ての端末，すなわち，教員室，研究室，実験室，総合情報処理室・演習室，図書館から利用可能である。

本校では，セキュリティ強化と情報管理促進のため，ソフトウェア管理規則，情報倫理ガイドラインを策定し，安全なネットワーク運用に努めている（資料８－１－②―３，４）。

低学年においては図書館（20:30まで），総合情報処理室(17:00まで)で自由に利用できるパーソナルコンピューターを設置して利用させている。なお，演習室の時間割によれば稼働率は，約60％から70％である(資料８－１－②―５)。

資料８－１－②―１

阿南工業高等専門学校総合情報処理室規則

（平成 21 年４月１日）
（規則第３７号）

（設置）
第１条阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）に阿南工業高等専門学校総合情報処理室（以下「総合情報処理室」という。）を置く。
（目的）
第２条総合情報処理室は、本校における情報システムの円滑なる運営、効率的な情報教育の実践及び適正な情報セキュリティ管理を行うことを目的とする。
（業務）
第３条総合情報処理室は、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 総合情報処理室の管理、運営に関する業務
(2) 情報処理教育に関する業務
(3) 情報セキュリティに関する業務
(4) その他情報システム、情報管理に関する業務
（教職員）
第４条総合情報処理室に次の教職員を置く。
(1) 室長
(2) 副室長
(3) 室員
（室長）
第５条室長は、本校の教員の中から、校長が指名した者をもって充て、総合情報処理室の管理・運営を掌理する。
２ 室長に事故あるときは、室長があらかじめ指名した副室長がその職務を代行する。

（中略）

（総合情報処理室の利用）
第９条総合情報処理室の利用は、原則として、本校の教職員及び学生に限る。
２ 総合情報処理室の利用に関する事項は別に定める。
（総合情報処理室委員会）
第 10 条総合情報処理室の円滑な運営を図るため、阿南工業高等専門学校総合情報処理室委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２ 委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（以下　略）

（出典　阿南高専Webサイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②―２

「マイクロソフト包括ライセンス」について

１．概　　要

国立高専機構では，学習・教育環境の充実を図るため，すべての学生・教職員を対象とした，包括ライセンス契約を含む教育協定をマイクロソフト社と締結しました。

２．利用対象者

国立高専機構に在籍する全学生（本科，専攻科）及び所属する全教職員が利用できます。

３．利用開始日

平成２２年　９月７日（火）から

（当初はOfficeのみ利用可能です。Windowsについては9月21日頃からを予定。環境が整いしだい案内します。）

４．利用可能なソフトウェアとインストール方法

利用できるソフトウェアとそのインストール方法については，別紙「マイクロソフト包括ライセンス・ソフトウェアのインストールについて（学生用)」のとおりです。また，総合情報処理室校内情報Webページ（http://www3.anan-nct.ac.jp/~sougou/soujyou/）も参照してください。

５．利用可能なパソコン

［学校所有パソコン］

学校管理下（購入，リース，レンタルなど）の全てのパソコンで利用でき，インストール台数に制限はありません。

［個人所有パソコン］

Windows製品及びOffice製品それぞれ１種類を１人１台に限定し，インストールすることができます。

個人所有のパソコンへインストールした場合，本人だけの使用が条件となりますので，家族や友人のソフトウェアの使用は認められません。

６．問い合わせ先

総合情報処理室長：中　村　雄　一（電話番号：０８８４－２３－７１７０）

（出典　総合情報処理室からの連絡）

資料８－１－②―３

阿南工業高等専門学校ソフトウェア管理規則

（平成 22 年３月 10 日）
（ 規則第１３ 号）

（趣旨）
第１条阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるソフトウェアの管理については、独立行政法人国立高等専門学校機構ソフトウェア管理規則（平成 21 年規則第９４号。以下「機構規則」という。）に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。
（目的）
第２条この規則は、本校におけるソフトウェアの管理に関する校内体制を整備することにより、ソフトウェアの違法な複製を防止し、法令遵守を図ることを目的とする。
（ソフトウェア管理担当者等）
第３条機構規則第６条に基づき、ソフトウェア管理責任者が指名するソフトウェア管理担当者及びその管理を割り当てる範囲は別表のとおりとする。
２ 前項で定める各ソフトウェア管理担当者を総括するソフトウェア総括管理担当者は、総合情報処理室長をもって充てる。
（教職員の責務）
第４条教職員は、ソフトウェアを購入する場合には、ソフトウェア管理担当者の承諾を得て物品請求をしなければならない。
２ 教職員は、ソフトウェアをコンピュータにインストール又はアンインストールをするときは、ソフトウェア管理担当者に依頼又はソフトウェア管理担当者の承諾を得て実施しなければならない。
３ 教職員は、ソフトウェア管理担当者の承諾を得て自らコンピュータにソフトウェアをインストール又はアンインストールした場合は、速やかにソフトウェア管理担当者に報告しなければならない。
（以下　略）

（出典　阿南高専 Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料８－１－②－４

情報倫理ガイドライン周知

阿南工業高等専門学校　情報倫理ガイドライン

本ガイドラインは、コンピュータや携帯電話などの情報システムを利用するときに守らなければならない事項を定めたものです。これらの遵守事項を守らないと、本人・学校の信用を失墜させたり名誉を傷つけたりするだけでなく、法的な問題に発展する可能性があります。十分注意してください。

- 本校の情報システムは、教育・研究など学校の仕事（学生については、勉学・研究など学生本来の活動）のため以外に使用しない。
- 本校のネットワークを利用して名誉毀損・誹謗中傷・人権侵害・セクシャルハラスメント・パワーハラスメントになるような情報発信をしない。
- 学校内の機密情報は、許可無く外部に持ち出さない。
- 他人のプライバシー・著作権・肖像権・知的所有権などを侵害しない。
- 個人情報保護法を遵守し、個人情報の取り扱いには十分注意を払う。
- 法令やモラルに反する方法で、情報を取得したり発信したりしない。
- 利用が認められていないソフトウエア（ファイル交換ソフトなど）を勝手にインストールしたり使用したりしない
- 情報システムの円滑な利用・運用の妨げとなる行為をしない。

たとえば、次の行為は情報倫理ガイドライン違反です。

- 全員の了承をとらずに、クラス名簿をホームページで公開した。
- インターネット上の掲示板に、他人の悪口を書き込んだ。
- インターネット上の掲示板に、他人の噂話を書き込んだ。
- ファイル交換ソフトで違法に公開されていた映画や音楽をダウンロードした。
  さらにダウンロードした情報を自分も公開した。
- 腹の立つ相手にウィルス付メールを送った。

パスワードを他人に教えたり、すぐわかるところに貼りつけておいたりしないよう注意してください。

（出典　総合情報処理室からの通知）

資料８－１－②－５

情報処理演習室の稼働状況

第1演習室

時間	月	火	水	木	金
1		1年生 情報リテラシー 石橋	4C プログラミング演習 笹田		5M プログラミング演習 松浦
2					
3	2M 情報処理 武知		4E プログラミング実習1 小松		データ処理 3C 島田他
4					
5			1年生 情報リテラシー 石橋		2S プログラミング演習 田中
6					
7	3M 情報処理 武知	3C 測量学2 加藤			5S CADシステム 田中
8					

稼働率 65 %

第2演習室

時間	月	火	水	木	金
1	1年生 デザイン基礎 多田他		1年生 デザイン基礎 多田他		
2					
3		4C 建設システム設計製図 湯城他		4M 3次元CAD 多田	
4					
5	専攻科1年 工学演習 多田他	3M 機械工学創造実習 武知他			1年生 ものづくり工学実習 福見・中村
6					
7					
8					

稼働率 57.5 %

第3演習室

時間	月	火	水	木	金
1	2S データ構造とアルゴリズム 一ノ瀬		4S プログラミング応用 岡本	2M 機械製図 原野	2C CAD製図 島田他
2					
3	2S 計算機基礎演習 一ノ瀬	3S ソフトウェア設計 田中			3S プログラミング演習 岡本
4					
5	4M 機械工学実験 西岡他	3S 情報処理演習 田中		1年生 ものづくり工学基礎 三木・田中	4M 機械設計製図2 西野他
6					
7					
8					

稼働率 70 %

（出典　情報処理演習室の稼働状況　平成 22 年度前期時間割より）

（分析結果とその根拠理由）

学生にとって利便性の良い超高速ネットワーク環境が整備され，かつセキュリティ対策も十分である。校内の施設内で有効にＩＣＴが活用されている。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（観点にかかる状況）

本校図書館は，全蔵書数 82,000 冊余り（**資料８－２－①―１**）を開架しており，「学習支援図書コーナー」，「資格・試験問題集コーナー」では，学生が日々の学習を進めるに当たって必要とする図書を学科（一般教科含む）ごとに整理し，授業関連図書や各種資格・TOEIC 関連図書を開架して，学習利用への利便性を高めている（**資料８－２－①―２**）。なお，これらの図書・資料や学習支援図書は，ホームページを通じて，検索・閲覧できるようになっている（**資料８－２－①―３**）。

蔵書・資料の充実については，学生に向けて「各クラス希望図書・DVD 調査」，また教員へは「学科推薦図書調査」を実施し定期的に購入されている。さらに，図書館に「購入希望用紙」と投書箱を設置しており，来館した学生・教職員・学外者が購入希望できるようになっている。この他，不定期ではあるが，ブックハンティングも行っている（**資料８－２－①―４**）。この他，寄贈図書も受け入れており，平成 22 年度は 69 冊あった。

開館時間については，月曜から金曜日は 9:00 から 20:45（春・夏・冬休業期間中は 17:00 まで），土曜日は 9:00 から 17:00（春・夏・冬休業期間中は休館）であり，臨時休館も含めてホームページなどで周知している（**資料８－２－①―５**）。視聴覚機器としては，ビデオ機器 4 台，DVD 機器 4 台，CD プレーヤー2 台を「視聴覚コーナー」に設置して，約 600 タイトルの資料や映画を視聴することができるようになっている。また，蔵書検索用パソコン 3 台，インターネット閲覧用パソコン 5 台を設置し，利用サービスの向上に努める他，就職・進学などに必要な情報収集の手段としても活用されている。

情報提供としては，図書館 Web サイトにおいて，お知らせ，利用方法，蔵書検索，図書リスト，開館カレンダーなどの情報を提供している（**前述資料８－２－①―５**）。蔵書検索システムとしては，E-Conan OPAC（長岡技科大・高専統合図書館システム），NACSIS Webcat（全国大学・高専図書館蔵書検索），Webcat Plus（和図書を対象とした検索）が利用できる（**資料８－２－①―６**）。また，必要な文献を調べるために，電子ジャーナル・データベースへのリンクを用意し，ScienceDirect や AIP/APS の論文を閲覧することができる（**資料８－２－①―７**）。また校内限定ではあるが，読書感想文優秀作品も読むことができる。

図書の利用状況把握については，毎月末，日毎の入館者数・貸出冊数や，クラス別・分類別の貸出冊数などの利用状況調査・分析の報告を行っている（**資料８－２－①―８**）。また，年度末には調査結果を集計し，関係各所に報告している（**資料８－２－①―９**）。

図書館の利用促進に向けての取り組みとしては，年２回発行される「阿南高専便り」に「図書館便り」を掲載し，推薦図書の紹介や，貸出ランキング，感想文コンクールの優秀作品の紹介などを行っている（**資料８－２－①―10**）。また，平成 22 年 4 月 21 日に「阿南市立図書館と阿南高専図書館との連携協力会議」を実施し，阿南市立図書館と図書の相互貸借ができるようになった（**資料８－２－①―11**）。これにより，本校学生・教職員への貸

出に加え，地域の方々への貸出を積極的に行うことで，図書・資料の一層の有効活用の促進を図っている。

以上は全て，図書委員会において審議され，その結果を報告するなどして，適切に運営されている（資料８－２－①―12)。

資料８－２－①―１

阿南高専図書館蔵書冊数

蔵書冊数 [Number of Collection]　　平成22.4.1現在[As of April 1, 2010]

分類 [Classfication]	総記 [General]	哲学 [Philosophy]	歴史 [History]	社会科学 [Social Sciences]	自然科学 [Natural Sciences]	技術 [Technology]	産業 [Industry]	芸術 [Art]	言語 [Language]	文学 [Literature]	文庫 [Paperbacks]	計 [Total]
和書 [Japanese Books]	2,618	2,962	4,366	8,689	12,459	19,098	631	2,303	3,696	8,671	8,302	73,795
洋書 [Foreign Books]	241	75	318	269	2,937	3,243	21	40	420	867	—	8,431
計 [Total]	2,859	3,037	4,684	8,958	15,369	22,341	652	2,343	4,116	9,538	8,302	82,226
% [%]	3.48	3.69	5.70	10.89	18.72	27.17	0.79	2.85	5.01	11.60	10.10	100.00

購読雑誌種数 [Number of Subscribed Periodicals]　和雑誌65種 [Japanese 65 titles]　洋雑誌2種 [Foreign 2 titles]　計67種 [Total 67 titles]

（出典　学校要覧　平成 22 年度　P. 24）

資料８－２－①―２

図書館利用案内

3　館内案内

【学習閲覧室】

自習時間・休憩時間等に静かに自学自習する室です。また配架してある新聞や雑誌は自由に閲覧することができます。

〔新　　聞〕英字新聞を含む６種類の新聞を備えてありますので，自由に利用してください。

〔投 書 箱〕図書館に対する意見及び購入を希望する図書があれば，備え付けの用紙に記入し，投書箱へ投函してください。

〔ロッカー〕図書閲覧室へは，筆記用具以外の持ち込みを禁止しています。カバン，袋，コート類，私物図書等は，このロッカーに入れ，鍵を掛けておいてください。なお，貴重品は必ず身につけておいてください。

【雑誌閲覧室】

各種の週刊・月刊・季刊誌を配架してあります。室内では自由に閲覧することができますが，室外への貸出を希望する場合は，係員に申し出てください。ただし，最新号は貸出できません。

【図書事務室】

図書の貸出・返却，文献複写の受付，レファレンス・サービス等を行うための係員がいます。

【図書閲覧室】

約54,000冊の蔵書が『日本十進分類表』に基づいて配架してあり，自由に閲覧することができます。静かに閲覧できるよう，一人ずつセパレートされた机もあります。貸出を希望する図書については，貸出返却窓口で手続きを行ってください。

〔学習支援図書〕授業に関連した専門書，参考書が各学科毎に配架してあります。
〔新　着　図　書〕新着の図書が配架してあります。
〔資格対策図書〕TOEIC，技術士資格試験等受験のための図書が配架してあります。
〔留 学 生 図 書〕留学生のための日本語教材や辞書，洋書が配架してあります。
〔人　権　図　書〕人権学習用の図書やビデオ教材が配架してあります。
〔寄　贈　図　書〕悠久文庫（悠久同窓会より創立20周年記念に寄贈），卒業記念寄贈図書，その他寄贈図書が配架してあります。
〔文　　庫〕ブルーバックス，岩波文庫等の文庫・新書が配架してあります。

（出典　平成 22 年度　高専生活のてびき　P. 40　）

資料８－２－①―３

阿南高専　Web サイトから図書閲覧検索



（出典　阿南高専 Web サイト　図書館トップ）

資料８－２－①－４

ブックハンティングの紹介

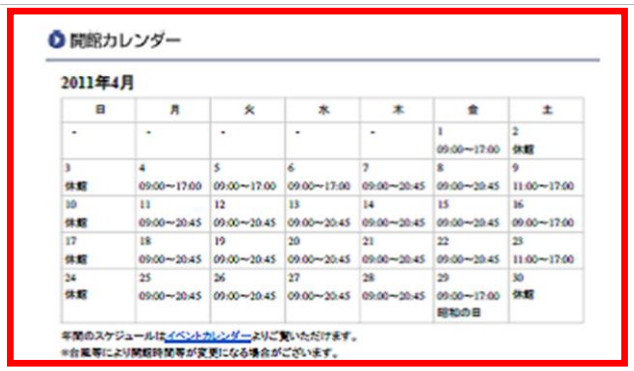


（出典　阿南高専 Web サイト　Campus News）

資料８－２－①－５

阿南高専図書館情報





（出典　阿南高専 Web サイト　図書館トップ）

資料８－２－①－６

蔵書検索システム



（出典　阿南高専 Web サイト　蔵書検索）

資料８－２－①－７

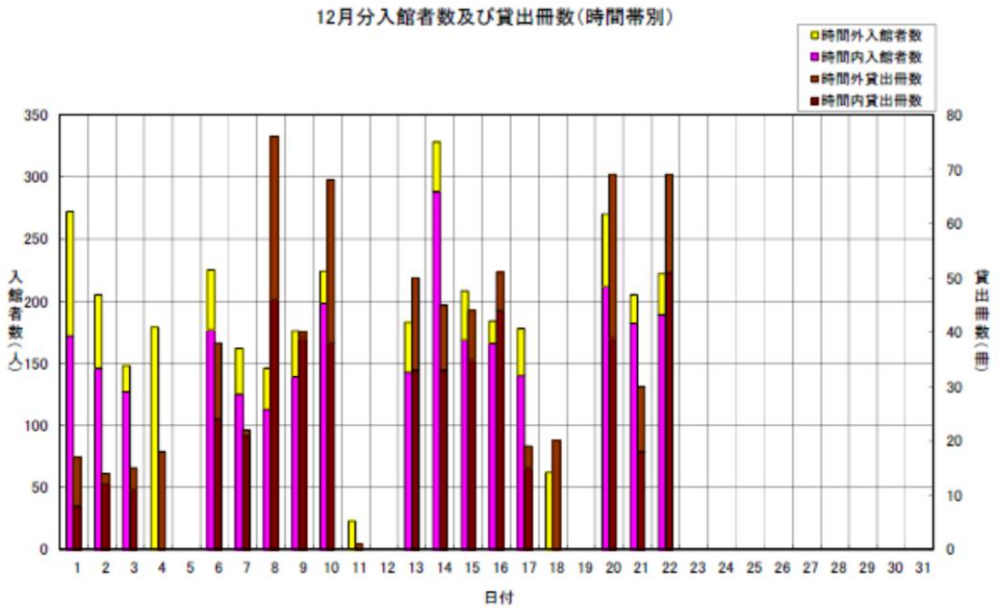
論文を閲覧



（出典　阿南高専 Web サイト　データベース検索）

資料８－２－①－８

図書館（月別利用調査）



（出典　図書館利用状況報告　平成 22 年度 12 月分）

資料８－２－①－９

図書館（年度末利用調査）

別紙4

※ 入館者数・貸出冊数集計表 （平成22年度）　　（備考）

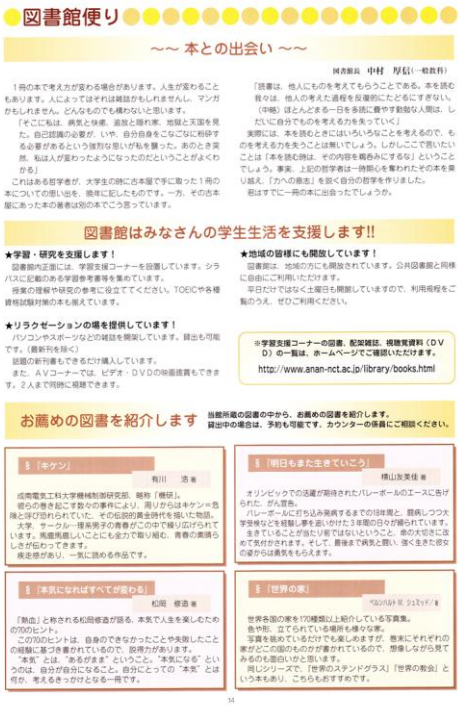
区分	入館者数	貸出冊数	開館日数	平均入館者数	平均貸出冊数	21年度同月入館者数	21年度同月貸出冊数	20年度同月入館者数	20年度同月貸出冊数
	人	冊	日	人/日	冊/日	人	冊	人	冊
22年 4月	4,849 (21)	708 (44)	24	202.04	29.50	4,754 (8)	687 (10)	6,145 (6)	569 (3)
22年 5月	4,268 (20)	744 (28)	22	194.00	33.82	4,510 (11)	630 (8)	5,316 (2)	481 (2)
22年 6月	5,170 (23)	689 (48)	24	215.42	28.71	4,319 (11)	526 (13)	5,331 (4)	329 (0)
22年 7月	3,176 (16)	726 (33)	23	138.09	31.57	2,911 (12)	688 (24)	3,446 (4)	394 (0)
22年 8月	1,618 (83)	281 (10)	17	95.18	16.53	575 (70)	217 (3)	534 (0)	104 (0)
22年 9月	5,618 (47)	606 (35)	22	255.36	27.55	4,739 (10)	535 (8)	6,215 (1)	316 (1)
22年 10月	4,182 (92)	703 (31)	24	174.25	29.29	4,015 (64)	772 (72)	4,606 (0)	519 (0)
22年 11月	5,033 (45)	817 (28)	23	218.83	35.52	3,923 (32)	630 (69)	4,374 (0)	454 (0)
22年 12月	3,600 (20)	706 (31)	18	200.00	39.22	2,962 (25)	527 (50)	3,529 (3)	497 (4)
23年 1月	3,832 (18)	674 (25)	19	201.68	35.47	3,202 (29)	659 (52)	4,254 (4)	539 (6)
23年 2月	4,140 (25)	486 (21)	22	188.18	22.09	4,451 (23)	530 (33)	5,351 (6)	441 (6)
23年 3月	2,468 (21)	510 (8)	23	107.30	22.17	1,503 (16)	448 (39)	1,684 (7)	308 (18)
計	47,954 (431)	7,650 (342)	261	183.73	29.31	41,864 (311)	6,849 (381)	50,785 (15)	4,951 (40)
昨年度実績	41,864 (311)	6,849 (381)	261	197.61	19.26	50,785 (15)	4,951 (40)	----	----

＊( )内は、学外者で内数

（出典　図書館年度末利用調査　平成 22 年度）

資料８－２－①－10

図書館便り



●図書館便り

～～ 本との出会い ～～

図書館員　中村　厚信（一般教育）

１冊の本で考え方が変わる場合があります。人生が変わることもあります。人によってはそれは雑誌かもしれません。マンガかもしれません。どんなものでも構わないと思います。

「そこに私は、病気と快癒、過去と現在、地獄と天国を見た。自己認識の必要が、いや、自分自身をこなごなに粉砕する必要があるという強烈な思いが私を襲った。あのとき突然、私は人が変わったようになったのだということがよくわかる。」

これはある哲学者が、大学生の時に古本屋で手に取った１冊の本についての思い出を、簡単に記したものです。一方、その古本屋にあった本の著者は別の本でこう言っています。

「読書は、他人にものを考えてもらうことである。本を読む首々は、他人の考えた道程を反復的にたどるにすぎない。（中略）ほとんどまる一日を多読に費やす勤勉な人間は、しだいに自分でものを考える力を失っていく」

実際には、本を読むときにはいろいろなことを考えるので、ものを考える力を失うことは無いでしょう。しかしここで言いたいことは「本を読む時は、その内容を鵜呑みにする」ということでしょう。事実、上記の哲学者は一時期心を奪われたその本を real 越え、「力への意志」を説く自分の哲学を作りました。

君はすでに一冊の本に出会ったでしょうか。

図書館はみなさんの学生生活を支援します!!

★学習・研究を支援します！
図書館内正面には、学習支援コーナーを設置しています。シラバスに記載のある学習参考書等を集めています。
授業の理解や研究の参考に役立ててください。TOEICや各種資格試験対策の本も揃えています。

★リラクゼーションの場を提供しています！
パソコンやスポーツなどの雑誌を開架しています。貸出も可能です。（最新刊を除く）
話題の新刊書もできるだけ購入しています。
また、ＡＶコーナーでは、ビデオ・ＤＶＤの映画鑑賞もできます。２人まで同時に視聴できます。

★地域の皆様にも開放しています！
図書館は、地域の方にも開放されています。公共図書館と同様に自由にご利用いただけます。
平日だけではなく土曜日も開館していますので、利用規程をご覧のうえ、ぜひご利用ください。

※学習支援コーナーの図書、配架雑誌、視聴覚資料（ＤＶＤ）の一覧は、ホームページでご確認いただけます。
http://www.anan-nct.ac.jp/library/books.html

お薦めの図書を紹介します　当館所蔵の図書の中から、お薦めの図書を紹介します。貸出中の場合は、予約も可能です。カウンターの係員にご相談ください。

§「キケン」　有川　浩 著
成南電気工科大学機械制御研究部、略称「機研」。
彼らの巻き起こす数々の事件により、周りからはキケン＝危険と呼び恐れられていた。その伝説的黄金時代を描いた物語。
大学、サークル…理系男子の青春がこの中で繰り広げられています。馬鹿馬鹿しいことにも全力で取り組む、青春の素晴らしさが伝わってきます。
痛快感があり、一気に読める作品です。

§「明日もまた生きていこう」　横山友美佳 著
オリンピックでの活躍が期待されたバレーボールのエースに告げられた、がん宣告。
バレーボールに打ち込み発病するまでの18年間と、闘病しつつ大学受験などを経験し夢を追いかけた３年間の日々が綴られています。
生きていることが当たり前ではないということ、命の大切さに改めて気付かされます。そして、普通まで病気と闘い、強く生きた彼女の姿からは勇気をもらえます。

§「本気になればすべてが変わる」　松岡　修造 著
「熱血」と称される松岡修造が語る、本気で人生を変えるための70のヒント。
この70のヒントは、自身のできなかったことや失敗したことの経験に基づき書かれているので、説得力があります。
"本気"とは、"あるがまま"ということ、"本気になる"というのは、自分が自分になること、自分にとっての"本気"とは何か、考えるきっかけとなる一冊です。

§「世界の家」　マルハルト ヒュッテ/著
世界各国の家を170棟超に上紹介している写真集。
色や形、立てられている場所も様々な家。
写真を眺めているだけでも楽しめますが、意外にそれぞれの家がどこの国のものかが書かれているので、想像しながら見てみるのも面白いかと思います。
同じシリーズで、「世界のステンドグラス」「世界の教会」という本もあり、こちらもおすすめです。

14

図書館利用統計

H21年度　図書別貸出ランキング

順位	回数	書名	著者名	出版社	出版年月
1	66	TOEICテスト新公式問題集：Vol.3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2008年3月
2	54	TOEICテスト新公式問題集：Vol.1	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2005年12月
3	40	TOEICテスト新公式問題集：Vol.2	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	2007年2月
4	39	大学編入試験問題数学：微積演習（微分積分・解析代数・応用数学・確率	林義実, 山田敬清共著	森北出版	2006年12月
5	28	新編高専の数学：問題集：3	田代嘉宏編	森北出版	2001年8月
6	25	電気機器：1	野中作太郎著	森北出版	1993年3月
7	24	新編高専の数学：問題集：2	田代嘉宏編	森北出版	2001年1月
8	24	土質科学者技術工業英検３級クリア	高橋清治, 中山裕木子編著	日本工業英語協会	2007年12月
9	22	土質試験法	土質工学会編	土質工学会	1961年9月
10	21	理論	早川清隆著	オーム社	1999年3月
11	21	電力	津田佳和著	オーム社	1999年4月
12	20	新TOEICテスト文法・語彙練習問題300問	河合清隆共（ほか）共著	桐原書店	2007年12月

H21年度　月別分類貸出冊数　（単位：冊）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
総　記	126	106	108	109	46	163	166	111	131	169	104	108	1,447
哲　学	8	8	2	5	2	10	18	39	11	21	16	32	172
歴　史	3	3	3	4	1	1	2	4	3	10	1	4	39
社会科学	28	21	13	16	1	6	8	12	15	18	24	30	193
自然科学	129	133	101	127	38	63	84	56	70	71	46	93	966
工　学	181	184	159	209	68	123	220	203	91	149	132	48	1,767
産　業	4	7	2	9	0	0	3	2	1	1	2	1	32
言　語	9	9	17	22	2	10	22	13	17	15	10	24	170
語　学	80	64	30	74	31	43	85	85	50	87	57	55	741
文　学	94	82	75	106	21	93	150	101	119	99	119	70	1,129
立　庫	25	13	16	7	7	23	14	5	19	19	19	26	193
合　計	687	630	526	688	217	535	772	630	527	659	530	448	6,849

図書館からのお知らせ

開館時間
●平　日　9時～20時45分　（ただし休業期間中は９時～17時）
●土曜日　11時～17時　（日・祝日は休日）
★図書館は保護者の方、一般の方もご利用になれます。
・貸出を希望される場合は、運転免許証など身分を証明できるものをご持参ください。
貸出冊数　５冊まで　（長期休業期間中は10冊）
貸出期間　14日以内
館内資料の文献複写（著作権法の範囲内での有料複写）や、DVD・ビデオコーナーもご利用できます。
詳しくは図書館までお問い合わせ下さい。
TEL 0884－23－7106　Email tosho@anan-nct.ac.jp
★ホームページにて、年間イベントカレンダーやご利用案内、蔵書検索などご利用いただけます。
URL http://www.anan-nct.ac.jp/library/

図書館では、みなさんのリクエストを受け付けています。
読みたい本や、授業や研究で使う本などがありましたら、図書閲覧室入口の投書箱へ投函してください。
予算、配架場所等の関係上、ご希望に添えない場合がございます。予め、ご了承ください。

15

（出典　図書館便り　高専便り第 100 号　平成 22 年度）

資料８－２－①－11

阿南市立図書館と図書の相互貸借



徳島新聞　2011年(平成23年)2月22日

阿南市立図書館で阿南等専門学校の貸し出しを始めた。阿南図書館の蔵書は新聞、雑誌を含め約7万冊。利用は阿南高専ホームページから。ページからリンクしています。（☎23・7106）まで。

阿南

No. 2078

（出典　徳島新聞　平成 23 年２月 22 日）

資料８－２－①－12

図書委員会の活動

平成２２年度　第２回図書委員会議事要録

○ 日　　時　　平成２２年７月１６日(金) 15時00分 ～ 15時30分

○ 場　　所　　セミナー室４（管理棟３階）

○ 出 席 者　　委員長 ： 中村厚信
委　員 ： 錦織浩文，奥本良博，當宮辰美，一ノ瀬元喜，
陪　席 ： 図書・情報係長　林雅彦(筆)

○ 欠 席 者　　委　員 ： 坪井泰士(一般)，湯城豊勝(建設)

○ 配付資料　　資料１ …… 平成22年度図書館経費予算(案)
資料２ …… 統合図書館システムの更新について
資料３ …… 図書館利用状況(17～21年度，学外者)

○ 議題及び報告事項

(1) 平成２２年度図書館経費予算(案)について（資料１）

中村委員長から，資料に基づき，平成22年度図書館経費予算(案)について，次のとおり説明がなされた。

①22年度当初予算配分額
図書館設備費 …　998,100円　昨年度からの増減なし
図書館維持費 …　572,595円　昨年度から140,379円の減額(約－19.7%減)
合計　… 1,570,695円　昨年度から140,379円の減額(約－ 8.2%減)
②学科共通経費から，各科１０万円，合計５０万円を振り替えて頂いた。
③後援会から，５０万円の補助を頂いた。
④名誉教授の叙勲受章に伴う寄附金から，大滝先生から１０万円，故島田先生から５万円の計１５万円を頂いた。
⑤総予算合計として，**２，７２０，６９５円**を２２年度予算として計上する。

上記予算計上額に引き続き，平成22年度図書館経費の予算配分について，昨年度からの変更点及び重点事項について，次のとおり説明がなされた。

①各科共通経費から予算振替した５０万円については，各科に必要な「学科推薦図書」及び「シラバス指定参考書」の購入経費に全額充てる。
②後援会からの補助，５０万円については，学生支援のための，「学生希望図書」，「資格試験図書」，「視聴覚教材」などの購入経費に全額充てる。
③名誉教授の叙勲受章に伴う寄附金については，「学科推薦図書」，「司書推薦図書」，「学生希望図書」，「資格試験図書」などの購入経費に全額充て，閲覧室中央に「名誉教授寄贈図書」コーナーとして設置する。
④その他の経費については，昨年どおりの配分額を維持する。

以上の説明の後，審議した結果，平成22年度図書館経費予算配分額は，原案どおり了承された。

（出典　図書委員会議事要録　平成 22 年度）

（分析結果とその根拠理由）

必要な図書・資料が所蔵され，教育研究上の資料が系統的に収集，整理されている。さらに毎月末，年度末には利用状況を詳細に調査・分析している。ここ数年は貸出冊数が大幅に伸びており，有効に活用されていることがわかる。また，地域の図書館としての利便性を高めるための施策も行われ，サービスの向上を図っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

安全管理の下で施設・設備が利用されている。バリアフリー化についても着実にその設備整備を実施している。全校内には超高速ネットワークが整備され，かつセキュリティ対策も十分である環境下でＩＣＴを利用している。図書館においては，学習の利便性に配慮した図書の整備と運用がされている。さらに，地域の図書館としての利便性を高められている。

（改善を要する点）

学生の学習支援となる専門書等蔵書のさらなる増加に向けた取り組みが必要である。

（３）基準８の自己評価の概要

本校の教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備の整備は進んでいるが，今後の教育・研究のさらなる発展，及び創造教育を実現させるために，施設・設備の充実と効果的利用方法等の継続的な改善を行う。また，施設・設備の利用は教職員の安全管理の下で行っている。なお，校内の全域におけるバリアフリー化の取り組みについても着実に実施している。

学生にとって利便性の良い超高速ネットワーク環境が整備され，かつ充分なセキュリティ管理の下，情報処理演習室等の校内施設内で有効にＩＣＴが活用されている。

図書館では，必要な図書・資料が所蔵され，教育研究上の資料が系統的に収集，整理されている。利用状況は詳細に調査・分析と把握をしており，学生が利便性よく有効に活用されている。また，地域の図書館としての利便性を高めるための施策も行われ，サービスの向上を図っている。なお，学生の学習支援となる専門書等蔵書のさらなる増加に向けた取り組みを行う。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

各授業科目の成績評価に使用した試験答案・レポートなどの資料は，平成 14 年度以降，本科ならびに専攻科で開講される全科目について保管している。保管資料は，科目ごとに成績集計表，試験問題，模範解答及び試験問題，レポート等の学生提出資料，シラバス記載の到達目標修得点検アンケート，シラバス記載の成績評価に基づく個人別成績評価表**（資料９－１－①－１）**である。平成 21 年度までは，これらを授業科目ごとにファイリングし，ＪＡＢＥＥ室，成績保管庫，非常勤講師室に保管してきた。平成 22 年度からは，電子データとして保管し，点検･評価の利便性を向上させている**（資料９－１－①－２）**。

資料の保管状況は，成績保管チェックシートにより確認している。不備が確認された場合は，それぞれ担当委員会より，期限を設けて改善を求めている**（資料９－１－①－３）**。同資料に基づき点検･評価委員会が評価する体制を整え**（前述資料３－２－①―４）**，授業改善を要する授業科目の確認に活用し，教育改善 PDCA システムとして当該授業科目教員及び学科主任に改善を求めている**（資料９－１－①－４）**。

資料９－１－①―１

ＦＤ・ＪＡＢＥＥ等資料管理一覧

FD・JABEE 等資料管理一覧

教育点検システム評価部会

種類	対象（現行）	保存方法（現行）	対象（改訂）	保存方法（改訂）	資料管理ファイル名
問題・模範解答	全教科	紙媒体	全教科全員（ただし、課題レポートの場合はテーマ毎で数人分）	WEB 資料管理システム（PDF ファイル）	問題模範答案（科目コード）＿年度
５０点から７０点答案（全）	全教科	紙媒体			答案（科目コード）＿年度
７０点以上答案（数点）	全教科	紙媒体			
学生課題レポート（50～70 点を中心に数点）	全教科	紙媒体			レポ（科目コード）＿年度
成績管理表シート	全教科	紙媒体	全教科全クラス		成績一覧（科目コード）＿年度
該当科目シラバス	全教科	紙媒体	―	ＨＰ内シラバス	―
シラバス到達度アンケート	全教科	紙媒体・WEB 授業改善システム	全教科	WEB 授業改善システム	―
シラバス実施確認票	全教科	紙媒体	専攻科教科・本科内１教科 ＊２	WEB 資料管理システム（PDF ファイル） ＊３	実施確認（科目コード）＿年度
学生による授業評価アンケート（マークカード）	専攻科教科・本科内１教科	WEB 授業改善システム		WEB 授業改善システム	―
学生による授業評価（記述式）	専攻科教科・本科内１教科	WEB 授業改善システム			
教員コメント	専攻科教科・本科内１教科	WEB 授業改善システム			
授業参観記録	任意の教科	WEB 授業改善システム	任意の教科		
自学自習エビデンス（数点）	学修単位教科	各教員管理　ただし、補講時間設定ない科目は CDROM 保存(*22 年度より)	学修単位教科	WEB 資料管理システム（PDF ファイル） ＊４	自学エビ（科目コード）＿年度 もしくは　レポ・自学エビ（科目コード）＿年度

＊１　太枠は科目毎に現在Ａ４チェーブファイルに保存（JABEE・非 JABEE 科目）　＊２　専攻科教科・本科内１教科は同一科目であること

＊３　印刷したシラバス上に各授業項目の終了後に学生に日付とサインを貰う.　＊４　補講時間設定有無に関わらず保管する。その際、当該エビデンスが学生課題レポートと同一かつ同数の場合、ファイルはひとつに集約し、そのことが分かるファイル名にする。

（出典　ＦＤ・等資料管理一覧）

資料９－１－①―２

Web 資料管理要領

（2）教員フォルダ内のＰＤＦファイルを各自のパソコン上に一度保存するなどし、ファイル名の変更やファイルの分割等を行い、作成したＰＤＦファイルをサーバー上の各科目フォルダに保存する。ファイル名の付け方は、表１を参照。ここで、保存ファイル名の「科目コード」、「年度」および括弧は半角とする。

ファイル名の例：　問題模範解答(79559)_2010

表１　保存ファイル名の付け方

資料の種類	保存ファイル名
問題・模範解答	問題模範答案(科目コード)_年度
答案（全員分）	答案(科目コード)_年度
学生課題レポート （50～70 点を中心に数点）	レポ(科目コード)_年度
成績管理表シート	成績一覧(科目コード)_年度
シラバス実施確認票	実施確認(科目コード)_年度
自学自習エビデンス（数点）	自学エビ(科目コード)_年度 レポ・自学エビ(科目コード)_年度

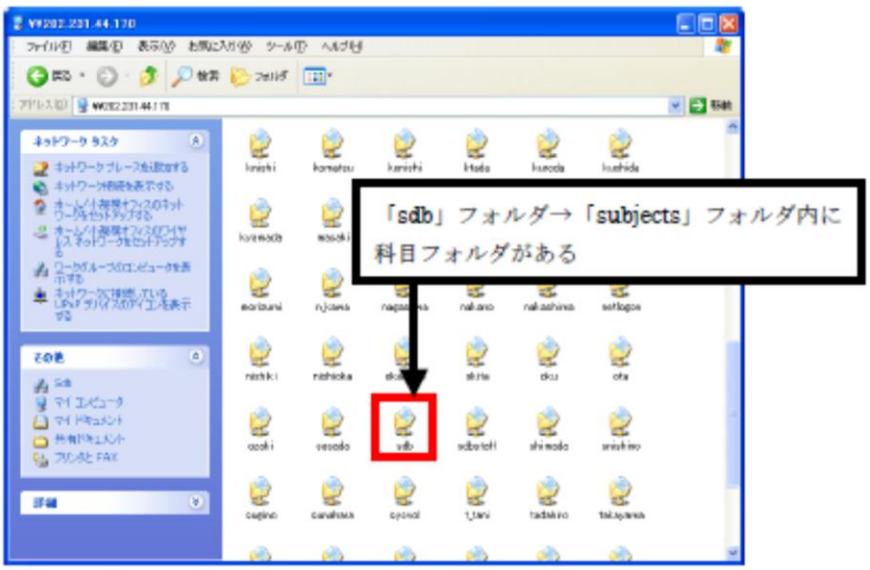


図５　科目フォルダの場所

（出典　Web 資料管理要領）

資料９－１－①―３

委員会一覧表

委　員　会

参与会
○徳島大学工学部長
徳島県教育委員会教育参事
阿南市長
阿南高専同窓会会長
徳島県中学校長会会長
前徳島県技術士会会長
西野建設株式会社代表取締役社長
阿南高専助成会会長
徳島県企画総務部総合政策局局長
（事務処理　総務課）

校長補佐会議
○校長
副校長
各主事
専攻科長
地域連携・テクノセンター長
広報情報室長
事務部長
幹　事　総務課長，学生課長
（事務処理　総務課長）

運営委員会
○校長
副校長
各主事
専攻科長
地域連携・テクノセンター長
広報情報室長
各科主任
事務部長
各課長
（事務処理　総務広報係）

教員会議
校長
○副校長
専任教員
事務部長
各課長
技術部所属職員
（事務処理　総務広報係）

卒業・進級判定会議
校長
○教務主事
専任教員
（事務処理　教務係）

人事委員会
○校長
副校長
各主事
専攻科長
選考される者が属する科の主任
各主事及び専攻科長が所属しない科の主任
（事務処理　人事係）

教務委員会
○教務主事
専攻科長
副教務主事
教務主事補
各科主任
学生課長
（事務処理　教務係）

学生委員会
○学生主事
副学生主事
学生主事補
学年主任
学生課長
（事務処理　学生課）

寮務委員会
○寮務主事
副寮務主事
寮務主事補
寮監
学生課長
（事務処理　寮務係）

専攻科運営委員会
○専攻科長
各専攻科長補佐
教務主事
（一般）　林田　栄治，楠田　雅弘
（機械）　奥本　良博
（電気）　上原　信知
（制御）　杉野　隆三郎
（建設）　森山　卓郎
（専攻科）　今田浩之，安野恵実子
（事務処理　学生課）

専攻科修了・進級判定会議
校長
○専攻科長
専攻科担当専任教員
（事務処理　学生課）

地域連携・テクノセンター委員会
○センター長
副センター長
地域連携部門長
知的財産・研究支援部門長
教育研究部門長
環境研究部門長
総務課長
（事務処理　企画係）

広報情報室委員会
○室長
副室長
メディア情報管理部門長
ホームページ広報部門長
入試広報部門長
（事務処理　総務課、学生課）

技術部運営委員会
○技術部長（教務主事）
専攻科長
地域連携・テクノセンター長
各科主任
事務部長
技術長
（事務処理　技術部）

点検・評価委員会
○松本　高志
（副）　奥本　良博
（一般）　坪井　泰士
（機械）　川畑　成之
（電気）　小松　実
（制御）　杉野　隆三郎
（建設）　加藤　研二
（専攻科）原野　智哉
（事務処理　総務課、学生課）

JABEE委員会
○當宮　辰美
（一般）　楠田　雅弘
（機械）　吉田　岳人
（電気）　中村　雄一
（制御）　杉野　隆三郎
（建設）　森山　卓郎
（委員長指名）中村　厚信
奥本　良博
松本　高志
学生課長
（事務処理　学生課）

図書委員会
○図書館長
坪井　泰士
錦織　浩文
奥本　良博
當宮　辰美
一ノ瀬 元喜
湯城　豊勝
（事務処理　図書・情報係）

（出典　平成 22 年度　委員会等一覧表）

資料３－２－①―４　（再掲）

H20 PDCA レベル認定基準

PDCA活動の対象授業教員を、次のようにレベル認定する。

レベルⅠ：	授業改善要請書をFD専門委員会から教科担当教員に送付する.
レベルⅡ：	授業改善PDCA報告書を教科担当教員に提出してもらう(面談なし).
レベルⅢ：	授業改善PDCAをFD専門員と伴に面談の上で立案し,学科主任と学科による支援等を検討する.

レベル認定の基準は、下のa1～fそれぞれの該当状況による。

レベルⅠ：	① a3に該当する場合 ② FD専門委員会が、同レベルに相当すると判断する場合(b～fを参考に)
レベルⅡ：	① a2に該当する場合 ② 2年以上連続してレベルⅠの場合 ③ FD専門委員会が、同レベルに相当すると判断する場合(b～fを参考に)
レベルⅢ：	① a1に該当する場合 ② 2年以上連続してレベルⅡの場合 ③ FD専門委員会が、同レベルに相当すると判断する場合(b～fを参考に)

a1：	学生による授業評価アンケート(マークカード式)評価値が、50未満
a2：	学生による授業評価アンケート(マークカード式)評価値が、50以上60未満
a3：	学生による授業評価アンケート(マークカード式)評価値が、60以上70未満
b：	学生による授業評価アンケート(記述式)に、要注意コメントを確認(授業技術に関するものはクラス１割の回答数を目安)
c：	シラバス記載の到達目標修得点検アンケート評価AとBの合計が、５割に満たない場合
c2：	シラバス記載の到達目標修得点検アンケート評価の未提出
d：	シラバス実施確認表の未提出
e：	特別授業公開週間における授業参観記録に、要注意コメントを確認
f：	保護者による授業参観アンケートに、要注意コメントを確認

（出典 H20 PDCA レベル認定基準）

資料９－１－①―４

授業改善についての要請通知

平成21年３月１日

平成20年度 前期　○○○○　△△学　担当

□□　□□ 先生

点検・評価委員会

ＦＤ専門委員会

授業改善についての要請

平素は，本校の授業改善についてのご協力ありがとうございます.

本委員会は，学生による授業評価の結果等を授業改善に活かすことをめざしています.

平成２０年度の同結果をもとに検討した結果，先生の授業においてご継続中の授業改善にかかわる取り組みを，いっそう充実していただきたくご連絡します.

次に示す改善のポイントを中心に，授業改善を継続してください.

［授業改善ポイント］

○マークカード式アンケートの評定値が50点未満（43.5点）です.

○板書の改善を求める記述が多く見受けられます.

このことについて3月30日（月）10：00　セミナー室２にて面談を実施しますので宜しくお願いします.

なお，本通知に対する授業改善の報告書を添付の書式（一太郎もしくはワード）にて提出くださいますようお願いいたします（締切りは平成21年4月30日（木）とさせていただきます.

（出典　授業改善についての要請通知）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスに明記する成績評価方法に則り使用した資料，個人別成績評価表，シラバス記載の到達目標修得点検アンケート等を，授業科目ごとにファイリング（平成 22 年度以降は電子データ化）し，保管している。

資料の保管状況は，成績保管チェックシートにより確認している。同資料に基づき点検・評価委員会が評価する体制を整え，授業改善を要する授業科目の確認に活用し，教育改善 PDCA システムとして当該授業科目教員及び学科主任に改善を求めている。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準にもとづいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学習・教育目標の設定，学習・教育目標の達成度の評価方法・評価基準等の適切さについて，カリキュラム外部評価により確認している**（資料９－１－②－１）**。同評価は，点検・評価委員会が実施し，ＪＡＢＥＥ委員会が内容を確認している。

企業にも要請し，教育の状況についての意見を求めている**（資料９－１－②－２）**。

学生保護者で構成される後援会，本科卒業生及び専攻科修了生で構成される同窓会総会等を通して，意見を取り入れる体制を整えている**（資料９－１－②－３）**。

年２回実施している保護者による授業参観では，授業に関する意見を求めている**（資料９－１－②－４）**。

参与会を年１回以上開催し，本校の教育の状況について意見を聴取している。例えば，希望学科再選択制度について，希望する学科に配属されなかった学生へのサポートが要望された。これを踏まえ，学習支援ミーティングなどで学生をフォローすることにより，制度は所期の目的どおり推移している**（資料９－１－②－５）**。その他，Webサイトに意見･要望受付窓口を明示し，広く一般からの意見を聴取している**（資料９－１－②－６）**。

平成22年度，高専意見箱を設置し，保護者にも周知した**（資料９－１－②－７）**。また，広報活動の一環として，学外有志の広報モニターを募り，意見を求めた**（資料９－１－②－８）**。

これら意見は，学生課及び総務課が集約し，校長･副校長に報告するとともに各管轄に連絡し，それぞれ対応している。

点検･評価委員会は，中期計画の達成度評価に関する事項，自己点検評価に関する事項等を管轄している。平成22年３月，自己点検・評価報告書を刊行し，各管轄に改善を要請した**（資料９－１－②－９）**。平成23年３月には，各管轄による改善の進捗状況の報告を受けた**（資料９－１－②－10）**。この点検･評価と改善のスパイラルは，中期計画期間に準拠して継続する。

資料９－１－②―１

カリキュラム外部評価実施要領

平成２２年度　カリキュラム外部評価実施要領（参考資料）

22/6

１　カリキュラム外部評価の実施科目と評価委員の決定

①点検・評価委員会でカリキュラム外部評価の実施要領を審議・決定します。（５月）
②各科主任に評価を受ける科目（２科目）を決めていただく。（６月末まで）
③評価を受ける科目の担当教員に外部評価委員を推薦していただく。（８月末まで）
④評価委員が内定すれば，校長名による委員就任の正式依頼をします。（総務課担当）

２　カリキュラム外部評価の実施

①科目担当教員から，評価を受ける科目のシラバス，教科書，定期試験問題，参考資料（レポート，成績算出根拠，授業で用いた資料等）を評価委員に示して教育内容並びに本校の教育目標の説明をします。
・実施場所は校内の会議室，教員室又は評価委員の勤務場所のいづれでも結構です。
・実施時間は，原則として２時間以内とします。超過する見込みであれば，点検・評価委員長の了承を得てください。
・謝金額は，高専機構謝金取扱要領により，１時間当たり 5,400 円（10 %源泉徴収有り）です。
・実施日が決まりましたら，日程，実施場所等を総務課（吉本）までご連絡ください。（謝金等の手続きをします。また，実施場所が校内会議室等であれば会場予約をします。）
②評価を受けた科目の担当教員は，評価委員に別紙の「阿南高専カリキュラム評価コメント」（以下「評価コメント」という。）にご記入いただいてください。（「評価コメント」は，点検・評価委員又は総務課（吉本）までお届けください。）

３　カリキュラム外部評価実施後の措置

①評価委員に謝金及び旅費を支給します。（総務課担当）
②評価委員宛に，校長名による「評価に対する礼状」を発送します。（総務課担当）
③評価を受けた科目の担当教員は，別紙の「カリキュラム外部評価コメントへの見解と対応」（以下「見解と対応」という。）にご記入ください。
（「見解と対応」は，点検・評価委員又は総務課（吉本）までお届けください。）
④外部評価を実施した全ての科目について評価終了後に，「評価コメント」と「見解と対応」をＪＡＢＥＥ委員会において評価をお願いすることになっています。

（出典　平成 22 年度カリキュラム外部評価実施要領）

資料９－１－②―２

企業アンケート

（別紙２）　　阿南工業高等専門学校「創造技術システム工学」教育プログラムの学習・教育目標のアンケートについて（回答）

設問１　国際的に通用する技術者育成のために必要な学習・教育目標になっているか、別紙１の(A)～(E)について，総じてどの程度満たしているかを○印で囲んでください。

(A)：良く満たしている，　やや満たしている，　普通程度，　やや満たしていない，　全く満たしていない
(B)：良く満たしている，　やや満たしている，　普通程度，　やや満たしていない，　全く満たしていない
(C)：良く満たしている，　やや満たしている，　普通程度，　やや満たしていない，　全く満たしていない
(D)：良く満たしている，　やや満たしている，　普通程度，　やや満たしていない，　全く満たしていない
(E)：良く満たしている，　やや満たしている，　普通程度，　やや満たしていない，　全く満たしていない

設問２　各学習・教育目標(A)～(E)について、訂正あるいは追加したしたほうが良いと思われる項目、削除したほうが良いと思われる項目をお書きください。

Ａ；

Ｂ；

Ｃ；

Ｄ；

Ｅ；

設問３　高専・専攻科に求められる教育内容を考えた場合，本校の学習・教育目標は適切でしょうか。ご意見をご自由にお書きください。(記入欄が不足の場合，裏面をご利用ください)

設問４　本校の専攻科に対する要望およびご意見を自由にお書きください（記入欄が不足の場合，裏面をご利用ください）

（出典　企業アンケート）

資料９－１－②―３

同窓生アンケート

同窓生の皆さまへお願い

現在、本校では開校以来の伝統を踏みつつ、日々刻々と進展する社会からの要求に応じることのできる学生を養成すべく、努力を続けています。その方向を明確にするために、本校では「学習・教育目標」を設定しています。

この「学習・教育目標」は、本校が平成16年度に初めて申請し、認定を受けたＪＡＢＥＥ（日本技術者教育認定機構）における認定基準とも対応するものです。同窓生の皆さまにおかれましては、以下の「学習・教育目標」、ＪＡＢＥＥ認定基準、ＪＡＢＥＥ認定基準と「学習・教育目標」の対応表をご参照いただき、どのような形式でもかまいませんので、高い見地からのご意見を本校までいただければ幸いです。皆さまのご意見を参考にさせていただき、よりよい「学習・教育目標」を作ってゆければよいと考えています。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

連絡先：阿南高専学生課課長補佐　阿南市見能林町青木265
TEL　0884-23-7142
FAX　0884-22-4232
E-mail：g-hosagakusei@anan-nct.ac.jp

「学習・教育目標」

(A)　国際人としての教養を身に付け、人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を持つ技術者を養成する。

(A)-１　世界的視野から日本の文化、社会並びに他国の文化、社会を複眼的にとらえて、両者のあるべき関係について説明することができる。

(A)-２　人間社会に対する技術者としての責任を自覚し、自己の倫理観を説明することができる。

(A)-３　自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明することができる。

(B)　社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者を養成する。

(B)-１　企業実習、工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出すことができる。

(B)-２　線形代数、微分積分、微分方程式に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)-３　力学、電磁気学、熱力学などの物理や化学に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(B)-４　情報技術に関する知識を用いて問題解決を遂行できる。

(C)　日本語で論理的に記述・討論ができ、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、表現力豊かに口頭発表ができる技術者を養成する。

(C)-１　日本語で科学技術論文を作成することができる。

(C)-２　自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき、論理的な討論をすることができる。

(C)-３　英語による基本的なコミュニケーションができ、専門分野において英語による口頭発表ができる。

(D)　継続して専門技術や知識を学習する習慣[01]を身に付け、複合的な技術開発を進められる能力[02]を持った技術者を養成する。

(D)-１　設計・システム系、情報論理系、材料バイオ系、力学系を含む工学の基礎となる学問分野について、自主的かつ継続的に学習することができる。

(D)-２　専門分野における工学的問題の解決を通じて、その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げることができる。

(D)-３　複数の専門分野における工学的問題について説明することができる。

(E) 「ものづくり」を重視[E1]し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力[E2]を有する技術者を養成する。

(E)-1　与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現することができる。

(E)-2　与えられた製作課題を計画的に製作できる。

(E)-3　多様な条件の下で、技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめることができる。

「ＪＡＢＥＥ認定基準」

(a)　地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養

(b)　技術が社会および自然に及ぼす影響、効果に関する理解力や責任など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）

(c)　数学、自然科学、情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

(d)　該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる能力

(d)-(1)　基礎工学の知識・能力

(d)-(2a)　専門工学の知識・能力

(d)-(2b)　いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力

(d)-(2c)　工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力

(d)-(2d)　(工学) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力

(e)　種々の科学、技術、情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f)　日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(g)　自主的、継続的に学習できる能力

(h)　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

「ＪＡＢＥＥ基準と学習・教育目標の対応表」

学習・教育目標	(a)	(b)	(c)	(d)					(e)	(f)	(g)	(h)
				(1)	(2a)	(2b)	(2c)	(2d)				
(A)	◎	◎		○				○				
(B)			◎	○			○	◎	◎			
(C)							◎			◎		○
(D)		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
(E)			○	○	○	◎	◎		◎		○	◎

（出典　同窓生アンケート）

資料９－１－②―４

授業参観アンケート

＜別紙１-２＞

平成２２年度授業参観および担任・高専アンケート

このアンケートは，【授業参観について】と【担任・高専について】の２部で構成しています。
授業を参観していない方も，【担任・高専について】には，ぜひご回答ください。
※アンケートは保護者懇談会受付で回収します。

◎授業参観について　※授業を参観していない方は，ご記入の必要はありません。

本日は，本校の授業を参観してくださり，ありがとうございました。
このアンケートは，授業参観をより有意義なものにするための資料とします。

（１）参観した授業についてお聞かせください。※学科はＭ　Ｅ　Ｓ　Ｃで構いません。

ア）参観した学年・学科（組）を記入してください。　［　学年　　学科　・　組　］

イ）参観した校時を○で囲んでください。　［　１・２校時　３・４校時　５・６校時　７・８校時　］

（２）授業参観について，ご意見ご感想を，記入してください。

（３）授業参観の【実施時期・時間・実施方法（土日開催も含む）等】について，ご意見を記入してください。

・そのままでよい
・以下のようにしてほしい

◎担任・高専について　※全員（授業を参観していない方も），ご記入ください。

本日は，保護者懇談会にお越しくださり，ありがとうございました。
このアンケートは，担任指導・高専の取り組みをより有意義なものにするための資料とします。

（１）担任教員（現担任だけでなく，担任教員全般に求めることを含む）へのご意見・ご要望を，記入してください。

（２）阿南高専へのご意見・ご要望（担任教員に対するもの以外）を，記入してください。

（３）阿南高専では，裏面のように「めざすエンジニア像」・「学習・教育目標」を設定しています。
これらにつきまして，ご意見がありましたら，記入してください。

●ご協力ありがとうございました。

（出典　授業参観および担任・高専アンケート）

資料９－１－②―５

平成 18 年度　参与会議事録

○希望学科再選択制度実施のための取組み進捗状況について

福井会長　希望学科再選択制度は意欲的な取り組みだと思うが，実施して学生の勉強に対するモチベーションは上がったか。

岩佐教務主事　１年生は良く勉強をしている。希望学科に行くために頑張っている。そういう意識変化の効果があった。

神田参与　希望学科再選択制度は非常に良い制度だと思う。なお，１年頑張っても希望学科に行けなかった学生が落ちこぼれ意識を持たないように，力添えをお願いしておきたい。

岩佐教務主事　学生には，４学科とも魅力のあることを話している。希望学科に配属されなかった学生には，フォローをしていく。各学科主任もそのことを認識している。

岩佐参与中学校でも希望学科再選択制度は，良いものと思っている。まだ，中学生は，将来の仕事のことなどを決めかねている生徒がいるので，いろいろなことを経験すると良いと思う。県の科学技術高校でも生徒の希望が叶えられるようにしてもらいたいと思っている。そういうことで，良い成果が得られることを期待している。

福井会長　徳島大学工学部でも学系で入学させ，学科を割り振ることも考えている。高専のこの制度は意欲的だと思う。ただ，最近の学生はメンタルに弱いので，先程話のあったフォローもよろしくお願いしたい。

（出典　平成 18 年度　参与会議事録）

資料９－１－②―６

阿南高専 Web サイト　ご意見・ご要望窓口



（出典　阿南高専 Web サイト　ご意見・ご要望窓口）

資料９－１－②―７

高専意見箱の周知文

平成２２年７月２２日

保護者および関係者のみなさまへ

阿南工業高等専門学校長
小松満男

「阿南高専意見箱」の開設等について(お知らせ)

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご協力いただきありがとうございます。

さて，学校運営上の課題・問題点を早期に把握し，その改善に資することを目的として，この度，下記のとおり「阿南高専意見箱」を開設いたしましたのでお知らせいたします。

皆様からの率直なご意見，ご要望，ご指摘をお待ちしております。

なお，意見箱横に専用の意見書用紙を備えておりますが，様式はご自由ですので申し添えます。また，ホームページに意見書用紙様式を掲載しておりますのでご利用ください。

保護者の皆様におかれましては，郵送等にて下記問い合わせ先までお送りくださる方法も可能としておりますのでよろしくお願いいたします。

まずはご通知かたがたお願い申し上げます。

記

１ 設置場所　○阿南工業高等専門学校学生昇降口エレベータ入口左側
　　○阿南工業高等専門学校図書館棟学生課前
２ 意見書用紙　別紙のとおり
３ 問い合わせ先　〒７７４－００１７ 阿南市見能林町青木２６５
　　阿南工業高等専門学校総務課総務広報係
　　電話０８８４－２３－７１００

（出典　高専意見箱周知文）

資料９－１－②―８

外部有志の広報モニタリング

阿南高専モニターの皆様へ
回答は、阿南高専広報等の改善に活用します。ご協力お願いします。
回答結果については統計処理をした上で、阿南高専広報資料等に掲載することがあります。回答者が特定される形での掲載はしません。
阿南高専広報情報室

性別を教えてください。
男性 ・ 女性

年齢を教えてください。
20～29歳　30～39歳　40～49歳　50歳以上

職業を教えてください。
会社員・公務員　自営業　主婦（主夫）　その他（　　）

住所を教えてください。
（〇〇市や△△町など、支障のない範囲でご記入ください）

本校との関係を教えてください。OBは、本校卒業生ならびに本校教職員（退職）を含
OB　家族・親戚がOB　知人がOB　無関係　その他（　　）

問1	JRの駅を、どの程度、利用されますか。 ★該当するもの、1つに〇
1	週5回以上
2	週1～4回
3	月1～3回
4	あまり利用しない
5	その他（　　）

問2	銀行（銀行併設のATMを含む）を、どの程度、利用されますか。 ★該当するもの、1つに〇
1	週5回以上
2	週1～4回
3	月1～3回
4	あまり利用しない
5	その他（　　）

問3	郵便局を、どの程度、利用されますか。 ★該当するもの、1つに〇
1	週5回以上
2	週1～4回
3	月1～3回
4	あまり利用しない
5	その他（　　）

問4	スーパーマーケットを、どの程度、利用されますか。 ★該当するもの、1つに〇
1	週5回以上
2	週1～4回
3	月1～3回
4	あまり利用しない
5	その他（　　）

問5	JRの駅、銀行、郵便局、スーパーマーケット以外で、よく出かけられる場所があれば、その回数とあわせて教えてください。
	よく出かける場所
	出かける回数（週に〇回、どんなときなど）

問6	情報環境についてお答えください。 ★該当するもの、すべてに〇
	インターネット接続　DVD再生機器（パソコン含む）　新聞購読

問7	阿南高専についてどのような印象がありますか。 ★該当するもの、すべてに〇
1	就職に強い（就職率の高さ）
2	進学に強い（大学3年への編入学）
3	実践的な学習ができる（実験・実習が多い）
4	5年間ゆとりを持って学べる
5	寮がある（寮生活への期待）
6	教育レベルが高い

問8	近隣の進学高校とくらべ、大学進学についての印象はどうですか。 ★該当するもの、1つに〇
1	阿南高専から編入学（大学3年へ）するほうが、よい
2	高等学校から大学に入学するほうが、よい
3	どちらもかわらない
4	その他（　　）

問9	問8の理由をお答えください。
	問8の理由

問10	大学とくらべた場合、就職についての印象はどうですか。 ★該当するもの、1つに〇
1	阿南高専から就職するほうが、よい
2	大学から就職するほうが、よい
3	どちらもかわらない
4	その他（　　）

問11	問10の理由をお答えください。
	問10の理由

問12	中学卒業後の進路（高校、高専）を考える時に、大切なものは何ですか。 保護者の視点に立ってお答えください。 ★該当するもの、すべてに○
1	就職に強い（就職率の高さ）
2	進学に強い（大学合格率高さ）
3	実践的な学習ができる（実験・実習が多い）
4	5年間ゆとりを持って学べる
5	寮がある（寮生活への期待）
6	教育レベルが高い
7	教員が熱心、親身である
8	施設が充実している
9	専攻科がある
10	資格が取れる
11	学校生活が楽しそう
12	その他（　　）

問13	問12の理由をお答えください。
	問12の理由

問14	阿南高専への評価（中学生の進路として）について答えてください。 あなたの個人の評価を答えてください。 ★該当するもの、1つに○
1	よい学校であり、進学校（高校）よりよい
2	よい学校であるが、進学校（高校）と同じくらいである
3	進学校（高校）のほうがよい
4	その他（　　）

問15	問14の理由をお答えください。
	問14の理由

問16	阿南高専への評価（中学生の進路として）について答えてください。 あなたの個人の評価を答えてください。 ★該当するもの、1つに○
1	よい学校であり、進学校（高校）よりよい
2	よい学校であるが、進学校（高校）と同じくらいである
3	進学校（高校）のほうがよい
4	その他（　　）

問17	問16の理由をお答えください。
	問16の理由

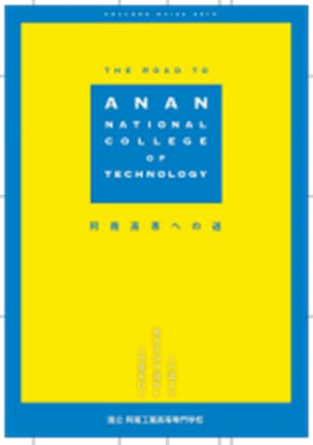
問13	阿南高専についての、うわさ・口コミについて教えてください。
	よいうわさ・口コミ
	よくないうわさ・口コミ

問14	本校の学校紹介パンフレット(本アンケートに同封しています)について答えてください。 Aは、平成20年度まで使用していた阿南高専パンフレットです。Bは、平成21年度の阿南高専パンフレットです。Cは、平成22年度の阿南高専パンフレットです。 Dは、高校のものです。 Cは、「まず目立ち、印象に残ること」を目指し、そのよで「高校とは違う印象を持ってもらうこと」「ダイナミックな構図」を目的としています。 このため、あえてフルカラーにせずよく目立つ白抜いて青と青1とし、表紙でも多く使われる学生写真・校舎写真を採用していません。 以上配慮等をふまえて、ご回答ください。

パンフB



パンフC



パンフA,Dは、郵便がありません。
Aから5について、すべて同封しています。

14-①	① A～Dのパンフレットを、「目立ち、印象に残る」順に並べてください。	14-②	①の理由をお答えください。
	「目立ち、印象に残る」順 →　→　→		①の理由
14-③	③「高校とは違う印象を持ってもらうこと（アカデミックな感じ）」について、Cのパンフレットはどの程度成功していますか。	14-④	③の理由をお答えください。
	1 成功している 2 ある、程度成功している 3 どちらとも言えない 4 あまり、成功していない 5 成功していない 6 その他（　　）		③の理由
問15	中学生ならびに地域の方による「阿南高専への理解（知名度・評価などを含む）」を高めるためには、どのような方法をとればよいですか。 ★できるだけ、具体的にお答えください。		
	○ ○ ○		

ご協力ありがとうございました。同送の「振込依頼書（学外者）」とともに、ご返送ください。
あなたの貴重なご意見は、阿南高専広報活動の改善のために活用します。
今後ともご協力お願いします。
なお、ご返送の目処は、7月10日とさせていただきます。同期限を過ぎた場合、お問い合わせの連絡をさせていただくことがあります。

阿南高専広報情報室

（出典　学外有志の広報モニタリング）

資料９－１－②―９

自己点検・評価報告書の周知メール

副校長，各主事，専攻科長，各科主任
地域連携・ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ長，図書館長，
各室長，各委員会委員長，技術部長，　各位
事務部長
（CC:総務課長，学生課長）

点検・評価委員会委員長

「自己点検・評価報告書」の刊行について

このたび，本校の第１期中期計画の達成状況を検証した「自己点検・評価報告書」を刊行しましたので，配付いたします。

なお，本校の持続的発展に資するため将来的な課題についても提言しています。第２期中期計画にかかる年度計画策定にも対応・改善くださるようお願いします。

（担当：総務課課長補佐吉本）

（出典　自己点検・評価報告書の周知メール）

資料９－１－②―10

各管轄による改善の進捗状況・報告書

平成22年度　自己点検･評価

（平成22年3月発刊の自己点検･評価報告書に則る改善状況）

年度計画の取りまとめ部署名　：　広報情報室
記入者名　：　坪井泰士

	H22年度における主要改善点(*1)	改善の成果(*2)	自己評価(*3)
1	教室のマルチメディア化，マルチメディア教材開発。	第2期中期計画における本校の施設整備が進む中で，実施可能となる。	C
2	HPや各種冊子による情報の発信，情報発信を組織的にできる体制の構築。	学外専門家･保護者･学生，中学生（中学校教員）意見の聴取，HP･冊子内容の改善を行い，HP管理部門、入試広報部門、メディア情報管理部門および総務広報係による広報情報室を機能させた。	A
3	広報プロジェクトの遂行による入試広報の強化。	中学生視点を活かした機動的かつ効率的な広報体制を確立し，志願者増に接続する。	A
4	将来にわたる本校広報指針の確立。	統合的な広報体制の確立に向け，入試広報を基盤とするメディア情報管理･HP管理を含む広報ドクトリンを策定する。	A
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

【記載要領】

＊1には，各管轄の年度計画（主要部分のみ）に加え，「自己点検･評価書　H22年3月」の記載うち，各管轄に該当するものをすべて含めてください。
「自己点検･評価書　H22年3月」に関わる内容は青字，それ以外は黒字で記述してください。

＊2には，同評価書の記載について各管轄で対応しなかったことがある場合，その理由を必ず記述してください。
「自己点検･評価書　H22年3月」に関わる内容は赤字，それ以外は黒字で記述してください。

＊1･2とも簡潔に記述してください。
＊3には，改善成果の自己評価を記述してください。
[A:改善できた（ほぼ改善できた)]，[B:改善は半ばである（ある程度，改善できた)]，[C:改善できなかった]
[C]の場合，必ず，その理由を＊2欄に記述してください。
■必要に応じて欄の拡大･縮小をしてください。A4横サイズに収まるようにしてください。提出期限は，平成23年3月31日とします（総務課長補佐；吉本まで）

（出典　各管轄による改善の進捗状況・報告書）

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生，就職先等の関係者，保護者等の学外関係者の意見を，複数のチャンネルで聴取し，それを集約して対応する体制を整え，機能させている。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育の計画，実践，評価，改善（Plan/Do/Check/Action，以下ＰＤＣＡと略す。）を組織的に支援する教育点検システム（**資料９－１－③－１**）を整備し，各種委員会が連携して実行に移している。

学習・教育目標，教育手段，教育内容についての改善方法を各科の教室会議，教員会議，ＪＡＢＥＥ委員会，教務委員会及び専攻科運営委員会において検討している。教育の評価は，進級判定会議，点検・評価委員会，参与会及びＪＡＢＥＥ委員会によって行っている。

運営委員会は，教育の方針，学生指導の方針，学科の運営に関する事項を審議･決定して

いる。

全教員に，年度当初に教育･研究計画書を提出し，年度末に達成度自己評価し，次年度計画に活用することを求めている（**資料９－１－③－２**）。校長は，これら計画書等を踏まえた上で全教員と個別に懇談し，指導及び意見交換を行っている（**前述資料３－２－①－10**）。

広くFDに関わる活動を評価し，評価ポイントを次年度の教員研究費に反映する教育業績ポイントシステムを構築し，運用している（**前述資料３－２－①－６**）。

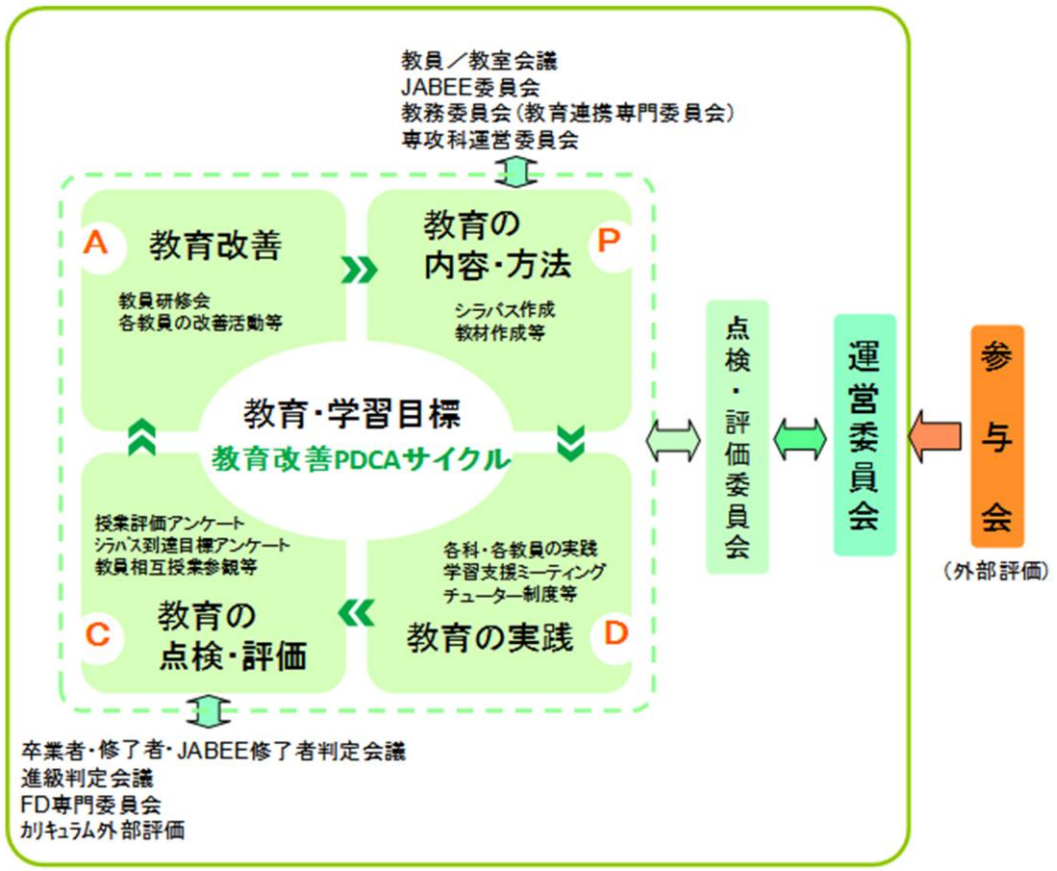
点検・評価委員会は，学生による授業アンケート（マークカード方式・記述式；平成11年度から）（**前述資料３－２－①－２**），シラバス記載の到達目標修得点検アンケート（平成15年度から）（**前述資料５－２－②－５**），授業におけるシラバス実施確認表（平成16年度から）（**前述資料５－２－②－４**），教員による相互授業参観アンケート（平成15年度から）（**前述資料３－２－①－３**），の結果をもとに，点検及び評価を行っている（**前述資料９－１－①－４**）。評価に基づき，授業改善を要する授業科目を確認し，教育改善PDCAシステムとして当該授業科目教員及び学科主任に改善を求めている。点検･評価委員会は当該授業科目教員及び学科主任と懇談し，現状の把握を支援し，改善方法及び改善の検証方法，改善支援方法について助言している。また，教育の質向上を支援する年２回の教員研修会（**資料９－１－③－３**），カリキュラム外部評価（**前述資料９－１－②－１**）を企画･運用し，点検･評価を行っている。

教育課程の見直しは，これら各種評価をふまえて各科から提議され，教務委員会，教育連携専門委員会での検討・審議を経て実施している。見直し例として，学科再選択制度等がある（**資料９－１－③－４**）。

平成22年３月，点検･評価委員会により自己点検・評価報告書を刊行し，各管轄に改善を要請した（**前述資料９－１－②－９**）。平成23年３月には，各管轄による改善の進捗状況の報告を受けた。この点検･評価と改善のスパイラルは，中期計画期間に準拠して継続する。

資料９－１－③―１

教育改善 PDCA システム図



（出典　教育改善 PDCA システム図）

資料９－１－③―２

教育・研究計画書および達成度評価書提出依頼文



「平成22度教育研究活動に関する目標・計画」の達成度評価書（未確認）

トップに出す　<< 前へ | 次へ >>

差出人：総務課長補佐（総務）（総務課）2011/3/8(火) 8:55
宛先　：宮本 陽生, 林田 宗治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, 川崎 敏和, 一森 勇人, 樋田 雅弘, 勝藤 和子, 今田 浩之, …(→宛先をすべて表示する)
(63人)

教 員 各 位

校　長

「平成２２度教育研究活動に関する目標・計画」の達成度評価書
の提出について（依頼）

標記について，下記により達成度評価書を作成の上，期限までに提出願います。

記

1　提出書類：別添「平成２２年度教育研究活動に関する目標・計画の達成度評価書」（教員用）
2　作成方法：
(1) 年度当初に自身が立てた目標・計画について，達成度を１～５段階の評価をしてください。「５」は達成度１００%の場合です。
(2) 達成度について自己評価を下した理由を分かりやすく説明してください。
(3) ３月末迄を見込んだうえで，記載してください。
3　提出期限：平成２３年　４月　８日（金）
4　提 出 先：総務課課長補佐（総務担当）

【添付ファイル】
・H22目標・計画の達成度評価要領(教員用).rtf

担当：総務課課長補佐（総務担当）
吉 本 敏 弘（内線211）

（出典　教育・研究計画書および達成度評価書提出依頼文）

資料３－２－①―10　（再掲）

校長との面談

校長との個人面談について(通知)

差出人：校長(管理部門) 2009/10/20(火) 16:38
宛先　：宮本 陽生, 林田 栄治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, (尾崎 眞
(72人)

平成２１年１０月２０日

教員各位

校長

校長との個人懇談について

今年度の個人面談を以下のような要領で始めますので、本務ご多忙のところ恐縮ですが、宜しくお願いします。いろいろな事情があって大変遅くなりましたことをお詫びいたします。
日程調整には，昨年度と同様にサイボウズのスケジュール機能を活用していただきます。
下記のとおり，各科別に一定の期間（１週間程度）を設けて，各先生方が授業等のない時間帯を校長のスケジュールに直接予約（例：懇談予約（小松）と入力）していただき，日時を決定する方法で行います。前（あるいは後ろ）の方と１０分の間隔をとってください。予約を行った後は，必ず私からの回答（了解と入力）を確認してください。
なお，私の校務等の都合で，急にキャンセルとなる場合があることを予めご了解ください。また、出張、休暇等で指定の期間が不都合な場合 には前後の週でも結構です。

記

１．懇談時間　　１人２０分間
（３日前までに予約をお願いします。なお、１１月３０日～１２月２日希望の方は１１月２０日までに入力してもらった方が確実です。）

２．懇談場所　　校長室

３．各科別懇談予約期間
一般教科
Ｈ２１．１０．２６（月）～１１．６（金）
機械工学科
Ｈ２１．１１．９（月）～１１．１７（火）
電気電子工学科
Ｈ２１．１１．１８（水）～１１．２０（金）、
１１．３０（月）～１２．４（金）
制御情報工学科
Ｈ２１．１２．７（月）～１２．１５（火）
建設ｼｽﾃﾑ工学科
Ｈ２１．１２．１６（月）～２４（木）

追記：補佐会議のメンバーの方は特に希望でなければ結構です。

（写し：総務課長、総務広報係長）

（出典　校長との個人懇談周知メール）

資料３－２－①―６　（再掲）

阿南高専教育業績ポイントシステム

H22.11.10

分類	項目	ポイント	備考
役職	副校長	40	
	教務主事	40	・主事が副校長を兼任する場合は，各主事のポイントに10ポイントを加算する
	学生主事，寮務主事	35	
	1・2・3年担任	24	
	4，5年，専攻科1年担任，専攻科2年担任	15	
	企業実習担当	5	
	進路指導担当	5	
	副担任	5	
	学年主任	5	1～3年のみ
	専攻科長・センター長・各科主任	35	
	副主事・副センター長	25	主事管轄委員会におけるポイント（委員）は除く
	主事補	15	主事管轄委員会におけるポイント（委員）は除く
	図書館長	30	
	専攻補佐	10	
	室長	25	
	副室長	15	
	委員長	20	主事管轄委員会におけるポイント（委員長）は除く
	専門委員会委員長	15	
	委員	5	
	ロボコン・プロコン・デザコン主担当	20	
	ロボコン・プロコン・デザコン副担当	10	
	部活動の地方，全国大会の実行委員 主担当	4	
	部活動の地方，全国大会の実行委員 副担当	2	
	外部資金による事業担当 主担当	20	対象事業:ものづくりエリート技術者養成，LED技術者養成
	外部資金による事業担当 副担当	10	対象事業:ものづくりエリート技術者養成，LED技術者養成
	上限１００ポイント		
部活動	主顧問（指導・対外連絡等の中心）	2	
	副顧問	1	主顧問の指示により，実際に応分の業務をしている場合のみ
	土・日・祝日の指導等	1	各種競技団体役員等の活動を含む
	引率　日数	1	土・日・祝日の指導と重複しない
	引率　宿泊数	1	宿泊を伴う引率の場合は，その日数を上覧に，宿泊数を本欄に記入
	上限５０ポイント		
授業	授業1単位	2	LHRも含む（特別研究・卒研除く），開講している授業に限る．授業を複数で担当している場合は担当時間数に応じて按分する
	補習10時間毎	1	上限1ポイント/任意書式により実施時間と内容・対象を明示
	卒研担当	1	学生1人あたり　学生数による加算有り（H16同様）　コーオプ教育卒研担当加算1.0
	特別研究担当	2	学生1人あたり　学生数による加算有り（1年－1名5万，2年－10万）
入試	入試業務に係る役職：問題作成委員	3	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試業務に係る役職：問題チェック委員	3	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試業務に係る役職：採点委員	1	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試業務に係る役職：面接試験委員	1	編入学入試，専攻科入試，推薦入試それぞれの委員について記入
	入試広報活動（中学校入試説明会）	1	教務主事，広報情報室長の役職者を除く。　1回につき
その他	在外研究員，高専間交流等から帰任した場合	最終年の実績点数	育児休業，長期休職を含む
	大型予算申請（学校代表）に係る書類作成 主担当	4	
	大型予算申請（学校代表）に係る書類作成 副担当	2	
	資格管理者（学校認定書類作成）	3	電気主任技術者免状，電波法に基づく無線従事者免許，測量士補資格
FD	研修会　受講	2	1時間以上で1日間につき／上限は10ポイント（開催日・開催場所・主催者名を明記することとする）
	研修会　学内講師	5	
	研修会　学外講師	10	（注）FDの「研修会学外講師」は他機関の研修会に招待された場合を指す．研究活動ポイントの6（5）は学協会での講師であり区別している。
	授業参観	1	上限3ポイント／特別授業公開週間は除く（報告書添付が必要）

（出典　阿南高専教育業績ポイントシステム）

資料３－２－①―２　（再掲）

阿南高専　授業評価アンケート

阿南高専　授業評価アンケート

Ｈ１９・６改訂版

＊このアンケートは，授業の改善を目的としています。

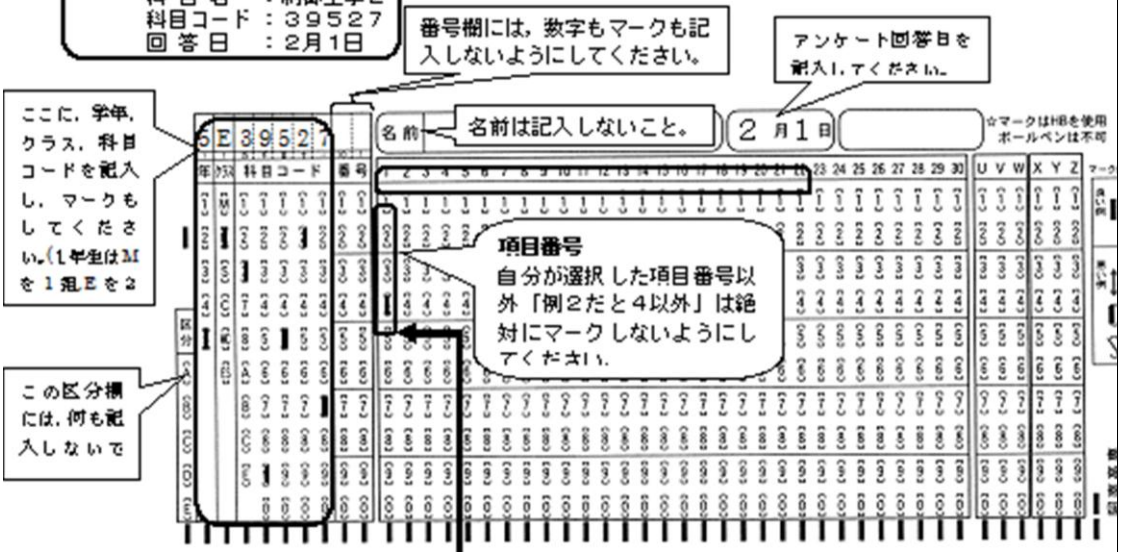
名前は記入しないでください。

マークカードの記入方法

（注意）記入に際して，**ＨＢ**以上の濃さの鉛筆を使用してください（**ボールペン**での記入は**不可**です）。

（１）「学年」，「クラス」，「科目コード」，「アンケート回答日」を下の例１に従って記述し，該当個所をマークしてください。

（例１）学　年　　：５
クラス　：Ｅ
科目名　：制御工学２
科目コード：３９５２７
回答日　：２月１日



（２）以下の各設問において，自分の考えにもっとも近いものを１つ選び，その番号をマークしてください。

（例２）問１の設問で「４」を選択した場合

設問番号　問１　授業の目的が明確である

項目番号
1．そうである
2．やや，そうである
3．やや，そうでない
④　そうでない

<授業について>

問1 授業の目的が明確である
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問2 授業に対する熱意や意欲が感じられる
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問3 言葉ははっきりしていて聞き取りやすい
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問4 授業内容は分かりやすく整理されており理解しやすい
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

5 板書は分かりやすく整理されている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問6 教科書やプリント資料、器具・機材などの教材は効果的に活用されている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問7 質問や発言への対応が適切で、きちんと配慮されている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問8 一回の授業の内容量は進度や理解度から適切である
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問9 授業の目的は最初に明確に説明されている
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

<受講態度について>

問10 授業に対する自分自身の姿勢は
1 真剣に授業を受けている
2 だいたい真剣に授業を受けている
3 あまり真剣に授業を受けていない
4 まったく真剣に授業を受けていない

問11 授業理解のための予習・復習などに対する自分自身の姿勢は
1 真剣に取り組んでいる
2 だいたい真剣に取り組んでいる
3 あまり真剣に取り組んでいない
4 まったく真剣に取り組んでいない

問12 授業に対するクラス全体の姿勢は
1 真剣に授業を受けている
2 だいたい真剣に授業を受けている
3 あまり真剣に授業を受けていない
4 まったく真剣に授業を受けていない

問13 授業に集中していない学生（私語・マンガ・携帯電話・居眠り等）について適切な指導がなされ、授業が成立している（順調に展開している）
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

<試験・シラバスについて>

問14 試験問題などは、相当するレポート等は、授業内容から見て適切であった
（授業の難易度と、授業内容と問のバランス、わかりやすさ、今までの試験・レポート等を判断してください）
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問15 試験・課題の返却と解答・解説、採点基準の明示は適切であった
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

問16 授業内容はシラバスの授業計画に沿った展開であった
1 そうである
2 やや そうである
3 やや そうでない
4 そうでない

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。
みなさんの回答は、授業の改善に生かしていきます。
これからも、学生と教員、双方の努力によって
いっそう良い授業をつくっていきましょう。

阿南高専　授業評価アンケート（記述式）

このアンケートは、授業の改善を目的としています。授業についての意見を次の要領で記してください。

□ **[とくに良かったところ] [とくに改善してほしいところ] について、それぞれ２点以内を具体的に記入**

×（不適当な記入例）「授業を自分だけでやっている。」
○（適当な記入例）　「私語・マンガなどへの注意がなく、学生への質問もあまりない。」
×（不適当な記入例）「自習課題（宿題・レポート等）がよくわからない。」
○（適当な記入例）　「自習課題（宿題・レポート等）への指導や評価がなく、出すだけになっている。」

コード	授業名	教員名	クラス	記入日
		教員		月　　日

[あなたの授業への取り組み]＊それぞれもっともあてはまるものを○で囲んでください。

受講の態度は	真剣に取り組んでいる	だいたい真剣に取り組んでいる	あまり真剣に取り組んでいない	まったく真剣に取り組んでいない
予習･復習などの理解の努力は	真剣に取り組んでいる	だいたい真剣に取り組んでいる	あまり真剣に取り組んでいない	まったく真剣に取り組んでいない

[とくに良かったところ]

○

○

[とくに改善してほしいところ]

○

○

（出典　授業評価アンケート）

資料５－２－②－５　（再掲）

シラバス達成目標修得点検アンケート

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
3年	材料学 Engineering Materials	29320	奥本　良博	後期	1	選択	

【授業目的】
前半は機械の材料として代表的である金属（特に鋼）の生産について，後半は金属の強度についての基本的な知識を整理する．材料学の工学技術および知識を継続して学習する習慣を育成する．

【到達目標】
1．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し、説明することができる．
2．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．

【授業計画】授業時間32時間

授業項目	授業時間	内　容
1．金属の生産	2	①金属と私達の生活
	2	②鉄の生産設備
	2	③銑鉄を生み出す(高炉)1
	2	④銑鉄を生み出す(高炉)2
	2	⑤鋼を生み出す(転炉)1
	2	⑥鋼を生み出す(転炉)2
	2	⑦他の金属の生産
	2	⑧【金属の生産】のまとめ

シラバス記載の到達目標修得点検アンケート

科目名：材料学１　　クラス：３Ｍ　　担当教員：奥本　良博

本科目受講を終わるにあたり，シラバスに記載してある［到達目標］について，あなたはどの程度理解および修得できたと思いますか．各項目について以下の自己評価をして，A,B,C,Dで記入してください．

Ａ：よく理解できた
Ｂ：やや理解できた
Ｃ：あまり理解できなかった
Ｄ：全く理解できなかった

［到達目標］

１．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し、説明することができる．　（　）

２．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．　（　）

（出典　シラバス達成目標修得点検アンケートの例）

資料５－２－②－４　（再掲）

シラバス実施の確認

制御情報工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	回路設計 Circuit Design	79406	岩佐 健司	前期	2	選択	JABEE 学修単位

【授業目的】
本講義では，電子回路設計に必要となるデジタル回路およびアナログ回路の電気電子部品素子についての動作原理を学び，回路設計の基礎となる技術の習得することを目標とする．

【到達目標】
1. カウンタ，シフト回路などの基本的なデジタル回路が設計できる．
2. トランジスタによる電圧制御，電力制御などの基本回路が説明できる．
3. 位相制御の考え方が説明できる．
4. オペアンプの動作原理とその特徴が説明できる

【授業計画】授業時間32時間＋自学自習時間60時間（補講時間を含む）

授業項目	授業時間	内　容
1. デジタル回路 5/13（石原）	10	(1)カウンタ回路（同期式） (2)シフト回路 (3)比較演算回路
2. トランジスタの動作原理と基本回路 6/10（石原）	8	(1)トランジスタの動作，コレクタ損失 (2)電圧制御回路 (3)電力制御回路 (4)シュミットトリガ回路
【中間試験】	1	
3. 位相制御 7/16（石原）	6	(1)SCR，トライアック，UJT
4. オペアンプの動作原理と基本回路 9/16（石原）	6	(1)オペアンプの動作，正帰還，負帰還 (2)比較回路，シュミットトリガ回路 (3)増幅回路，演算回路
【後期末試験】 【答案返却】	1	

【履修上の注意】
本講義で重要なキーワードはフリップフロップ、カウンタ、演算回路、トランジスタ、位相制御、オペアンプ、増幅回路、ONOFF制御が挙げられる。補講時間が設定されているので必ず出席してください。課題レポートの指導をします。

【教科書】
デジタル制御　松下電器製造技術研修所　及び　電子制御　松下電器製造技術研修所

【参考書】

【成績評価の方法】
総合成績は，中間試験および期末成績試験を合わせて70%，レポート等提出物を30%で評価する

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

（出典　平成２２年５月２４日　教員会議資料）

資料３－２－①―３　（再掲）

特別公開授業参観の通知

特別公開授業週間について(通知)

差出人：**教務係長**(学生課) 2010/6/21(月) 12:10
宛先　：宮本 陽生, 林田 栄治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, (尾崎 眞行), 川崎 敏和
(71人)

平成２２年６月２１日

教　員　各　位

点検・評価委員会

特別公開授業週間について（通知）

今年度１回目の特別公開授業週間を次のとおり設けましたので、趣旨に則り、参観記録について作成いただきますよう、お知らせします。

目的　　：教員相互の授業参観・意見交換により、授業改善に資する。
期日　　：６月２８日（月）～７月９日(金)　　(参観記録〆切　参観後１週間以内)
対象　　：全授業（授業教員への事前連絡は必要ありません）
実施方法：一つの授業参観当り、50分以上の参観を推奨いたします。
参観記録：サイボウズのトップページ（左側リンク集中段）「授業改善システム」
(http://kyomu01.anan-nct.ac.jp/kyomu/) から，教務出席管理システムと同じアカウント・パスワードにてアクセスし、参観記録を入力してください。

授業参観（記録）について
①優れた点を、自分の授業にどのように反映させるかという点から参観してください。
②自身の授業成果などをもとに、授業改善にむけて具体的な助言をしてください。
③特別公開授業週間を含む、本校の授業改善活動についてのアンケートについてもご協力願います。

その他
①この特別公開授業週間以外においても、すべての授業は公開を原則としており、授業教員への事前連絡は必要ありません。

（出典　特別公開授業週間周知メール）

資料９－１－③―３

教員研修会実施一覧表

阿南工業高等専門学校

開催時期	研修テーマ	参加者数	講　師
平成１８年度夏季	一歩ふみだす学生指導	５５人	徳島県総合教育センター　阿部俊和 氏
平成１９年度夏季	低学年からの職業指導を考える	５４人	田中徳一特命教授，國分信彦特命教授 奥本良博准教授
平成２０年度夏季	阿南高専のキャリア教育	５４人	杉野隆三郎准教授，松本高志准教授 奥本良博准教授
平成２０年度冬季	組織としてのＦＤから個人としてのＦＤ	５４人	徳島大学開放実践センター教授　川野卓二
平成２１年度夏季	教育改善　－ティーチング・ポートフォリオ－	５７人	大学評価・学位授与機構准教授　栗田佳代子 氏 大阪府立高専准教授　北野健一　氏
平成２１年度冬季	授業改善へ具体的なアプローチ	５５人	松本高志准教授，坪井泰士教授
平成２２年度夏季	教え方の極意　～学生の目が輝く「授業構成法＆話し方」とは？～	５０人	プレゼンテーション専門コンサルタント 田中省三 氏
平成２２年度冬季	学生生活指導について	５５人	徳島県総合教育センター　井上裕明 氏

（出典　教員研修会実施一覧表）

資料９－１－③―４

学科再選択制度の教務委員会資料

第１１回教務委員会議事概要

１．日　時　　平成１９年１月２５日（木）１６時１０分～１８時２０分

２．場　所　　管理棟３階会議室

３．出席者　　教務主事，副教務主事，教務主事補，各科主任，学生課長，技術室長

４．議事概要

(1) 平成１９年度入学者選抜学力検査実施要項（案）について

昨年度との相違点は国立高専入学者選抜実施に係る細則が改正されたため、

○学力検査時間中の退室の取扱いが変わり、途中退室できなくなったこと。

○不測の事態への対応として、繰り下げ措置の開始時刻が５０分を超えない範囲は、統一検査問題により学力検査を行い、超える場合は予備問題により行うこと。

また、入試ミス防止を図り、池田検査場を設けたことにより、

○監督要領に問題用紙・解答用紙の配付の仕方まで細かく明示したこと。

○検査と検査の間の時間に監督者を１名検査室に残し、不正行為を防止する。

○池田検査場は新居浜高専の実施要領に則り実施すること。

以上のことについて、審議の結果、原案どおり了承された。

(2) 平成１９年度非常勤講師の任用について

新規任用者の資格審査について、審議の結果、了承された。なお、現在のところ、「哲学」担当通年週４時間と四国電力に依頼している「発変電工学」担当前期２時間、後期２時間と「電気法規」前期隔週４時間の担当者が未定であると報告があった。

(3) その他・報告

① 建設システム工学科講義科目の名称変更について

現行「構造工学３」から「構造解析学」と名称変更し、講義名称と講義内容を一致させることについて、審議の結果、了承された。なお、来年度の５年生から適用する。（平成１５年度入学生）

② 平成２０年度からの入試制度について

各科で検討した報告があり、審議の結果、以下のことについては了承された。

○転科可能なコースは設けず、全員が転科可能とする。

○推薦入試の定員は４学科とも５割（２０名×４学科）とする。

○学力入試の場合、第４志望まで記入でき、第２志望以降でも不利な取扱いはしない。

○１年のクラスは入試成績、男女比、通学・寮などを考慮してバランスを取った混合学級とする。

○推薦入試合格者は入学時の学科に残ることを希望すればその学科が正式配属学科となり、他学科への配属を希望すれば成績等により転科することもできる。

○１年次カリキュラムは全学科で共通で、全授業を混合学級で受講する。

○１年次の共通専門科目には情報リテラシー、工学基礎（講義）、ものづくり工学実習を導入する

なお、詳細なことについて、今後に検討することで了承された。

（出典　平成 18 年度　第 11 回　教務委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

教育の計画，実践，評価，改善のＰＤＣＡを組織的に支援する教育点検システムにより，各種の評価の結果を教育の質の向上・改善，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な改善方策に接続している。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点にかかる状況）

学生による授業アンケート，シラバス記載の到達目標修得点検アンケート，教育･研究計画書及び達成度自己評価，教育業績ポイント自己採点等の評価結果により，教育の質の向上を図り，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている（**前述資料９－１－③－１**）。

学生による授業アンケートをマークカード式・記述式により，点検･評価委員会が実施している（**前述資料３－２－①－２**）。記述式回答時には教員は退席し，回答の正確性を担保するようにしている（**資料９－１－④－１**）。本科授業は各教員１つの授業，専攻科授業は全授業を対象としている。本科授業科目の評価対象選定は，授業教員が所属科主任と協議して定めることとし，授業改善に資する評価対象選定となるようにしている（**資料９－１－④－２**）。

評価結果は，各教員にフィードバックしている。平成12年度以降，教員は評価結果を自己分析し，今後の対応や改善内容を記入した文書を教員コメント（**資料９－１－④－３**）として点検･評価委員会に提出する。

また，教員コメントを学生に公開するとともに，平成16年度以降，授業評価結果とともに校内LANにより教員間で共有している（**資料９－１－④－４**）。

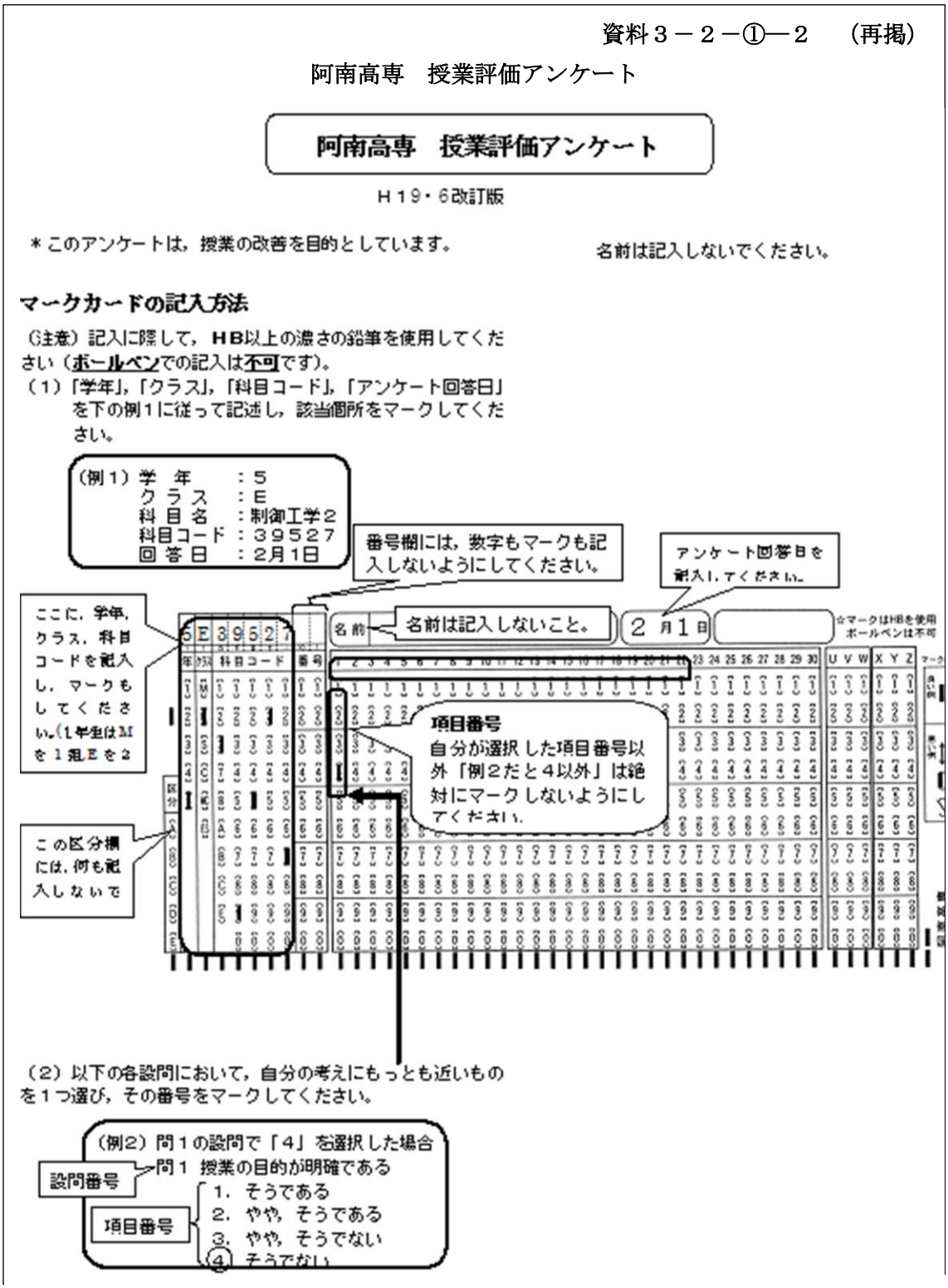
平成15年度以降，全授業を対象にシラバス記載の到達目標修得点検アンケート（**前述資料５－２－②－５**）を行っている。平成15年度以降，シラバス記載の授業計画の実施を担保するため，全授業においてクラス委員長等がチェック表にサインすることにより，確認している（**前述資料５－２－②－４**）。

これらの結果に基づく自己点検･評価は，全教員が校長宛提出する教育･研究計画書，達成度自己評価に反映している（**前述資料９－１－③－２**）。校長は，これら計画書等を踏まえた上で全教員と個別に懇談し，指導及び意見交換を行っている（**前述資料３－２－①－10**）。また，運営委員会では各科主任から提示された意見を審議し，教育の状況を自己点検･評価し，改善に接続している（**資料９－１－④―５**）

改善の状況は，校長宛，年度当初に提出する教育･研究計画書，年度末の達成度自己評価及び点検評価委員会管轄の授業評価アンケート集計により，把握している。

資料３－２－①―２　（再掲）

阿南高専　授業評価アンケート



<授業について>

問1 授業の目的が明確である
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問2 授業に対する姿勢や熱意が感じられる
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問3 言葉はきりしていて聞き取りやすい
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問4 授業内容は分かりやすく整理されており話し方も聞き取りやすい
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

5 板書は分かりやすく整理されている
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問6 教科書やプリント資料、器具・機材などの教材は効果的に活用されている
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問7 質問や発言への対応が適切で、きちんと回答されている
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問8 一回の授業の内容量は進度や理解度から適切である
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問9 授業の目的は達成されたと感じられていますか
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

<受講態度について>

問10 授業に対する自分自身の姿勢は
1 真剣に授業を受けている
2 だいたい真剣に授業を受けている
3 あまり真剣に授業を受けていない
4 まったく真剣に授業を受けていない

問11 授業理解のための予習・復習などに対する自分自身の姿勢は
1 真剣に取り組んでいる
2 だいたい真剣に取り組んでいる
3 あまり真剣に取り組んでいない
4 まったく真剣に取り組んでいない

問12 授業に対するクラス全体の姿勢は
1 真剣に授業を受けている
2 だいたい真剣に授業を受けている
3 あまり真剣に授業を受けていない
4 まったく真剣に授業を受けていない

問13 授業に集中していない学生（私語・マンガ・携帯電話・居眠り等）について適切な指導がなされ、授業が成立している（順調に進行している）
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

<試験・シラバスについて>

問14 試験問題または相当するレポート等は、授業内容から見て適切であった
（授業の難易度と、授業内容と問のバランス、わかりやすさ、今までの試験・レポート等を判断してください）
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問15 試験・課題の返却と解答・解説、採点基準の明示は適切でありましたか
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

問16 授業内容はシラバスの授業計画に沿って進められましたか
1 そうである
2 ややそうである
3 ややそうでない
4 そうでない

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。
みなさんの回答は、授業の改善に生かしていきます。
これからも、学生と教員、双方の努力によって
いっそう良い授業をつくっていきましょう。

阿南高専　授業評価アンケート（記述式）

このアンケートは、授業の改善を目的としています。授業についての意見を次の要領で記してください。

□ **[とくに良かったところ] [とくに改善してほしいところ] について、それぞれ２点以内を具体的に記入**

×（不適当な記入例）「授業を自分だけでやっている。」
○（適当な記入例）　「私語・マンガなどへの注意がなく、学生への質問もあまりない。」
×（不適当な記入例）「自習課題（宿題・レポート等）がよくわからない。」
○（適当な記入例）　「自習課題（宿題・レポート等）への指導や評価がなく、出すだけになっている。」

コード	授業名	教員名	クラス	記入日
		教員		月　　日

[あなたの授業への取り組み]＊それぞれもっともあてはまるものを○で囲んでください。

受講の態度は	真剣に取り組んでいる	だいたい真剣に取り組んでいる	あまり真剣に取り組んでいない	まったく真剣に取り組んでいない
予習･復習などの理解の努力は	真剣に取り組んでいる	だいたい真剣に取り組んでいる	あまり真剣に取り組んでいない	まったく真剣に取り組んでいない

[とくに良かったところ]

○

○

[とくに改善してほしいところ]

○

○

（出典　授業評価アンケート）

資料９－１－④―１

教員席指示文書

１．実施期間

①　定期試験を実施する科目は、答案返却時に実施してください。

	前期及び通年科目	後期科目
専攻科	８月１０日～　８月１１日	１２月９日～１２月１５日
本　科	９月２９日～１０月１日	１２月９日～１２月１５日

※専攻科１年後期科目は、実施時期について相談願います。

②　前期及び通年科目の内、定期試験を実施しない科目は、最終授業時に実施してください。

２．実施準備

実施時期の前（１週間程度）に，総務課内文書箱に「①マークカード／②アンケート記入要領／③記述式用封筒（記述式用紙等を同封したもの）」を配付します。

３．実施の手順

次のＡからＧの順により，実施してください。

Ａ：マークカードとアンケート記入要領の配布。

Ｂ：「鉛筆・シャープペンでの記入。ボールペンの記入は不可であること」を，説明。

Ｃ：科目コードと授業科目名（いずれもシラバス記載のもの）を，明示。

＊当該授業の科目コードについてシラバス等でご確認ください。

Ｄ：記入指示，記入確認のうえ，マークカードとアンケート記入要領を回収。（教員が直接，教務係へ）。

Ｅ：記述式用紙の配布。

Ｆ：科目コードと授業科目名（いずれもシラバス記載のもの）を，明示。

Ｇ：クラス委員長に回収と提出（記入後すぐに回収し封筒に入れて教務係へ）を指示し，教員は退出。

＊クラス委員長に，記述式回収用封筒の前面の「記述式実施確認」への記入を指示してください。

＊記述式授業評価アンケート記入時には，当該授業教員は在室しないでください。

４．提出期限

＊提出先は，教務係です。アンケートは実施後直ちに提出してください。

＊最終〆切　上記１．の実施期間終了後、３日以内とします。

（出典　授業評価アンケート実施要領）

資料９－１－④―２

本科授業科目の評価対象選定指示文書

平成２２年度学生による授業評価アンケートの実施について

このことについて、下記のとおり計画いたしましたので、アンケートを実施願います。
本年度は、専攻科の授業計画（夏休み期間の変更、クオーター制）に伴い、専攻科の科目について、実施時期を変更していますので、ご注意願います。

記

１．対象とする授業の選定

原則、次の（１）～（４）を選定条件の順序として、対象授業について１科目を選んでください。複数科目を実施する場合は、教務係まで連絡してください。

(1) 前期開講のＪＡＢＥＥ科目

(2) 前期開講のＪＡＢＥＥ科目を担当していない場合は、通年開講のＪＡＢＥＥ科目

(3) 前期開講のＪＡＢＥＥ科目・通年開講のＪＡＢＥＥ科目を担当していない場合は、後期開講のＪＡＢＥＥ科目

(4) ＪＡＢＥＥ科目を担当していない場合

①前期開講科目

②前期開講科目を担当していない場合は、通年開講科目

③前期開講科目・通年開講科目を担当していない場合は、後期開講科目

※　アンケート対象科目としては、アンケート結果の精度を高めるためにも、概ねクラス定員の半数が履修している科目が好ましいと思われます。

２．選定した授業の報告

授業科目の名称、コード、クラス、「前期・後期・通年の別」、学生（履修）数を７月１６日（金）までに教務係まで連絡すること。

３．学生による授業評価の方法・時期など

別紙のとおり

（出典　授業評価アンケート要領）

資料９－１－④―３

教員コメント例

平成１９年度　授業評価アンケート等についてのコメント

授業科目	日本語の表現	（　１９５６２　）		授業教員	坪　井　泰　士
対象クラス	５Ｅ		１１　名	評価実施日	平成１９年　９月２６日

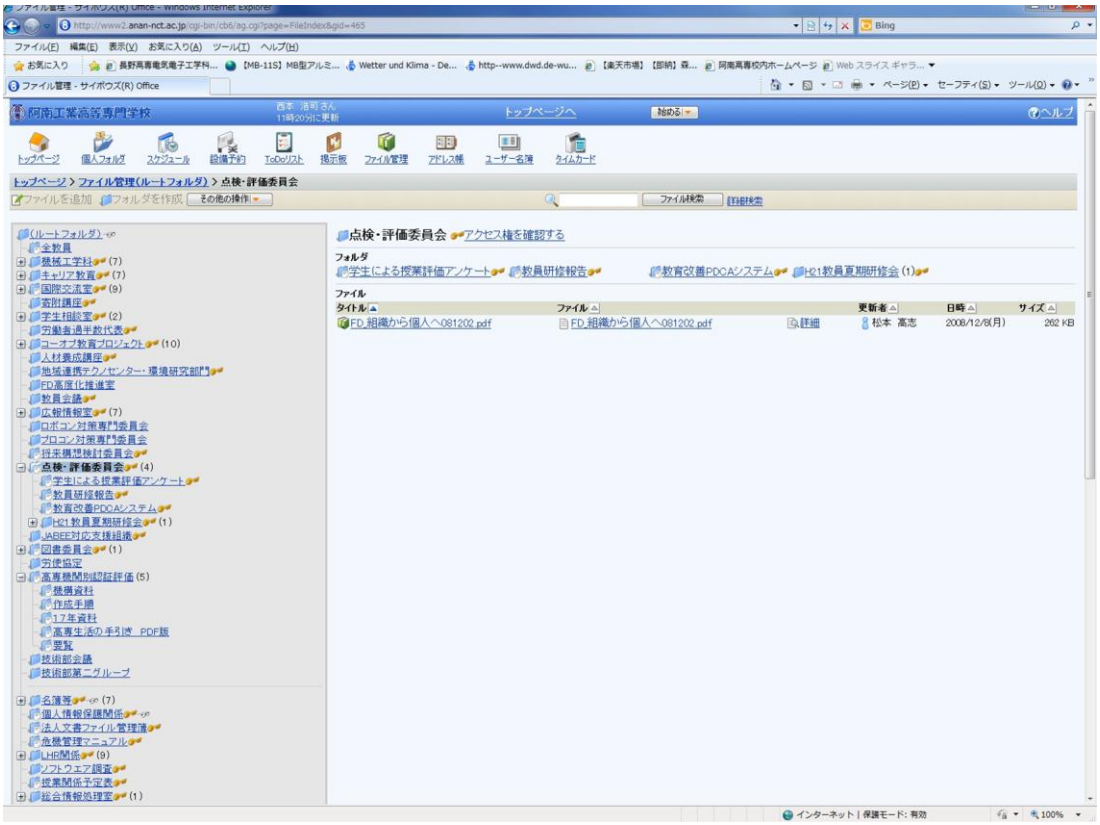
［平成１９年度授業評価アンケート等における課題と、今後の対応］
＊「課題」「対応」ともに、できるかぎり数値等を明示した具体的記述をお願いします。
＊授業改善等において、**最重点課題ならびにその具体的対応を、ゴシック**で記述してください。
（**各記入欄スペース配分の変更は自由**）

課題確認資料	平成19年度アンケート等における課題	平成20年度授業における改善目標と対応
マーク式授業評価A	評価最高値３に比して、本授業の**評価平均値2．35**は高評価と考える。 「教員熱意　２．５５」 「授業目的　２．８２」 「目的達成　２．６４」 「クラスの受講態度　２．５５」 「私語等への注意　２．７３」 の高評価は、本授業の評価として喜ばしい。 **「板書理解　1．64」**は、中間値１．５０以上だが、同評価の中では比較低位である。 同授業の板書はキーワード等のみとし、**口頭解説を重視した聞く力の養成を目指している。同評価は、その理解不足**による。	**評価平均値2．25以上の維持**を、目標とする。 板書をノートに写すだけの授業が無意味であることの説明をいっそう繰り返し、 **「板書理解　1．80」** **「試験返却・解説　2．00」** を目標とする。
記述式授業評価A	受講１１名のうち **「口頭表現力が身についた　4名」** **「熱意がある　3名」** **「クラスが真剣に受講　2名」** は、本授業の評価として喜ばしい。 「テスト範囲の説明不足／板書整理／「低得点の説明不足　各１名」 が残念である。**同学生による授業像の理解不足**が原因と思われる。	**授業の目的・方法の説明をより丁寧に繰り返し**、学習意欲をいっそう喚起したい。
到達目標修得点検A	到達目標３つすべてにおいて、「よく・やや理解できた　１００～９０%」である。	到達目標の達成について、これまでどおり努める。
他教員による 授業参観記録	「授業者（坪井）は学生名をすべて把握しているが、**出席では学生名を呼名しては？**」との意見があった。	本授業者は学生名を把握していることから、**呼名せずにそのまま授業にはいることによる緊張感の喚起**と、それによる**学生の学習意識の確立**をめざして継続したい。
保護者授業参観A	該当しない。	該当しない。

（出典　授業評価アンケート等についてのコメント）

資料９－１－④―４

サイボーズのメニュー



（出典　阿南高専サイボーズ内）

資料５－２－②－５　（再掲）

シラバス達成目標修得点検アンケート

機械工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
3年	材料学 Engineering Materials	29320	奥本　良博	後期	1	選択	

【授業目的】
前半は機械の材料として代表的である金属（特に鋼）の生産について，後半は金属の強度についての基本的な知識を整理する．材料学の工学技術および知識を継続して学習する習慣を育成する．

【到達目標】
1．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し、説明することができる．
2．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．

【授業計画】授業時間32時間

授業項目	授業時間	内　容
1．金属の生産	2	①金属と私達の生活
	2	②鉄の生産設備
	2	③銑鉄を生み出す(高炉)1
	2	④銑鉄を生み出す(高炉)2
	2	⑤鋼を生み出す(転炉)1
	2	⑥鋼を生み出す(転炉)2
	2	⑦他の金属の生産
	2	⑧【金属の生産】のまとめ

シラバス記載の到達目標修得点検アンケート

科目名：材料学１　　クラス：３Ｍ　　担当教員：奥本　良博

本科目受講を終わるにあたり，シラバスに記載してある［到達目標］について，あなたはどの程度理解および修得できたと思いますか．各項目について以下の自己評価をして，A,B,C,Dで記入してください．

Ａ：よく理解できた
Ｂ：やや理解できた
Ｃ：あまり理解できなかった
Ｄ：全く理解できなかった

［到達目標］

１．鋼の生産に関する専門語を正確に理解し、説明することができる．　（　）

２．金属の強度について学んだことを理解し，説明することができる．　（　）

（出典　シラバス達成目標修得点検アンケートの例）

資料５－２－②－４　（再掲）

シラバス実施の確認

制御情報工学科　　平成22年度

学年	授業科目名	科目コード	担当教員名	開講期	単位数	必・選	備考
4年	回路設計 Circuit Design	79406	岩佐 健司	前期	2	選択	JABEE 学修単位

【授業目的】
本講義では，電子回路設計に必要となるデジタル回路およびアナログ回路の電気電子部品素子についての動作原理を学び，回路設計の基礎となる技術の習得することを目標とする．

【到達目標】
1．カウンタ，シフト回路などの基本的なデジタル回路が設計できる．
2．トランジスタによる電圧制御，電力制御などの基本回路が説明できる．
3．位相制御の考え方が説明できる．
4．オペアンプの動作原理とその特徴が説明できる

【授業計画】授業時間32時間＋自学自習時間60時間（補講時間を含む）

授業項目	授業時間	内　容
1．デジタル回路 5/13（石原）	10	(1)カウンタ回路（同期式） (2)シフト回路 (3)比較演算回路
2．トランジスタの動作原理と基本回路 6/10（石原）	8	(1)トランジスタの動作，コレクタ損失 (2)電圧制御回路 (3)電力制御回路 (4)シュミットトリガ回路
【中間試験】	1	
3．位相制御 7/16（石原）	6	(1)SCR，トライアック，UJT
4．オペアンプの動作原理と基本回路 9/16（石原）	6	(1)オペアンプの動作，正帰還，負帰還 (2)比較回路，シュミットトリガ回路 (3)増幅回路，演算回路
【後期末試験】 【答案返却】	1	

【履修上の注意】
本講義で重要なキーワードはフリップフロップ、カウンタ、演算回路、トランジスタ、位相制御、オペアンプ、増幅回路、ONOFF制御が挙げられる。補講時間が設定されているので必ず出席してください。課題レポートの指導をします。

【教科書】
デジタル制御　松下電器製造技術研修所　及び　電子制御　松下電器製造技術研修所

【参考書】

【成績評価の方法】
総合成績は，中間試験および期末成績試験を合わせて70%，レポート等提出物を30%で評価する

【関連する阿南高専の学習・教育目標】(D1)，(D2)，(E1)，(E2)
【関連するJABEE基準】(b)，(c)，(d)，(e)，(g)，(h)

（出典　平成 22 年 5 月 24 日　教員会議資料）

資料３－２－①―10　（再掲）

校長との面談

校長との個人面談について〈通知〉

差出人：校長(管理部門) 2010/6/23(水) 15:55
宛先　：宮本 陽生, 林田 栄治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, 〈尾崎 眞行
(70人)

平成２２年６月２３日

教員各位

校長

校長との個人懇談について

今年度の個人面談を以下のような要領で始めますので、本務ご多忙のところ恐縮ですが、宜しくお願いします。
日程調整には，昨年度と同様にサイボウズのスケジュール機能を活用していただきます。
下記のとおり，各科別に一定の期間〈１０日程度〉を設けて，各先生方が授業等のない時間帯を校長のスケジュールに直接予約〈例：懇談予約〈小松〉と入力〉していただき，日時を決定する方法で行います。前〈あるいは後ろ〉の面談の方〈あるいは私の予定〉と１０分の間隔をとってください。予約を行った後は，必ず私からの回答〈了解と入力〉を確認してください。
なお，私の校務等の都合で，急にキャンセルとなる場合があることを予めご了解ください。また出張、休暇等で指定の期間が不都合な場合には 前後の週でも結構です。

記

１．懇談時間　　１人２０分間
〈3日前までに予約をお願いします。〉

２．懇談場所　　校長室

３．各科別懇談予約期間
一般教科
Ｈ２２．６．２８（月）～７．８（木）
機械工学科
Ｈ２２．７．１４（水）～７．３０（金）
電気電子工学科
Ｈ２２．８．２（月）～８．１７（火）、
制御情報工学科
Ｈ２２．８．２３（月）～９．２（木）
建設汎用工学科
Ｈ２２．９．６（月）～９．１４（火）

追記：補佐会議のメンバーの方は特に希望でなければ結構です。

〈写し：部長、総務課長、総務広報係長〉

（出典　校長との個人懇談周知メール）

資料９－１－④―５

教育改善状況

運営委員会議事概要

１ 日時　平成２２年１１月１７日（水）１３時１０分～ １５時５０分

２ 場所　会議室

３ 出席者　別紙出席者名簿のとおり

４ 議題

議事に先立ち，渡邊事務部長から着任の挨拶があった。

７ 各科主任からの報告等（資料７）

(1) 一般教科主任から資料をもとに次の報告があった。

① 学生指導等について

② 行事予定について

③ その他

また，担当する学生相談室について次の報告があった。

１０月１８日(月)に第３回学生相談室連絡会を実施した旨報告があった。

また，１１月４日に中国・四国のメンタルヘルス研究協議会が高知大学で開催され，学生相談室長が出席した。来年度は徳島大学で開催される旨報告があった。

(2) 機械，電気電子，制御情報及び建設システムの各学科主任から資料をもとに次の報告があった。

① 学生の就学状況，指導状況等について

② 教育改善及び授業等について

③ 就職・進学指導の状況について

④ 学科で予定している行事等について

⑤ 教員公募について

校長から，一般教科を含めて，成績不振者が多数いることに対し，成績指導方よろしくお願いしたいと依頼があった。

（出典　平成 22 年度　運営委員会議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業アンケート，シラバス記載の到達目標修得点検アンケートにより学生の意見を聴取し，教育の状況を確認し，今後の対応や改善内容を記入した文書を教員コメントとして学生に公開するとともに，校内LANにより教員間で共有している。

個々の教員は，各種評価結果に基づいて，教育の質の向上を図り，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている。

その成果としての個々の教員の改善活動状況を，同教員の教育･研究計画書，年度末の達成度自己評価により，学校として把握している。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教育方法等の研究を，教育内容･方法の改善に活かしている（**資料９－１－⑤－１**）。

専門分野の研究は，主として卒業研究，学生実験などのものづくり教育・創造教育の改善に活かされている。専門分野の研究成果が卒業研究・特別研究に活用されていることから確認できる（**資料９－１－⑤－２**）。

卒業研究･特別研究においては，研究の中間発表や年度末の研究発表会により研究成果の達成度を評価している。学会発表を義務づけている専攻科特別研究では，教員の研究成果が学生研究の質向上を支えている（**資料９－１－⑤－３**）。

資料９－１－⑤－１

教育改善に関する研究活動実績の一例

論文集「高専教育」　第31号　2008.3

阿南高専における専門学科と一般教科（国語）の教育連携

坪井泰士*1　錦織浩文*2　當宮辰美*3　釜野　勝*3
（阿南工業高等専門学校）

Cooperation of Education in Special Subjects and General Education on Anan National College of Technology

Taiji TSUBOI, Hirohumi NISHIKOURI, Tatsumi TOUMIYA, Masaru KAMANO
(Anan National College of Technology)

In Anan National College of Technology in the past, each department such as mechanical or electric engineering etc was set an educational contents respectively according to an original educational goals, and was insufficient if it saw from the viewpoint of cooperation of the education with a general education. The cooperation of special subjects and a general education is necessary as one of the methods of raising the education effect. Then, to raise the education effect on the student, specific measures are discussed and executed in our school for the cooperation of the education.

In this paper, we present the example of cooperation of education of special subjects and a Japanese subject as one example of the approach situation of educational cooperation in Anan National College of Technology. And, we want to use this result for an educational improvement in the future.

KEYWORD : educational cooperation

1．　教育連携の意味

１つの学校組織において，専門学科と一般教科が教育連携することにより双方の授業目標は関連性を深め，それはより高い教育効果を学生に及ぼす。学校の重大な責務の１つが学生の学力の保証であるからには，教育連携は不可欠である。

しかるに，本校ではこれまで十分な教育連携がなされてきたとは言いにくい。意思疎通を欠き，要望を伝えるだけで相手からの声には耳を傾けなかったりというケースは決して稀ではない。そのようなケースは，程度の差はあれ，多くの高専においても存在しているようである。

本校では，それらの状況の中，教育連携の必要性に鑑み，具体的行動が始められている。本稿では，その取り組みの中でも先進的なものの１つであると思われる専門学科と一般教科（国語）（以下，国語科）との教育連携の流れを提示し，教育連携の必要性を再度考える契機としたい。

なお，専門学科と国語科それぞれにおける優れた教育実践は多いが，その連携について考察した論考はなされていないようである。

＊１一般教科　tsuboi@anan-nct.ac.jp, ＊２一般教科, ＊３電気電子工学科

（出典　論文集「高専教育」）

資料９－１－⑤－２

ものづくり・創造教育に関する研究活動実績の一例

Project Based Learning(PBL)に基づく機械製作創造実習による学習効果

川畑成之[*1]　原野智哉[*2]　多田博夫[*2]　大北裕司[*2]
畑中伸夫[*2]　柳坂信孝[*3]　高岸時夫[*3]　森時秀司[*3]
木原義文[*3]　西本浩司[*3]　小土手秀一[*3]
（阿南工業高等専門学校）

The Learning Effect of Mechanical Engineering Based on the Project Based Learning (PBL)

Nariyuki KAWABATA　Tomoya HARANO　Hiroo TADA　Yuuji OHKITA
Nobuo HATANAKA　Nobutaka YANASAKA　Tokio TAKAGISHI　Syuuji MORITOKI
Yoshihumi KIHARA　Kouji NISHIMOTO　Hidekazu KODOTE
(ANAN National College of Technology)

Recently, the education to the creativity of students has been becoming more important. Project Based Learning (PBL) draws attention as one of the method of creativeness education. In PBL, it is important for the student to think independently and to lead the answer. The authors have already reported on the education effect of the paper craft PBL that manufacture the taller tower and the paper crane. In this paper, to learn a necessary technology and experience for the machine engineer, “the manufacturing of line trace car that has mechanism to get over the bump” is given as the theme of PBL. This practice program is executed through one year. For one year, students learn the drafting and design that uses CAD, the processing technology, the electric circuit, the programming, and the scheduling management based on their idea. The results of student questionnaire show that this PBL training program is making the student hold high motivation.

KEYOWRDS: PBL, Mechanical Engineering

１．緒言

近年，学生の持つ創造性，自主性の向上を目指した教育が注目されているが，本校でも，Project Based Learning (PBL)に基づき，数年前よりさまざまなアプローチにより創造性教育の効果について検討してきた [1),2)]．これまでは比較的短期間に完了する課題を学生に与える手法により教育効果の検討および，学生のモチベーションに関する調査を行ってきた．本論文ではさらに本格的な PBL 教育導入を実践するため，1 年間にわたって 1 つのテーマについて学生自身が解決法を見出し，これまでに修得した機械工作技術を活用して作品を製作する科目を従来の工作実習に代えて設定した．PBL 教育では学生自身が考え，作業することが教育効果の向上には不可欠であると考えられるが，どのような課題・教育方法が効率の良い手法であるかは依然不明確である．本校ではこれまでに紙製の落下物製作による滞空時間コンテストや，高層構造物(Taller Tower)コンテスト，ペーパークレーンコンテストなどを実施してきた．いずれのコンテストも従来の工作実習を終えた後に，年度末の数週間を利用して実施する短期間型の PBL 実習であった．以上の実習終了後の学生アンケートにより，PBL 教育のモチベーション向上にかかる

＊１　機械工学科　n_kawa@anan-nct.ac.jp　　＊２　機械工学科　　＊３　技術室

（出典　論文集「高専教育」）

資料９－１－⑤－３

平成 22 年度　専攻科生の学外発表一覧

学年	専攻	氏　名	氏 名(かな)	講演会名	講演題目
2	MC	[redacted]		第16回ヤングセラミストミーティングin中四国 平成21(2009)年12月12日(土)	アルミナ鋳込み成形におけるスラリー分散特性の影響
				第15回四国地区材料関係学協会支部・研究会連合講演 H22(2010)年3月12日(金)	アルミナスラリー分散特性への濃度と分散剤添加量の影響
2	MC			第15回四国地区材料関係学協会支部・研究会連合講演 H22(2010)年3月12日(金)	レーザ圧接法による高張力鋼板とアルミニウムとの接合
2	MC			日本機械学会2010年度年次大会 H22(2010)年9月6日(月)	テンセグリティ構造のための自動展開機構に関する実験的検証
2	MC			第15回四国地区材料関係学協会支部・研究会連合講演 H22(2010)年3月12日(金)	アルミナセラミックスと樹脂のレーザ異材接合
2	MC			平成20年度に発表済み	－
2	MC				
2	MC			日本機械学会中国四国支部2010年度徳島講演会 平成22(2010)年10月16日(土)	SPCC鋼とSUS304鋼のレーザ接合材の疲労強度特性
2	MC			第15回四国地区材料関係学協会支部・研究会連合講演 H22(2010)年3月12日(金)	マグネシウム合金AZ31の疲労強度に及ぼすバニシ加工の影響
2	MC			第15回四国地区材料関係学協会支部・研究会連合講演 H22(2010)年3月12日(金)	難燃性マグネシウム合金AZX912の疲労強度に及ぼす熱処理時間の影響
2	MC			応用生態工学会　第14回研究発表会 H22(2010)年9月23日(木)	創出された砂質干潟へのマクロベントス加入・生活史パターン
2	MC			第15回高専シンポジウムinいわき H22(2010)年1月23日(土)	角筒容器の液圧張出加工

（出典　平成 22 年度　専攻科生の学外発表一覧）

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究の成果を，教育方法の改善，授業内容の改善及びものづくり教育の向上に活かしている。本科卒業研究や専攻科特別研究では学生を交えた研究が実施され，その成果の１つとして専攻科学生については学会で発表できるまでに研究成果を高めている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結びついているか。

（観点に係る状況）

教員の資質向上を図るため，学内講師による各種講演会や講習会に加え，外部から講師を招いての各種講演会，講習会を開催している（**資料９－２－①－１**）。また，文部科学省，国立高等専門学校機構，国立高等専門学校協会，大学等が主催する教育に関する研修会やシンポジウム等への参加を奨励し，教員は，積極的に参加することで自身の質的向上に努めている（**資料９－２－①－２**）。

国立高等専門学校機構の在外研究員・国内研究員制度，技科大･高専の人事交流制度を活用し，資質向上に努めている（**前述資料３－１－④―４**）。成果の一例として，国立高等専門学校機構の在外研究員制度を利用して得た知見を活用したコーオプ教育プログラムの実践がある。これは，高専３年生から長期休暇を利用し，専門関連企業での業務に携わる長期インターンシップであり，全国的に先進的な取組として評価されている（**前述資料５－１－②－９**）。

年２回，教員研修会を開催し，講演会や分科会議論を通して，教員は資質向上に努めている（**前述資料９－１－③－３**）。

平成３年度より開始した研究談話会は，本校教員が講師となり実施している（**資料９－２－①－３**）。

平成 13 年度より授業を公開とし，事前連絡なしに教員は互いの授業を参観することを可能とし，授業方法･内容に関して相互に助言するシステムを構築している（**資料９－２－①－４**）。また，授業参観を活発化することを目的とし，特別授業公開週間を年２回設定し，常勤教員は期間内に一つ以上の授業を必ず参観して授業参観記録を提出することとしている（**前述資料３－２－①－３**）。

平成20年度から四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ＳＰＯＤ）に加盟し，教員の資質向上を目的とし様々な研修プログラムに参加している（**資料９－２－①－５**）。平成21年度には，担当教員がＳＰＯＤの開催するファシリテータ養成研修，様々な研修プログラム，ＳＰＯＤフォーラムを受講した経験をもとに研修講師を担当した。その結果，本校の実情を考慮した内容でプログラムを構成し実施することができた（**資料９－２－①－６**）。

一部の研修プログラムは遠隔会議システムにより配信されていたことから，平成22年度には同システムを導入し校内で受講できる環境を構築した。その結果，５件の遠隔配信プログラムを延べ13名が聴講した。聴講者による満足度のアンケート結果からは，概ね好評であったと考えられる（**資料９－２－①－７**）。

平成21年度からティーチング・ポートフォリオを導入し教員の自発的かつ主体的ＦＤ活動を目指している。本校において開催した２日半のティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップは国立高専初の取組であり，平成23年３月までに４回開催し，他高専教員を含め38名が修了した。本校教員は平成23年３月現在21名が作成し，成果を確認している（**資**

料９－２－①－８）。また，このような実績から平成22年度文部科学省の大学教育推進プログラムに本校の取組「ＦＤ高度化支援ＴＰ－ＩＲプログラムの開発」が採択され，ＦＤ活動として事業を推進している**（資料９－２－①－９）**。

資料９－２－①－１

各種講演会一覧

ＡＣＴフェローシップ特別講演会

【平成２２年度】

第１回特別講演会

日　時　　平成２２年６月１６日（水）１６：３０～１７：３０

場　所　　阿南工業高等専門学校　創造テクノセンター棟マルチメディア室

特別講演　講　師：株式会社　久保田情報技研

シニアコンサルタント　大西　良美 氏

演　題：「情報システム開発の現状と今後の展望」

～エンタープライズ系アプリケーション～

参加者　　４２名

第２回特別講演会

日　時　　平成２２年１２月１０日(金) １５：３０～

場　所　　阿南工業高等専門学校　創造テクノセンター棟マルチメディア室

特別講演　講　師：環境省自然環境局国立公園課事業計画専門官

岩　浅　有　記　　氏

演　題：「生物多様性の保全による地域活性化と企業等の役割について」

共同研究の取り組み

「株式会社　バンブーケミカル研究所　」

バンブーケミカル研究所代表　鶴　羽　正　幸　氏

参加者　　７１名

【平成２２年度】

○第１回知的財産権セミナー（地域連携・テクノセンター）

日　時　平成２２年１１月２６日（金）１６：１０～１７：００

場　所　創造テクノセンター棟マルチメディア室

講　師　徳島大学ソシオテクノサイエンス研究部

教授　出口　祥啓（でぐち　よしひろ）氏

内　容　「産学官連携における工業所有権取得のポイントとその活用事例－研究者の立場からの取組について－」

参加者　教職員　１６名，　専攻科２年生　１８名

○第２回知的財産権セミナー（(株)カネカテクノリサーチ）
日　時　平成２２年１２月２４日（金）１６：１０～１７：００
場　所　創造テクノセンター棟マルチメディア室
講　師　辻丸国際特許事務所　弁理士　辻丸　光一郎　氏
内　容　「大学発ベンチャー起業立ち上げの事例研究(陥りやすい落とし穴)－成功例と失敗例の比較、その分かれ目は？」
参加者　教職員　１４名，　企業等　８名

【平成 22 年度】
・第 1 回
開催日：平成２２年９月２１日（火）１６：００～１７：００
話題提供者：機械工学科　川畑　成之
テーマ：「在外研究報告」
高志賞受賞者による発表
一般教科　錦織　浩文
機械工学科　奥本　良博
電気電子工学科　長谷川　竜生
参加者：５０名
・第 2 回
開催日：平成２２年１２月３日（金）１６：００～１６：５０
話題提供者：①電気電子工学科　中村　雄一
テーマ：「高専・両技科大教員交流制度報告」
高志賞受賞者による発表
一般教科　長澤　智明
機械工学科　西本　浩司
参加者：４４名
・第 3 回
開催日：平成２３年２月２４日（木）１６：００～１７：００
話題提供者：建設システム工学科　吉村　洋
テーマ：「高専間教員交流制度報告」
高志賞受賞者による発表
機械工学科　原野　智哉
電気電子工学科　釜野　勝
機械工学科　吉田　岳人
参加者：３５名

（出典　各種講演会一覧）

資料９－２－①－２

各種研修会への参加一覧

平成22年度	研修名	主催	開催時期	参加者
	とくぎんサクセスクラブパソコンセミナー「Word文書レイアウト調整講座」	徳島銀行	6. 10	天羽敬子 小西早由利 門田　明
	高等専門学校新任教員研修会	高専機構	8. 23－8. 25	中島　　一
	高等専門学校教員研修（管理職研修）	高専機構	9. 29－10. 1	堀井　克章
	国における人事制度等に関する説明会	文科省	9. 22	溝下　洋和
	中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会	愛媛大学	12. 2－12. 3	高山　直子
	FDファシリテータ養成研修	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	6. 19－6. 20	奥本　良博 川畑　成之 松本高志（講師）
	研修プログラム（LMS（Moodle）入門－コンテンツ作成からLMS利用の第1歩）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	8. 24	上原　信知
	SPODフォーラム（愛媛大学）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	8. 25－8. 28	奥本　良博 川畑　成之 松本高志（講師）
	教員主導・学生主体の授業の進め方	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	8. 26	奥本良博 川畑成之
	教育力開発基礎プログラム（新任教員研修，徳島大学）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	8. 20－8. 21	中島　　一
	学習評価の基本 （以下は、遠隔配信システムによる講座）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	8. 25	當宮　辰美 上原　信知 多田　博夫
	大人数講義法の基本（遠隔配信専用プログラム）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	8. 26	上原　信知 小松　　実 西野　精一 藤居　岳人
	ルーブリックを作ろう！－成績評価の厳密化と効率化のために－	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	9. 7	奥本　良博
	講義のための話し方入門	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	9. 10	松本　高志 藤居　岳人 湯城　豊勝
	研究室運営方法のコツ－先輩が後輩を指導するシステムづくり－	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	9. 17	松本　高志 小松　　実
	成績評価とフィードバック－評価の原則からルーブリック評価まで－	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	9. 17	松本　高志
	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	12. 15	多田博夫 奥本良博 松本高志
	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会（DVD視聴による研修）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	23. 3. 15	中村厚信 藤居岳人 櫛田雅弘 松浦史法
	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会（DVD視聴による研修）	SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）	23. 3. 30	上原信知

（出典　各種研修会への参加一覧）

資料３－１－④―４（再掲）

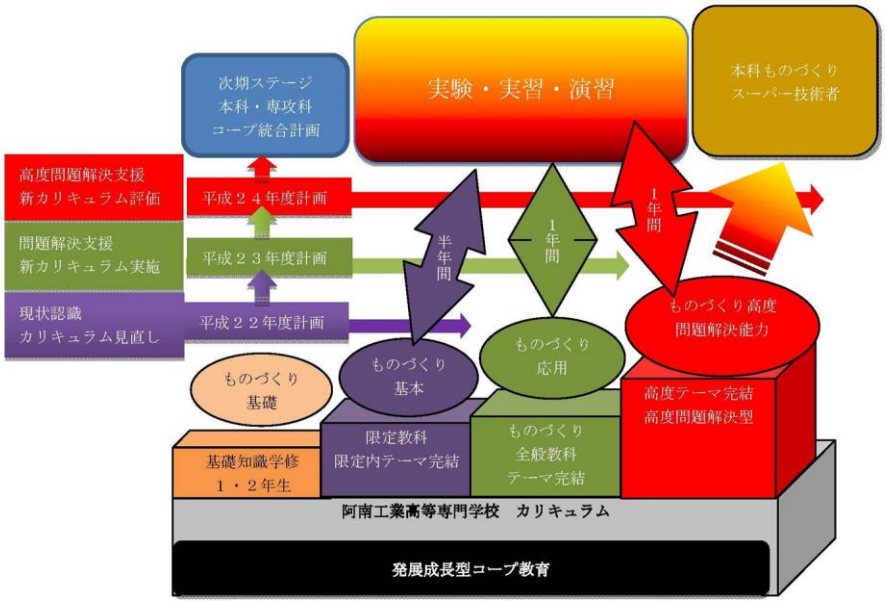
文部科学省在外研究員，独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	滞在地名（国名） 派遣機関	出張期間
平成 23 年	申請者なし		
平成 22 年	一般教科 講師 藤井　浩美	アメリカ合衆国，英国，ドイツ ソノマ州立大学，ウォークリック大学，オスナブリュック大学	22.8.21～23.3.31
平成 21 年	申請者なし		
平成 20 年	機械工学科 助教 川畑　成之	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学サンディエゴ校	21.3.24～22.3.2
平成 19 年	制御情報工学科 准教授 岡本　浩行	アメリカ合衆国 ノースウェスタン大学	20.3.26～21.3.1
平成 18 年	機械工学科 助教授 大北裕司	イギリス ノッティンガム大学	19.3.26～20.2.26
平成 17 年	機械工学科 助教授 原野　智哉	アメリカ合衆国 イリノイ大学	18.3.27～19.2.23
平成 16 年	採択者なし		

（出典　在外研究員記録　平成 22 年度）

資料５－１－②－９（**再掲**）

コーオプ教育概念図



阿南高専本科コーオプ教育　概念図（平成 22 年度～平成 24 年度）

（出典　コーオプ教育報告書　平成 22 年度）

資料９－２－①―３

研究談話会テーマ一覧

・第１回

開催日：平成２２年９月２１日（火）１６：００～１７：００

話題提供者：機械工学科　川畑　成之

テーマ：「在外研究報告」

高志賞受賞者による発表

一般教科　　錦織　浩文

機械工学科　　奥本　良博

電気電子工学科　長谷川　竜生

参加者：５０名

・第２回

開催日：平成２２年１２月３日（金）１６：００～１６：５０

話題提供者：①電気電子工学科　中村　雄一

テーマ：「高専・両技科大教員交流制度報告」

高志賞受賞者による発表

一般教科　　長澤　智明

機械工学科　　西本　浩司

参加者：４４名

・第３回

開催日：平成２３年２月２４日（木）１６：００～１７：００

話題提供者：建設システム工学科　吉村　洋

テーマ：「高専間教員交流制度報告」

高志賞受賞者による発表

機械工学科　　原野　智哉

電気電子工学科　釜野　勝

機械工学科　　吉田　岳人

参加者：３５名

（出典　研究談話会テーマ一覧）

資料９－２－①―４

授業方法・内容に関する相互助言システム



（出典　授業方法・内容に関する相互助言システム Web 画面）

資料３－２－①―３　（再掲）

特別公開授業参観の通知

特別公開授業週間について(通知)

差出人：教務係長(学生課) 2010/6/21(月) 12:10
宛先　：宮本 陽生, 林田 栄治, 中村 厚信, 坪井 泰士, 高山 直子, (尾崎 眞行), 川崎 敏和
(71人)

平成２２年６月２１日

教　員　各　位

点検・評価委員会

特別公開授業週間について（通知）

今年度１回目の特別公開授業週間を次のとおり設けましたので、趣旨に則り、参観記録について作成いただきますよう、お知らせします。

目的　　：教員相互の授業参観・意見交換により、授業改善に資する。
期日　　：６月２８日（月）～７月９日(金)　　（参観記録〆切　参観後１週間以内）
対象　　：全授業（授業教員への事前連絡は必要ありません）
実施方法：一つの授業参観当り、50分以上の参観を推奨いたします。
参観記録：サイボウズのトップページ（左側リンク集中段）「授業改善システム」
(http://kyomu01.anan-nct.ac.jp/kyomu/) から，教務出席管理システムと同じアカウント・パスワードにてアクセスし、参観記録を入力してください。

授業参観（記録）について
①優れた点を、自分の授業にどのように反映させるかという点から参観してください。
②自身の授業成果などをもとに、授業改善にむけて具体的な助言をしてください。
③特別公開授業週間を含む、本校の授業改善活動についてのアンケートについてもご協力願います。

その他
①この特別公開授業週間以外においても、すべての授業は公開を原則としており、授業教員への事前連絡は必要ありません。

（出典　特別公開授業週間周知メール）

資料９－２－①―５

SPOD 研修プログラムへの参加一覧

平成22年度　SPOD研修プログラム参加一覧（遠隔配信を含む）

開催日	研修名	参加者	研修場所等	備考
6月19日（土）～20日（日）	FDファシリテータ養成研修（SPOD東四国：徳島，香川）	奥本良博 川畑成之 松本高志（講師）	国立淡路青少年交流の家	
7月29日（木）～30日（金）	大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）	山瀬浩幸 門田　明	愛媛大学	SD
8月24日（火）	研修プログラム（LMS（Moodle）入門コンテンツ作成からLMS利用の第一	上原信知	香川大学	
8月25日（水）～28日（土）	SPODフォーラム	奥本良博 川畑成之 松本高志（講師）	愛媛大学	
8月20日（金）～21日（土）	教育力開発基礎プログラム（新任教員研修）	中島　一	徳島大学	
8月25日（水）	学習評価の基本	富宮辰美 上原信知 多田博夫	遠隔配信システムによる受講	
8月26日（木）	大人数講義法の基本（遠隔配信専用プログラム）	上原信知 小松　実 西野　精一 藤居　岳人		
9月7日（火）	ルーブリックを作ろう！－成績評価の厳密化と効率化のために－	奥本良博		
9月10日（金）	講義のための話し方入門	松本高志 藤居岳人 湯城豊勝		
9月17日（金）	研究室運営方法のコツ－先輩が後輩を指導するシステムづくり－	松本高志 小松　実		
9月17日（金）	成績評価とフィードバック－評価の原則からルーブリック評価まで－	松本高志		
12月15日（水）	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	多田博夫 松本高志	遠隔配信システムによる受講	
3月15日（火）	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	中村厚信 藤居岳人 櫛田雅弘 松浦史法	DVD視聴による受講	
3月30日（水）	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	今田浩之 中島　一 上原信知		

（出典　SPOD 研修プログラムへの参加一覧）

資料９－２－①―６

冬季教員研修会実施要領

平成２１年１２月３日

平成２１年度　冬季教員研修会実施要領~~(案)~~

点検・評価委員会委員長
松本　高志

１．趣　　旨

阿南高専における FD 活動では、年間を通して実施される、教員間の授業参観、学生による授業評価アンケート、シラバスの到達度目標アンケート等の結果を教員へフィードバックしています。また、テーマを絞った教員研修会を開催し外部講師の講演をもとに分科会において教員間の意見交換をしてきました。

今回は、それらを一歩進め、本校に必要な FD について各教員のニーズを把握し全教員で共有することから始めたいと思います。毎日の授業において学生の学習を促すために役立つ具体的な手法についてグループワークを通して体験・参加型の研修をします。

２．日　　時　　平成２１年１２月８日（火）　１４：４０～１７：００

３．参 加 者　　本校教員（シラバス持参）

４．会　　場　　創造テクノセンター４F　マルチメディア室

５．テ ー マ　　「授業改善への具体的なアプローチ」

６．グループワーク

点検・評価委員会
松本高志・坪井泰士

次の内容についてグループワークを取り入れた講義形式で行います。
「教育改善 PDCA サイクルの周知」
「教員のニーズ把握」
「シラバスの書き方のコツ」
「授業に役立つ Tips 集」
「クリッカーの体験」

７．日　　程　　進行：松本 高志

１４：４０～１４：４５	開会挨拶	小松満男校長
１４：４５～１５：３５	教員のニーズ把握	松本高志・坪井泰士
１５：３５～１６：００	シラバスの書き方	〃
１６：００～１６：４５	授業に役立つ Tips・クリッカーの体験	〃
１６：４５～１６：５５	質疑応答	〃
１６：５５～１７：００	閉会の挨拶	宮城勢治副校長

（出典　冬季教員研修会実施要領）

資料９－２－①―７

遠隔配信プログラム参加者アンケート結果

SPODフォーラム2010アンケート（個別プログラム用）

機械で読み取りますので、筆記用具は 鉛筆かシャーペン を使用してください。
あてはまる番号を 塗りつぶして ご回答ください。訂正する場合は 消しゴム でよく消してください。

1．参加者ご自身について

（1）所属先

① 大学　② 短期大学　③ 高等専門学校　④ その他（　　）

（2）所属先の設置者

① 国（国立大学法人）　② 地方自治体（公立大学法人を含む）
③ 学校法人　④ その他（　　）

（3）所属先の所在地

① 四国　② 北海道　③ 東北　④ 関東
⑤ 中部　⑥ 近畿　⑦ 中国　⑧ 九州・沖縄

（4）職種

① 教員　② 職員　③ 学生　④ その他（　　）

2．このセミナーについて

④ そう思う　③ どちらかといえばそう思う　② どちらかといえばそう思わない　① そう思わない

	設問	回答			
(1)	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	④	③	②	①
(2)	研修は自分の業務に生かせる内容だった	④	③	②	①
(3)	研修の到達目標が明確に示されていた	④	③	②	①
(4)	研修はわかりやすい順序ですすめられた	④	③	②	①
(5)	講師の言動は学習意欲を高めた	④	③	②	①
(6)	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	④	③	②	①
(7)	受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う	④	③	②	①
(8)	研修は全体的に満足できるものだった	④	③	②	①

3．このセミナーを受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

学習評価全体の概念の理解と，今までの評価方法について，考える良い機会であった。（自分の）

4．このセミナーをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

会場での音声の状態が悪かったのが非常に残念に思

ご協力ありがとうございました。

（出典　遠隔配信プログラム参加者アンケート結果）

資料９－２－①―８

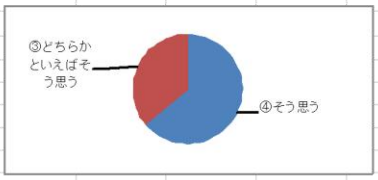
ティーチングポートフォリオ参加者アンケート結果

開催日：平成22年 3月23日～25日
平成22年 7月26日～28日
平成22年12月12日～19日
平成23年3月23日～25日

研修成果について

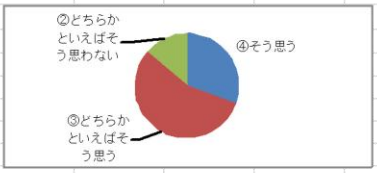
(1)ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	23	63.9
③どちらかといえばそう思う	13	36.1
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



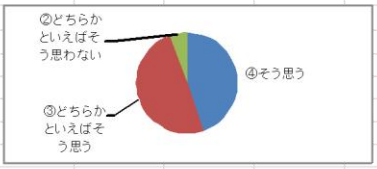
(2)ティーチング・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	11	30.6
③どちらかといえばそう思う	20	55.6
②どちらかといえばそう思わない	5	13.9
①そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



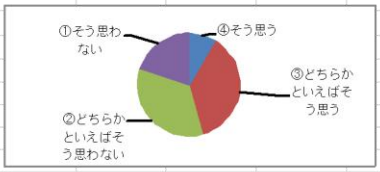
(3)ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	16	44.4
③どちらかといえばそう思う	18	50.0
②どちらかといえばそう思わない	2	5.6
①そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



(4)今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

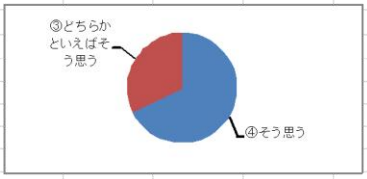
	度数	割合
④そう思う	3	8.3
③どちらかといえばそう思う	13	36.1
②どちらかといえばそう思わない	12	33.3
①そう思わない	7	19.4
計	35	97.2



研修全体について

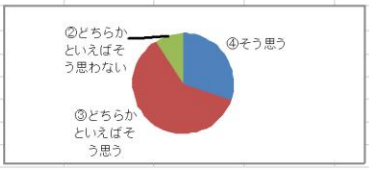
(1)研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	23	63.9
③どちらかといえばそう思う	11	30.6
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	34	94.4



(2)ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

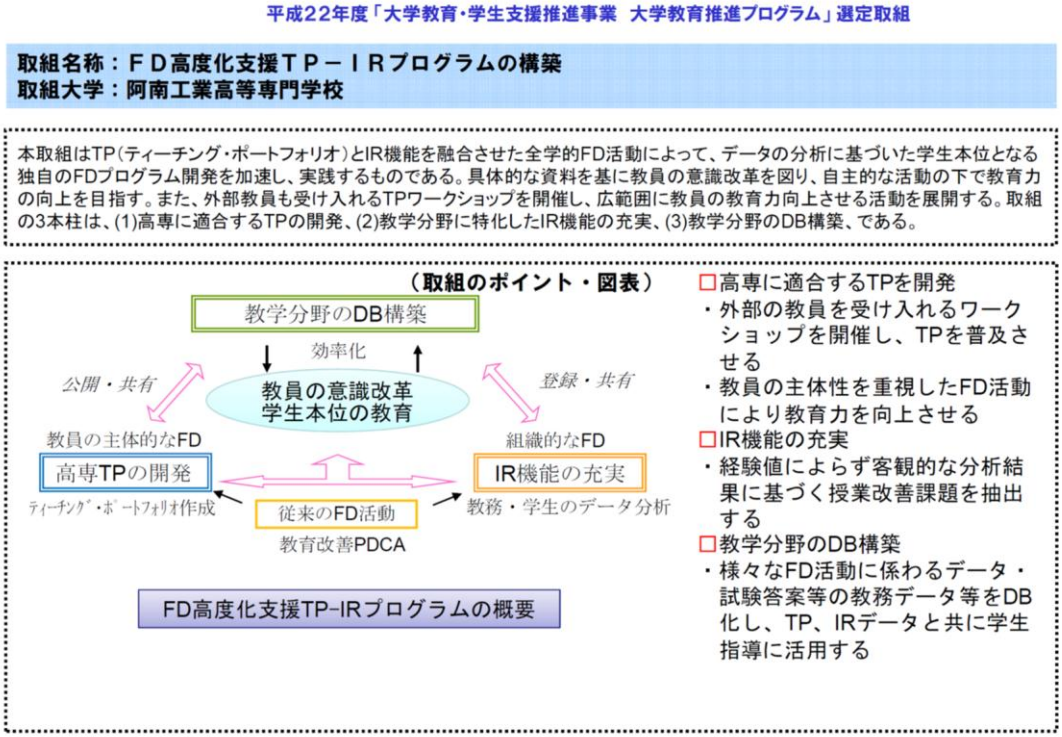
	度数	割合
④そう思う	10	27.8
③どちらかといえばそう思う	20	55.6
②どちらかといえばそう思わない	3	8.3
①そう思わない	0	0.0
計	33	91.7



（出典　ティーチングポートフォリオ参加者アンケート結果）

資料９－２－①―９

「FD 高度化支援 TP-IR プログラムの開発」概要



（出典　「FD 高度化支援 TP-IR プログラムの開発」概要）

（分析結果とその根拠理由）

教員の資質向上を図るため，講演会・研修会を開催するとともに，学外の講演会・研修会への参加を奨励し，教員の参加は活発である。

ＦＤの新たな取り組みとしてティーチング・ポートフォリオを先進的に導入し，その成果を確認している。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

事務職員は事務部長，技術職員は技術部長が管轄し（**前述資料３―３－①―２**），文部科学省，国立高等専門学校機構，国立高等専門学校協会，大学等が主催する教育に関する研修会やシンポジウム等への参加を奨励し，職員は積極的に参加することで自身の質的向上に努めている（**資料９－２－②－１**）。また，学会等における講演発表，学術論文投稿によ

り，資質向上が図られている（**資料９－２－②－２**）。

授業を主として構築するのは学生と教員であるが，授業の高度化，安定した教育経営等に職員の支援を欠かせない。ＦＤとＳＤ（スタッフ･デベロップメント）を並行して進めることで学校の教育力は向上する。このことから，業務への支障がない限り，研修等について積極的に取り組むこととしている。

この成果として，技術職員による科学研究費採択（平成22年度）が２件ある（**資料９－２－②－３**）。また，技術職員が研究を重ね，教員として採用された例もある。

資料３－３－①－２　（再掲）

阿南工業高等専門学校技術部組織規則

（平成 20 年 11 月 1 日）
（規則第 11 号）

第１章総則
（目的）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 12 条及び阿南工業高等専門学校学則第 11 条の規定に基づき、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）の技術部組織及び所掌業務の範囲を定めることを目的とする。
第２章　技術部組織
第２条　技術部に次のグループを置く。
(1) 技術第一グループ（ものづくり担当）
(2) 技術第二グループ（電気・情報担当）
(3) 技術第三グループ（地域連携担当）
（技術部長）
第３条　技術部に技術部長を置く。
２ 技術部長は、教務主事をもって充てる。
３ 技術部長は、校長の命を受け、所属職員を指揮監督し、技術部の業務を掌理する。
（技術長）
第４条　技術部に技術長を置く。
２ 技術長は、技術職員をもって充てる。
３ 技術長は、上司の命を受け、技術専門員、主任技術専門職員、技術専門職員及び技術部員の業務を統括し技術部の業務を処理する。
（技術専門員）
第５条　技術部に技術専門員を置くことができる。
２ 技術専門員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術専門員は、上司の命を受け、技術長を補佐するとともに、技術部の業務のうち、極めて高度な専門的事項に係る業務を主として処理する。
（主任技術専門職員）
第６条　技術部に主任技術専門職員を置く。
２ 主任技術専門職員は、技術職員をもって充てる。
３ 主任技術専門職員は、上司の命を受け、技術部の業務のうち、高度な専門的事項に係る業務を主として処理するとともに、グループリーダーとして、グループの業務を処理する。
（技術専門職員）
第７条　技術部に技術専門職員を置く。
２ 技術専門職員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術専門職員は、上司の命を受け、技術部の業務のうち、専門的事項に係る業務を主して処理する。
（技術部員）
第８条　技術部に技術部員を置く。
２ 技術部員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術部員は、上司の命を受け、技術部の業務に従事する。

（出典　阿南高専 Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料９－２－②－１

技術職員の研修会参加一覧

21年度

項番	研修会名称	主催者	開催日時（期間）			人数	氏名
1	放射線安全教育訓練	兵庫県	平成22年5月8日	～	平成22年5月8日	8	多田・木原・森時・遠野・立石・遠野・東條・立石学
2	西日本地域高等専門学校技術職員特別研修	文部科学省	平成21年8月26日	～	平成21年8月28日	1	立石清
3	高等専門学校情報処理教育研究委員会	国立高専	平成21年8月26日	～	平成21年8月27日	1	武蔵
4	情報セキュリティセミナー	国立高専	平成22年2月10日	～	平成22年2月11日	1	武蔵
5	実験実習技術研究発表会	琉球大学	平成22年3月4日	～	平成22年3月5日	3	高岸・立石清・東條

22年度

項番	研修会名称	主催者	開催日時（期間）			人数	氏名
1	原子力・放射線に関する教育職員研修	文部科学省	平成22年8月2日	～	平成22年8月3日	1	立石学
2	愛媛大学技術・技能研修(電気電子・情報系)	国立情報学研修所	平成22年8月9日	～	平成22年8月10日	1	東條
3	四国地区国立高等専門学校技術職員技術研修・発表会	文部科学省、国立情報学研修所	平成22年8月3日	～	平成22年8月4日	1	多田・森時
4	中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修	情報処理推進機構	平成22年8月25日	～	平成22年8月27日	2	多田・立石
5	徳島大学第10回総合技術センター技術発表会	文部科学省	平成22年9月28日	～	平成22年9月28日	10	多田・高岸・平田・木原・森時・遠野・立石清・東條・小林・立石学
6	実験実習技術研究発表会	名古屋大学全学技術センター	平成23年3月17日	～	平成23年3月18日	2	高岸・立石清

（出典　技術職員の研修会参加一覧）

資料９－２－②－２

技術部における研究活動成果（件数で示す）

オリジナル論文	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
・国際誌		1	2
・国内学協会誌（高専教育含む）		2	1
国際会議で発表	13	5	3
国内学協会で発表	2	4	

（出典　技術部における研究活動成果）

資料９－２－②－３

平成 22 年度　技術職員の科学研究費採択

❷ 科学研究費補助金[Grant-in-Aid for Scientific Research]

年度	研究種目	所属	氏名 ●研究課題	交付額（千円）
平成21	基盤研究C Scientific Research(C)	建　設	堀井 克章 ●廃棄資源のみからなるコンクリートと補強用竹筋を複合化した環境配慮型建設材料の開発 Development of new materials in consideration for environment that made concrete produced by only using waste resources and bamboo reinforcement composition	910
		一　般	勝藤 和子 ●英語動詞の第二言語習得に関する研究と教科書教材への応用 The acquisition of English verb classes and its application to textbooks	520
	若手研究(B) Young Scientists(B)	機　械	川畑 成之 ●センサ・アクチュエータの最適配置に基づく展開型知的テンセグリティ構造物の開発 Development of a deployable intelligent tensegrity structure based on the optimal placement of sensors/actuators	1,690
		建　設	橋本 温 ●FISH法の併用による水のクリプトスポリジウム試験の改良と水域対策への利用の検討 Improvement of Cryptosporidium detection protocol using FISH and fluoresces antibody stain	1,300
		建　設	大田 直友 ●浚渫土人工干潟の有効性検証　－絶滅危惧種シオマネキの生息を支える環境要因の解明 The effectivity of dreged silt and clay sediments for creating artficial tidal land- elucidation of the environmetal factors to support the distribution of the endangered crab Uca arcuata	650
平成22	基盤研究C Scientific Research(C)	建　設	堀井 克章 ●廃棄資源のみからなるコンクリートと補強用竹筋を複合化した環境配慮型建設材料の開発 Development of new materials in consideration for environment that made concrete produced by only using waste resources and bamboo reinforcement composition	1,170
		一　般	勝藤 和子 ●英語動詞の第二言語習得に関する研究と教科書教材への応用 The acquisition of English verb classes and its application to textbooks	390
		機　械	吉田 岳人 ●反応性パルス励起プロセスによる酸窒化物半導体ナノ結晶の可視光応答化 Synthesis of visible-light-operating (oxy)nitride semiconductor nanocrystallites using reactive pulsed laser ablation	2,730
		制　御	森住 昇 ●カオス・フラクタルに基づく魚類行動解析を用いた定置網のクラゲ被害防止技術の開発 Development of Technologies for Prevention of Damage Caused by Jellyfish in Set-Net Using Fish Behavior Analysis Based on Chaos and Fractal	1,170
	研究活動スタート支援 Research Activity Start-up	建　設	河井 崇 ●人工干潟の有効性検証:生態学的アプローチによる検討 Ecological assessment of created tidal flats	1,274
	若手研究(B) Young Scientists(B)	建　設	大田 直友 ●浚渫土人工干潟の有効性検証　－絶滅危惧種シオマネキの生息を支える環境要因の解明 The effectivity of dreged silt and clay sediments for creating artficial tidal land- elucidation of the environmetal factors to support the distribution of the endangered crab Uca arcuata	650
		機　械	西本 浩司 ●レーザ圧接法によるチタン異材接合技術の開発 Development of titanium dissimilar metal welding by laser pressure welding method	1,690
	奨励研究 Encouragement of Young Scientists	技術部	立石 清 ●４脚歩行ロボットを用いたI2C通信による分散処理システム学習キットの試作研究 Experimental study for learning kit of distributed processing through I2C communication of four legged robot	510
		技術部	東條 孝志 ●高温・砒素雰囲気下における配列制御型ナノ構造の作製 Site-control growth of nano structure under As4 irradiation at high temperature	440

（出典　平成 22 年度　学校要覧　P. 37）

（分析結果とその根拠理由）

ＦＤとＳＤを並行して進め，学校の教育力を向上させるという観点に立ち，研修会への参加を奨励し，職員の参加は活発である。

ＳＤの成果は，技術職員の科学研究費採択や教員としての採用として確認している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育の計画，実践，評価，改善のＰＤＣＡを組織的に支援する教育点検システムにより，各種の評価の結果を教育の質の向上・改善，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な改善方策に接続している。

学生による授業アンケート，シラバス記載の到達目標修得点検アンケートにより学生の意見を聴取し，教育の状況を確認し，今後の対応や改善内容を記入した文書を教員コメントとして学生に公開するとともに，校内LANにより教員間で共有している。個々の教員は，各種評価結果に基づいて，教育の質の向上を図り，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている。その成果としての個々の教員の改善活動状況を，同教員の教育･研究計画書，年度末の達成度自己評価により，学校として把握している。

教員の研究の成果を，教育方法の改善，授業内容の改善及びものづくり教育の向上に活かしている。本科卒業研究や専攻科特別研究では学生を交えた研究が実施され，その成果の１つとして専攻科学生については学会で発表できるまでに研究成果を高めている。

教員の資質向上を図るため，講演会・研修会を開催するとともに，学外の講演会・研修会への参加を奨励し，教員の参加は活発である。ＦＤの成果は，授業評価アンケートの結果や教育プログラム改善として確認している。さらに，新たなＦＤとして，ティーチング・ポートフォリオを先進的に導入し組織として積極的に取り組み成果を上げている。

ＳＤの成果は，技術職員の科学研究費採択や教員としての採用として確認している。

（改善を要する点）

個々の教員による授業内容，教材，教授技術等の改善活動状況を，より体系的に把握するため，教員から提出される教育･研究計画書，年度末の達成度自己評価について，点検･評価委員会が確認できる体制が望まれる。

（３）基準９の自己評価の概要

シラバスに明記する成績評価方法に則り使用した資料，個人別成績評価表，シラバス記載の到達目標修得点検アンケート等を，授業科目ごとにファイリング（平成 22 年度以降は電子データ化）し，保管している。同資料に基づき点検･評価委員会が評価する体制を整え，授業改善を要する授業科目の確認に活用し，教育改善ＰＤＣＡシステムとして当該授業科目教員及び学科主任に改善を求めている。

卒業（修了）生，就職先等の関係者，保護者等の学外関係者の意見を，複数のチャンネルで聴取し，それを集約して対応する体制を整え，機能させている。

教育の計画，実践，評価，改善のＰＤＣＡを組織的に支援する教育点検システムにより，各種の評価の結果を教育の質の向上・改善，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な改善方策に接続している。

学生による授業アンケート，シラバス記載の到達目標修得点検アンケートにより学生の意見を聴取し，教育の状況を確認し，今後の対応や改善内容を記入した文書を教員コメントとして学生に公開するとともに，校内LANにより教員間で共有している。個々の教員は，各種評価結果に基づいて，教育の質の向上を図り，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている。

その成果としての個々の教員の改善活動状況を，同教員の教育･研究計画書，年度末の達成度自己評価により，学校として把握している。教員の研究の成果を，教育方法の改善，授業内容の改善及びものづくり教育の向上に活かしている。

教員の資質向上を図るため，講演会・研修会を開催するとともに，教職員の能力開発を目的とした大学間連携を活用し，学外の講演会・研修会への参加を奨励しており，教員の参加は活発である。さらに，先進的にティーチング・ポートフォリオを導入し積極的に取り組んでいる。ＦＤの成果は，授業評価アンケートの結果や教育プログラム改善として確認している。ＦＤとＳＤを並行して進め，学校の教育力向上を教職協働の観点に立ち，職員の研修会等への参加を奨励し，参加は活発である。ＳＤの成果は，技術職員の科学研究費採択や教員としての採用として確認している。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の資産については，平成16年度に独立行政法人へ移行した際に文部科学省から出資された土地及び建物・設備等に加え，運営費交付金・授業料収入等で取得した建物・設備等を有し，適正な管理・運用を行っている。債務については，短期借入金及び長期借入金ともに有していない（**資料10－１－①－１**）。

資料 10－１－①―１

貸借対照表（平成 21 年４月１日～平成 22 年３月 31 日）

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
［資産の部］	5,775,031,139	［負債の部］	956,135,135
流動資産	110,297,149	流動負債	389,674,168
現金及び預金	20,725	運営費交付金債務	0
現金	0	授業料債務	0
当座預金	0	承継剰余金債務	0
普通預金	20,725	預り施設費	0
定期預金	0	預り補助金等	0
その他預金	0	預り寄附金	60,358,798
有価証券	0	前受受託研究費等	340,000
有価証券	0	前受受託研究費	0
受取手形	0	国又は地方公共団体	0
受取手形	0	その他	0
未収学生納付金収入	0	前受共同研究費	340,000
未収学生納付金収入（授業料）	0	国又は地方公共団体	0
未収学生納付金収入（入学金）	0	その他	340,000
棚卸資産	122,050	前受受託事業費等	0
未成研究支出金	122,050	国又は地方公共団体	0
未成事業支出金	0	その他	0
貯蔵品	0	短期借入金	0
未収入金	108,803,750	１年以内返済予定長期借入金	0
未収入金	108,803,750	未払金	312,941,536
前渡金	0	退職金	131,655,883
前渡金	0	リース債務	0
前払費用	1,350,624	その他未払金	181,285,653
前払費用	38,124	未払消費税等	0
法定福利費	0	未払費用	14,683,221
未経過賃借料	0	給与	9,363,351
未経過保険料	38,124	社会保険料	576,103
未経過支払利息	0	労働保険料	0
その他の前払費用	1,312,500	賃借料	794,094
未収収益	0	水道光熱費	2,353,537
未収収益	0	未払利息	0
短期貸付金	0	その他未払費用	1,596,136
短期貸付金	0	前受金	0
その他の流動資産	0	預り金	174,563
仮払金	0	科学研究費	6,020
仮払消費税	0	社会保険料	0
旅費仮払	0	労働保険料	0
立替金	0	源泉所得税	11,416
その他流動資産	0	住民税	0
徴収不能引当金	0	職員宿舎貸付料	0
徴収不能引当金	0	補助金等返還	0
貸倒引当金	0	その他預り金	157,127
貸倒引当金	0	前受収益	0
固定資産	5,664,733,990	前受利息	0
有形固定資産	5,659,604,851	その他前受収益	0
建物	2,577,948,091	引当金	1,176,050
建物	1,671,365,870	賞与引当金	1,176,050
建物附属設備	906,582,221	修繕引当金	0
建物減価償却累計額	−984,590,199	損害補償損失引当金	0
建物減損損失累計額	0	その他の引当金	0
構築物	355,098,409	その他の流動負債	0
構築物減価償却累計額	−259,869,618	仮受金	0
構築物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
機械装置	0	固定負債	566,460,967
機械装置減価償却累計額	0	資産見返負債	526,680,607
機械装置減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	411,093,357
船舶	0	資産見返運営費交付金	380,690,585
船舶減価償却累計額	0	資産見返授業料	30,402,772
船舶減損損失累計額	0	資産見返補助金等	84,245,834
車両運搬具	4,295,310	資産見返寄附金	25,646,646
車両運搬具減価償却累計額	−4,295,308	資産見返物品受贈額	2,209,672
車両運搬具減損損失累計額	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
工具器具備品	439,563,725	建設仮勘定見返運営費交付金	0
工具器具備品減価償却累計額	−229,730,861	建設仮勘定見返授業料	0
工具器具備品減損損失累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
土地	3,759,100,000	建設仮勘定見返補助金等	0
土地減損損失累計額	0	建設仮勘定見返寄附金	0
建設仮勘定	0	特許権仮勘定見返運営費交付金等	3,485,098
その他の有形固定資産	2,085,302	特許権仮勘定見返運営費交付金	2,039,738
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	特許権仮勘定見返授業料	1,445,360
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
無形固定資産	5,104,240	特許権仮勘定見返寄附金	0
特許権	1,216,145	長期預り補助金等	0
借地権	0	長期預り寄附金	39,000,000
商標権	0	長期前受受託研究費等	0
実用新案権	0	長期前受受託研究費	0
意匠権	0	国又は地方公共団体	0
ソフトウェア	0	その他	0
電話加入権	51,000	長期前受共同研究費	0
その他の無形固定資産	0	国又は地方公共団体	0
著作権	0	その他	0
特許権仮勘定	3,837,095	長期前受受託事業費等	0
投資その他の資産	24,899	国又は地方公共団体	0
投資有価証券	0	その他	0
長期貸付金	0	長期借入金	0
長期前払費用	8,649	長期未払金	0
未収財源措置予定額	0	引当金	780,360
長期性預金	0	退職給付引当金	780,360
敷金・保証金	0	追加退職給付引当金	0
長期未収入金	0	その他の引当金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	その他の固定負債	0
その他の投資その他の資産	16,250	［純資産の部］	5,118,069,887
貸倒引当金	0	資本金	5,182,138,789
貸倒引当金	0	政府出資金	5,182,138,789
［本支店勘定］	273,818,821	その他出資金	0
［本支店］機構本部（統括）	−28,780,692	資本剰余金	−64,068,902
［本支店］機構本部　管理課	302,599,513	資本剰余金	1,236,614,344
		資本剰余金施設費	412,297,042
		資本剰余金運営費交付金	0
		資本剰余金授業料	0
		資本剰余金補助金等	822,045,000
		資本剰余金寄附金	2
		資本剰余金目的積立金	0
		資本剰余金譲与	2,272,300
		その他の資本剰余金	0
		損益外減価償却累計額	−1,281,691,538
		損益外減損損失累計額	−136,000
		損益外固定資産除売却差額	−18,855,708
		利益剰余金	0
		前中期目標期間繰越積立金	0
		目的積立金	0
		教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0
		目的積立金	0
		目的積立金	0
		積立金	0
		当期未処分利益	0
		繰越欠損金	0
		当期未処理損失	0
		その他の有価証券評価差額金	0
資産科目合計金額	6,048,849,960	負債・資本科目合計金額	6,074,205,022

（出典　貸借対照表一覧）

（分析結果とその根拠理由）

出資金として引き継いだ土地，建物，設備に，法人化後に学校の目的に沿った教育研究活動が安定して遂行できるよう，運営費交付金，授業料収入等で良好な資産を取得し，有効利用している。長期借入金については，平成18年度に返済済みであり，新たな借入金は発生していない。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

国立高等専門学校機構（以下，機構と称する）本部から配分される運営費交付金・施設整備費補助金等を確保している（**資料10－１－②－１**）。また，機構本部に特別教育研究経費，臨時経費の予算要求を行っている（**資料10－１－②－２**）。

資料 10－１－②―１

予算額（年度）別

単位：千円

区　　分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
運営費交付金	1,155,177	1,113,103	932,768	1,103,430	1,142,499	965,968
施設整備費補助金	327,897	0	45,673	0	0	0
施設費交付事業費	12,600	2,037	11,445	8,159	37,101	17,850
計	1,495,674	1,115,140	989,886	1,111,589	1,179,600	983,818

授業料　　単位：円

区　分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
金　額	182,824,850	181,971,400	180,485,600	180,796,400	182,612,550	190,419,000

入学料及び検定料

区　分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
金　額	19,840,200	19,668,600	19,578,900	19,826,700	19,308,900	19,561,200

講習料

区　分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
金　額	200,000	108,800	190,100	363,400	177,800	102,600

（出典　決算報告書）

資料 10－１－②―２

特別研究経費及び臨時経費配分額調べ

単位:千円

区　　分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
特別教育研究経費	5,350	29,035	36,917
臨時経費	4,653	7,488	16,044

（出典　特別研究経費及び臨時経費配分額調べ）

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金及び施設整備費補助金等の基本的財源の確保は出来ている。また，特別教育研究経費，臨時経費の配分も受けている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

教育・研究活動企画推進委員会において，機構本部から配分される運営費交付金等では実施できない教育・研究を達成するために必要な外部資金獲得策を検討し，学校の目的に応じて必要な外部資金の獲得に努力している（**資料 10－１－③－１，２**）。

資料 10－１－③―1

科学研究費補助金獲得状況

科学研究費補助金（奨学除く）　　単位:千円

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
申請件数	52	49	58	61	66	64
採択件数	10	9	7	7	6	8
採択率	19.2	18.4	12.1	11.5	9.1	12.5
交付金額	11,700	10,920	8,930	12,610	6,474	10,374

（出典　科学研究費補助金獲得状況一覧）

資料 10－１－③―２

外部資金の獲得状況

年度	寄附金			共同研究			受託研究			その他の競争的資金			受託試験	
	件数	金額（円）	備考	件数	金額（円）	備考	件数	金額（円）	備考	件数	金額（円）	備考	件数	金額（円）
８年度	20件	9,450,000		2件	912,000	B.1,C.1								
９年度	31件	10,800,000		3件	1,420,000	B.2,C.1								
１０年度	23件	10,250,000		3件	1,420,000	B.2,C.1	1件	930,300						
１１年度	14件	14,787,705		3件	1,370,000	B.2,C.1	4件	19,692,630						
１２年度	11件	8,115,000		4件	2,300,000	B.1,C.3	6件	30,048,400					10件	91,100
１３年度	10件	8,960,740		2件	920,000	B.2	3件	9,000,000						
１４年度	12件	8,070,000		2件	200,000	B.2	1件	900,000					11件	294,000
１５年度	14件	11,341,046		8件	3,450,000		4件	3,700,000					1件	15,500
１６年度	13件	9,515,000		10件	2,450,000		4件	4,195,000						
１７年度	15件	9,421,000		9件	2,050,000		9件	10,848,100					1件	36,000
１８年度	23件	79,460,000		14件	4,750,645		7件	10,000,000						
１９年度	24件	180,280,300		9件	3,700,378		9件	14,496,500					1件	13,200
２０年度	25件	12,798,032		9件	3,500,000		15件	54,231,560		6件	94,663,769		１件	90,000
２１年度	28件	7,937,507		12件	11,990,000		9件	29,801,000		7件	79,416,000		5件	411,000
２２年度	11件	5,386,527		12件	2,080,000		11件	35,814,000		14件	98,393,958		2件	180,400
２３年度	3件	1,328,000		1件	400,000									

（出典　平成 23 年６月　運営委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

科学研究費補助金，寄附金，受託研究，共同研究等の外部資金獲得に努めた結果，平成19年度から日亜化学工業株式会社からの寄附による寄附講座を開設，そして同年から科学技術振興調整費及びものづくり技術者育成支援事業が採択されるなど，教育研究活動を推進，発展させることができた。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

機構会計規則第 17 条において，理事長は年度計画に基づき予算実施計画を作成し，これに基づいて収入，支出を管理することになっている。これに伴い本校では，自己収入を含め，配分された運営費交付金を予算の範囲内として効率的・効果的かつ適切な執行に努めている。収入見込額の内訳は，授業料収入とその他自己収入に分かれ，その他自己収入には入学料収入，検定料収入，雑収入（職員宿舎貸付料収入，寄宿舎収入，学校財産貸付料収入，刊行物等売払代，その他収入）がある。そして，年間の収入見込額及び所要額を概算要求書にまとめ機構本部に提出している。一方支出についても，土地建物借料所要額調，障害学生学習支援等経費調，留学生数調，施設面積調整額調，固定資産税所要額調等の調書を機構本部に提出している。これらを基本に機構本部から当初配分があり，本校の学内予算配分方針に基づき当初配分（案）を作成し，運営委員会で審議し，承認後学内配分を行っている。

収入，支出のバランスについては，支出実績額と今後の所要見込額を収入実績額と今後の収入見込額とを考慮しながら，適正な執行に努めている。

（分析結果とその根拠理由）

各高専からの収入・支出の見積額を基に機構理事長が予算計画を作成し，予算額が各高専に通知されてくる。予算執行計画については，支出見込額を基に学内予算配分方針を運営委員会で審議し，適正に計画・配分している。配分額は，教職員に周知している。

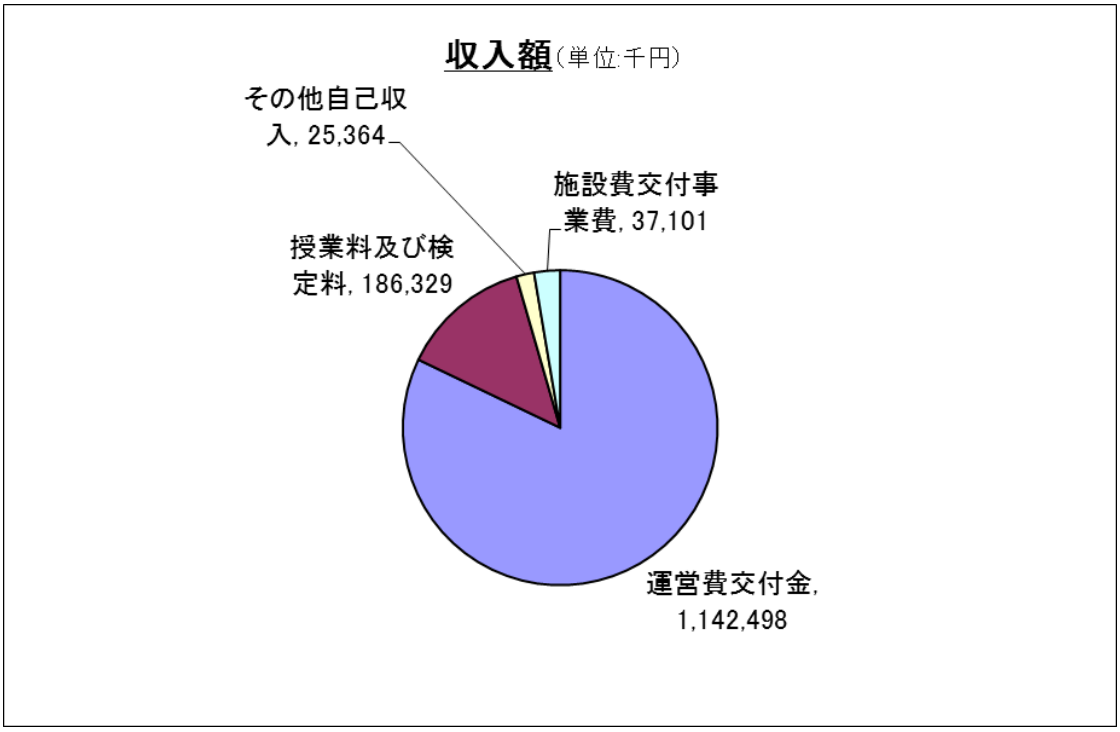
観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

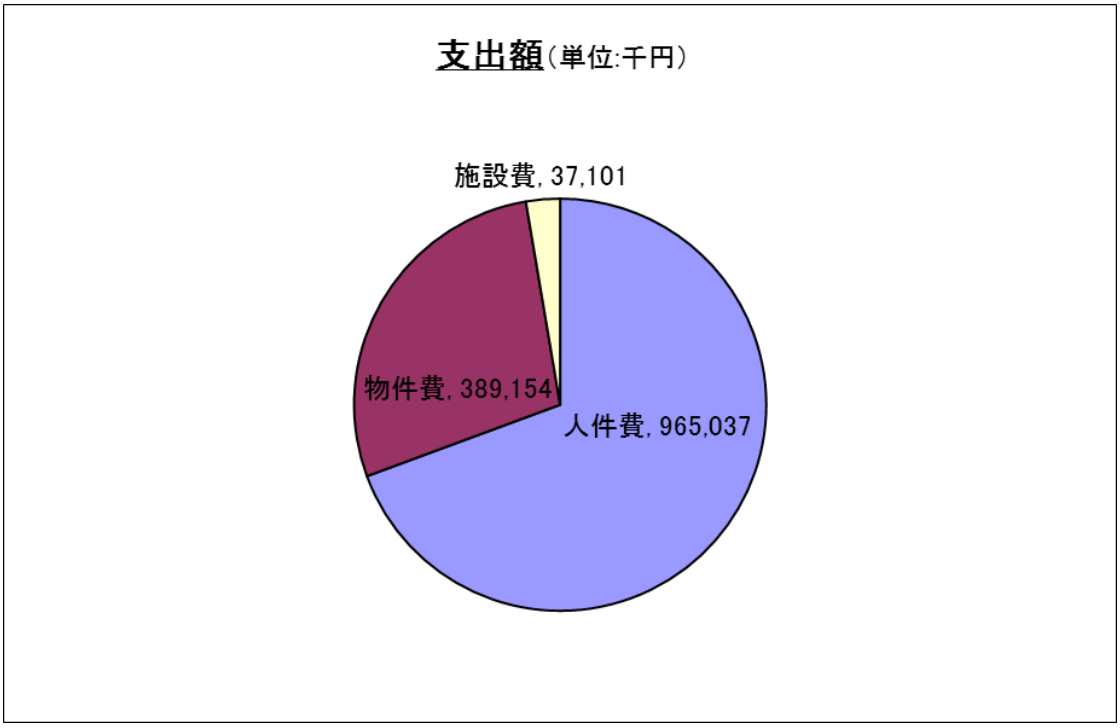
平成21年度の収支については以下のとおりである。**（資料10－２－②－１，２）**。

資料 10－２－②―１

平成 21 年度収入額及び支出額



総収入額　　1, 391, 292



総支出額　　1, 391, 292

（出典　平成 21 年度収入額及び支出額）

資料 10－２－②―２

損益計算書（平成 21 年４月１日～平成 22 年３月 31 日）

勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額
[経常費用]			
業務費			
教育・研究経費			313,248,404
消耗品費		111,544,071	
備品費		28,035,257	
印刷製本費		6,111,895	
水道光熱費		18,296,110	
電気料	14,323,328		
ガス料	0		
水道料	3,972,782		
旅費交通費		24,611,578	
通信運搬費		3,518,483	
賃借料		3,622,189	
車両燃料費		12,907	
福利厚生費		0	
保守費		5,126,140	
修繕費		14,234,015	
損害保険料		0	
広告宣伝費		1,534,155	
行事費		257,270	
諸会費		3,506,980	
会議費		218,780	
報酬・委託・手数料		7,433,587	
委託調査研究費	0		
文献複写費	32,635		
支払派遣費	0		
プログラム開発費	0		
業務委託費	2,756,656		
支払報酬・諸謝金	4,644,296		
支払手数料	0		
奨学費		13,196,250	
奨学交付金（授業料）	13,196,250		
奨学交付金（入学金）	0		
奨学交付金（検定料）	0		
奨学交付金（その他）	0		
留学生給与	0		
減価償却費		42,633,599	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費		29,355,138	
傭船料	0		
特許出願費	0		
環境整備費	3,043,629		
移設撤去費	11,160,423		
損害賠償費	0		
雑役務費	15,151,086		
教育研究支援経費			30,677,534
消耗品費		5,322,529	
備品費		3,509,205	
印刷製本費		149,525	
水道光熱費		3,011,229	
電気料	2,350,718		
ガス料	0		
水道料	660,511		
旅費交通費		1,076,690	
通信運搬費		3,296,419	
賃借料		7,667,856	
車両燃料費		0	
福利厚生費		0	
保守費		678,898	
修繕費		0	
損害保険料		0	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		65,000	
会議費		0	
報酬・委託・手数料		668,749	
支払派遣費	0		
プログラム開発費	0		
業務委託費	513,949		
支払報酬・諸謝金	154,800		
支払手数料	0		
減価償却費		3,392,468	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費		1,838,966	
環境整備費	349,405		
移設撤去費	0		
損害賠償費	0		
雑役務費	1,489,561		
受託研究費			29,940,200
国又は地方公共団体		3,065,200	
謝金	201,810		
旅費交通費	166,960		
人件費	0		
物件費	2,498,741		
減価償却費	11,200		
租税公課	10,089		
その他の受託研究費	176,400		
その他		26,875,000	
謝金	651,170		
旅費交通費	1,236,197		
人件費	6,789,577		
物件費	14,950,402		
減価償却費	0		
租税公課	369,900		
その他の受託研究費	2,877,754		
共同研究費			17,209,000
国又は地方公共団体		14,259,000	
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	13,932,500		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の共同研究費	326,500		

勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額
[経常収益]			
[経常収益]運営費交付金収益			1,031,186,046
[経常収益]授業料収益			190,104,950
[授業料収益]授業料収益		189,927,150	
[授業料収益]講習料収益		177,800	
[経常収益]入学金収益			15,168,500
[経常収益]検定料収益			3,717,400
[経常収益]受託研究等収益			47,810,000
受託研究収益		30,601,000	
国又は地方公共団体	3,726,000		
その他	26,875,000		
共同研究収益		17,209,000	
国又は地方公共団体	14,259,000		
その他	2,950,000		
[経常収益]受託事業等収益			13,405,000
国又は地方公共団体		12,994,000	
その他		411,000	
[経常収益]補助金等収益			65,536,460
[経常収益]寄附金収益			48,032,234
[経常収益]施設費収益			2,897,250
[経常収益]資産見返負債戻入			41,324,495
資産見返運営費交付金等戻入		26,383,298	
資産見返運営費交付金戻入	23,002,196		
資産見返授業料戻入	3,381,102		
資産見返補助金等戻入		2,117,456	
資産見返寄附金戻入		7,737,923	
資産見返物品受贈額戻入		5,085,818	
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入		0	
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0		
特許権仮勘定見返授業料戻入	0		
特許権仮勘定見返補助金等戻入		0	
特許権仮勘定見返寄附金戻入		0	
[経常収益]財務収益			0
受取利息		0	
有価証券利息		0	
その他の財務収益		0	
[経常収益]雑益			22,146,720
財産貸付料収入		8,857,047	
寄宿料収入	3,298,300		
職員宿舎貸付料収入	4,666,142		
学校財産貸付料収入	892,605		
文献複写料		140	
物品受贈益		0	
債権受贈益		0	
承継剰余金債務戻入		0	
間接経費収入		12,936,000	
科学研究費補助金等間接経費収入	1,539,000		
補助金等間接経費収入	11,397,000		
刊行物売払代		0	
不用物品売払代		0	
弁償及び違約金		0	
受取保険料		0	
版権及び特許権等収入		0	
助成金等収入		0	
その他の雑益		353,533	
[経常収益]合計			1,481,329,055
経常利益			-3,153,535
[臨時損失]			0
[臨時損失]固定資産除却損			
固定資産除却損（固定資産簿価）			947,624
固定資産除却損（解体撤去費）			0
[臨時損失]固定資産売却損	21,253,903		
[臨時損失]災害損失	0		
[臨時損失]減損損失	0		
[臨時損失]その他の臨時損失	0		
[臨時損失]合計			-22,201,527
[臨時利益]			0
[臨時利益]固定資産売却益			0
[臨時利益]貸倒引当金戻入			0
[臨時利益]徴収不能引当金戻入			0
[臨時利益]退職給付引当金戻入			0
[臨時利益]資産見返負債戻入			0
資産見返運営費交付金等戻入		0	
資産見返運営費交付金戻入	0		
資産見返授業料戻入	0		
資産見返補助金等戻入		0	
資産見返寄附金戻入		0	
資産見返物品受贈額戻入		0	
[臨時利益]その他引当金戻入			0
[臨時利益]その他の臨時利益			0
[臨時利益]合計			0
[当期純利益（純損失）]			-25,355,062
[前中期目標期間繰越積立金取崩額]			0
[目的積立金取崩額]			0
[当期総利益（総損失）]			-25,355,062

その他		2,950,000	
謝金	106,800		
旅費交通費	317,960		
人件費	0		
物件費	2,461,581		
減価償却費	0		
租税公課	2,150		
その他の共同研究費	61,709		
受託事業費			13,405,000
国又は地方公共団体		12,994,000	
謝金	415,710		
旅費交通費	567,700		
人件費	10,293,372		
物件費	922,338		
減価償却費	0		
租税公課	519,080		
その他の受託事業費	275,800		
その他		411,000	
謝金	0		
旅費交通費	0		
人件費	0		
物件費	411,000		
減価償却費	0		
租税公課	0		
その他の受託事業費	0		
教員人件費			695,166,880
常勤教員給与		630,378,701	
常勤教員給与	381,896,414		
常勤教員賞与	134,504,214		
常勤教員賞与引当金繰入額	0		
常勤教員退職給付費用	108,956,250		
常勤教員法定福利費	5,021,823		
非常勤教員給与		64,787,979	
非常勤教員給与	52,168,994		
非常勤教員賞与	7,815,599		
非常勤教員賞与引当金繰入額	0		
非常勤教員退職給付費用	1,246,560		
非常勤教員法定福利費	3,756,826		
職員人件費			317,376,725
役員報酬		0	
役員報酬	0		
役員賞与	0		
役員賞与引当金繰入額	0		
役員退職給付費用	0		
役員法定福利費	0		
常勤職員給与		270,906,613	
常勤職員給与	182,320,747		
常勤職員賞与	56,251,639		
常勤職員賞与引当金繰入額	0		
常勤職員退職給付費用	29,906,045		
常勤職員法定福利費	2,428,182		
非常勤職員給与		46,470,112	
非常勤職員給与	34,370,350		
非常勤職員賞与	5,840,979		
非常勤職員賞与引当金繰入額	1,176,050		
非常勤職員退職給付費用	167,220		
非常勤職員退職給付引当金繰入額	278,700		
非常勤職員法定福利費	4,836,813		
一般管理費			
一般管理費			67,459,047
消耗品費		13,207,261	
備品費		948,700	
印刷製本費		1,626,468	
水道光熱費		8,451,788	
電気料	6,552,128		
ガス料	64,828		
水道料	1,834,832		
旅費交通費		7,584,327	
通信運搬費		1,644,394	
賃借料		938,706	
車両燃料費		466,787	
福利厚生費		816,935	
保守費		3,852,859	
修繕費		13,494,455	
損害保険料		51,032	
広告宣伝費		0	
行事費		0	
諸会費		146,000	
会議費		0	
報酬・委託・手数料		1,731,030	
委託調査研究費	0		
支払派遣費	0		
プログラム開発費	0		
業務委託費	1,401,885		
諸謝金	230,330		
その他報酬	0		
支払手数料・銀行手数料	95,865		
支払手数料・その他手数料	3,150		
租税公課		1,429,700	
自動車重量税	107,700		
固定資産税	1,313,300		
収入印紙代	8,700		
消費税等	0		
その他の租税公課	0		
減価償却費		1,412,961	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費		9,655,644	
環境整備費	7,580,312		
移設撤去費	333,900		
雑役務費	1,741,432		
財務費用			
財務費用			0
支払利息		0	
その他の財務費用		0	
雑損	0	0	0
雑損			0
経常費用］合計			1,484,482,590

（出典　平成 21 年度損益計算書一覧）

（分析結果とその根拠理由）
収入と支出は均衡しており，適正な予算管理がなされている。過大な支出超過とはなっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）
学内の予算配分においては，教育研究活動の活性化を図るため，当初配分された運営費交付金等を教育研究系経費，管理共通系経費，厚生補導系経費，図書館系経費に区分し，全学的共通経費，重点事項経費並びに別途校長が決定した事項に充当している。また，教育研究系経費中，各事項の配分後の配分残高については，校長裁量経費とし，別途校長が使途を決定している。重点事項経費については，年度毎に措置対応経費を決定し，優先的に使用できるように配分している。そして，校長裁量経費としては，校長のリーダーシップのもと，本校における中期計画・年度計画等を実施するうえで必要となる経費について，戦略的かつ計画的に資源配分を行っている。また，教員の教育研究の活性化を図るため，校長裁量経費による教育研究経費に係る貸付制度を平成20年度から導入している。

（分析結果とその根拠理由）
校長のリーダーシップのもと教育研究活動の活性化を図るために競争的環境を設け，研究の質の向上等に応じた有効な配分がなされている。重点事項経費を優先的に配分することにより，施設・設備等の環境も改善されている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）
機構本部において，各高専の貸借対照表，損益計算書等の財務諸表等が集計され，官報及び機構のホームページで公表されている。

（分析結果とその根拠理由）
財務諸表等は，機構本部が全国高専を集計した連結決算として，官報及び機構のホームページに掲載されており，適切な形で公表されている。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

平成22年度は機構内部監査規則に基づく内部監査を受検した。さらに，同規則に基づく四国地区の高専間での相互監査では，高知高専による監査を受検した。そして，学内会計監査規則に基づき，内部会計監査員による監査を毎会計年度１回実施しており，会計職員の交替その他必要があると認めたときは，臨時監査を行っている（**資料10－３－②－１**）。

資料 10－３－②―１

監査事項一覧

監査対象	科学研究費補助金（平成○年度）		研究種目		区分
対象研究者			課題番号		
監査実施時期	○月○日～○月○日		研究題目		
監査の種類	通常監査　特別監査	監査の範囲 業務監査　会計監査	監査員		

監査項目		監査内容	監査方法	適・否	備考
1	応募・交付申請に係る手続	(1)研究者の登録及び確認手続	実地・書面	適・否	
		(2)公募内容の周知	実地・書面	適・否	
		(3)応募書類の取りまとめ及び提出	実地・書面	適・否	
		(4)交付内定通知の受理及び研究者への通知	実地・書面	適・否	
		(5)申請資格の確認	実地・書面	適・否	
		(6)研究者との関係に関する定め	実地・書面	適・否	・阿南工業高等専門学校科学研究費補助金取扱要項
2	交付決定通知の受理及び研究者への伝達	(1)補助条件の写しの配布	実地・書面	適・否	
		(2)法令等の遵守状況	実地・書面	適・否	
		(3)補助金の受領	実地・書面	適・否	
3	補助金の管理	(1)研究機関による補助金の管理等	実地・書面	適・否	
		(2)支払時における内部牽制体制状況	実地・書面	適・否	・支払決議書
		(3)費目別の収支管理	実地・書面	適・否	・収支簿
		(4)支出の制限	実地・書面	適・否	・収支簿・支払決議書・証拠書類
		(5)収入の返還	実地・書面	適・否	・収支簿・支払決議書・証拠書類
		(6)補助金の受入処理	実地・書面	適・否	・預金通帳
4	直接経費の使用	(1)交付前使用状況	実地・書面	適・否	・科学研究費補助金交付前使用願
		(2)物品等の購入（発注）状況	実地・書面	適・否	・支払決議書・契約関係書類（購入依頼書，見積書）・収支簿
		(3)物品等の購入（検収）状況	実地・書面	適・否	・支払決議書・検収関係書類（納品書）
		(4)物品等の購入（寄附受入）状況	実地・書面	適・否	・寄附申込書
		(5)物品等の購入（契約関係書類の整理）状況	実地・書面	適・否	・支払決議書・契約関係書類
		(6)物品等の購入（使用状況）の確認	実地・書面	適・否	・支払決議書・契約関係書類
		(7)業者との取引状況	実地・書面	適・否	
		(8)旅費の支給状況	実地・書面	適・否	・支払決議書・旅行命令・依頼簿・旅費計算書・出張報告書・航書・労働状況記録簿兼時間外労働命令簿
		(9)謝金の支給・アルバイトの雇用状況	実地・書面	適・否	・支払決議書・実施計画書・謝金支出伺・出勤表・完了報告書・働命令簿
		(10)翌年度への繰越状況	実地・書面	適・否	・繰越承認要求額の算定根拠・繰越しを必要とする理由書・研究決議書
5	交付申請書の記載内容の変更	(1)直接経費の使用内訳の変更	実地・書面	適・否	・直接経費使用内訳変更承認申請書・交付申請書
		(2)補助事業の廃止	実地・書面	適・否	・研究廃止承認申請書
		(3)研究代表者の交替	実地・書面	適・否	・研究組織変更承認申請書
		(4)研究代表者の応募資格の喪失	実地・書面	適・否	・辞退届・研究廃止承認申請書・研究組織変更承認申請書
		(5)研究分担者の変更	実地・書面	適・否	・研究組織変更承認申請書・研究分担者承諾書
		(6)育児休業等による中断	実地・書面	適・否	・研究中断承認申請書
		(7)計画外の分担金配分	実地・書面	適・否	・分担金配分承認申請書
6	間接経費の取扱	(1)間接経費の取扱状況	実地・書面	適・否	・収支簿
7	研究成果の報告等	(1)研究成果報告書の提出義務	実地・書面	適・否	・研究成果報告書・研究経過報告書
		(2)研究成果発表における表示義務	実地・書面	適・否	・証拠書類(論文の写し等)
		(3)研究成果発表の報告状況	実地・書面	適・否	・証拠書類・研究成果発表報告書又は新聞掲載等報告書
8	その他	(1)生命倫理・安全対策に関する遵守事項	実地・書面	適・否	
		(2)帳簿の記帳・管理状況	実地・書面	適・否	・収支簿・預貯金通帳等・支払決議書(領収書他)
		(3)研修会・説明会の開催	実地・書面	適・否	・研修会・説明会の実施状況報告書

（出典　監査事項一覧）

（分析結果とその根拠理由）

会計監査には，機構内部監査規則に基づく内部監査と高専間の相互監査及び学内会計監

査規則に基づく内部会計監査ある。機構本部による内部監査以外は，毎会計年度実施されており，財務に係る監査等は適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

いずれの観点においても，教育目標を達成するための財源の確保並びに予算の適正配分，及び適正かつ効率的予算執行に対する努力がなされている。

（改善を要する点）

運営費交付金が毎年度削減されることが予想されている状況を考えると，今後，教員の研究費を確保する上で，共同研究，科学研究費補助金等の外部資金の更なる獲得が今後の課題として検討する必要がある。

（３）基準10の自己評価の概要

学校の目的を達成するための教育研究活動を円滑に進めるための資産（土地及び建物・設備）を有している。授業料，入学料等の自己収入に加え，機構本部からの運営費交付金の配分により，経常的収入が継続的に確保されている。学内配分も適切に行われ，その執行についても計画的に適正な経理がされている。会計監査等については，機構内部監査，高専間の相互監査及び学内会計監査の３つの内部監査により，監査機能を保っている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長，副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，地域連携・テクノセンター長，広報情報室長，事務部長に各科主任・各課長を加えた運営委員会では，教育研究及び管理運営，教務・学生支援・寮務に関することを始め学校運営に関することのうち，とくに重要なものについて審議している。

この審議結果を受け，全教員を構成員に含む教員会議を開催し，周知している。教員会議とは別に，各科において教室会議を開催し，各科主任より運営委員会審議事項等について，周知している。

運営委員会・教員会議のいずれも校長が招集し，適切な審議を経た後の決定は速やかに構成員に伝えられ，全校的なコンセンサスに立脚した迅速な活動に接続している**（前述資料２－２－①－２　，資料11－１－①－１）**。

３主事が管轄する委員会及びその他委員会等の規則を整備し，それぞれの役割を明確にして，校長の指揮の下，連携して学校運営を効率的に行える体制としている**（資料11－１－①－２）**。

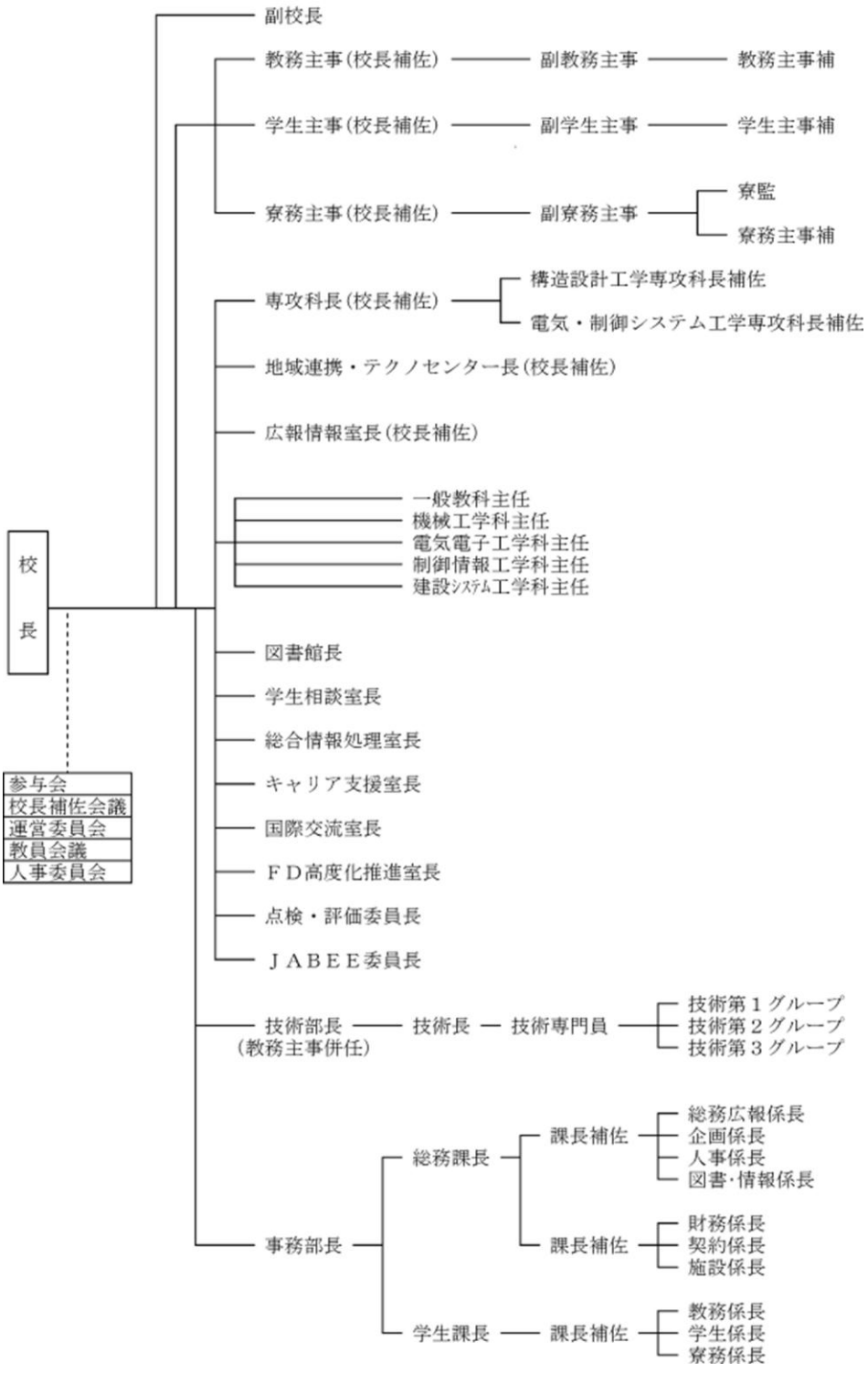
各委員会等の通常業務以外の事案については，各委員会等規則に則り，必要に応じて校長の指示の下で調査･検討等を行い，運営委員会の審議を経て実行している。

校長等の提議により，運営委員会等の審議を経て，管理運営体制を変更した例として，キャリア支援室・国際交流室・広報情報室・ＦＤ高度化推進室の設置がある。キャリア支援室は，前身のキャリア教育支援室の支援機能（低学年からのキャリア教育，コーオプ教育等）を強化して改組した**（前述資料２－１－③－９）**。国際交流室は，前身の留学生指導委員会の留学生支援機能に加え，海外大学との学術交流，留学支援等の機能をあわせ持つ**（資料 11－１－①－３）**。広報情報室は，教務主事管轄の入試広報を移管し，Web サイト・広報展示室運営等とあわせ学校広報を広く担当する**（資料 11－１－①－４）**。ＦＤ高度化推進室は，平成 22 年度大学教育推進プログラムの採択を機に先進的ＦＤ活動を推進するため設置した**（資料 11－１－①－５）**。それぞれ，期待された成果をあげている**（資料 11－１－①－６～８）**。

資料２－２－①―２　（再掲）

学校運営組織図

阿南工業高等専門学校の運営組織図（平成２３年４月１日）



（出典　高専生活のてびき　平成 22 年度 P. 183）

資料 11－１－①－１

教員組織規則抜粋

阿南工業高等専門学校教員組織規則

（昭和53年10月１日）
（規　則　第　５　号）

（目的）
第１条　この規則は、阿南工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第11条の規定に基づき、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員組織を定めることを目的とする。
（副校長）
第２条　本校に、副校長を置く。
２　副校長は、校長から命を受け、これを補佐するとともに、校長から指示された特命事項を処理する。また、校長に事故ある時は、その事務を代行する。
３　副校長の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
（主事）
第３条　本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。
２　主事の職務は、別に定めるところによる。
３　主事の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
（専攻科長）
第４条　専攻科に、専攻科長を置く。
２　専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関する事項を掌理する。
３　専攻科長は、専攻科を担当する教授の中から、校長が選任する。
４　専攻科長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残余の期間とする。
（地域連携・テクノセンター長）
第５条　本校に地域連携・テクノセンターを置き、地域連携・テクノセンター長（以下「センター長」という。）を置く。
２　センター長の職務及び任期に関する事項は、別に定める。
（広報情報室長）
第６条　本校に広報情報室を置き、広報情報室長を置く。
２　広報情報室長の職務及び任期に関する事項は、別に定める。
（校長補佐）
第７条　本校に校長補佐を置く。
２　校長補佐は、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、センター長及び広報情報室長をもって充てる。
３　校長は、必要に応じ、前項以外の者を校長補佐として指名し、特命事項を処理させることができる。
４　校長補佐は、校長の命を受け、これを補佐する。
（副主事）
第８条　本校に、副教務主事、副学生主事及び副寮務主事を置くことができる。
（主事補及び寮監）

（出典　WEB　阿南工業高等専門学校規則集）

資料 11－１－①－２

各種委員会の審議事項（各委員会規則抜粋）

阿南工業高等専門学校教務委員会規則

（平成16年４月１日）
（規 則 第 １ １ 号）

（設置）
第１条　阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 教育課程の編成及び履修に関する事項
(2) 入学及び卒業並びに学籍に関する事項
(3) 入学者選抜に関する事項
(4) ホームルームに関する事項
(5) 実験実習業務に関する事項
(6) 実験実習工場の管理及び運営に関する事項
(7) その他教育に関する事項
（後略）

阿南工業高等専門学校学生委員会規則

（平成16年４月１日）
（規 則 第 １ ３ 号）

（設置）
第１条　阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 学生の生活指導に関する事項
(2) 学生の身分に関する事項
(3) プロコンに関する事項
(4) ロボコンに関する事項
(5) 人権教育に関する事項
(6) 学生会に関する事項
(7) その他学生生活に関する事項
（後略）

阿南工業高等専門学校寮務委員会規則

（平成16年４月１日）
（規 則 第 １ ９ 号）

（設置）
第１条　阿南工業高等専門学校に阿南工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。
(1) 寮の管理・運営に関する事項
(2) 寮生活における教育指導に関する事項
(3) 寮生活における生活指導に関する事項
(4) 寮生活における健康指導に関する事項
(5) 寮生活における栄養指導に関する事項
(6) その他寮生活に関する事項
（後略）

（出典　阿南工業高等専門学校教務委員会規則）

資料２－１－③－９　（再掲）

キャリア支援室規則

阿南工業高等専門学校キャリア支援室規則

（平成20年５月14日）
（規　則　第　２　号）

（設置）

第１条　阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）に阿南工業高等専門学校キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（目的）

第２条　支援室は、低学年からのキャリア教育の推進を図り、学生に職業観・倫理観を持たせるための支援を行うと共に、就職・進学活動、インターンシップ及びコーオプ教育に関する指導や助言を行うことを目的とする。

（業務）

第３条　支援室は，次に掲げる業務を行う。

(1)キャリア教育の企画及び実施に関する事項
(2)インターンシップの企画及び実施に関する事項
(3)コーオプ教育の企画及び実施に関する事項
(4)就職及び進学ガイダンス等の企画及び実施に関する事項
(5)就職及び進学に関する情報等の収集及び提供に関する事項
(6)就職及び進学支援のための広報に関する事項
(7)進路相談に関する事項
(8)その他学生の進路支援に関する事項

（職員）

第４条　支援室に次の職員を置く。

(1)室長
(2)副室長（インターンシップ・就職支援担当）
(3)副室長（コーオプ教育担当）
(4)副室長（進学支援担当）
(5)キャリア教育担当教員
(6)インターンシップ担当教員
(7)コーオプ教育担当教員
(8)就職担当教員
(9)進学担当教員
(10)進路支援教員
(11)その他室長が指名する者

（室長）

第５条　室長は、本校の教員の中から、校長が指名した者をもって充て、支援室の業務を掌理する。

２　室長に事故あるときは、室長があらかじめ指名した副室長がその職務を代行する。

（副室長）

第６条　副室長は、本校の教員の中から、室長が指名した者をもって充て、室長の職務を

補佐する。
（キャリア教育担当教員、インターンシップ担当教員、コーオプ教育担当教員、就職担当教員及び進学担当教員）
第７条　キャリア教育担当教員、インターンシップ担当教員、コーオプ教育担当教員、就職担当教員及び進学担当教員は、各学科から選出された者各１名をもって充て、支援室の業務を行う。
２　室長が必要と認める場合、本校教員の中から室長が選出した者若干名を各担当教員に加えることができる。
（進路支援教員）
第８条　進路支援教員は、非常勤教員をもって充て、支援室の業務を行う。
（任期）
第９条　室長、副室長、キャリア教育担当教員、インターンシップ担当教員、コーオプ教育担当教員、就職担当教員及び進学担当教員の任期は、１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
（事務）
第10条　支援室に関する事務は学生課及び総務課において処理する。
（雑則）
第11条　この規則に定めるもののほか、支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成20年５月14日から施行し、平成20年４月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成21年４月１日から施行する。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料 11－１－①－３

国際交流室設置に関する運営委員会議事録

運　営　委　員　会　議　事　概　要

１　日　時　　平成２０年１１月１２日（水）　１３時１０分 ～ １７時３０分
２　場　所　　会議室
３　出席者　　別紙出席者名簿のとおり
４　議　題
【報告事項等】

校長から，西岡　守 テクノセンター長が議事の途中で出張するため，報告事項について，テクノセンター長から報告させる旨の説明があった。（議事概要は当初の順）

１　教務委員会報告等（資料１、席上配付資料）

教務主事から資料及び席上配付資料をもとに次の報告等があった。

(1) 平成２０年１０月２７日開催の教務委員会報告

① カリキュラムの変更について

一般教科「法学」と「経済学」の開講学年の変更について，審議の結果，原案どおり了承された。平成２１年度（平成１８年度入学生：現３年生）から開講学年を入れ替え，それに伴い学修単位と履修単位を変更する。５年生に開講する「経済学」についても，将来的にはＪＡＢＥＥ科目とすることが望ましいとの意見があった。

② 平成２１年度入試成績の簡易開示について

開示様式について，郵送または窓口で受付を行うことから，開示申請書とホームページの記載文を変更した。

申請できる者，申請期間，申請方法及び開示方法について決定した。

③ 推薦選抜の合格内定発表について

募集要項では推薦選抜の合格内定通知を郵送することになっているが，他高専（豊田高専，新居浜高専）では推薦の合格発表をホームページで行っている。高専機構本部に問い合わせた結果，ホームページで発表しても差し支えないと回答を得た。また，中学校進路指導主事対象入試説明会で中学校教諭から合格内定通知について，早急に結果を知りたいと強く要望があったことから，今年度から合格内定をホームページで発表してはどうかとの提案があり，審議の結果，受検生等に不利益を与えるものではないため，合格内定者の受検番号を本校掲示板とホームページで掲載することで了承された。

また，このことを中学校長会長の市場中学校長に説明し，各郡市の理事校にも知らせ，ホームページに掲載して周知し，推薦選抜の願書受付時にも受検生・中学校教諭に知らせるなどして対応する。

④ その他・報告

・教育連携専門委員会報告について

１０月１５日，１年生学級担任に出席願い開催し，１年生の学習支援ミーティングの担当者について審議した結果，原則として仮配属学科のチュータが担当し，学生の希望や担任の判断により変更してもよいと決定されたと報告があった。

・後学期ＬＨＲ計画について

既にメールで通知済みである旨の報告があり，資料に基づき，説明があった。

・非常勤講師の担当時間数の変更について

（中略）

した旨の説明があった。２回目のヒアリングとして，在校生，卒業生及び保護者が対象となる旨の説明があり，１２月２１日（日）ホテルサンオーシャンで実施される旨の説明があった。

教務主事から席上配付資料をもとに，２回目ヒアリングにおける在校生，卒業生の候補者推薦があり，各学科の意見と合わせて人選（案）を行った。

総務課長から保護者の推薦について，廣瀬博之後援会会長に協力いただいている旨の説明があった。

なお，校長から，徳島県商工労働部，阿南市企画政策課，（財）とくしま産業振興機構，日亜化学工業㈱及び四国電力㈱等の公共団体や企業もヒアリングの対象になっている旨の補足説明があった。

(3) 平成２０年度の学内予算措置について

① 国際化プロジェクト支援について

三木哲志専攻科長から申請のあったオスナブリュック応用科学大学への訪問について，予算措置した旨の報告があった。

② 教育研究経費に係る貸付について

一般教科 田上隆徳 准教授及び機械工学科 大北裕司 准教授から申請のあった教育研究経費の貸付申請について承認した旨の報告があった。

(4) 技術部の整備について

技術職員の組織化を目的として，１１月１日付けで学則等の規則改正を行い，技術部を設けた旨の報告があった。また，教務主事を技術部長として発令した旨の報告が併せてあった。

なお，技術部を整備したことを周知し，ピアールするよう指示があった。

(5) 教員人事について

平成２１年度の定年退職者３名について，再雇用希望の有無を確認中である旨の報告があった。定員削減との関連から，フルタイム雇用３名は出来ない旨の説明があった。

（制御情報工学科 中道義之 助教の沼津高専転出は，制御情報工学科主任から報告済み）

(6) 「化学」の学習到達度試験について

「化学」の試験実施の是非について検討を行っていた旨の報告があり，検討の結果，高専間の学年やカリキュラム内容にバラツキがあるため，当面は実施しないことになった旨の説明があった。

(7) 教育改善（ＰＤＣＡ）に関する事務の省力化（ウェブ処理）について

現在，平成２１年度の本稼働を目指して試行中である授業参観記録のウェブ利用による記録提出について，教員側は事務の省力化に協力するよう指示があった。

(8) 国際交流室の設置について

国際交流が進んでいる舞鶴高専等の状況説明があり，本校も国際交流を推進する必要がある旨の説明があった。

交換留学生など海外大学との交流促進，留学生の派遣時の支援の強化及び外国人留学生の支援に係る事務一元化を目的とした規則の整備を図り，平成２１年度から，国際交流室を設置する旨の報告があった。

(9) 外部資金の獲得について

席上配付資料をもとに，平成２０年度質の高い大学教育推進プログラム選定状況につ

めるよう指示があった。
なお，引き続き，科学研究費など外部資金の獲得に努めるよう指示があった。
(10) 平成２１年度のキャリア支援室について
１２月の運営委員会で来年度のキャリア支援室について提案するとの報告があった。

8　その他
(1) 平成２０年度予算執行状況について（資料９）
総務課長から資料をもとに，本年度の予算区分毎，教員毎及び外部資金の執行状況の報告があった。効率的かつ計画的な経費の執行について協力願いたい旨の依頼があり，購入依頼書の提出について，原則，平成２１年１月末を期限とする旨の依頼があり，了承された。
なお，校長から，通常，年度末近くまで研究費の残額があることは不合理で説明がつかない旨の発言があり，適切に経費執行するよう指示があった。
(2) 外部資金受入状況について（資料１０）
総務課長から資料をもとに，外部資金の受入状況報告があった。昨年度との比較等の説明があり，引き続き，外部資金の獲得について協力依頼があった。
(3) 電力量等の使用状況について（資料１１）
総務課長から資料をもとに，電力量等の使用状況報告があった。昨年度との比較等の説明があり，引き続き，効率的な光熱水の使用について協力依頼があった。
(4) 事務職員の再雇用について
事務部長から，総務課施設係主任が本年度末に定年退職となる旨の報告があり，４月以降，短時間の再雇用を行う旨の説明があった。再雇用に係る経費は，事務部でも節減に努めるが，厳しい財政状況であるため，学内予算の中で捻出せざるをえない旨の説明があり，協力依頼があった。

【審議事項】
1　阿南工業高等専門学校国際交流室規則の制定等について（資料１２）
総務課長から国際交流室の設置について，主旨は校長から報告済みである旨の説明があった。資料をもとに，次の新規制定規則及び関連規則の一部改正について，内容及び理由の説明があった。
審議の結果，国際交流室の業務及び語句の表記について見直しを図り，再度メールにて審議することで了承された。
①　新規制定
・阿南工業高等専門学校国際交流室規則（規則第21号）
②　一部改正
・阿南工業高等専門学校学生委員会規則の一部を改正する規則（規則第22号）
・阿南工業高等専門学校外国人留学生規則の一部を改正する規則（規則第23号）
・阿南工業高等専門学校外国人留学生相談員（チューター）実施要項の一部を改正する要項（要項第１号）

（出典　運営委員会議事録）

資料 11－１－①－４

広報情報室設置に関する運営委員会議事録

運　営　委　員　会　議　事　概　要

１　日　時　　平成２０年１２月１０日（水）　１３時３５分 ～ １７時１５分
２　場　所　　会議室
３　出席者　　別紙出席者名簿のとおり
４　議　題
【報告事項等】

１　教務委員会報告等（資料１、席上配付資料）

教務主事から資料及び席上配付資料をもとに次の報告等があった。

(1) 平成２０年１１月２７日開催の教務委員会報告

① 平成２１年度推薦による入学者選抜検査実施要項案について（席上配付資料）

資料及び席上配付資料をもとに，昨年度との変更点，試験実施方法等について詳細な説明があった。特に，入試ミス防止への対策について説明があり，協力依頼があった。（報告後資料回収）

② カリキュラム変更について

４年，５年に開講している「英語の語彙・文法」について，平成２１年度在学生からそれぞれ，通年２単位を半期各１単位の２科目にする。

③ その他・報告

・学習到達度試験の実施について

平成２１年１月１４日（水）３年生を対象に，「数学」及び「物理」を実施する。午後から，四国地区共通試験として「英語」を実施する。なお，「化学」は平成２１年２月１０日（火）に実施する。

平成２１年度学習到達度試験は平成２２年１月１３日(水)に実施する。

・保護者懇談会の出席状況について

西部地区保護者懇談会（１０月２５日(土) 開催）及び全体保護者懇談会（１１月１日(土)，２日(日)開催）の出席状況等について報告があった。

・学科再選択の最終調査様式について

資料をもとに，事務処理方法及び日程等について詳細な説明があった。正式な学科配属は３月１９日(木)の進級判定会議以降に決定され，学生及び保護者に通知する旨の説明があった。

校長から，機構本部の校長・事務部長会議（１１月２５日（火）開催）での校長懇談会において，従来から高専生の英語力が改善されていないことが話題になった旨の報告があり，英語力の強化，改善に努めるよう指示があった。

２　学生委員会報告等（資料２）

学生主事から資料をもとに次の報告等があった。

(1) 次年度のクラブ・同好会顧問の決め方について

現行の問題点，改善点等について報告があり，顧問の選出及び決定方法について概要説明があった。

(2) 次年度の蒼阿祭について

（中略）

１２月１５日（月）に開催予定の県知事との懇談会について，資料をもとに，本校からの提案・要望について説明があった。

意見及び要望の追加等がある場合は，総務課長に連絡するよう依頼があった。

(2) 機構本部校長・事務部長会議について

１１月２５日（火）に開催された同会議について，理事長等から報告のあった次の事項について説明があった。

なお，資料については回覧中である旨の補足説明があった。

① 次期中期目標・中期計画について
② 国立高等専門学校の高度化再編について
③ 留学生の受入拡大等，国際交流の推進について
④ 海外でのインターシップの実施について
⑤ 入試ミスの防止について
⑥ 専攻科の学位授与について
⑦ メンタルヘルス，自殺防止について
⑧ 学生による交通事故の発生状況，事故の防止等について
⑨ 機構本部の各種委員会報告について

・高度化再編について
・電子ジャーナルの発刊について
・薬物汚染の防止等について

(3) 国際化の推進について（席上配付資料）

仙台電波高専における海外学術交流状況の文教速報の記事が席上配付され，他高専においても国際交流を推進している状況であることから，さらに国際交流を進めたい旨の報告があった。

(4) 四国地区国立高専校長・事務部長会議について

１１月１５日（土）に開催された同会議について，次の事項について報告があった。

なお，資料については回覧中である旨の補足説明があった。

① 高度化再編に伴う「香川高専」の設立について
② 情報セキュリティについて　外

(5) 平成２０年度予算の追加配分について

風力・太陽光発電装置修理費（4,200千円）及び燃料費（3,595千円）の追加配分があった旨の報告があった。

(6) キャリア支援室のあり方について（席上配付資料）

席上配付資料をもとに，来年度のキャリア支援室のあり方について説明があった。

平成２０年度限りで，現代ＧＰ「教育課程早期からの職業指導推進プログラム」の予算措置は終えるが，平成２１年度においても，キャリア支援室を継続させること及びキャリア支援室長を校長指名としたい旨の提案があり，了承された。

(7) 広報・情報室（案）について（席上配付資料）

校長から，現行の広報・情報委員会について見直しを図り，広報の一元化，さらなる広報の充実等を目的として，広報・情報室を新設したい旨の説明があった。

広報・情報室案の作成者である 坪井泰士 教授から席上配付資料をもとに，組織図及び業務内容等の原案について詳細説明があった。

校長から，広報・情報室を新設すること，同室長は校長補佐として，校長補佐会議及

び運営委員会の委員を務めさせたいとの提案があり，了承された。

なお，広報・情報室について，組織や規則化の検討を進めていく旨の説明があった。

(8) 元土木工学科　湯浅博明 名誉教授からのご寄附について

今秋の叙勲において，湯浅 博明 名誉教授が勲章を受けた旨の報告があり，先生の奥様を通じて，寄附金（１０万円）をいただいた旨の報告があった。

校長から，この寄附金の使い方について意見聴取があり，各委員から具体的な提案があったが，検討の結果，図書購入等，使途についてよりよい案があれば提案し，改めて検討することとした。

(9) 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」について

愛媛大学が実施している文部科学省の委託事業である旨の説明があった。

本事業には，四国地区の相当数の高等教育機関（３６の大学高専等，徳島県は全て）が参画している旨の報告があり，本校も参加したいとの提案があり，了承された。

(10) 平成２１年度の教員人事異動について

一般教科数学担当の助教として山田耕太郎を採用すること，機械工学科助教として現技術部の 西本浩司 技術職員を配置換させることの報告があった。

(11) 平成２１年度の校内役職者について

新年度の校内役職者について次のとおり報告があった。

副校長	宮　城　勢　治
教務主事	岩　佐　健　司
学生主事	多　田　博　夫
寮務主事	堀　井　克　章
専攻科長	當　宮　辰　美
一般教科主任	林　田　栄　治
機械工学科主任	畑　中　伸　夫
電気電子工学科主任	中　野　好　典
制御情報工学科主任	田　中　達　治
建設システム工学科主任	湯　城　豊　勝
地域連携・テクノセンター長	西　岡　　守
点検・評価委員長	松　本　高　志
ＪＡＢＥＥ委員長	西　岡　　守
広報・情報委員長（改組予定）	坪　井　泰　士
図書館長	中　村　厚　信
学生相談室長	錦　織　浩　文
総合情報処理室長	田　中　達　治
キャリア支援室長	正　木　和　夫
キャリア支援室副室長	奥　本　良　博
キャリア支援室副室長	原　野　智　哉
国際交流室（新設）	林　田　栄　治
国際交流室副室長（新設）	藤　居　岳　人
国際交流室副室長（新設）	杉　野　隆三郎

総務課長から，年明け後，各主事補，各種委員会委員の選出について別途依頼する旨の説明があり，協力依頼があった。

（後略）

（出典　運営委員会議事録）

資料 11－１－①－５

FD 高度化推進室設置に関する運営委員会議事録

運　営　委　員　会　議　事　概　要

１　日　時　　平成２３年４月４日（月）　９時００分 ～ １１時４８分
２　場　所　　会議室
３　出席者　　別紙出席者名簿のとおり
４　議　題

議事に先立ち，校長から新年度１回目の会議開催にあたり挨拶があり，監事監査への謝礼，各科教員への情報伝達及び行事等への出席について依頼があった。

【報告事項等】

１　教務委員会報告等（資料１）

教務主事から資料をもとに次の報告等があった。

(1) 平成２３年３月１６日開催の教務委員会報告

① 「教務委員会(申し合わせ事項)」について

学業成績評価に関する規則に係る内容について，新カリキュラム関係の表現を検討した結果，一部変更が了承された。

② 平成２３年度非常勤講師の任用について

資料のとおり未定であった科目の非常勤講師について，資格審査を行い，要件を満たしていることが確認された。

なお，一般教科主任から，「保健」担当の佐竹非常勤講師の期間は前期である旨訂正があった。

③ 徳島大学工学部における単位互換科目の履修状況について

資料のとおり平成２２年度後期は７０％の合格率であった旨報告があった。

校長から，学生への指導引き続きよろしくお願いしたいとの発言があった。

(2) 平成２３年度学生現員について

資料に基づき説明があり，留年者等への指導について引き続き協力依頼があった。

また，機械工学科主任から，休学し留学する学生の学年について訂正があった。

(3) 平成２３年度統一ロングホームルームについて

資料のとおり報告があった。なお，１年生の４月２６日は学生主事からの「新入生合宿研修前の指導」となり，「図書館案内」は５月１０日となる旨訂正があり，改めてメールで周知する。

非常勤講師の任用について，電気電子工学科主任から，「電波法規」担当の近藤光徳非常勤講師から急に退任の申し出があり，電気電子工学科で検討した結果，「電波法規」を松本准教授が担当し，「電気計測」の科目を和田非常勤講師に依頼する提案があり，４月の教務委員会で審議願うこととなった。

２　学生委員会報告等（資料２）

学生主事から資料及び席上配付資料をもとに次の報告等があった。

(1) 学生管轄業務分担

資料のとおり，業務分担等について説明があった。

(2) 会議日程

資料のとおり，平成２３年度の学生委員会等日程の報告があった。

（中略）

【審議事項】

1　阿南工業高等専門学校ＦＤ高度化推進室規則の新規制定について（席上配付資料）

総務課長から資料をもとに，文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム」に採択されたことに伴い校内に「ＦＤ高度化推進室」を設置するため，規則を制定する旨の説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

なお，予算期間の平成２５年３月末までの時限的な規則となる。

以上

（出典　運営委員会議事録）

資料 11－１－①－６

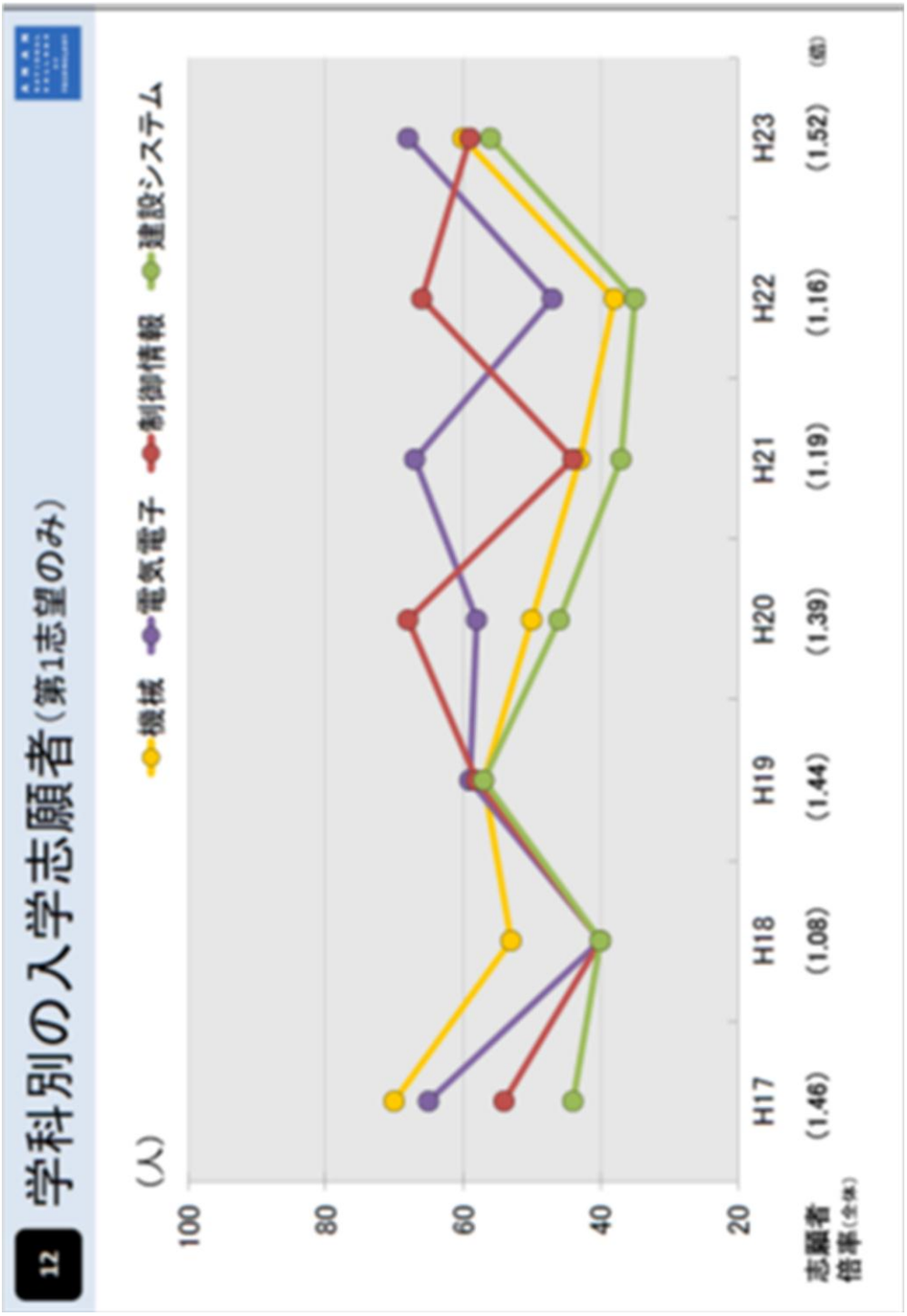
国際交流室成果



（出典　阿南高専 web サイト）

資料 11－１－①－７

広報情報室活動成果



（出典　平成 23 年度入試広報資料）

資料 11－１－①－８

FD 高度化推進室成果



（出典　阿南高専 web サイト）

（分析結果とその根拠理由）

運営委員会，教員会議等の校長が管轄する各組織は諸規則によりその役割を明確にしつつ連携し，そこでの審議は全校的なコンセンサスに立脚した迅速な活動に接続し，効果的かつ迅速な学校運営を可能としている。その例として，キャリア支援室，国際交流室，広報情報室，ＦＤ高度化推進室の開設等がある。

観点11－１－②：　管理運営の諸規定が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

学則，運営委員会規則を始め，３主事が管轄する委員会及その他委員会等の規則を整備し，それぞれの役割を明確にして，校長の指揮の下に適切に連携し，効率的な学校運営に寄与している**（資料11－１－②－１）**。

事務組織は総務課･学生課の２課体制とし，各担当業務を円滑に遂行するとともに，委員会及び他の担当と適切に連携している**（資料11－１－②－２）**。

教務主事のもとに技術部を設け，技術系職員については，平成20年度より技術長，平成22年度より技術専門員を置き，技術第１から第３グループまでの３部門に分かれ，それぞれ教員と協力しながら学生の指導にあたっている**（前述資料３－３－①－２）**。

本校のリスク分析と予防策の点検を行うため，学校管理に責任を持つ各主事，専攻科長等をリスク管理責任者とし，校長がリスク管理を統括している。校長は，リスク事象発生時には危機管理対策室，災害による対策が必要なときは災害対策本部を招集することになっている。**（資料11－１－②－３）**。クラブ活動への対応として，校内６ヶ所にAEDを設置して使用研修を行うとともに，体育系クラブ活動については顧問教員の立ち会いの下で行うこととしている。平日は19時まで非常事態対応職員が学生課に在駐している。クラブ所属の学生には，非常事態対応連絡先を周知している。

資料 11－１－②－１

各種委員会規則

規　則　集　目　次

第１章　学　　則

○学則 ---------- １１

第２章　組　　織

○教員組織規則 ---------- １０１
○事務部組織規則 ---------- １０６
○技術部組織規則 ---------- １１６
○参与会規則 ---------- １２１
○校長補佐会議規則 ---------- １２６
○運営委員会規則 ---------- １３１
○教育点検システム評価部会要項 ---------- １３４
○将来構想検討委員会規則 ---------- １３５
○教育・研究活動企画推進委員会規則---------- １３６
○安全衛生委員会規則 ---------- １４１
○セクシュアル・ハラスメント防止委員会規則 ---------- １４６
○施設・設備委員会規則 ---------- １５１
○環境マネジメント委員会規則 ---------- １５６
○教員会議規則 ---------- １６１
○卒業・進級判定会議規則 ---------- １６６
○人事委員会規則 ---------- １７１
○危機管理対策室設置規則 ---------- １７６
○防災規則 ---------- １７８
○教務委員会規則 ---------- １８１
○教育連携専門委員会規則 ---------- １８６
○学生委員会規則 ---------- １９１
○プロコン対策専門委員会規則 ---------- １９６
○ロボコン対策専門委員会規則 ---------- ２０１
○人権教育推進専門委員会規則 ---------- ２０６
○学生相談室規則 ---------- ２１１
○学生相談専門委員会規則 ---------- ２１６
○寮務委員会規則 ---------- ２２１
○専攻科運営委員会規則 ---------- ２２６
○専攻科修了・進級判定会議規則 ---------- ２３１
○地域連携・テクノセンター委員会規則---------- ２３６
○広報情報室規則 ---------- ２４１
○広報情報室委員会規則 ---------- ２４６
○技術部運営委員会規則 ---------- ２５６
○点検・評価委員会規則 ---------- ２６１
○ＦＤ専門委員会規則 ---------- ２６６
○ＪＡＢＥＥ委員会規則 ---------- ２７１
○図書委員会規則 ---------- ２７６
○キャリア支援室規則---------- ２８１
○国際交流室規則---------- ２８６
○事務協議会規則 ---------- ２９１
○創立５０周年記念事業実行委員会規則 ---------- ２９３
○創立５０周年記念事業実行委員会部会要項 ---------- ２９５
○ＦＤ高度化推進室規則 ---------- ２９７

第３章　庶　　務

○文書処理規則 ---------- ３０１
○事務決裁規則 ---------- ３２１
○公印規則 ---------- ３３６
○拾得物取扱要項 ---------- ３４６
○教職員の財産形成貯蓄関係事務取扱要項 ---------- ３５６
○規則等事務処理細則 ---------- ３６６
○構内における自動車の駐車等の規制に関する要項-------- ３７１
○法人文書管理規則 ---------- ３８１
○自動車運行管理要項 ---------- ４１１
○スクールバス運行要項 ---------- ４２１

第４章　人　　事

○名誉教授称号授与規則 ---------- ５０１
○名誉教授称号授与規則施行細則 ---------- ５０６
○客員教授等規則 ---------- ５１０
○外国人客員研究員規則 ---------- ５１２
○阿南高専に勤務する教職員の労働時間等に関する規則 -- ５１７
○阿南高専に勤務する学生課職員の労働時間等に関する要項
---------- ５１９
○教員選考規則 ---------- ５２１
○教職員服務規則 ---------- ５２６
○セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則 -------- ５３１
○懲戒審査委員会規則 ---------- ５４１
○懲戒調査部会要項 ---------- ５４６
○非常勤講師任用基準 ---------- ５５１
○健康安全管理規則 ---------- ５５６
○教職員レクリエーション部会要項（ホームページ未掲載）
---------- ５６１

第５章　図　　書

○図書館規則 ---------- ６０１
○図書館利用細則 ---------- ６０６
○文献複写規則 ---------- ６１６

第６章　情　　報

○情報公開取扱規則 ---------- ７０１
○情報セキュリティ管理規則 ---------- ７３１
○情報セキュリティ推進規則 ---------- ７５１
○情報セキュリティ教職員規則 ---------- ７６６
○個人情報管理規則 ---------- ７８１
○ホームページ管理運用規則 ---------- ７８６
○ソフトウェア管理規則 ---------- ７９１

第７章　会　　計

○旅費支給内規 ---------- ８０１
○不動産管理規則 ---------- ８０６
○運動場等夜間照明設備使用要項 ---------- ８３１
○大坪荘管理運営細則 ---------- ８３６
○大坪荘使用細則 ---------- ８４１
○建設工事に係る競争参加資格等審査委員会要項 ---------- ８５１
○建設工事に係る建設コンサルタント選定委員会要項 ------- ８５６
○公正入札調査委員会要項 ---------- ８６１
○毒物及び劇物取扱規則 ---------- ８６６
○被服貸与規則 ---------- ８７６
○取引金融機関選定委員会規則 ---------- ８８１
○出納員の事務を処理させる職員の指定に関する細則 ------- ８９６
○物品管理事務取扱規則 ---------- ９０６
○内部会計監査規則 ---------- ９３１
○補助金等の受領前使用に係る立替えに関する要項 ---------- ９４６
○阿南市インキュベーションセンター利用細則---------- ９５６

第８章　教　　務

○留学規則 ---------- １０８１
○校外実習取扱要項 ---------- １０９１
○学生の転科に関する規則---------- １１０１
○科目等履修生規則 ---------- １１０６
○専攻科入学選抜に係る規則 ---------- １１１６
○専攻科の学業成績評価に関する規則 ---------- １１２１
○教育プログラム履修に関する規則 ---------- １１２６

第９章　学　　生

○入学料、授業料等の免除及び徴収猶予規則 ---------- １２０１
○授業料免除選考基準及び入学料徴収猶予選考基準に関する細則
---------- １２１６
○後援会修学援助金推薦基準に関する規則 ---------- １２２１
○無料職業紹介業務運営規則 ---------- １２３１
○無料職業紹介業務個人情報適正管理要項 ---------- １２３６
○学生健康診断規則 ---------- １２４１
○学生表彰規則 ---------- １２４６
○「郡戸直紀メモリアル賞」表彰要項 ---------- １２５１
○課外教育共同施設使用細則 ---------- １２６１
○研修所使用者要項 ---------- １２７６
○研修所の使用に係る経費の一部負担に関する要項 ---------- １２８１
○学生集会所使用細則 ---------- １２８６
○水泳プール使用細則 ---------- １２９１
○水泳プール使用者要項 ---------- １２９６
○福利施設使用細則 ---------- １３０１
○学生の服装に関する要項 ---------- １３０６
○日本学生支援機構阿南工業高等専門学校奨学事業委員部規則
---------- １３１１
○外国人留学生規則---------- １３２６
○外国人留学生学生相談員（チューター）実施要項 ---------- １３３１
○多目的室利用細則 ---------- １３４１

第１０章　寮　　務

○学寮規則 ---------- １４０１
○学生寮宿日直要項 ---------- １４１１
○寮生心得に関する要項 ---------- １４１６
○学生寮寮費納付等に関する要項 ---------- １４２１

第１１章　地　域　連　携

○公開講座規則 ---------- １５０１
○寄附金取扱細則 ---------- １５０６
○共同研究取扱細則 ---------- １５１１
○受託研究取扱細則 ---------- １５３１
○科学研究費補助金等取扱要項 ---------- １５５１
○地域連携・テクノセンター規則 ---------- １５６１
○寄附講座細則 ---------- １５６６
○寄附講座評価委員会規則 ---------- １５７１

第１２章　共同利用施設

○創造テクノセンター棟利用細則 ---------- １６０１
○実験実習工場利用細則 ---------- １６１６
○総合情報処理室規則 ---------- １６２６
○総合情報処理室委員会規則 ---------- １６３１
○総合情報処理室利用細則 ---------- １６３６

第１３章　学　生　会

○学生会会則 ---------- １７０１
○学生会会則施行規則 ---------- １７１１
○学生会選挙施行規則 ---------- １７１６
○学生会監査施行規則 ---------- １７２１

（出典　阿南工業高等専門学校規則集）

資料 11－１－②－２

事務部組織規則(抜粋)

阿南工業高等専門学校事務部組織規則

（平成20年11月１日）
（規 則 第 １０ 号）

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第10条及び阿南工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務部組織及び所掌業務の範囲を定めることを目的とする。

第２章　事務部組織

（課）

第２条　事務部に総務課及び学生課を置く。

（係）

第３条　課に係を置く。

（事務部長）

第４条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は、職員をもって充てる。

３　事務部長は、校長の命を受け、事務部の業務を処理する。

（課長）

第５条　課に課長を置く。

２　課長は、職員をもって充てる。

３　課長は、上司の命を受け、課の業務を処理する。

（課長補佐）

第６条　課に課長補佐を置くことができる。

２　課長補佐は、職員をもって充てる。

３　課長補佐は、上司の命を受け、課長を補佐するとともに、特に専門的事項に係る業務を処理する。

（係長）

第７条　課に係長を置く。

２　係長は、職員をもって充てる。

３　係長は、上司の命を受け、係の業務を処理する。

（主任）

第８条　係に主任を置くことができる。

２　主任は、職員をもって充てる。

３　主任は、係長の業務を受けて、その担当する業務を処理する。

（係員）

第９条　係に係員を置く。

２　係員は、職員をもって充てる。

３　係員は、上司の命を受け、業務に従事する。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料３－３－①－２　（再掲）

阿南工業高等専門学校技術部組織規則

（平成 20 年 11 月 1 日）
（規則第１１号）

第１章総則
（目的）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 12 条及び阿南工業高等専門学校学則第 11 条の規定に基づき、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）の技術部組織及び所掌業務の範囲を定めることを目的とする。
第２章　技術部組織
第２条　技術部に次のグループを置く。
(1) 技術第一グループ（ものづくり担当）
(2) 技術第二グループ（電気・情報担当）
(3) 技術第三グループ（地域連携担当）
（技術部長）
第３条　技術部に技術部長を置く。
２ 技術部長は、教務主事をもって充てる。
３ 技術部長は、校長の命を受け、所属職員を指揮監督し、技術部の業務を掌理する。
（技術長）
第４条　技術部に技術長を置く。
２ 技術長は、技術職員をもって充てる。
３ 技術長は、上司の命を受け、技術専門員、主任技術専門職員、技術専門職員及び技術部員の業務を統括し技術部の業務を処理する。
（技術専門員）
第５条　技術部に技術専門員を置くことができる。
２ 技術専門員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術専門員は、上司の命を受け、技術長を補佐するとともに、技術部の業務のうち、極めて高度な専門的事項に係る業務を主として処理する。
（主任技術専門職員）
第６条　技術部に主任技術専門職員を置く。
２ 主任技術専門職員は、技術職員をもって充てる。
３ 主任技術専門職員は、上司の命を受け、技術部の業務のうち、高度な専門的事項に係る業務を主として処理するとともに、グループリーダーとして、グループの業務を処理する。
（技術専門職員）
第７条　技術部に技術専門職員を置く。
２ 技術専門職員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術専門職員は、上司の命を受け、技術部の業務のうち、専門的事項に係る業務を主して処理する。
（技術部員）
第８条　技術部に技術部員を置く。
２ 技術部員は、技術職員をもって充てる。
３ 技術部員は、上司の命を受け、技術部の業務に従事する。

（所掌業務）
第９条　技術部は、第２条に定めるグループごとに、次の業務を処理する。
(1) 学生の実験・実習及び卒業研究等の技術指導に関すること。
(2) 教育研究支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
(3) 教育研究用機械器具の整備に関すること。
(4) 実験実習工場及び地域連携・テクノセンターの技術的業務に関すること。
(5) 共同研究等の技術業務に関すること。
(6) 技術の継承及び保存に関すること。
(7) 技術職員の専門研修に関すること。
(8) その他技術部の業務に関すること。
（雑則）
第 10 条　の規則に定めるもののほか、この規則の実施に必要な事項は、別に定める。
附則
この規則は、平成 20 年 11 月１日から施行する。

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

資料 11－１－②－３

リスク管理規則

阿南工業高等専門学校リスク管理規則

（平成23年５月18日）
（規　則　第　２　号）

（目的）

第１条　この規則は、阿南工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、本校におけるリスク管理体制、対処方法等を定めることにより、本校の学生、教職員及び地域住民等（以下「学生等」という。）の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

（リスク管理の対象）

第２条　前条の目的を達成するため、この規則に定めるリスク管理の対象とする事象（以下「リスク事象」という。）は、次の各号の一に該当するものであって、組織的・集中的に対処することが必要な事態とする。

(1) 学生等の安全にかかわる重大な事態
(2) 本校の教育研究等の活動の遂行に重大な支障がある事態
(3) 本校に対する社会的信頼を損なう事態
(4) 施設管理上の重大な事態
(5) その他前各号に類するような事態

（リスク管理のための校長等の責務）

第３条　校長は、本校におけるリスク管理を統括する責任者であり、リスク管理を推進するとともに、次の各号に掲げる必要な措置を講じなければならない。

(1) 想定される危機に関するリスク事象に関する情報（校内外の動向等の情報を含む。）の収集及び分析
(2) 想定されるリスク事象の検討、対応策の立案及び実施
(3) リスク管理マニュアル等の作成、見直し及び周知
(4) 学生等に対する適切な情報提供
(5) 職員及び学生への教育及び訓練の実施
(6) リスク管理組織の整備及び活動内容の決定
(7) 緊急時の情報伝達体制の整備
(8) その他リスク管理に係る必要な事項の実施

２　副校長は、校長を補佐し、リスク管理の推進に努めなければならない。

３　各主事、専攻科長、地域連携・テクノセンター長、図書館長、各室長、一般教科主任、各学科主任、技術部長及び事務部長は、担当する部署・組織（以下「担当部署等」という。）におけるリスク管理責任者とし、全校的なリスク管理組織と連携し、当該担当部署等のリスク管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。

４　教職員は、リスク管理意識をもって、その職務の遂行に当たるものとし、緊急に対処すべきリスク事象が発生又は発生する恐れがあることを覚知した場合は、所属部署・組織の長、総務課長、学生課長又は各課長補佐（次項において「通報受理者」という。）に通報しなければならない。

５　通報受理者は、前項の通報を受け、又は自らリスク事象を覚知した場合は、直ちに校

長に報告するとともに、当該リスク事象の状況を確認しなければならない。

（危機管理対策室の設置）

第４条　本校において発生したリスク事象の対処のために、阿南工業高等専門学校危機管理対策室（以下「危機管理対策室」という。）を設置する。

（危機管理対策室の組織）

第５条　危機管理対策室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長
(2) 副校長
(3) 教務主事、学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 地域連携・テクノセンター長
(6) 事務部長
(7) 総務課長及び学生課長
(8) 校長が指名する者

２　危機管理対策室に室長を置き、校長をもって充てる。

３　室長に事故あるときは、副校長がその職務を代行する。

（危機管理対策室等の招集）

第６条　校長は、リスク事象の対処のために必要と判断した場合は、速やかに危機管理対策室を招集する。ただし、火災、風水害、震災及びその他の災害によるものは、阿南工業高等専門学校防災規則（平成20年９月10日、規則第９号）第６条に定める災害対策本部を招集する。

（意見の聴取等）

第７条　室長は、危機管理対策室に関係者を出席させ、状況把握、事情の聴取等を行うものとする。

（決定事項の周知・徹底）

第８条　校長は、危機管理対策室又は災害対策本部での決定事項を、校内放送、ホームページ又は文書等の適宜の方法により速やかに学生及び教職員に周知するものとする。

２　校長は、周知・徹底のため、必要に応じ緊急教職員全体集会を招集することができる。

（機構本部リスク管理本部等との連携）

第９条　危機管理対策室及び災害対策本部は、危機管理を総合的かつ有機的に実施するため、国立高等専門学校機構本部リスク管理本部と相互連携を図るとともに、必要に応じて関係機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

（秘密保持の義務）

第10条　本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する教職員は、その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

（事務）

第11条　危機管理対策室の事務は、総務課及び学生課において処理する。

（雑則）

第12条　この規則に定めるもののほか、危機管理に関し必要な事項は、校長が定める。

長に報告するとともに、当該リスク事象の状況を確認しなければならない。
（危機管理対策室の設置）
第４条　本校において発生したリスク事象の対処のために、阿南工業高等専門学校危機管理対策室（以下「危機管理対策室」という。）を設置する。
（危機管理対策室の組織）

（出典　阿南高専　Web サイト　阿南工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

学則を始め管理運営に関わる諸規定を整備し，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担しつつ連携している。

リスク管理についても規程を明確に定め，リスク事象発生時には，適切かつ迅速に対応できる体制を整えている。

観点11－２－①：　自己点検･評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

平成21年度，点検･評価委員会が，本校の第１期中期計画等の達成状況について，点検・評価を行い，自己点検･評価報告書として公表し，Webサイトに掲載するとともに，学内で共有している。**（資料11－２－①－１）**また，平成21年，ＪＡＢＥＥ受審を機に，本校活動を総合的に自己点検し，同自己点検書として学内で共有し改善に接続している。**（資料11－２－①－２）**

平成17年，学校教育法第123条において準用する第109条第２項及び学校教育法施行令第40条に則り，大学評価･学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受け，教育研究水準の向上に接続している。同自己評価書はWebサイトに掲載するとともに，学内で共有している。

資料 11－２－①－１

自己点検･評価報告書　目次

目　　次

はじめに …… 1

1 本校の沿革、学習・教育目標、組織
1- 1 沿　　革 …… 3
1- 2 学習・教育目標 …… 3
1- 3 教育組織 …… 4

2 教育に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
2- 1 実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育ならびに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準 …… 5
2- 2 実践的技術者として備えるべき内容・水準 …… 6
2- 3 学科の構成・改組等についての方向性 …… 9
2- 4 専攻科の設置・改組等の方向 …… 10
2- 5 創造性教育を達成するための具体的方策 …… 10
2- 6 インターンシップの推進など教育に関する産学連携推進のための具体的方策 …… 11
2- 7 適切な成績評価の実施に関する具体的方策 …… 12
2- 8 教育活動の評価及び評価結果を質の改善につなげるための具体的方策 …… 13
2- 9 適切な教職員の配置等に関する具体的方策 …… 14
2-10 教養教育、専門教育、専攻科教育ごとに、「1」に掲げた内容・水準を達成するための効果的な教育課程編成方針の設定、授業形態、学習指導方法等の改善の具体的方策 … 14
2-11 国立高等専門学校にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的方策 …… 16
2-12 徳育の充実に関する具体的方策 …… 16
2-13 教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の整備等に関する具体的方策 …… 17

3 学生への支援に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
3- 1 正規の教育課程以外での学生の教育充実のための具体的方策 …… 19
3- 2 学習相談・支援や健康相談の充実に関する具体的方策 …… 20
3- 3 生活指導の充実に関する具体的方策 …… 20
3- 4 経済的支援に関する具体的方策 …… 22
3- 5 留学生受け入れに関する具体的方策 …… 22
3- 6 留学生交流、その他の国際交流に関する具体的方策 …… 23
3- 7 進路指導（就職、進学）の充実に関する具体的方策 …… 23
3- 8 学生寮運営の方針や寮生の生活指導に関する具体的方策 …… 25

4 研究に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
4- 1 研究成果の教育への還元に関する具体的方策 …… 27
4- 2 地域の産業界からの技術相談、共同研究に対応するための研究の在り方や領域（地域連携・テクノセンター等の産学共同施設における研究等を含む …… 28

5 その他の教育研究等の質の向上に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
5- 1 教員研修や教員による研究会の実施の具体的方策 …… 29
5- 2 教材、学習指導方法等に関する研究開発の具体的方策 …… 29
5- 3 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に関する具体的方策 …… 30
5- 4 国立高等専門学校間交流、大学・国立高等専門学校間交流推進に関する具体的方策 … 30
5- 5 広報の充実に関する具体的方策 …… 31

６ 運営体制の改善に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
6- 1 運営体制の改善に関する具体的方策 …… 33
6- 2 学外有識者の意見を学校運営に反映させるための具体的方策 …… 35
6- 3 監査機能の充実に関する具体的方策 …… 35

７ 教育研究組織の見直しに関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
7- 1 教育研究組織の柔軟かつ機動的な編成・見直しのための体制の整備 …… 36
7- 2 教育研究組織の見直しの方向性 …… 36

８ 教職員の人事の適正化に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
8- 1 適切な教職員の配置等に関する具体的方策 …… 37
8- 2 人事評価システムの整備・活用に関する具体的方策 …… 38
8- 3 公募制の導入など教員の流動性向上に関する具体的方策 …… 38
8- 4 柔軟で多様な人事制度の構築に関する具体的方策 …… 39
8- 5 外国人・女性等の教員採用の促進に関する具体的方策 …… 39
8- 6 事務職員等の採用・養成・人事交流に関する具体的方策 …… 39
8- 7 中長期的な観点に立った適切な人員（人件費）管理に関する具体的方策 …… 40

９ 事務等の効率化・合理化に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
9- 1 事務組織の機能・編成の見直しや業務のアウトソーシング等に関する具体的方策 …… 41
9- 2 電算システム導入などによる人事・会計事務の合理化・効率化に関する具体的方策 … 41

１０ 外部資金その他の自己収入増加に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
10- 1 外部からの教育研究資金その他自己収入の増加に関する具体的方策 …… 42

１１ 経費の抑制および資産の管理の改善に関する第1期中期計画(H16～H20)の達成状況
11- 1 管理的経費の抑制に関する具体的方策 …… 43
11- 2 資産の適正な管理に関する具体的方策 …… 43

１２ 評価の充実に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
12- 1 自己点検・評価や第三者評価の方法・内容に関する改善方策 …… 44
12- 2 評価結果を高専運営の改善に活用するための具体的方策 …… 44

１３ 情報公開等の推進に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
13- 1 情報公開体制の在り方に関する具体的方策 …… 46

１４ 施設・設備の整備等に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
14- 1 整備すべき施設設備に関する具体的方策 …… 47

１５ 安全管理に関する第1期中期計画（H16～H20）の達成状況
15- 1 労働安全衛生法等を踏まえた安全管理・事故防止に関する具体的方策 …… 48
15- 2 学生等の安全確保に関する具体的方策 …… 48

１６ 他機関等による審査・評価、提言
16- 1 平成16年の日本技術者教育認定機構(JABEE)審査（概要） …… 50
16- 2 平成17年の大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価 …… 50
16- 3 阿南工業高等専門学校参与会 …… 52

おわりに …… 54

（出典　自己点検･評価報告書）

資料 11－２－①－２

自己点検書

阿南工業高等専門学校
〒774-0017　徳島県阿南市見能林町青木 265 番地
電話　0884-23-7100
FAX　0884-22-5424
E-mail　nishioka@anan-nct.ac.jp

自 己 点 検 書

（本 文 編）

2009 年度版

阿南工業高等専門学校専攻科

『創造技術システム工学』

工学（融合複合・新領域）関連分野

Educational Programs for Creative Technology System Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日　2009 年　7 月　27 日

目　次

プログラム情報 ---------- 1
(1) 高等教育機関名及びその英語表記 ---------- 1
(2) プログラム名 ---------- 1
(3) Program Title ---------- 1
(4) 学位名 ---------- 1
(5) 連絡先 ---------- 1
プログラム概要 ---------- 2
前回受審時からの改善・変更 ---------- 4

自己点検結果 ---------- 8
1．基準１：学習・教育目標の設定と公開 ---------- 9
2．基準２：学習・教育の量 ---------- 35
3．基準３：教育手段 ---------- 40
3．1 入学及び学生受け入れ方法 ---------- 40
3．2 教育方法 ---------- 49
3．3 教育組織 ---------- 58
4．基準４：教育環境 ---------- 65
4．1 施設，設備 ---------- 65
4．2 財源 ---------- 70
4．3 学生への支援体制 ---------- 74
5．基準５：学習・教育目標の達成 ---------- 79
6．基準６：教育改善 ---------- 92
6．1 教育点検 ---------- 92
6．2 継続的改善 ---------- 101
7．分野別要件 ---------- 107

（出典　自己点検書）

（分析結果とその根拠理由）

ＪＡＢＥＥ審査，高等専門学校機関別認証評価を活用しつつ，点検･評価委員会による中期計画に基づいた自己点検･評価を行い，自己点検･評価報告書を公表し，Webサイトにも掲載している。

観点11－２－②：　自己点検･評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の管理運営に関する重要事項について審議し助言する組織として外部評価委員会を，平成12年度に設置した。教育研究分野に精通した大学の教員，産業界の動向に精通した者，地域の行政担当者，同窓会会長等を構成員としている。

平成16年，組織名称を参与会とし，平成18年度には，前年度に受審した機関別認証評価において作成した自己評価書が検証された**（資料11－２－②－１）**。また，平成21年度には，第１期中期計画の達成状況を踏まえて作成した第２期中期計画及び平成21年度計画について，助言・提言を受けた**（資料11－２－②－２）**。参与会は，年１回以上開催され外部有識者による検証の機会となっている**（資料11－２－②－３）**。

資料 11－２－②－１

自己評価書の検証（参与会議事録から抜粋）

第４回参与会議事概要

１　日　時　　平成１９年１月３１日（月）　１４時００分～１６時１５分
２　場　所　　阿南工業高等専門学校　管理棟３階会議室
３　議　題　　「阿南高専の運営について」
４　出席者

参与会会長	徳島大学工学部長	矢　野　米　雄
参　　与	阿南高専同窓会会長	上　田　登志男
〃	徳島県技術士会代表	神　田　　睦
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西　野　賢太郎
〃	阿南高専助成会会長	藤　崎　　稔
〃	徳島県企画総務部総合政策局局長	真　木　和　茂
〃	徳島県中学校長会会長	三　牧　壽　夫
		（五十音順）
参与欠席者	徳島県教育委員会教育理事	石　川　好　文
	阿南市長	岩　浅　嘉　仁
本校出席者	校長	小　松　満　男
〃	副校長、教務主事	森　住　　昇
〃	学生主事	湯　城　豊　勝
〃	寮務主事	坪　井　泰　士
〃	専攻科長、JABEE委員会委員長	西　岡　　守
〃	一般教科主任	中　村　厚　信
〃	機械工学科主任	大　谷　良　治
〃	電気電子工学科主任	正　木　和　夫
〃	制御情報工学科主任	岩　佐　健　司
〃	建設システム工学科主任	島　田　富美男
〃	地域連携・テクノセンター長	宮　城　勢　治
〃	点検・評価委員会委員長	多　田　博　夫
〃	広報・情報委員会委員長	三　木　哲　志
〃	図書館長	當　宮　辰　美
〃	事務部長	岩　井　洋　二
〃	庶務課長	安　友　政　男
〃	学生課長	高　橋　　聡
〃	庶務課専門職員（企画担当）	湯　浅　　剛
〃	庶務課庶務係長	吉　本　敏　弘

（中略）

名を売るようなことがあるといいのですけれども、小松先生の顔が記事になることを期待していたのですけれども。どうもすみません。

（矢野会長）
はい。どうもありがとうございます。コメントがあったら。はい。

（小松校長）
まあ、なるべくマスコミに宣伝するような、努めておりますので、これからも、お楽しみにお待ちください。

（矢野会長）
はい。どうぞ。

（西野参与）
２点ほど教えていただきたいのですが、まず、湯城先生が地元紙を利用して高専の質を高めている活動という説明があったのですけれども、ちょっと細かい話になるのですが、この認証評価報告書（資料１）の中で、その結果で５ページに、認証評価の基準を満たしていると判断の丸が四つありまして、その四つの中に、教育改善プログラムですね、この教育改善、ＰＤＣＡを構築するのが載っているのですが、もう少し、もしよろしければ、具体的にどのようなことをされているのか教えていただきたいというのが１点、と、資料の３の「国立高専の整備について」ということで、高専機構のほうからシビアな内容が出されております。これを拝見しますと、人口の減少、15歳年齢の減少ということで書かれていて、一方で将来技術者が減少するのではないかというようなことも書かれております。それはもう自然とそうなっていくだろうと思うのですが。その中で、この高専機構の考え方として、10ページの上のほうですね。「この観点に立てば、現下の情勢では、当面、量的には抑制基調とせざるを得ない」という文言が書かれております。これは、最初にご説明があったように、定員を減じざるを得ないということをにおわせているように伺えるのですが、これは私ども地元にとっては、かなりシビアな状況になるのだろうなという気がいたしております。先ほど私が申し上げましたように、これからの地域の中で技術者教育というのはますます重要性を増してくるものだろうと思いますし、地域間競争の中で大きな勝敗を分ける分岐点にかかわっていく可能性が十分にあるのだろうなと思っておりまして、高専のほうで、この点についてどのような、将来に向けてお考えなのか、そのようなことがもしありましたら教えていただきたいということ。
それと、前回のこの会議で、建設システム工学の入学生の質の問題が、良くないってことがあがっていたと思うのですけれども、やはり就職率100％ということは非常に必要な要素ではあるのですが、やはり高度な技術をサポートしていく人材ということになっていきますと、やはり質の問題も当然捉えていくべきであるわけですね。その点についても、戦略を持たないとうまくいかなくなる時代が、もうそこまで来ているのではないかなというような印象があります。高専の露出度を高めてＰＲすること

（出典　平成 19 年度　第 4 回参与会議事録）

資料 11－２－②－２

第２期中期計画及び平成 21 年度計画についての助言・提言（参与会議事録から抜粋）

第７回阿南工業高等専門学校参与会議事概要

１　日　時　　平成２１年１１月１８日（水）　１４時００分～１６時００分
２　場　所　　阿南工業高等専門学校　会議室（管理棟３階）
３　議　題　　（１）阿南高専「中期計画及び平成２１年度計画」について
　　（２）阿南高専の運営状況について
　　（３）その他
４　出席者

参与会会長	徳島大学工学部長	大西徳生
参与	阿南高専同窓会会長	兼松功
〃	前徳島県技術士会会長	神田睦
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西野賢太郎
〃	阿南高専助成会会長	藤崎稔
〃	徳島県中学校長会会長	峯野高明
		（五十音順）
参与欠席者	阿南市長	岩浅嘉仁
	徳島県企画総務部政策企画総局長	小川日出雄
	徳島県教育委員会教育次長	長谷川道雄
本校出席者	校長	小松満男
〃	副校長	宮城勢治
〃	教務主事	岩佐健司
〃	学生主事	多田博夫
〃	寮務主事	堀井克章
〃	専攻科長	當宮辰美
〃	一般教科主任	
	国際交流室長	林田英治
〃	機械工学科主任	畑中伸夫
〃	電気電子工学科主任	中野好典
〃	制御情報工学科主任	田中達治
〃	建設システム工学科主任	湯城豊勝
〃	地域連携・テクノセンター長	
	JABEE委員会委員長	西岡守
〃	広報情報室	坪井泰士
〃	図書館長	中村厚信
〃	学生相談室長	錦織浩文
〃	キャリア支援室長	正木和夫
〃	点検・評価委員会委員長	松本高志
〃	事務部長	堀井始
〃	総務課長	安友政男
〃	学生課長	溝下洋和
〃	総務課課長補佐（総務担当）	吉本敏弘
〃	総務広報係長	天羽敬子

５　次　第
　１）開　　会（副校長）
　２）校長挨拶
　３）阿南高専「中期計画及び平成２１年度計画」
　　及び阿南高専の運営状況について説明（校長）
　４）参与討議
　５）校長謝辞
　６）閉　　会（副校長）

（中略）

第１案の学科新設，第２案のコース制導入の２案とも現在の経済・社会情勢，教育界の現状を十分勘案し，それに応えられる案のようなので，今後も推進してもらうこととします。

○広報活動について

神田参与　入学者の確保という観点から中期計画を立てて取り組んでおられる。ところで，これ以外に何か考えていること又は方針があればお伺いしたい。表だった広報も大事であるが，口コミも重要なファクターをもっていると思う。毎日の授業，生活指導をきちっとすることも重要であるが，そのことが，子から親へ，親から親へ伝わっていくように出来れば効率良く宣伝できると思う。これに関する計画はあるか。

校長　　高専では，親子又は兄弟で入学・卒業する例が多い。一度高専に来てもらえれば良さが分かってもらえている。就職率が良いことは知られているが，教育・生活指導の内容までは，旨く伝わっていないところがある。

坪井広報情報室長　１０月に入試説明会を西部地区と徳島地区で実施し，出席者にアンケートをしたところによると，高専を知ったのは，保護者の５０％が知人等からの口コミあるいは自分自身が高専出身であるとのことであった。

なお，アンケートでは進路を決めるのは中学２年生の頃との回答が多かったので，説明会の時期を現在より早めたいと思っている。

また，中学校校長会のご支援を得て，中学生，教諭，保護者との懇談会をテレビ会議などで実施し，高専への要望などを取り入れることを計画している。これには，本校の学生会にも懇談会参加などで協力してもらっている。これらにより，効率の良い広報に取り組んでいきたい。

大西会長　高専から徳島大学に編入してくる学生は，しっかりした目的意識を持っている。中学校の進路指導，最近の中学生の進学への考えなどを中学校長会の会長に伺いたい。

峯野参与　高専では，教育向上のためのいろいろな取り組みをされていることをお聞きして安心した。中期計画に掲げている小中学校での出前授業は素晴らしい取り組みだと思う。中学生の理科離れが言われているので，面白い授業をして理科に関心を持たせて欲しい。高専は人気があり，学力・性格共に優れた生徒が高専に進学している。出前授業は，優秀な学生の確保と高専の大きな宣伝になると思う。

校長　　出前授業は今後も充実させていきたい。ところで，中学校の文化祭に高専ロボコンで製作したロボットを展示したいが，了解してもらえるか。出前授業はそのクラスだけになるので，中学校全クラス及び生徒の保護者にも高専を宣伝したい。

峯野参与　各学校の判断になる。文化祭は早い時期に企画するので，場所の確保などのためになるべく早く申し込んでもらいたい。生徒はロボットに関心を持っており，総合学習の授業を活用するもの可能と思う。

大西会長　子どもの理科離れ，工学離れが生じており，高専も大学も理科教室等を活用してもらう必要があると思う。

兼松参与　子どもは保護者の意見が強い影響を受ける。需要に応じた事業の実施，出前講座の開設なども大切であるが，阿南高専の場合は保護者対象の講座，保護者に直接情報が伝わる広報が必要ではないか。

広報は，現状を分析し早急で適切な判断が重要である。他より先んじて情報収集し，学校の管理者が適確な指示を出せる運営体制とすることが，志願者増にも結びつくも

（出典　平成 21 年度　第 7 回参与会議事録）

資料 11－２－②－３

過去５年間の参与会の構成員と開催日程

阿南工業高等専門学校参与会開催一覧

第４回　平成１９年１月３１日（水）

（議題）阿南高専の運営について

会長	徳島大学工学部長	矢野米雄	
参与	徳島県教育委員会教育理事	石川好文	（欠席）
〃	阿南市長	岩浅嘉仁	（欠席）
〃	阿南高専同窓会会長	上田登志男	
〃	徳島県技術士会代表	神田睦	
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西野賢太郎	
〃	阿南高専助成会会長	藤崎稔	
〃	徳島県企画総務部総合政策局局長	真木和茂	
〃	（交代）徳島県中学校長会会長	三牧壽夫	

（五十音順）

第５回　平成２０年１月９日（水）

（議題）（１）阿南高専の運営状況について

（２）阿南高専の今後の運営について

会長（交代）	徳島大学工学部長	福井萬壽夫	
参与	阿南市長	岩浅嘉仁	
〃	前阿南高専同窓会会長	上田登志男	
〃	前徳島県技術士会会長	神田睦	
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西野賢太郎	（欠席）
〃	（交代）徳島県教育委員会教育参事	福井清二	（欠席）
〃	阿南高専助成会会長	藤崎稔	
〃	（交代）徳島県中学校長会会長	丸岡健良	
〃	（交代）徳島県企画総務部総合政策局局長	吉田耕三	

（五十音順）

第６回　平成２１年１月１４日（水）

（議題）（１）阿南高専の運営状況について

（２）阿南高専の今後の運営について

会長	徳島大学工学部長	福井萬壽夫	
参与（交代）	徳島県教育委員会教育参事	石堂真道	（欠席）
〃	（交代）徳島県企画総務部総合政策局局長	市川義博	
〃	（交代）徳島県中学校長会会長	岩佐博久	
〃	阿南市長	岩浅嘉仁	
〃	（交代）阿南高専同窓会会長	兼松功	
〃	前徳島県技術士会会長	神田睦	
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西野賢太郎	
〃	阿南高専助成会会長	藤崎稔	

（五十音順）

第７回　平成２１年１１月１８日（水）
（議題）（１）阿南高専「中期計画及び平成２１年度計画」について
（２）阿南高専の運営状況について

会長（交代）	徳島大学工学部長	大　西　徳　生	
参与	阿南市長	岩　浅　嘉　仁	（欠席）
〃（交代）	徳島県企画総務部政策企画総局長	小　川　日出雄	
〃	阿南高専同窓会会長	兼　松　　功	
〃	前徳島県技術士会会長	神　田　　睦	
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西　野　賢太郎	
〃（交代）	徳島県教育委員会教育次長	長谷川　道　雄	（欠席）
〃	阿南高専助成会会長	藤　崎　　稔	
〃（交代）	徳島県中学校長会会長	峯　野　高　明	

（五十音順）

第８回　平成２３年　１月２０日（木）
（議題）（１）阿南高専の運営状況について
（２）阿南高専の平成２２年度計画及び年度計画の進捗状況について

会長	徳島大学工学部長	大　西　徳　生	
参与	阿南市長	岩　浅　嘉　仁	（欠席）
〃	阿南高専同窓会会長	兼　松　　功	
〃	前徳島県技術士会会長	神　田　　睦	
〃（交代）	徳島県中学校長会会長	齋　藤　実　徳	（欠席）
〃（交代）	徳島県企画総務部政策企画総局長	佐　野　正　孝	
〃	西野建設株式会社代表取締役社長	西　野　賢太郎	
〃	阿南高専助成会会長	藤　崎　　稔	
〃（交代）	徳島県教育委員会教育次長	吉　田　顕太郎	（欠席）
〃（新規）	ＮＰＯ法人アシスト理事長	渡　辺　純　子	（欠席）

（五十音順）

（出典　参与会の構成員と開催日程）

（分析結果とその根拠理由）

本校の管理運営に関する重要事項について審議し助言する組織として，教育研究分野に精通した大学の教員，産業界の動向に精通した者，地域の行政担当者，同窓会会長等を構成員とする参与会を設け，外部有識者等により本校の自己点検･評価結果について検証している。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

平成22年度末には，点検･評価委員会が自己点検･評価報告書指摘事項にもとづく改善状況を確認するため，各管轄に対して改善状況報告書の提出を要請した。同報告書から，各管轄の改善状況を確認し，報告書指摘事項に関する改善状況を把握し，学校の目的達成のための継続的な改善につなげている。

参与会での指摘は，運営委員会等で検討し，必要に応じ対応している**（前述資料11－２－②－２）**。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価や参与会評価をフィードバックし，改善に結びつけるシステムを構築している。同システムを稼働させ，その改善状況を確認しつつ運用している。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

参与会での指摘は，運営委員会等で検討し，必要に応じ対応している。同指摘を受けて対応した例に，平成21年度の参与会で広報のあり方が提言され，広報の重点化，特化を図った等がある**（前述資料11－２－②－２）**。

平成21年度のＪＡＢＥＥ教育プログラム認定結果における指摘事項のうち，改善を必要とするものについて，運営委員会等で検討し，対応している**（資料11－３－①－１）**。

資料 11－３－①－１

ＪＡＢＥＥ教育プログラム認定結果における指摘事項の改善検討

運　営　委　員　会　議　事　概　要

１　日　時　　平成２２年３月１０日（水）１３時１０分 ～ １６時２０分
２　場　所　　会議室
３　出席者　　別紙出席者名簿のとおり
４　議　題
【報告事項等】

１　教務委員会報告等（資料１）

教務主事から資料及び席上配布資料をもとに次の報告等があった。

(1) 教務委員会報告(平成２２年２月２３日開催)

① 教務委員会（申し合わせ事項）について

原案のとおり承認された。主な変更点は次のとおりである。

○学業成績評価に関する規則の申し合わせ事項

・徳島大学との単位互換について，前期・後期５単位の制限を追加した。

・資格試験等の合格について，「学外単位」として認定することを追加した。

・学修単位について，未履修の取扱について見直しを図った。

○再試験の手続きについて

・合同再試験について，原則，同一シラバス科目を優先して対象とすることとした。

○その他

・申し合わせ全体について，事務処理の現状に合わせた記載内容に変更した。

② 平成２２年度非常勤講師の任用について

資料のとおり了承された。主にサバティカル活動に伴う非常勤講師任用である旨報告があった。

(2) その他

① 平成２２年度入学者選抜の実施状況について

推薦と学力を合わせた合格発表を２月２６日（金）に行い，推薦と学力を合わせた延べ志願者数は２２９名（昨年度：２５６名），実人数は１８６名，1.16倍（昨年度：１９１名，1.19倍）である旨報告があった。なお，昨日の入学手続き説明会には，１６０名全員が出席した旨報告があった。

② 授業関係予定表について

席上配付資料のとおり，６月の本科中間試験日程を変更した旨報告があった。

２　学生委員会報告等（資料２）

学生主事から資料をもとに次の報告等があった。

(1) 校長表彰について

資料をもとに単年度表彰（始業式の際に表彰伝達）及び卒業時のコーオプ教育表彰について説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

(2) Ｈ２２年度クラブ・同好会顧問(案）について

資料のとおり，来年度のクラブ顧問等の説明があった。未定部分について，次回運営委員会で報告予定である旨報告があった。

（中略）

【審議事項】

1　客員教授の選考について（資料15）

校長から資料をもとに，地域連携・テクノセンター長から藤崎稔氏の継続，キャリア支援室長から中村克孝氏の継続及び新規に現特命教授の三木田嘉男氏の推薦があった旨説明があり，審議の結果，３名を客員教授とすることが承認された。

2　阿南工業高等専門学校運営委員会規則の一部改正等について（資料16）

総務課長から資料をもとに，ＪＡＢＥＥ実地審査で指摘のあった運営委員会規則の見直し関係，阿南市インキュベーション施設設置に伴う改正及び高専機構規則の改正に伴う規則改正案について，改正内容及び改正理由の説明があり，審議の結果，一部文言について事務方で確認し改訂することを了承のうえで，原案のとおり承認された。

(1) 阿南工業高等専門学校運営委員会規則の一部改正
(2) 阿南工業高等専門学校教職員宿舎入居者選考部会要項の廃止
(3) 阿南工業高等専門学校教育点検システム評価部会要項の新規制定
(4) 阿南工業高等専門学校ソフトウェア管理規則の新規制定
(5) 阿南工業高等専門学校施設等管理規則の一部改正
(6) 阿南工業高等専門学校毒物及び劇物取扱細則の一部改正
(7) 阿南工業高等専門学校受託研究取扱細則の一部改正
(8) 阿南工業高等専門学校共同研究取扱細則の一部改正

3　外部資金の受入れに係る間接経費及びオーバーヘッドの取扱いについて（資料17）

総務課長から資料をもとに，受託研究取扱細則及び共同研究取扱細則の改正に伴い，外部資金獲得を進める上で新しい取扱いで間接経費及びオーバーヘッドを徴収し運用する旨の説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

11　その他

(1) コーオプ教育シンポジウムの日程について

学生主事から，教員や学生が参加できるよう，体育大会予備日を変更してはどうか提案があった。ついては，参加者等を早急に確認することになった。

以上

（出典　平成 22 年度　運営委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

参与会意見，ＪＡＢＥＥ教育プログラム認定結果，高等専門学校機関別認証評価結果については，必ず運営委員会等で検討する体制をとっており，それら結果について適切に管理運営に反映してきている。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

複数の企業等と，共同研究を行っている（**資料11－３－②－１**）。

平成19年度，日亜化学工業株式会社（徳島県阿南市）からの寄付により，高専では史上初めての寄附講座となる材料工学（日亜化学）講座を開設した。ナノスペースファクトリー創製とそのメカニズムに関する研究，希土類ドープナノ蛍光体の合成と光物性評価について研究するとともに，専攻科生・本科生を対象に材料工学の講義も行っている（**資料11－３－②－２**）。

平成22年度，校内施設を活用し，阿南市との協定によりインキュベーションセンターを開所した。現在，４社が同所で研究を行っている。これらの研究には本校教員との共同研究も含まれ，学生が参画している研究課題もある（**資料11－３－②－３**）。

毎年，四国地区高専校長・事務部長会議で承認されている「四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」」を活用している。毎夏，弓削商船高専保有の弓削丸を利用し，環境問題などについて，各高専の希望学生が複数高専教員による講義を受講している（**資料11－３－②－４**）。

阿南市立図書館と連携協力を実施している（**資料11－３－②－５**）。これにより，同図書館で借りた本を本校図書館で返却，同図書館図書の本校図書館を通した借り出し，およびその逆が可能となり，相互貸借・返却の利便性が高まった。

クラブ活動に，外部コーチを委嘱している（**資料11－３－②－６**）。これにより，クラブ活動において，学生への技術指導等が充実している。

徳島大学と単位互換協定を結んでいる（**資料11－３－②－７**）。本校学生の場合，本校での学習に支障がないように設けた上限５単位までについて，同大学講義を受講できる（**資料11－３－②－８**）。

大阪大学と教育研究交流に関する協定を結んでいる（**資料11－３－②－９**）。これにより，大阪大学における講義受講，インターンシップ等が可能となっている。

ドイツのオストファリア応用科学大学，オスナブリュック応用科学大学と学術交流協定を結んでいる（**資料11－３－②－10**）。これにより，海外における長期インターンシップが可能となり，平成22年度は５名の専攻科学生が両大学で研究を行った（**資料11－３－②－11**）。また，両大学学生の本校での研究受入も行っている。平成22年度には４名のドイツ人学生を受け入れて研究指導を行うとともに，JAPAN PROGRAMとして日本の文化等を伝える講義も開設している（**資料11－３－②－12**）。

アメリカのソノマ州立大学と教育連携に関する覚書を交わしている。学生は，同覚書を活用し，同大学で語学研修と企業視察を行っている（**資料11－３－②－13**）。

年２回開催している教員研修会には，外部講師による講演を取り入れている（**資料11－３－②－14**）。

平成20年度，四国地区大学教職員能力開発ネットワークに加盟した。教職員の能力開発に関する様々な研修プログラムが提供されており，積極的に参加している。平成22年度には，ビデオ会議システムを導入し，遠隔配信プログラムを本校で受信できることとなった。その結果，５件の遠隔配信プログラムについてのべ13名が聴講した（**前述資料９－２－①―５**）。

学生寮では，寮生の視野の拡大，人間性涵養を目的とし，外部講師を招いた特別講演を行っている（**資料11－３－②－15**）。

このように，外部の積極的な教育資源を，積極的に活用している。

資料 11－３－②－１

平成 22 年度共同研究一覧

平成２２年度民間等との共同研究契約状況

番号	研究題目	研究代表者	相手方	研究期間	経費	備考
1	更正法による幹線管渠の設計手法の開発に関する研究	建設システム工学科 准教授　吉村　洋	中央復建コンサルタンツ株式会社	平成２２年４月２３日～ 平成２２年９月３０日	105,000	
2	ベローズ成形型の有限要素法による応力解析	機械工学科 教授　西野　精一	大陸精機株式会社	平成２２年５月２８日～ 平成２２年６月２０日	100,000	
3	表面プラズモンを用いたマイクロレーストラック光共振器の開発	制御情報工学科 准教授　岡本　浩行	豊橋技術科学大学	平成２２年７月１日～ 平成２３年３月１５日	200,000	
4	各種光源における面発光基板の開発	電気電子工学科 准教授　釜野　勝	豊橋技術科学大学	平成２２年７月１日～ 平成２３年３月１５日	200,000	
5	セラミック蛍光体を添加したＬＥＤ封止用樹脂の開発	溶剤講座 特別研究准教授　小西　智也	豊橋技術科学大学	平成２２年７月１日～ 平成２３年３月１５日	200,000	
6	熱物性評価装置の開発	電気電子工学科 准教授　上原　信知	豊橋技術科学大学	平成２２年７月１日～ 平成２３年３月１５日	200,000	
7	遮断コーティング膜の新密着強度評価手法開発と標準化への展開	機械工学科 教授　西野　精一	長岡技術科学大学	平成２２年７月２３日～ 平成２３年３月３１日	120,000	
8	有機光機能性材料を用いた新規光センシング素子の検討	制御情報工学科 准教授　岡本　浩行	長岡技術科学大学	平成２２年７月２３日～ 平成２３年３月３１日	300,000	
9	空中浮遊型ＬＥＤディスプレイの研究開発	制御情報工学科 准教授　岡本　浩行	高岡電器工業株式会社	平成２２年８月１２日～ 平成２３年７月２０日	50,000	
10	磁気を利用した膜構築技術の研究開発	機械工学科 准教授　原野　智哉	四国化工機株式会社	平成２２年８月１９日～ 平成２３年３月３１日	100,000	
11	新方式屋外ＬＥＤ看板（商品名：エコ＆クリーンサイン）の開発に関する研究	機械工学科 教　授　西岡　守	株式会社　守乃宮	平成２２年８月２７日～ 平成２３年３月３１日	105,000	
12	光干渉法を用いた計量センサー開発	電気電子工学科 准教授　上原　信知	株式会社イシダ滋賀事業所	平成２２年１０月１２日～ 平成２３年３月３１日	400,000	
				合　　計	12 件 2,080,000	

（出典　共同研究一覧）

資料 11－３－②－２

寄付講座　阿南高専　Web サイト



（出典　阿南高専 web サイト）

資料 11－３－②－３

インキュベーションセンター開所式案内

平成２２年４月２１日

教職員　各位

校　　長

阿南市インキュベーションセンター開所式について（依頼）

新技術や研究成果を発信する拠点として，阿南市が本校の建物を改修して設置した「インキュベーションセンター」の開所式が下記のとおり開催されます。本校としても，入居企業との共同研究等を推進したいと考えています。

ついては，できるだけ多くの教職員がご参列くださいますようお願いします。

記

１　日　時　　平成２２年４月２６日（月）１０時００分から１０時３０分

２　場　所　　阿南市インキュベーションセンター玄関前（旧寄宿舎管理棟）

３　主　催　　阿南市

４　式次第　　①開式の辞

②主催者挨拶

③来賓祝辞

（第１期センター入所者紹介）

・高槻電器工業株式会社

・エヌ・アンド・イー株式会社

・株式会社カボテック

・バンブーケミカル研究所

④来賓紹介

⑤祝電披露

⑥テープカット

⑦閉式の辞

（担当：総務課課長補佐　吉本敏弘）

（出典　インキュベーションセンター開所式案内）

資料 11－３－②－４

四国地区高専との連携・交流事業に伴う特別講義日程表（抜粋）

時　間	事　　項	場　所	担　当	備　考
7：00～ 7：30	起床・洗面			
7：30～ 8：20	朝　食	白雲館		
8：20～ 9：00	講義室（アセンブリホール）へ移動			
9：00～ 10：30	講　義 「人工社会　―地球環境・エネルギー問題に対するエージェントベースアプローチ―」	アセンブリ ホール	香川高専 （高松キャンパス） 村上　幸一	
10：30～ 10：40	休　憩			
10：40～ 12：10	講　義 「沿岸域の開発とその現状、復元に向けて」	アセンブリ ホール	阿南高専 大田　直友	
12：10～ 13：30	昼　食 練習船「弓削丸」に移動、乗船	白雲館 練習船「弓削丸」		
13：30～ 16：40	練習船「弓削丸」演習 ・「操船と舵」 ・「舶用機関システム」	練習船「弓削丸」	弓削商船高専 豊田船長 松永機関長	
16：40～ 17：30	練習船「弓削丸」から宿泊所に移動 自由研究			
17：30～ 19：00	夕　食	白雲館		
19：00～	自由研究 就寝準備	青雲館・白雲館	当直者	

（出典　四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」）

資料 11－３－②－５

阿南市立図書館と連携協力

第２回　阿南市立図書館と阿南高専図書館との連絡協力会議
【議　事　概　要】

○　日　時　　平成２３年１月５日（水）１４時～１５時
○　場　所　　阿南工業高等専門学校図書室２階事務室（阿南市見能林町青木 265）
○　出席者　　阿南市立阿南図書館館長補佐　　楠谷　友己
　　阿南高専図書館総務課図書・情報係長　　林　　雅彦
　　阿南高専図書館図書係職員　　松本　慧子
○　議　題

１　図書館資料の相互貸借について

平成 22 年度「第１回阿南市立図書館と阿南高専図書館との連携協力会議」（4 月 21 日開催）において決定された図書館資料の相互貸借について，その具体的な方法を協議し，下記のとおり実施することとした。実施日は，１月５日とする。なお，相互貸借を進める上で，不都合が生じた場合は，両者協議しその都度みなおしを図ることとする。

(1)　資料の確認方法
・各館の新着図書リスト又はホームページより検索し所蔵確認を行う。
（不確かな場合は，電話で問い合わせる）

(2)　資料の申込方法
・阿南市立図書館からは：　阿南，那賀川，羽ノ浦各館より直接高専図書館へ申し込む
・阿南高専図書館からは：　資料の所蔵館（阿南，那賀川，羽ノ浦）へ直接申し込む。
・申込手段は：　FAX 又は電話。業務への負担を軽減するため，基本的には FAX での申込とするが，緊急の場合等は，電話でも可とする。
（FAX の様式は，特に決めず各館のものを使用する）

(3)　資料の貸出規則
・貸出対象資料　：　禁帯出資料以外はすべて（各館の判断で）
※阿南高専図書館は，図書のみとする。
・貸出制限冊数　：　なし
・貸出期間　　：　30 日

(4)　資料の搬送手段
・連絡車　　：　阿南図書館の回送車を利用する
※那賀川，羽ノ浦の資料についても阿南図書館を経由して搬送することとなる。
・運行日時　：　平日の午後とする。但し，資料の搬送の必要がない場合は，運行しない。資料が確保できた時点で連絡する。
阿南図書館　→　高専図書館（23-7106）　担当：松本
高専図書館　→　阿南図書館（23-2020）　担当：楠谷

(5)　借受資料のコピーについて
・著作権法の範囲内において借受館でのコピーを可とする。

(6)　借受資料を汚損・破損又は紛失した場合
・借受館の責任において弁償する。

(7)　利用者への周知について
・相互貸借により，阿南市立図書館及び阿南高専図書館の資料を取り寄せ，利用できることについて，各館の利用者へ周知することとする。

（出典　第２回　阿南市立図書館と阿南高専図書館との連携協力会議議事録）

資料 11－３－②－６

外部コーチの依頼について

平成２３年　３月２３日

様

阿南工業高等専門学校長
小　松　満　男（公印省略）

クラブコーチへの就任について（依頼）

平素は，本校の教育運営に何かと御支援をいただき，ありがとうございます。
さて，本校のクラブ活動については顧問教員が指導をしていますが，クラブ活動をさらに充実させるため，校外の有識者・技能保持者にクラブのコーチをお願いしています。
つきましては，平成２３年度のクラブコーチとして，下記のとおりご依頼申し上げますので，就任方よろしくお願いします。

記

１	クラブ名	卓球部
２	業　　務	顧問教員の指示により，実技の指導をお願いします。
３	期　　間	平成２３年４月２０日～平成２４年３月３１日
４	時 間 数	50 時間（期間内）
５	謝　　金	５万円（上限）
６	そ の 他	指導内容，指導日程等の詳細については，顧問教員から連絡します。

担当；阿南工業高等専門学校学生係
Tel０８８４－２３－７１３０

（出典　外部コーチへの就任依頼）

資料 11－３－②－７

徳島大学との協定書

徳島大学工学部と阿南工業高等専門学校の教育・研究に関する協定書

徳島大学工学部と阿南工業高等専門学校（以下「両校」という。）は、相互に連携し、教育・研究等の交流と協力を推進することにより、それぞれの教育・研究の充実を図り、さらには地域社会に貢献することを目的として、この協定を締結する。

第１条　両校は、次の事業について実施する。
（１）学生の交流に関すること
（２）学生の単位互換に関すること
（３）学術情報の相互利用に関すること
（４）教員及び技術職員の交流に関すること

第２条　本協定に基づく上記事業を実施する際に必要な事項については、両校協議の上、別に定める。

第３条　この協定書に定めるもののほか、必要事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第４条　本協定の有効期間は、平成２２年４月１日から１年間とする。ただし、有効期間満了日の３ヶ月前までに両校から異議の申し立てがない場合は、１年毎に自動更新するものとする。

上記協定の証として、協定書は２通作成し、両校がそれぞれ１通を保有するものとする。

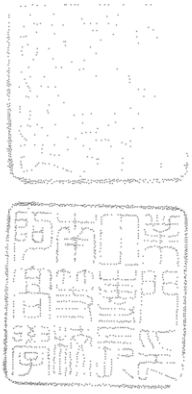
平成２２年　２月２４日

徳島大学工学部長

大西徳生

阿南工業高等専門学校長

小松満男



（出典　徳島大学工学部と阿南工業高等専門学校の教育・研究に関する協定書）

資料 11－３－②－８

徳島大学における受講要領（抜粋）

1.学業成績評価に関する規則についての申し合わせ事項

1.規則第４条について

未履修（欠席時数が開講実時数の３分の１を超える場合）科目の条件に準じる。

2.規則第８条について

(1) 病気などで医療機関で受診した等の斟酌すべき理由があれば，教科担当教員の判断により追試験を認める。なお，懲戒処分による定期試験欠席は追試験を受けることができない。

(2) 追試験を行えない時間的理由があれば，教科担当教員の判断により最終成績にのみ見込み点をつけることができる。

(3) 追試験の成績満点は，特別欠席の場合は100点，それ以外の欠席は80点とする。ただし，追試験を実施しなかった場合は０点とする。

(4) 見込み点については，その算出に必要となる当該欠席した定期試験の成績満点は上記に準じる。

2.規則第10条について

(1) 第３学年までについては，退学する場合に限り，高等学校の修了基準に準拠した事項の定めるところに基づいて審議し，当該学年の修了を認めることがある。

(2) 20点以上の評価を合格とみなして所定の単位を与えた場合，当該学年までの累計修得単位数が下表に示す条件を満たし，かつ特別活動の履修状況が不良でない者は，進級判定会議で審議の上，当該学年の修了を認めることがある。

第１学年	第２学年	第３学年
30単位以上	60単位以上	80単位以上

(3) 第３学年までについては,上記(2)の基準で当該学年の修了が認められ，退学する場合に限り，指導要録に記載する評価は次の要領による。当該学年までの全ての評価のうち20点以上60点未満の科目の評価はそれを括弧書きとし，同じ欄中に60点と記し，60点の評価として扱う。また，備考欄に「特認」と記載する。

(4) 第４学年及び第５学年に関しては，規則第９条を適用する。ただし，成績証明書発行の場合には60点未満の科目の評価は記載しない。

(5) 徳島大学との単位互換協定に基づいて申請のあった単位，大阪大学との単位互換協定に基づいて申請のあった単位及びソノマ州立大学との協定に基づいて取得した単位（２単位）については，第４学年，第５学年及び専攻科において「学外単位」として進級・卒業・修了単位として認定することができる。ただし，徳島大学との単位互換協定に基づいて申請のあった単位については，前期・後期それぞれ５単位を上限とする。また，進級判定会議前日までの成績報告はその年度の成績として認定し，それ以降の成績報告は次年度の認定とする。

(6) 平成19年度以降に実施されたTOEIC公開テスト及びIPテストにおいて一定以上のスコアを取得した場合は，「学外単位」として，進級・卒業・修了単位として認定することができる。
①本科在学中に取得したスコアは，400点以上は１単位，500点以上は２単位，600点以上は３単位，700点以上は４単位，800点以上は５単位，900点以上は６単位を認定する。

（出典　学業成績評価に関する規則についての申し合わせ事項）

資料 11－３－②－９

大阪大学と教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意するものである。

第１条　大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、次により交流を行うものとする。
１．講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生、研究者の交流
２．両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
３．上記１以外の学生、研究者の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度両者で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　本協定は、両者の代表者による署名完了の日に効力が生じるものとし、５年間有効とする。なお、両者は６ヶ月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期限内に廃止されない場合は、本協定の有効期限満了日の６ヶ月前までに両者により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　この協定書に定めるもののほか、必要事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　この協定の定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、両者が協議のうえ処理するものとする。

上記協定の証として、協定書を２通作成し、両者がそれぞれ１通保有するものとする。

平成18年10月17日

独立行政法人国立高等専門学校機構
阿南工業高等専門学校長
小松　満男

平成18年10月17日

国立大学法人大阪大学
工　学　部　長
大学院工学研究科長
豊田　政男

（出典　大阪大学工学部・大学院工学研究科と阿南工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書）

資料 11－３－②－10

ドイツのオストファリア，オスナブリュック応用科学大学と学術交流協定

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING FOR EDUCATIONAL COLLABORATION

BETWEEN

OSTFALIA - FACHHOCHSCHULE BRAUNSCHWEIG WOLFENBÜTTEL

UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES

AND

ANAN NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

Ostfalia - Fachhochschule Braunschweig/Wolfenbüttel, University of Applied Sciences (hereinafter: Ostfalia) and Anan National College of Technology (ANCT) hereby agree to promote educational collaboration, with the joint purposes of improving mutual understanding between the two academic institutions as well as between Germany and Japan.

Scope of the agreement

1. The two academic institutions agree especially to promote educational collaboration in terms of engineering education.
2. These activities could include:
   The development of programs designed to promote co-operation in area of mutual interest; student exchange activities;
   Faculty exchange and/or attachment programs; and
   Other educational and/or training programs as mutually agreed upon by Ostfalia and ANCT.
3. Each of the parties will appoint a partnership coordinator to facilitate the communication between the respective faculties
   For Anan National College of Technology:
   Prof. Dr. Ryuzaburo Sugino
   For Ostfalia - Fachhochschule Braunschweig/Wolfenbüttel:
   Prof. Dr. Wolfhard Lawrenz.

Faculty exchange

4. The partners will notify each other of the proposed faculty to be exchanged in the calender year. The sending institution will finance both travel and accommodation cost for their staff. The host university will assist in locating accommodation.

Student exchange

5. The partners will exchange up to 3 (three) students per academic year.
6. Ostfalia agrees to provide ANCT with the records (such as attendance, activities and work experience) obtained by Anan students, which will be accredited according to the rules of ANCT.
7. ANCT agrees to provide Ostfalia with the records (such as attendance, activities and work experience) obtained by Ostfalia students, which will be accredited according to the rules of Ostfalia.

（出典　ドイツのオストファリア，オスナブリュック応用科学大学と学術交流協定書）

資料 11－３－②－11

専攻科生のドイツ長期インターンシップの参加者と研究タイトル一覧

ドイツにおける長期インターンシップの参加者と報告書タイトル一覧

○オスナブリュック応用科学大学

1 MC [redacted] Ｈ２２．９．７～Ｈ２２．１１．３０

「国際社会における技術者としてのあり方」

1 ES [redacted] Ｈ２２．９．７～Ｈ２２．１１．３０

「Socket を用いた BoniRob 用通信アプリケーションの開発とドイツの人々との交流」

○オストファリア・ボルヘンビュッテル応用化学大学

1 ES [redacted] Ｈ２２．９．７．～Ｈ２２．１１．３０

「オストファリア応用科学大学とＣ＆Ｓグループでの実習」

1 ES [redacted] Ｈ２２．９．７．～Ｈ２２．１１．３０

「ドイツでの生活を通して学んだこと」

1 ES [redacted] Ｈ２２．９．７．～Ｈ２２．１１．３０

「ドイツ留学（大学生活・企業実習）で学んだ事」

（出典　ドイツにおける長期インターンシップの参加者と報告書タイトル一覧）

資料 11－３－②－12

本校でのドイツ人留学生研究受入

ドイツ人留学生一覧

○オスナブリュック応用科学大学

1

留学生：[redacted]

期　間：平成２２年３月１日～６月２８日

配　属：岡本・杉野研究室

活　動：Japan Communication にてインターンシップ及び日本語授業

2

留学生：[redacted]

期　間：平成２２年３月３０日～６月３０日

配　属：松浦研究室

活　動：日亜化学・四国化工機にてインターンシップ，Japan　Communication にて企業見学及び日本文化探訪，並びに日本語授業

3

留学生：[redacted]

期　間：平成２２年３月３０日～６月３０日

配　属：上原研究室

活　動：日亜化学・四国化工機にてインターンシップ，Japan　Communication にて企業見学及び日本文化探訪，並びに日本語授業

4

留学生：[redacted]

期　間：平成２２年１０月１５日～平成２３年３月１５日

配　属：杉野研究室

活　動：学士論文作成，日本語授業

（出典　ドイツ人留学生一覧）

資料 11－３－②－13

ソノマ州立大学と教育連携

【ソノマ語学研修参加者について】

過去5年間

年度	参加者数	参加者名	期間	備考
平成18年度	2	[redacted]	7／11～8／23	ソノマ語学研修として2単位認定
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
平成19年度	6		7／11～8／22	ソノマ語学研修として2単位認定
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
平成20年度	4		7／9～8／22	ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
平成21年度	2		7／8～8／21	ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
平成22年度	2		7／14～8／25	ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位
				ソノマ語学研修として2単位認定 校外実習として1単位

（出典　ソノマ語学研修参加者一覧）

資料 11－３－②－14

教員研修会

平成２２年度 夏季 教員研修会実施要項

１　概　要　　教員の資質向上を図るため，年２回の教員研修会を開催している。
今年度の第１回目は授業改善に関する研修を行います。学生をひきつける授業を展開するための授業構成法，話し方の極意について，講演とグループワークを組み合わせた研修を行い，教員自らの授業を見直し，具体的な改善ポイントを見つけるヒントを得てもらう。

２　日　時　　平成２２年７月２２日（木）１３時００分～１７時００分

３　場　所　　マルチメディア室（創造テクノセンター棟４階）

４　対　象　　全教員
※寄附講座教員等（外部資金雇用）を除く

５　テーマ　　教え方の極意
～　学生の目が輝く「授業構成法＆話し方」とは？　～

６　講　師　　田中省三　　プレゼンテーション専門コンサルタント

７　日　程　　１３：００～１３：０５　開会あいさつ（校長）
１３：０５～１３：１０　講師紹介（点検・評価委員会委員長）
１３：１０～１５：３０　講演とグループワーク（田中講師）
１５：３０～１５：４５　休憩
１５：４５～１６：５５　講演とグループワーク（田中講師）
１６：５５～１７：００　閉会あいさつ（副校長）

８　その他　　○講師への依頼文書及び各教員への通知は別紙のとおり
○講師謝金は，高専機構謝金取扱要領による
@ 8,800 × 4 H ＝ 35,200 円
○神奈川県鎌倉市からの２泊３日の旅費（ＪＲ利用）を支給する。

（出典　平成 22 年度　夏季　教員研修会実施要項）

資料９－２－①―５　（再掲）

SPOD 研修プログラムへの参加一覧

平成22年度　SPOD研修プログラム参加一覧（遠隔配信を含む）

開催日	研修名	参加者	研修場所等	備考
6月19日（土）～20日（日）	FDファシリテータ養成研修（SPOD東四国：徳島，香川）	奥本良博 川畑成之 松本高志（講師）	国立淡路青少年交流の家	
7月29日（木）～30日（金）	大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）	山瀬浩幸 門田　明	愛媛大学	SD
8月24日（火）	研修プログラム（LMS（Mooble）入門コンテンツ作成からLMS利用の第一	上原信知	香川大学	
8月25日（水）～28日（土）	SPODフォーラム	奥本良博 川畑成之 松本高志（講師）	愛媛大学	
8月20日（金）～21日（土）	教育力開発基礎プログラム（新任教員研修）	中島　一	徳島大学	
8月25日（水）	学習評価の基本	當宮辰美 上原信知 多田博夫	遠隔配信システムによる受講	
8月26日（木）	大人数講義法の基本（遠隔配信専用プログラム）	上原信知 小松　実 西野　精一 藤居　岳人		
9月7日（火）	ルーブリックを作ろう！－成績評価の厳密化と効率化のために－	奥本良博		
9月10日（金）	講義のための話し方入門	松本高志 藤居岳人 湯城豊勝		
9月17日（金）	研究室運営方法のコツ－先輩が後輩を指導するシステムづくり－	松本高志 小松　実		
9月17日（金）	成績評価とフィードバック－評価の原則からルーブリック評価まで－	松本高志		
12月15日（水）	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	多田博夫 松本高志	遠隔配信システムによる受講	
3月15日（火）	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	中村厚信 藤居岳人 櫛田雅弘 松浦史法	DVD視聴による受講	
3月30日（水）	初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会	今田浩之 中島　一 上原信知		

（出典　SPOD 研修プログラムへの参加一覧）

資料 11－３－②－15

学寮特別講演会

平成 22 年度学寮特別講演

回	月 日	曜日	時 間	対象学年	テーマ	依頼窓口
第1回	5 月 10 日	(月)	16:30-17:30	1	こころのプロセス	佐藤幸男 氏 (本校カウンセラー)
第2回	5 月 18 日	(火)	16:30-17:30	3	ウミガメと蒲生田岬	新居順子 氏
第3回	6 月 24 日	(木)	16:30-17:30	2	ものづくりの楽しさ	阿南市科学センター 館長代理 山川茂則氏
第4回	9 月 1 日	(水)	16:10-16:55	4	就職と進学を振り返って	本校寮生
第5回	10 月 6 日	(水)	16:30-17:30	5	しあわせな人生	社会福祉法人 徳島県自殺予防協会 理事長 近藤治郎 氏
第6回	11 月 4 日	(木)	20:00ー21:00	1	学科紹介	本校寮生
第7回	12 月 15 日	(水)	20:00ー21:00	1	母国のこと・日本に来て感じたこと	本校留学生
第8回	1 月 25 日	(火)	16:30-17:30	1	ものづくりの楽しさ	阿南市科学センター 館長代理 山川茂則氏

（出典　平成 22 年度学寮特別講演会一覧）

（分析結果とその根拠理由）

企業との共同研究，寄附講座開設，インキュベーションセンター開所，大学との協定，外部講師による講演，四国地区大学教職員能力開発ネットワーク加盟など，外部の教育資源を積極的に活用している。

（改善を要する点）

特になし。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

技術を通じて地域社会との連携活動を充実させる拠点である地域連携・テクノセンターは，その年間活動成果をまとめた「技術の光 あなん高専」を毎年発刊している。ここには，共同研究，技術相談，教職員の学外活動等を含む本校の教育研究活動がまとめられている**（資料11－４－①－１）**。また，研究成果を簡明に示す研究シーズ集を，阿南工業高等専門学校を支援する地元企業の会であるＡＣＴフェローシップ会員企業を中心に配布し，共同

研究のきっかけとして活用されている（資料11－４－①－２）。

Webサイトには，受験生の皆さまへ，在校生・保護者の皆さまへ，地域の皆さまへのようにステイクホルダーごとにバナーを設け，教育･研究等の関心のあるページの閲覧利便性を高めている。さらに，寄附講座等の大型外部資金あるいは競争的資金獲得による本校の特色ある取組については別途バナーを設け，その成果をわかりやすく社会に発信している（資料11－４－①－３）。また，問い合わせ窓口を明記している（前述資料９－１－②―６）。

学校のニュースを平易にまとめたメールマガジンを毎月発信すると共に，高専だよりを年２回発刊し，学生保護者に加え，県内中学校を中心に配布している（資料11－４－①－４）。

保護者には，学生の学習成績，学校の学生指導に関わる状況等を，年２回の保護者懇談での担任教員との面談及び保護者宛郵送により，伝えている。

連携に関する協定を結ぶ徳島銀行が主催する「とくぎんサクセスクラブ」において，本校の研究活動の一端を伝えている（資料11－４－①－５）。

このように，本校にとくに関心が高いと思われる層を中心とし，広くわかりやすい形で社会に発信している。

資料 11－４－①－１

「技術の光 あなん高専」

平成２２年度　「技術の光　あなん高専」　目　次

巻頭言 1
1　センターの組織・・・

資料 11－４－①－２

研究シーズ集配布先一覧

刊行物発行部数内訳表

刊行物名 :研究 ｼｰｽﾞ集 2010年

No.	配布先	配布部数	備考
1	ACTﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟ会員	100	
2	校内配布、機構、図書、広報保存用	80	
3	広報・PR用	70	
4	企業相談用	50	
5			
合計		300	

（出典　研究シーズ集配布先一覧）

資料 11－４－①－３

阿南高専　Web サイト　トップ画面



（出典　阿南高専 web サイト）

資料９－１－②―６　（再掲）

阿南高専　Web サイト意見･要望受付窓口



（出典　阿南高専 web サイト）

資料 11－４－①－４

メールマガジン及び平成 22 年度高専便りの目次

阿南高専メールマガジン　第68号==========2010/11/30　発行

［目次］

○News
［1］秋季体育祭を実施（10/15）
［2］徳島地区及び西部地区入試説明会を開催（10/23,24）
［3］学寮保護者懇談会を開催（10/27,28）
［4］全体保護者懇談会，授業参観を実施（10/27,28）
［5］「とくしま協働の森づくり事業」に参加（10/28）
［6］蒼阿祭を開催(10/30,31)
［7］県知事との対話集会「しゃべり場とくしま」を開催（10/31）
［8］長岡技術科学大学学長による講演会を開催（11/2）
［9］第６回学寮特別講演を開催（11/4）
［10］津山高専との交換寮生（11/8-21）
［11］学寮防災訓練を実施（11/17）

○Other
［12］メールマガジンの配信先の変更・配信の停止



（出典　メールマガジン及び平成 22 年度高専便りの目次）

資料 11－４－①－５

「とくぎんサクセスクラブ」における講演例

とくぎん「技術セミナー」に講師を派遣しました

阿南高専では，徳島銀行との連携事業のひとつとして，主に同行の取引先企業を対象に実施している「とくぎんサクセスクラブ技術セミナー」に講師を派遣しています。

このたび，同技術セミナーが徳島市内で開催され，田中総合情報処理室長から「情報利用技術とセキュリティ」と題して，インターネットを代表とする情報通信ネットワークを利用したビジネスの事例と，その蔭に潜む危険性への対応について，事例を踏まえて分かりやすく解説されました。

その後，参加者から，社内の情報取扱規程及びマニュアルの作成方法並びに事務所ＬＡＮのセキュリティについての技術相談がありました。



とくぎん「技術セミナー」



講演をする田中総合情報処理室長

（出典　「とくぎんサクセスクラブ」における講演例）

（分析結果とその根拠理由）

研究シーズ集，ステイクホルダーごとにバナーを設けたWebサイト，保護者への情報提供，学外での講演など，教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

運営委員会，教員会議等の校長が管轄する各組織は諸規則によりその役割を明確にしつつ連携し，そこでの審議は全校的なコンセンサスに立脚した迅速な活動に接続し，効果的かつ迅速な学校運営を可能とし，着実に成果をあげている。

ＪＡＢＥＥ審査，高等専門学校機関別認証評価を活用しつつ，点検･評価委員会による中期計画に基づいた自己点検･評価を行い，高等専門学校機関別認証評価自己評価書を公表し，Webサイトにも掲載している。自己点検・評価や参与会評価をフィードバックし，改善に結びつけるシステムを稼働させ，その改善状況を確認しつつ運用している。

（改善を要する点）
特になし。

（３）基準11の自己評価の概要

運営委員会，教員会議等の校長が管轄する各組織は諸規則によりその役割を明確にしつつ連携し，そこでの審議は全校的なコンセンサスに立脚した迅速な活動に接続し，効果的かつ迅速な学校運営を可能としている。学則を始め管理運営に関わる諸規定を整備し，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担しつつ連携している。危機管理についても規程を明確に定め，適切かつ迅速に対応できる体制を整えている。

ＪＡＢＥＥ審査，高等専門学校機関別認証評価を活用しつつ，点検･評価委員会による中期計画に基づいた自己点検･評価を行い，高等専門学校機関別認証評価自己評価書を公表し，Webサイトにも掲載している

本校の管理運営に関する重要事項について審議し助言する組織として，教育研究分野に精通した大学の教員，産業界の動向に精通した者，地域の行政担当者，同窓会会長等を構成員とする参与会を設け，外部有識者等により本校の自己点検･評価結果について検証している。自己点検・評価や参与会評価をフィードバックし，改善に結びつけるシステムを構築している。同システムを稼働させ，その改善状況を確認しつつ運用している。

参与会意見，ＪＡＢＥＥ教育プログラム認定結果，高等専門学校機関別認証評価結果については，必ず運営委員会等で検討する体制をとっており，それら結果について適切に管理運営に反映してきている。

企業との共同研究，インキュベーションセンター開所，大学との協定，外部講師による講演など，外部の教育資源を積極的に活用している。研究シーズ集，ステイクホルダーごとにバナーを設けたWebサイト，保護者への情報提供，学外での講演など，教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供している。